



足立区

第52回

足立区政に関する世論調査

2023(令和5)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／「協働・協創」・「SDGs」／区での取り組み

足立区 政策経営部 区政情報課

令和6年3月発行

はじめに

無作為に抽出した18歳以上の区民の皆様3千人を対象に、令和5年8月に実施した「第52回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。

設問数が128問と多く、回答に時間を要するため、大変申し訳なく思いますが、区民の皆様が、お住まいの地域についてどのようにお感じになられ、何を望んでいらっしゃるのか、また、区の施策がどの程度浸透しているか等を確認するために欠かせない調査です。今回は1,555人（回収率51.8%）の方からご回答をいただきました。ご協力を賜りました皆様に、改めて厚く御礼を申し上げます。

この原稿を書いている3月1日現在、能登半島地震発災から丸2ヶ月を経過しましたが、被災地ではいまだ約1万9千戸で断水が解消せず、仮設住宅の建設も道半ばの状況です。

令和4年5月に東京都が10年ぶりに見直した首都直下地震の被害想定によると、当区は「全壊棟数」「死者数」「負傷者数」ともに23区ワーストという大変厳しい結果を突き付けられました。にもかかわらず、今回の世論調査の結果では、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」方の割合はわずか22.9%にとどまっています。この数字をどこまで底上げできるか、令和6年度の最重要課題と位置付け注力してまいります。

安心と活力。この二つが足立区の区政運営のキーワードです。世論調査の結果をしっかりと受け止め、区民の皆様のお困りごとに寄り添い、生活を支え、活力あるまちづくりを目指して一步一步着実に進んでまいります。

令和6年3月

足立区長 近藤やよい

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
第 2 章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	25
8 環境・地域活動	26
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	28
10 「協働・協創」・「SDGs」	30
11 区の取り組み	31
第 3 章 調査結果の分析	39
1 定住性	41
（1）居住地域の評価	43
（2）地域の暮らしやすさ	66
（3）特に暮らしにくいと感じること	72
（4）定住意向	77
2 大震災などの災害への備え	85
（1）備蓄や防災用具などの用意	87
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	91
（3）備蓄量	96
（4）家具類の転倒・落下・移動防止対策	105
（5）対策をしていない理由	108
（6）地域の 3 種の避難場所とその意味の認知	111
（7）大規模災害時の避難生活場所	119
3 洪水対策	121

(1)	「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知	123
(2)	河川はん濫時の避難場所の事前決定状況	127
(3)	事前に決めている河川はん濫時の避難場所	130
(4)	河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	133
4	区の情報発信のあり方	137
(1)	区の情報入手手段	139
(2)	重要と考える区の情報	145
(3)	必要な時に必要とする区の情報入手状況	149
(4)	区情報が得られない理由	151
(5)	区情報が得られない理由の詳細	153
5	健康	155
(1)	区のキャッチフレーズの認知状況	157
(2)	野菜から食べ始めることの実践状況	159
(3)	1日野菜350g以上の摂取	161
(4)	自身の健康状態について	163
(5)	体調や習慣	165
(6)	安心して受診できる医療機関の有無	168
(7)	健康維持のために実行している、心がけているもの	170
(8)	がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類	172
(9)	かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容	174
(10)	感染症予防としての手洗いの実践状況	176
(11)	「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	178
6	スポーツ・読書	181
(1)	日常的な運動・スポーツの実施状況	183
(2)	継続的に実施している運動・スポーツ	185
(3)	運動・スポーツを最も多く行っている場所	189
(4)	運動・スポーツを行うためのきっかけ	191
(5)	過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動	194
(6)	運動・スポーツを支える活動をしなかった理由	195
(7)	区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	196
(8)	読書に関わる行動状況	198
(9)	読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	201
7	ビューティフル・ウィンドウズ運動	203
(1)	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	205
(2)	参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	209
(3)	居住地域の治安状況	214
(4)	居住地域の治安が良いと感じる点	219
(5)	居住地域の治安が悪いと感じる点	222
(6)	治安対策として区に力を入れてほしいこと	226

8	環境・地域活動	231
	(1) 環境のために心がけていること	233
	(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無	239
	(3) 町会・自治会の加入や活動	241
	(4) 町会・自治会に加入しない理由	250
	(5) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したい活動	252
9	「孤立ゼロプロジェクト」など	261
	(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	263
	(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知	266
	(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	270
	(4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況	273
	(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況	276
	(6) 現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和	278
	(7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況	281
10	「協働・協創」・「SDGs」	285
	(1) 「協創」の認知	287
	(2) 協働・協創の実践	289
	(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	291
	(4) SDGsの認知状況	293
	(5) SDGsの関心状況	295
11	区の取り組み	297
	(1) 区に対する気持ち	299
	(2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）	329
	(3) 区を良いまちにするための行動	339
	(4) 区の取り組みで満足している分野	343
	(5) 区の取り組みで不満の分野	348
	(6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）	352
	(7) 区政に対する満足度	368
	(8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野	371
	(9) 区政への区民意見の反映度	375
	(10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	378
	(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	386

第4章	使用した調査票	389
------------	----------------	------------

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「協働・協創」・「SDGs」
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル（人） |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和5年8月18日（金）～9月8日（金） |
| (6) 調査機関 | （株）サーベイリサーチセンター |

4 調査地域

図1 地域区分図

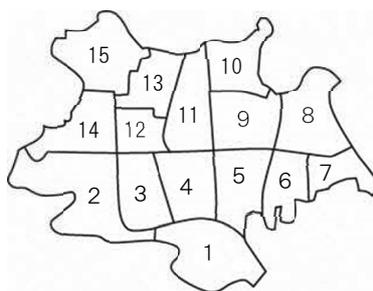


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

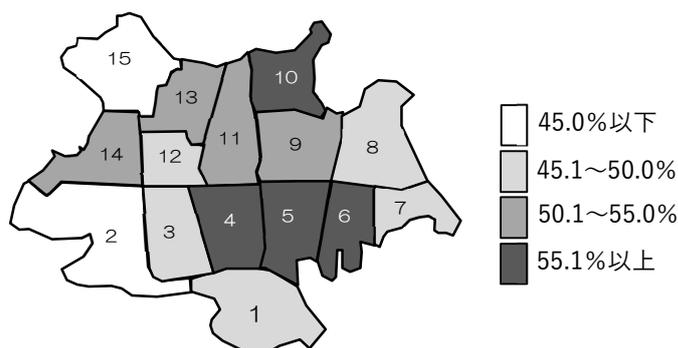
- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,555票 有効回収率 51.8%
- 回答方法別
- (郵送 1,113票 構成比 71.6%)
- (オンライン 442票 構成比 28.4%)
- (3) 回収不能数 1,445票 回収不能率 48.2%
- (4) 地域別回収結果

表2 地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	601,427人	100.0%	3,000人	1,555票	51.8%
第1地域	67,848	11.3	336	167	49.7
第2地域	42,326	7.0	212	92	43.4
第3地域	36,047	6.0	180	88	48.9
第4地域	51,853	8.6	259	148	57.1
第5地域	54,100	9.0	271	155	57.2
第6地域	39,926	6.6	199	111	55.8
第7地域	29,254	4.9	147	71	48.3
第8地域	48,135	8.0	240	117	48.8
第9地域	40,789	6.8	204	111	54.4
第10地域	27,806	4.6	139	81	58.3
第11地域	48,922	8.1	245	126	51.4
第12地域	25,073	4.2	125	62	49.6
第13地域	29,876	5.0	150	76	50.7
第14地域	31,842	5.3	159	86	54.1
第15地域	27,630	4.6	134	58	43.3

(18歳以上人口は令和5年7月1日現在)
※有効回収数のうち6票は地域不明

図2 地域別有効回収率分布図



(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000人	1,555票	51.8%
男性 (計)	1,498	660	44.1
18～29歳	259	59	22.8
30 代	224	66	29.5
40 代	274	114	41.6
50 代	292	142	48.6
60 代	163	94	57.7
70歳以上	286	185	64.7
女性 (計)	1,502	888	59.2
18～29歳	255	101	39.6
30 代	211	113	53.6
40 代	213	124	58.2
50 代	254	175	68.9
60 代	173	120	69.4
70歳以上	396	255	64.4
どちらでもない	-	0	-
答えたくない		5	
無回答	-	2	-

(注) この表での『どちらでもない』は、「性」の回答において、令和3年度より選択肢の表現を変更した「どちらでもない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『答えたくない』は、「性」の回答において、今回より選択肢の表現を変更した「答えたくない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は、「性」、「年代」の両方の回答がなかった方のサンプル数を掲載している。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%) はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【**そう思う(計)**】のように、「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に記載された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,555人のうち35.3%であった。

回答者数が1,555人、回答の比率が50%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.54%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の32.8%から37.8%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,555	±1.52%	±2.03%	±2.32%	±2.48%	±2.54%
1,400	±1.60%	±2.14%	±2.45%	±2.62%	±2.67%
1,200	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
全体	1,555	±1.52%	±2.03%	±2.32%	±2.48%	±2.54%
男性(計)	660	±2.34%	±3.11%	±3.57%	±3.81%	±3.89%
18~29歳	59	±7.81%	±10.42%	±11.93%	±12.76%	±13.02%
30代	66	±7.39%	±9.85%	±11.28%	±12.06%	±12.31%
40代	114	±5.62%	±7.49%	±8.58%	±9.18%	±9.37%
50代	142	±5.04%	±6.71%	±7.69%	±8.22%	±8.39%
60代	94	±6.19%	±8.25%	±9.45%	±10.11%	±10.31%
70歳以上	185	±4.41%	±5.88%	±6.74%	±7.20%	±7.35%
女性(計)	889	±2.01%	±2.68%	±3.07%	±3.29%	±3.35%
18~29歳	101	±5.97%	±7.96%	±9.12%	±9.75%	±9.95%
30代	113	±5.64%	±7.53%	±8.62%	±9.22%	±9.41%
40代	124	±5.39%	±7.18%	±8.23%	±8.80%	±8.98%
50代	175	±4.54%	±6.05%	±6.93%	±7.41%	±7.56%
60代	120	±5.48%	±7.30%	±8.37%	±8.94%	±9.13%
70歳以上	255	±3.76%	±5.01%	±5.74%	±6.14%	±6.26%

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

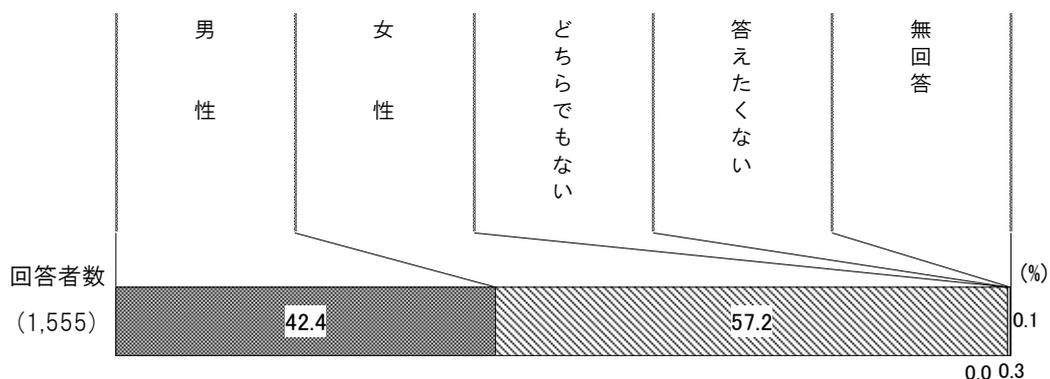
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別…………… (15カテゴリ)
- ② 性別…………… (2カテゴリ) ※性別の「どちらともいえない」は5サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別…………… (12カテゴリ)
- ④ ライフステージ別…………… (7カテゴリ)
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①…………… (7カテゴリ)
 - ⑤-1 エリアデザイン地域内外別② (2カテゴリ)
- ⑥ 住居形態別…………… (8カテゴリ)
- ⑦ 職業別…………… (8カテゴリ)
- ⑧ 就労（就学）場所別…………… (6カテゴリ)
- ⑨ 居住年数別…………… (6カテゴリ)

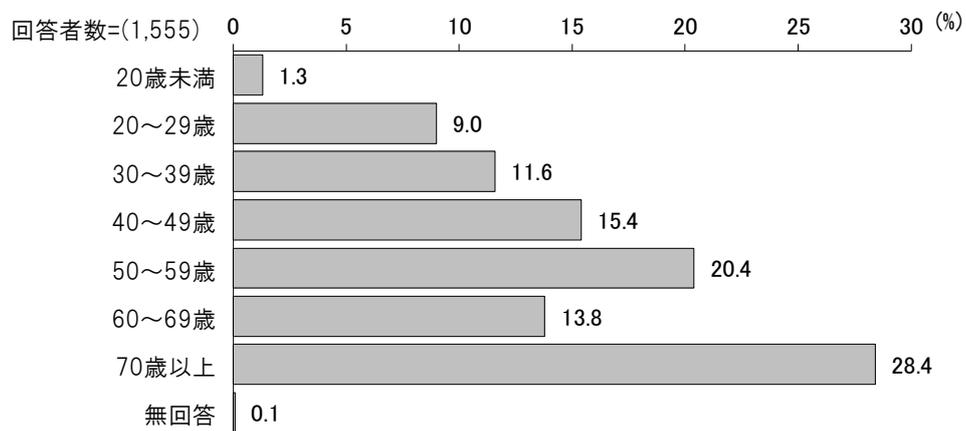
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 標本構成

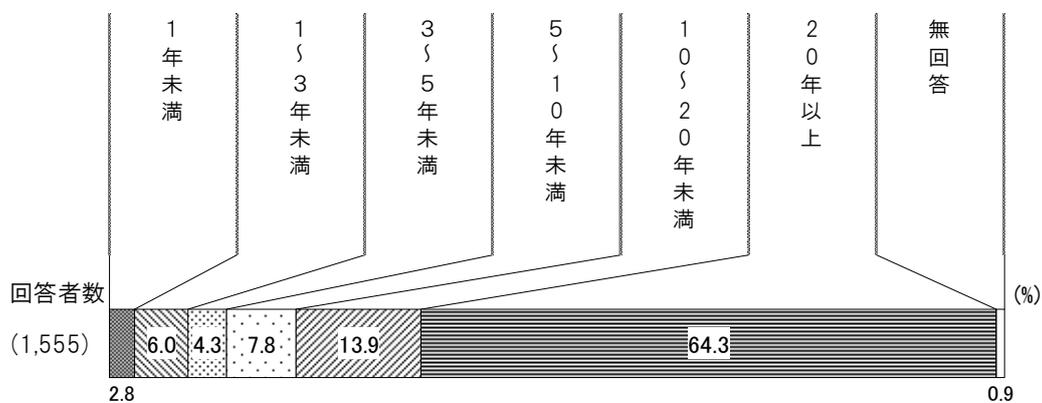
F1 性別



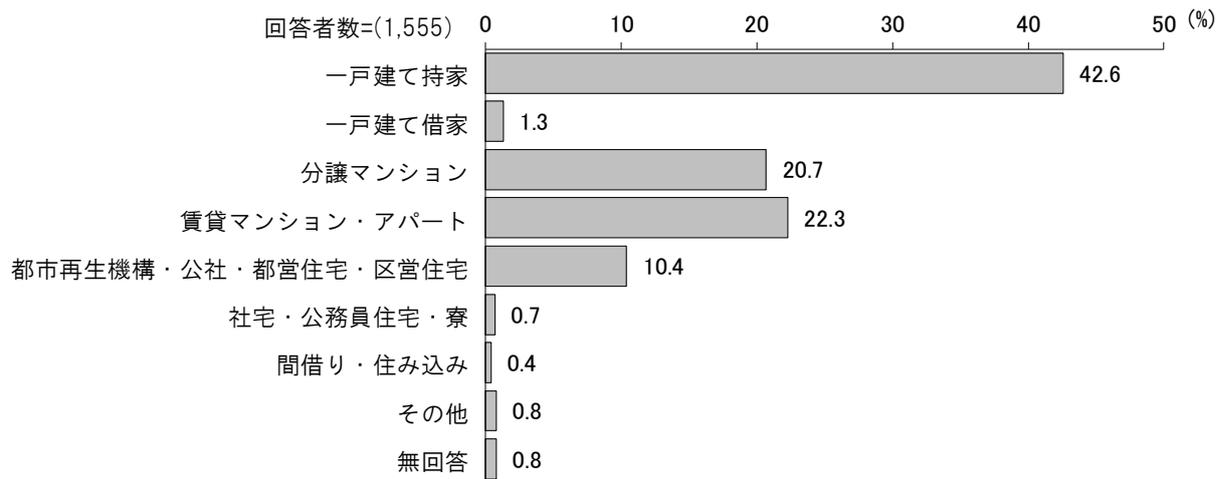
F2 年齢



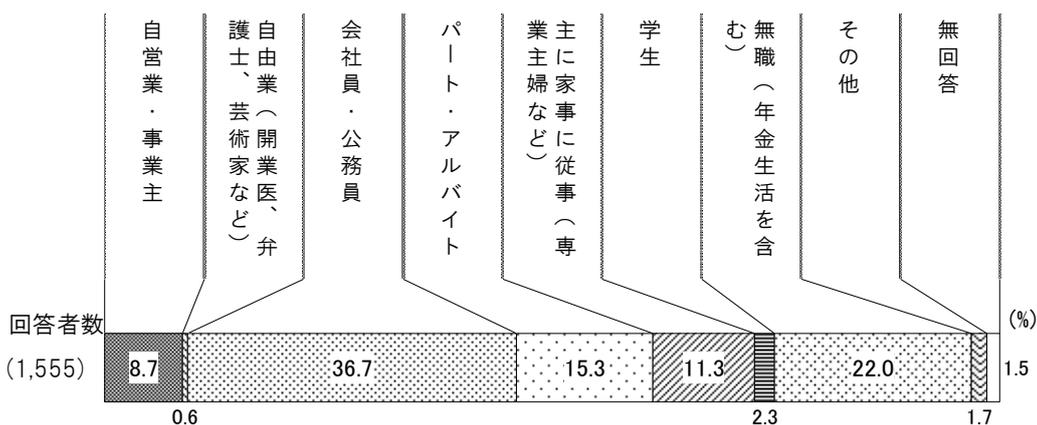
F3 居住年数



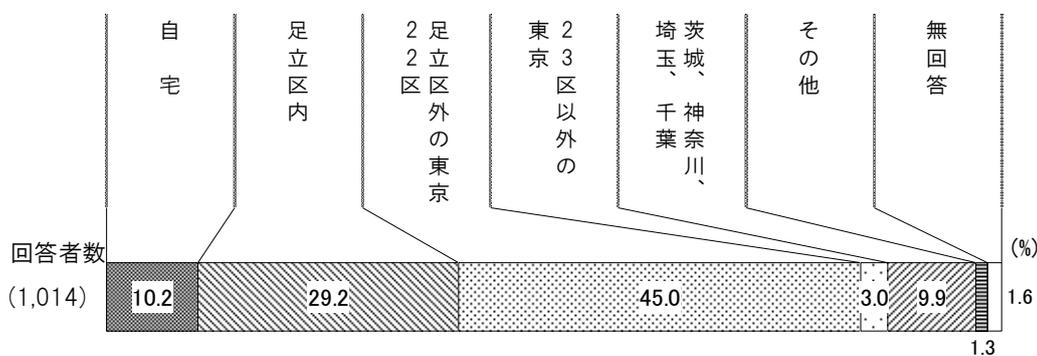
F 4 住居形態



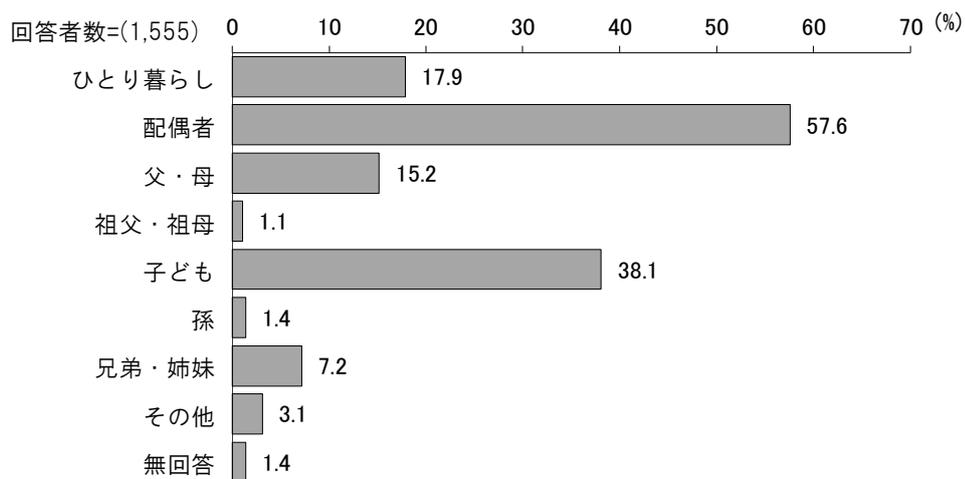
F 5 職業



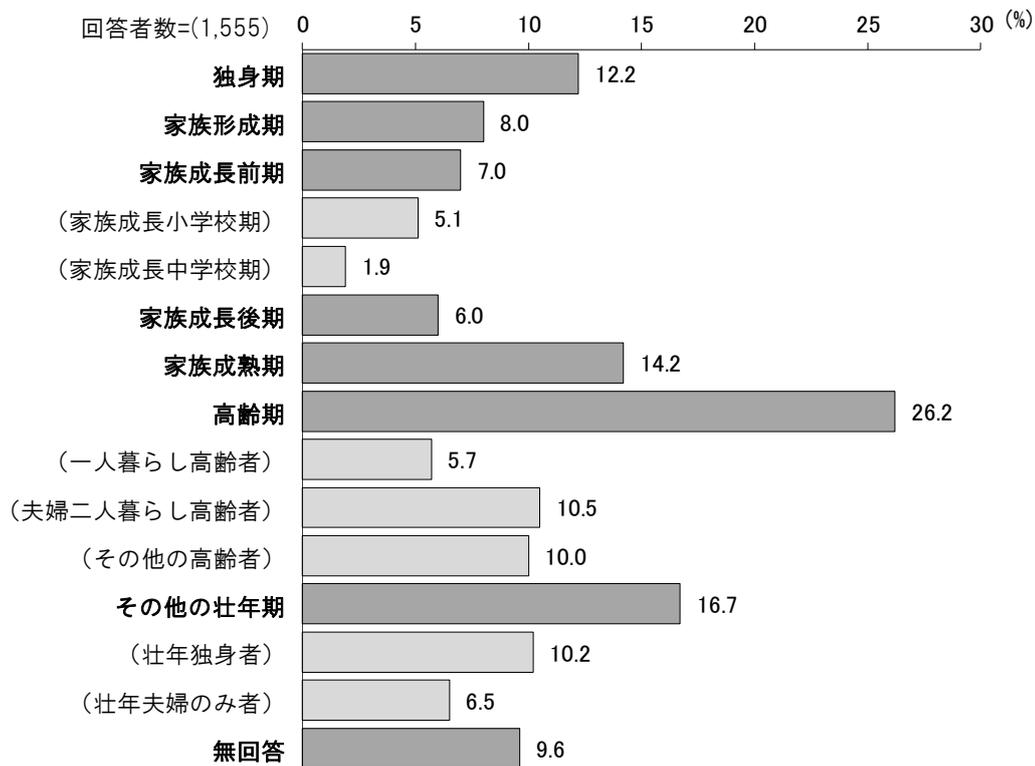
F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



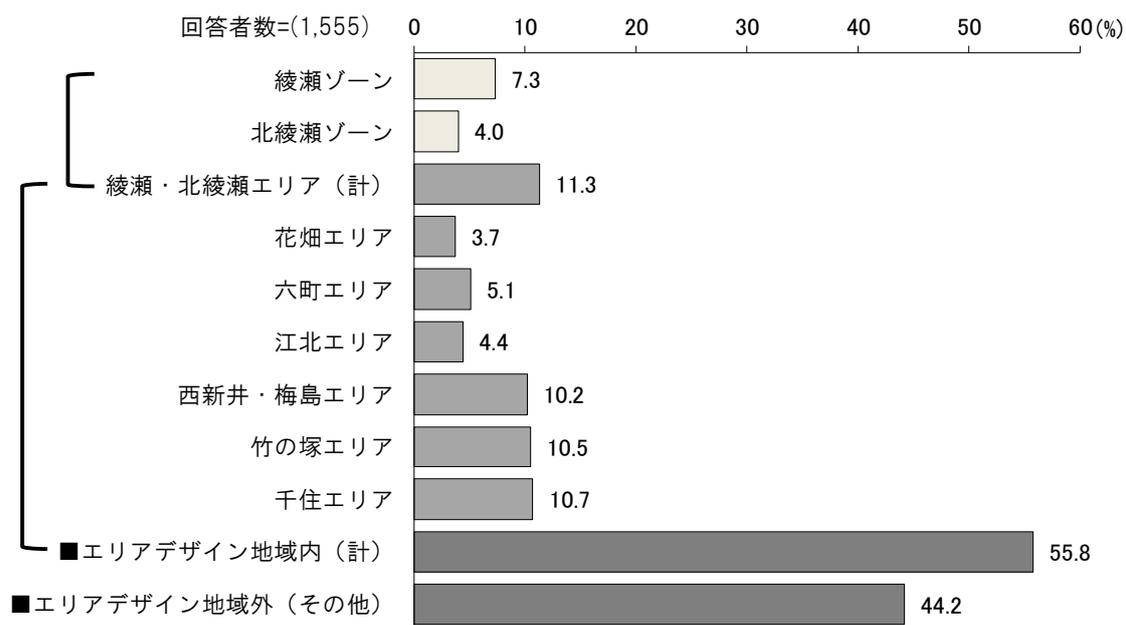
F7 同居家族（複数回答）



F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン



第2章 調査結果の要約

1 定住性

(1) 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が6割台後半

ア 居住地域の評価については、全18項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉の4項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となっている。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一6割を超えており、区民の交通マナー意識の向上が求められる。

ウ 前回調査と比較すると、16項目すべてで肯定的評価が減少しており、「子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである」で減少が最も大きくなっている。

エ 肯定的評価が約8割と最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第4地域、第6地域、第7地域で8割台後半と高い一方、第14地域で5割台と低くなっている。

オ 肯定的評価が7割強と2番目に高い〈通勤や通学などの交通の便が良い〉は、第6地域で9割と最も高く、第14地域で4割弱と低くなっており、他の項目に比べて地域差が最も大きい項目となっている。

(2) 【暮らしやすい】は2年連続で微減し、【暮らしにくい】が微増

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は8割台半ばで前回同様の水準である。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域で9割台と最も高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）を地域別にみると、第10地域と第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聞いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばと4年連続で最も高くなっており、次いで「交通の便が悪いこと」が僅差で続いている。

(3) 定住意向がある人は、8割で前回調査をさらに上回り、3年連続で最高値を更新

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、現行の選択肢になって初めて8割台となった前々回以降も増加を続けている。

イ 【定住意向】を地域別にみると、第4地域と第7地域で8割台後半と高くなっている。

(4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉、〈交通の便が良い〉、〈快適で安全なまち〉などの利便性や快適性と、〈まちなかの花や緑が多い〉・〈ごみの減少〉・〈景観・街並みが良好〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっているものと考えられる。

イ 〈交通マナー〉、〈文化芸術に親しめるまち〉などの項目では否定的にとらえられている。

ウ 〈交通の便が良い〉、〈普段の買い物が便利〉、〈行きたい公園がある〉、〈景観・街並みが良好〉については地域差がみられる。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

〈自転車利用者の交通マナー〉、〈文化芸術に親しめるまち〉など否定的評価の割合が高い項目への取り組みを強化するとともに、地域差の減少化を推し進めることで、暮らしやすさの評価を向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

2 大震災などの災害への備え

(1) 【備蓄・買い置きあり】は約7割

ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は約7割であり、前回調査時から大きな変動はみられないものの、令和2年度調査以降は漸減傾向となっている。

イ 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどを「特に用意していない」は、令和2年が震災から10年というところで、マスコミ等に災害トピックスとして取り上げられる機会が増えたなどの影響もあり、令和元年までの3割台から2割台半ばに下降したが、ここ3年は漸増傾向となっている。

(2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割）、「食料」（約9割）

ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割、「食料」が約9割、「あかり」が7割台半ばで上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「簡易トイレ」と「電池・予備バッテリー」が5割強、「医薬品」と「情報収集手段（携帯ラジオなど）」が4割台後半となっている。

イ 昨年度調査と比較すると、「簡易トイレ」（+17.9ポイント）が大幅に増加している。

ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日分以上】で「水」は4割台半ば、「食料」は4割台半ば近くとなっている。なお、今回調査で備蓄量が大幅に増加した「簡易トイレ」については3割となっている。

(3) 家具類の転倒・落下・移動防止対策について、【対策実施・多い】は2割台半ば

ア 家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は2割台半ばで前回から微減となった。

イ 家具類の転倒・落下・移動防止対策について住宅の形態別にみると、「一戸建て」（約3割）に比べ「集合住宅」の方が約6ポイント低く、所有形態別では、「持家」（3割強）に比べ「借家」の方が14ポイント低くなっている。

ウ 約7割を占めている【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）の理由は、「面倒である」が3割台半ば超で、前回から8.5ポイント増加しており、次いで、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」が2割強となっている。

エ 家具類の転倒・落下・移動防止対策で「対策を行っていない」（3割強）に絞ってみると、7年前から3年前の3割台後半に比べると低い水準になっているとはいえ、人命にも係わることを考えれば、対策を講じていない世帯が3割強というのは高いと考える必要がある。対策の実施率が低く、実施に制約がある「集合住宅」や「借家」において、万が一の際の被害を最小限にするため、危険度の高い家具から対策を講じていくことや、「面倒である」「方法が分からない」という人に対する対策事例の紹介やPRなどが特に必要と考える。

(4) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難場所】の1割台半ばが最低

ア 前回調査と比較して、3種の避難場所すべてで<場所>より<意味>の認知度が低くなっている点は変わらないが、<場所>の認知度に大きな変動はないことに対し、<意味>の認知度がそれぞれ5ポイント以上減少している。

イ <意味>の認知の低さは、避難行動の流れに大きく影響することから、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>のつながりを強調した周知が、より必要と考える。

(5) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割弱、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」(48.9%)が5割弱で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」(26.6%)であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。この傾向は、前々回調査から同様の割合となっている。

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は9割

ア 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」(32.0%)と「見て、内容は確認した」(22.5%)はともに微減したものの、「見たが、内容までは覚えていない」(35.5%)を合わせた【見たことがある】は前回調査から引き続いて9割を維持した。

イ 前回調査に比べて【見たことがある】の割合は変わらないものの、認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」が微減していることから、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の存在の区民への周知もさることながら、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことも重要である。

(2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は7割弱

河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所を事前に「決めている」人は7割弱を占めているものの、前回調査に比べ3.1ポイント減少した。

(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所は6割強が「自宅にとどまる」と回答

事前に決めている避難場所は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割強を占め、次点の「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」の2割台半ば近くを大きく上回っている。

(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由は「避難する場所がわからないから」が5割近く

ア 避難場所を事前に「決めていない」(約3割)の主な理由は「避難する場所がわからないから」が5割近くで最も多く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」が1割台半ばとなっている。

イ 河川のはん濫リスクは地域別で違いはあるものの、「河川はん濫時の避難場所を事前に決めていない」が最も低い第3地域(20.5%)と最も高い第11地域(42.1%)で20ポイント以上の差があり、また、河川はん濫時の避難場所を決めていない理由として「避難する場所がわからないから」が最も低い第8地域(30.0%)と最も高い第15地域(61.1%)で30ポイント以上の差があることから、各地域の状況を踏まえたうえで、混乱のない避難誘導の浸透を推し進めていく必要がある。

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が約7割、次いで「トキメキ」が3割台半ば

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が約7割で、依然として他の媒体に比べて高くなっており、これに次ぐ「トキメキ」(33.8%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(22.9%)などとの間には大きな差がある。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

(2) 重要と考える区の情報には、「健康や福祉」が6割台半ば、「災害や気象」が6割弱

ア 区が発信する情報で重要と考えるのは、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が6割台半ばで最も高く、次いで「災害や気象に関する情報」(6割弱)、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(5割強)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(4割台半ば)の順となっており、前回調査から上位項目の順位に変動はない。

イ 重要と考える区の情報を性・年代別にみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性の60代以上と女性の40・50・60代で7割以上と高く、「災害や気象に関する情報」は女性の40代と60代で7割台と高くなっている。また、「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」は男性の40代で4割台、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は女性の30代で6割台と特に高くなっている。

(3) 必要な時に必要とする区の情報には「得られている」が7割台半ば

ア 区の情報に「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が7割台半ば、一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は1割強となっており、この3年間で大きな違いは見られない。

イ 性・年代別に見ると、【得られている】は男女ともに18～29歳で4割台半ばから5割台半ばと低く、一方、18～29歳の男女は「必要と思ったことがない」(男性：22.0%、女性：13.9%)と「区の情報に関心がない」(男性：22.0%、女性：16.8%)で他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

(4) 区の情報得られない理由は「情報の探し方がわからない」が3割台半ば

必要な時に必要とする区の情報に【得られない】と答えた理由としては、「情報の探し方がわからない」が37.4%と最も高く、「情報が探しにくい」(26.4%)と合わせると6割台半ばを占めており、この割合が3年連続で増加していることから、情報の探しやすさについて、なお一層の工夫が必要である。

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は4割台半ばで最高値を更新

ア 『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が1割台半ばで、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（3割強）を合わせた【知っている】は4割台半ばとなったものの、「知らない（初めて聞いた）」（5割強）を下回っている。

イ キャッチフレーズの認知度を経年でみると、【知っている】は前回調査から3.6ポイント増加し、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

ウ キャッチフレーズの認知度を性別でみると、【知っている】は女性（52.4%）の方が男性（35.6%）より16.8ポイントと大きく上回っている。

エ 性・年代別でみると、【知っている】は女性の30代以上のすべての年代と男性の70歳以上で5割台と高く、それ以外の年代層は3割前後となっており、はっきりと2層に分かれている。

(2) 野菜から「食べている」人は6割台半ばで変わらず

ア 糖尿病の予防には、“食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的である”とされていることに対し、「（野菜から）食べている」人は6割台半ば、「食べていない」人は2割台半ばとなっている。

イ 「（野菜から）食べている」人の割合、野菜の摂取量については、前回調査から数値に大きな変動はみられない。

ウ 性別でみると、「（野菜から）食べている」は女性（69.5%）の方が男性（61.7%）より7.8ポイント高くなっている。

(3) 1日野菜350g以上の摂取は「できている」が4割強

ア 野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は4割強となっている。

イ 性別でみると、【（野菜の1日350g以上の摂取が）できている】は女性（44.2%）の方が男性（38.3%）より5.9ポイント高くなっている。

ウ 「（野菜から）食べている」と【（野菜の1日350g以上の摂取が）できている】については、すべての年代層で男性より女性の方が予防行動ができていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

(4) 自分は「健康である」と自認している人は前回から4ポイント減少し6割台半ば

ア 自身の健康状態への認識は、「健康な方だと思う」が6割弱を占めており、「非常に健康だと思う」（4.1%）を合わせた【健康である】は6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と感じている人は3割台半ばとなっている。

イ 前回調査と比較すると、【健康である】は4ポイント減少している。

ウ 性別では特に違いはないが、性・年代別に見ると、【健康である】は、30代以下では男性の方が高く、40代以上では女性の方が高くなっている。

(5) この一年間の受けたがん検診の受診率は4割台半ば、種類別では「大腸がん検診」が2割強

ア この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が43.7%で、「受けていない」が46.5%となっている。

イ 受診したがん検診の種類は、「大腸がん検診」が2割強で最多となっており、次いで「胃がん検診」、「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」（ともに1割台半ば）などとなっている。

(6) 【かかりつけ歯科医院を決めている】人は8割台半ば、治療以外で受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」と「定期健診（年1回以上）」が3割台半ば

ア「かかりつけ歯科医を決めている」は8割台半ばで、「かかりつけ歯科医を決めていない」は1割台半ばとなっている。

イ 治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものは、「歯石除去・歯面清掃」が37.4%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%となっている。一方、「特にない」は32.0%となっている。

(7) 「ゲートキーパー」という言葉を【知っている】は2割近くで、「知らない（初めて聞いた）」が約8割

ア「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が3.9%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が14.7%で、これらを合わせた【知っている】は18.6%となっている。

イ 経年で見ると、【知っている】は前回調査との比較では大きな違いは見られないものの、設問を開始した令和元年度調査（14.1%）から漸増傾向が続いている。人々の孤独・孤立化については、国でも2021年に孤独・孤立対策担当室が設置されるなど、非常に注視されていることから、「ゲートキーパー」の認知率を向上させる取り組みが重要となっている。

6 スポーツ・読書

(1) 「運動・スポーツはしていない」は約4割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が2割強で、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は5割台半ばで、「運動・スポーツはしていない」は約4割となっており、前回調査と特に大きな違いはみられない。

(2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割で突出

ア【運動している】と回答した人が、継続的に実施している運動・スポーツは、「ウォーキング」が5割で最も高く、これに「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」と「筋力トレーニング」が2割強と続いている。

イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の18～29歳以外のすべての性・年齢層で4割以上となっている。「筋力トレーニング」は男性の方が女性より約10ポイント高く、男性の40代以下で4割台と高くなっている。「健康体操」は女性の方が男性より約15ポイント高く、女性の60代で3割台半ばと最も高くなっている。

(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所は「自宅周辺」が約5割

運動・スポーツを最も多く行っている場所については、「自宅周辺」（約5割）が最も高く、次いで「自宅」（1割台半ば）となっている。

(4) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割近く

ア 日常的に「運動・スポーツをしていない」人が、運動・スポーツを行いたいと思うきっかけとなるのは、「身近な場所で運動・スポーツができる」（3割台半ば）、「手頃な価格で施設を利用できる」（3割弱）、「レベルを気にせず参加できる機会がある」（約2割）が上位3項目となっている。

イ 運動・スポーツを行うきっかけを性別でみると、前述の上位3項目については、男性より女性の方が高くなっている。

ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は女性の30代が、「手頃な価格で施設を利用できる」は男性の30代が、それぞれ5割台半ばで最も高くなっている。

(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動で、「活動しなかった」が7割台半ば、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%

過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動の有無を聴いたところ、「活動しなかった」が7割台半ばを占め、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%、【何らかの支える活動をした】は1割強にとどまった。

(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続すべき」が4割台半ば

区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度については、34.3%が【何らかの制度改正を望んでいる】ものの、「現行のまま継続すべき」が43.5%で主流となっている。

(7) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割強、行動内容は「本を読む」が4割強

ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が82.4%で前回調査とほぼ同じ割合となっている。

イ 行動内容では、上位5位の「本を読む」（42.1%）、「新聞を読む」（41.0%）、「雑誌を読む」（35.8%）、「漫画（アニメ）を読む」（34.6%）、「書店・古書店に行く」（29.2%）の順位は変わらないが、「本」「新聞」「雑誌」が減少し、「漫画（アニメ）」が増加している。

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割超、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が43.1%となっている。

イ 設問開始からの10年を見ると、【知っている】はわずかな増減を繰り返しつつ4割台で推移しており、「知らない（初めて聞いた）」の5割台を上回ることがなく、膠着状態に陥っている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに「参加していない（今後も参加しない）」（61.3%）は前回調査から5.1ポイント減少したものの6割台を占めている。

エ 現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みでは、今回調査で新設の「ながら見守り活動」が1位、同様に新設の「不法投棄通報」が4位と上位に入っている。

オ 性・年代別でみると、「ながら見守り活動」は女性の40代で18.5%と最も高く、「まちの清掃活動」と「花の育成活動」はともに女性の60代（15.0%・15.8%）で最も高くなっている。一方、「参加していない（今後も参加しない）」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高くなり、女性の18～29歳（71.3%）で7割台と最も高くなっている。

(2) 居住地域の治安状況が【良い】は5ポイント減少し再び5割台となる

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が順調に増加を続けていたが、令和4年の刑法犯認知件数が5年ぶりに増加し、今回令和5年度調査結果も5ポイント減少し再び5割台となった。

イ 治安状況が【悪い】について地域別にみると、1割台と低い地域がある一方で、4割弱と高い地域もあり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が51.9%で最も高く、割合に増減はあるものの上位項目に順位の変動はない。割合の減少が最も大きいのは、「犯罪の発生件数が減っているということを知ったから」が10.5ポイントの減少となっている。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、今回調査で新設された「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」（43.2%）が最も高く、次ぐ2位にも同様に新設の「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」（39.6%）が続いた。回答が2選択肢以内という制限があった関係か、既存の項目は軒並み割合が減少した。

(3) 治安対策として区に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置」が5割

治安対策として足立区に特に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が50.8%で最も高く、次いで「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」（45.6%）、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」（30.7%）など順位に変動はない。

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば、次いで「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」(84.4%)が今回も最も高く、平成26年以降8割台半ばから9割弱の間で推移している。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(74.8%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(54.0%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(51.1%)、「外食時に食べられる分だけ注文する」(48.4%)までが上位5位となっている。

イ 環境のために心がけていることについて、SDGsの認知度別にみると、上位8項目中6項目で認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。

ウ 環境のために心がけていることについて、SDGsの関心度別にみると、上位8項目すべてで関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。その度合いは認知度よりも関心度との相関関係が強く表れている。

(2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が前回から約10ポイント減少し7割弱

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が18.7%で、「行動することが時々ある」(49.6%)を合わせた【行動している】は前回調査から9.7ポイント減少し7割弱となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は男性の40代以下と女性の50代以下で7割台と高くなっている。

(3) 町会・自治会について、「加入している」は5割強、「活動に参加したことがある」は4割弱

ア 自分の住所地に該当する町会・自治会を「知っている」は6割台半ば、町会・自治会に「加入している」は5割強、町会・自治会の「活動を知っている」は約5割、町会・自治会の「活動に参加したことがある」は4割弱となっている。

イ 町会・自治会に加入していない理由は、「加入する必要性を感じないから」が2割台半ばで最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしいから」が1割台半ば、「加入の方法がわからないから」と「誘われないから」が1割強となっている。

ウ 前回の令和3年度調査と比較すると、すべての認知・加入状況の割合が3～6ポイント減少している。

(4) この1年間に参加した活動は、「特に参加していない・特にない」が5割半ば近くに微増も、催しやサークル活動などの外出型活動が増加

ア この1年間の活動への参加状況は、「特に参加していない・特にない」の53.2%に対し、【この1年間に参加した活動がある】は28.1%と大きく下回っている。

イ この1年間の活動への参加状況を前回調査と比べると、「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(+3.5ポイント)や「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(+3.1ポイント)などの外出型活動が3ポイント以上増加している。

ウ この1年間に参加した活動(現状)と、引き続き、または今後参加したいと思う活動(参加意向)の割合を比較すると、下記のとおり①の自宅周辺型活動に比べて、②と③の外出型活動の増加が大きくなっている。

①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」

(現状16.5%→参加意向17.5%・1.0ポイント増加)

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」

(現状18.2%→参加意向27.8%・9.6ポイント増加)

③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」

(現状8.5%→参加意向14.5%・6.0ポイント増加)

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は2割台半ば、「知らない」が約7割で変化なし
- ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」(8.0%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(18.5%)）が26.4%となっており、多少の増減はあるものの、平成25年の設問開始から大きな変化は見られない。
- イ 【知っている】を地域別でみると、第3地域で4割弱と最も高く、逆に第15地域で1割と、地域差がかなり大きくなっている。
- ウ 【知っている】を性・年代別でみると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合も低くなり女性の18~29歳で1割未満と最も低くなっている。
- (2) 「地域包括支援センター」について、【業務内容を知っている】は4割台半ば近く
- ア 地域包括支援センター（ホウカツ）の認知状況は、【業務内容を知っている】は43.3%、「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」が16.9%、「地域包括支援センターを知らない」は35.6%となっている。
- イ 知っている地域包括支援センターの業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」が3割台後半で最も高く、次いで「介護保険サービスの相談」(28.9%)、「高齢者宅への訪問調査」(23.0%)、「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」(20.2%) などとなっている。
- ウ 【業務内容を知っている】を地域別でみると、第8地域で5割と最も高く、第2地域で3割強と最も低く、約20ポイントの違いがある。
- エ 【業務内容を知っている】を性・年代別でみると、女性の方が男性より約16ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の60代以上で6割台半ばと高くなっている。
- (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は約2割、「協力できない」は4割超
- ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】は約2割で前回調査から変化はないが、【協力できない】は3.6ポイント減少した。
- イ 性・年代別でみると、【協力したい】は男性の60代(34.0%)で最も高く、男性の50代(11.3%)で最も低くなっている。この極端な違いは、「協力したいが、時間などに余裕がない」(50代:37.3%・60代:20.2%)の割合の差によるもので、男性の60代は就業状況によって考え方に大きな変化があることがうかがえる。
- (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5割台半ば近くで変化なし
- ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が15.8%で、これに「知っているが、特に何もしていない」(37.7%)を合わせた【知っている】(53.5%)は5割台半ば近くとなり、本質問を開始した令和2年からの大きな変動はない。
- イ 性・年代別にみると、【知っている】は女性の方が男性より約10ポイント高く、女性の60代が約7割で最も高くなっている。
- (5) 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば超、一方、「仕事をしていない」は2割台半ば
- ア 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和について、調和が「取れている」が34.8%で、「取れていない」(17.8%)を上回っている。一方、「わからない」が17.4%であった。
- イ 就業している方を100%として比較し、調和が【取れていない】を性・年代別でみると、男女とも18~29歳で3割台と他の性・年代層に比べて高くなっている。

(6) 言葉の「内容まで知っている」は「身体的暴力以外のDV」が6割台半ば、「LGBT」が6割弱

ア「内容まで知っている」は、「身体的暴力以外のDV」が63.7%、「LGBT」が58.0%となっている。

イ「内容まで知っている」を前回調査と比較すると、「身体的暴力以外のDV」は前回調査(48.9%)から14.8ポイント、「LGBT」は前回調査(47.1%)から10.9ポイントと、ともに大幅に認知度が上昇しており、この1年間で2つの言葉の浸透が進んだことがうかがえる。

ウ「内容まで知っている」を性別にみると、「身体的暴力以外のDV」は女性(66.4%)の方が男性(60.0%)より6.4ポイント高くなっている。また、「内容まで知っている」を性・年代別で見ると、「身体的暴力以外のDV」は女性の18～29歳、「LGBT」は男性の18～29歳、女性の18～29歳と30代でそれぞれ8割台と高く、年齢が下がるほどおおむね割合が高くなっている。

10 「協働・協創」・「SDGs」

(1) 「協創」の認知度は調査開始以降1割台で漸増し、前回調査で2割台、今回3割へと上昇

「協創」について、「知っている」は10.9%で、これに「聞いたことはある」(19.9%)を合わせた【知っている】は30.8%で、前回(28.7%)から微増ではあるものの初めて3割台となった。

(2) “協働”“協創”の実践は、「すでに、活動を実践している」が6.3ポイント増加し2割超

ア 「協創」を知っていると回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」(21.3%)が前回調査(15.0%)から6.3ポイント増加したものの、設問を開始した平成29年と平成30年の3割台には及ばない。

イ 「協創」の認知度は向上したものの、協働・協創の実践に至っていない状況と言える。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、今後は行動の実践が上昇すると考えられるが、この機に乗じて、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクトなどの具体的な活動に結びつく動機づけが重要である。

(3) SDGsの認知状況は、【知っている】が7割台半ば超と上昇

ア SDGsの認知については、「内容まで知っている」が34.5%となっている。「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が43.4%で最も高く、これらを合わせた【知っている】は7割台半ば超となっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」が19.1%となっている。

イ SDGsの認知度を前回調査と比較すると、「内容まで知っている」は、前回調査(28.0%)から6.5ポイント増加し、「知らない(初めて聞いた)」は5.5ポイント減少している。

ウ SDGsの認知度を性別でみると、「内容まで知っている」は、男性(37.3%)の方が女性(32.5%)より4.8ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど割合が高くなり、男性の18~29歳で6割強と最も高くなっている。

(4) SDGsに【関心がある】が3割台半ば、【関心がない】が3割強

ア SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.0%で最も高く、これに「とても関心がある」(6.2%)を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、SDGsに「あまり関心がない」(24.1%)と「全く関心がない」(7.8%)を合わせた【関心がない】は3割強となっている。

イ SDGsへの関心状況を性別でみると、【関心がある】は、女性(37.5%)の方が男性(34.4%)より3.1ポイント高く、【関心がない】は、男性(38.0%)の方が女性(27.2%)より10.8ポイント高くなっている。

ウ SDGsへの関心状況を性・年代別でみると、【関心がない】は、男性の30代で5割強と最も高く、女性の40代以上の各年齢層で2割台と低くなっている。

11 区の取り組み

(1) 「足立区に愛着」と「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」がともに約7割

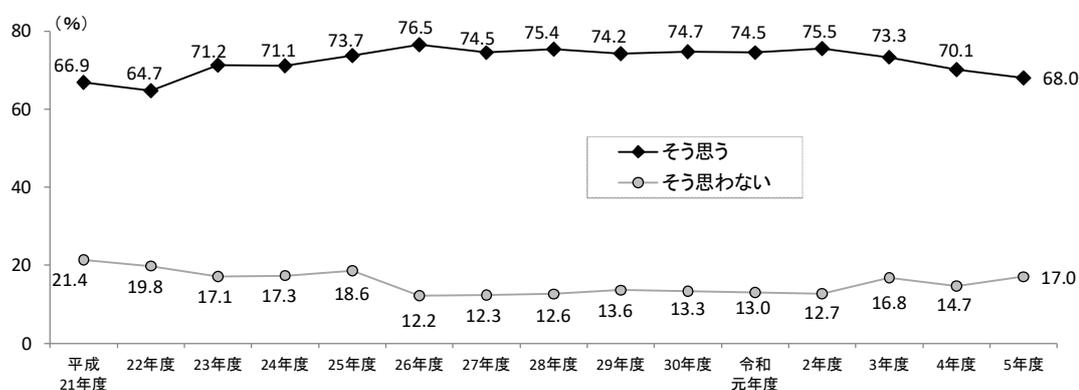
ア 平成21年調査から今回の令和5年度調査まで15年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえば**そう思う****」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は68.0%、〈足立区に誇りをもっている〉は37.6%、〈足立区を人に勧めたい〉は39.6%となっている。

イ 経年でみると、【**そう思う**】は前述の3項目とも前回から2～5ポイント減少しており、ともに、この3年間は減少を続けている。

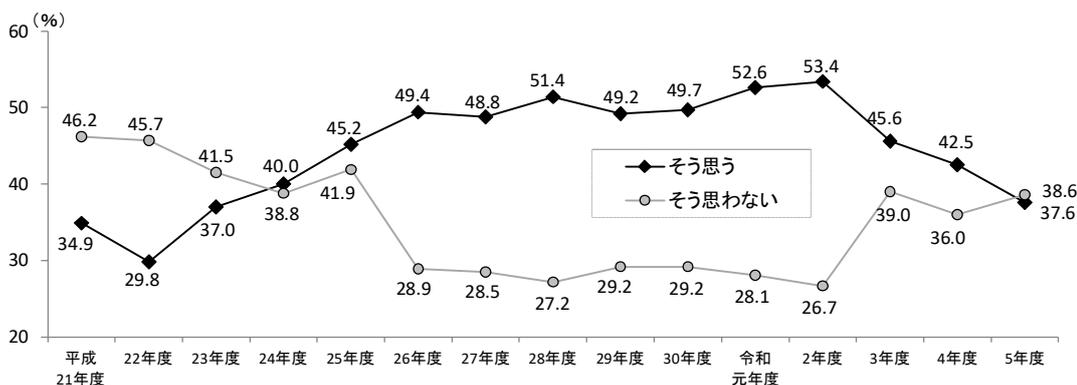
ウ 特に〈足立区に誇りをもっている〉は4.9ポイント減少し、【**そう思わない**】（38.6%）を下回った。

エ 居住年数別でみると、【**そう思う**】は〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉は居住年数が長くなるほど割合が高くなる正の相関がみられるが、足立区に誇りをもっている〉については、どの居住年数別でも4割前後と差がない。

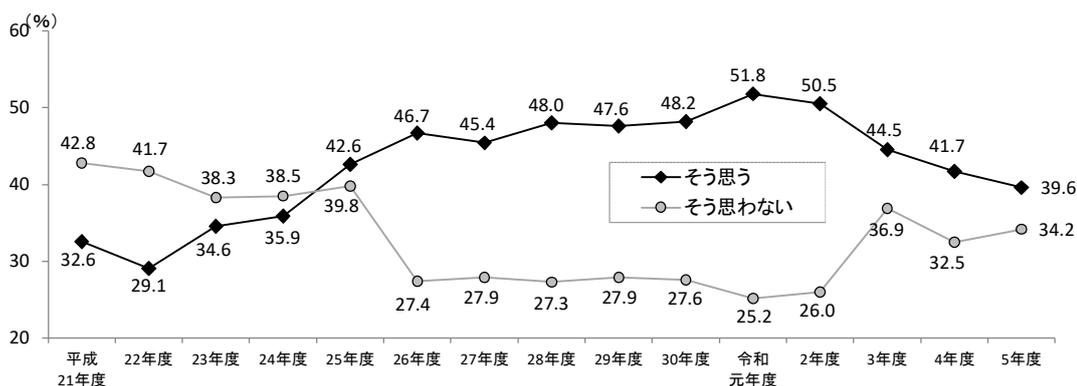
「足立区に愛着をもっている」



「足立区に誇りをもっている」

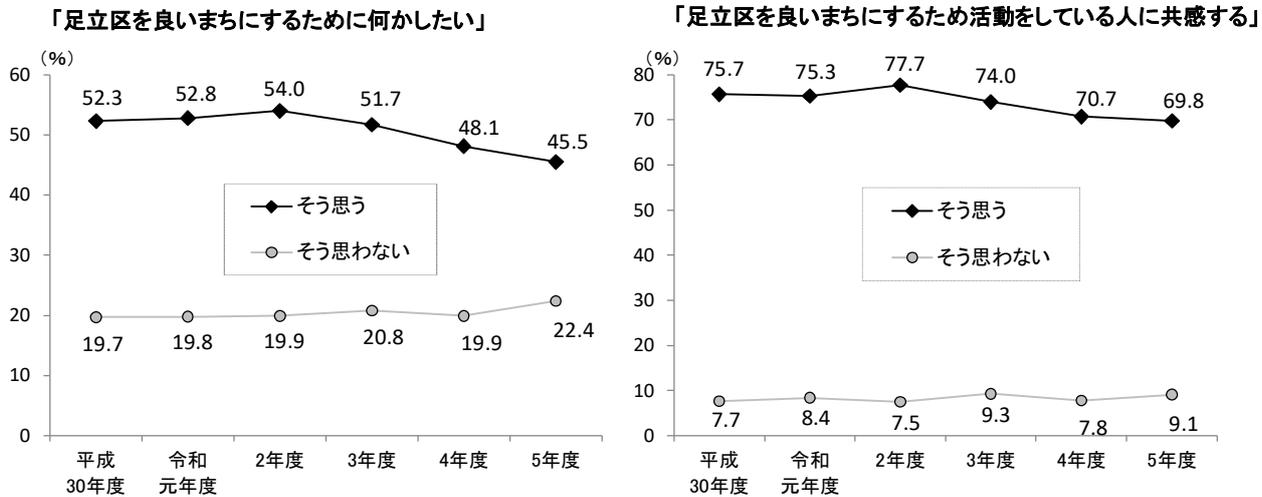


「足立区を人に勧めたい」



第2章 調査結果の要約

オ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【**そう思う**】をみると、それぞれ45.5%と69.8%と、前回調査から微減しており、逆に【**そう思わない**】はそれぞれ微増となっている。



(2) 区を良いまちにするための行動については、【**行動しなかった**】が6割台半ばで、【**行動した**】の2割台半ばを大きく上回る

ア この1年間に「行動しなかった」が46.4%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(17.6%)を合わせた【**行動しなかった**】は64.0%となっている。

イ 「行動した」は9.6%に留まり、「どちらかといえば行動した」(14.9%)を合わせた【**行動した**】は24.6%となっている。

ウ 前回の令和4年度調査と比べてみると、【**行動しなかった**】は4.4ポイントの増加となっている。

エ 区を良いまちにするための行動を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【**行動した**】の割合は増加し、『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【**行動した**】は13.0%に留まり、【**行動しなかった**】は74.1%を占めている。『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【**行動した**】は36.2%となっている。

(3) 区の取り組みで満足している分野は、「情報提供」が4割弱で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割超

ア 21分野の区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が38.0%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(31.2%)、「保健衛生対策」(26.9%)、「高齢者支援」(20.1%)、「職員の接客態度」(19.9%)などとなっている。

イ 区の取り組みで満足している分野について、性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「自然・緑化対策」(+3.8ポイント)、「防災対策」(+3.2ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「保健衛生対策」(+9.3ポイント)、「子育て支援」(+4.5ポイント)、「治安対策」(+4.3ポイント)、「高齢者支援」(+3.8ポイント)

(4) 区の取り組みで不満な分野は、「交通対策」が2割で最上位、次いで「都市開発」が1割超

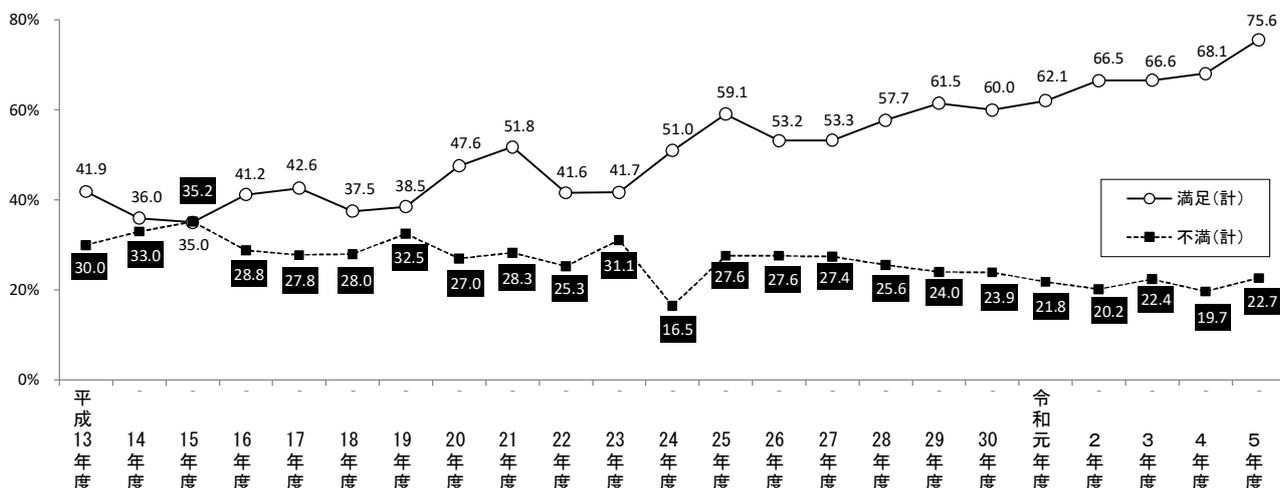
ア 21分野の区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が20.8%と最も高く、次いで、「都市開発」(11.6%)、「自然・緑化対策」と「住環境対策」(各10.3%)、「高齢者支援」(10.1%)、「低所得者支援」(9.8%) などとなっている。

イ 区の取り組みで不満な分野について、性別で見ると、区の取り組みで満足の分野に比べ、男女の差が小さい。

- a 男性の方が女性より2ポイント以上高い取り組み
「情報提供」(+2.1ポイント)
- b 女性の方が男性より2ポイント以上高い取り組み
「職員の接客態度」、「子育て支援」(ともに+2.3ポイント)

(5) 区政全体について【満足】は7割台半ばで、平成25年の設問開始以降で最高値となる

ア 区政全体について、「やや満足」が63.7%と最も高く、「満足」(11.9%)を合わせた【満足】は75.6%となり、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。



※ 平成25年度以降は選択肢が現行の4選択肢(「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」)であるが、平成24年度までは「わからない」が加わった5選択肢のため、単純に比較はできないが参考として掲載している。

イ 地域別で見ると、【満足】は第6地域で82.0%と最も高く、次いで、第4地域(81.1%)、第1地域(80.8%)などとなっている。一方、【不満】は第10地域で30.9%と最も高く、次いで、第13地域(30.3%)、第15地域(29.3%)などとなっている。

ウ 性・年代別にみると、【満足】は、男性の50代で82.4%と最も高く、次いで、男性の70歳以上(80.0%)、女性の70歳以上(79.6%)が続いている。一方、【不満】は女性の18~29歳で30.7%と最も高く、次いで、男性の40代(28.9%)となっている。

(6) 今後特に力を入れてほしい分野は、「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「高齢者支援」が3割超で続く

ア 21分野の区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が33.9%と最も高く、次いで、「高齢者支援」(31.6%)、「防災対策」(29.1%)、「自然・緑化対策」(24.4%)、「都市開発」(23.5%)などとなっている。

イ 地域別でみると、第7地域は「自然・緑化対策」「都市開発」「産業振興」、第13地域では「住環境対策」「治安対策」「子育て支援」、第14地域では「交通対策」「障がい者支援」「資源環境対策」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

ウ 性別で見たときに、21項目中17項目で女性の方が男性より高くなっている。

ア 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「高齢者支援」(+5.1ポイント)、「治安対策」(+3.9ポイント)、「保健衛生対策」(+3.2ポイント)

イ 「特にない」は、男性の方が女性より4.6ポイント高くなっている。

エ 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

ア 40代は、21項目中最多の9項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「交通対策」で10ポイント以上高くなっている。

イ 30代では、4項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「学校教育対策」の2項目で10ポイント以上高くなっている。

イ 60代、70代ともに、2項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」で10ポイント以上高くなっている。

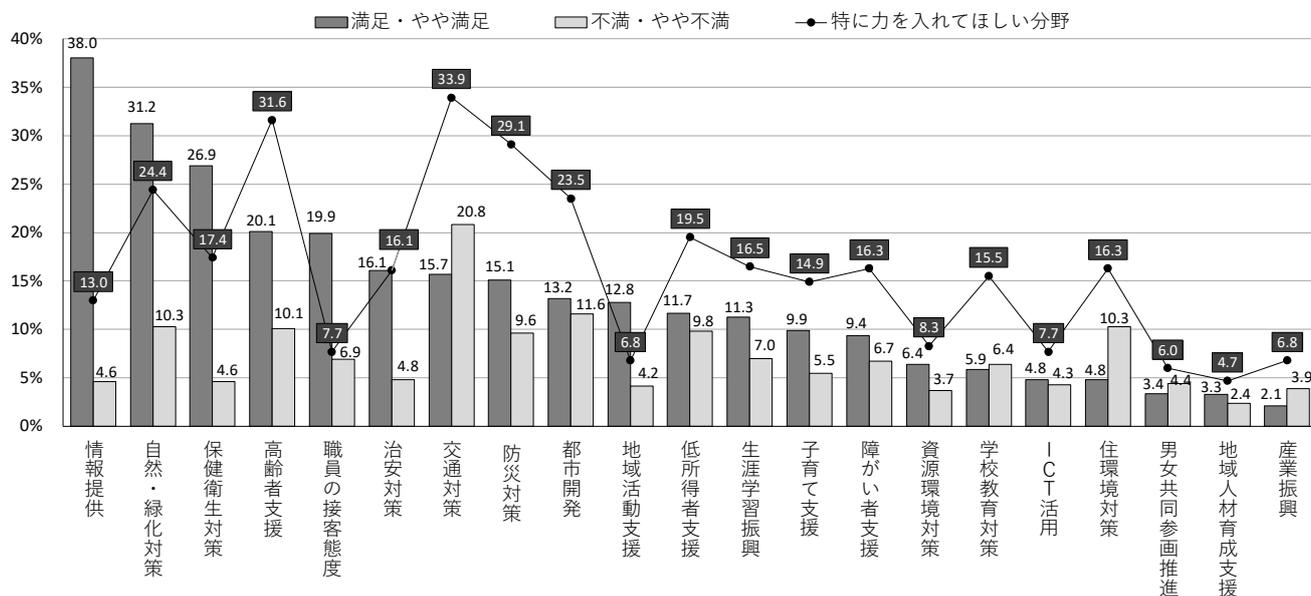
(7) 「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況から見える、課題となる取り組み

ア 各取り組みに対する、「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況をみると、下記の取り組みが課題となっている。

イ 「注力を期待」が大きく、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈交通対策〉

イ 「注力を期待」が大きく、「満足評価」の方が大きいものの「不満評価」と大きな差がないのは、〈都市開発〉〈低所得者支援〉〈防災対策〉

イ 「注力を期待」は中位だが、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈住環境対策〉

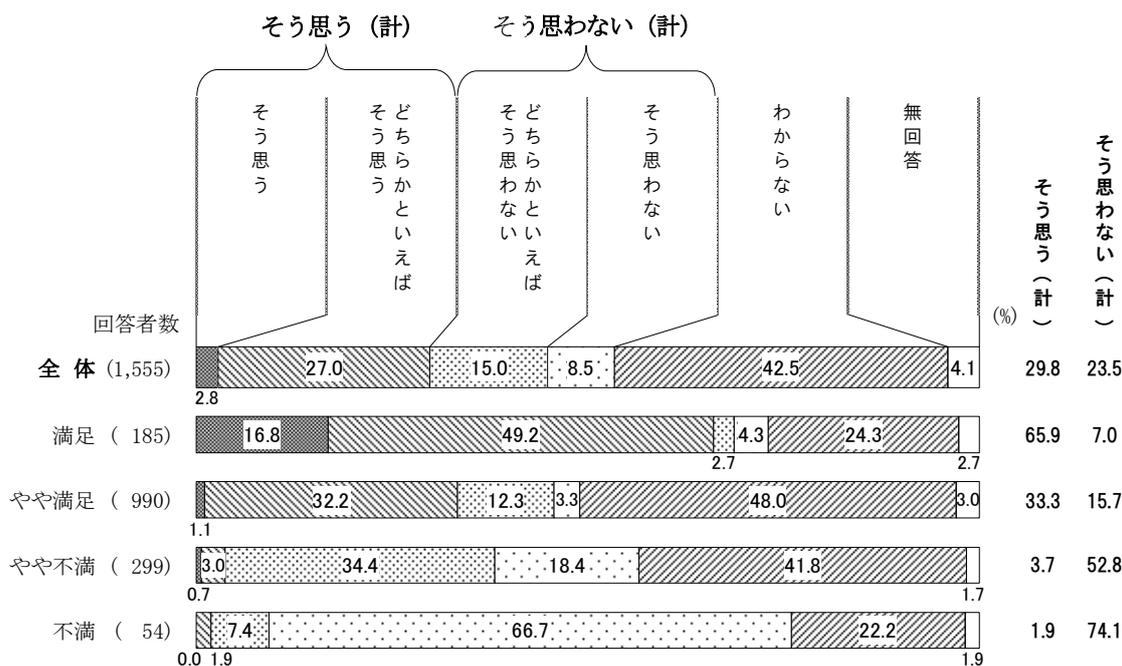


(8) 区政への区民意見の反映について、「そう思う」は7ポイント減少し約3割、「わからない」が8.7ポイント増加し4割台半ば近く

ア 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(2.8%)と「どちらかといえばそう思う」(27.0%)を合わせた【そう思う】は29.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」(15.0%)と「そう思わない」(8.5%)を合わせた【そう思わない】(23.5%)を6.3ポイント上回っている。

イ 前回調査と比較してみると、【そう思う】が7.0ポイント減少している。

ウ 区政満足度別で見ると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ばと高くなっている。



区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1	68.0

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	68.1	55.2	59.3
20代	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7	68.1	55.2	59.3
30代	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2	53.0
40代	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3	68.4
50代	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8	71.8
60代	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4	66.0
70歳以上	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1	73.0

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	67.5	54.3	59.4
20代	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3	67.5	54.3	59.4	
30代	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3	59.3	
40代	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0	66.9	
50代	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3	69.7	
60代	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5	75.0	
70歳以上	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7	72.9	

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5	37.6

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	43.1	23.9	25.4
20代	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8	43.1	23.9	25.4
30代	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3	22.7
40代	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0	28.9
50代	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3	37.3
60代	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9	44.7
70歳以上	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7	53.0

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	28.9	31.4	22.8
20代	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7	28.9	31.4	22.8	
30代	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8	27.4	
40代	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2	37.9	
50代	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3	41.1	
60代	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5	34.2	
70歳以上	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0	44.7	

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7	39.6

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	40.3	34.3	32.2
20代	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4	40.3	34.3	32.2
30代	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3	40.9
40代	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8	38.6
50代	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5	40.8
60代	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6	40.4
70歳以上	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8	41.6

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	38.6	40.0	32.7
20代	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7	38.6	40.0	32.7	
30代	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8	45.1	
40代	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1	41.9	
50代	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4	47.4	
60代	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6	36.7	
70歳以上	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4	34.9	

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1	45.5

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3	39.0
20代	45.8	39.1	44.1			
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8	43.9
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8	49.1
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0	49.3
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0	47.9
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8	46.5

女性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4	42.6
20代	41.6	39.4	41.3			
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9	48.7
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3	50.8
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1	49.7
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9	45.8
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8	37.6

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7	69.8

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7	62.7
20代	64.4	59.4	67.8			
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7	57.6
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5	71.9
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4	77.5
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4	67.0
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1	68.6

女性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6	66.3
20代	61.0	66.7	66.3			
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5	72.6
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1	76.6
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3	76.0
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0	72.5
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3	63.1

区政満足度の分析 / 暮らしやすさ / 定住意向 / 情報の入手 / 治安

※各割合(%)は全体(1,555)に対する割合となっています。

1 「地域の暮らしやすさ」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
暮らしやすい	6.8	16.4	2.1	0.4	23.2	2.4	0.6	
どちらかといえば暮らしやすい	4.6	40.8	10.3	0.9	45.4	11.2	0.7	
どちらかといえば暮らしにくい	0.1	5.0	5.5	1.7	5.1	7.2	0.2	
暮らしにくい	0.2	0.5	0.8	0.5	0.6	1.4	-	
暮らしやすい(計)	11.4	57.2	12.3	1.3	68.6	13.6	1.3	
暮らしにくい(計)	0.3	5.4	6.4	2.2	5.7	8.6	0.2	

2 「定住意向」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
ずっと住み続けたい	7.5	24.1	3.2	0.2	31.6	3.3	0.4	
当分は住み続けたい	3.7	31.1	8.9	1.1	34.9	10.0	0.6	
区外に転出したい	0.1	2.3	2.3	1.0	2.4	3.3	0.1	
わからない	0.3	5.3	4.5	1.2	5.7	5.7	0.4	
定住意向(計)	11.2	55.2	12.1	1.3	66.4	13.4	1.0	

3 「必要なときに必要とする区の情報入手状況」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
十分に得られている	1.7	2.6	0.3	0.1	4.3	0.4	0.1	
ある程度得られている	8.2	47.5	11.6	1.4	55.7	12.9	0.6	
得られないことが多い	0.6	4.8	3.3	0.7	5.4	4.1	0.3	
まったく得られない	0.1	0.6	0.5	0.3	0.7	0.8	-	
必要と思ったことがない	0.6	4.1	1.6	0.4	4.7	2.0	0.1	
区の情報に関心がない	0.3	1.9	1.6	0.6	2.2	2.2	0.1	
得られている(計)	9.8	50.2	11.9	1.4	60.0	13.3	0.8	
得られない(計)	0.8	5.3	3.8	1.0	6.1	4.8	0.3	

4 「居住地域の治安状況」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
良い	3.2	4.9	0.7	0.1	8.1	0.8	0.2	
どちらかといえば良い	6.2	35.7	7.4	0.6	41.9	8.0	0.5	
どちらかといえば悪い	1.0	13.6	6.7	1.1	14.6	7.8	0.2	
悪い	0.2	1.4	1.5	1.1	1.6	2.6	-	
わからない	0.8	6.3	2.7	0.5	7.1	3.2	0.2	
良い(計)	9.5	40.6	8.1	0.7	50.0	8.8	0.6	
悪い(計)	1.2	15.0	8.2	2.2	16.2	10.4	0.2	

第3章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 地域の暮らしやすさ
 - (3) 特に暮らしにくいと感じること
 - (4) 定住意向
-

1 定住性

(1) 居住地域の評価

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか

(○はそれぞれ1つずつ)。

■ 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が6割台後半

ア 単純集計・経年比較／居住地域の評価

(ア) 住んでいる地域について感じていることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈普段の買い物が便利である〉(77.8%)
- ② 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(67.6%)
- ③ 〈快適で安全なまちである〉(60.2%)
- ④ 〈まちなかの花や緑が多い〉(60.0%)

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(62.6%)
- ② 〈文化芸術に親しめるまちである〉(50.2%)
- ③ 〈景観・街並みが良好である〉(43.5%)

(ウ) 前回調査と比較すると、16項目のすべてで【そう思う】が減少している。減少幅が3ポイント以上の項目は、以下の5項目である。

- ① 〈子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである〉(-6.4ポイント)
- ② 〈よく行く、または行きたい公園がある〉(-4.4ポイント)
- ③ 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(-3.6ポイント)
- ④ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(-3.5ポイント)
- ⑤ 〈文化芸術に親しめるまちである〉(-3.5ポイント)
- ⑥ 〈景観・街並みが良好である〉(-3.2ポイント)

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

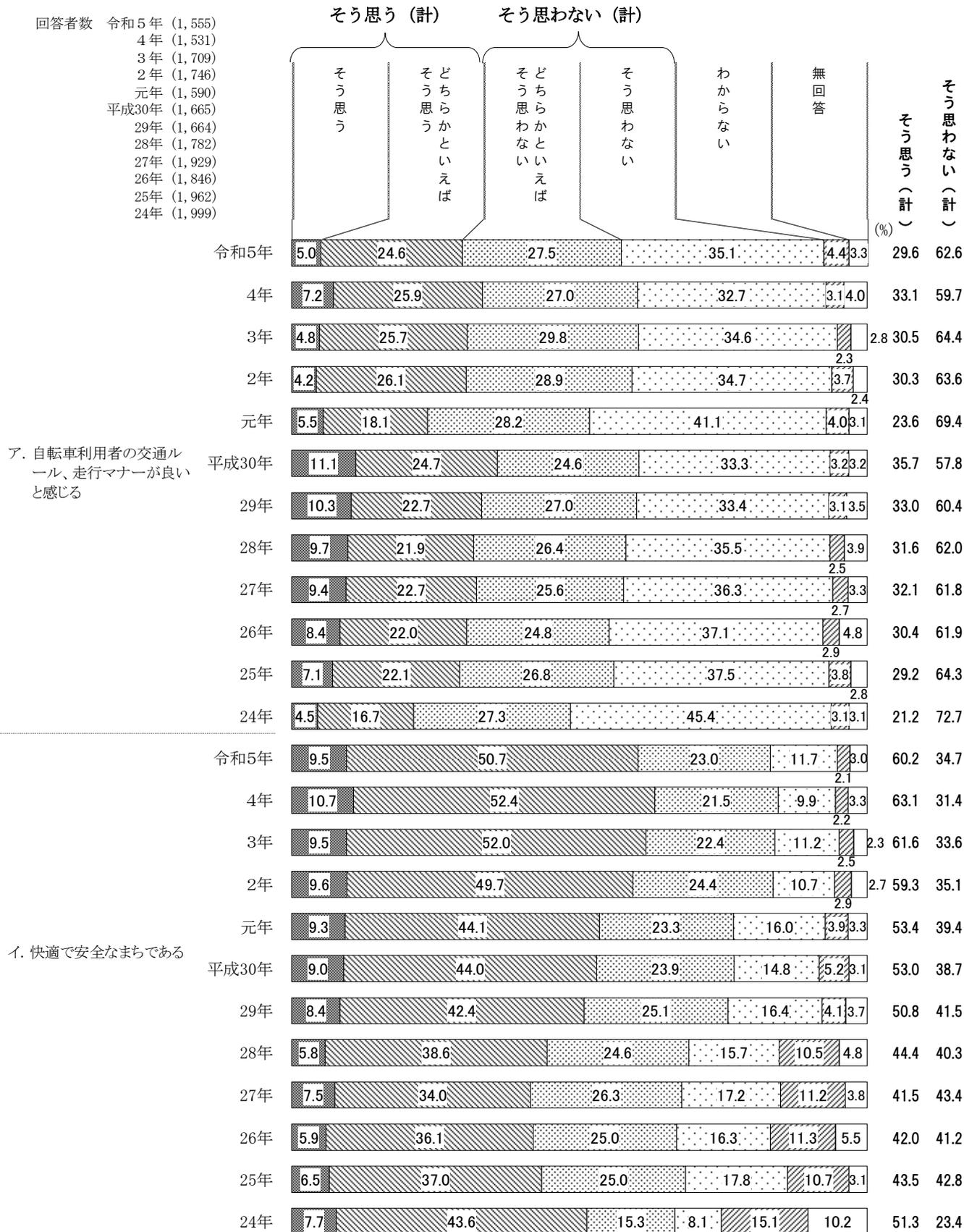


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価

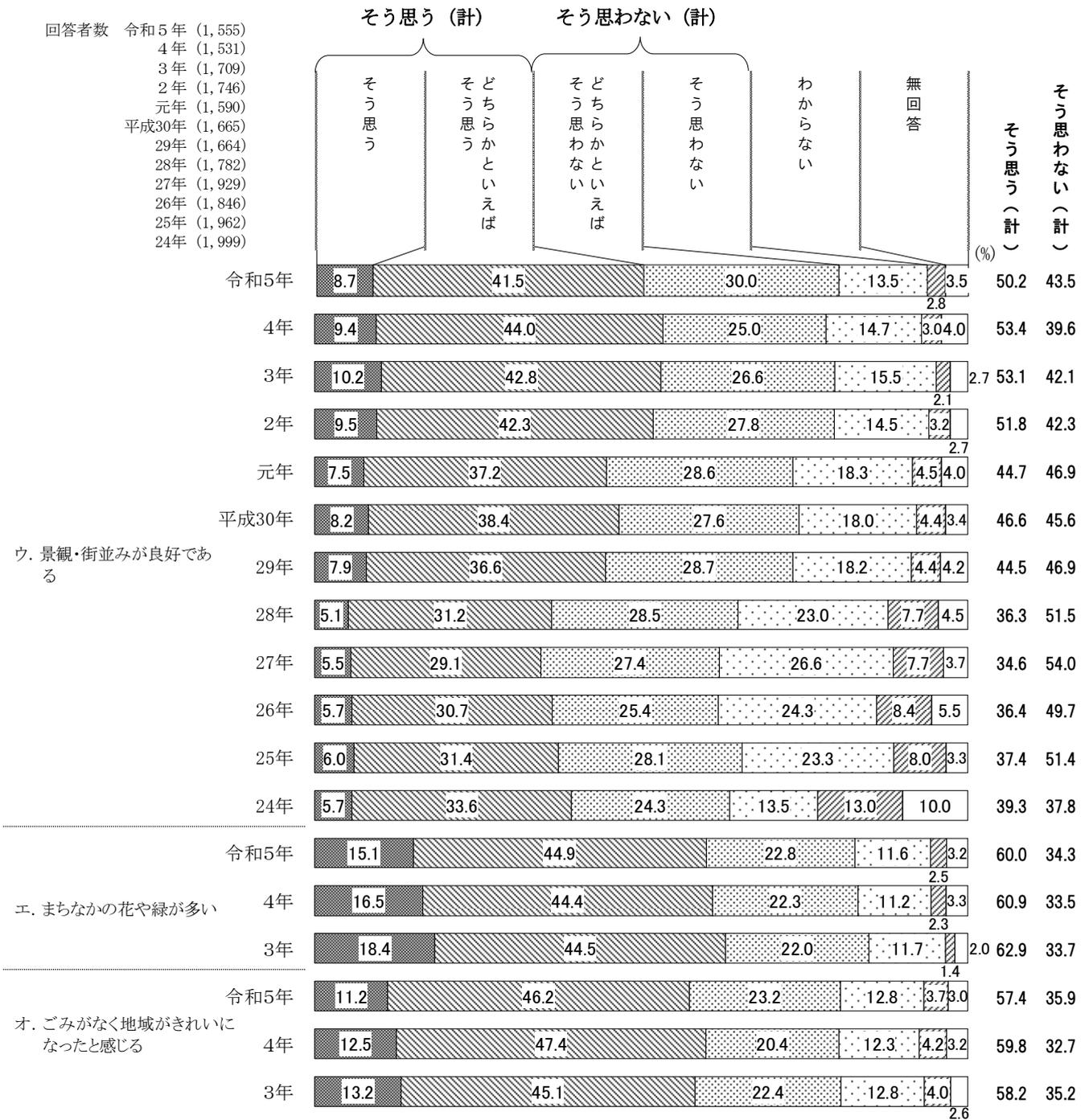


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

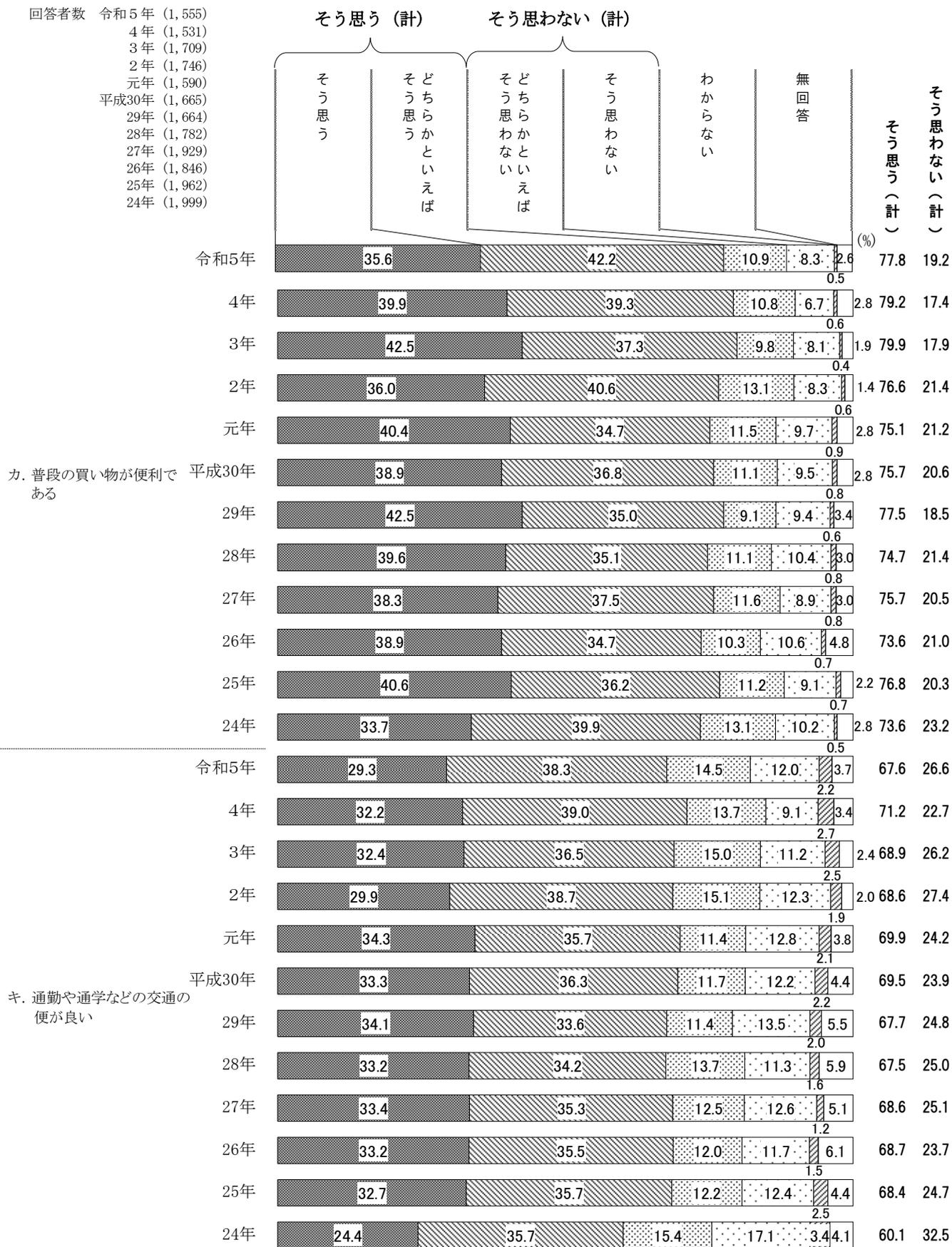


図1-1-1-④ 経年比較／居住地域の評価

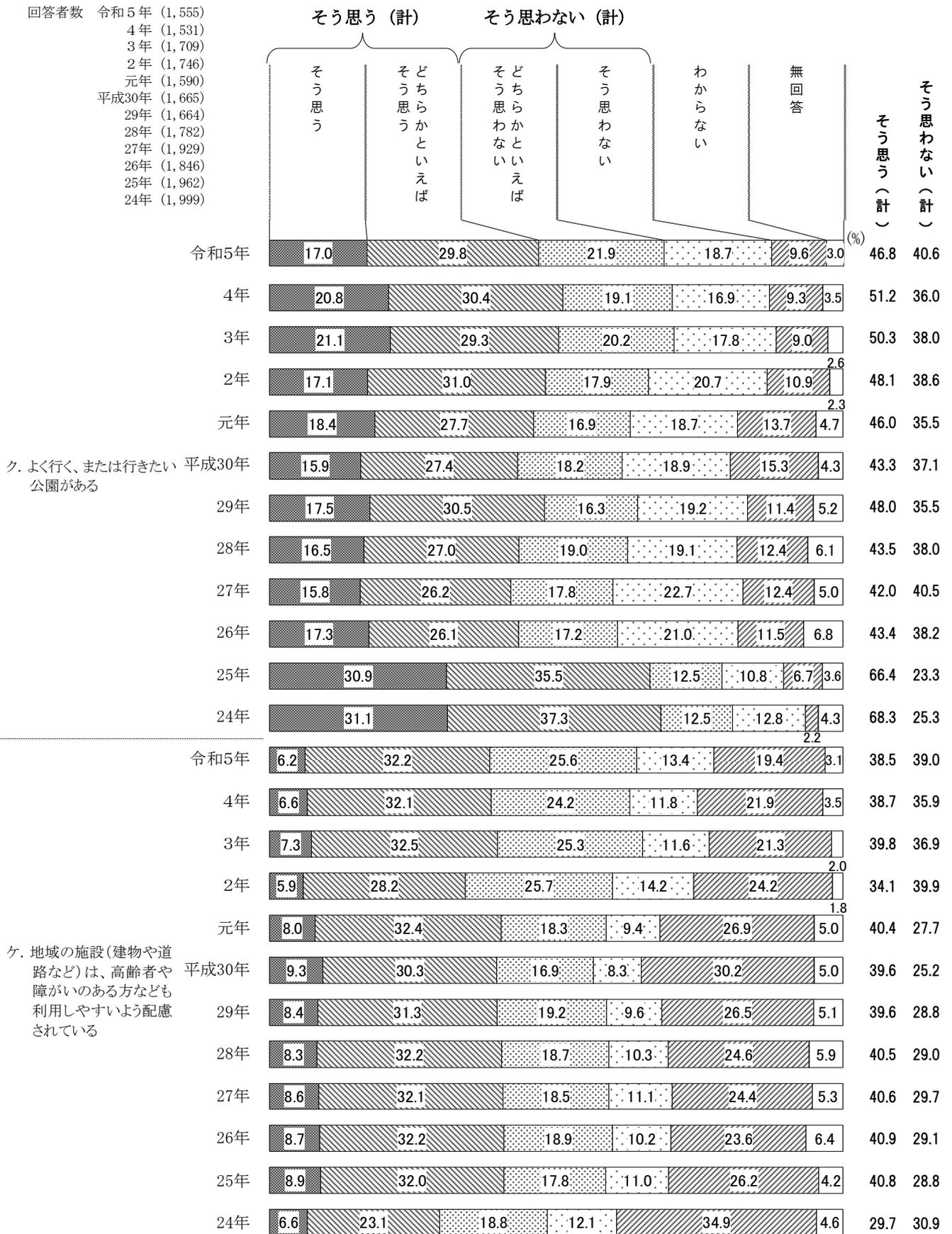


図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価

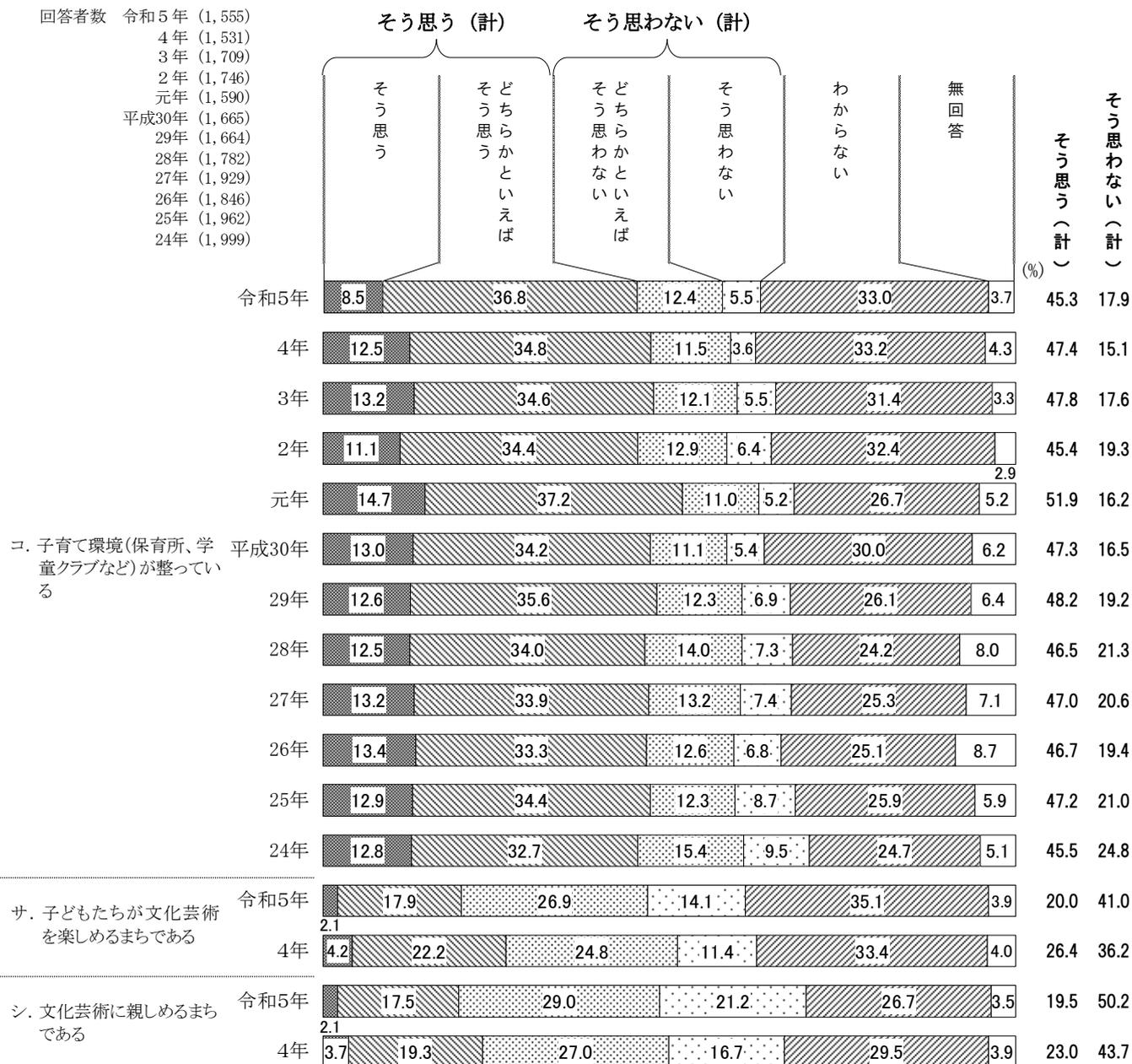
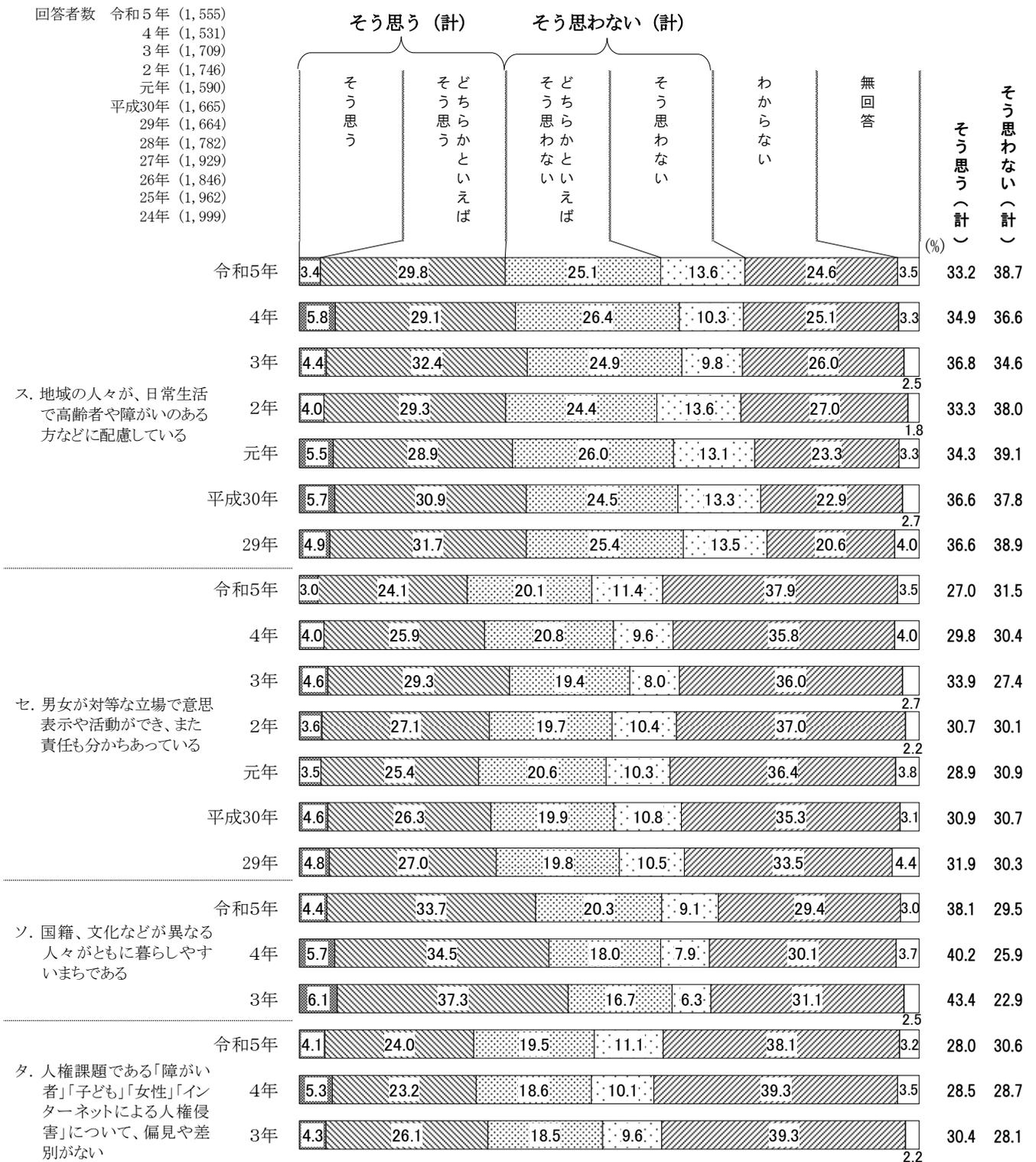


図1-1-1-⑥ 経年比較／居住地域の評価



※ アは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。
 ※ イは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。
 ※ ウは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。
 ※ クは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。
 ※ ケは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえて、令和2年度に「地域の施設」の部分で「地域の施設（建物や道路など）」に表現をかえた。

イ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

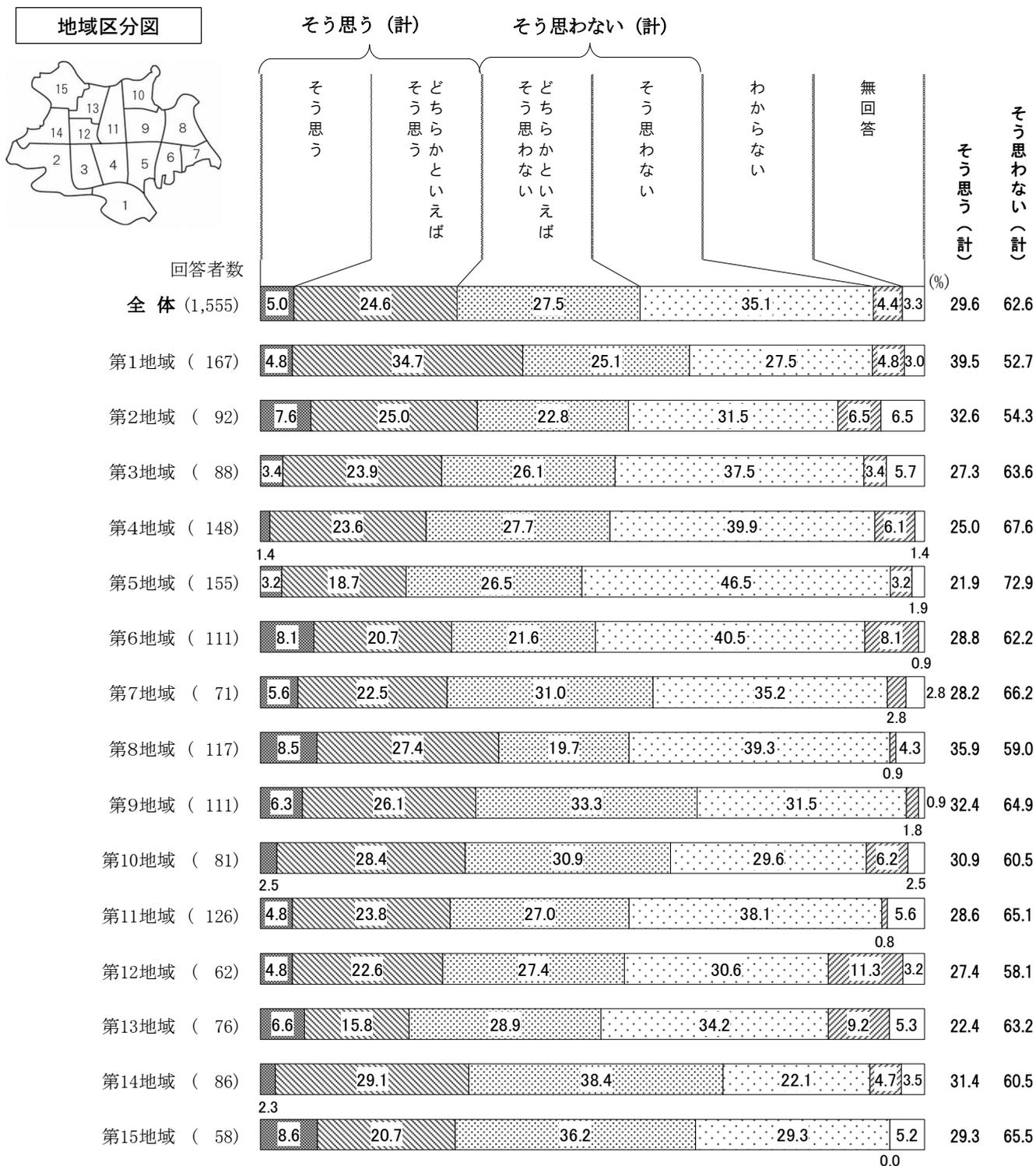
自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる

次に、各項目について、地域別でみた。

〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【そう思う】は第1地域で39.5%と最も高く、次いで第8地域が35.9%となっている。一方、【そう思わない】は第5地域で72.9%と最も高く、次いで第4地域が67.6%となっている。

図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価

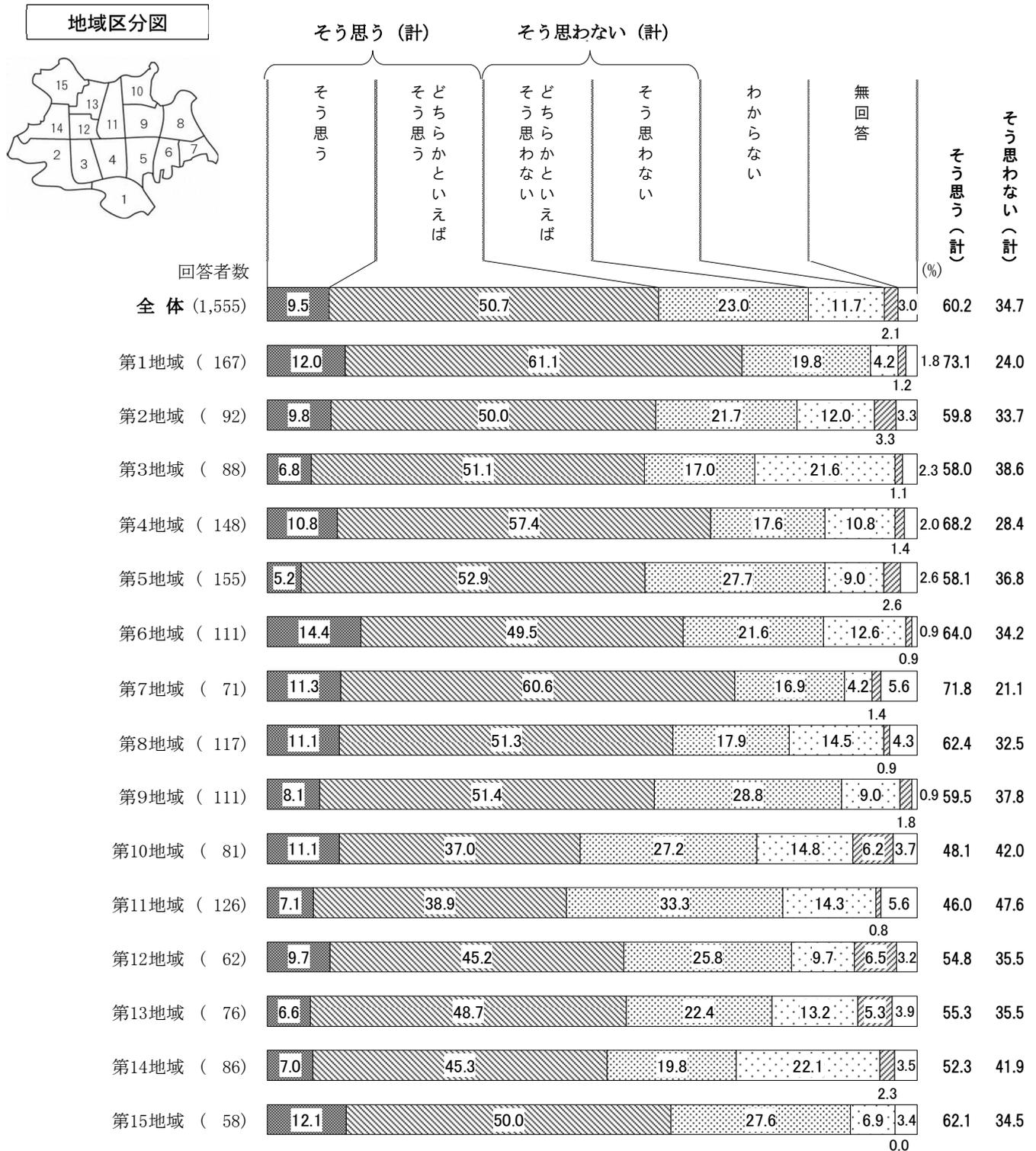
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる



ウ クロス集計・地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである

〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第1地域で73.1%と最も高く、次いで第7地域が71.8%となっている。一方、【そう思わない】は第11地域で47.6%と最も高く、次いで第10地域が42.0%となっている。

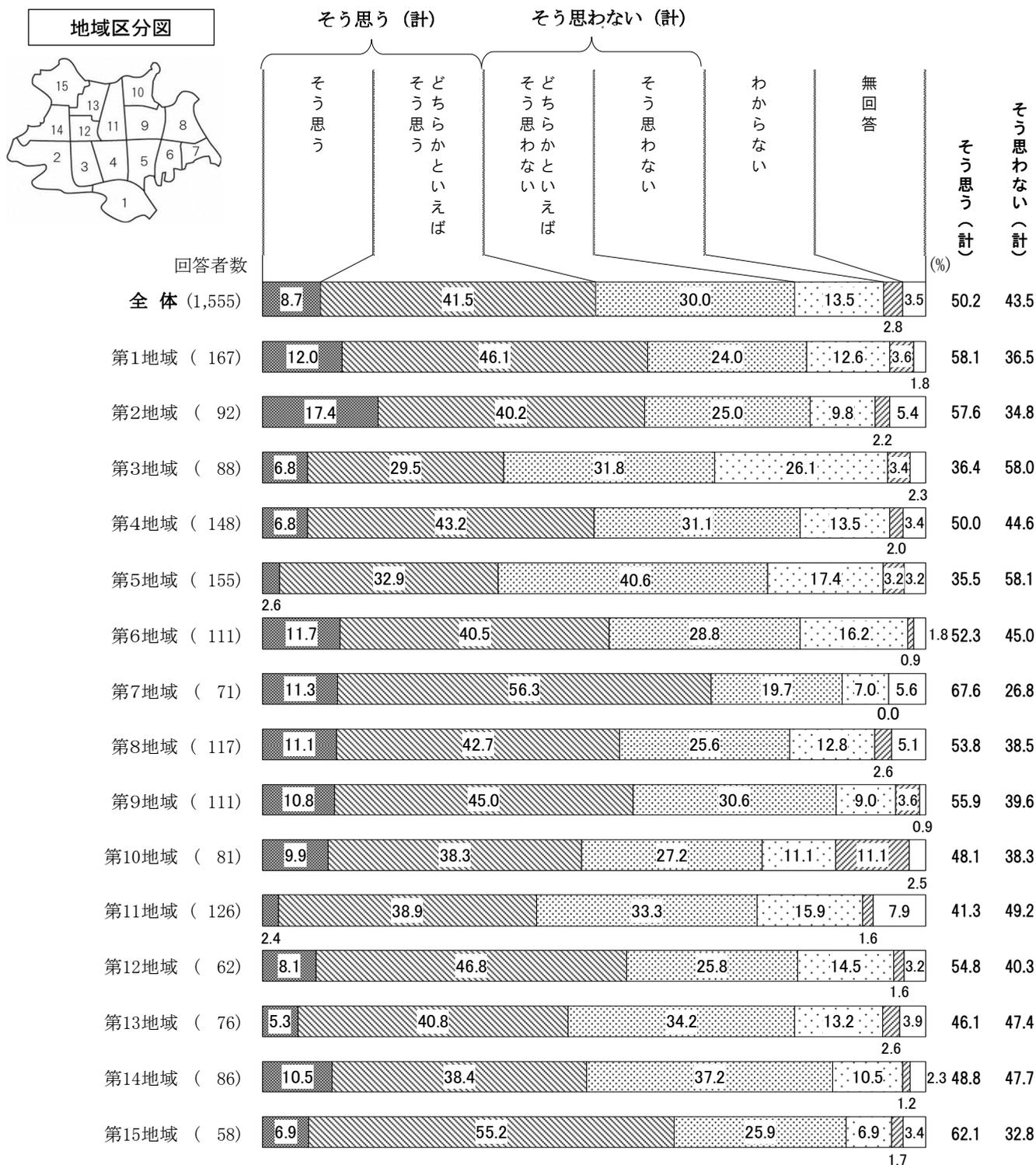
図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



エ クロス集計・地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第7地域で67.6%と最も高く、次いで第15地域が62.1%となっている。一方、【そう思わない】は第5地域で58.1%と最も高く、僅差で第3地域が58.0%と続いている。

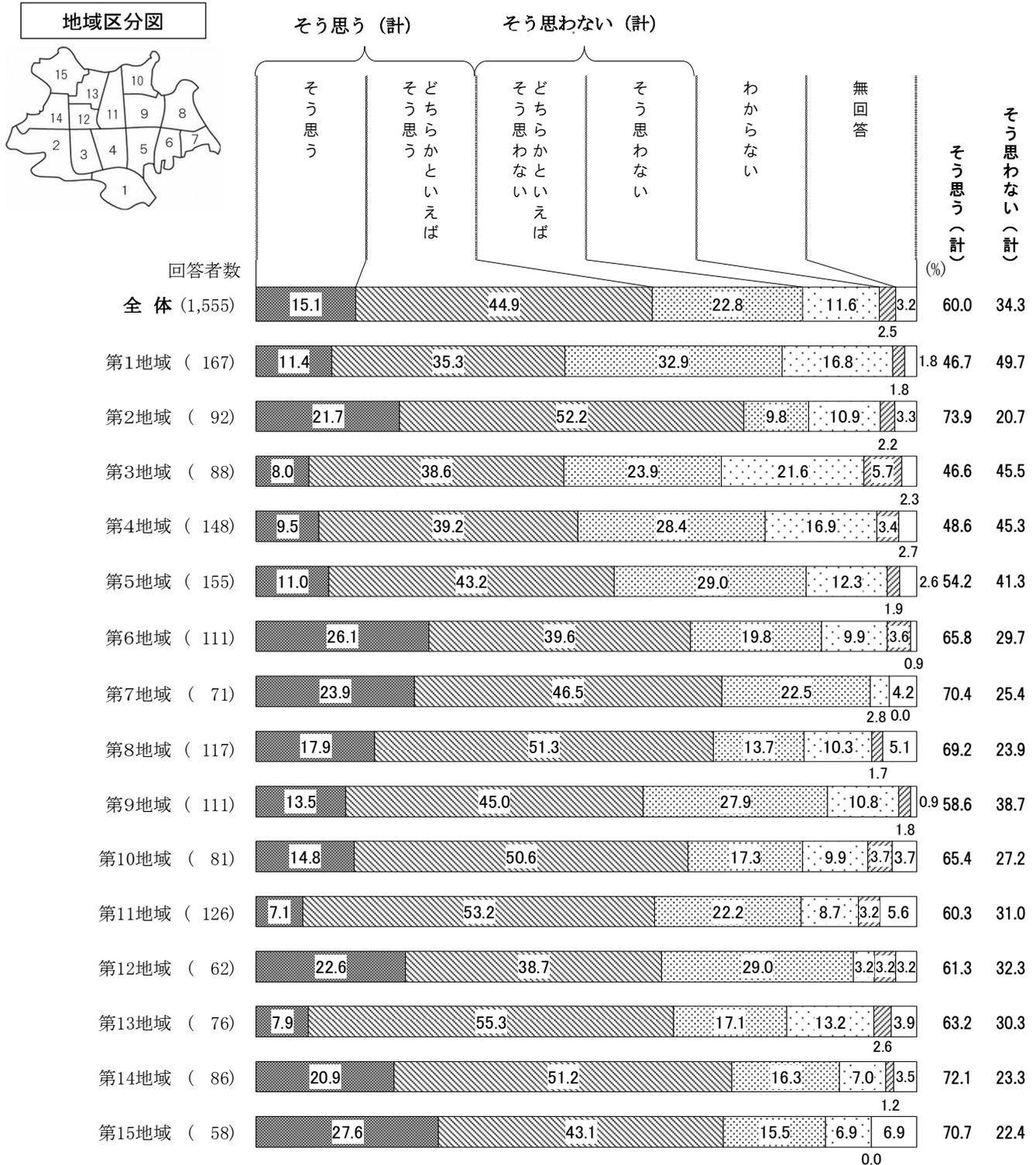
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



オ クロス集計・地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い

〈まちなかの花や緑が多い〉について、【そう思う】は第2地域が73.9%で最も高く、次いで第14地域が72.1%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域で49.7%と最も高く、次いで第3地域が45.5%となっている。

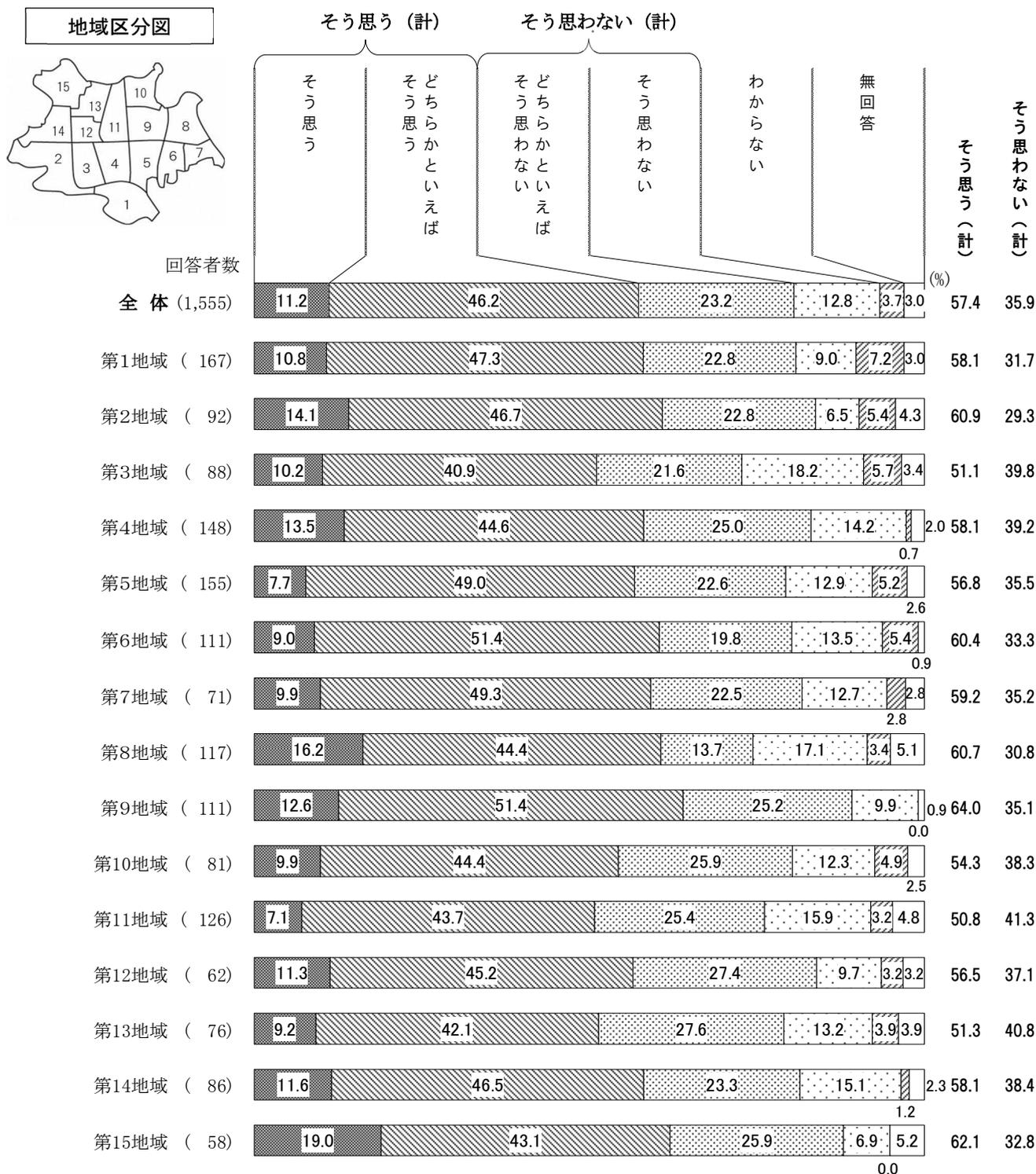
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い



カ クロス集計・地域別／居住地の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる

〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉について、【そう思う】は第9地域が64.0%と最も高く、次いで第15地域が62.1%となっている。一方、【そう思わない】は第11地域で41.3%と最も高く、次いで第13地域が40.8%となっている。

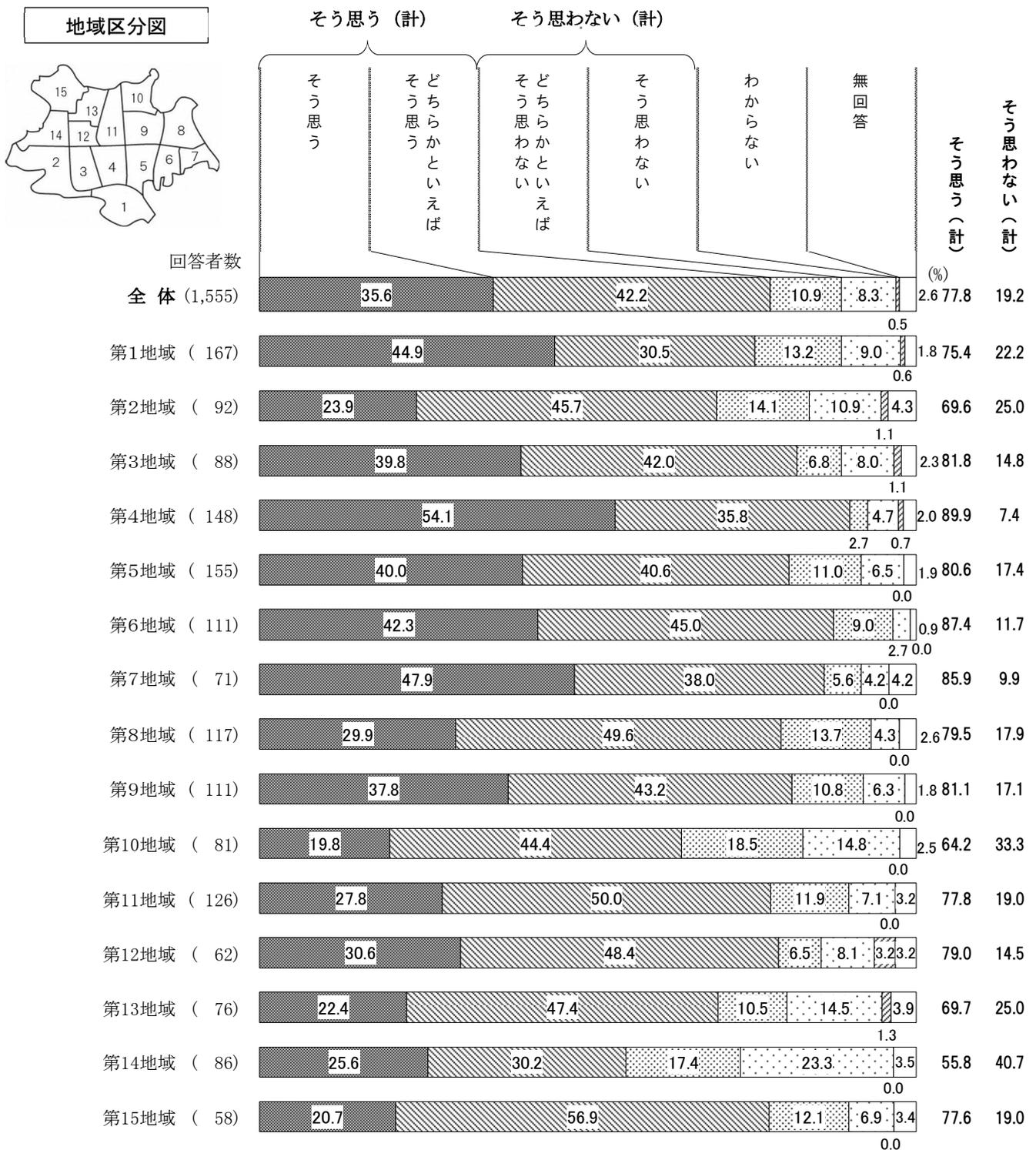
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる



キ クロス集計・地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第4地域で89.9%と最も高く、次いで第6地域が87.4%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で40.7%と最も高く、次いで第10地域が33.3%となっており、この2地区が他の地区に比べて特に高くなっている。

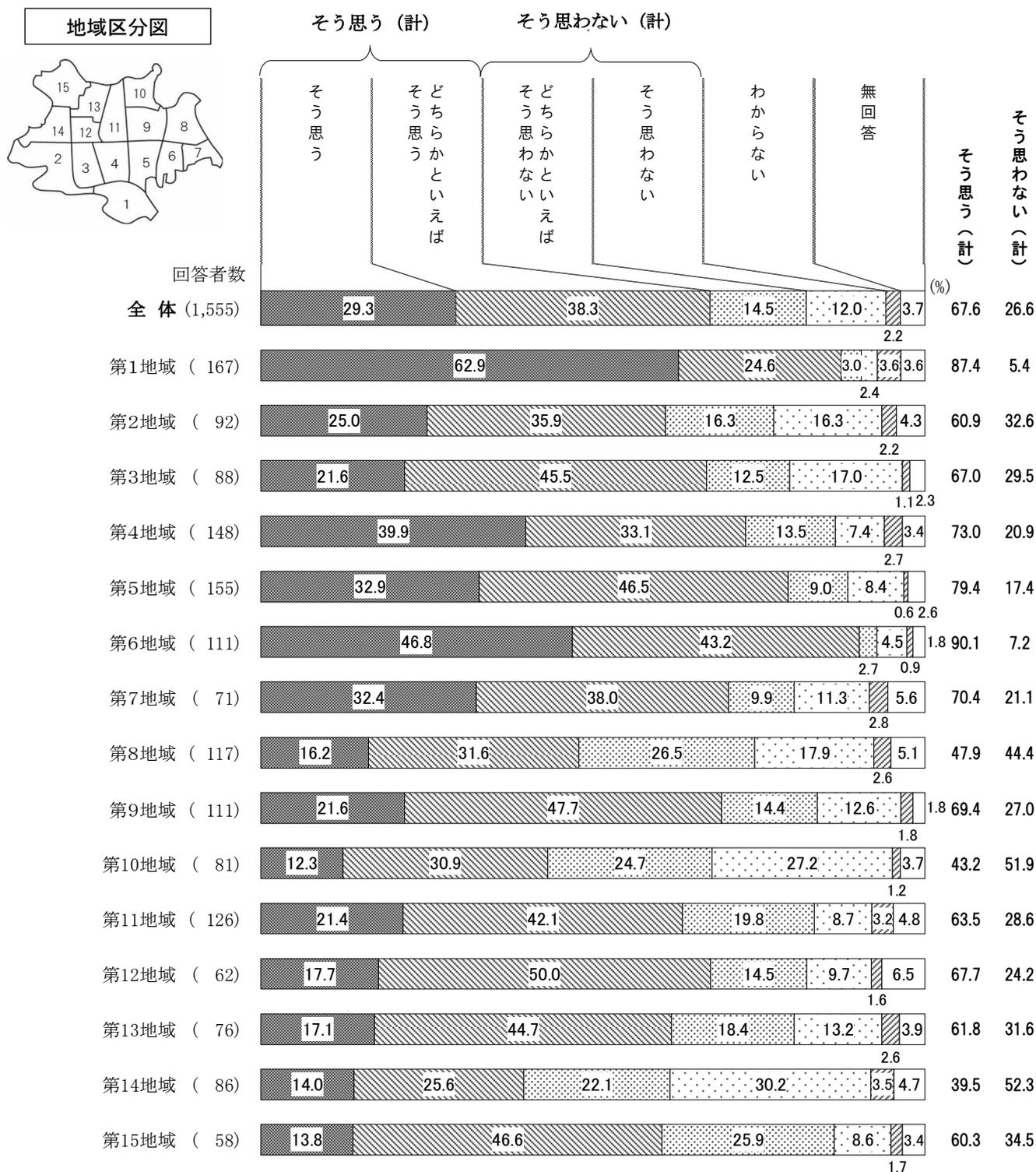
図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



ク クロス集計・地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い

〈通勤や通学などの交通の便が良い〉について、【**そう思う**】は第6地域で90.1%と最も高く、次いで第1地域が87.4%となっている。一方、【**そう思わない**】は第14地域で52.3%と最も高く、次いで第10地域が51.9%となっている。

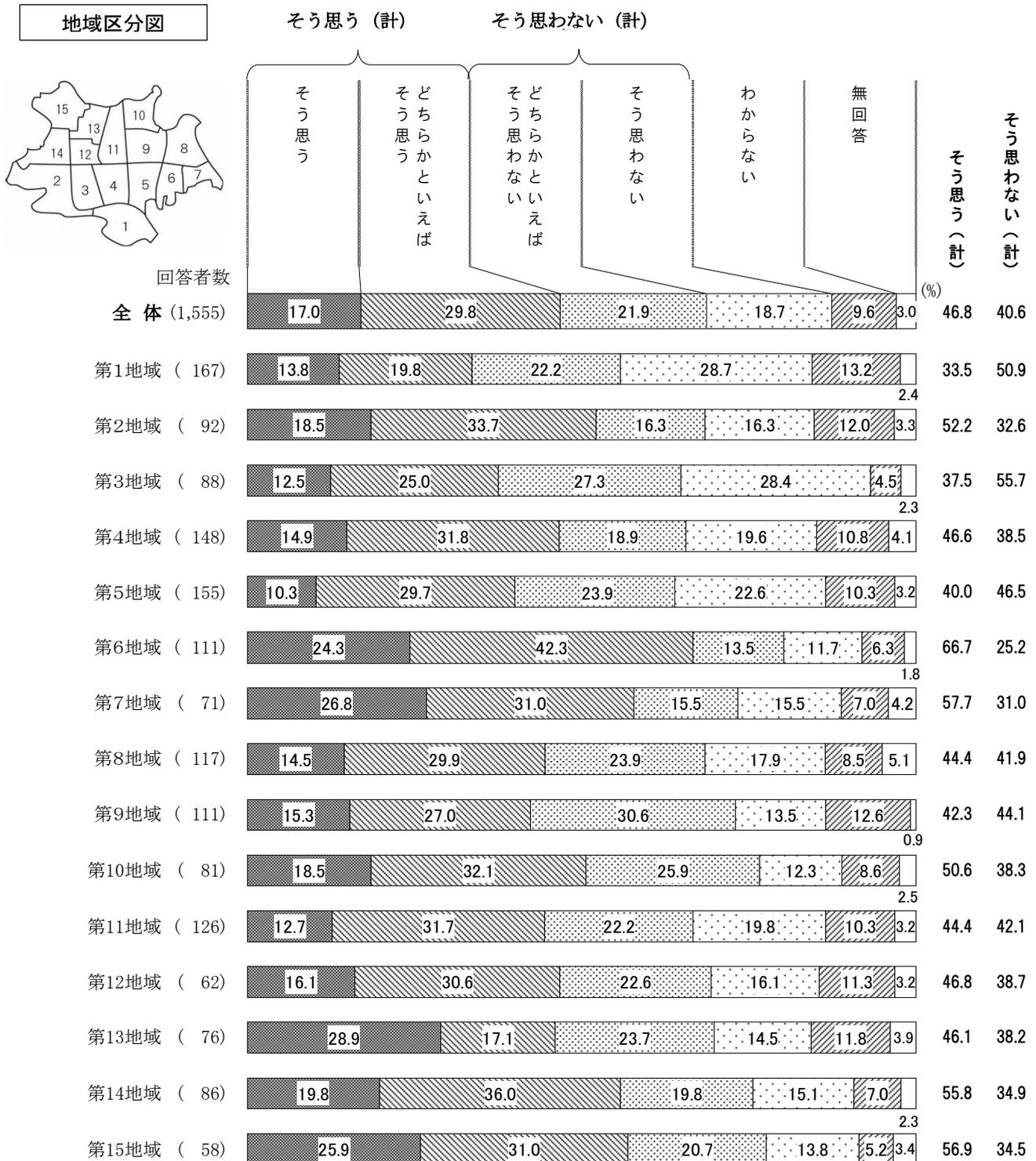
図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い



ケ クロス集計・地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある

〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第6地域が66.7%で最も高く、次いで第7地域で57.7%となっている。一方、【そう思わない】は第3地域が55.7%で最も高く、次いで第1地域で50.9%となっている。

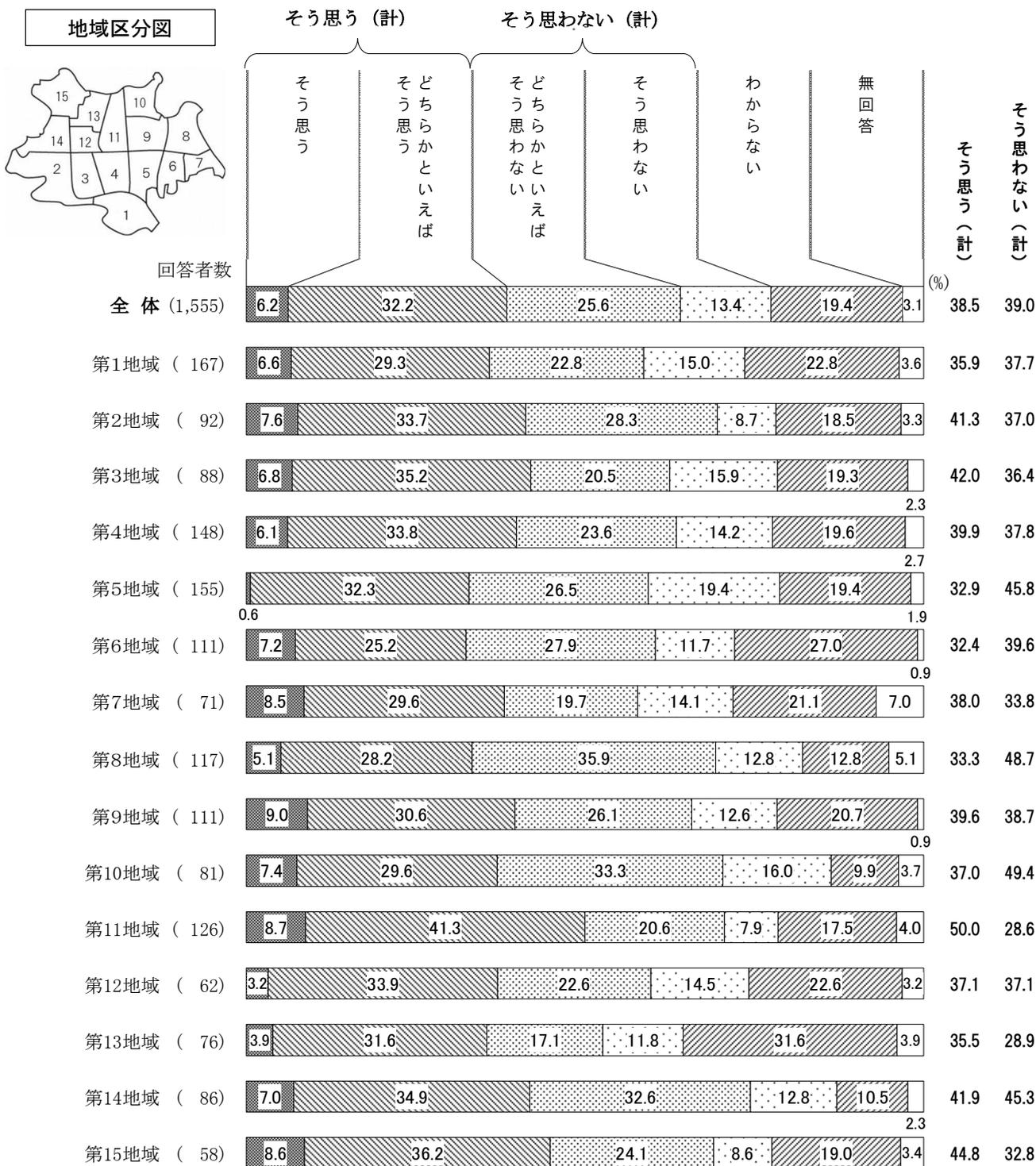
図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



コ クロス集計・地域別／居住地の評価／地域の施設（建物や道路など）は、
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている

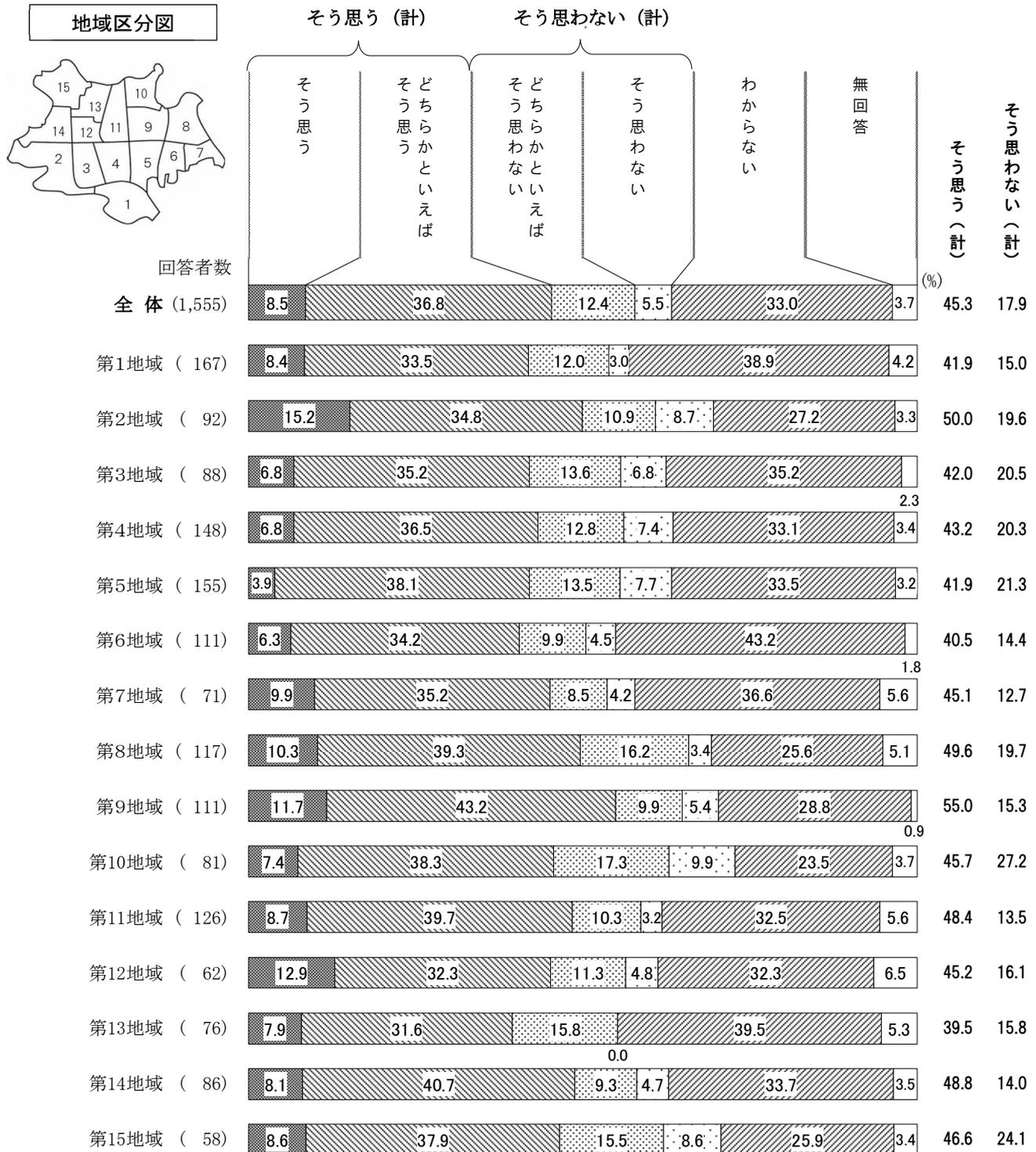
〈地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【**そう思う**】は第11地域が50.0%と最も高く、次いで第15地域が44.8%となっている。一方、【**そう思わない**】は第10地域で49.4%と最も高く、次いで第8地域が48.7%となっている。

図1-1-2-⑨ 地域別／居住地の評価／地域の施設（建物や道路など）は、
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



サ クロス集計・地域別／居住地の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている
 〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第9地域
 で55.0%と最も高く、次いで第2地域で50.0%となっている。一方、【そう思わない】は第10
 地域で27.2%と最も高く、次いで第15地域で24.1%となっている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地の評価／子育て環境
 （保育所、学童クラブなど）が整っている



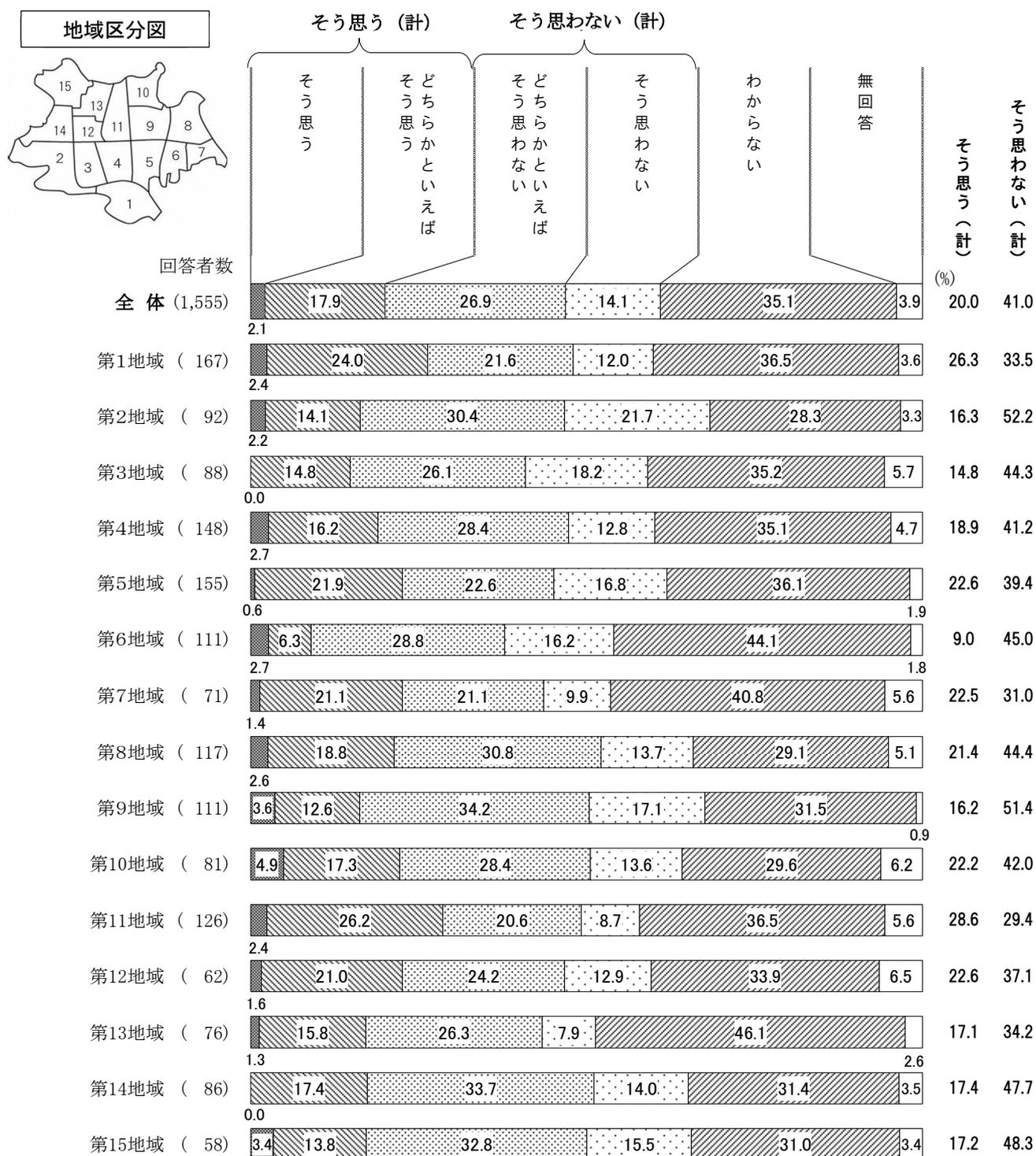
シ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである

〈子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである〉について、【そう思う】は第11地域で28.6%と最も高く、次いで第1地域が26.3%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域で52.2%と最も高く、次いで第9地域で51.4%となっている。

図1-1-2-⑪ 地域別／居住地域の評価

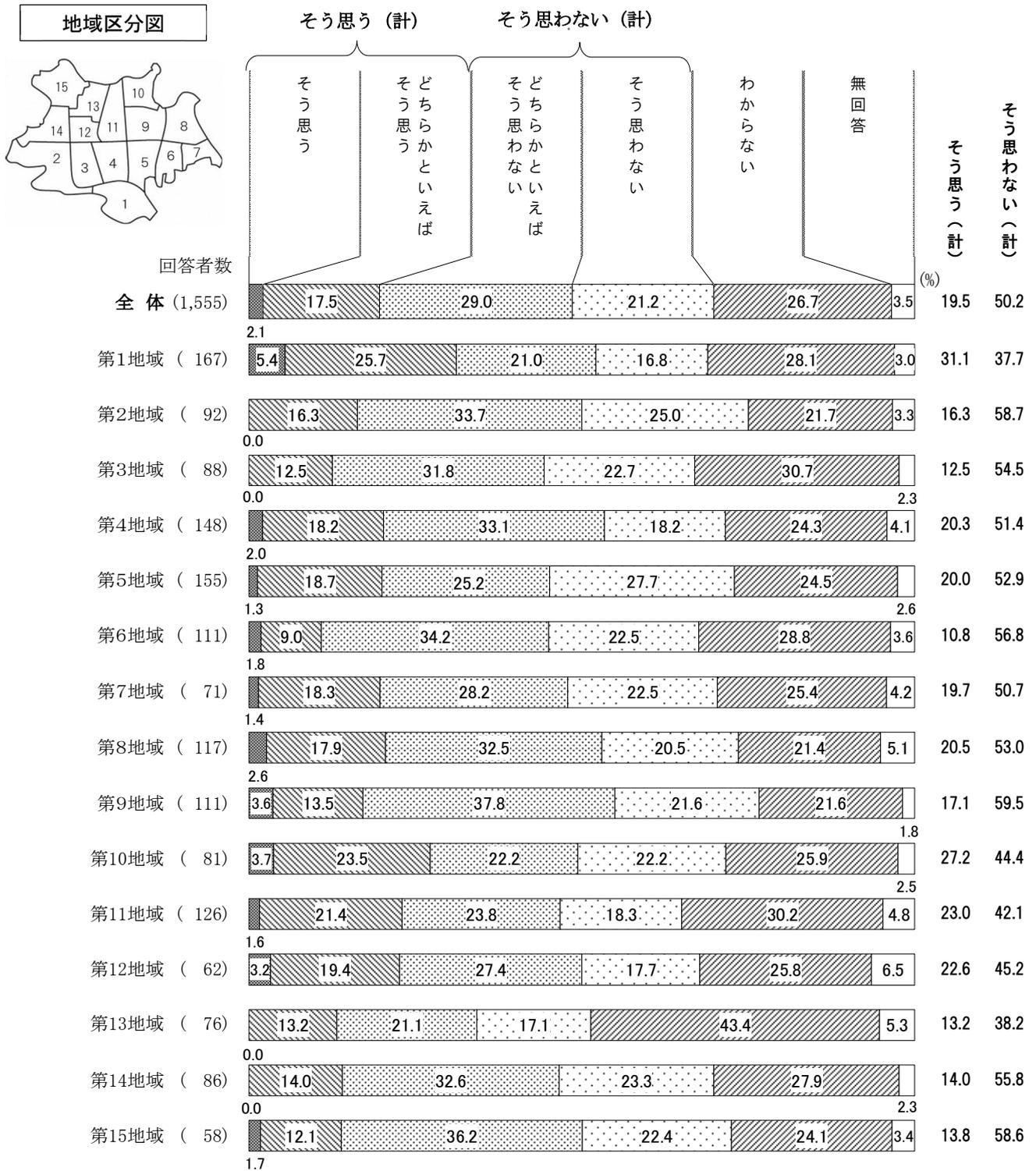
／子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである



ス クロス集計・地域別／居住地の評価／文化芸術に親しめるまちである

〈文化芸術に親しめるまちである〉について、【**そう思う**】は第1地域で31.1%と最も高く、次いで第10地域で27.2%となっている。一方、【**そう思わない**】は第9地域で59.5%と最も高く、次いで第2地域が58.7%、僅差で第15地域が58.6%と続いている。

図1-1-2-⑫ 地域別／居住地の評価／文化芸術に親しめるまちである



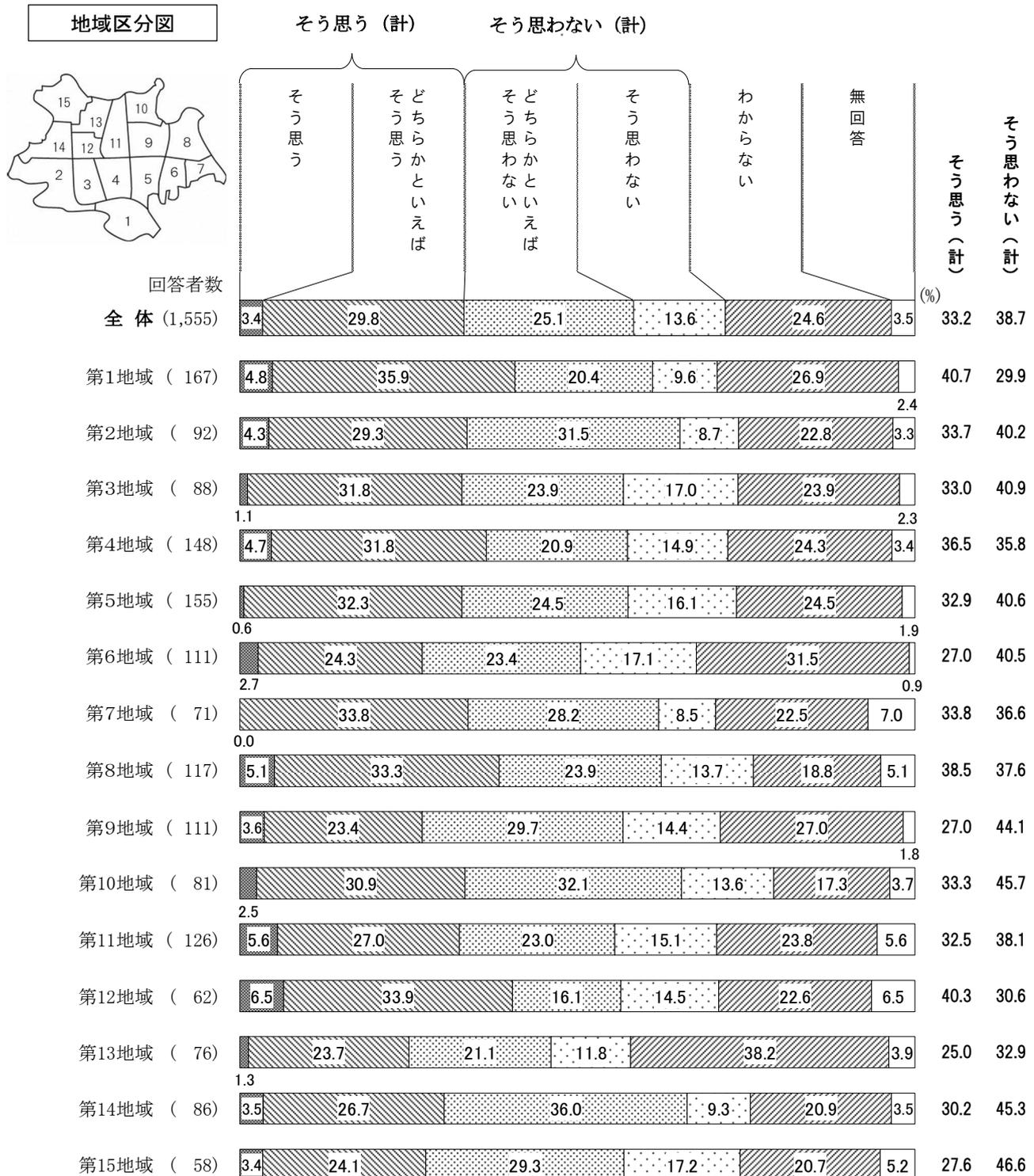
セ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第1地域で40.7%と最も高く、次いで第12地域で40.3%となっている。一方、【そう思わない】は第15地域で46.6%と最も高く、次いで第10地域で45.7%となっている。

図1-1-2-⑬ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している



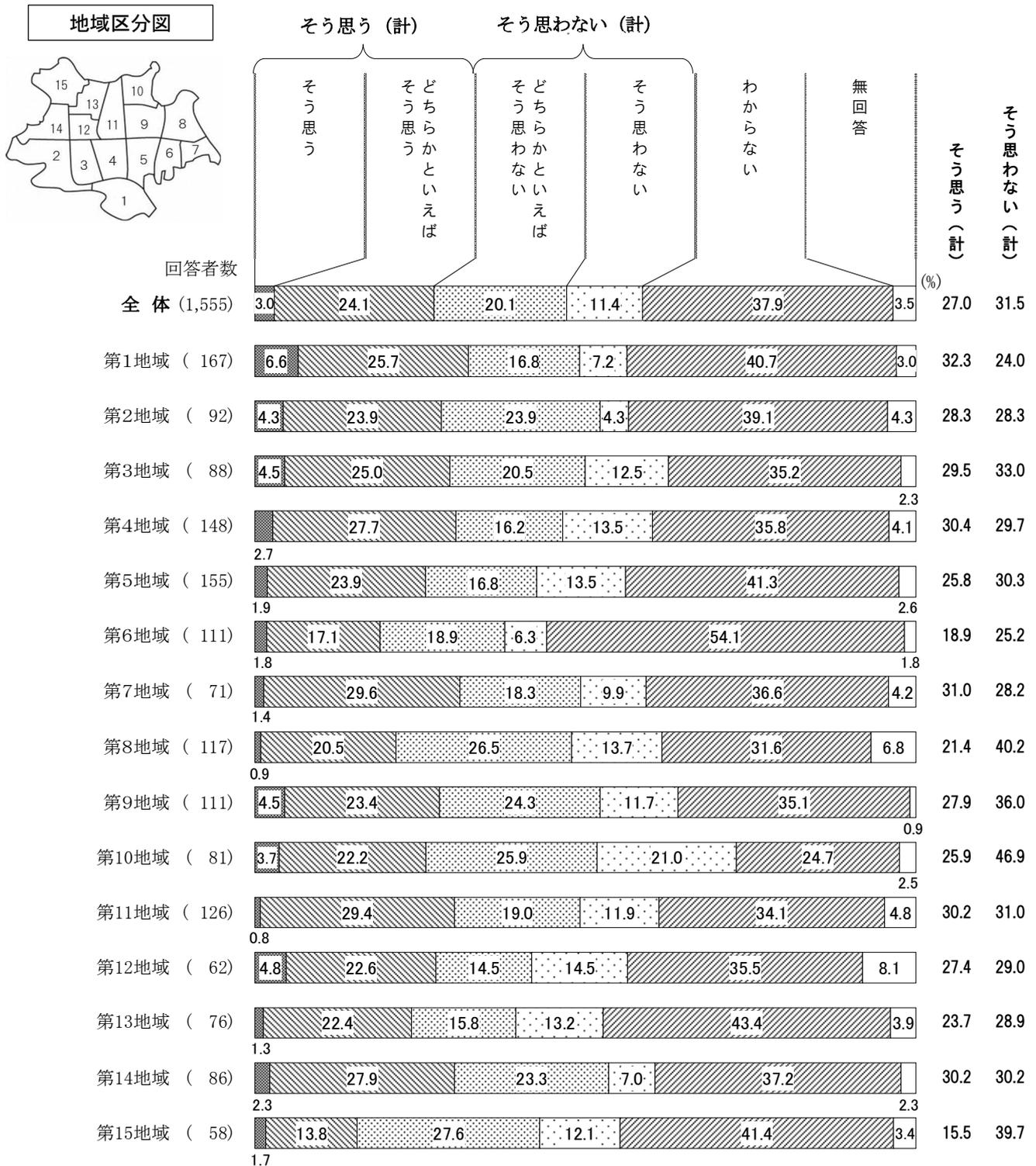
ソ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている

〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【**そう思う**】は第1地域で32.3%と最も高く、次いで第7地域が31.0%となっている。一方、【**そう思わない**】は第10地域で46.9%と最も高く、次いで第8地域で40.2%となっている。

図1-1-2-⑭ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている

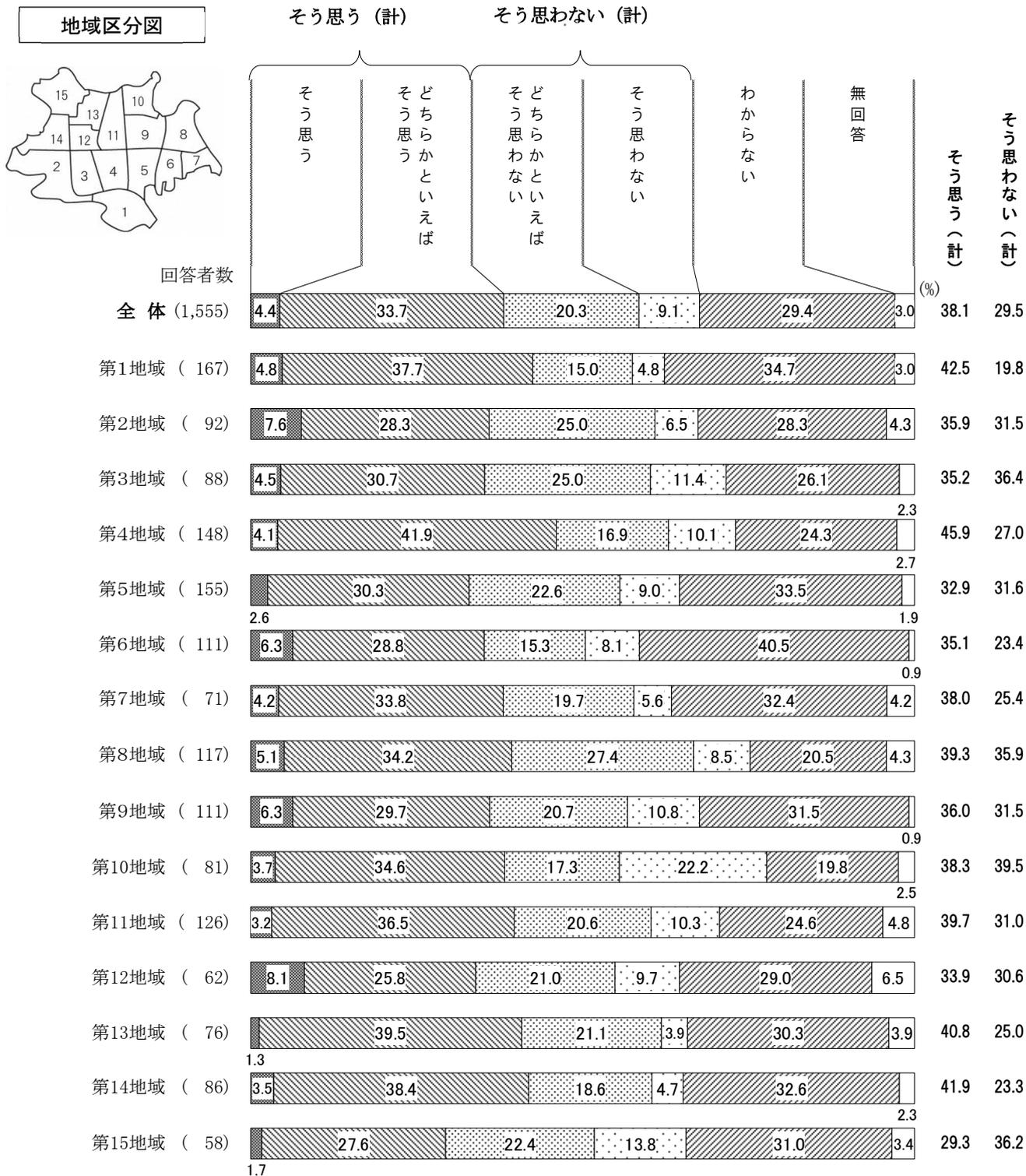


タ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである

〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉について、【そう思う】は第4地域で45.9%と最も高く、次いで第1地域が42.5%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で39.5%と最も高く、次いで第3地域で36.4%となっている。

図1-1-2-⑮ 地域別／居住地域の評価
／国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである

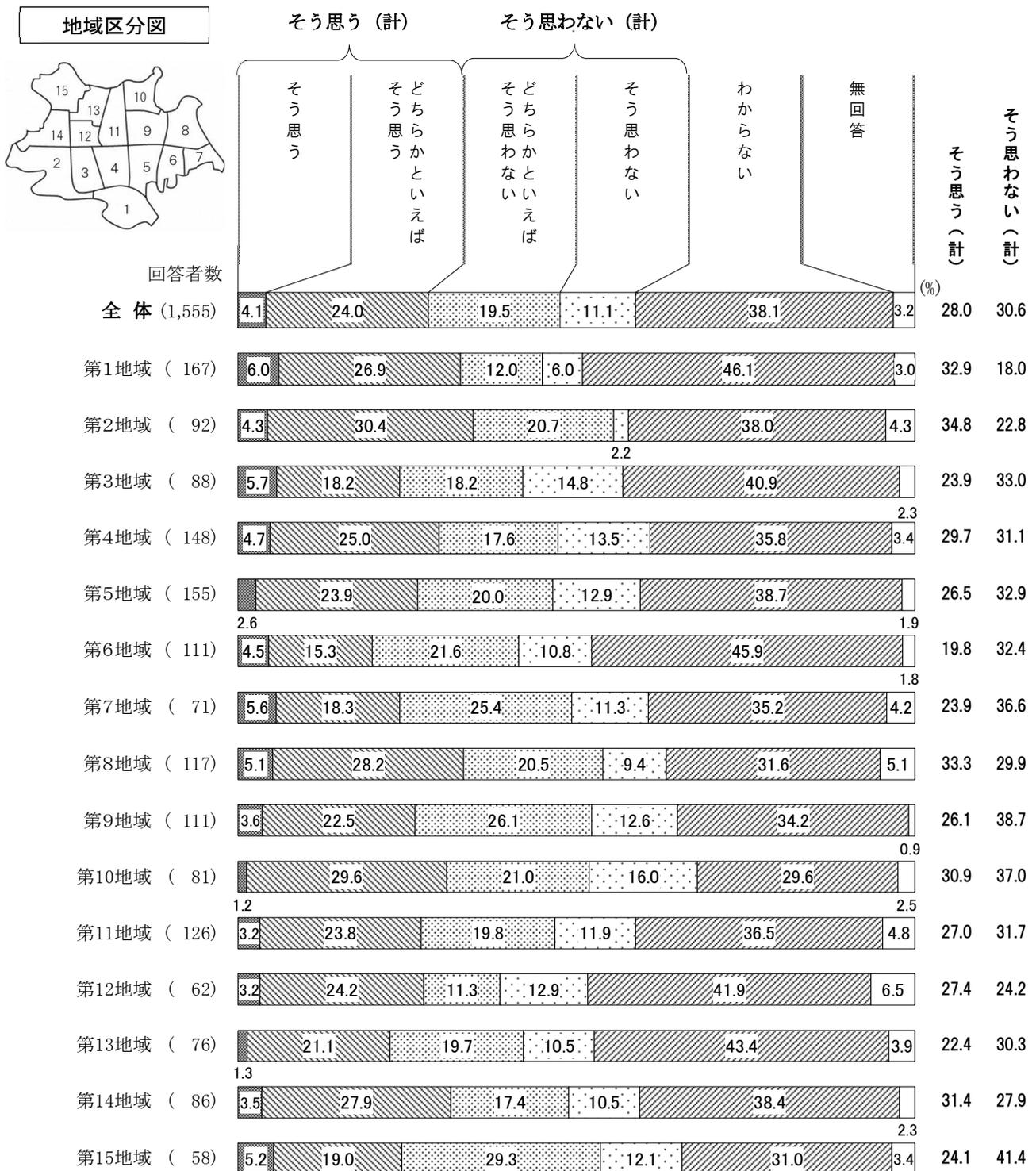


チ クロス集計・地域別／居住地の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」

「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない

〈人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉について、【そう思う】は第2地域で34.8%と最も高く、次いで第8地域が33.3%となっている。一方、【そう思わない】は第15地域で41.4%と最も高く、次いで第9地域が38.7%となっている。

図1-1-2-⑯ 地域別／居住地の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない



（2）地域の暮らしやすさ

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は1つだけ）。

■【暮らしやすい】は2年連続で微減し、【暮らしにくい】は2.3ポイント増加

ア 単純集計・経年比較／地域の暮らしやすさ

- （ア）地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は26.2%で、「どちらかといえば暮らしやすい」（57.3%）を合わせた【暮らしやすい】は8割台半ば近くを占めている。
- （イ）「暮らしにくい」は2.0%で、「どちらかといえば暮らしにくい」（12.5%）を合わせた【暮らしにくい】は1割台半ばとなっている。
- （ウ）【暮らしやすい】を経年で見ると、平成30年度調査以降前々回の令和3年度調査（85.2%）まで増加傾向を続けたが、前回の令和4年度調査（84.3%）で0.9ポイント減少し、今回の調査で、さらに0.8ポイントの減少となった。
- （エ）【暮らしにくい】を経年で見ると、平成25年度調査（19.6%）以降前回調査（12.2%）までおおむね減少傾向を続けたが、今回調査では2.3ポイントの上昇となった。

図1-2-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

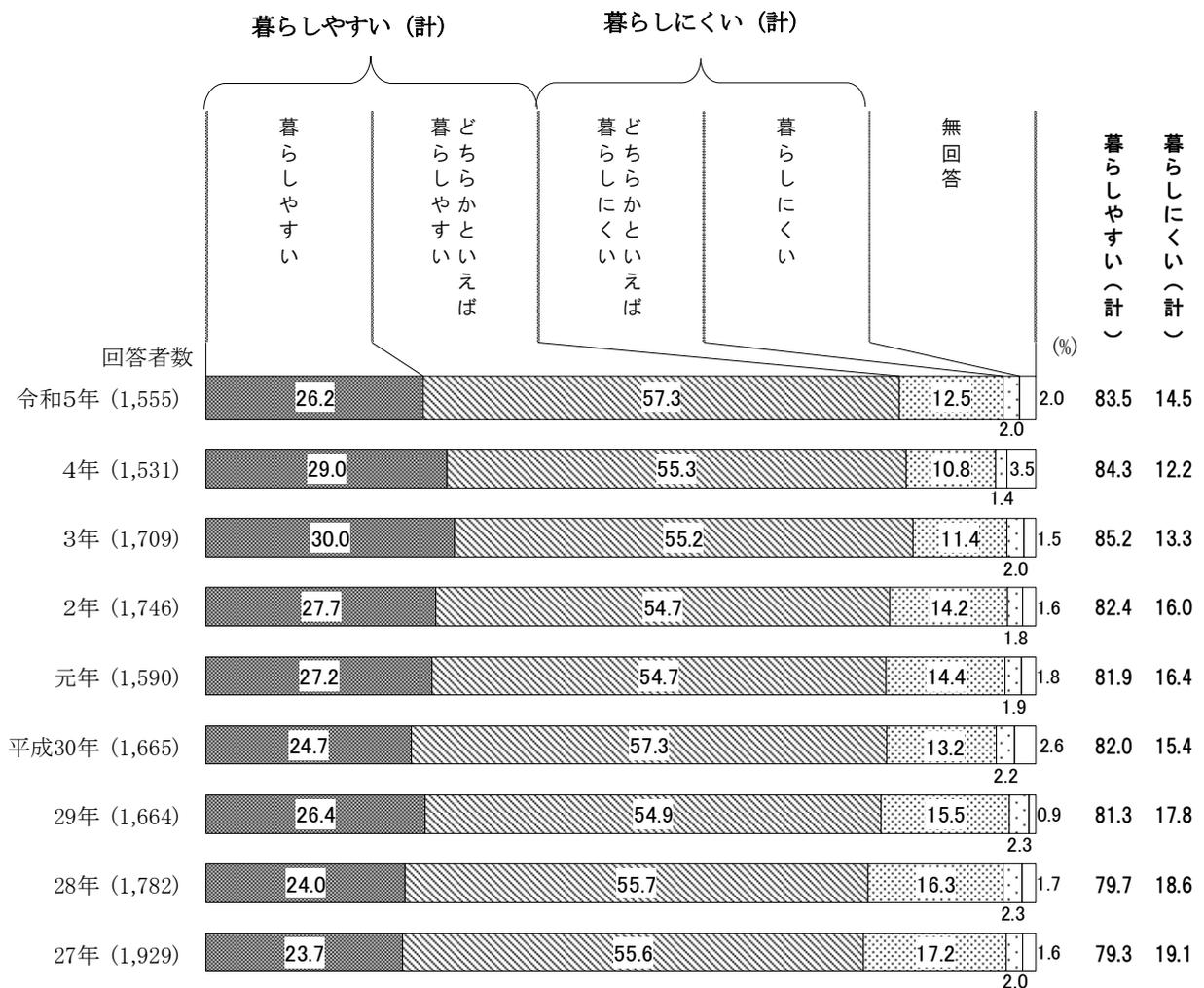
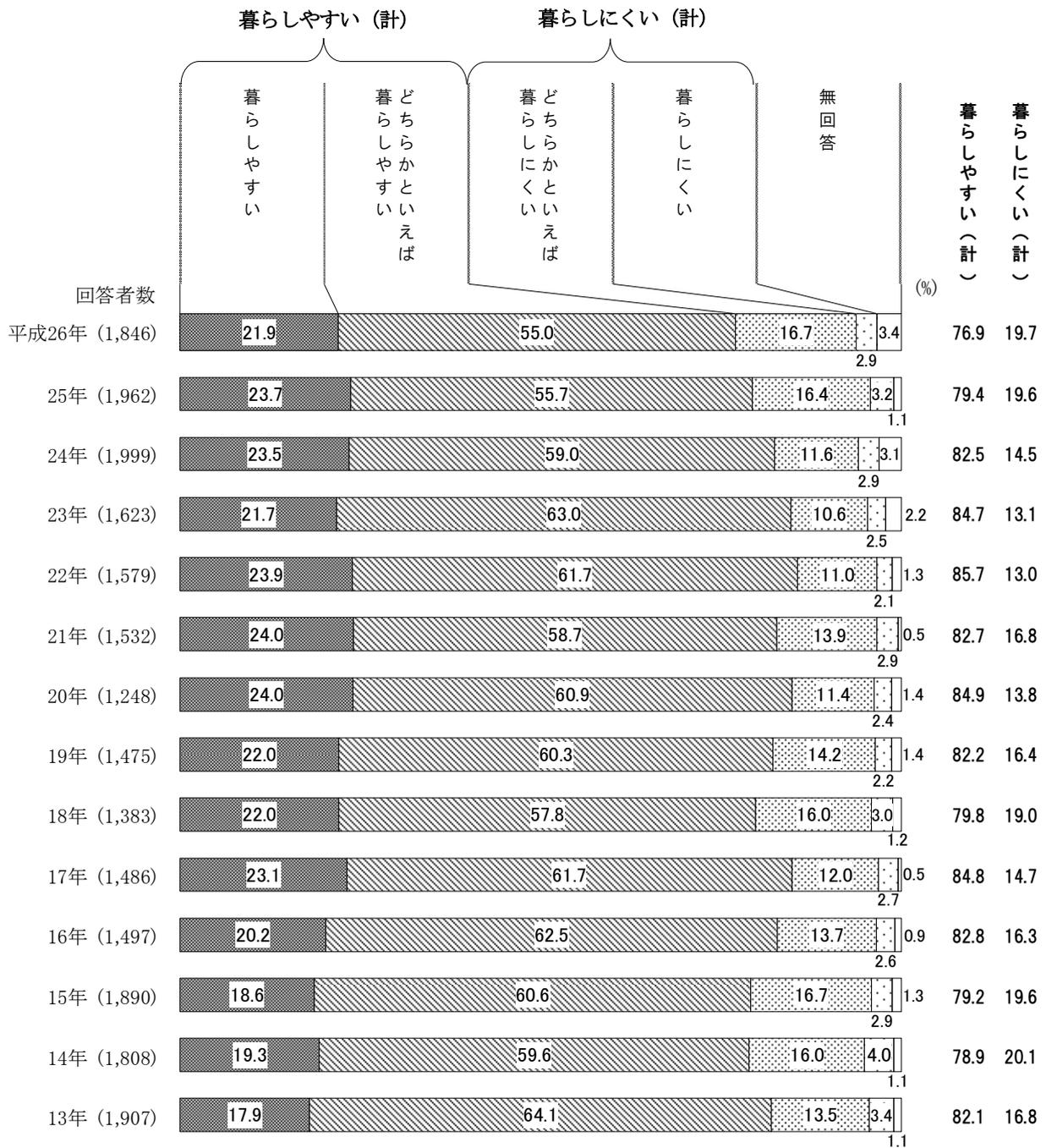


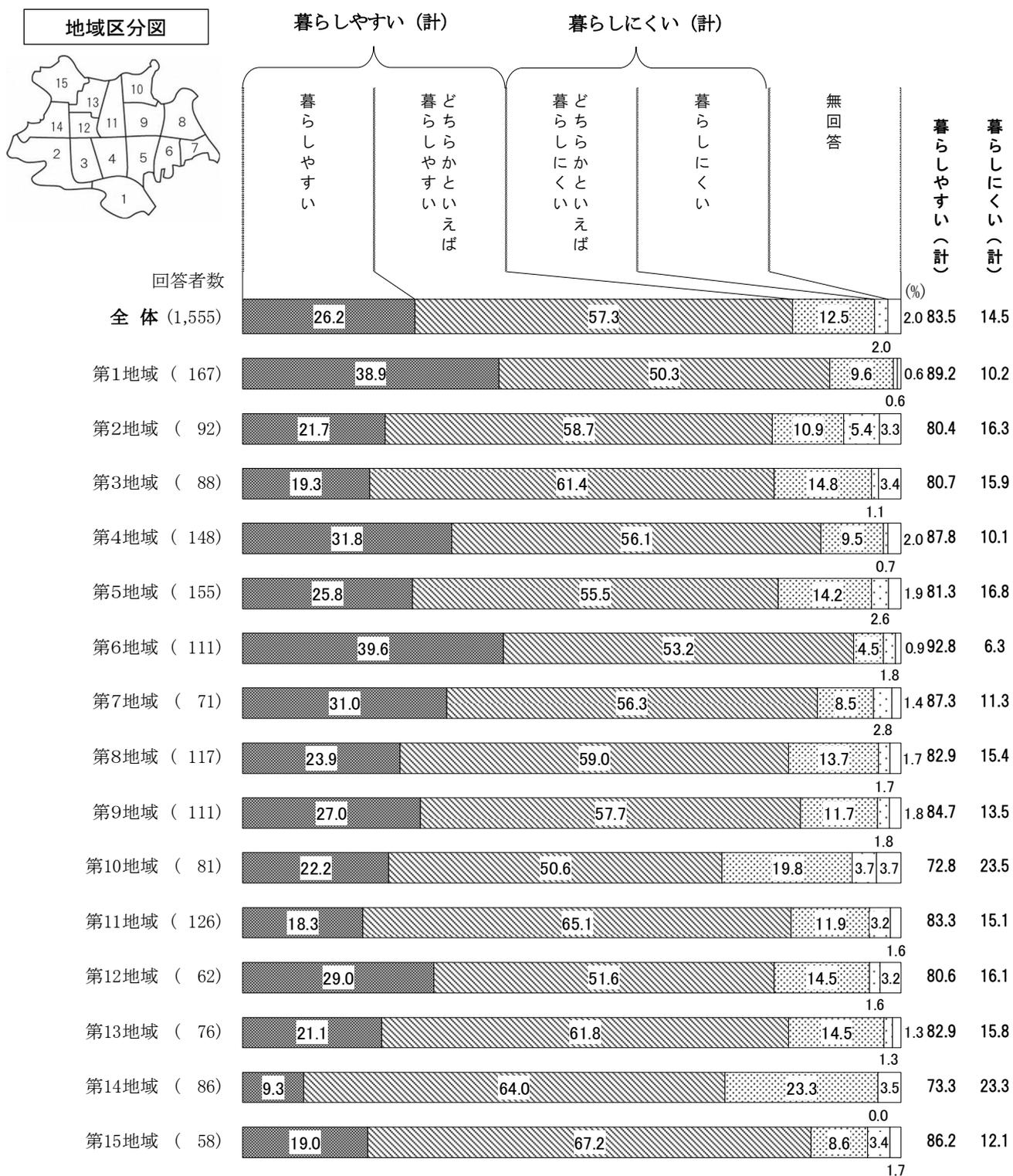
図1-2-1-② 経年比較/地域の暮らしやすさ



イ クロス集計・地域別／地域の暮らしやすさ

地域別でみると、【暮らしやすい】は第6地域で92.8%と最も高く、次いで第1地域が89.2%で続いている。一方、【暮らしにくい】は第10地域が23.5%で最も高く、次いで第14地域が23.3%で続いている。

図1-2-2 地域別／地域の暮らしやすさ

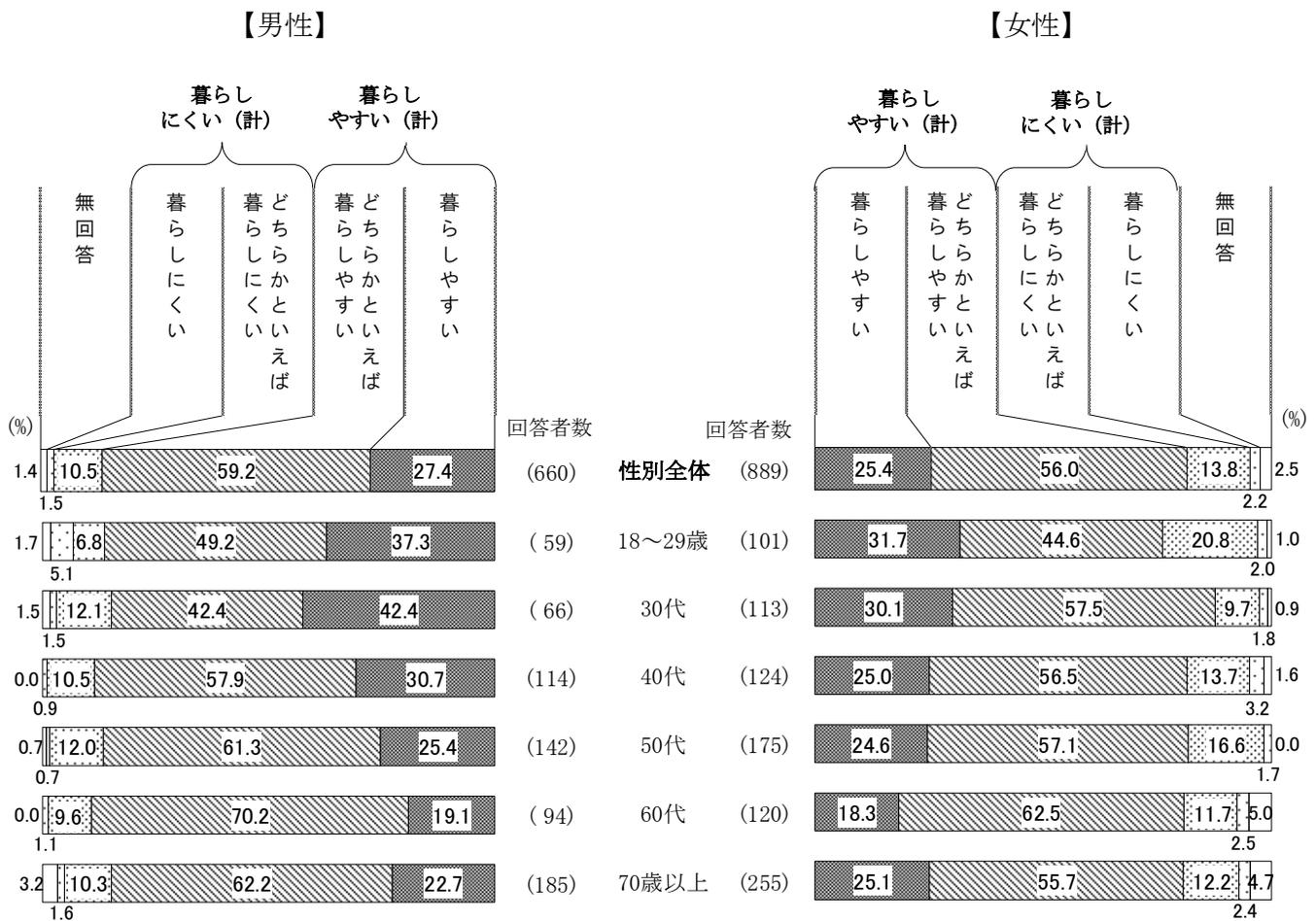


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ

(ア) 性別でみると【暮らしやすい】は、男性（86.7%）の方が女性（81.4%）より5.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、男性では、【暮らしやすい】は30代と70歳以上を除いた年齢層で8割台後半と高く、60代で89.4%と最も高くなっている。女性では、【暮らしやすい】は30代で87.6%と最も高くなっている。一方、【暮らしにくい】は女性の18～29歳が22.8%で最も高く、男性の60代で10.6%と最も低くなっている。

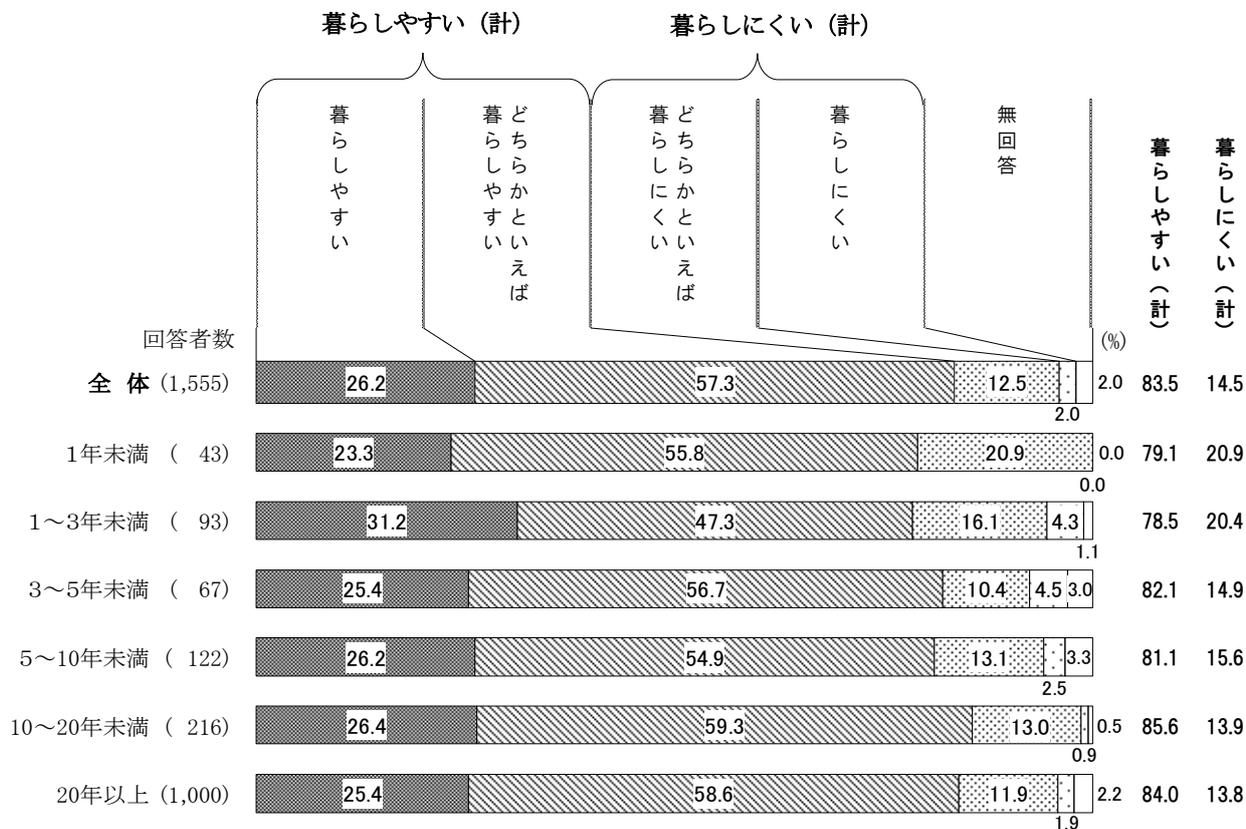
図1-2-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



エ クロス集計・居住年数別／地域の暮らしやすさ

居住年数別でみると、【暮らしやすい】は「10～20年未満」で85.6%と最も高く、【暮らしにくい】は「1年未満」で20.9%と最も高くなっている。

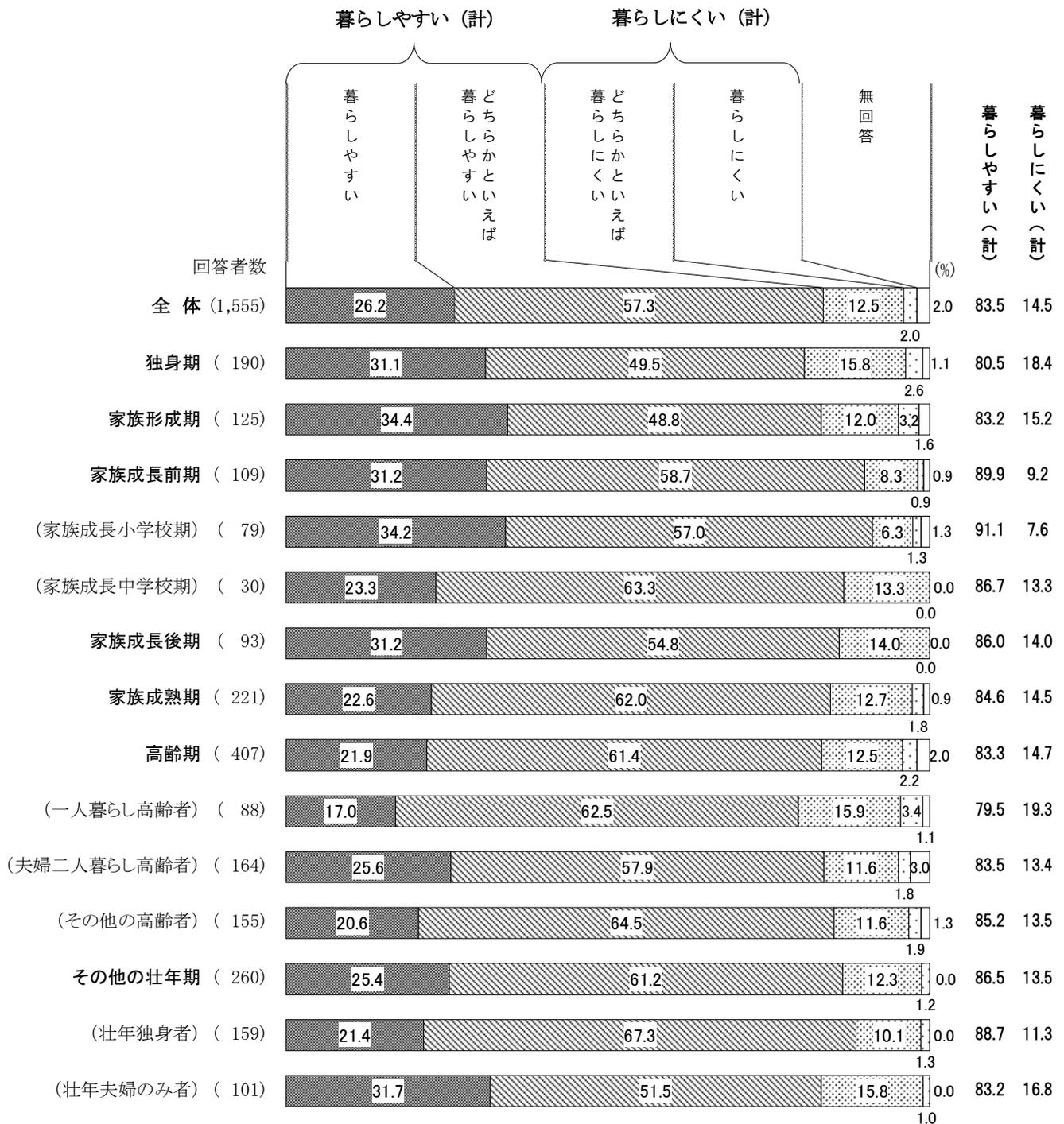
図1-2-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



オ クロス集計・ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

ライフステージ別でみると、【暮らしやすい】は〈家族成長前期〉で89.9%と最も高く、次いで〈その他の壮年期〉(86.5%)となっており、【暮らしにくい】は〈独身期〉で18.4%と最も高くなっている。詳細区分でみると【暮らしやすい】は〈(家族成長小学校期)〉で91.1%と最も高く、【暮らしにくい】は〈(一人暮らし高齢者)〉で19.3%と最も高くなっている。

図1-2-5 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



（3）特に暮らしにくいと感じること

問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

■ “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台半ばと4年連続で最も高い

ア 単純集計・経年比較／特に暮らしにくいと感じること

（ア）【暮らしにくい】という人に、その理由を聴いたところ、高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（44.9%）
- ② 「交通の便が悪いこと」（44.0%）
- ③ 「治安が良くないこと」（30.2%）
- ④ 「買い物がしにくいこと」（27.6%）

（イ）前回調査に比べて増加している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「家の広さなどの居住環境が悪いこと」（+6.7ポイント）
- ② 「治安が良くないこと」（+4.0ポイント）

（ウ）前回調査に比べて減少している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」（-8.2ポイント）
- ② 「買い物がしにくいこと」（-5.6ポイント）

図1-3-1-① 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

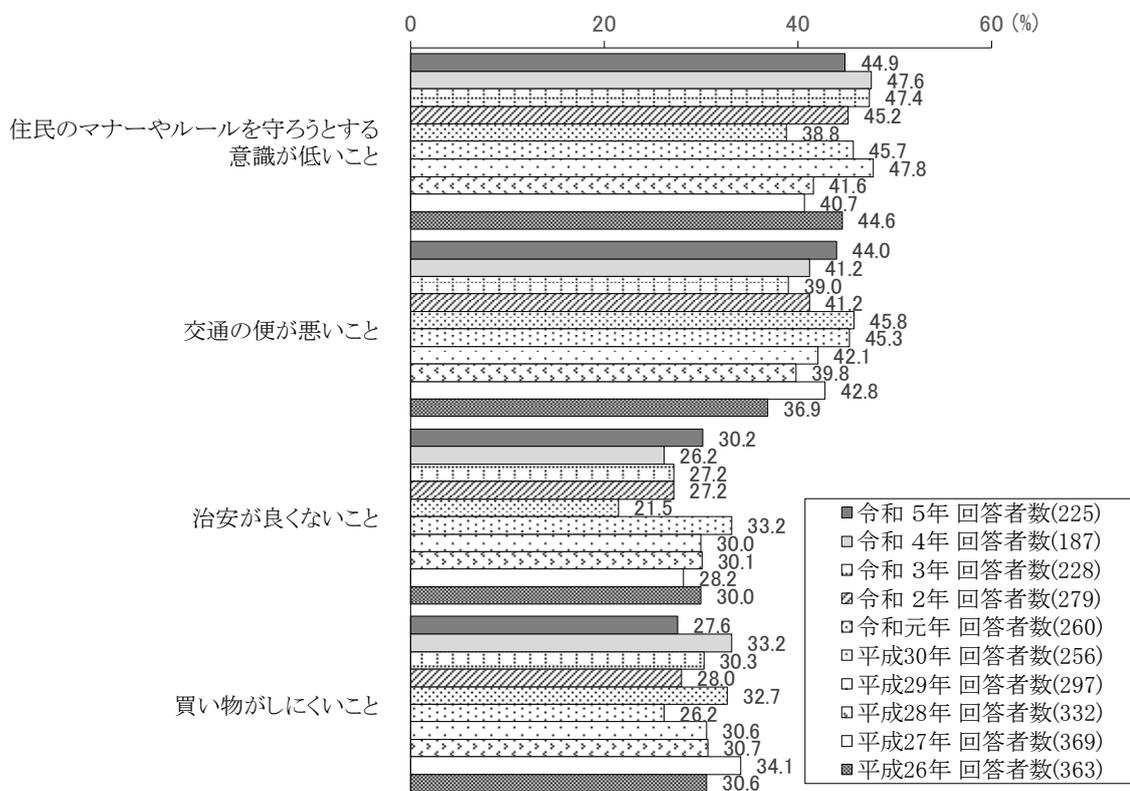


図1-3-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

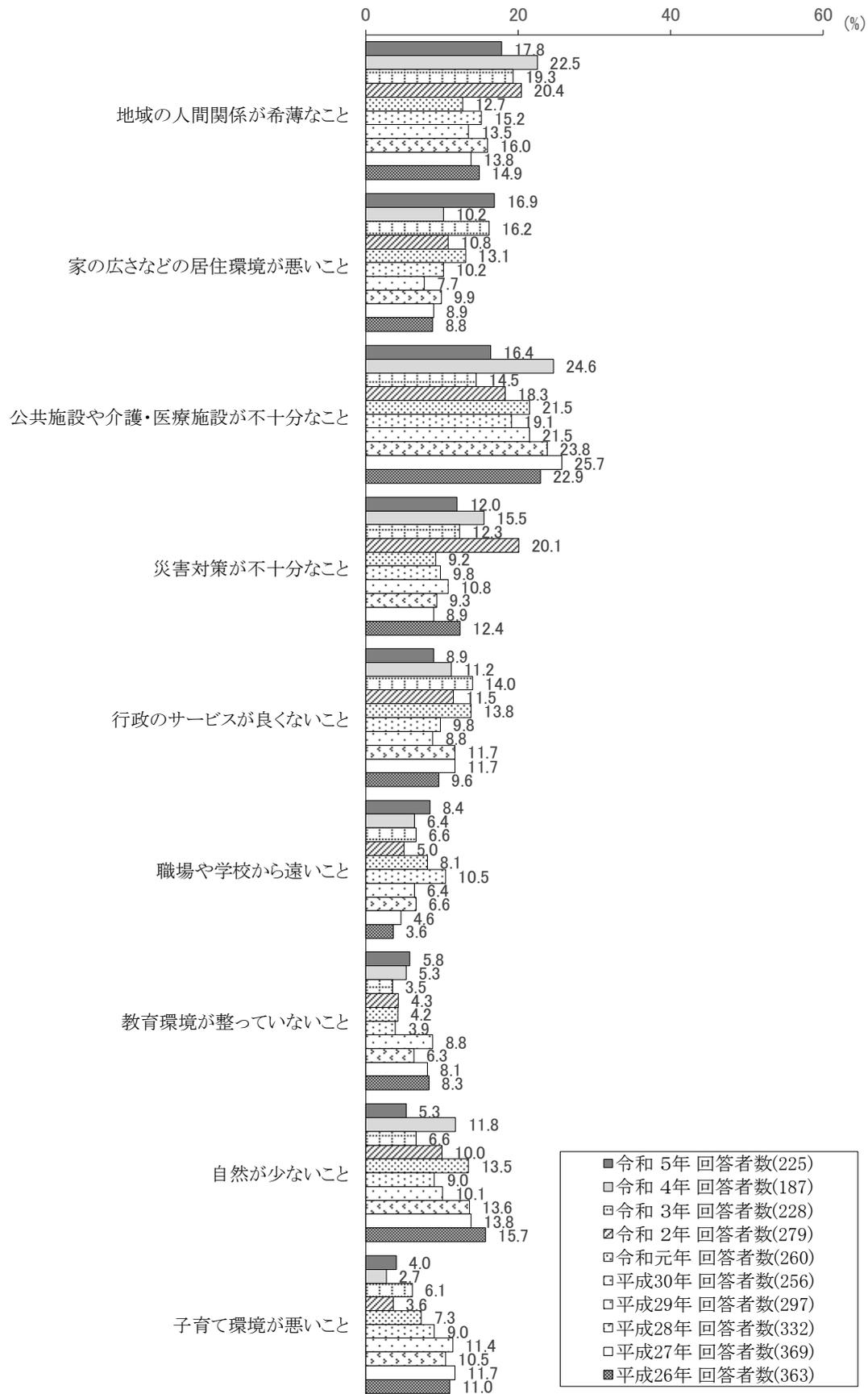
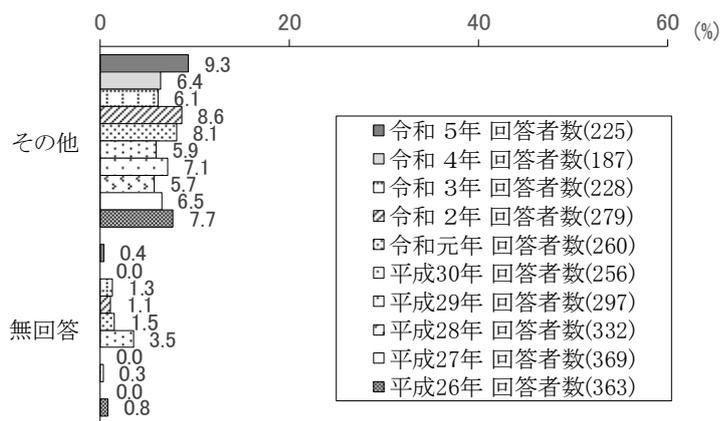


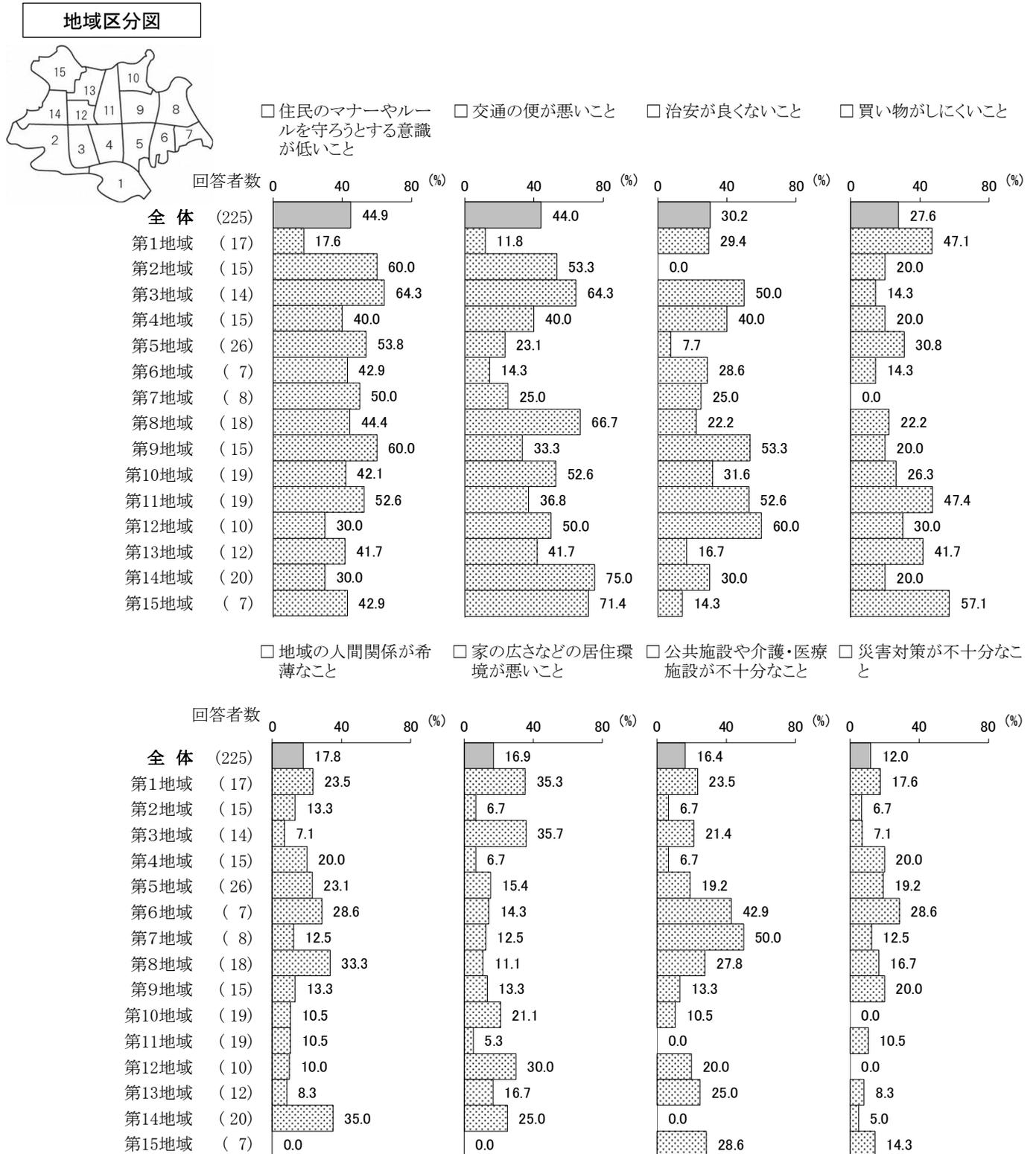
図1-3-1-③ 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



イ クロス集計・地域別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

地域別でみると、すべての地域の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の地域に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第3地域（64.3%）、「交通の便が悪いこと」は第14地域（75.0%）、「治安が良くないこと」は第12地域（60.0%）で他の地域に比べて高くなっている。

図1-3-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

（ア）性別でみると、8項目中6項目で男性の方が女性より高くなっている。

a 男性の方が女性より高くなっている項目

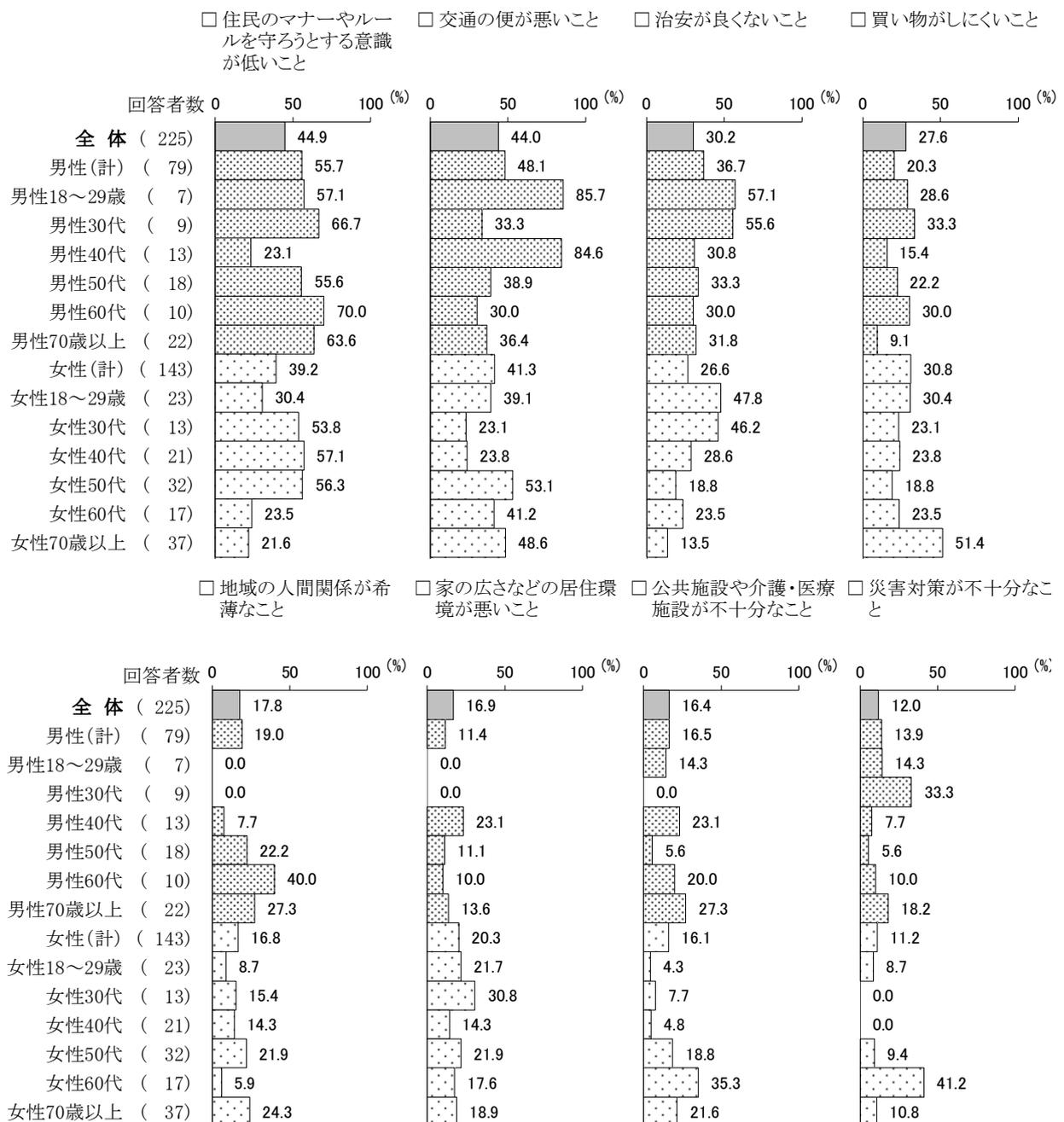
「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（+16.5ポイント）、「治安が良くないこと」（+10.1ポイント）など。

b 女性の方が男性より高くなっている項目

「買い物がしにくいこと」（+10.5ポイント）、「家の広さなどの居住環境が悪いこと」（+8.9ポイント）。

（イ）性・年代別でみると、多くの性・年代層の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の性・年代層に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は男性の60代と70歳以上で6割以上と高く、「交通の便が悪いこと」は男性の40代で8割台半ばと特に高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年齢別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



(4) 定住意向

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

■【定住意向】は、8割で前回調査をさらに上回り、3年連続で最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／定住意向

(ア) 足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は35.3%で、「当分は住み続けたい」(45.5%)を合わせた【定住意向】は8割を占めている。一方、「区外に転出したい」は1割未満となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【定住意向】は今回も8割台を維持し、3年連続で最高値を更新している。

図1-4-1-① 経年比較／定住意向

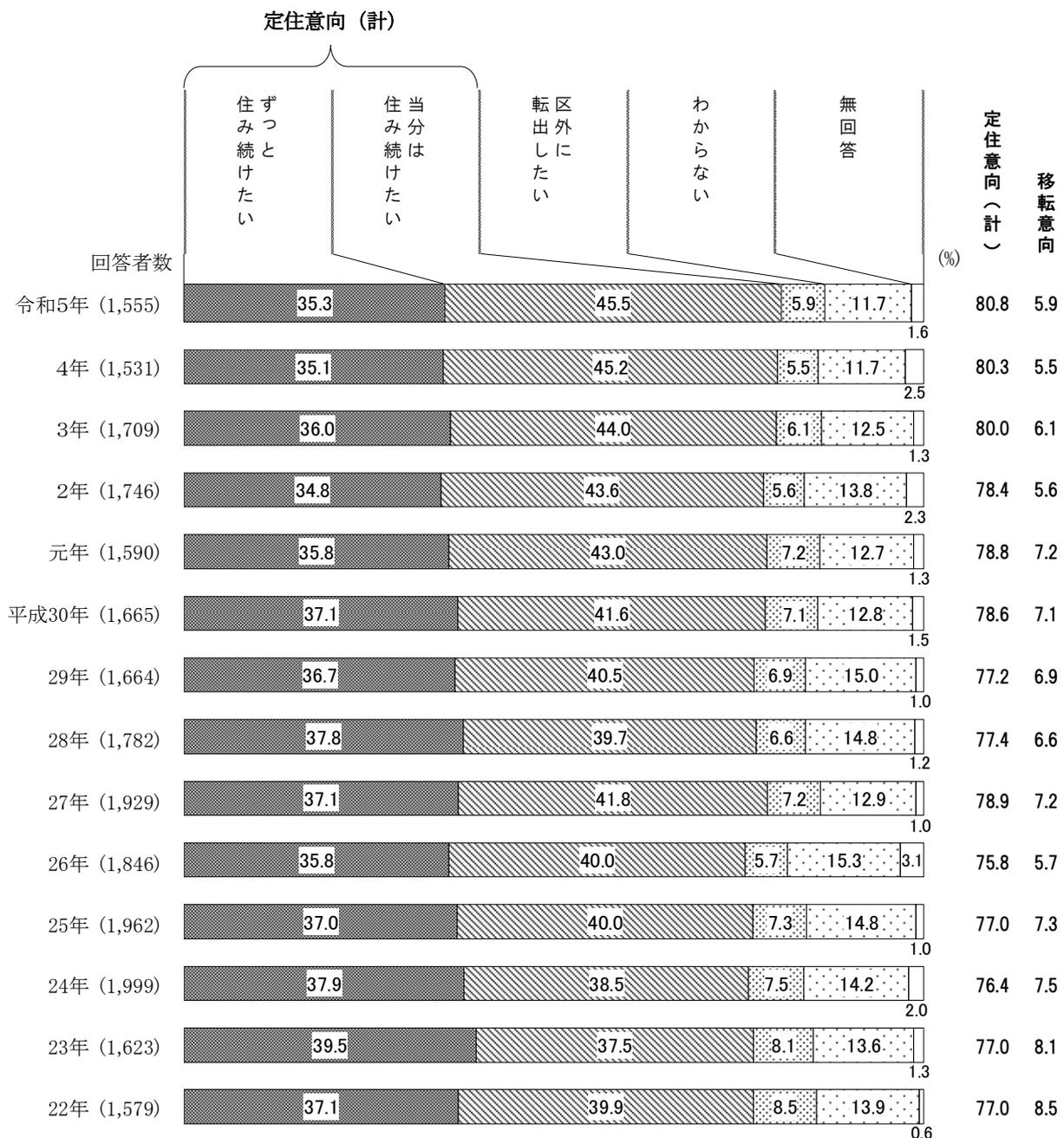
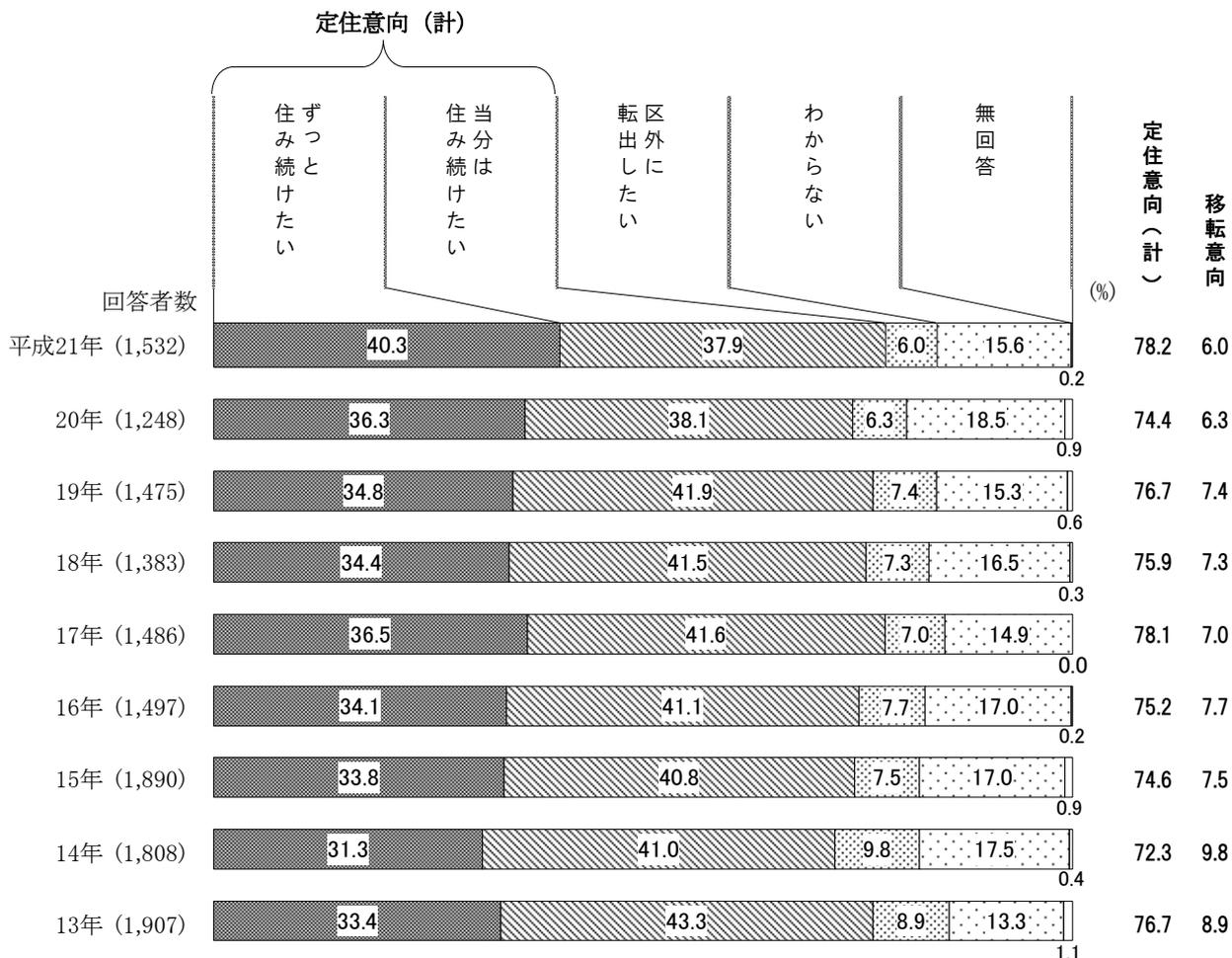


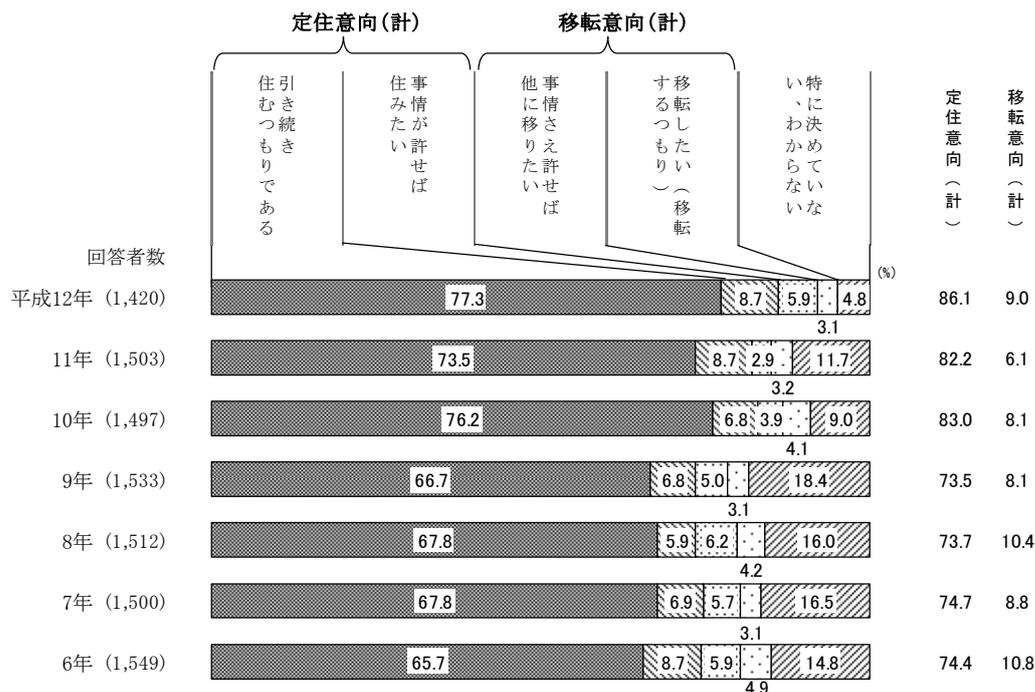
図1-4-1-② 経年比較／定住意向



参考／定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。

(○は1つ)

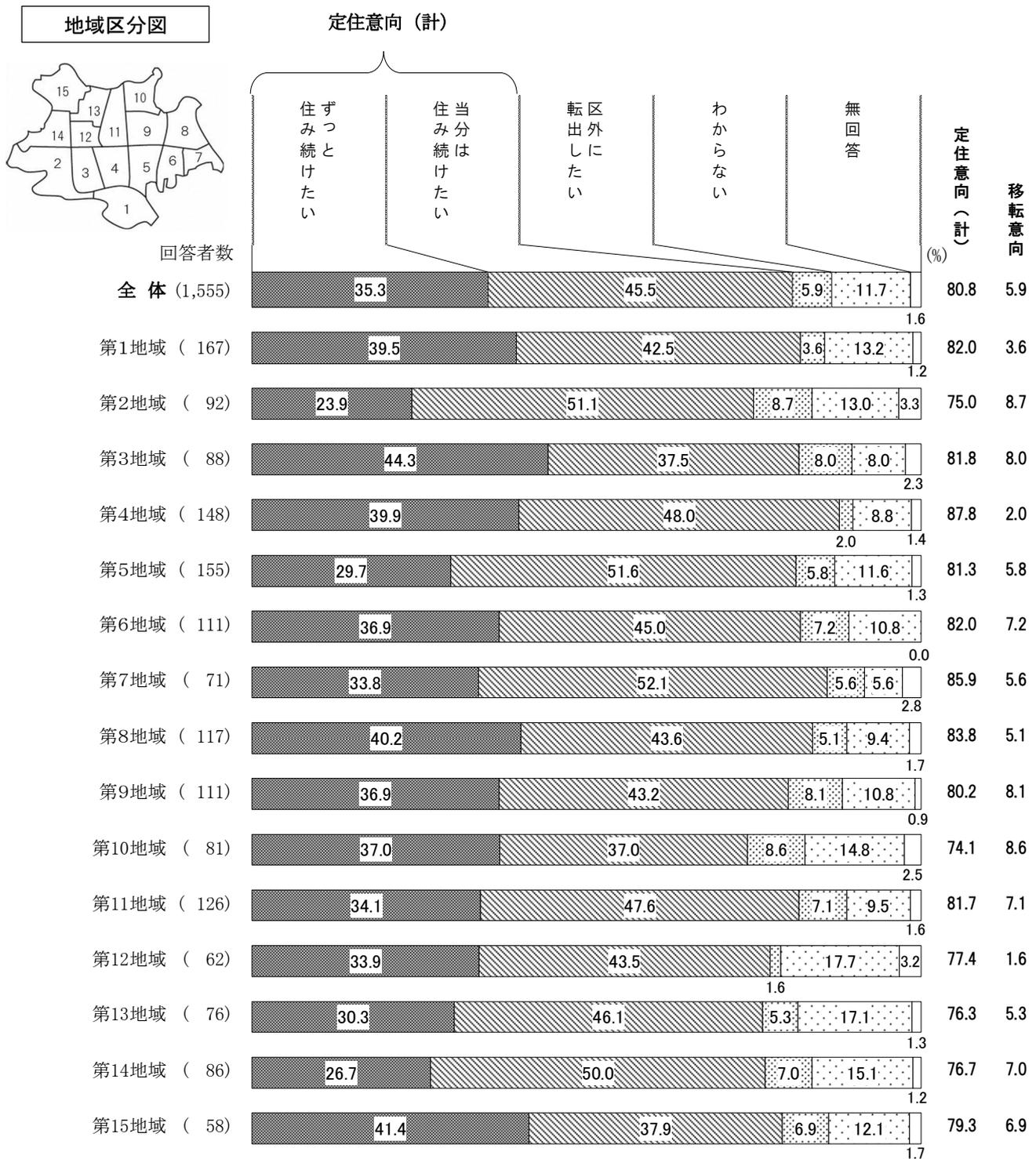


※ 平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

イ クロス集計・地域別／定住意向

地域別でみると、【定住意向】は第4地域で87.8%と最も高く、次いで第7地域（85.9%）となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第2地域で8.7%と最も高く、僅差で第10地域で8.6%と続いている。

図1-4-2 地域別／定住意向

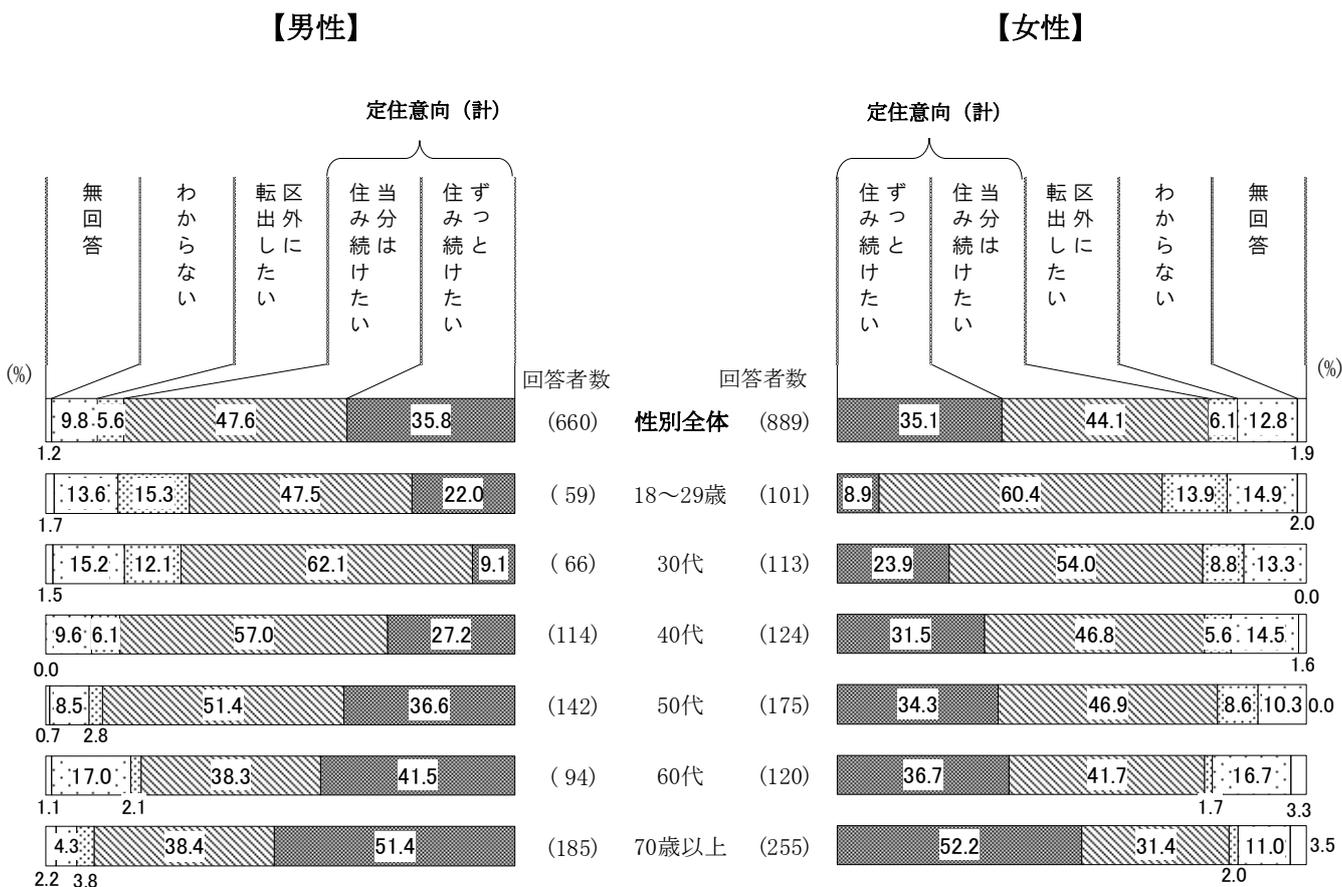


ウ クロス集計・性別、性・年代別／定住意向

(ア) 性別でみると、【定住意向】は、男性（83.3%）が女性（79.2%）よりも4.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【定住意向】は、男性の70歳以上が89.7%で最も高く、次いで、男性の50代（88.0%）となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は男女ともに18～29歳（男性15.3%、女性13.9%）が他の性・年代層に比べて高くなっている。

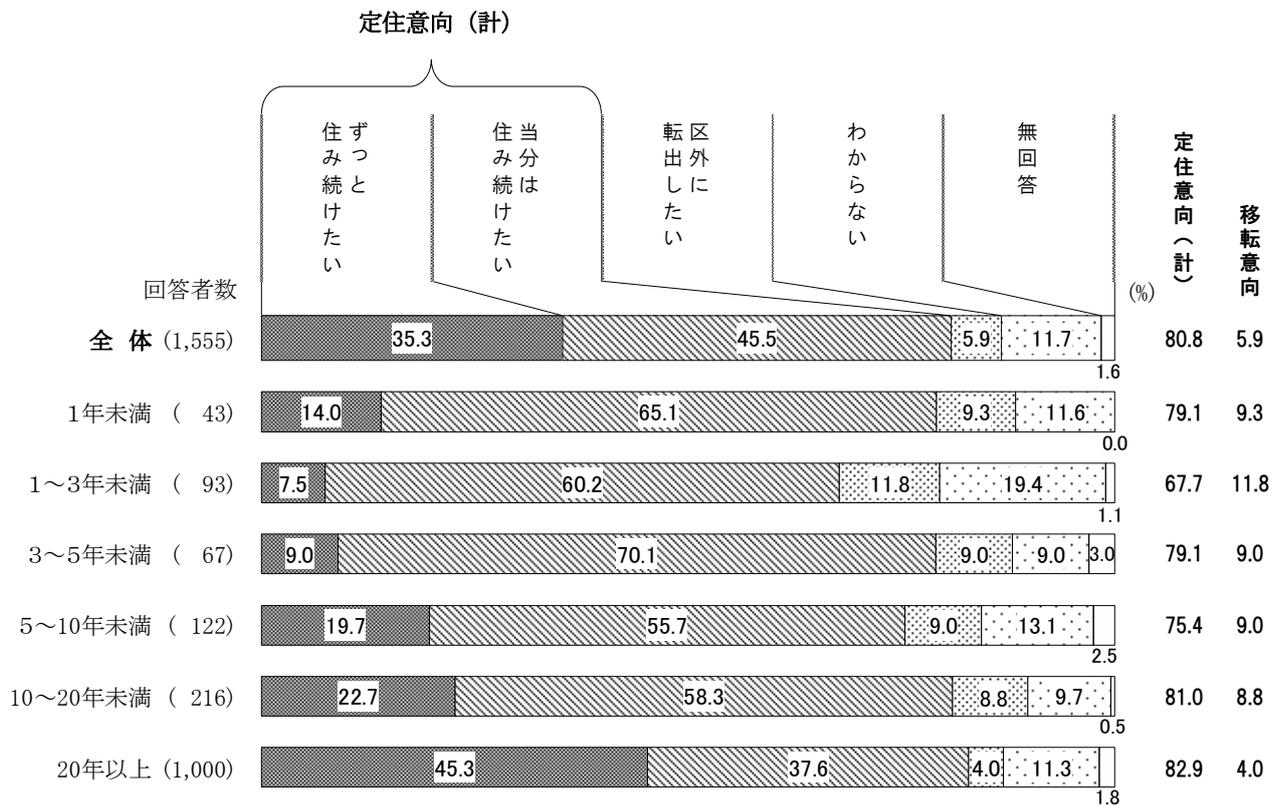
図1-4-3 性別、性・年代別／定住意向



エ クロス集計・居住年数別／定住意向

居住年数別で見ると、【定住意向】は20年以上で82.9%と最も高く、10～20年未満で81.0%、1年未満と3～5年未満で79.1%となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は、1～3年未満で11.8%と最も高くなっている。

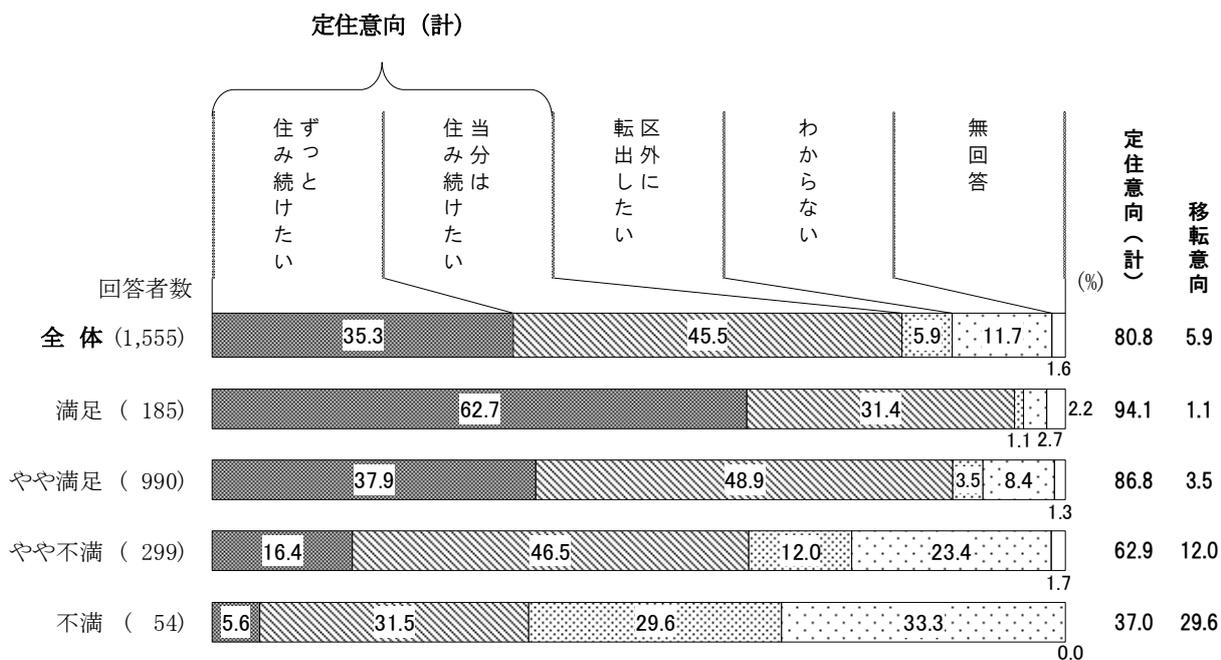
図1-4-4 居住年数別／定住意向



オ クロス集計・区政満足度別／定住意向

区政満足度別にみると、【定住意向】は満足が94.1%と最も高く、やや満足も86.8%と高くなっている。一方、やや不満で62.9%、不満では37.0%と低くなり、区政への満足度と定住意向には正の相関がみられる。

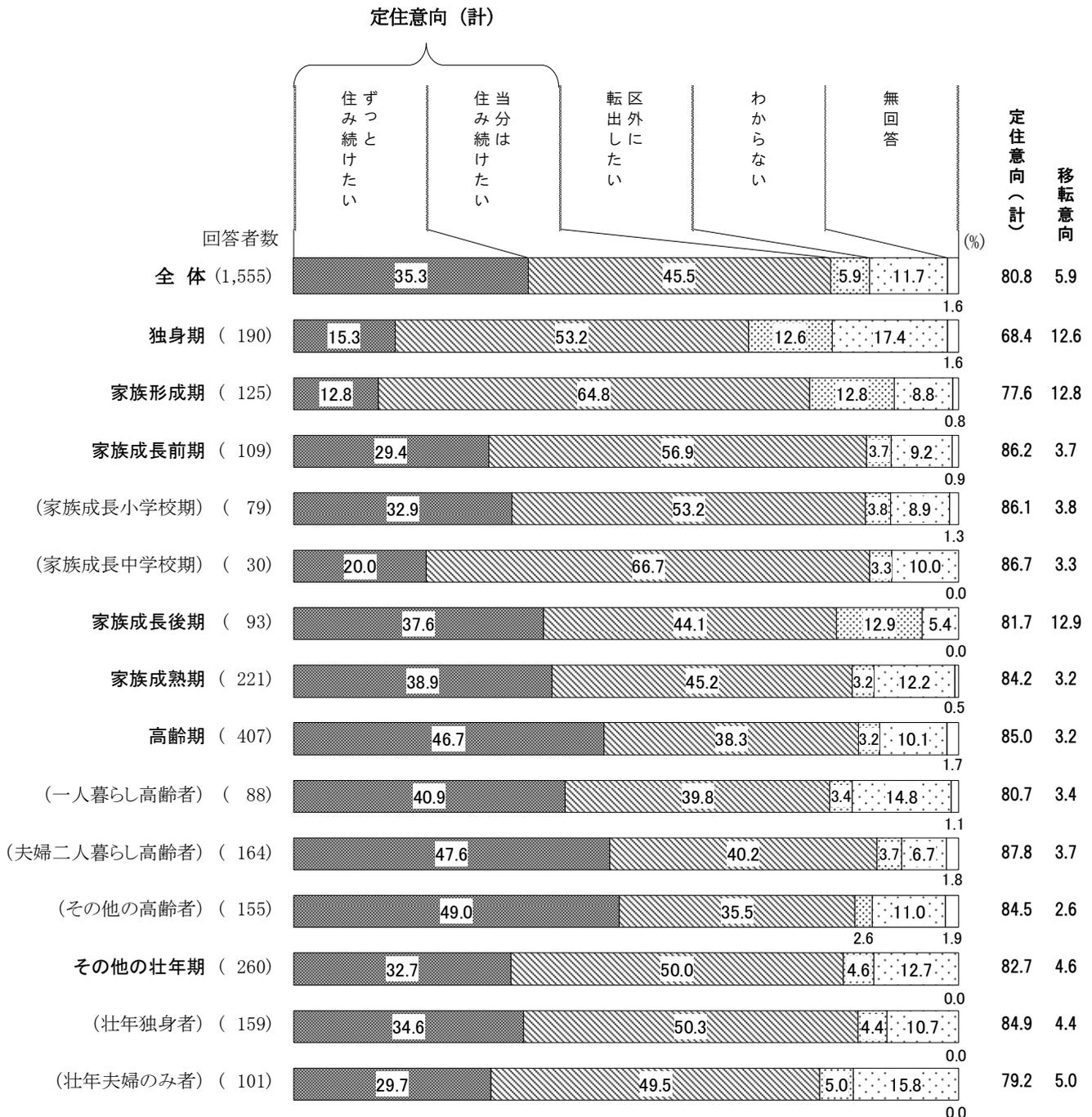
図1-4-5 区政満足度別／定住意向



カ クロス集計・ライフステージ別／定住意向

ライフステージ別でみると、【定住意向】は〈家族成長前期〉が86.2%で最も高く、次いで、〈高齢期〉が85.0%となっている。詳細区分でみると、〈(夫婦二人暮らし高齢者)〉が87.8%で最も高く、次いで〈(家族成長中学校期)〉が86.7%となっている。一方、〈独身期〉で6割台後半と最も低くなっている。

図1-4-6 ライフステージ別／定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (5) 対策をしていない理由
 - (6) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (7) 大規模災害時の避難生活場所
-

2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は約7割

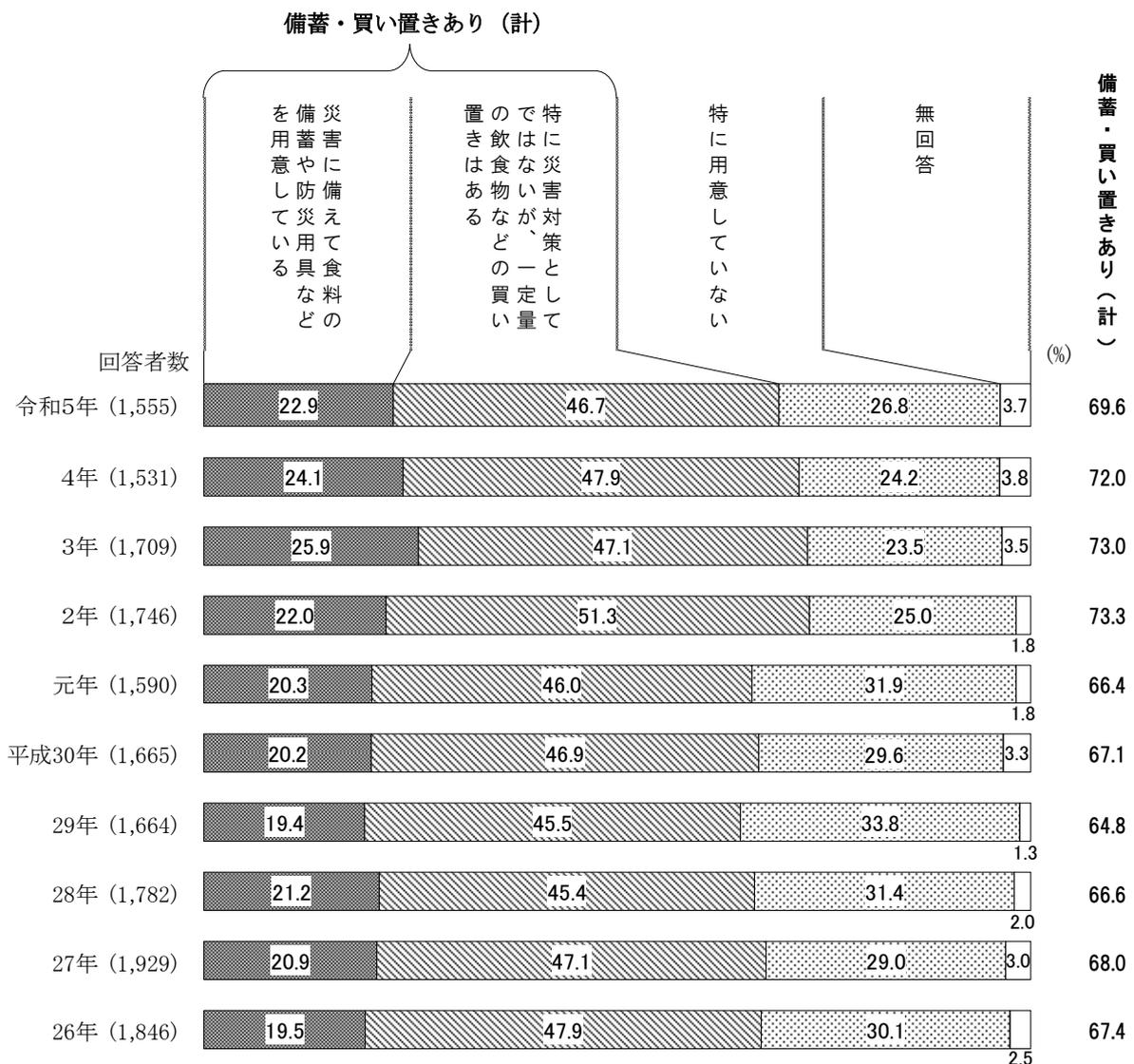
ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.9%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は69.6%となっている。

(イ) 災害に備えて「特に用意していない」は26.8%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は大きな違いはみられないものの、令和2年度調査以降は漸減傾向となっている。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



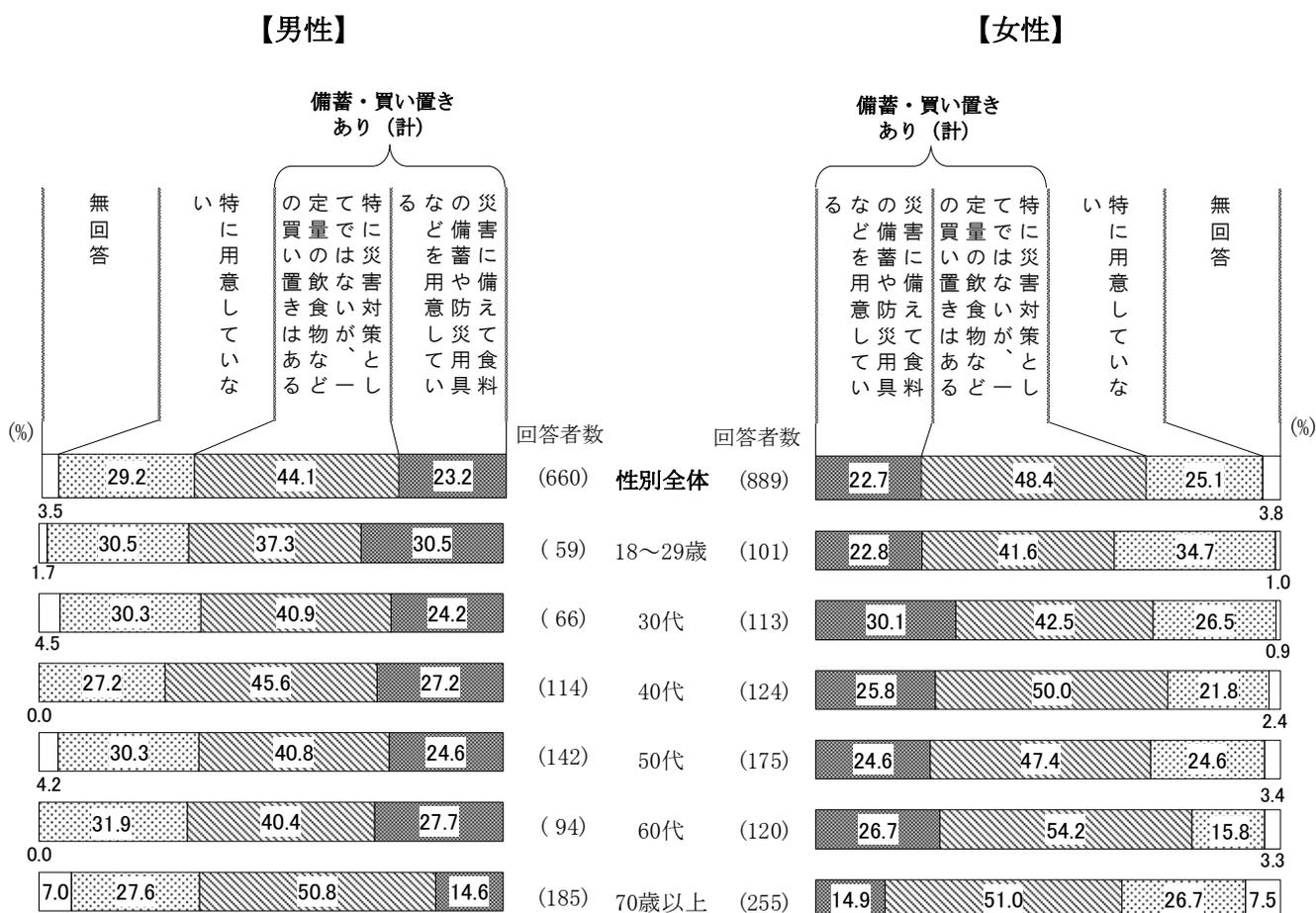
イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（71.1%）の方が男性（67.3%）より3.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、男性の18～29歳が30.5%で最も高く、次いで女性の30代（30.1%）となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の60代が80.8%で最も高く、次いで女性の40代（75.8%）となっている。

(ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、女性の18～29歳が34.7%で最も高くなっている。

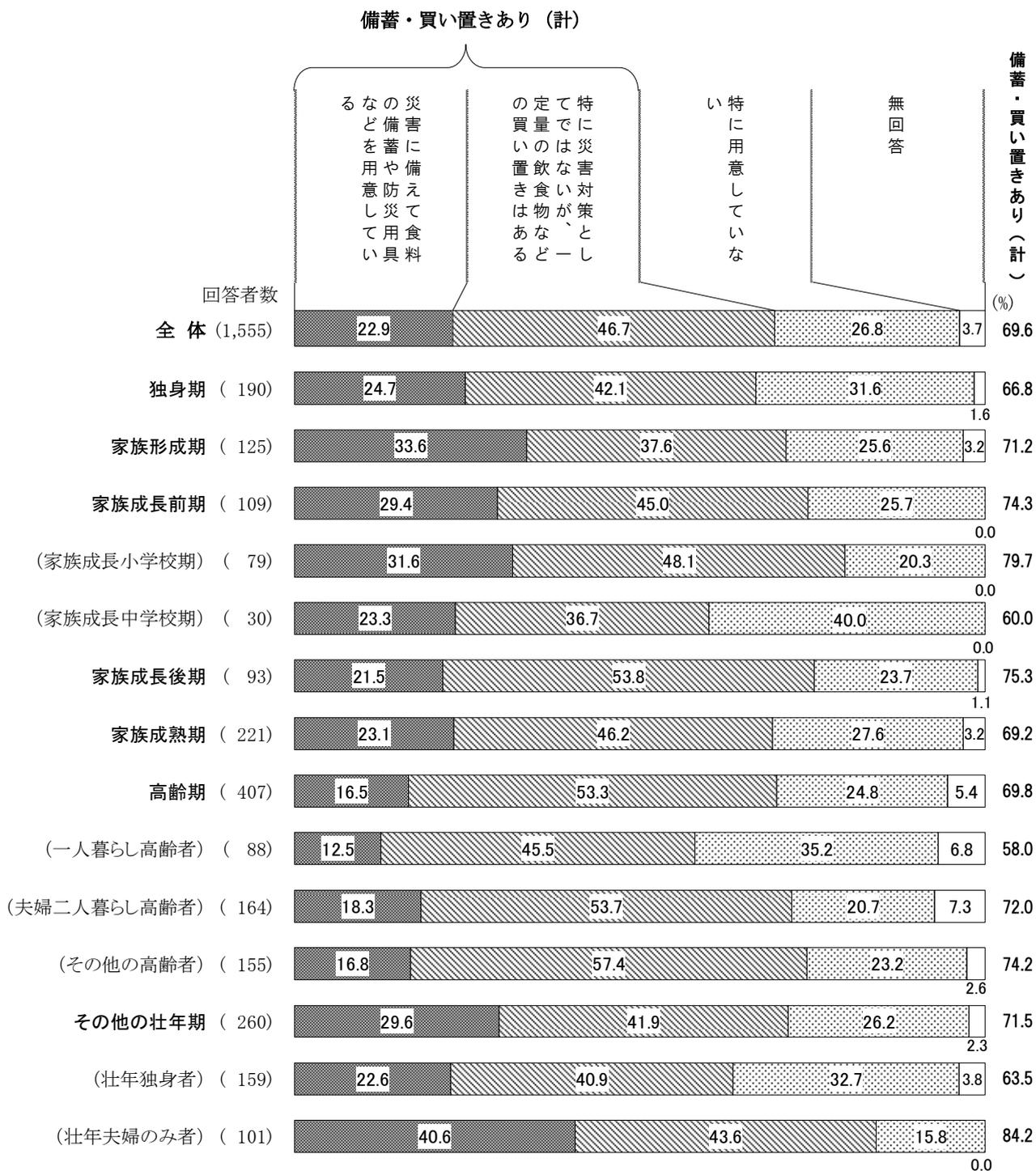
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長後期〉が75.3%で最も高く、次いで〈家族成長前期〉(74.3%)、〈その他の壮年期〉(71.5%)となっている。なお、詳細区分で見ると、〈(壮年夫婦のみ者)〉が84.2%と高くなっている。一方、〈独身期〉が66.8%で最も低い。詳細区分で見ると〈(一人暮らし高齢者)〉が58.0%で最も低くなっている。

図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



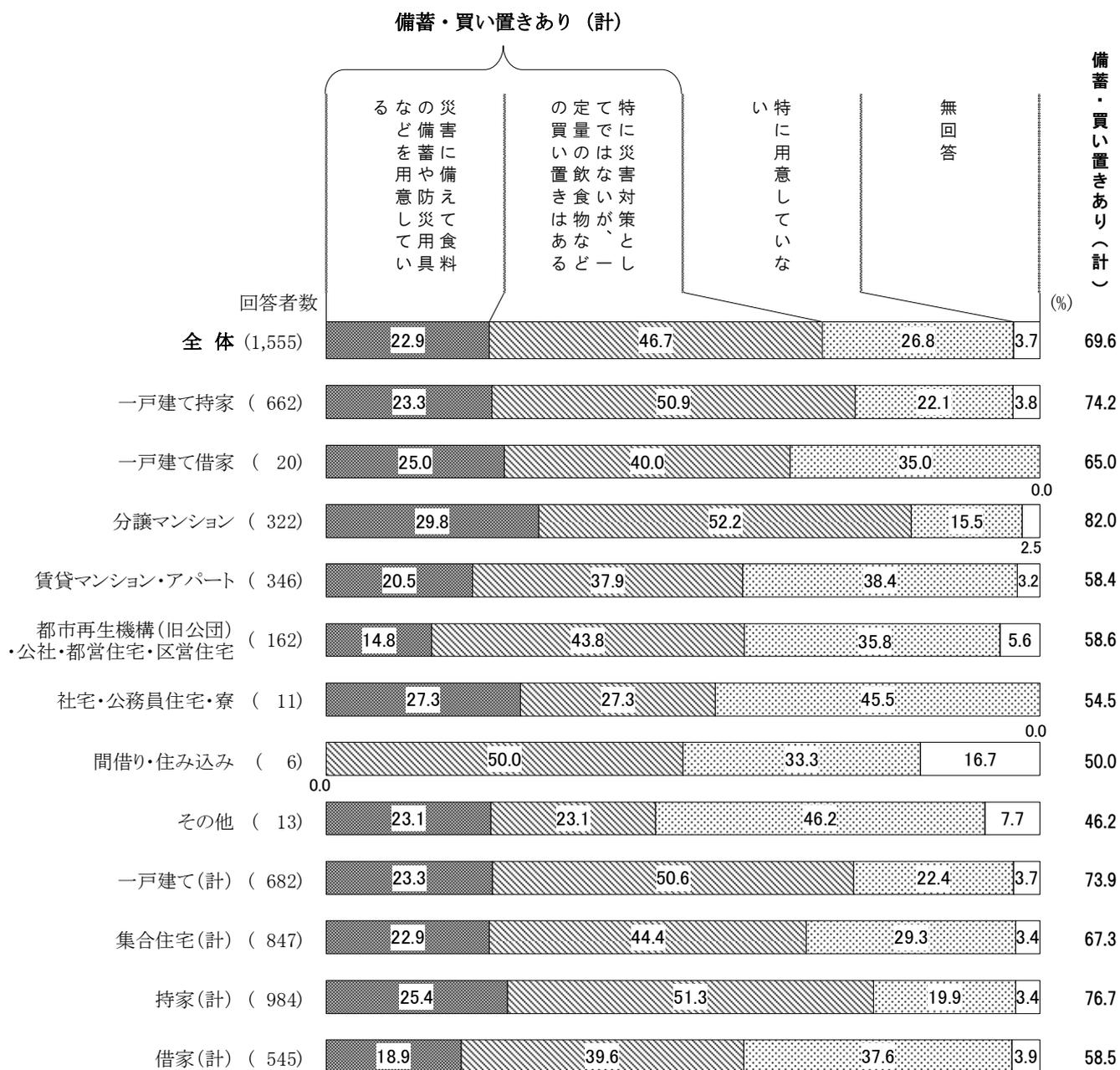
エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 住居形態別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が82.0%で最も高く、次いで〈一戸建て持家〉(74.2%)となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が38.4%で最も高くなっている。

(イ) 住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て(計)〉(73.9%)の方が〈集合住宅(計)〉(67.3%)より6.6ポイント高くなっている。

(ウ) 住宅の所有形態別では、〈持家(計)〉(76.7%)の方が〈借家(計)〉(58.5%)より18.2ポイント高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

(○はあてはまるものすべて)。

■ 1位「水」(9割)、2位「食料」(約9割)、3位「あかり」(7割台半ば)で、前回調査と同順位

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

(ア)【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ①「水」(90.1%)
- ②「食料(缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など)」(89.6%)
- ③「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」(75.0%)
- ④「簡易トイレ」(51.7%)
- ⑤「電池・予備バッテリー」(51.6%)

(イ) 平成26年度調査以降、「水」「食料(缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など)」「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」が継続して上位3項目に挙げられている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「簡易トイレ」(33.8%→51.7%)が17.9ポイント増加している。逆に、「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」(79.9%→75.0%)が4.9ポイント、「情報収集手段(携帯ラジオなど)」(50.5%→45.9%)が4.6ポイント減少している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

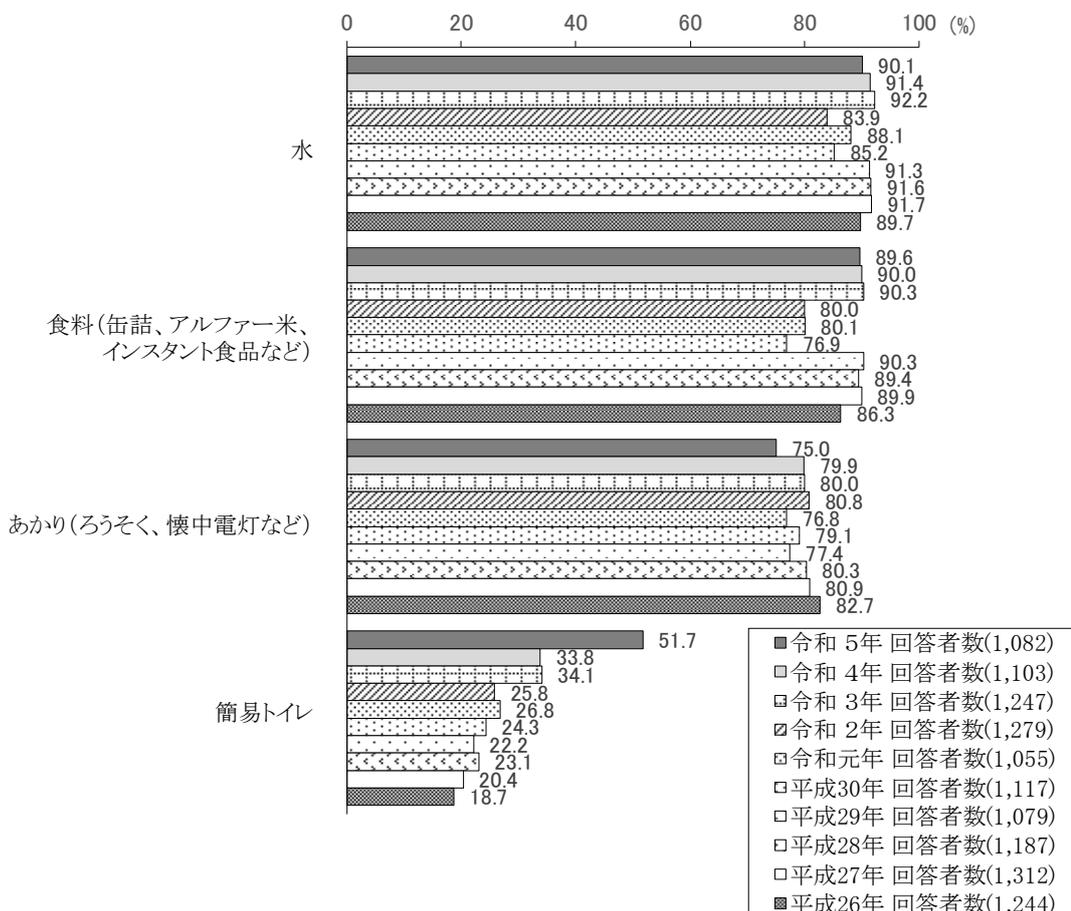


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

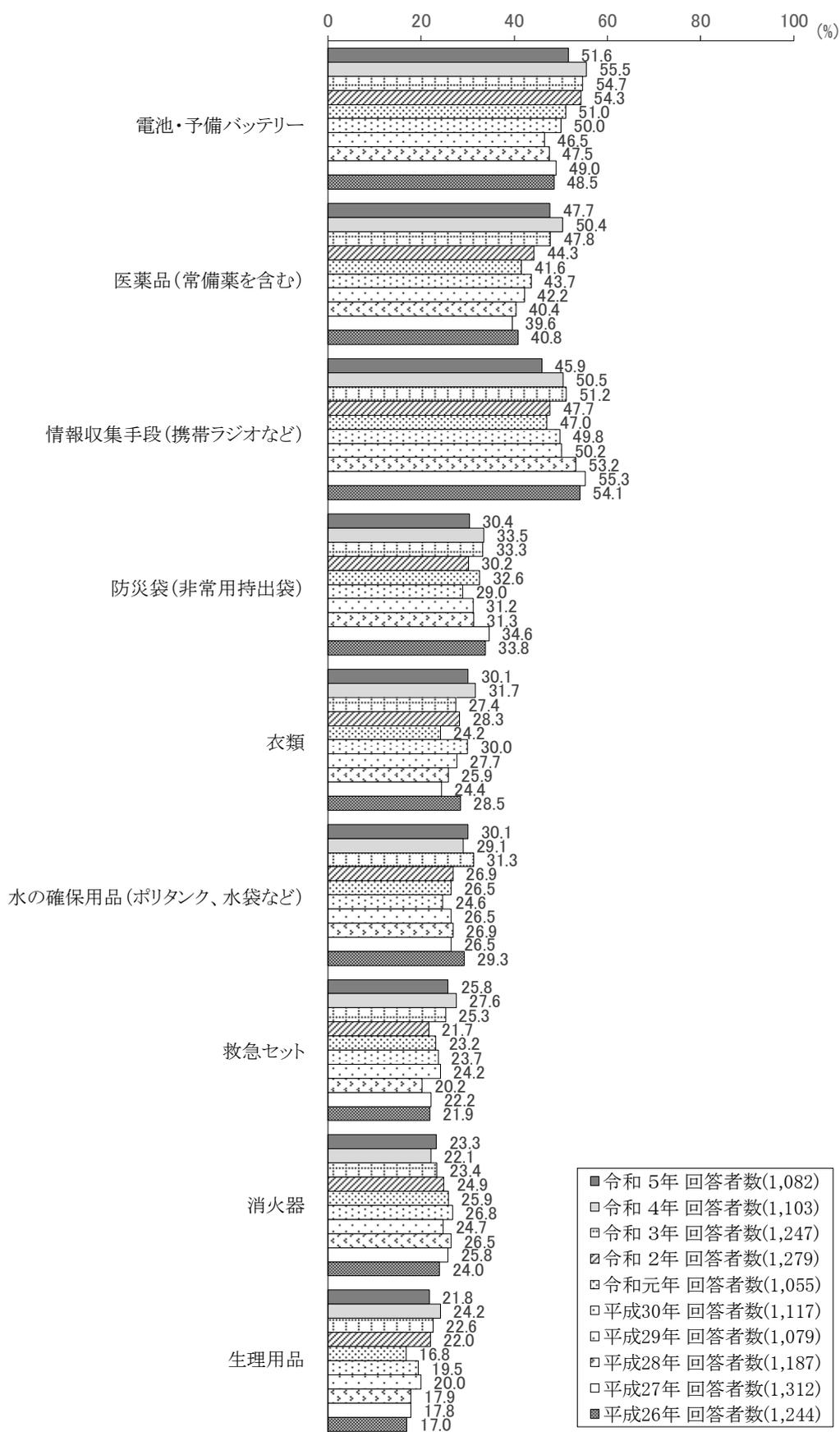
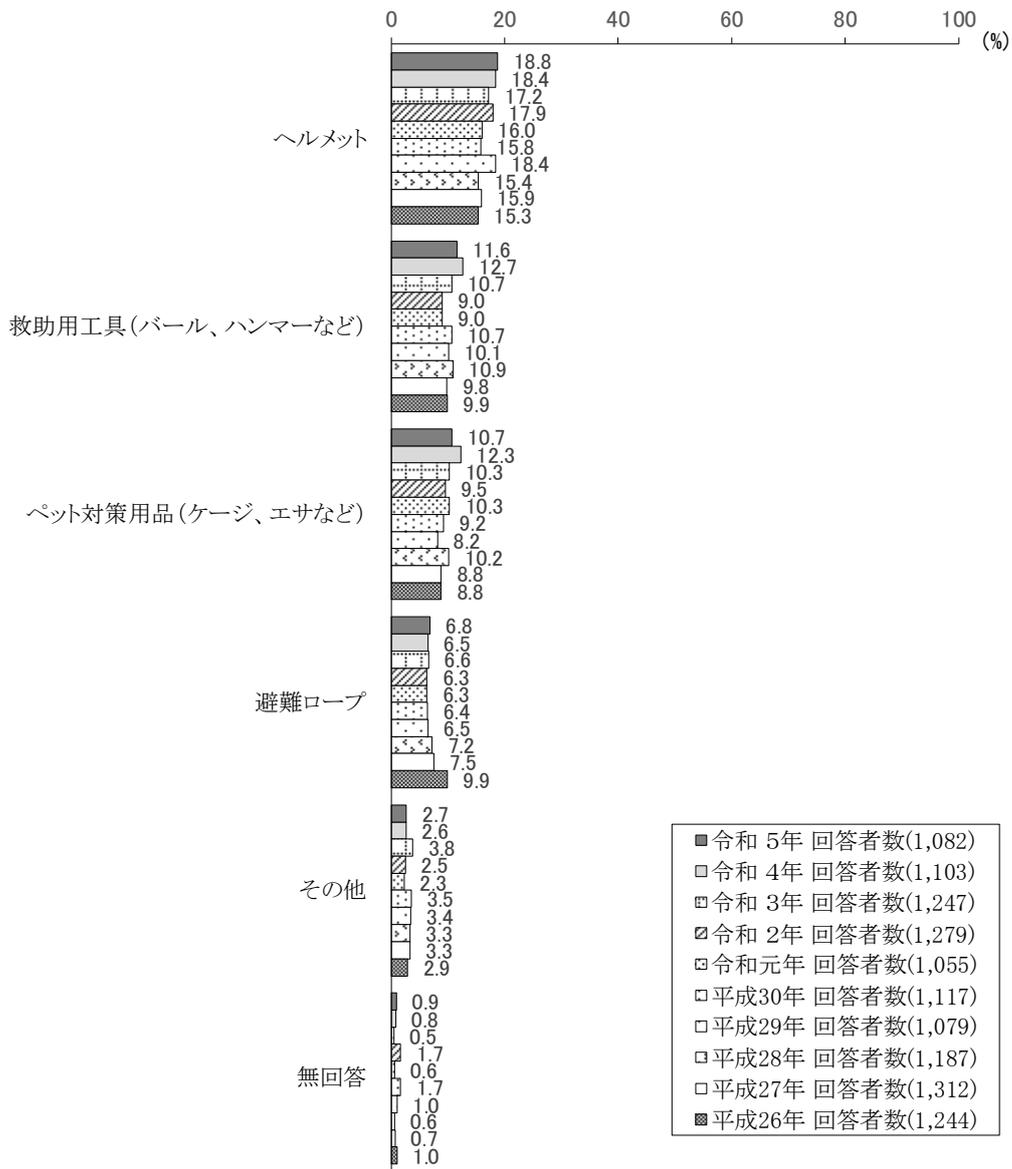


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 性別にみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い項目

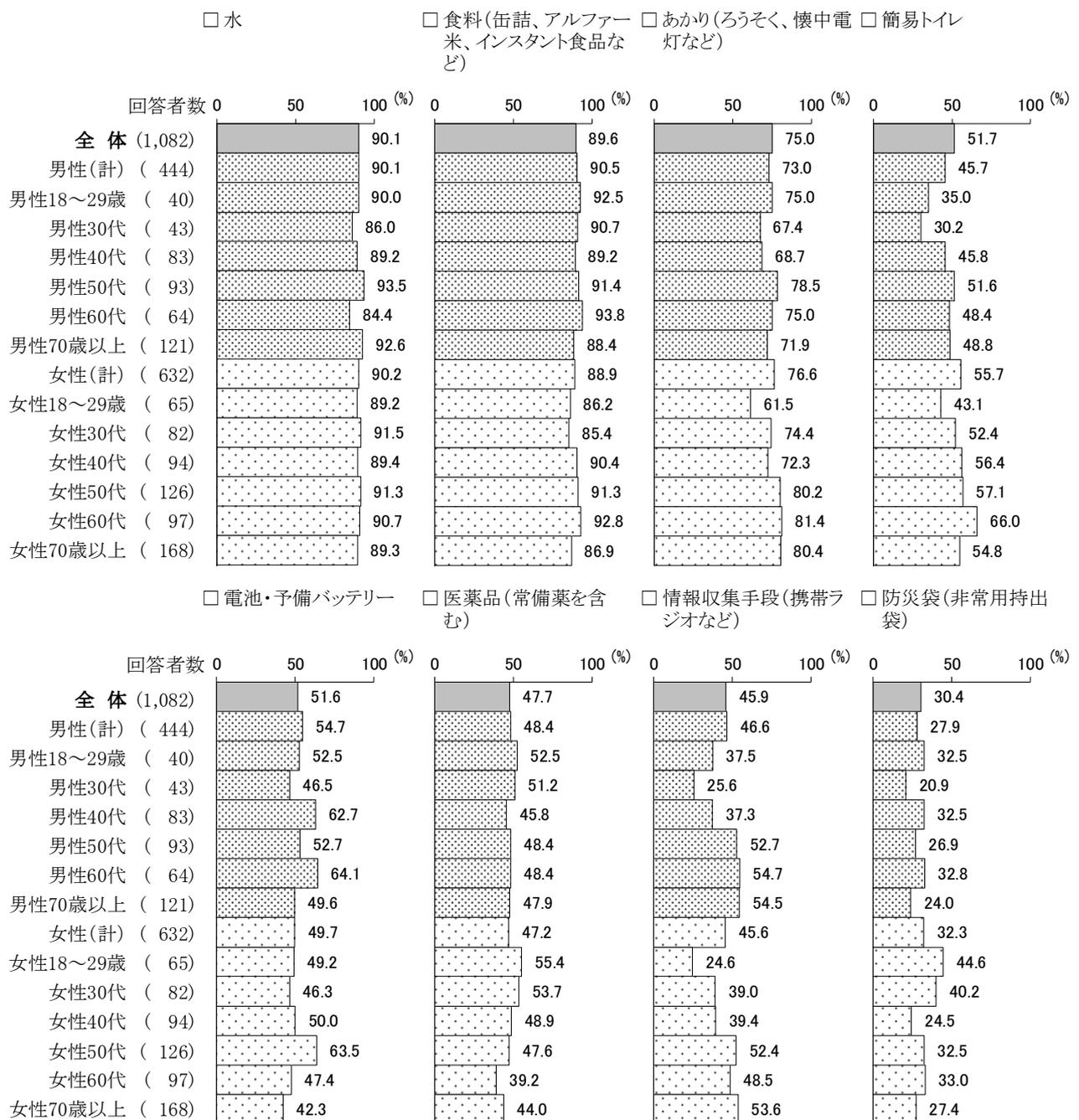
「電池・予備バッテリー」(+5.0ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い項目

「簡易トイレ」(+10.0ポイント)、「防災袋（非常用持出袋）」(+4.4ポイント)、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」(+3.6ポイント) など

(イ) 性・年代別で見ると、「水」は男性の50代（93.5%）が最も高く「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は男性の60代（93.8%）が最も高くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の60代（81.4%）が最も高い一方で、女性の18～29歳（61.5%）で最も低く、その差は約20ポイントと大きく開いている。

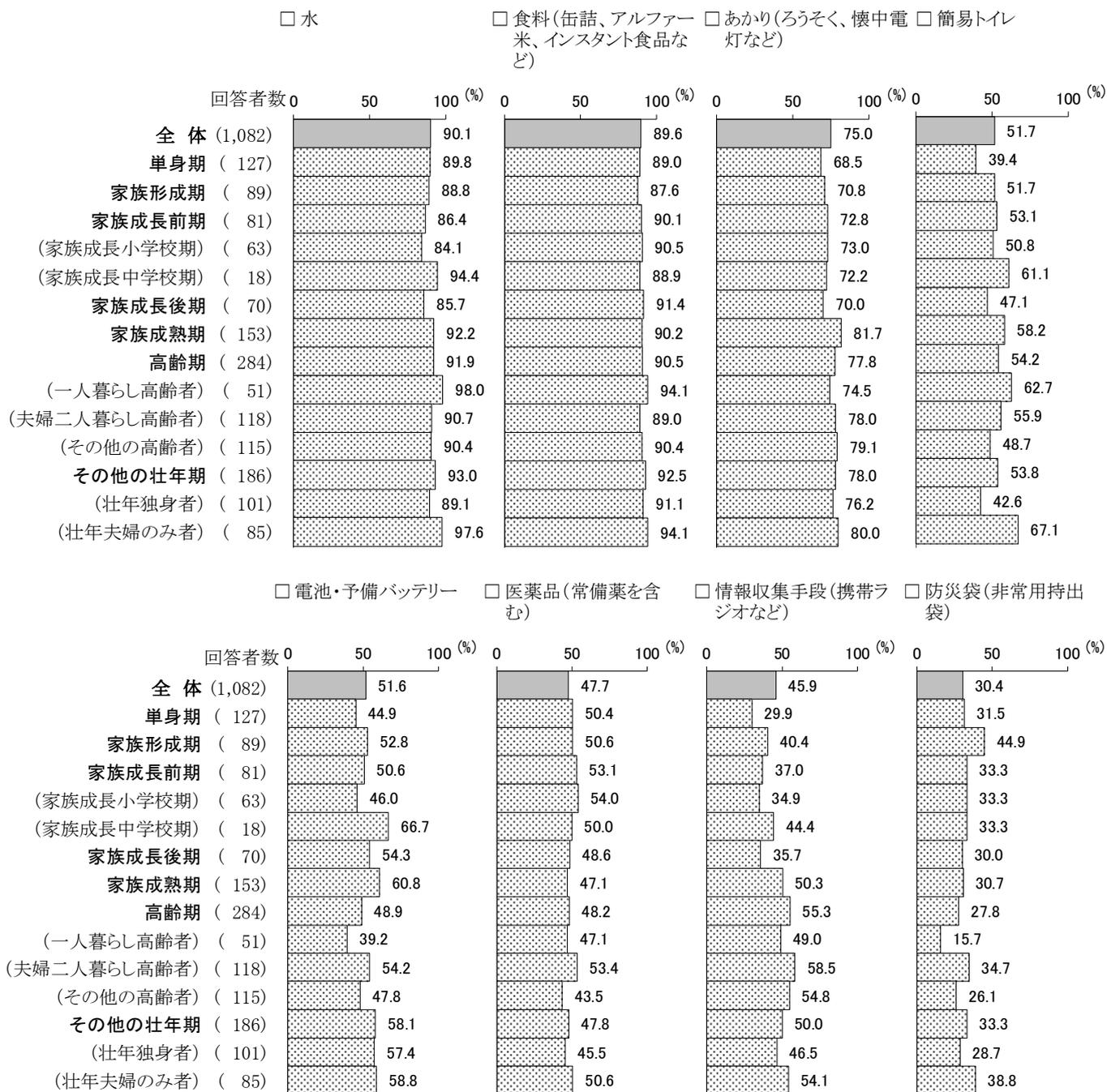
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」（93.0%）と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（92.5%）は〈その他の壮年期〉で最も高く、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（81.7%）と「簡易トイレ」（58.2%）と「電池・予備バッテリー」（60.8%）は〈家族成熟期〉で他のステージに比べて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



（3）備蓄量

問4-1で「1 水」、「2 食料」または「簡易トイレ」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

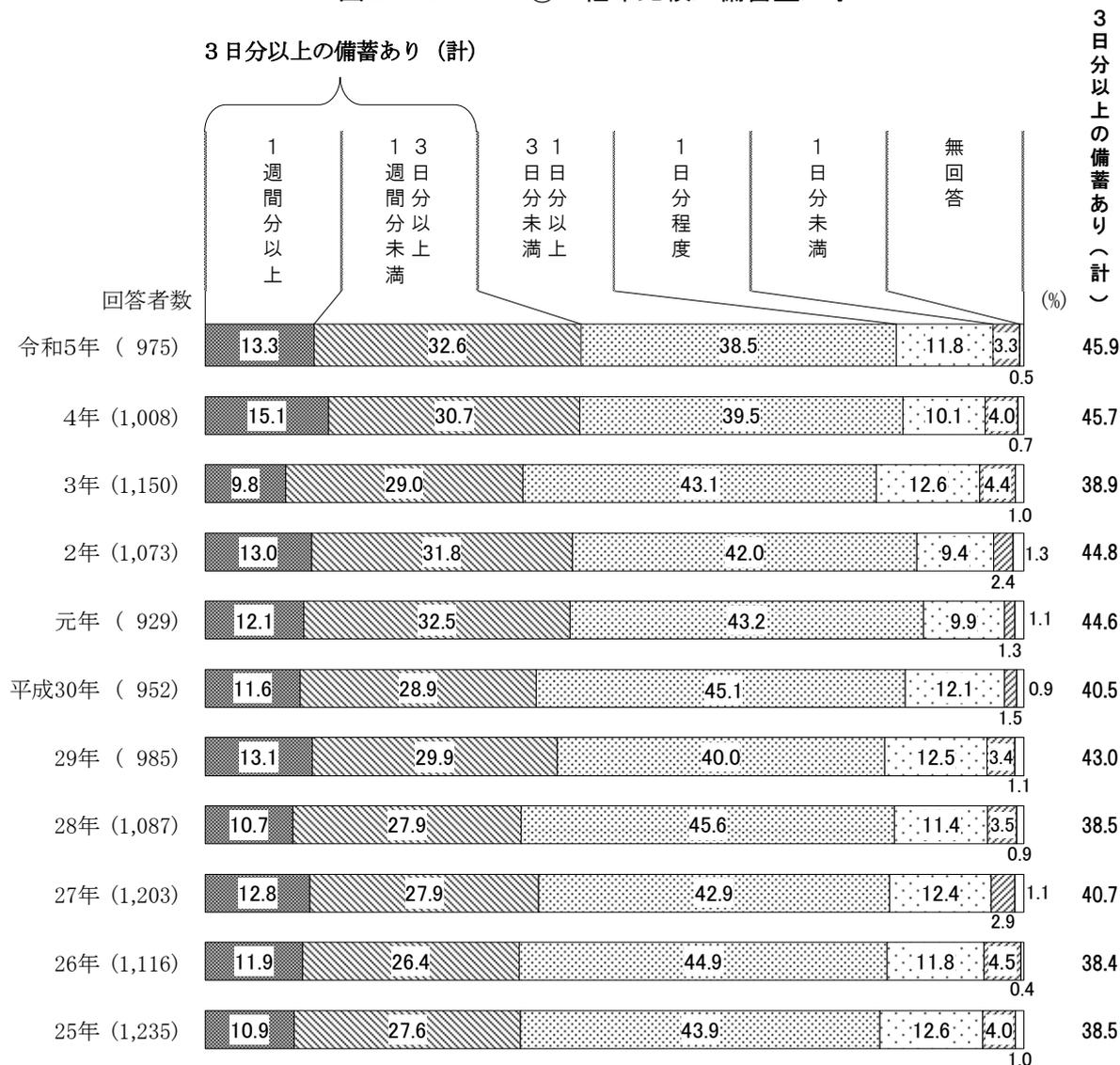
■【3日分以上の備蓄あり】は「水」が4割台半ば、「食料」が4割台半ば近く、「簡易トイレ」が3割

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

（ア）「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が38.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（32.6%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（13.3%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は45.9%となっている。

（イ）水について前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、本設問を開始した平成25年度調査以降で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水

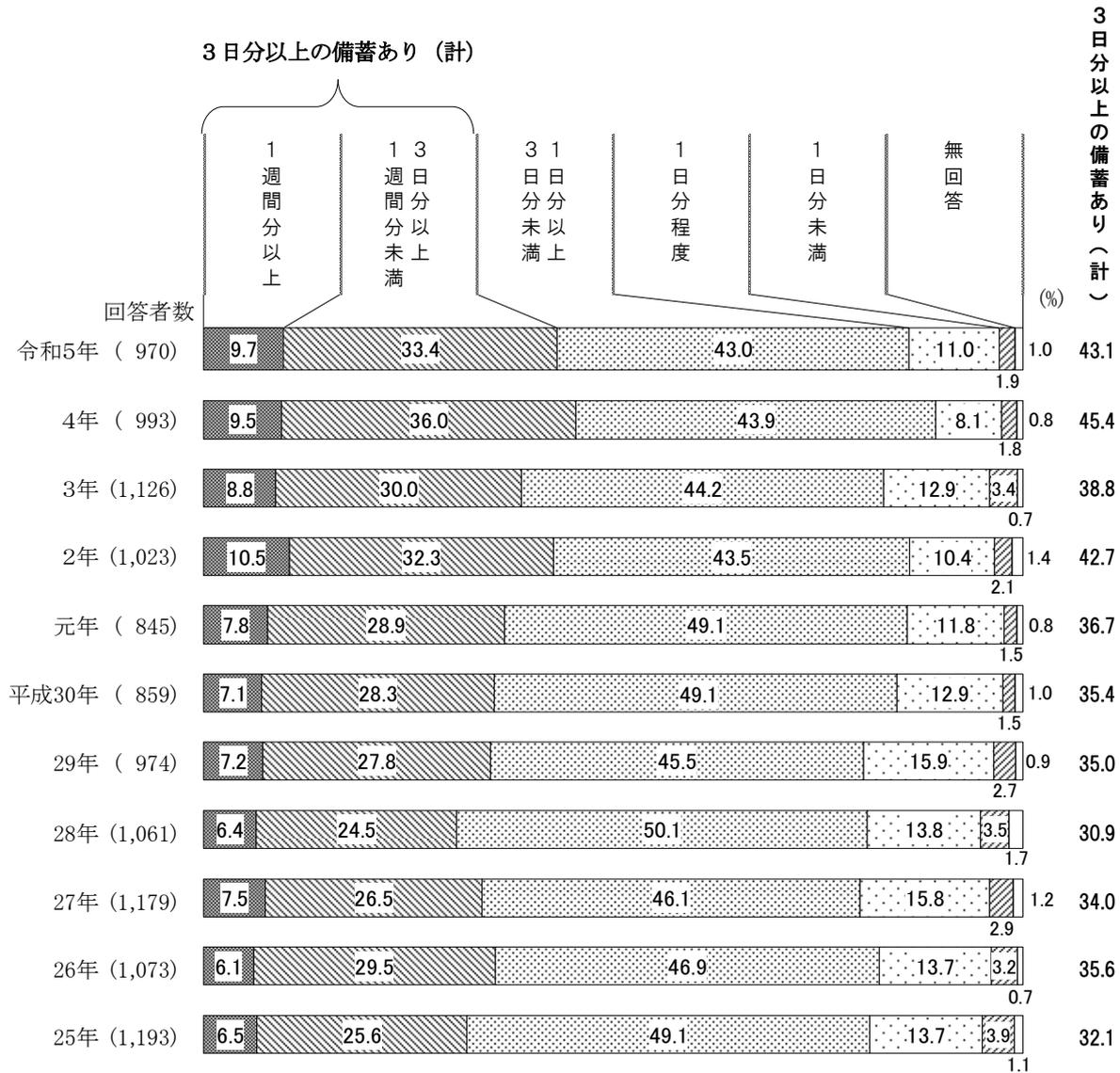


イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

(ア) 「食料（缶詰、アルファーム米、インスタント食品など）」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が43.0%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（33.4%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（9.7%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は43.1%となっている。

(イ) 食料について前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微減しているものの、本設問を開始した平成25年度調査以降で前回に次いで高い割合となっている。

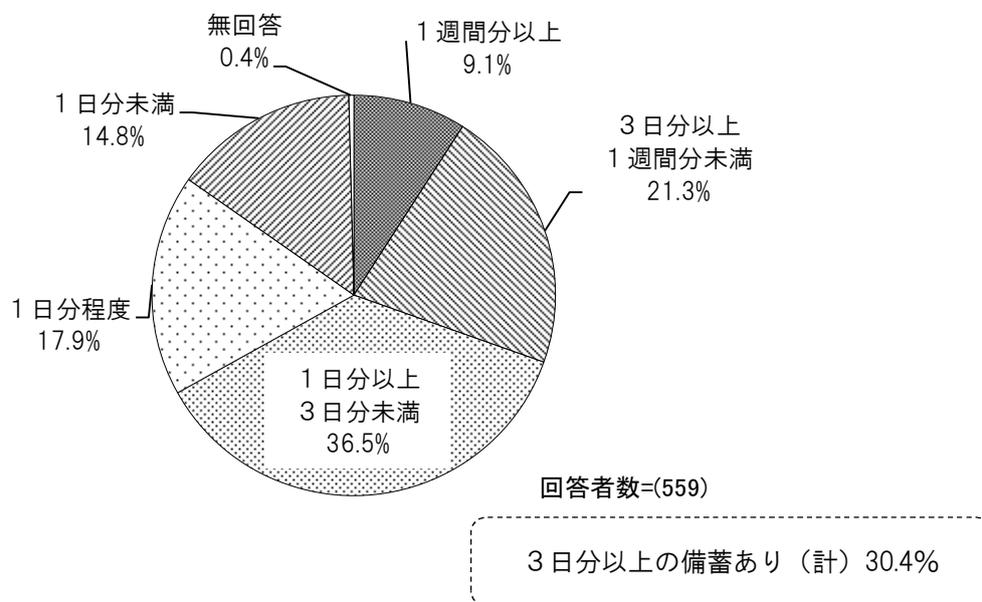
図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料



ウ 単純集計／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が36.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(21.3%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(9.1%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は30.4%となっている。

図2-3-1-③ 備蓄量／簡易トイレ

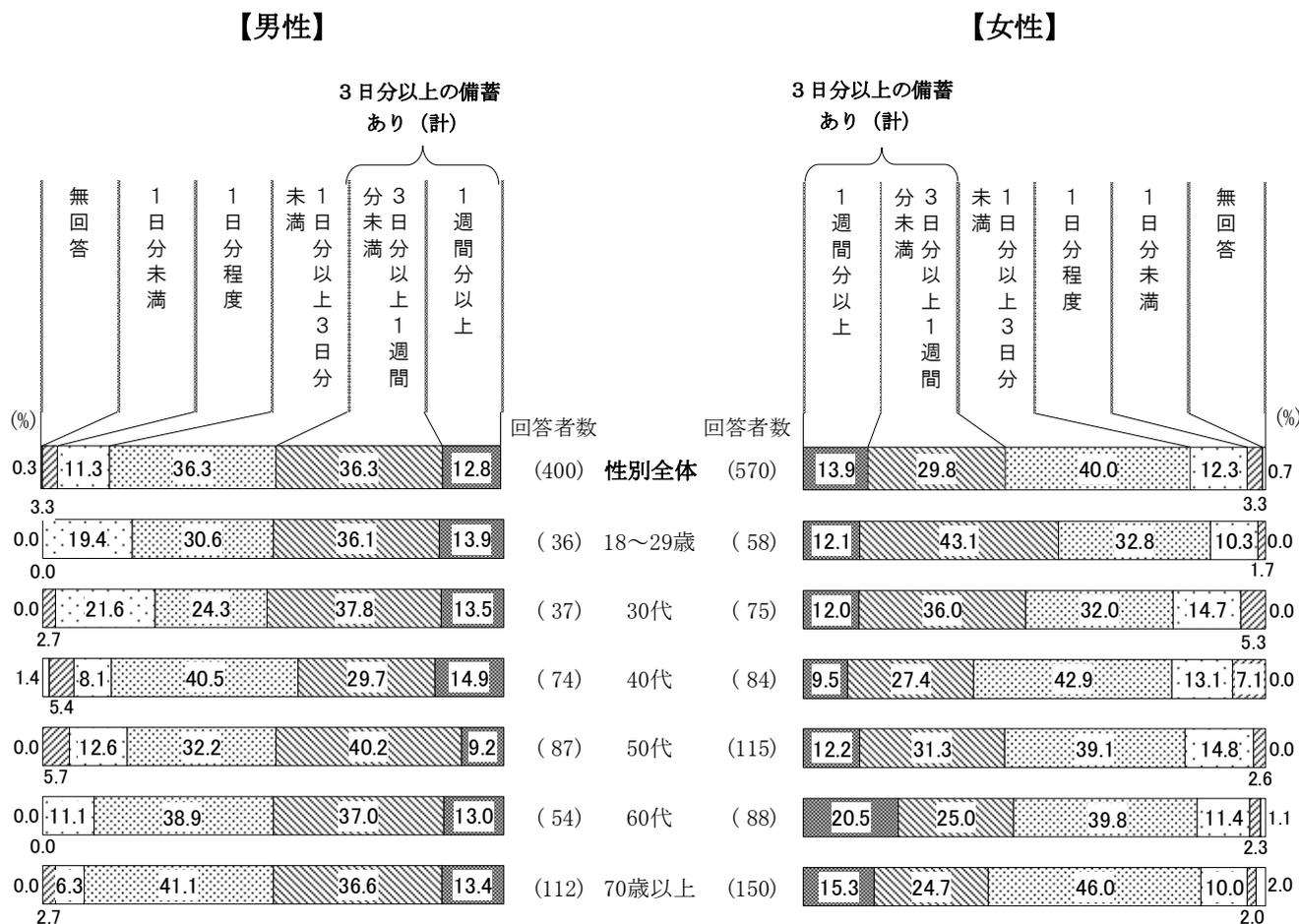


エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（49.0%）の方が女性（43.7%）より5.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の18～29歳が55.2%で最も高く、次いで男性の30代（51.4%）となっている。逆に、女性の40代が36.9%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の40代が7.1%で最も高くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

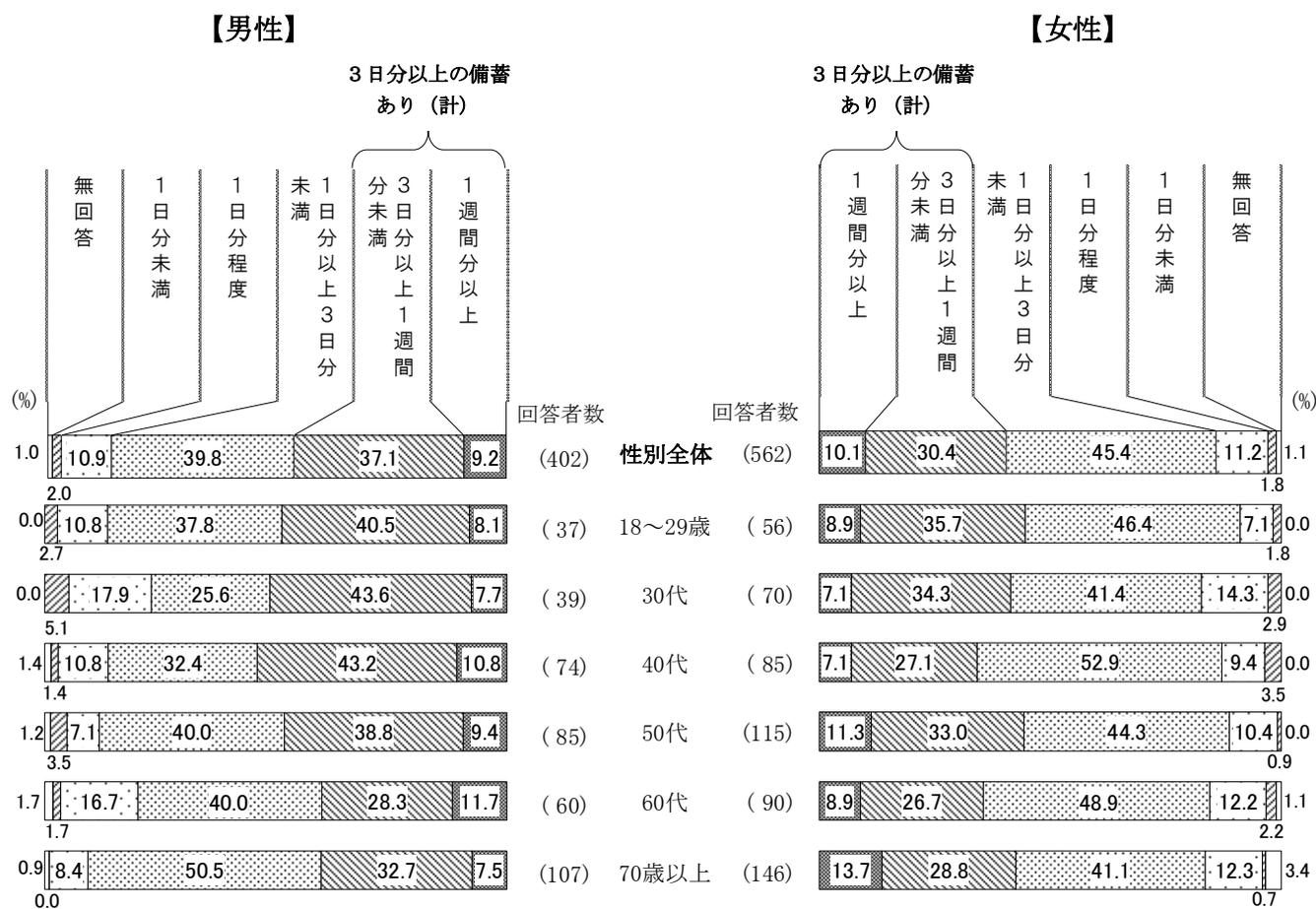


オ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

(ア) 「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（46.3%）の方が女性（40.5%）より5.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の40代が54.0%で最も高く、次いで男性の30代（51.3%）となっている。逆に、女性の40代が34.1%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の30代が5.1%で最も高くなっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



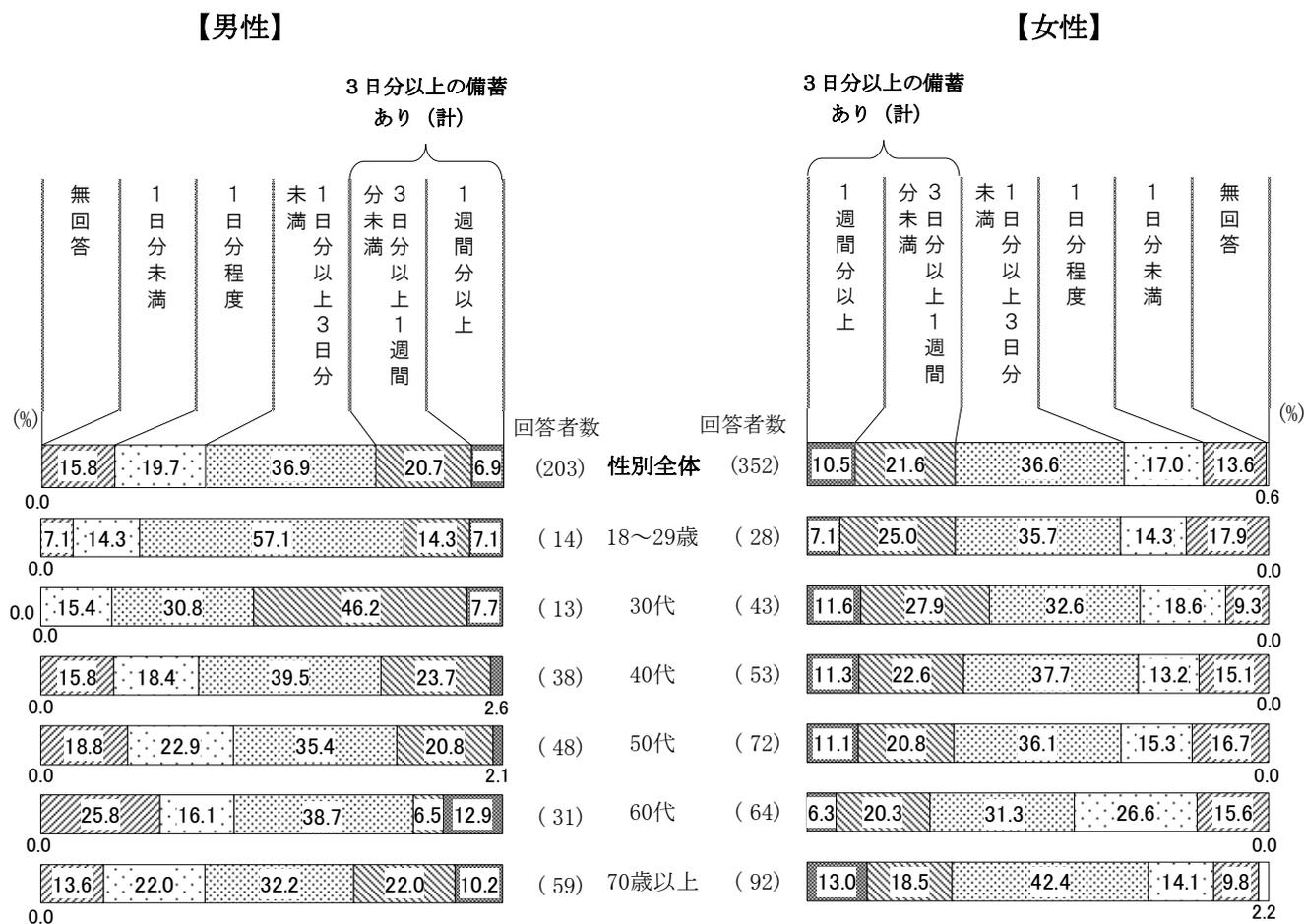
カ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は女性（32.1%）の方が男性（27.6%）より4.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の30代が39.5%で最も高く、次いで女性の40代（34.0%）となっている。逆に、男性の60代が19.4%で最も低くなっている。

また、「1日分未満」は男性の60代が25.8%で最も高くなっている。

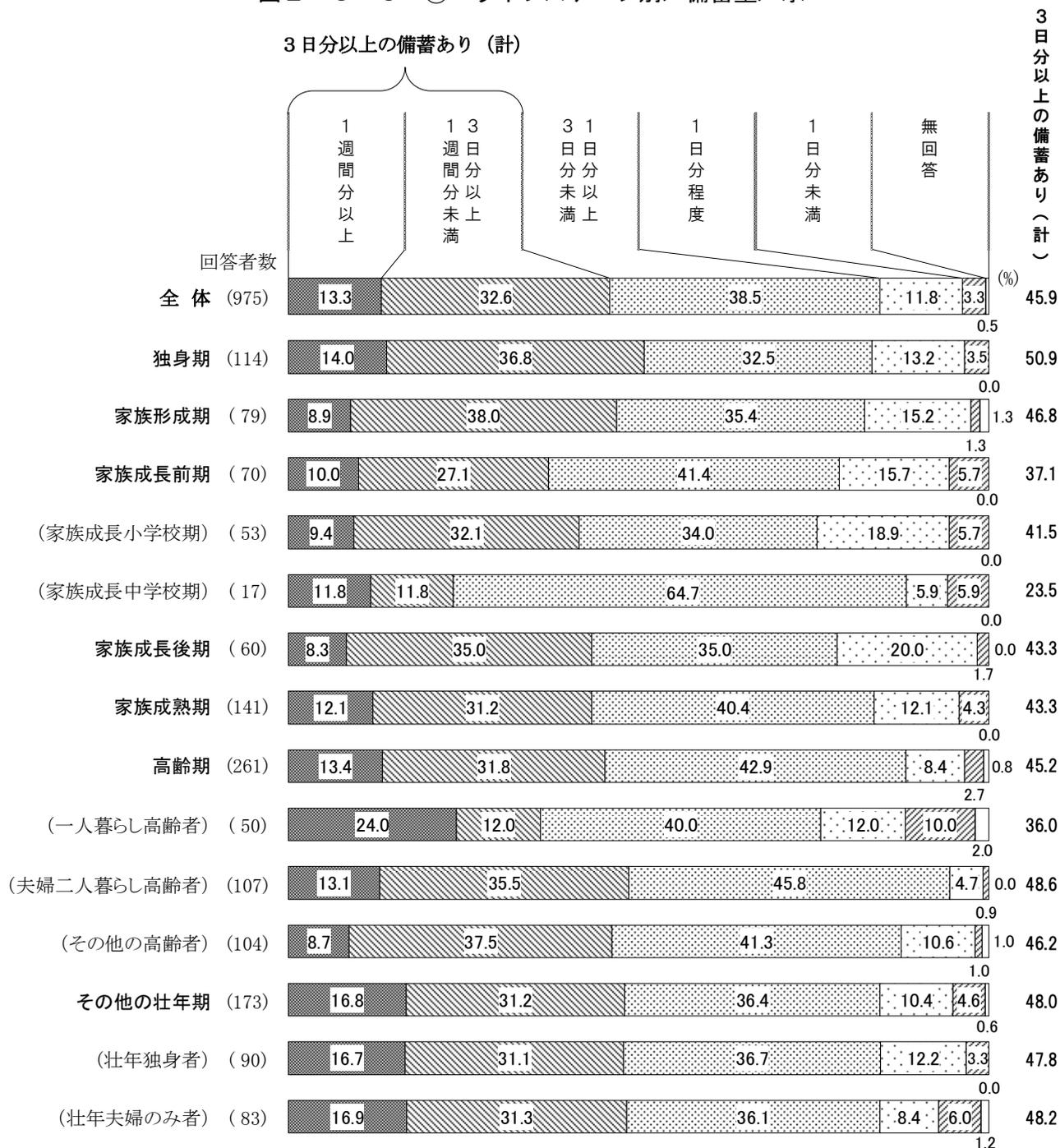
図2-3-2-③ 性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ



キ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈独身期〉が50.9%で最も高く、次いで、〈その他の壮年期〉が48.0%となっている。逆に〈家族成長前期〉が37.1%で最も低くなっている。

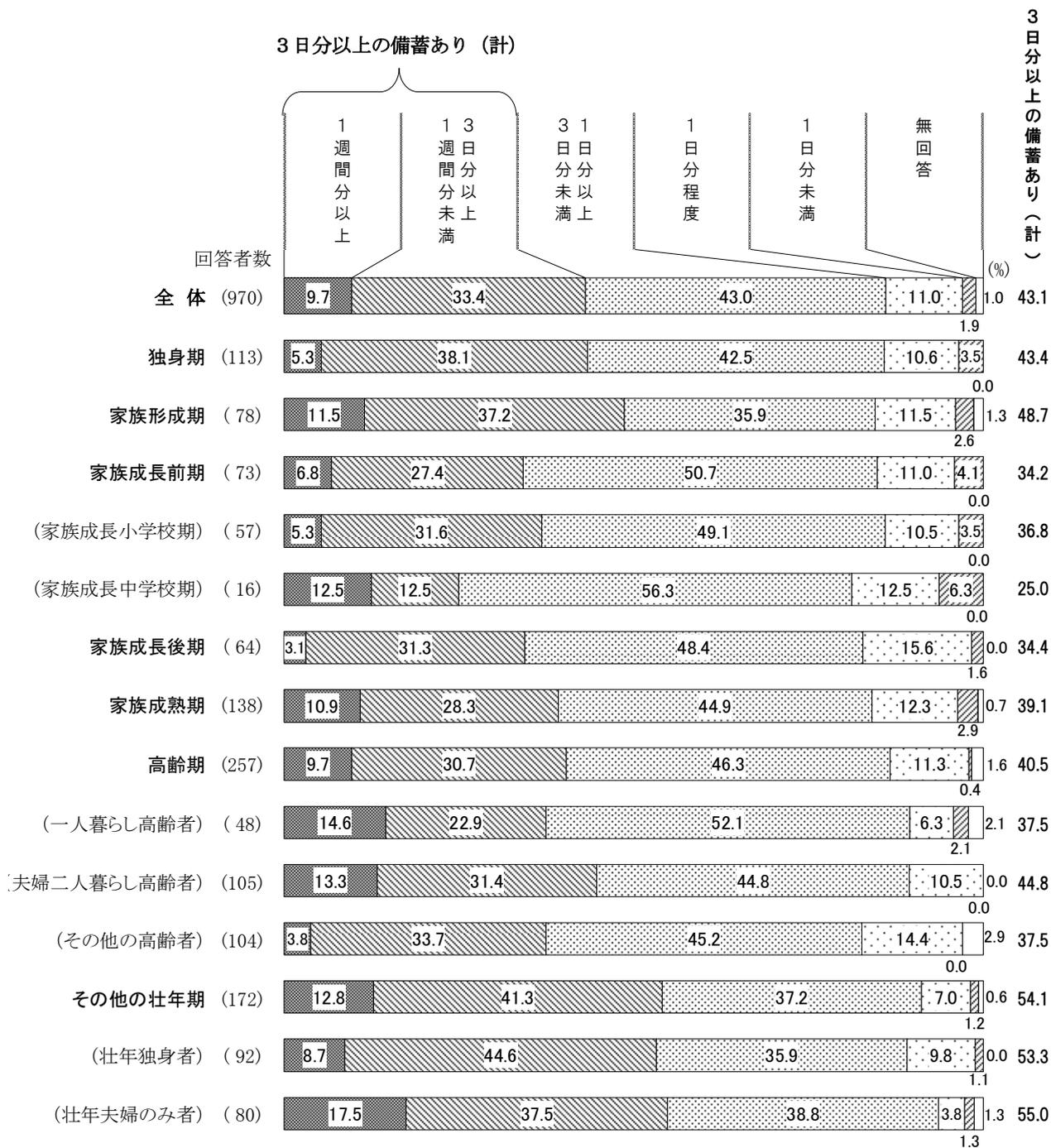
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



ク クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が54.1%で最も高く、次いで、〈家族形成期〉が48.7%となっている。逆に〈家族成長前期〉が34.2%で最も低くなっている。

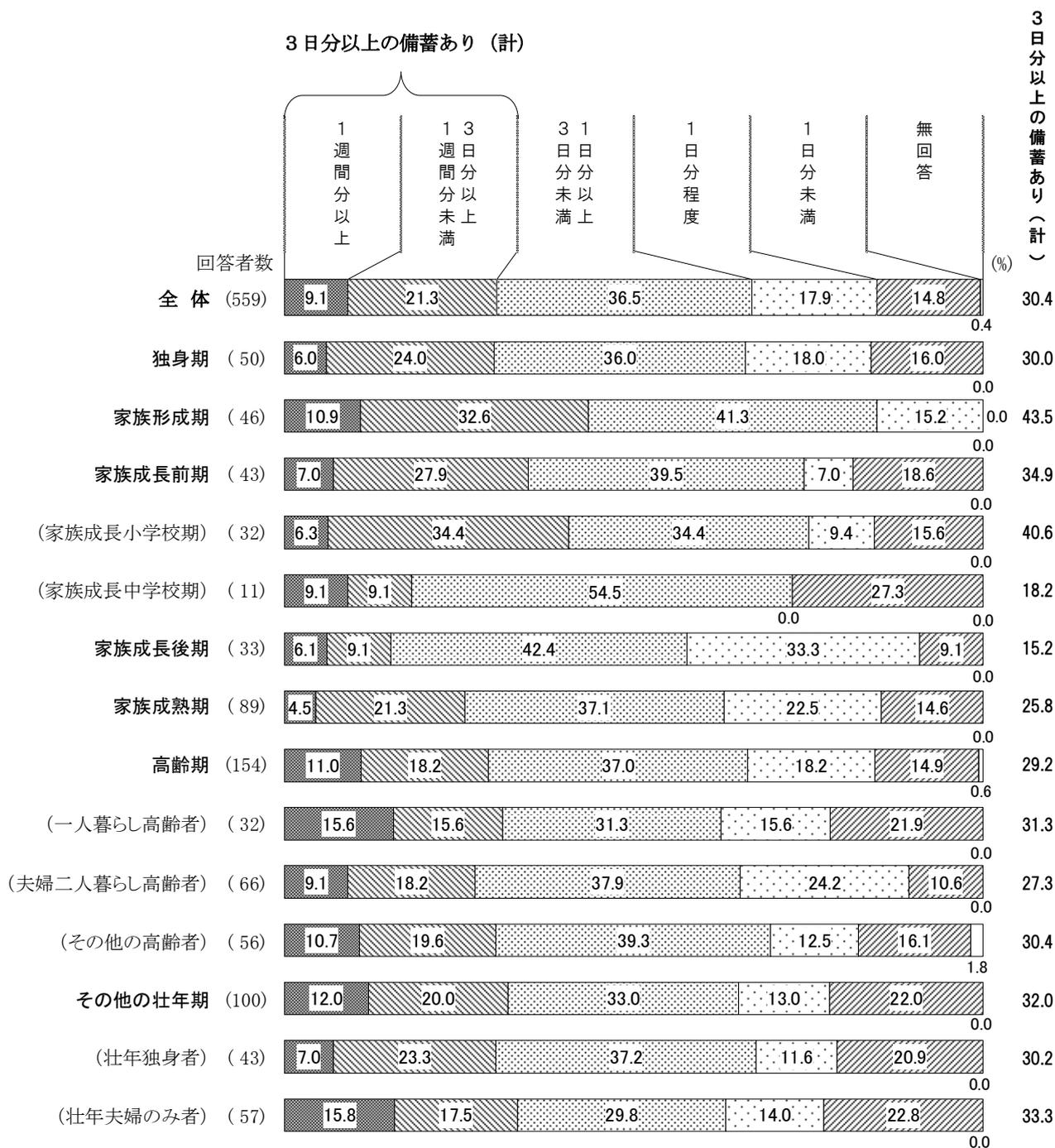
図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



ケ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が43.5%で最も高く、次いで、〈家族成長前期〉が34.9%となっている。逆に〈家族成長後期〉が15.2%で最も低くなっている。

図2-3-3-③ ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



（4）家具類の転倒・落下・移動防止対策

問5 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

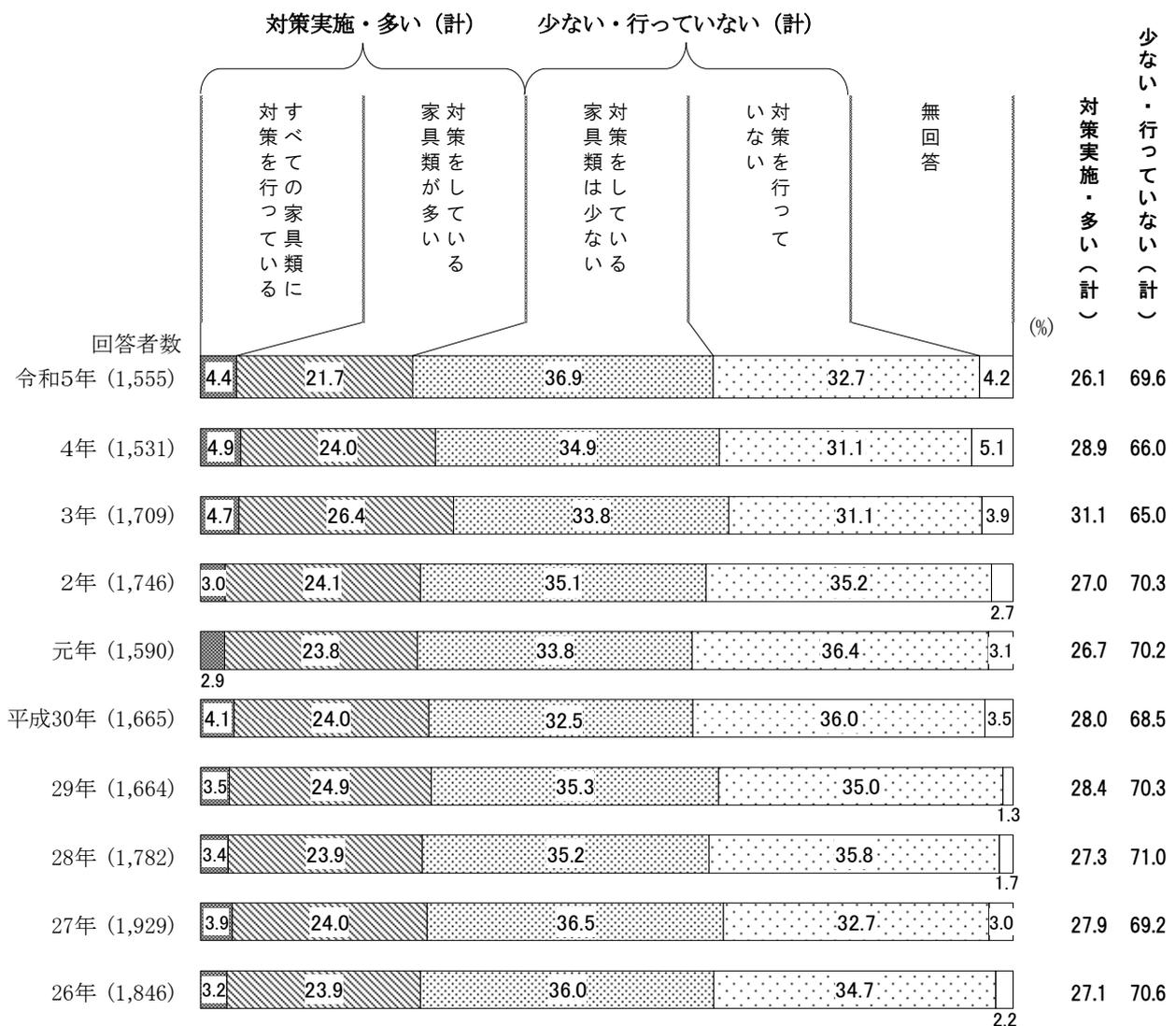
■ 【少ない・行っていない】が約7割で、【対策実施・多い】が2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

（ア）家具類の転倒・落下・移動防止対策について、「すべての家具類に対策を行っている」は4.4%で、これに「対策をしている家具類が多い」（21.7%）を合わせた【対策実施・多い】は26.1%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.9%で最も高く、これに「対策を行っていない」（32.7%）を合わせた【少ない・行っていない】は69.6%となっている。

（イ）前回調査と比較すると、【対策実施・多い】が2.8ポイント減少した。

図2-4-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

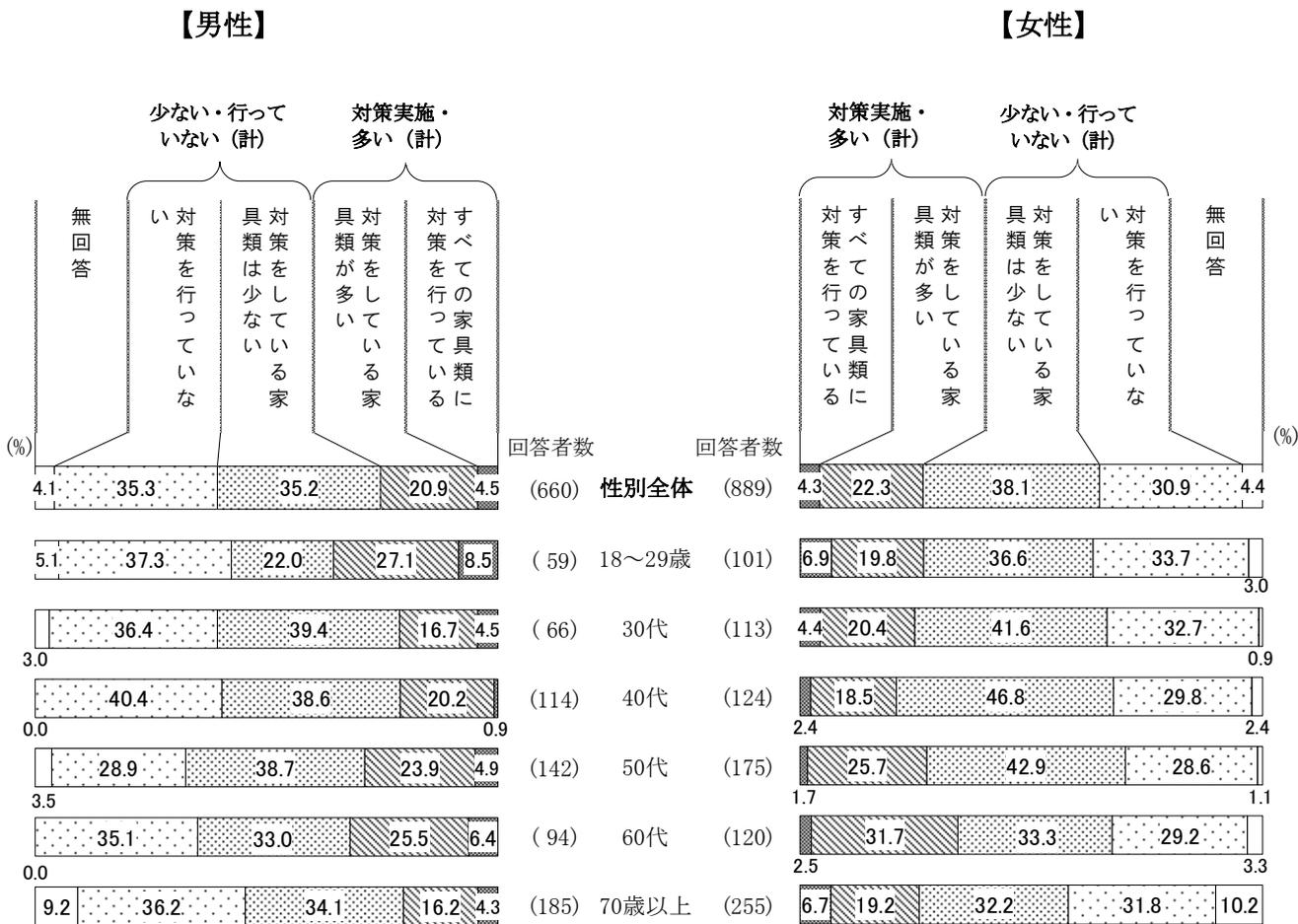


イ クロス集計・性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、【対策実施・多い】は、男性の18～29歳（35.6%）で最も高く、次いで、女性の60代（34.2%）、男性の60代（31.9%）となっている。逆に、男性の70歳以上が20.5%で最も低い割合となっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

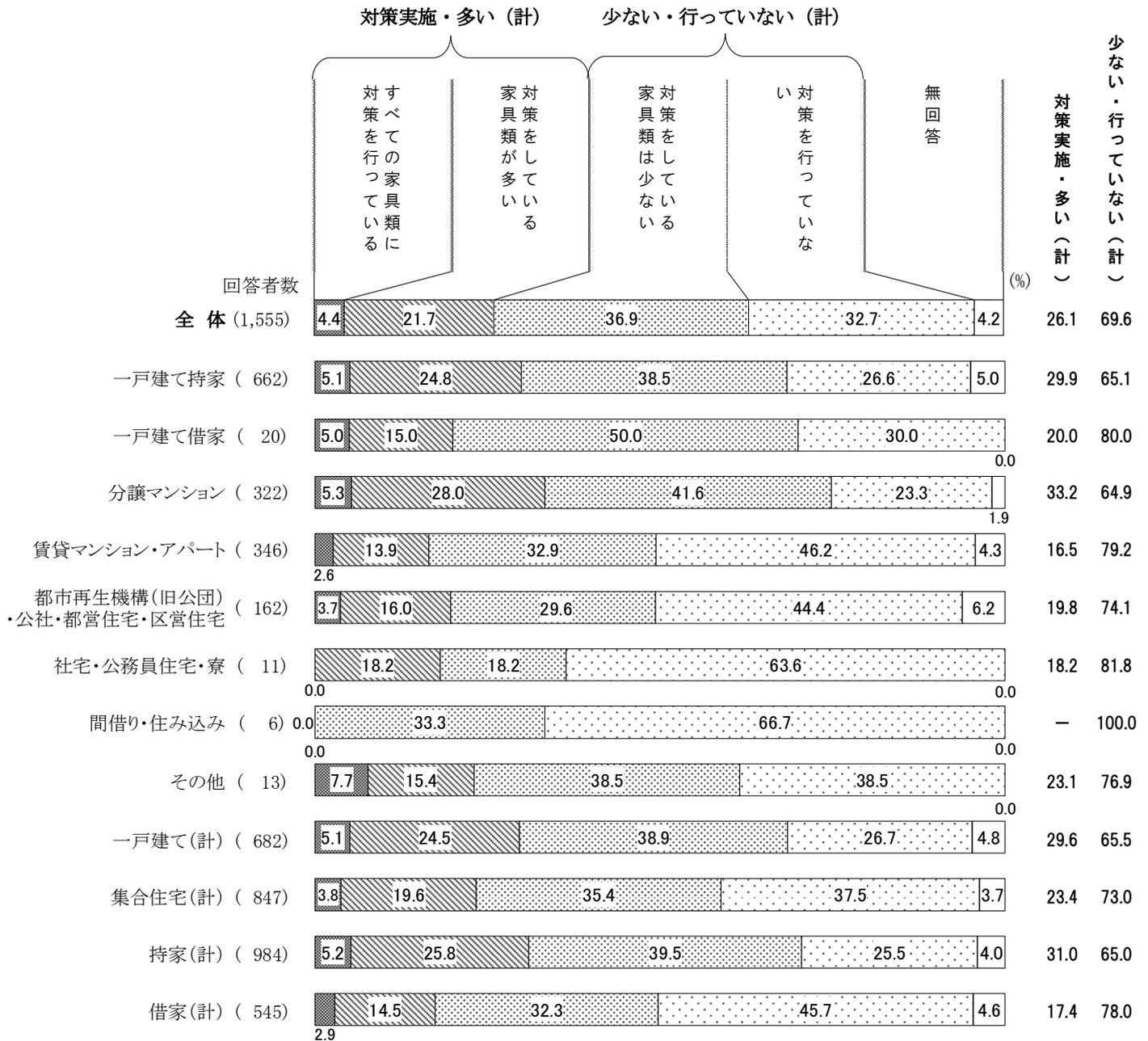


ウ クロス集計・住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

(ア) 【対策実施・多い】を住宅の戸建て集合別にみると、〈一戸建て(計)〉(29.6%)の方が〈集合住宅(計)〉(23.4%)より6.2ポイント高くなっている。

(イ) 【対策実施・多い】を住宅の所有形態別にみると、〈持家(計)〉(31.0%)の方が〈借家(計)〉(17.4%)より13.6ポイント高くなっている。

図2-4-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(5) 対策をしていない理由

問5で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に問5-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「面倒である」が3割半ば超、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が2割超

ア 単純集計・経年比較／対策をしていない理由

(ア) 家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が37.4%で最も高く、次いで「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(21.2%)、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(19.7%)、「建物の壁にキズをつけたくない」(19.6%) などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「面倒である」が8.5ポイント増加し、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が8.3ポイント減少している。

図2-5-1-① 経年比較／対策をしていない理由

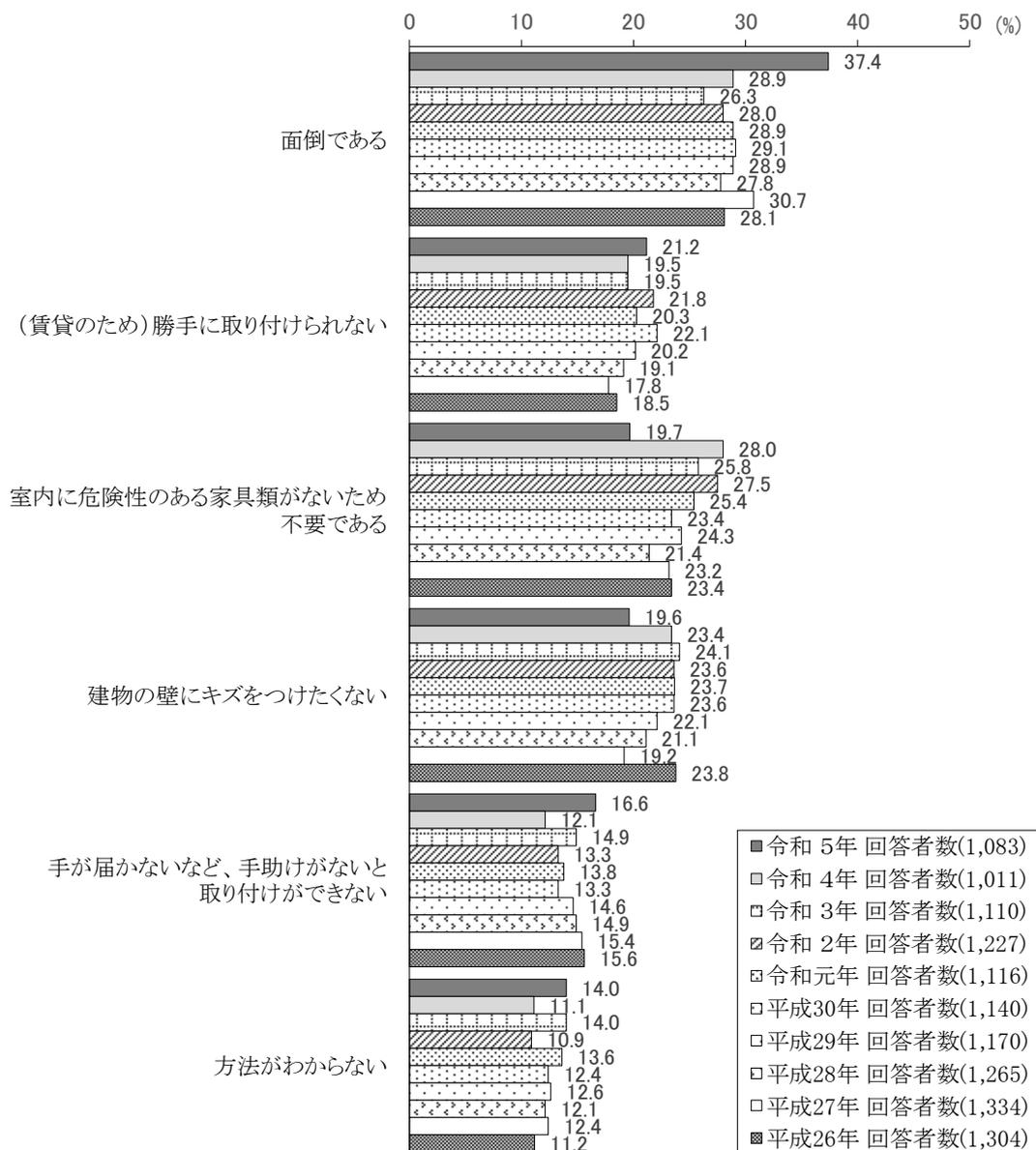
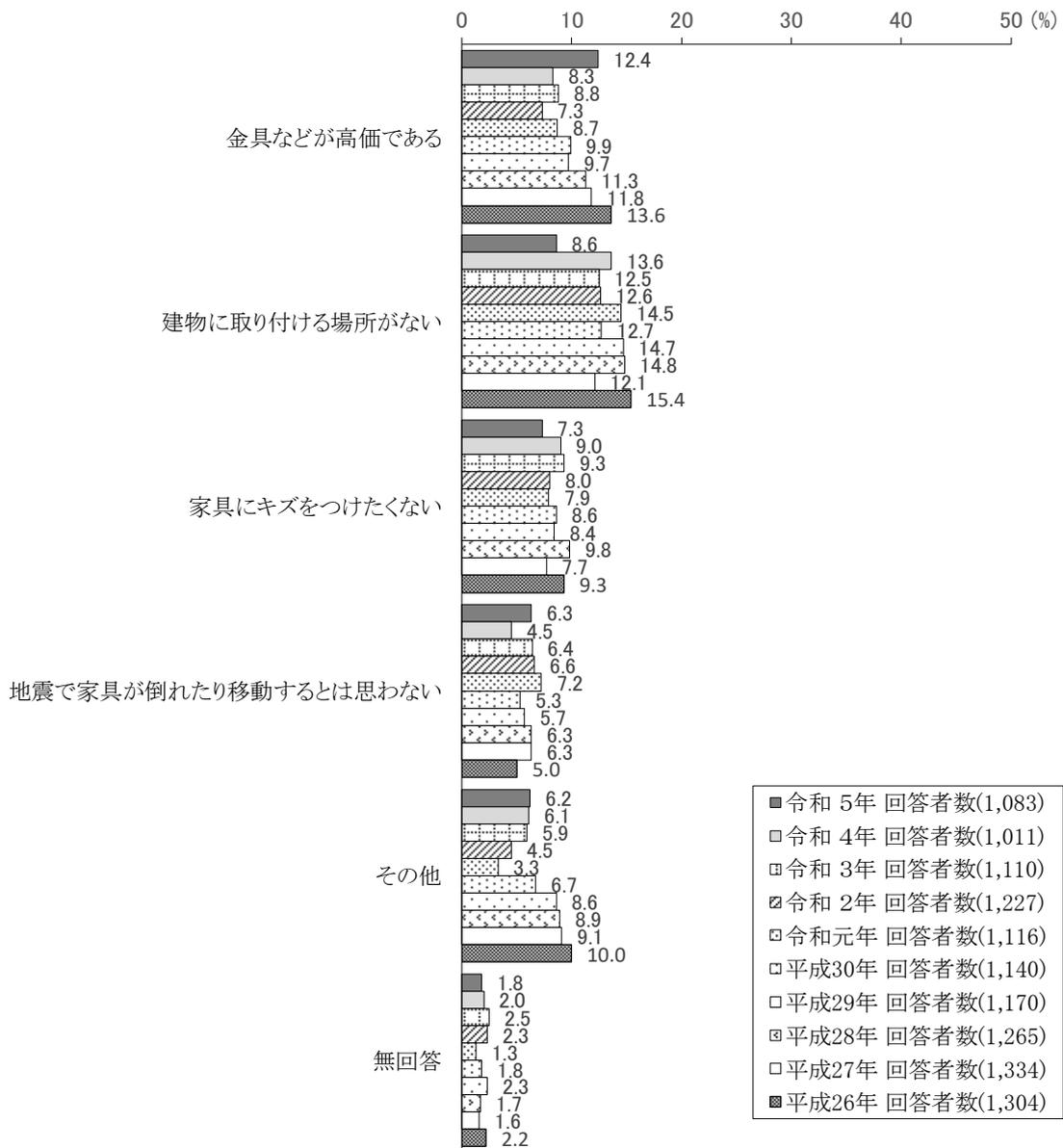


図2-5-1-② 経年比較／対策をしていない理由



イ クロス集計・住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目

(ア) 対策をしていない理由（住宅の戸建て集合別）

a 〈一戸建て（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈集合住宅（計）〉の方が高くなっている項目

「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」、「建物の壁にキズをつけたくない」など

(イ) 対策をしていない理由（住宅の所有形態別）

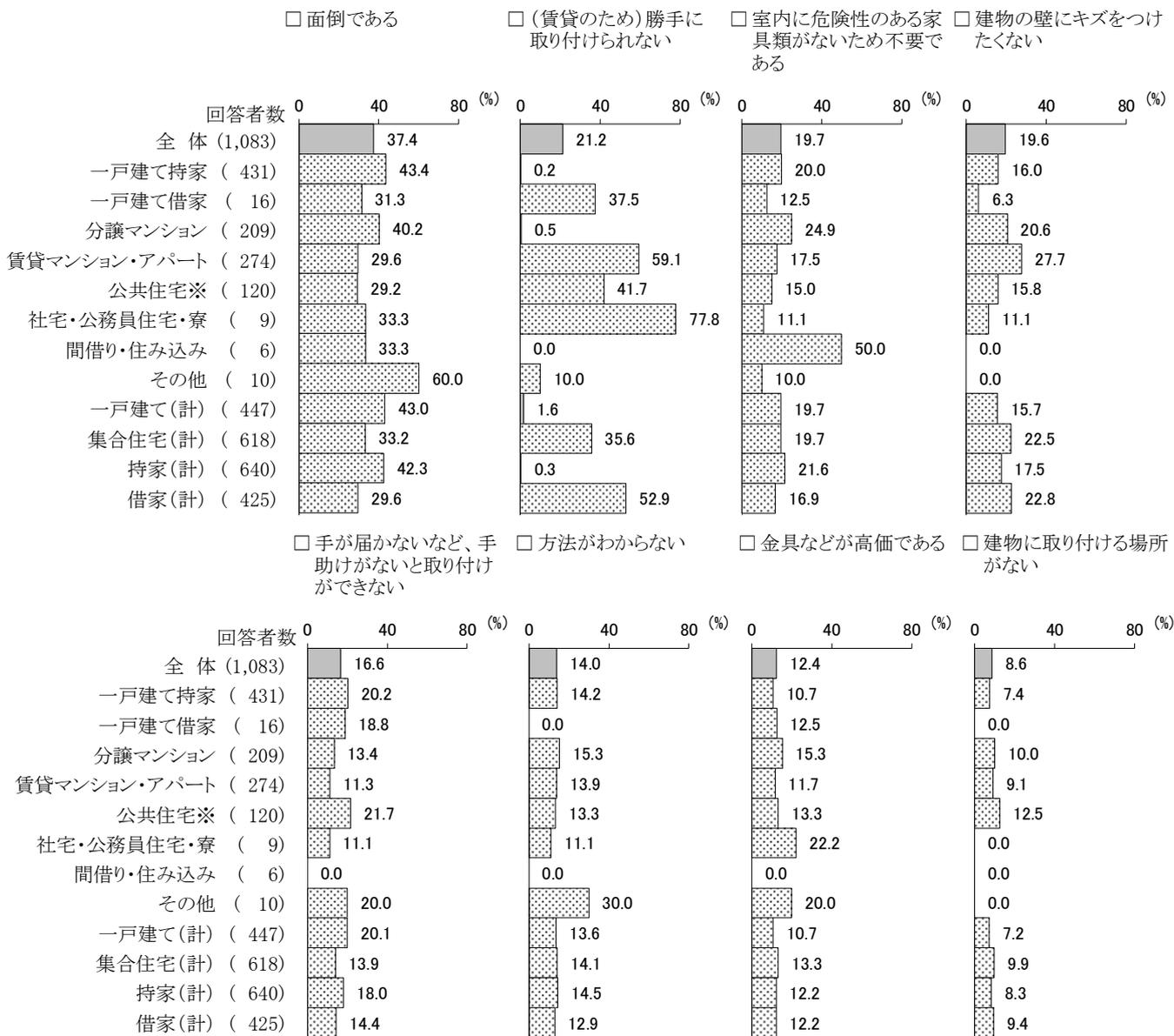
a 〈持家（計）〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」など

b 〈借家（計）〉の方が高くなっている項目

「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」、「建物の壁にキズをつけたくない」など

図2-5-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問6 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.5%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（16.0%）

ア【一時集合場所】とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。

イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。

ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

- (ア) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.5%で最も高く、「ア 一時集合場所」(32.8%)、「ウ 第一次避難所」(22.2%)の順となっている。
- (イ) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が25.4%で最も高く、「ア 一時集合場所」(21.9%)、「ウ 第一次避難所」(16.0%)の順となっている。
- (ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「イ 避難場所」(11.1ポイント)、「ア 一時集合場所」(10.9ポイント)、「ウ 第一次避難所」(6.2ポイント)となっている。
- (エ) 前回調査と比較すると、〈意味〉を「知らない」の増加が目立ち、「ア 一時集合場所」が+9.1ポイント、「イ 避難場所」が+10.1ポイント、「ウ 第一次避難所」が+10.2ポイントなどとなっている。

図2-6-1-① 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

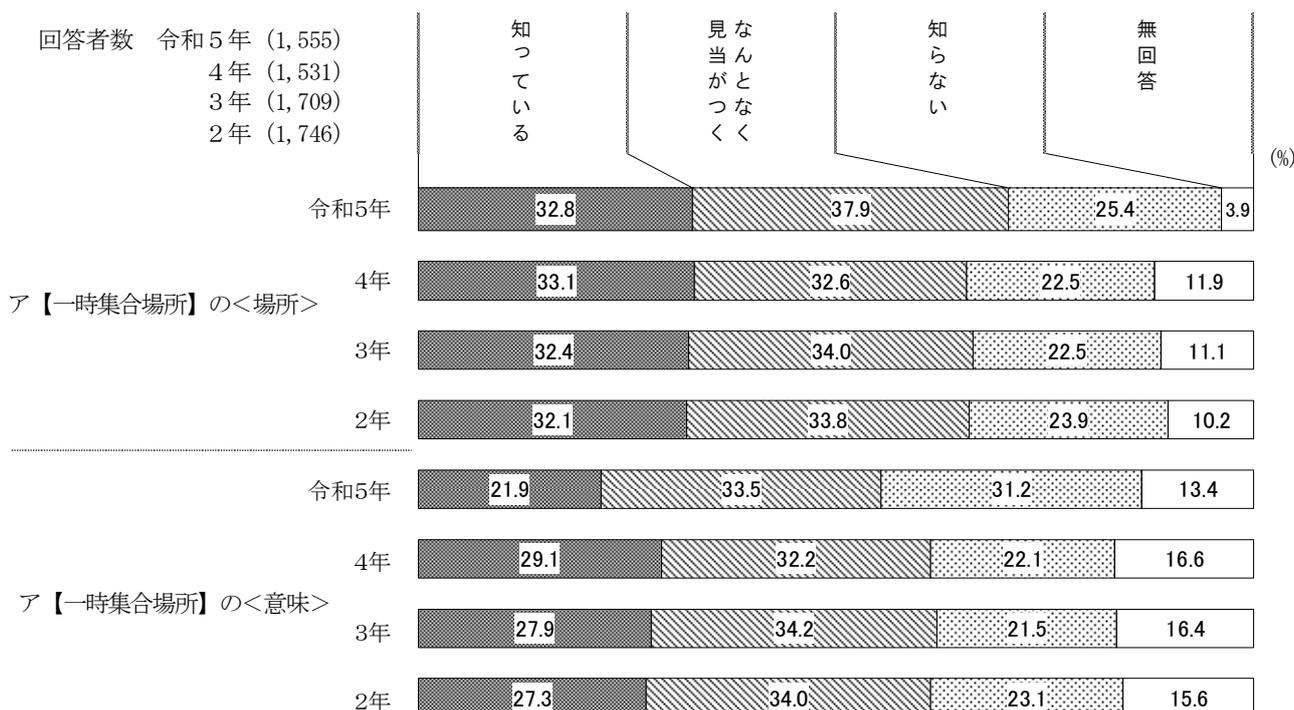
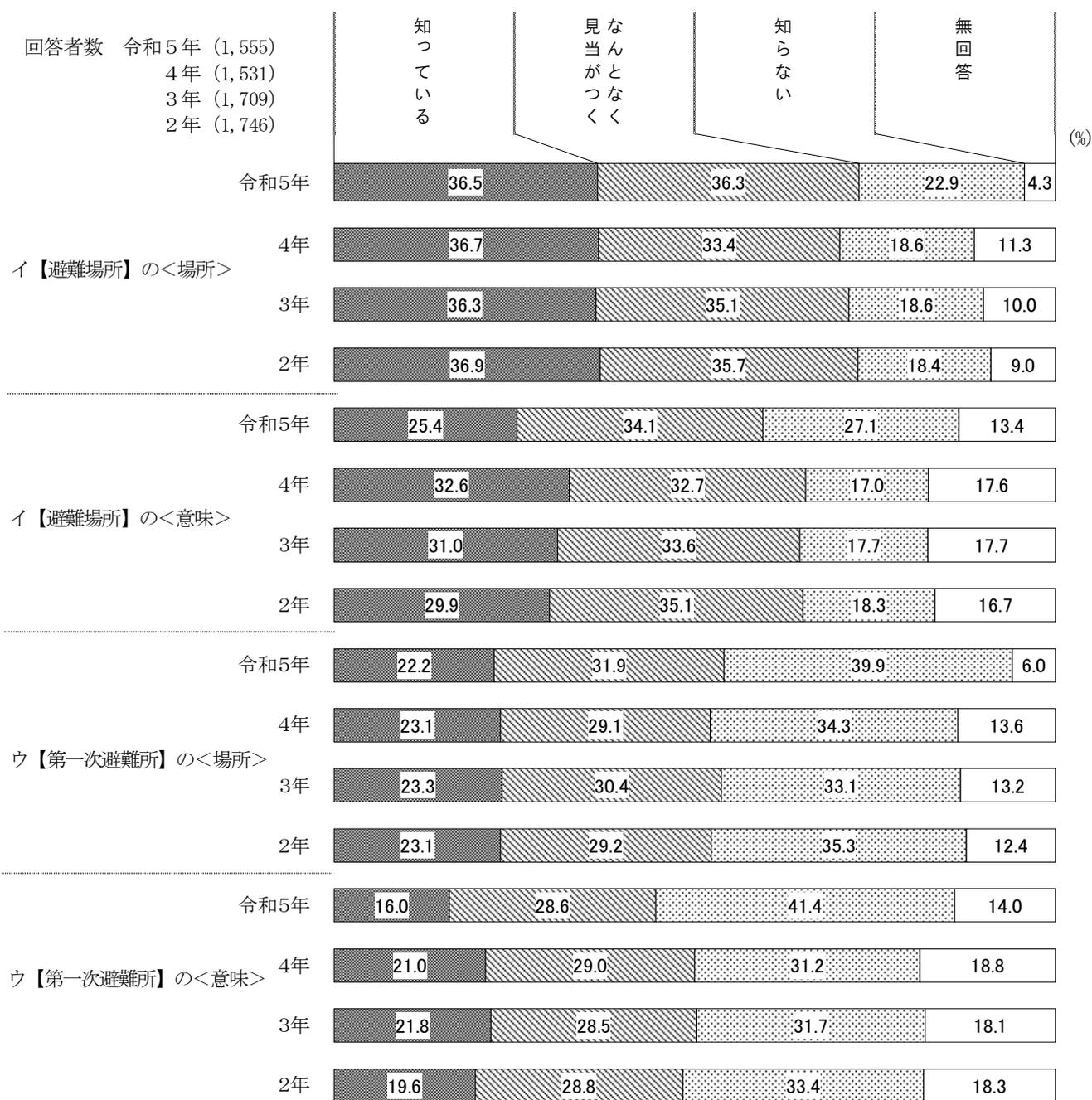
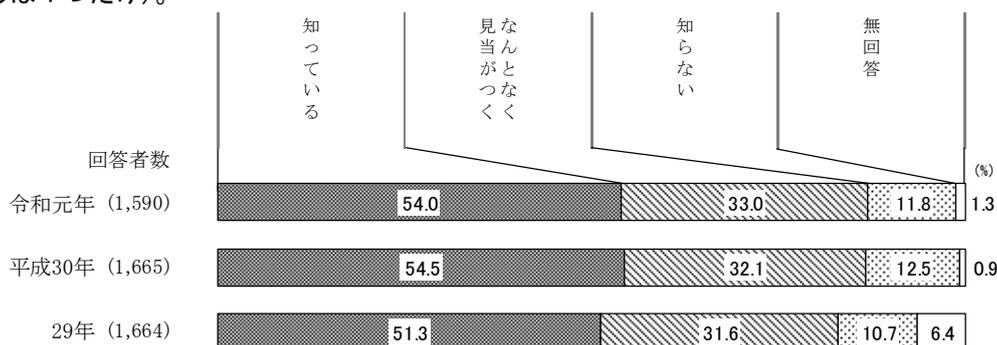


図2-6-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



参考／地域の避難場所の認知

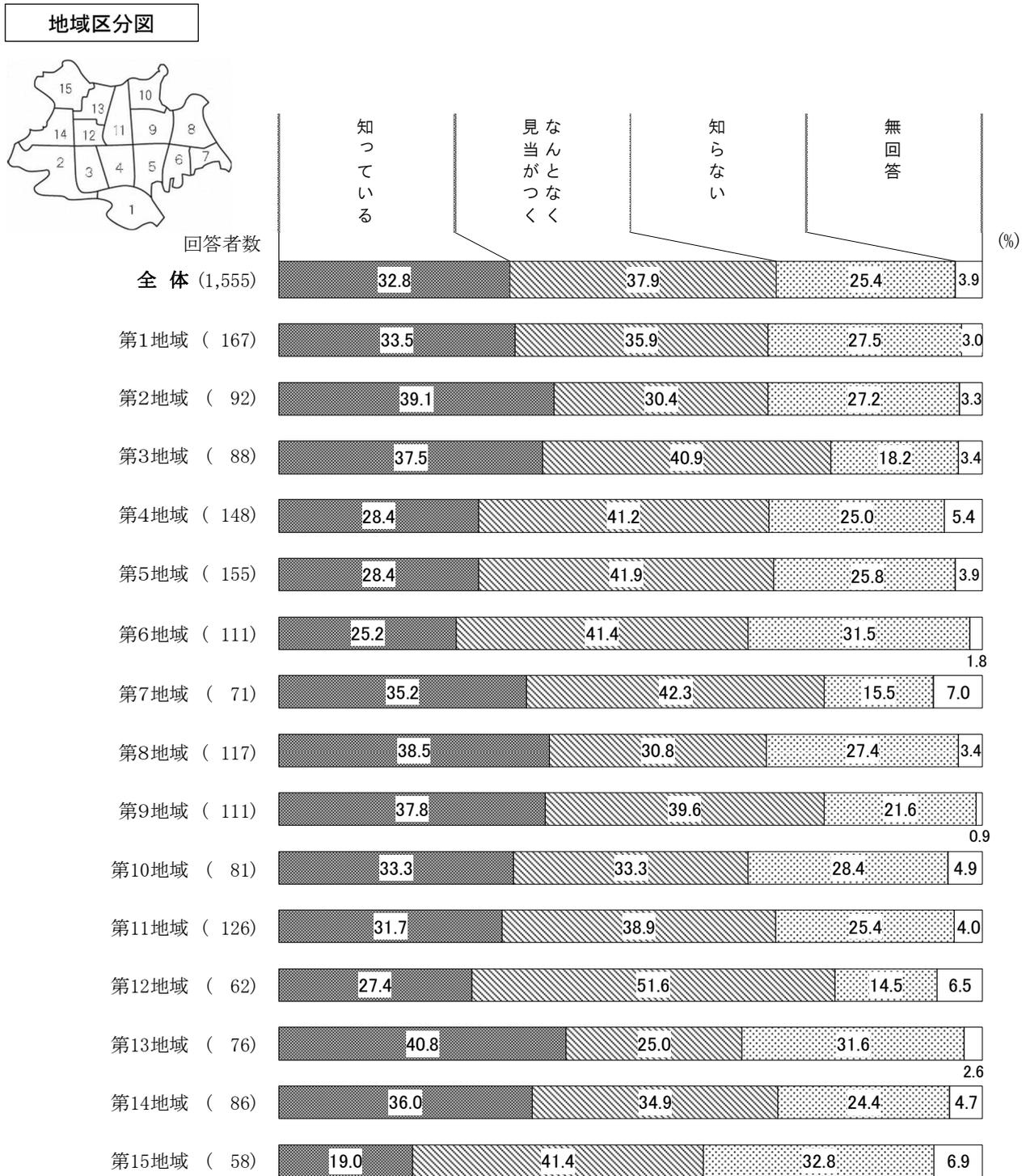
問 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が40.8%で最も高く、次いで、第2地域（39.1%）となっている。一方、第15地域が19.0%で最も低く、次いで第6地域（25.2%）となっている。

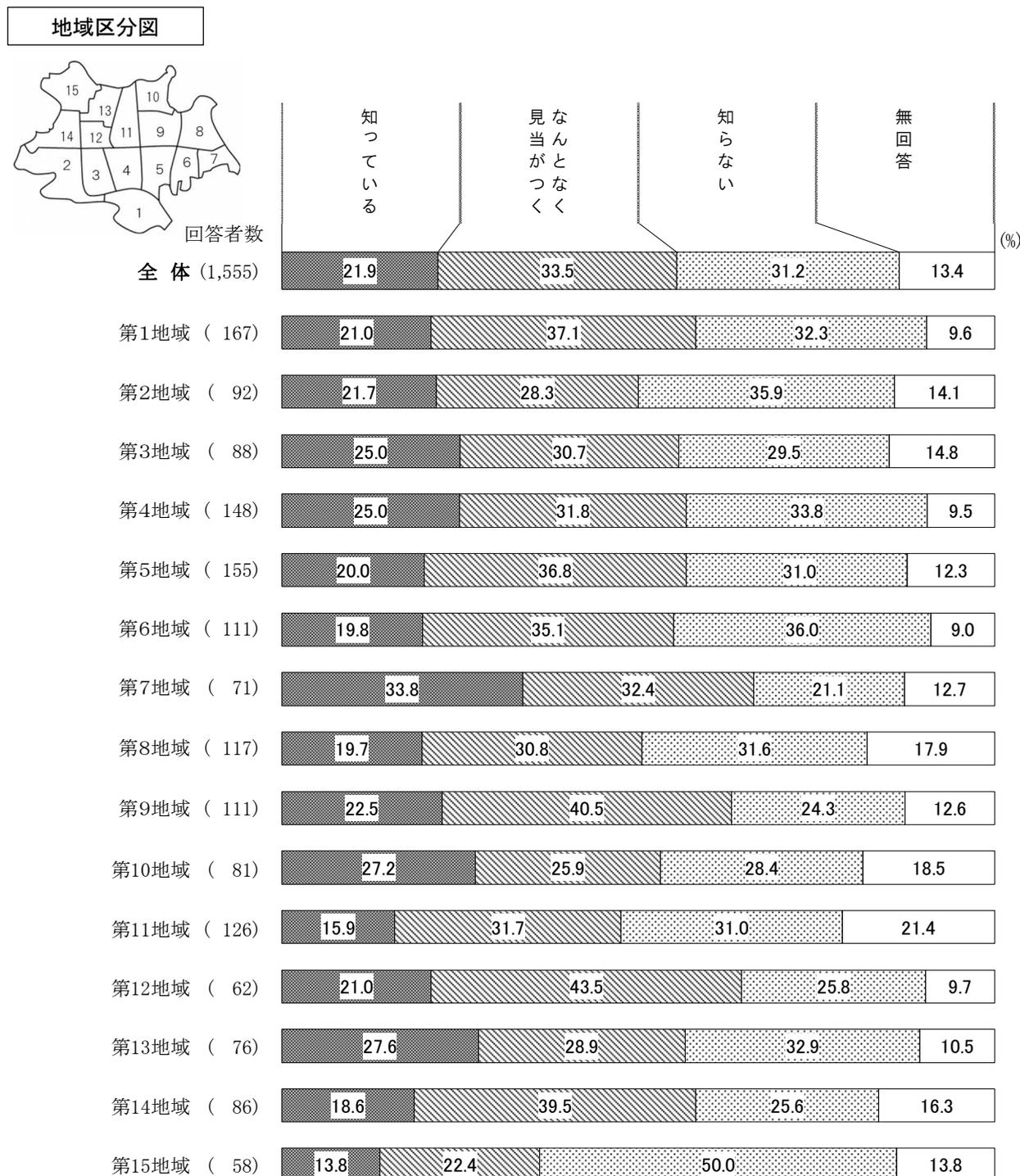
図2-6-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第7地域が33.8%で最も高く、次いで第13地域（27.6%）となっている。一方、第15地域が13.8%で最も低く、次いで第11地域（15.9%）となっている。

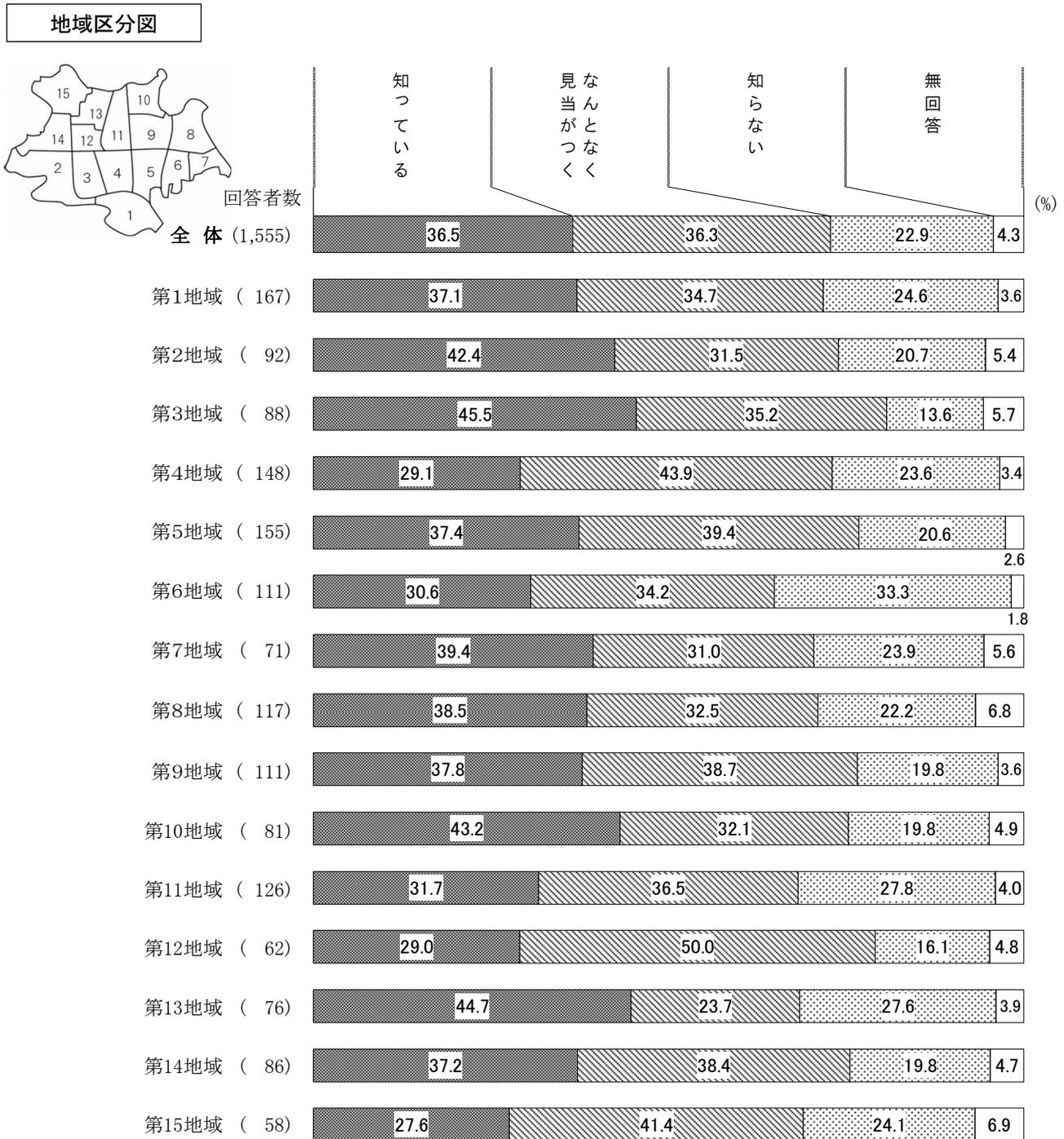
図2-6-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第3地域が45.5%で最も高く、次いで第13地域（44.7%）となっている。一方、第15地域が27.6%で最も低く、次いで第12地域（29.0%）となっている。

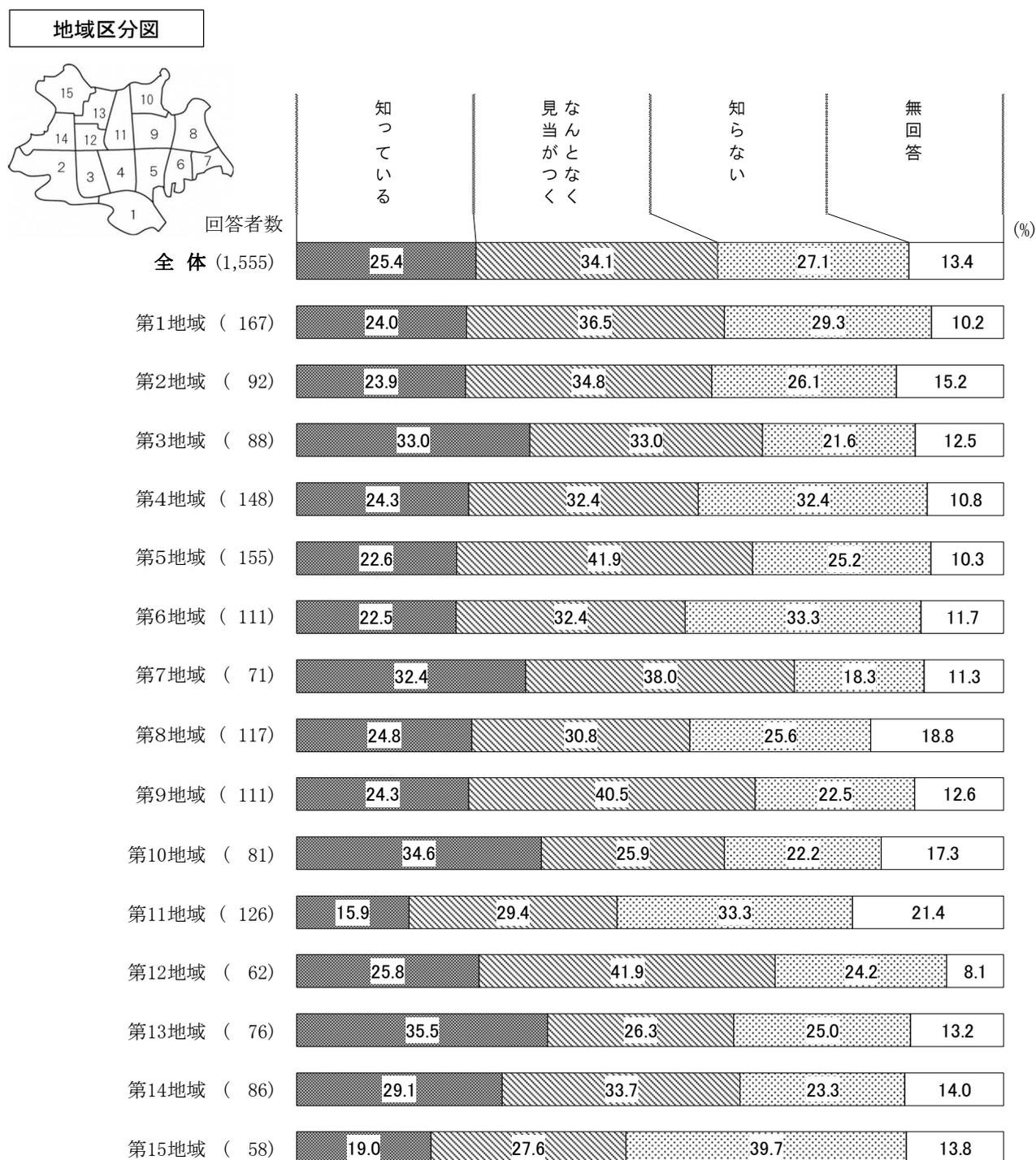
図2-6-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が35.5%で最も高く、次いで第10地域（34.6%）となっている。一方、第11地域が15.9%で最も低く、次いで第15地域（19.0%）となっている。

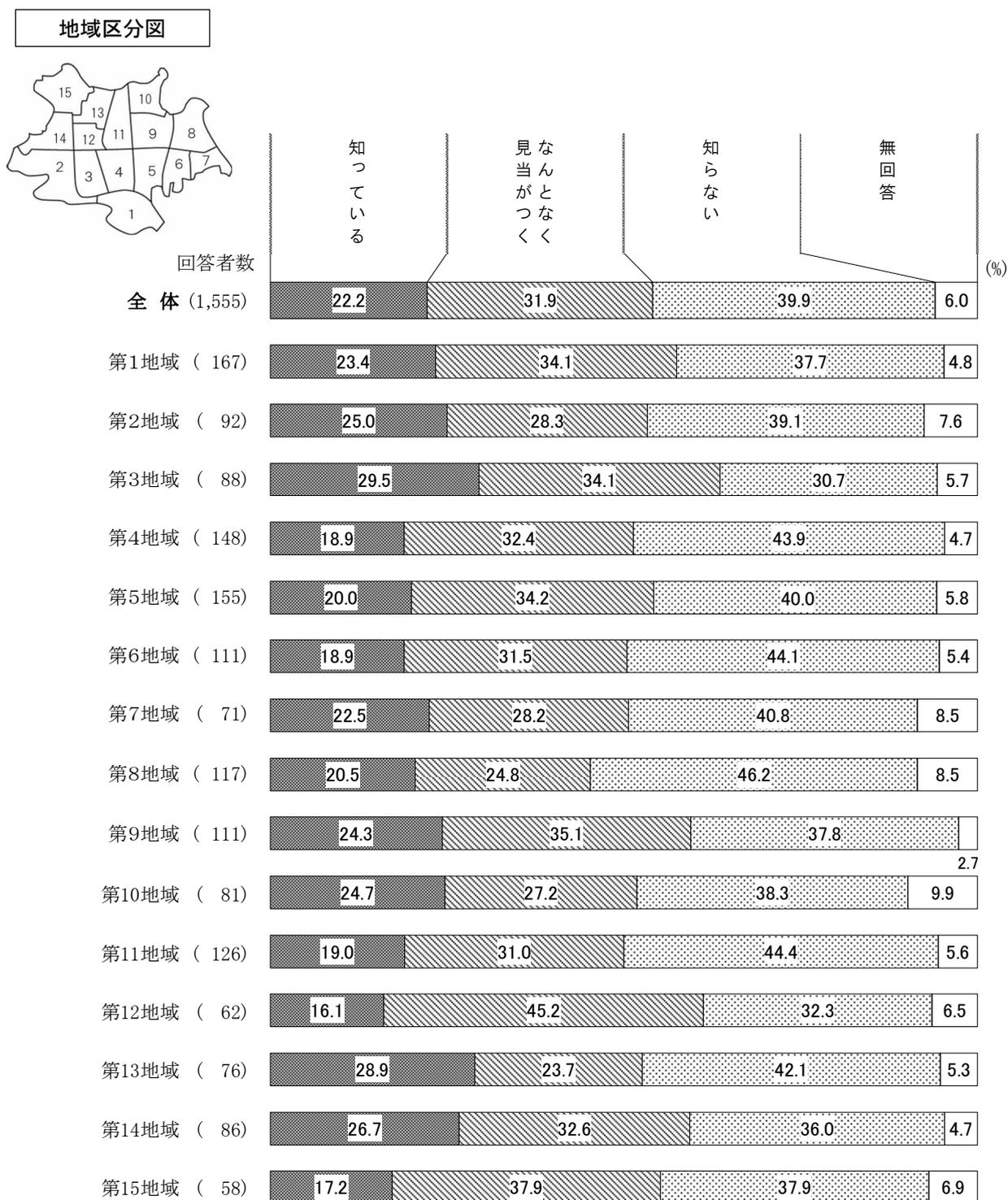
図2-6-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第3地域が29.5%と最も高く、次いで第13地域（28.9%）となっている。一方、第12地域が16.1%で最も低く、次いで第15地域（17.2%）となっている。

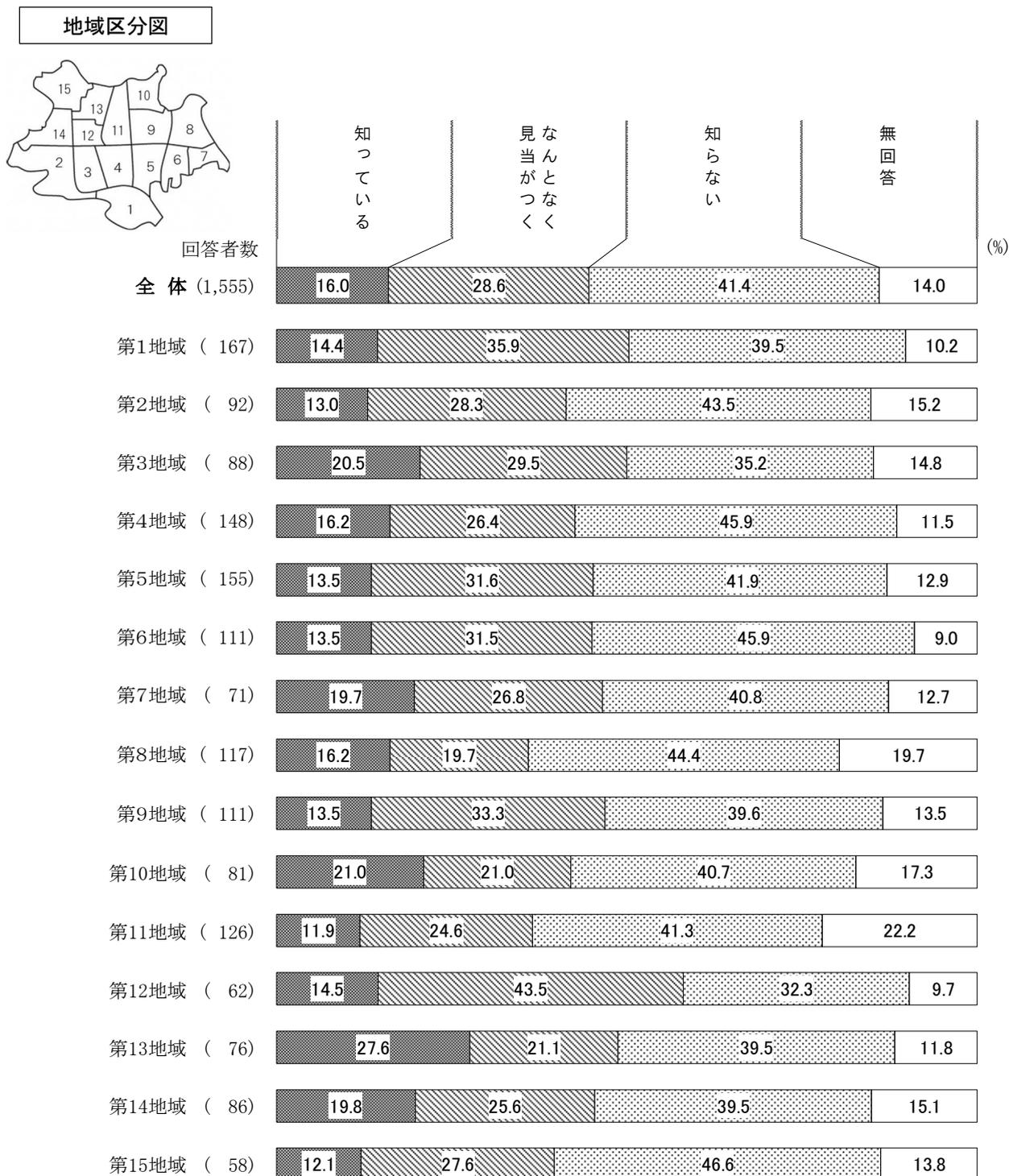
図2-6-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が27.6%で最も高く、次いで第10地域（21.0%）となっている。一方、第11地域が11.9%で最も低く、次いで第15地域（12.1%）となっている。

図2-6-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



(7) 大規模災害時の避難生活場所

問7 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

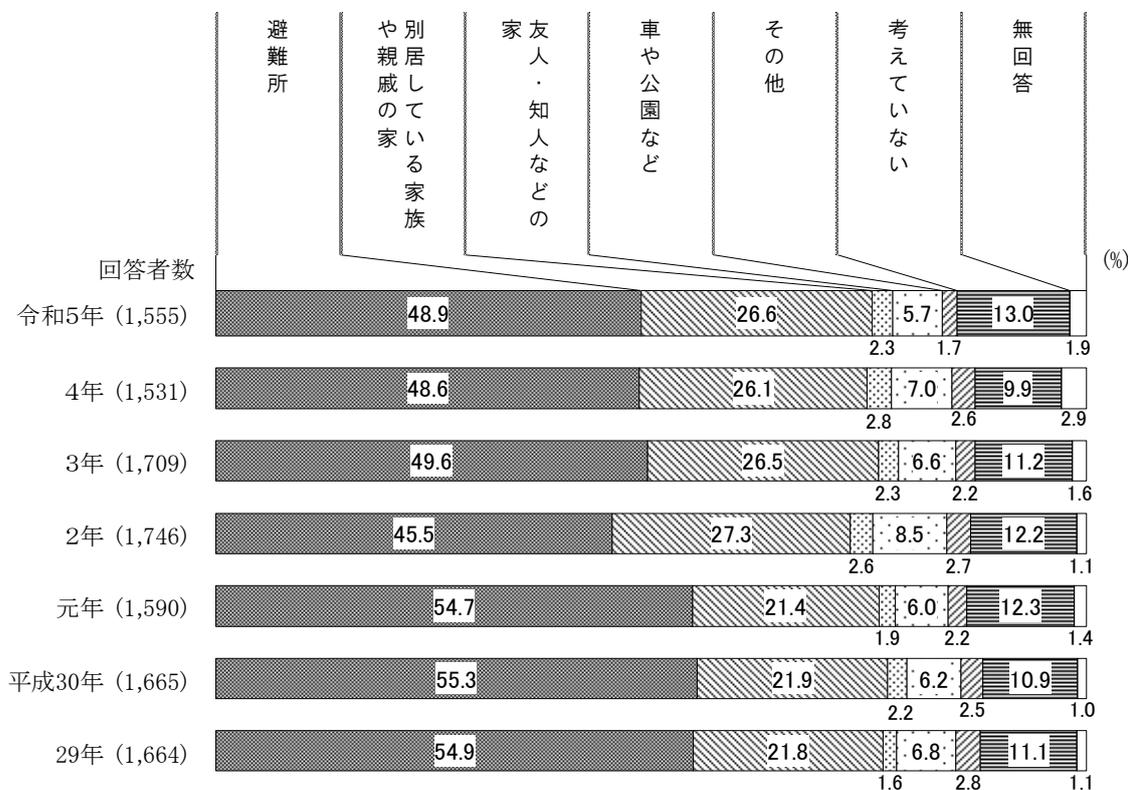
■「避難所」が5割弱で最も高く、他の項目を含めてこの3年間に割合の変化はない

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が48.9%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(26.6%)となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

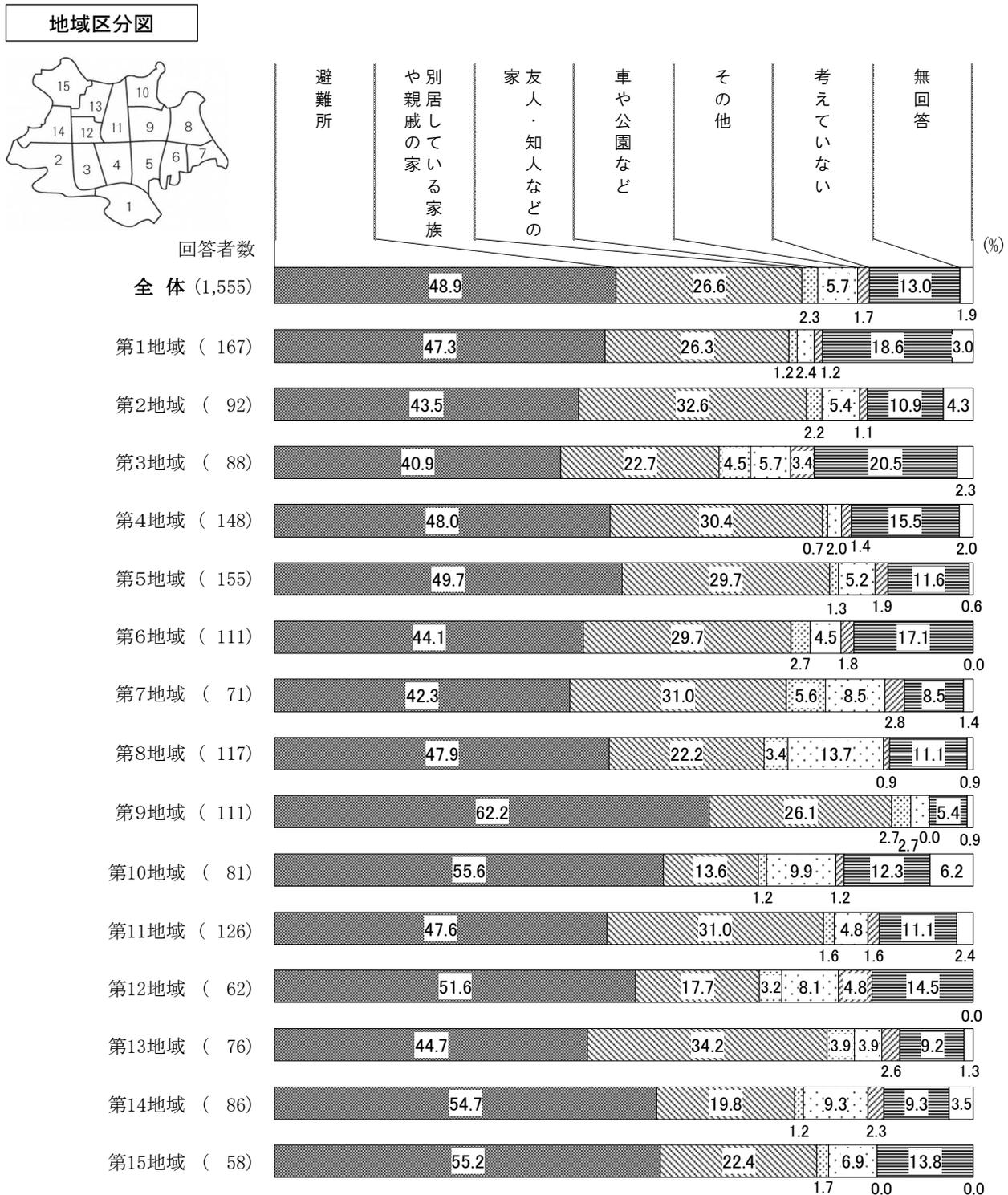
図2-7-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第9地域（62.2%）で最も高く、次いで第10地域（55.6%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第13地域（34.2%）、「車や公園など」は第8地域（13.7%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第3地域（20.5%）で最も高く、第9地域（5.4%）で最も低くなっている。

図2-7-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定状況
 - (3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所
 - (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
-

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

問8 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

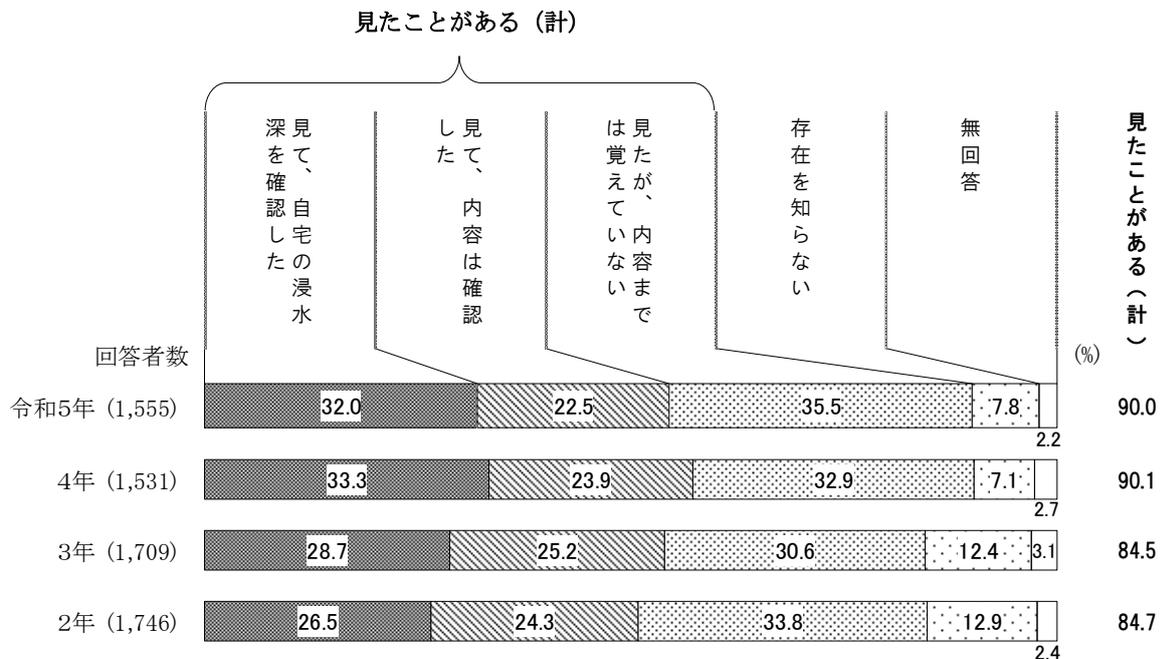
■【見たことがある】は9割で前回調査と変わらず

ア 単純集計・経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が35.5%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」(32.0%)、「見て、内容は確認した」(22.5%)となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割を占めている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

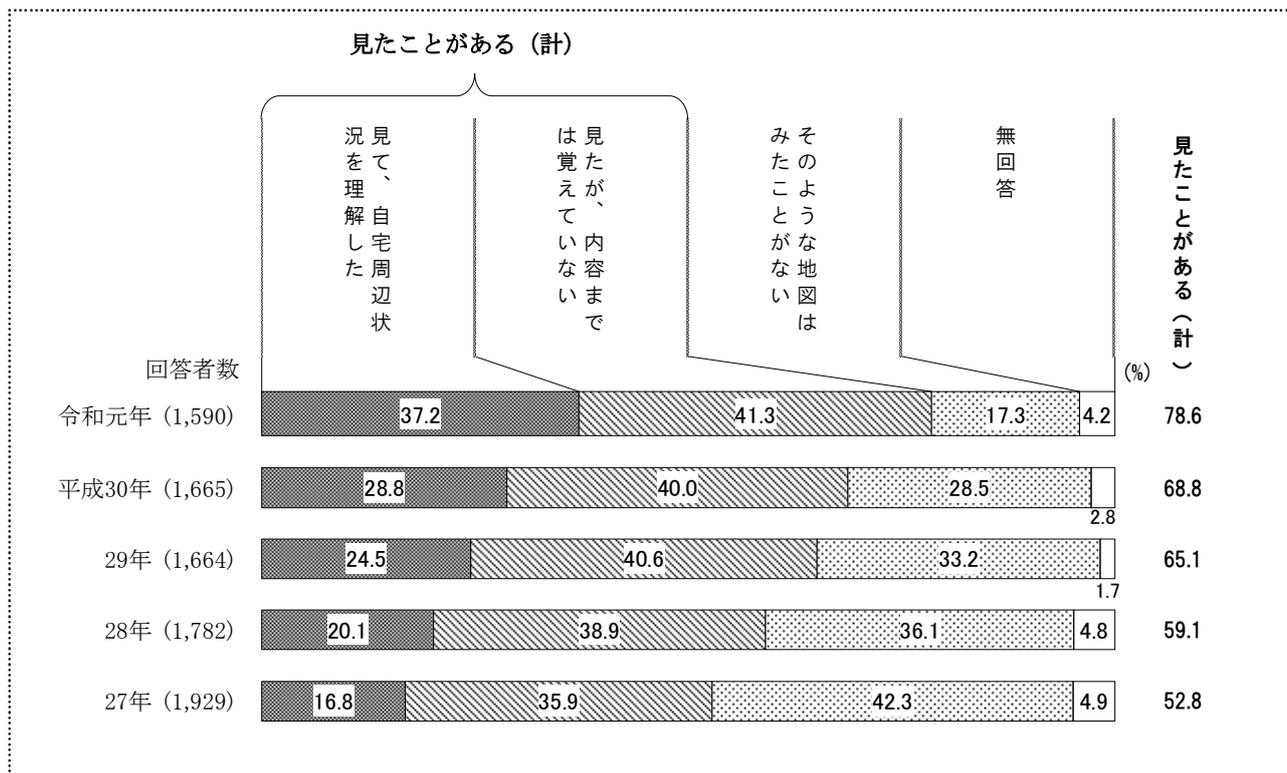
図3-1-1 経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



※ 令和3年度までの『足立区洪水ハザードマップ』は、令和4年度から、『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』に名称が変更となった。

※ 「存在を知らない」は令和4年度までは「そのような地図はみたことがない」。

参考／「足立区洪水ハザードマップ」の認知（令和元年度までの選択肢）



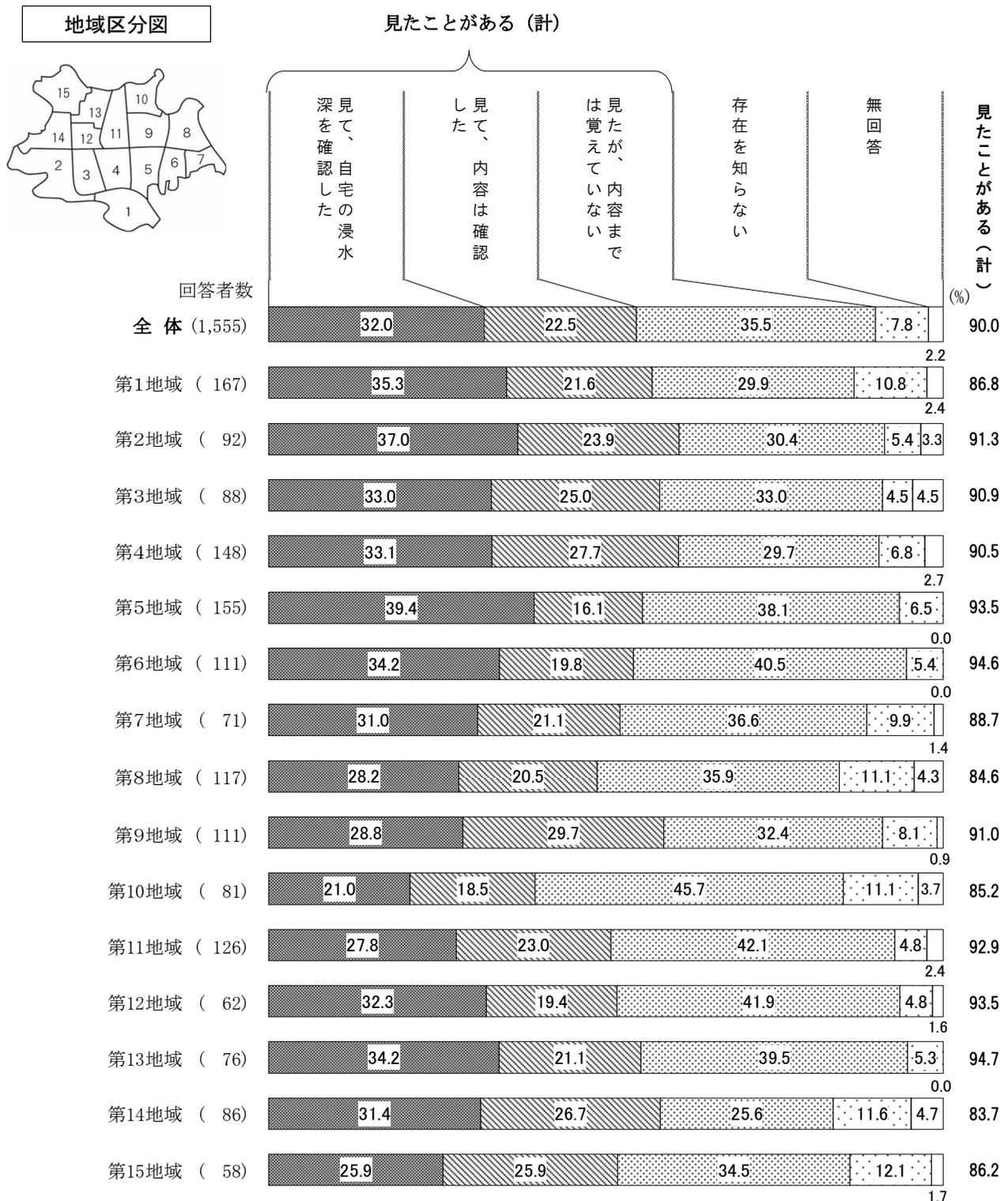
※ 令和2年度から、令和元年度までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

イ クロス集計・地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第5地域で39.4%と最も高く、第2地域が37.0%で続いており、第10地域で21.0%と最も低くなっている。また、【見たことがある】では第13地域で94.7%と最も高く、僅差で第6地域、第5地域、第12地域が9割台半ばで続いており、第14地域が83.7%で最も低くなっている。

図3-1-2 地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

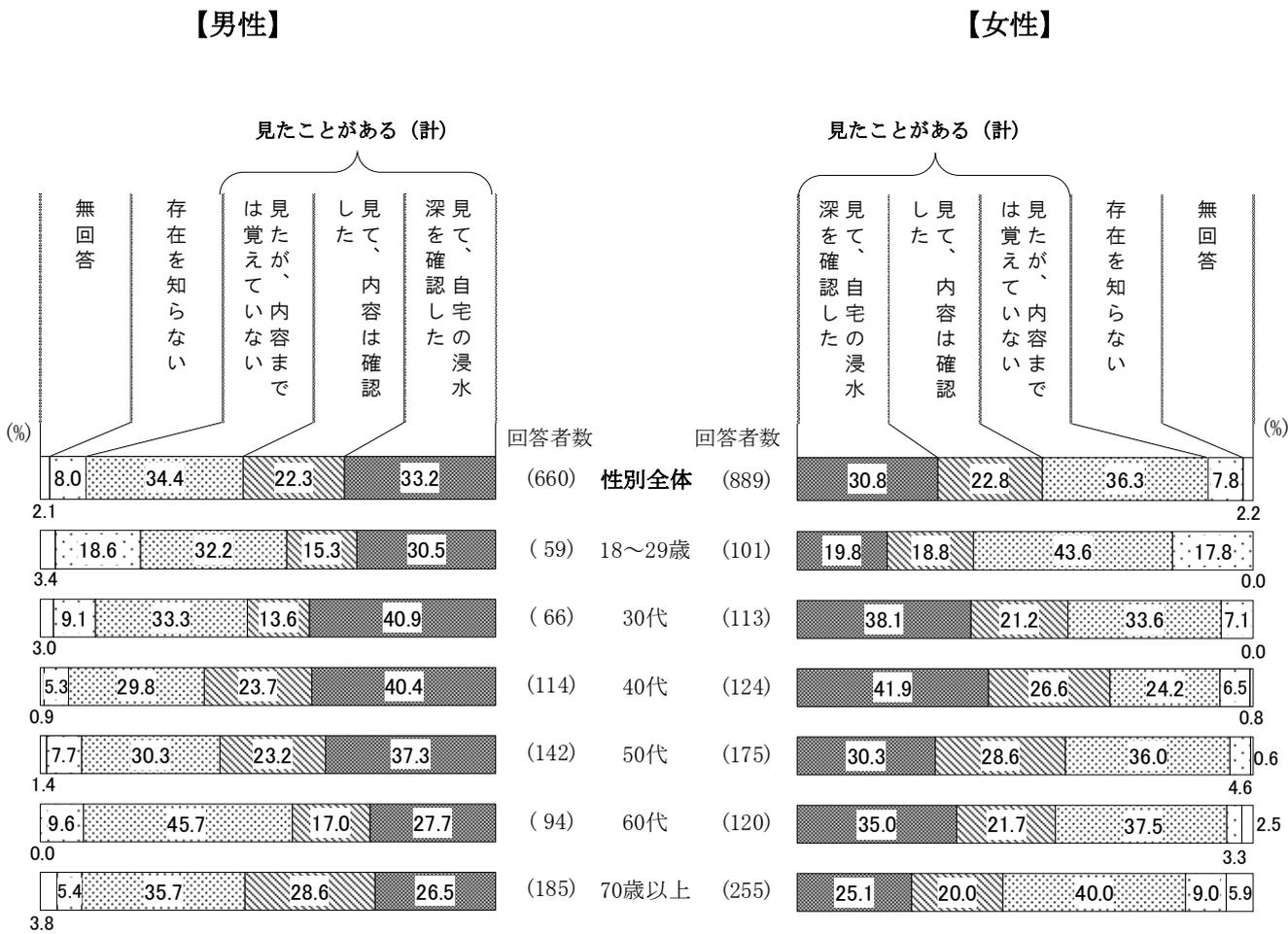


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は女性の40代で41.9%と最も高く、女性の18～29歳が19.8%で最も低くなっている。【見たことがある】でみると、女性の50代で94.9%と最も高く、男性の18～29歳で78.0%と最も低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

問9 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか
(○は1つだけ)。

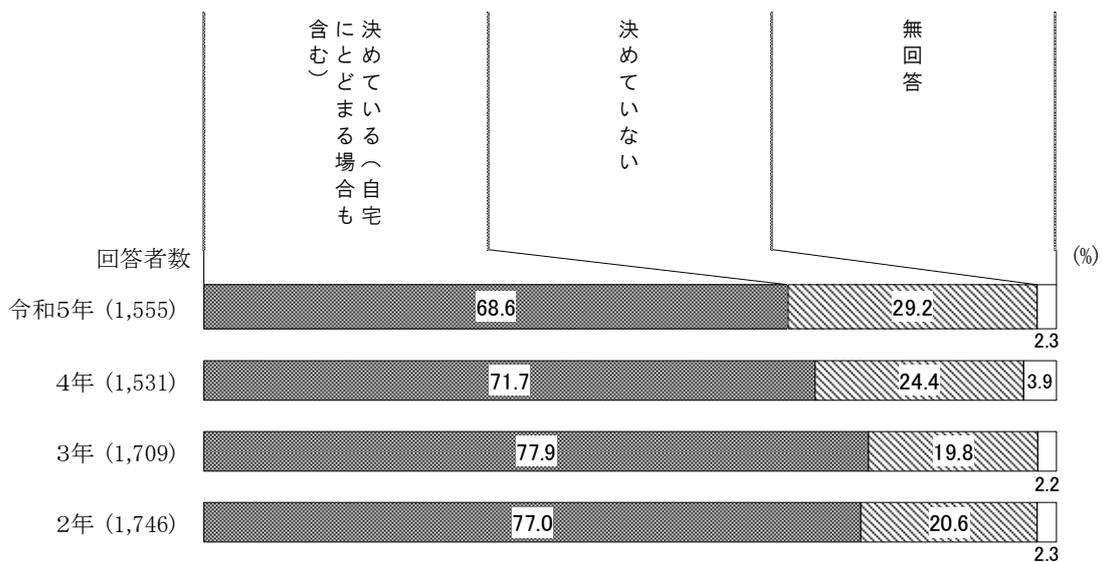
■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が7割弱

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合の避難場所の事前決定状況は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が68.6%を占めており、「決めていない」は29.2%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が3.1ポイント減少し、「決めていない」が4.8ポイント増加している。

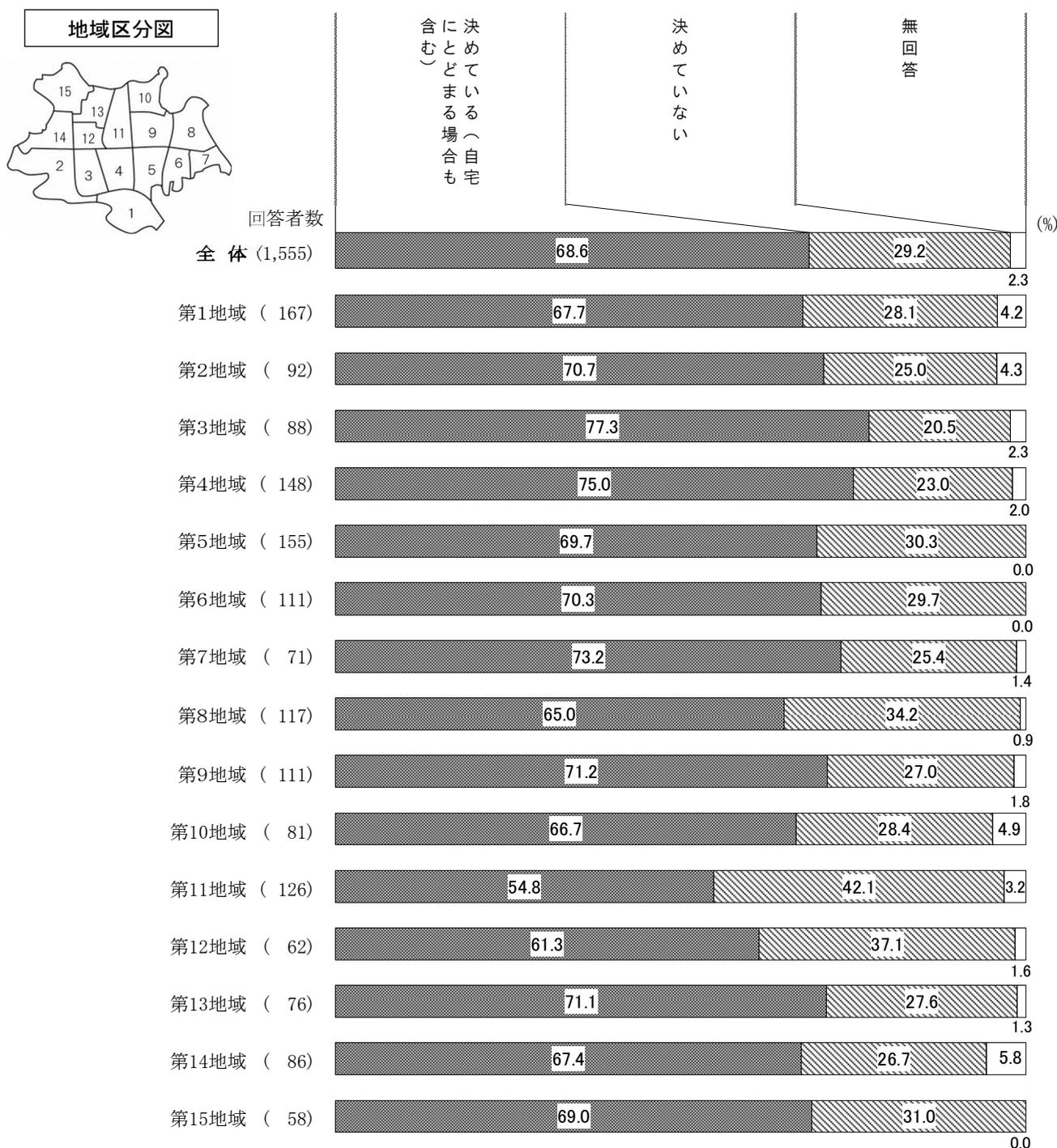
図3-2-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第3地域が77.3%と最も高く、次いで、第4地域が75.0%となっている。一方、第11地域が54.8%と最も低く、次いで、第12地域が61.3%となっている。

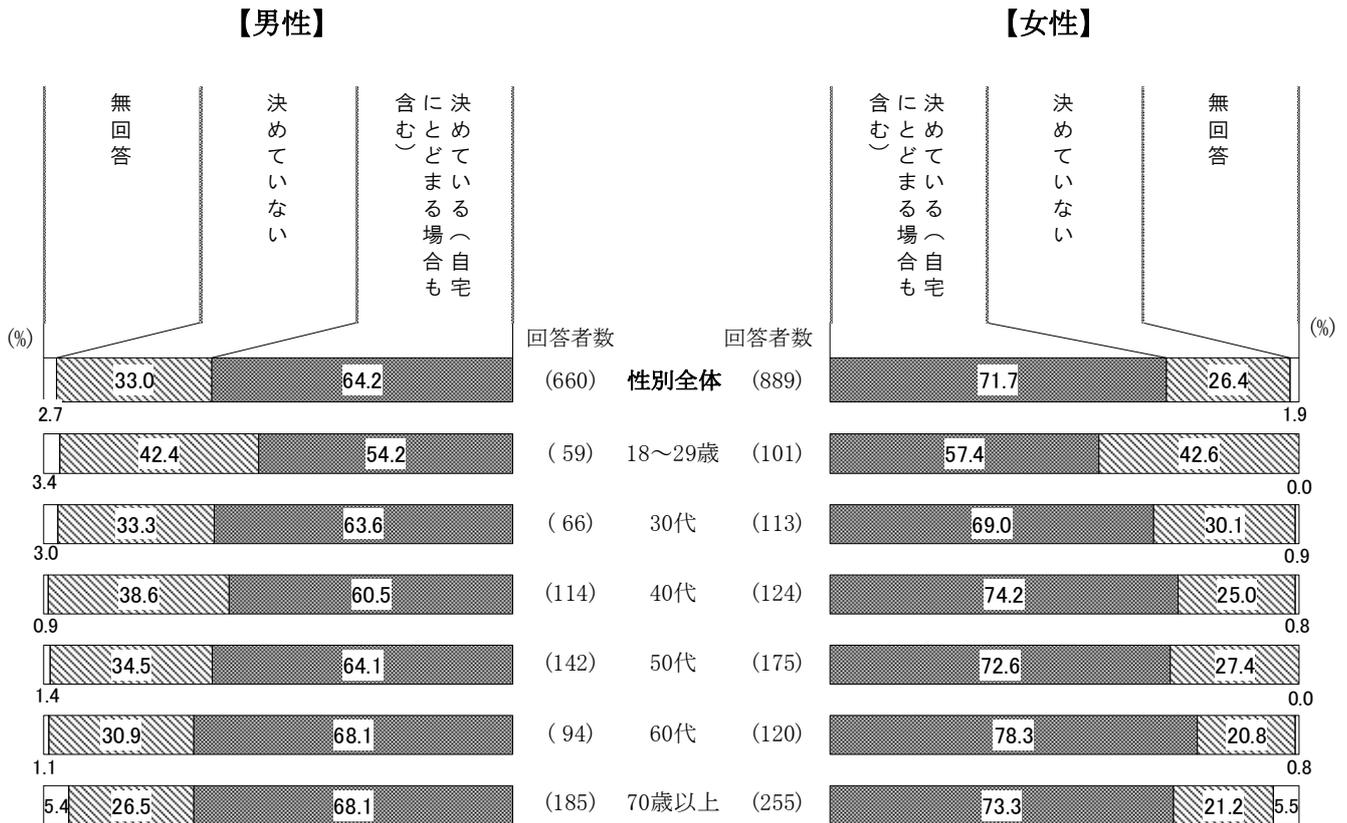
図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



ウ クロス集計・性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況

- (ア) 性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、女性（71.7%）の方が男性（64.2%）より7.5ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は女性の60代（78.3%）で最も高く、男性の18～29歳（54.2%）で最も低く、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が低くなっている。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況



（3）事前に決めている河川はん濫時の避難場所

問9で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に
 問9—1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。

■「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割強

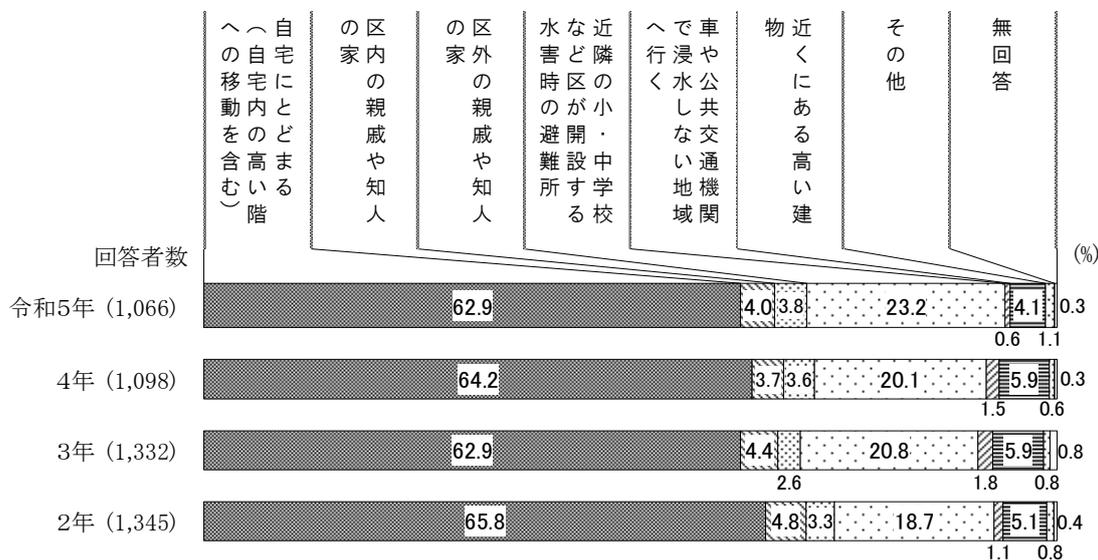
ア 単純集計・経年比較／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

（ア）河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」と回答した人に、決めている避難場所を聞いた結果、高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」（62.9%）
- ②「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（23.2%）
- ③「近くにある高い建物」（4.1%）
- ④「区内の親戚や知人の家」（4.0%）
- ⑤「区外の親戚や知人の家」（3.8%）

（イ）前回調査と比較すると、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は3.1ポイント増加しているが、他の項目では特に大きな違いはみられない。

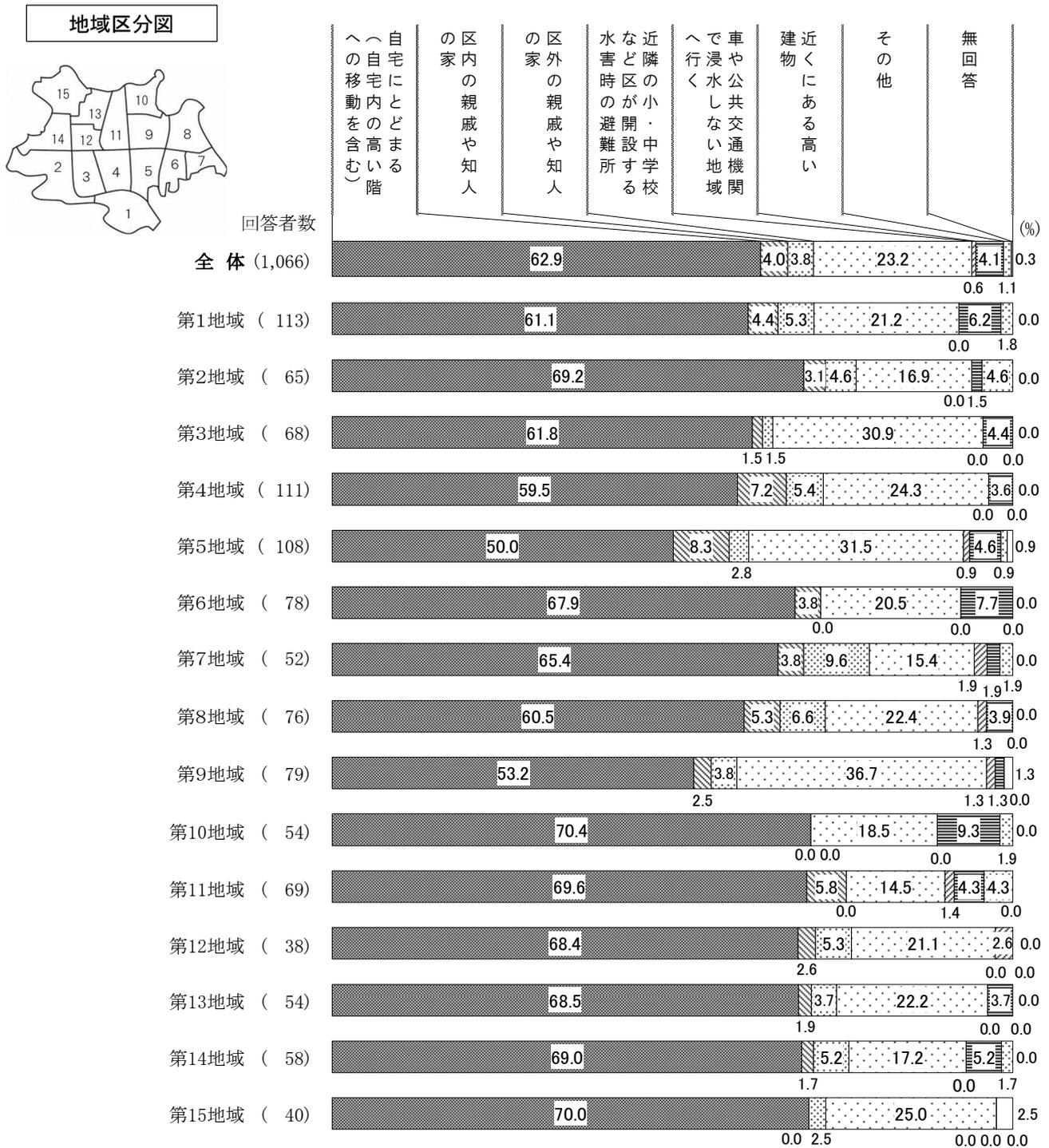
図3-3-1 経年比較／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



イ クロス集計・地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

地域別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第10地域で70.4%と最も高く、次いで第15地域（70.0%）が7割台で続き、第5地域で50.0%と最も低くなっている。「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難場所」は第9地域が36.7%で他の地域に比べ特に高く、第11地域が14.5%で最も低くなっている。

図3-3-2 地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

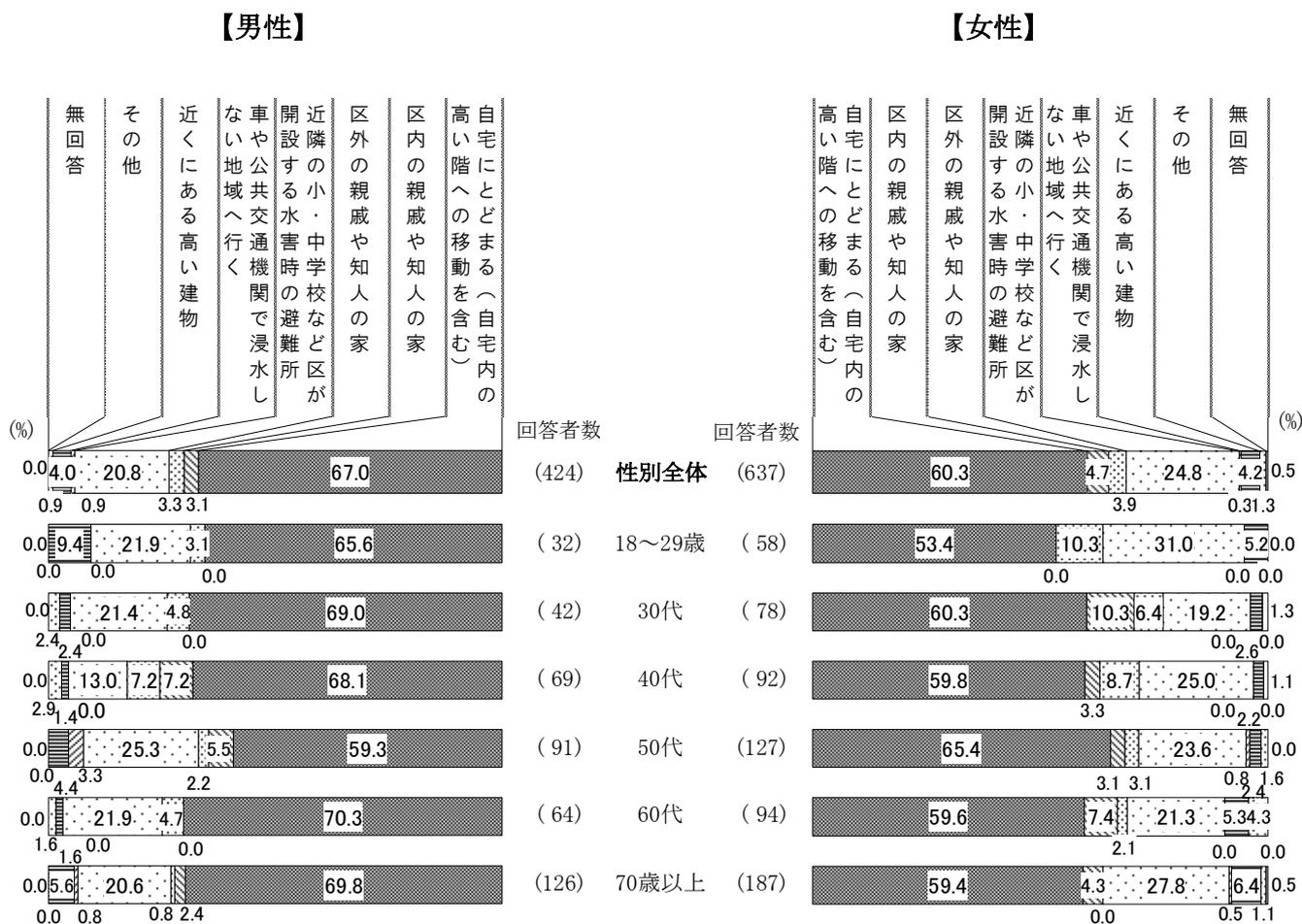


ウ クロス集計・性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

(ア) 性別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は男性（67.0%）の方が女性（60.3%）より6.7ポイント高く、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は女性（24.8%）の方が男性（20.8%）より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は男性の60代が70.3%と最も高く、女性の18～29歳で53.4%と最も低くなっている。一方、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」では女性の18～29歳（31.0%）が3割台と特に高く、男性の40代（13.0%）が最も低くなっている。

図3-3-3 性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

問9で「2 決めていない」とお答えの方に

問9-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか（○は1つだけ）。

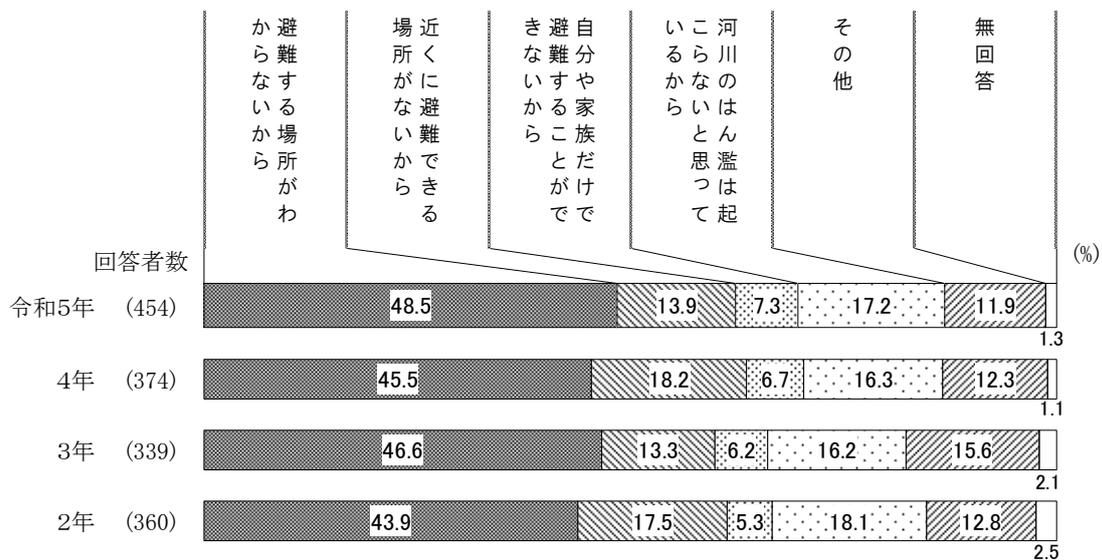
■「避難する場所がわからないから」が5割近く

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、決めていない理由を聞いた結果、「避難する場所がわからないから」が5割近くと最も高く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」（17.2%）、「近くに避難できる場所がないから」（13.9%）などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「避難する場所がわからないから」は3.0ポイント増加しており、「近くに避難できる場所がないから」が4.3ポイント減少している。

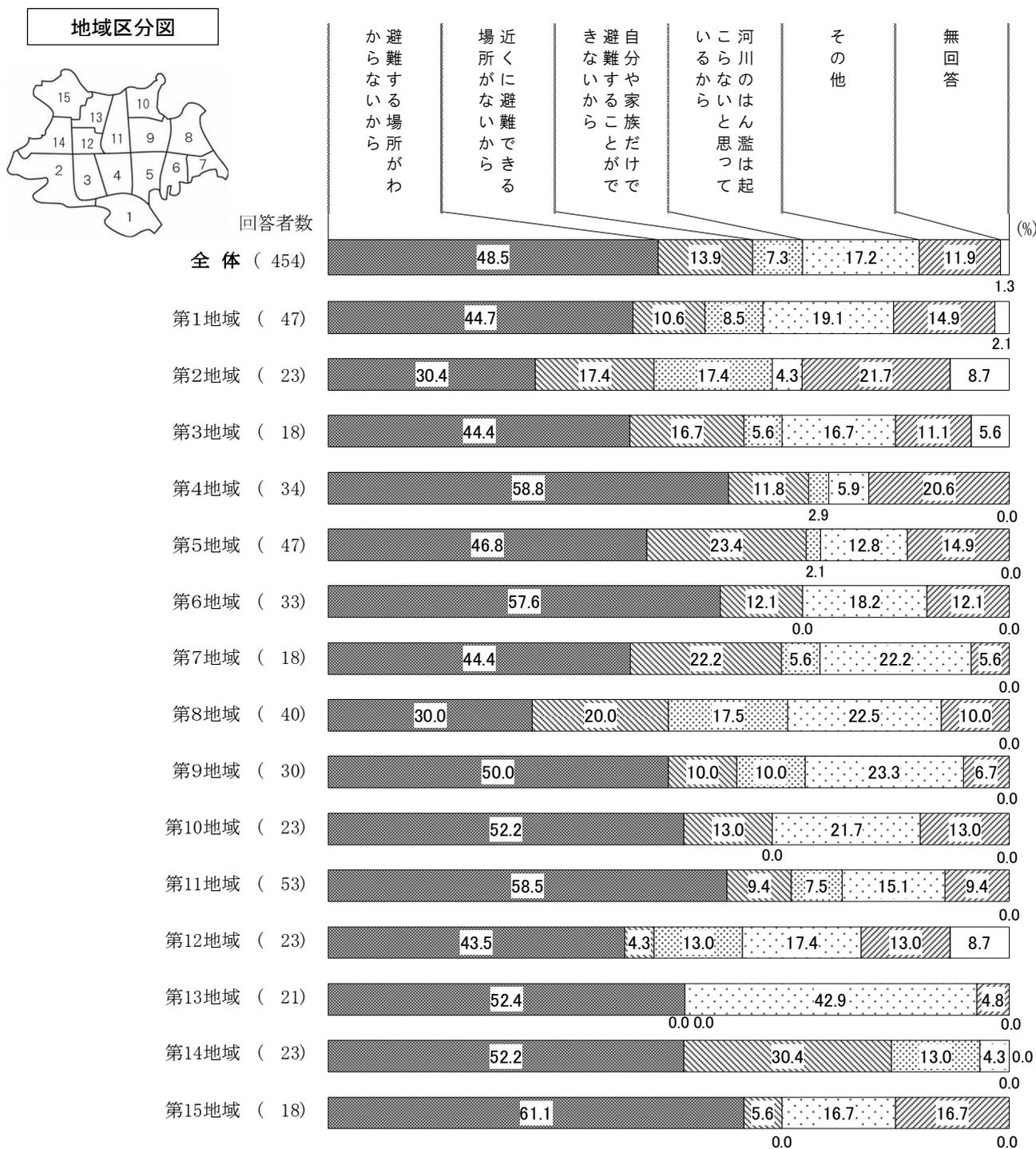
図3-4-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

地域別にみると、大半の地域でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は第15地域が61.1%と最も高く、第4地域と第11地域で6割近くと高くなっている。一方、第8地域と第2地域が3割と他の地域に比べて特に低くなっている。また、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は第13地域で4割超と他の地域に比べて特に高く、「近くに避難できる場所がないから」は第14地域で3割と他の地域に比べて特に高くなっている。

図3-4-2 地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

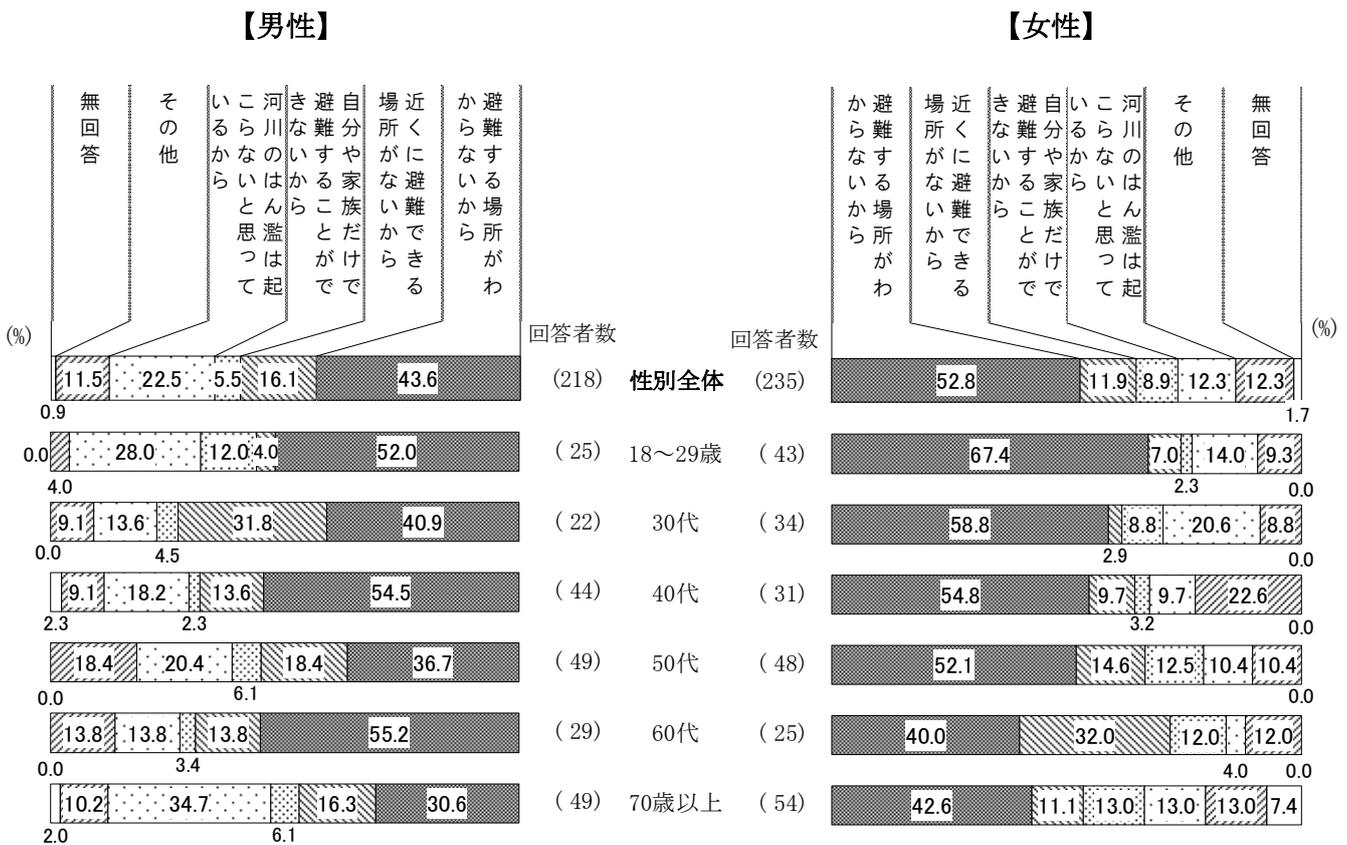


ウ クロス集計・性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 性別にみると、「避難する場所がわからないから」は女性（52.8%）の方が男性（43.6%）より9.2ポイント高くなっている。逆に、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は男性（22.5%）の方が女性（12.3%）より10.2ポイント高く、「近くに避難できる場所がないから」でも男性（16.1%）の方が女性（11.9%）より4.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、いくつかの性・年代層でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は女性の18～29歳で6割台半ば過ぎと高く、男性の70歳以上で3割と最も低くなっている。

図3-4-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区の情報入手手段
 - (2) 重要と考える区の情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区情報が得られない理由
 - (5) 区情報が得られない理由の詳細
-

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか
(〇はあてはまるものすべて)。

■ 「あだち広報」が約7割で最も高く、次いで「トキメキ」が3割台半ば

ア 単純集計・経年比較／区の情報入手手段

(ア) 足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「あだち広報」(69.1%)
- ② 「トキメキ」(33.8%)
- ③ 「町会・自治会の掲示板・回覧板」(22.9%)
- ④ 「区のホームページ」(22.4%)
- ⑤ 「A-メール」(18.1%)

(イ) 前回調査と比較すると、上位5項目では「トキメキ」(+4.4ポイント)、「あだち広報」(+2.0ポイント)、「A-メール」(+1.7ポイント)の3項目で増加、「区のホームページ」(-3.3ポイント)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(-2.2ポイント)の2項目で減少となっている。また、上位5項目以外では、「足立区LINE公式アカウント」が3.0ポイントの増加となっている。

図4-1-1-① 経年比較／区の情報入手手段

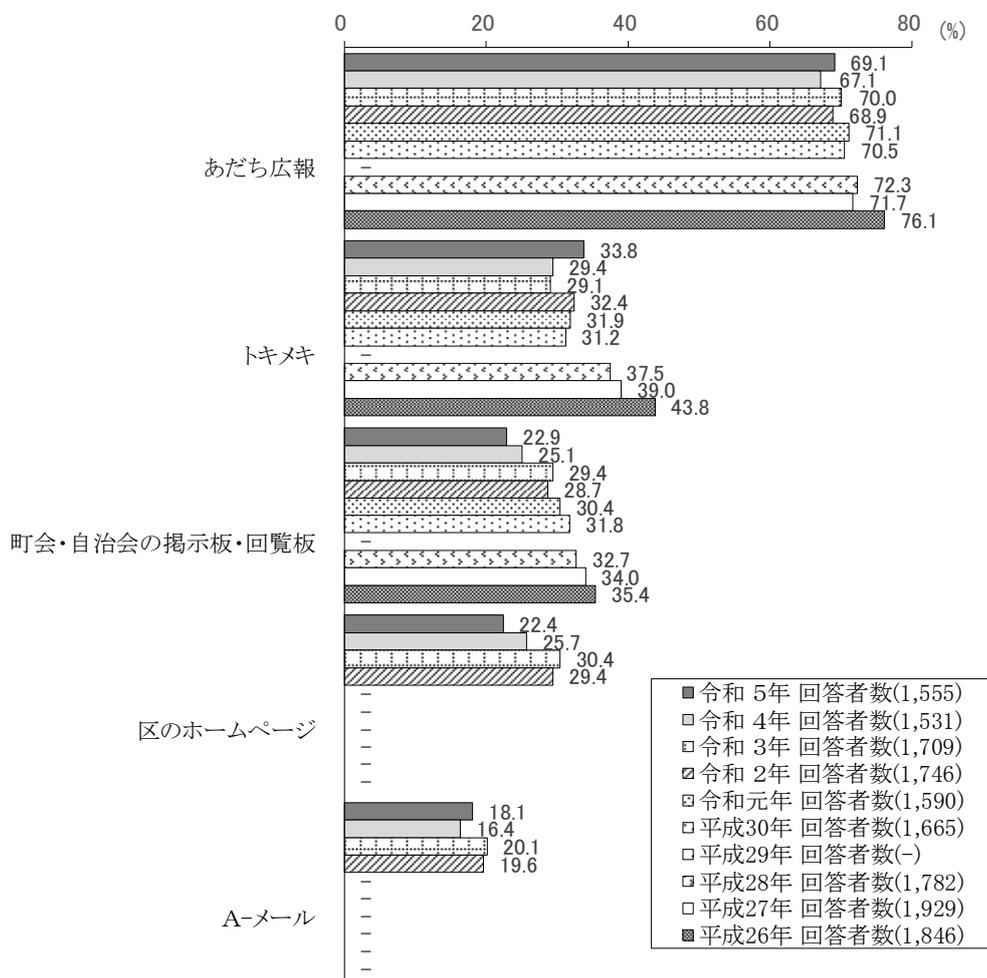


図4-1-1-② 経年比較／区の情報入手手段

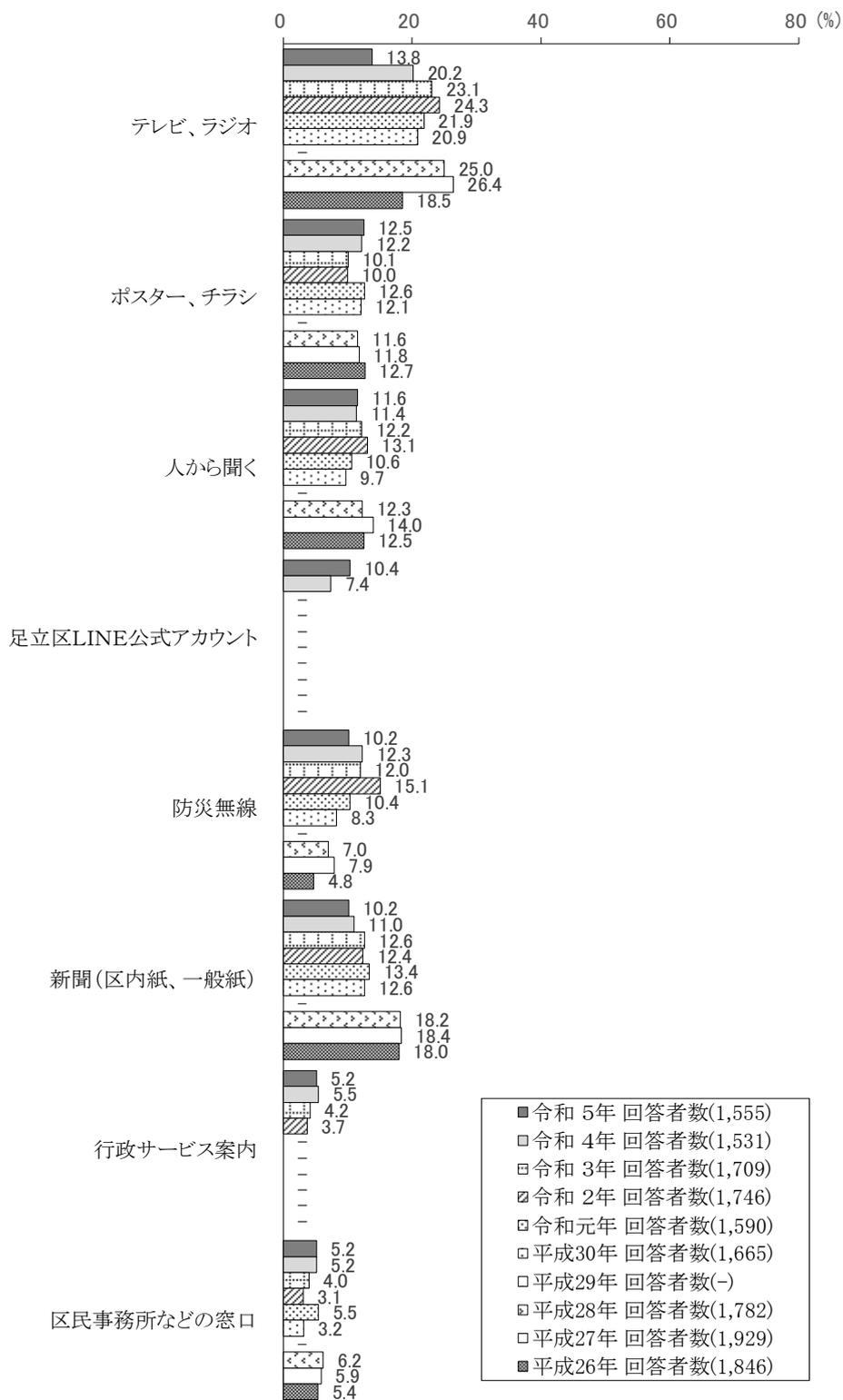
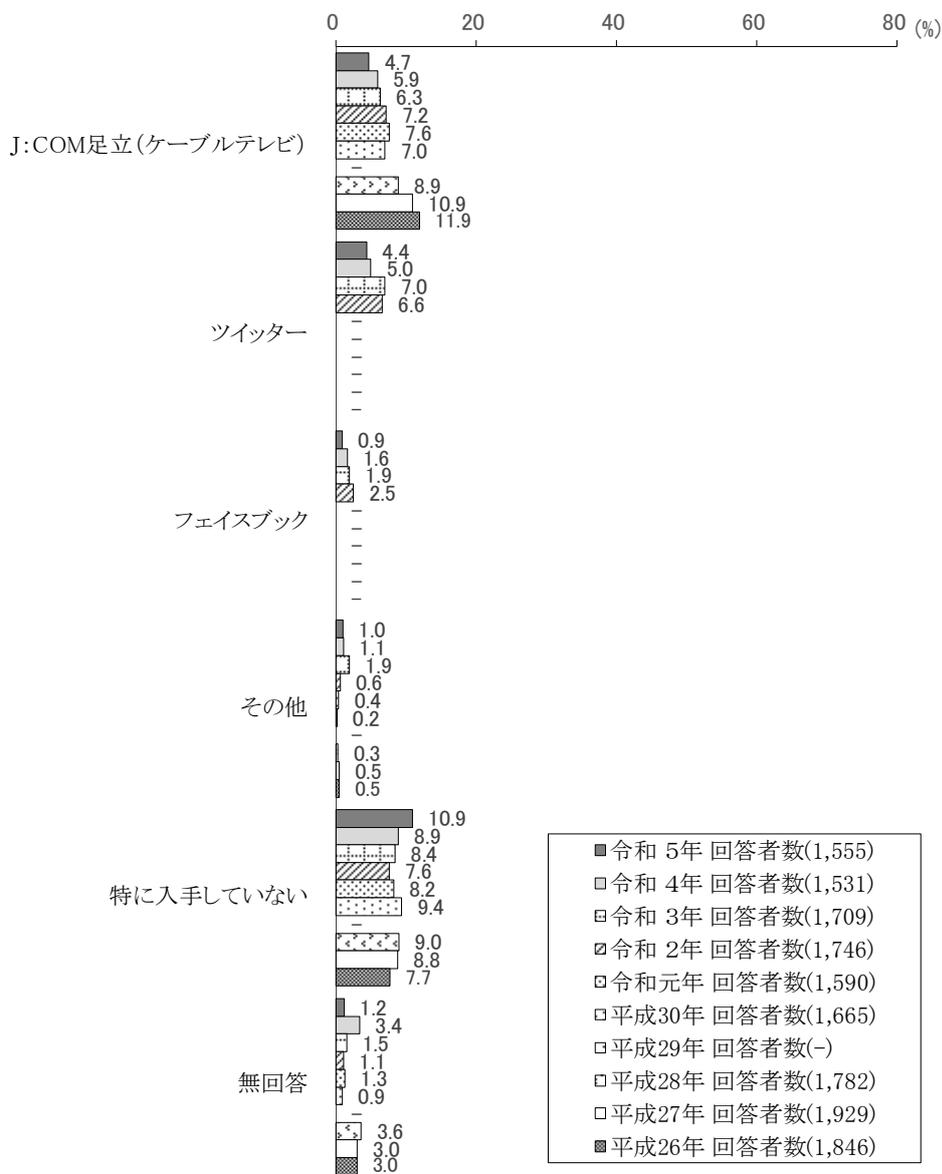


図4-1-1-③ 経年比較／区情報の入手手段

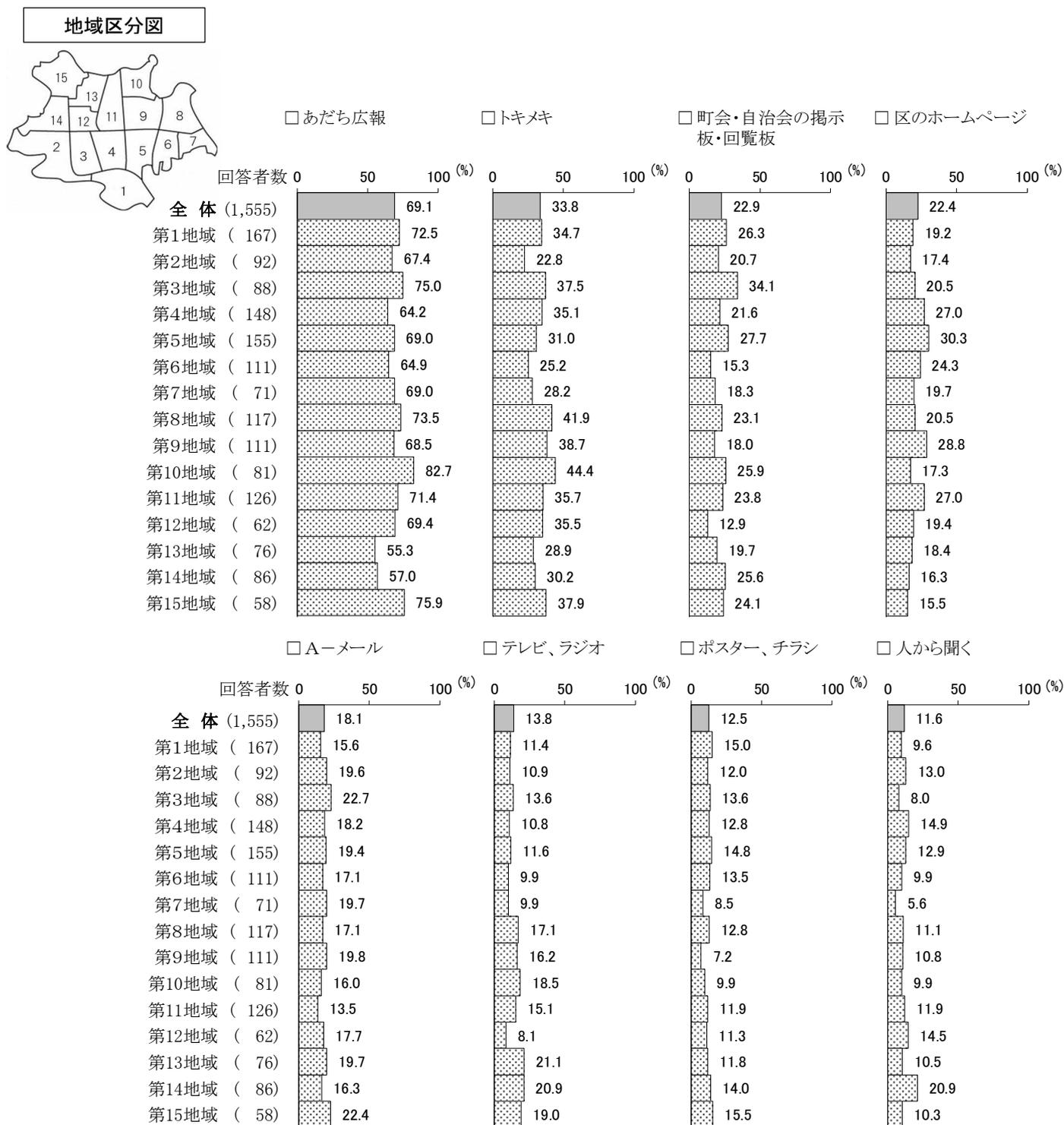


- ※ 本設問は、平成25年度以降から聴取しているが、平成29年度では聴取していない。
- ※ 令和元年度まで「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」の単独1項目で測定していたものを、令和2年度よりそれぞれの4項目に細分化して聴取している。
- ※ 「足立区LINE公式アカウント」は、前回令和4年度新設。

イ クロス集計・地域別／区の情報入手手段（上位8項目）

地域別でみると、「あだち広報」は第10地域で82.7%と最も高く、第13地域で55.3%と最も低くなっている。また、「トキメキ」は第10地域と第8地域で4割台、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第3地域で3割台、「区のホームページ」は第5地域で3割台とそれぞれ最も高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目

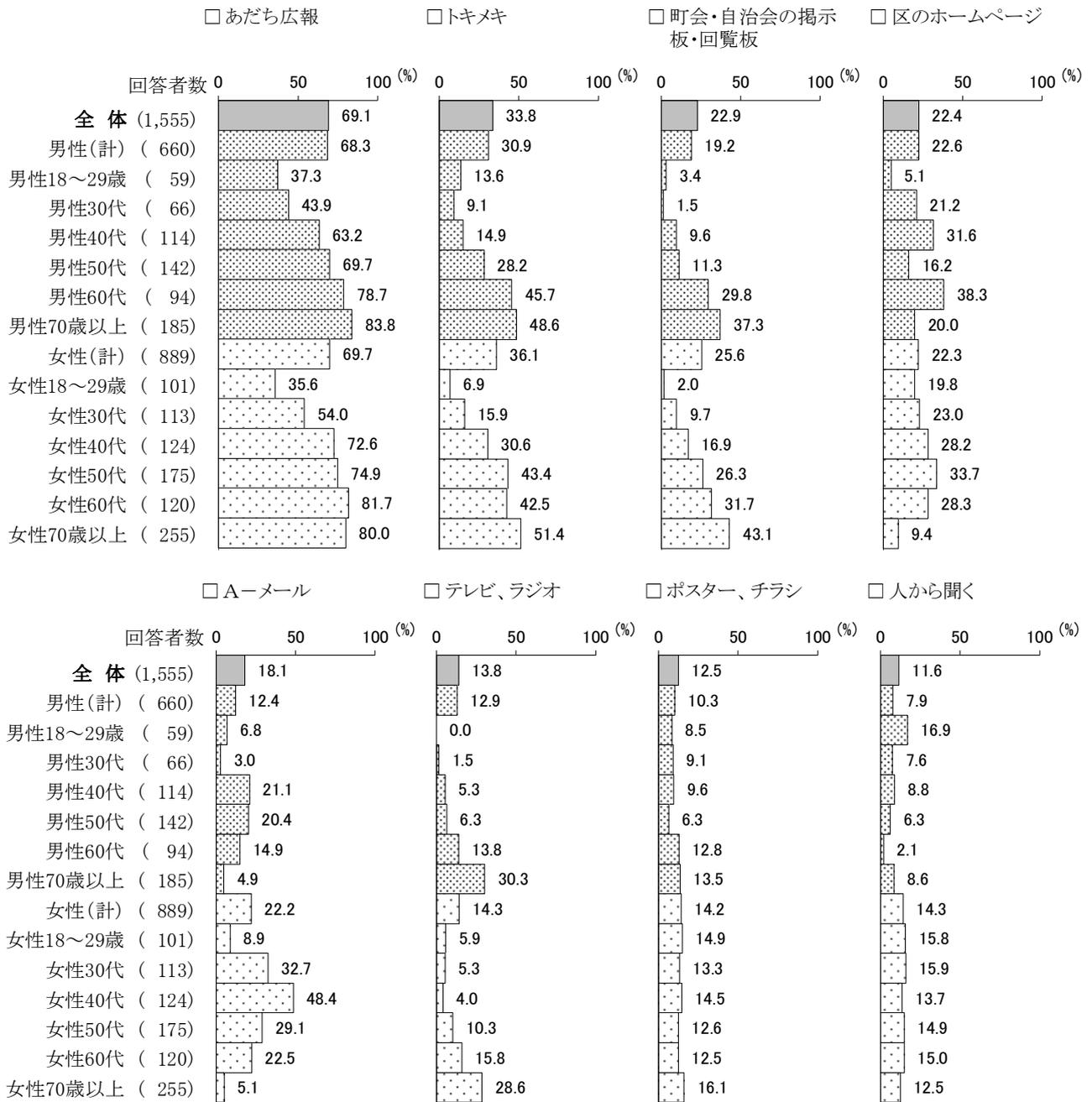


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区の情報入手手段（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、多くの項目で女性の方が高く、特に「A-メール」(+9.8ポイント)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」と「人から聞く」(各+6.4ポイント)、「トキメキ」(+5.2ポイント)でそれぞれ5ポイント以上女性の方が男性より高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「あだち広報」、「トキメキ」、「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は男女とも年代が上がるほど割合も高く、年代層での差が大きくなっている。また、「区のホームページ」、「A-メール」などの電子媒体は30～50代の中間年代層で高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目

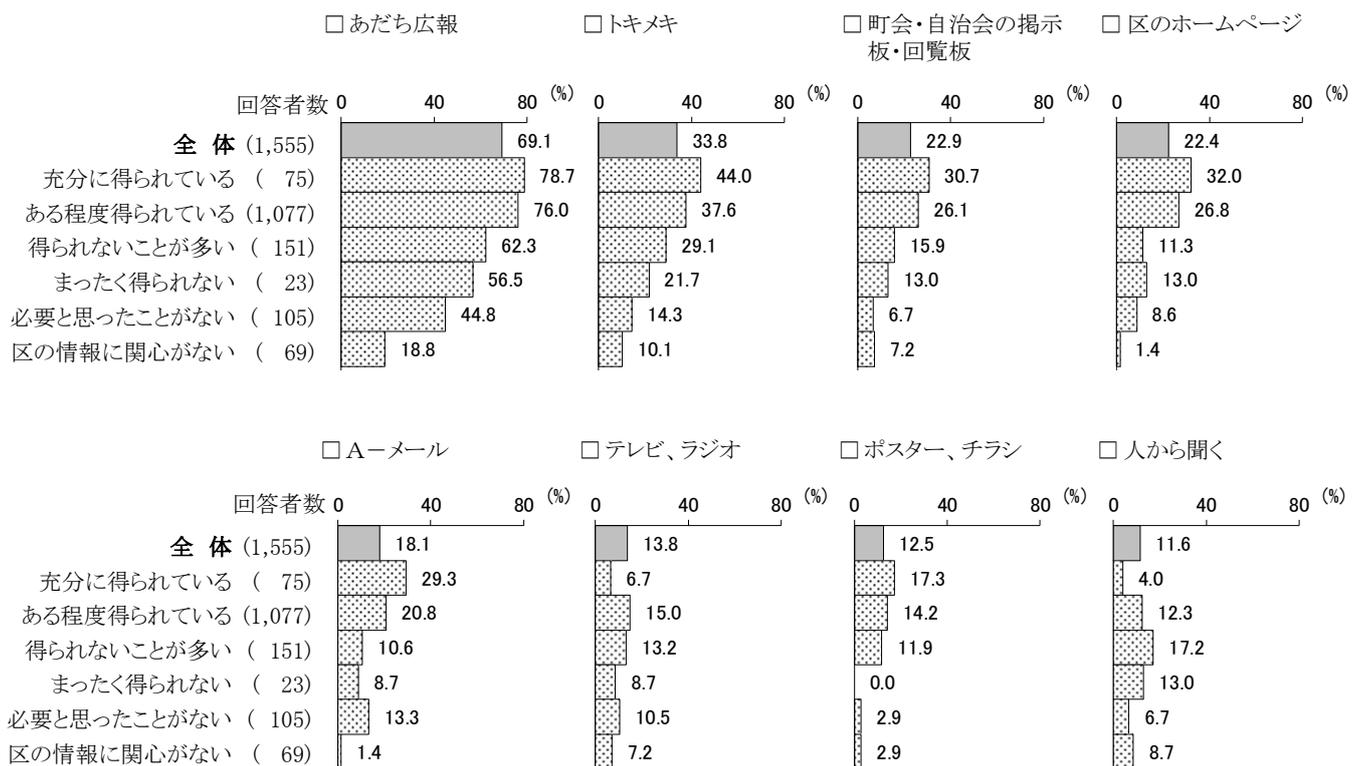


エ クロス集計・必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段

（上位8項目）

必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」「区のホームページ」「Aメール」などの上位の項目では、〈十分に得られている〉と〈ある程度得られている〉を合わせた【情報が得られている層】の割合が高くなっている。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 重要と考える区の情報

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が重要だと考えていますか
(〇はあてはまるものすべて)。

■ 「健康や福祉」が6割台半ば、「災害や気象」が6割弱

ア 単純集計・経年比較／重要と考える区の情報

(ア) 重要と考える区の情報の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(66.2%)
- ② 「災害や気象に関する情報」(58.5%)
- ③ 「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(52.8%)
- ④ 「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(47.0%)

(イ) 前回調査と比較すると、上位4位までの順に変動はないが、1位の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」で6.0ポイント増加している。また、「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」は6.0ポイント増加し、6位から5位に上昇している。

図4-2-1-① 経年比較／重要と考える区の情報

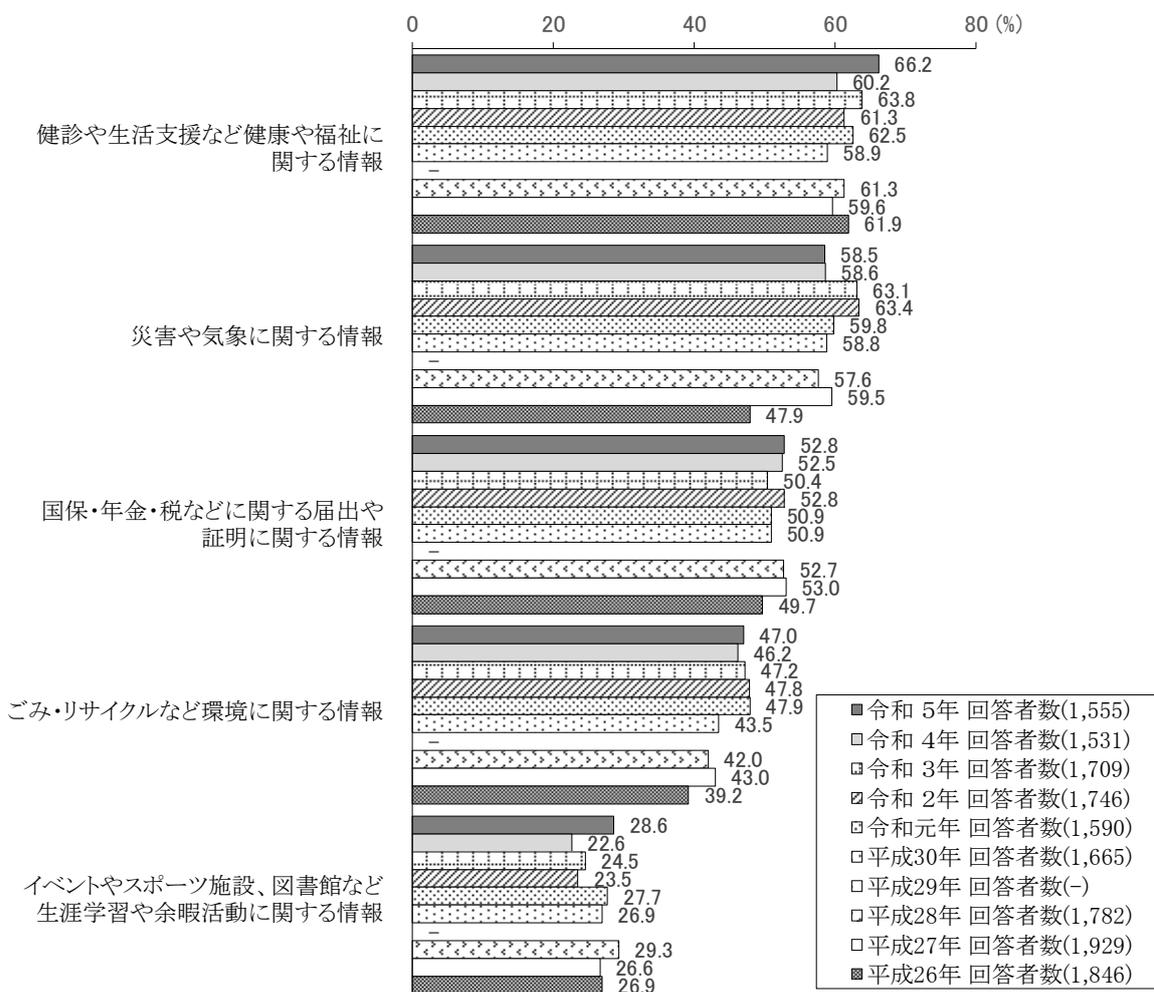
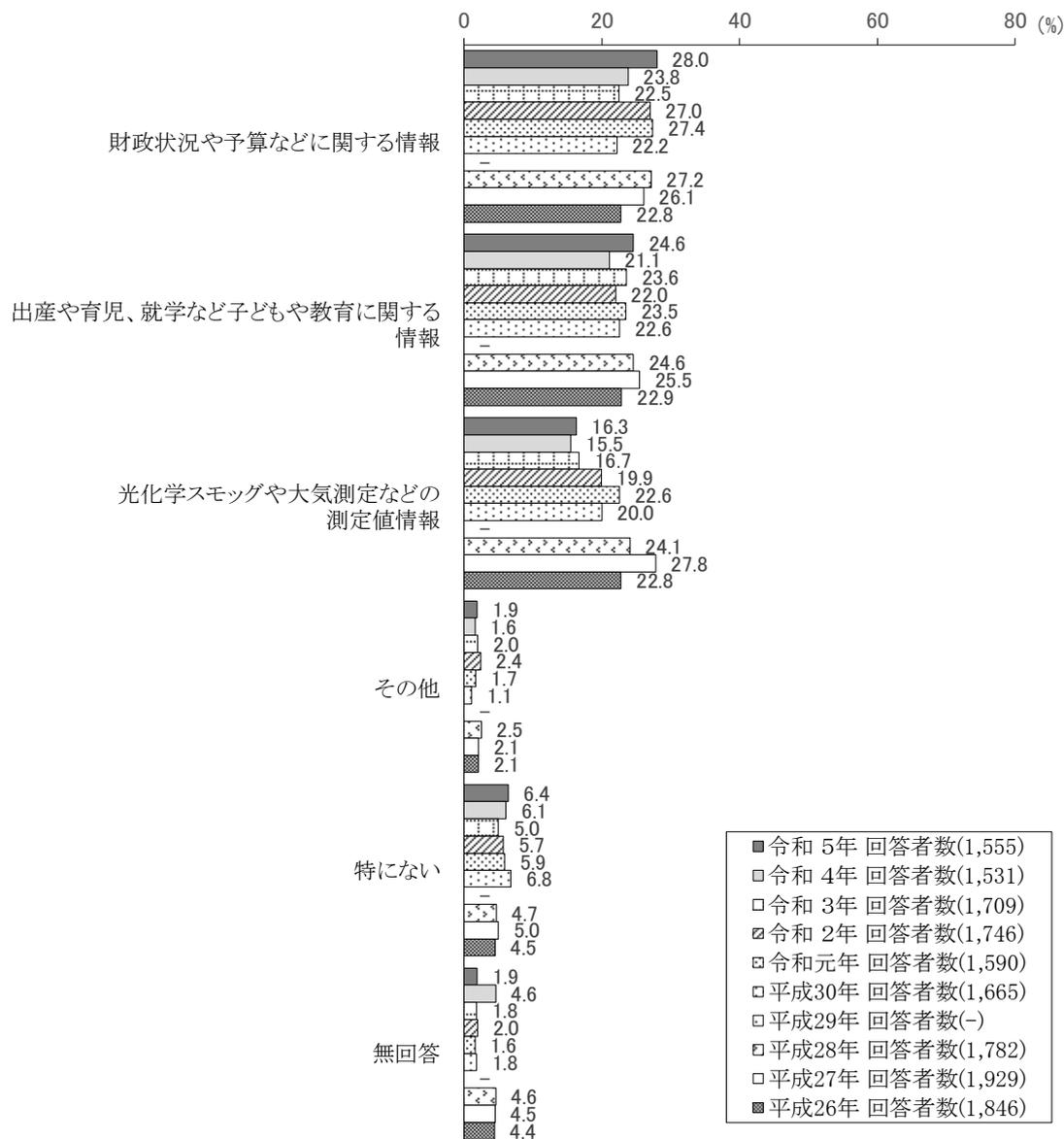


図4-2-1-② 経年比較／重要と考える区の情報



※ 本設問は、令和元年度まで「どのような情報が必要だと思いますか」という設問文で聴取していたが、令和2年度から「どのような情報が重要だと考えていますか」という設問文にかえた。

※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／重要と考える区の情報（上位8項目）

(ア) 性別でみると、8項目中7項目で女性の方が男性よりも高くなっている。

a 女性の方が男性より5ポイント以上高い項目

(a) 「災害や気象に関する情報」(+8.2ポイント)

(b) 「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」(+6.6ポイント)

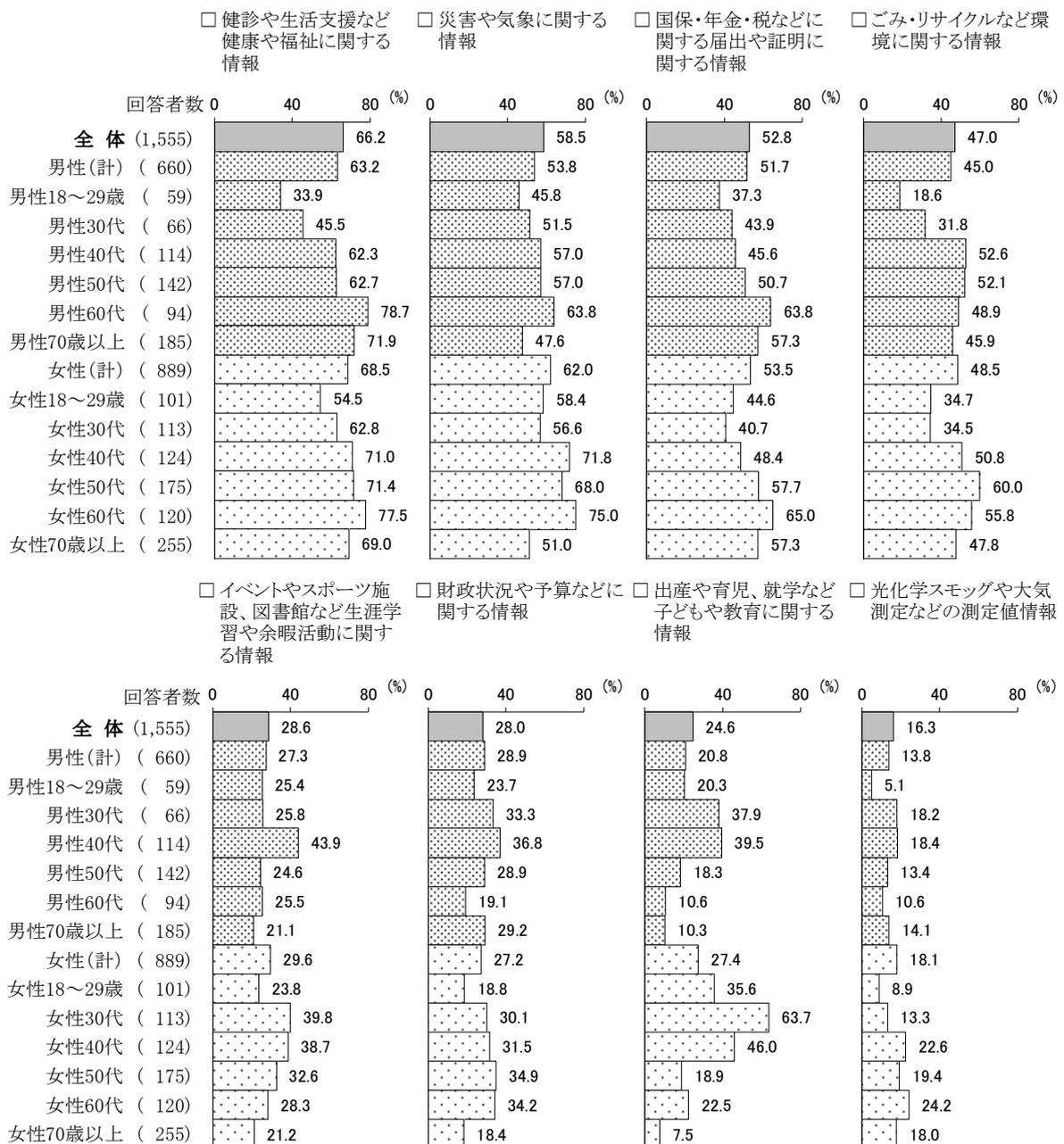
(c) 「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(+5.3ポイント)

b 男性の方が女性よりも高い項目

(a) 「財政状況や予算などに関する情報」(+1.7ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、男女ともに「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」と「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」はおおむね60代まで年齢が上がるほど割合も高くなる傾向がみられる。また、「災害や気象に関する情報」は女性の60代で75.0%と最も高く、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」は女性の50代で60.0%と最も高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／重要と考える区の情報／上位8項目

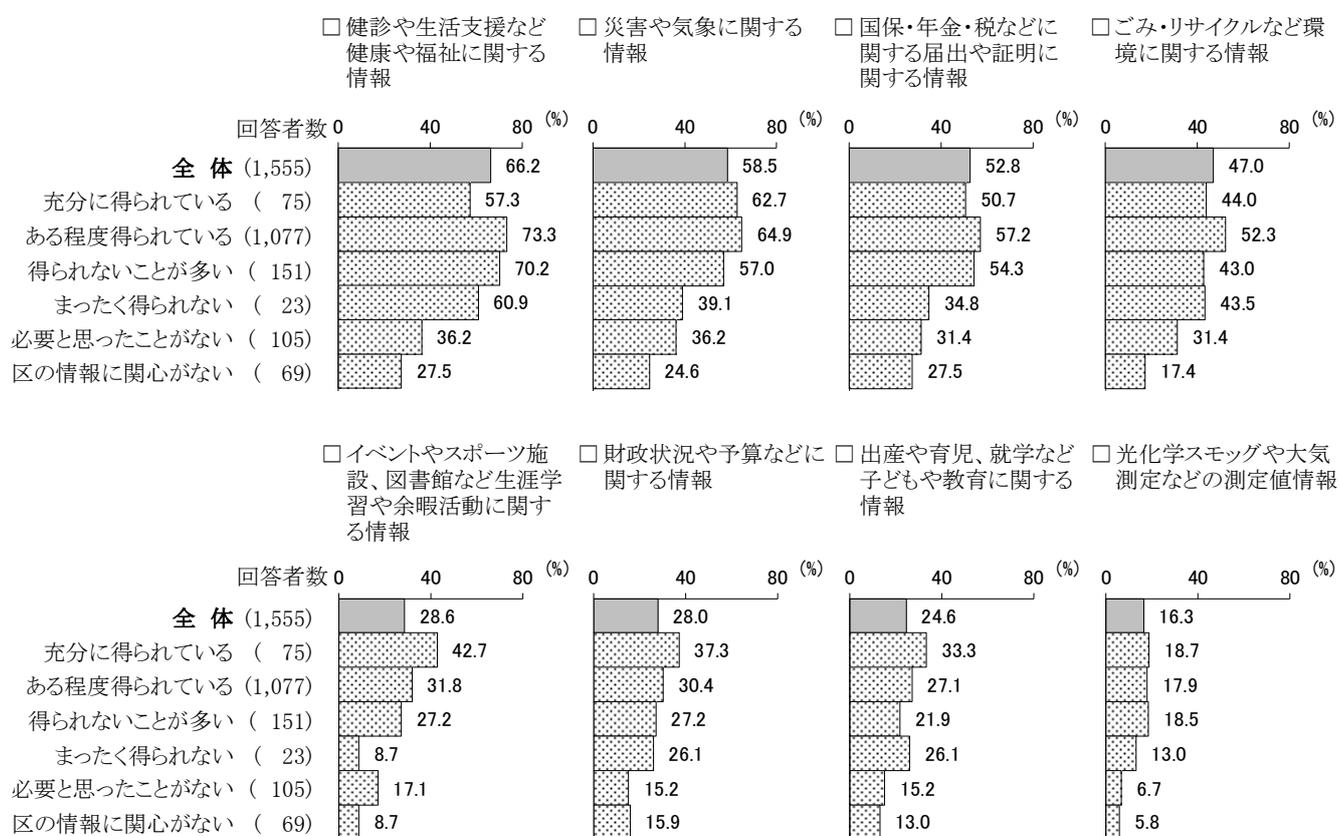


ウ クロス集計・必要な時に必要とする区の情報入手状況別／重要と考える区の情報

(上位8項目)

必要な時に必要とする区の情報入手状況別(〈まったく得られない〉はサンプル数が少ないため参考程度となるため、〈十分に得られている〉〈ある程度得られている〉〈得られないことが多い〉の3項目)にみると、上位4項目の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」、「災害や気象に関する情報」、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」では〈ある程度得られている〉が最も高く、5位以下の4項目では〈十分に得られている〉が最も高くなっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／重要と考える区の情報／上位8項目



(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

問12 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

■ 必要なときに【得られている】は7割台半ば、【得られていない】は1割

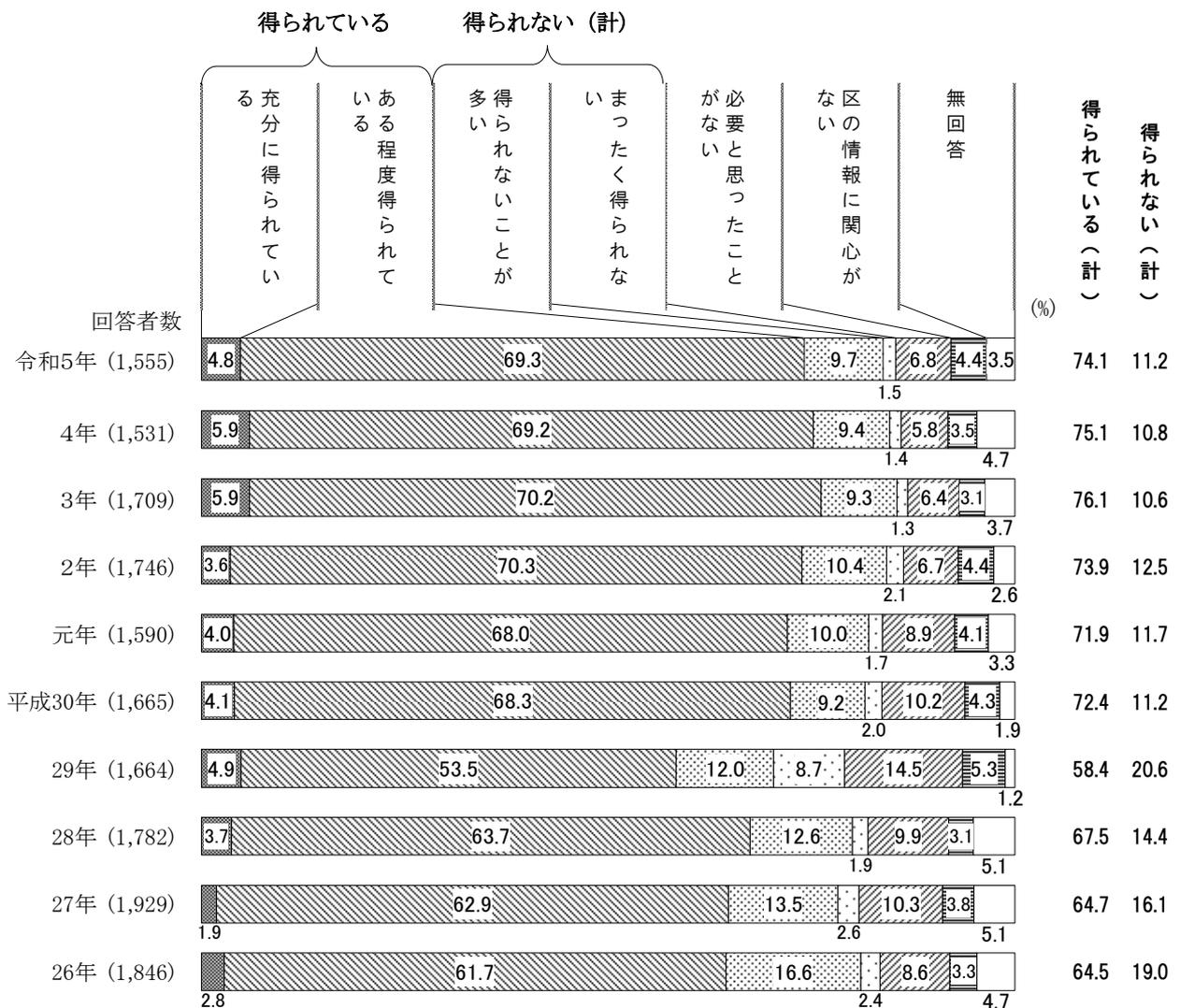
ア 単純集計・経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況

(ア) 必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が4.8%で、これに「ある程度得られている」の69.3%を合わせた【得られている】は74.1%となっている。

(イ) 必要な時に必要とする情報が「得られないことが多い」は9.7%、「まったく得られない」は1.5%で、これらを合わせた【得られない】は11.2%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



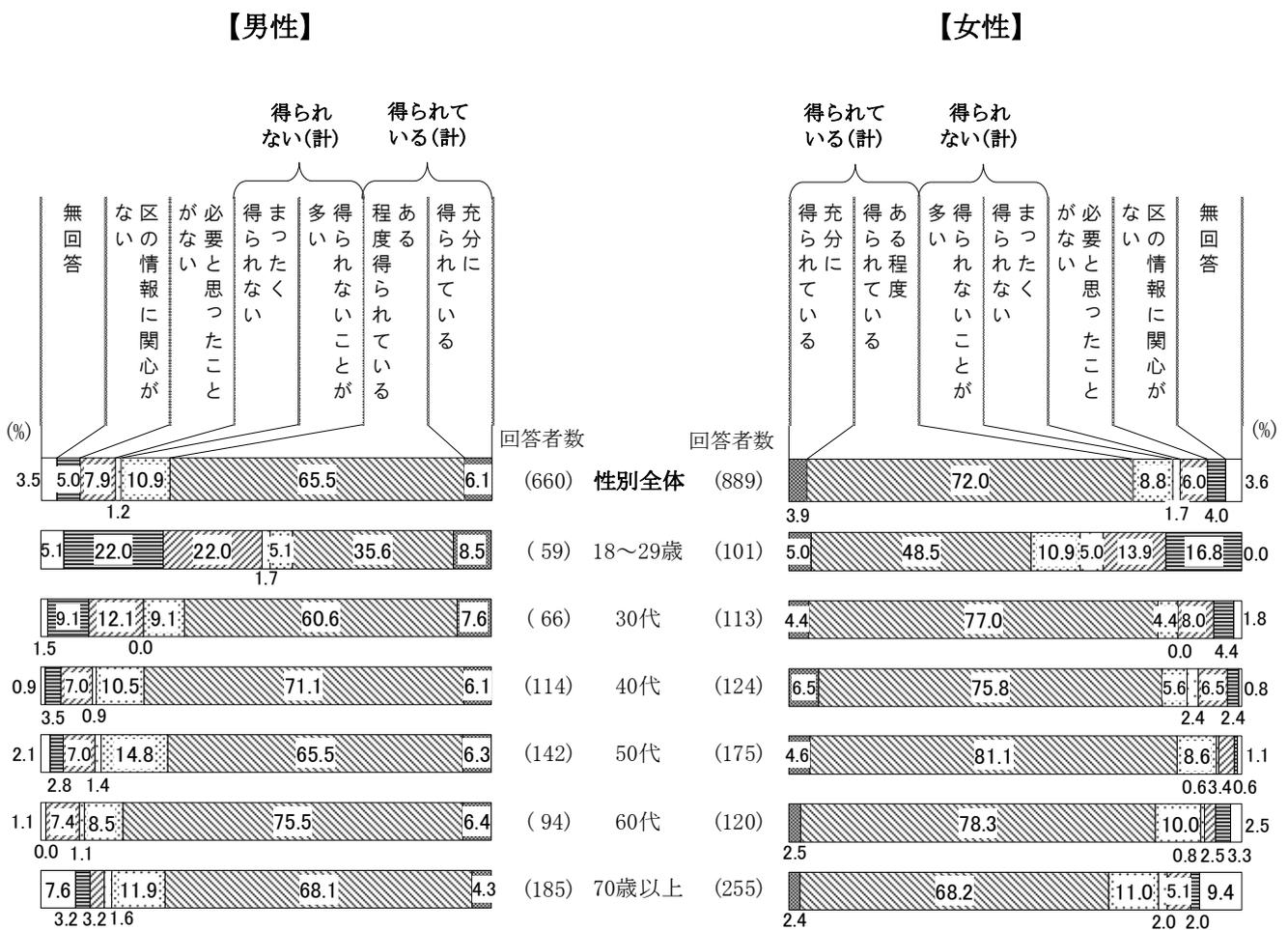
※ 平成29年度では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

（ア）性別でみると、【得られている】は女性（75.9%）の方が男性（71.5%）より4.4ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、【得られている】は、女性の50代が85.7%で最も高く、次いで女性の40代（82.3%）となっている。一方、「必要と思ったことがない」と「区の情報に関心がない」は男性の18～29歳（ともに22.0%）で2割超と他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況



(4) 区の情報得られない理由

問12で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に
問12-1 主にどのような理由からですか（○は1つだけ）。

■「情報の探し方がわからない」が3割台半ば、「情報が探しにくい」が2割台半ば

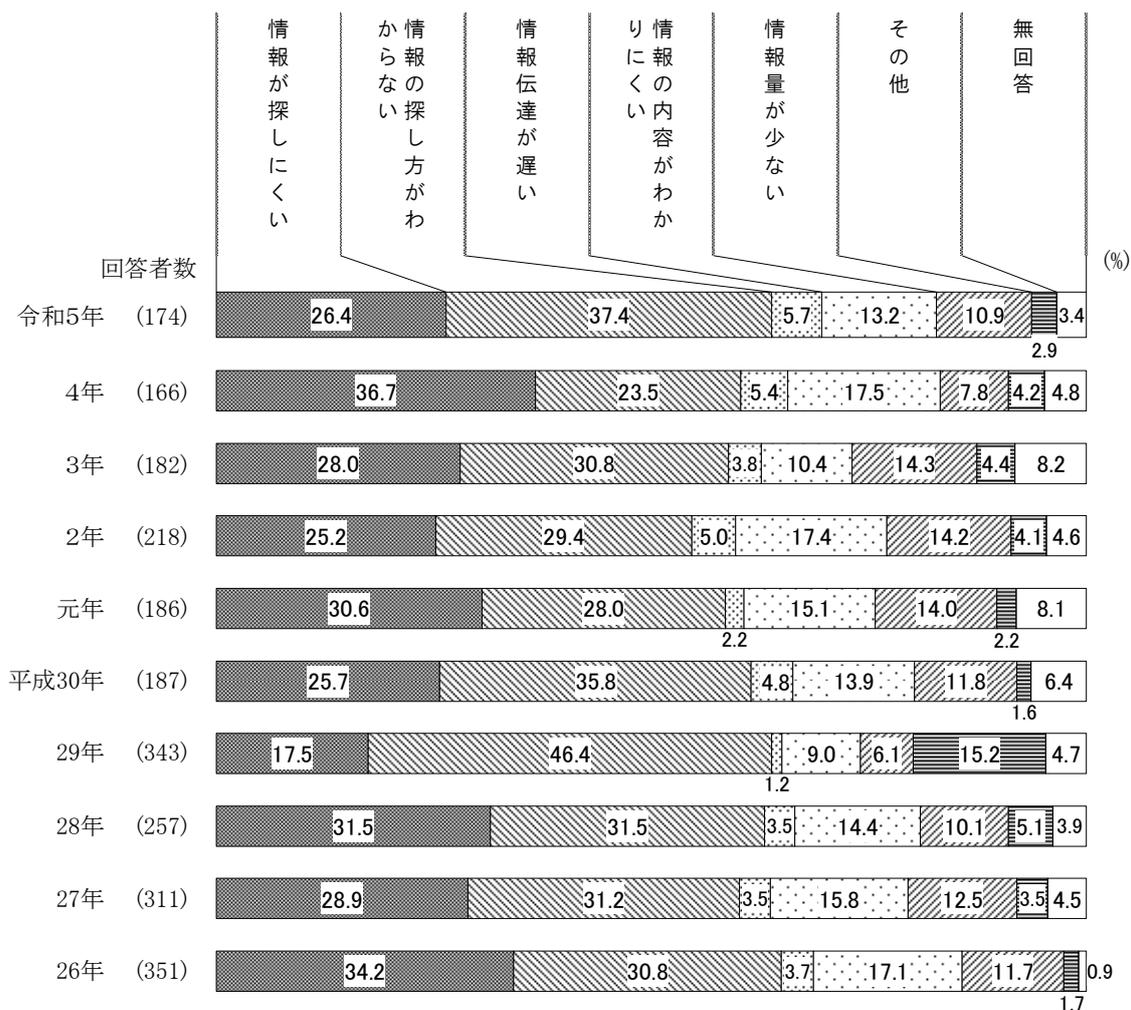
ア 単純集計・経年比較／区の情報得られない理由

(ア) 区の情報【得られない】という人にその主な理由を聞いたところ、割合が高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「情報の探し方がわからない」(37.4%)
- ②「情報が探しにくい」(26.4%)
- ③「情報の内容がわかりにくい」(13.2%)

(イ) 前回調査と比較すると、「情報の探し方がわからない」が13.9ポイント増加し、「情報が探しにくい」が10.3ポイント減少し、順位が入れ替わった。

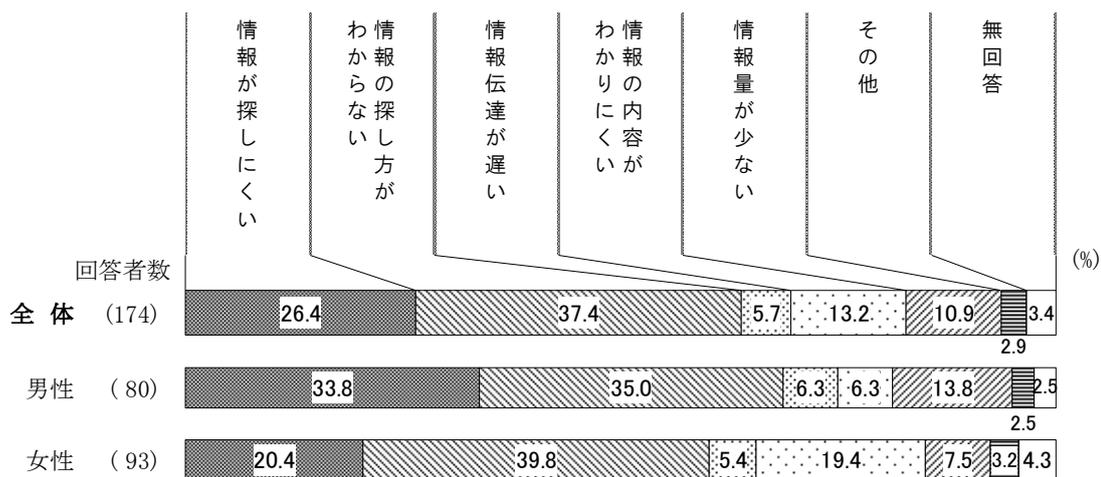
図4-4-1 経年比較／区の情報得られない理由



イ クロス集計・性別／区の情報得られない理由

性別で見ると、「情報が探しにくい」は男性（33.8%）の方が女性（20.4%）より13.4ポイント高く、逆に「情報の内容が分かりにくい」は女性（19.4%）の方が男性（6.3%）より13.1ポイント高く、「情報の探し方がわからない」でも女性（39.8%）の方が男性（35.0%）より4.8ポイント高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報得られない理由



(5) 区の情報得られない理由の詳細

問12で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に問12-2 問12-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

区の情報得られない理由として寄せられた自由回答の内容を「あだち広報」「区のホームページ」「その他」の3項目ごとに、主な内容と件数をまとめると、以下のとおりとなった。

あだち広報 (70名のご回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	15
満足できる情報がない・内容が薄い	9
自分にとって必要ない情報が多いから	8
そもそも読んでいない・届いていない	8
見る時間がない・見る機会が少ないから	6
ざっと目を通すだけだから	3
情報の提供が遅い	3
目が悪いから	2
その他	16

区ホームページ (66名のご回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	19
見る機会がないから	16
パソコン・スマホを所持していない・使い方がわからない	12
欲しい情報がない・不足している	6
その他	13

その他 (30名のご回答)	件数
情報の提供が少ない・わかりにくい	6
情報の入手方法がわからない	4
自主的に情報を得ようと思わない	4
スマホ・パソコンを使えない人への情報提供が欲しい	3
情報について信頼性がない	2
字が小さく見にくい	2
チラシや広告等で知らせてほしい	2
その他	7

5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (3) 1日野菜350g以上の摂取
 - (4) 普段の健康状態
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 安心して受診できる医療機関の有無
 - (7) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (8) 受けたがん検診の種類
 - (9) 歯科医院で治療のほかに受けている内容
 - (10) 感染症予防としての手洗いの実践状況
 - (11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

問13 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～(※)」を知っていますか(○は1つだけ)。

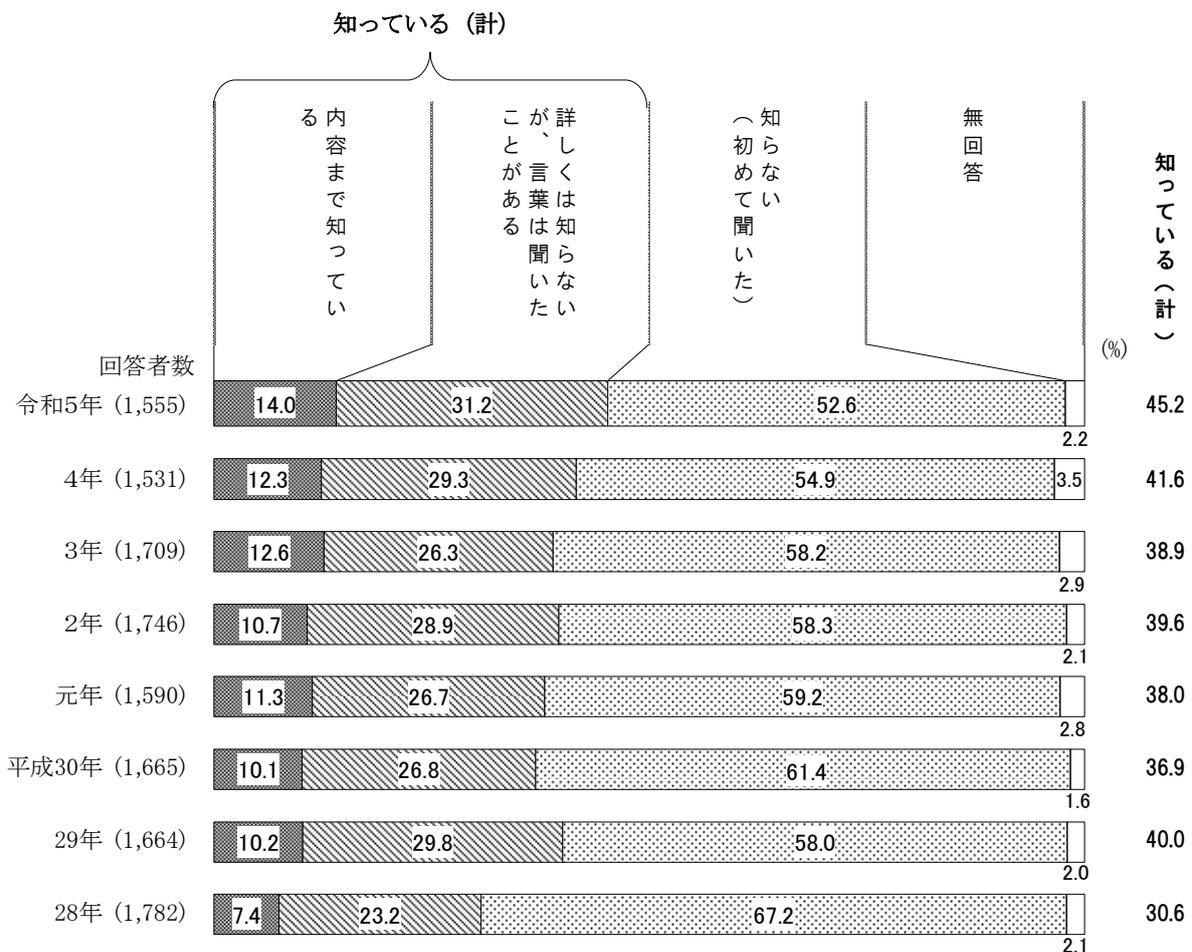
※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

■【知っている】は4割台半ばで最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

- (ア) 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は14.0%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(31.2%)を合わせた【知っている】は45.2%となっている。
- (イ) 区のキャッチフレーズを「知らない(初めて聞いた)」は52.6%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は3.6ポイント増加しており、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

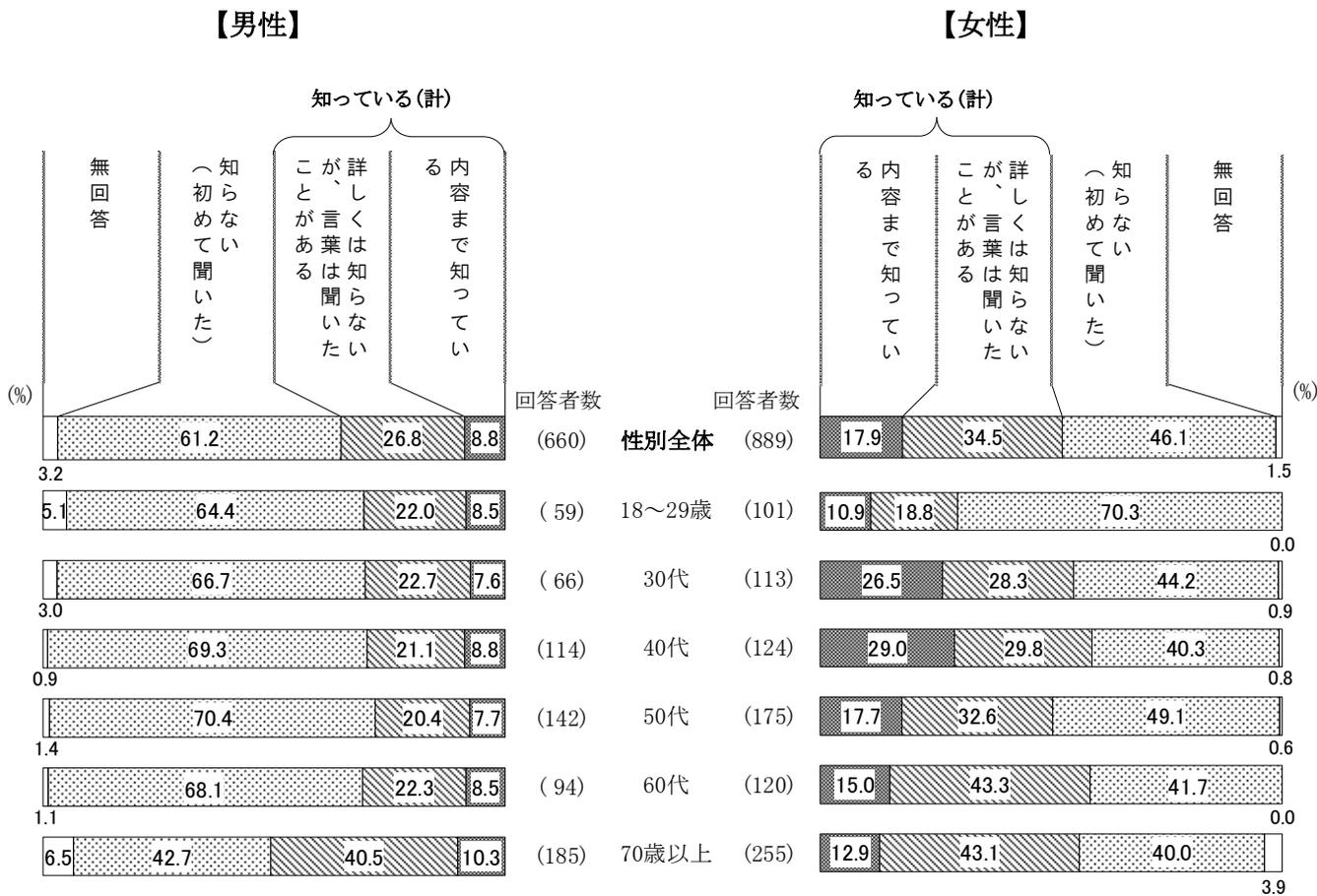


イ クロス集計・性別、性・年代別／キャッチフレーズの認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（52.4%）の方が男性（35.6%）より16.8ポイントと大きく上回っている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の30代以上のすべての年代と男性の70歳以上で5割台と高く、女性の40代で58.9%と最も高くなっている。逆にそれ以外の年代層は3割前後となっており、はっきりと2層に分かれている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 野菜から食べ始めることの実践状況

問14 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

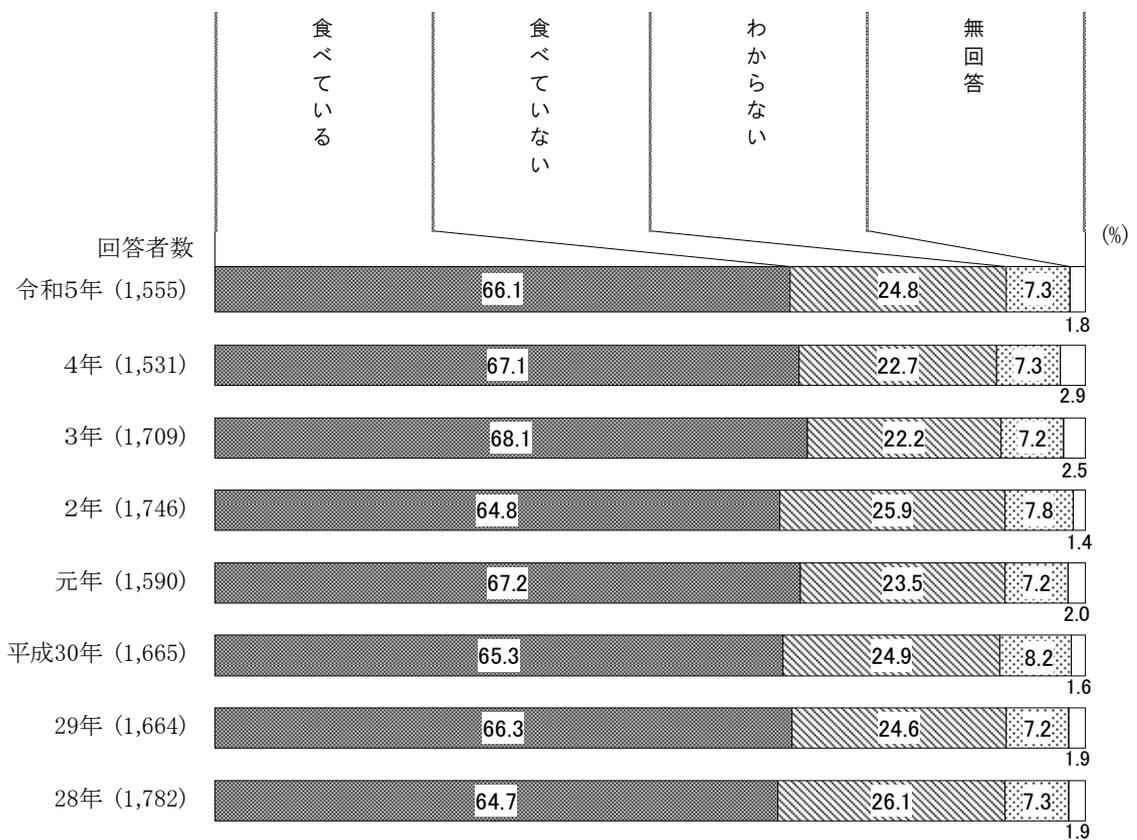
■ 「食べている」は6割台半ばで変わらず

ア 単純集計・経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 野菜から「食べている」は66.1%を占めており、「食べていない」は24.8%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図5-2-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

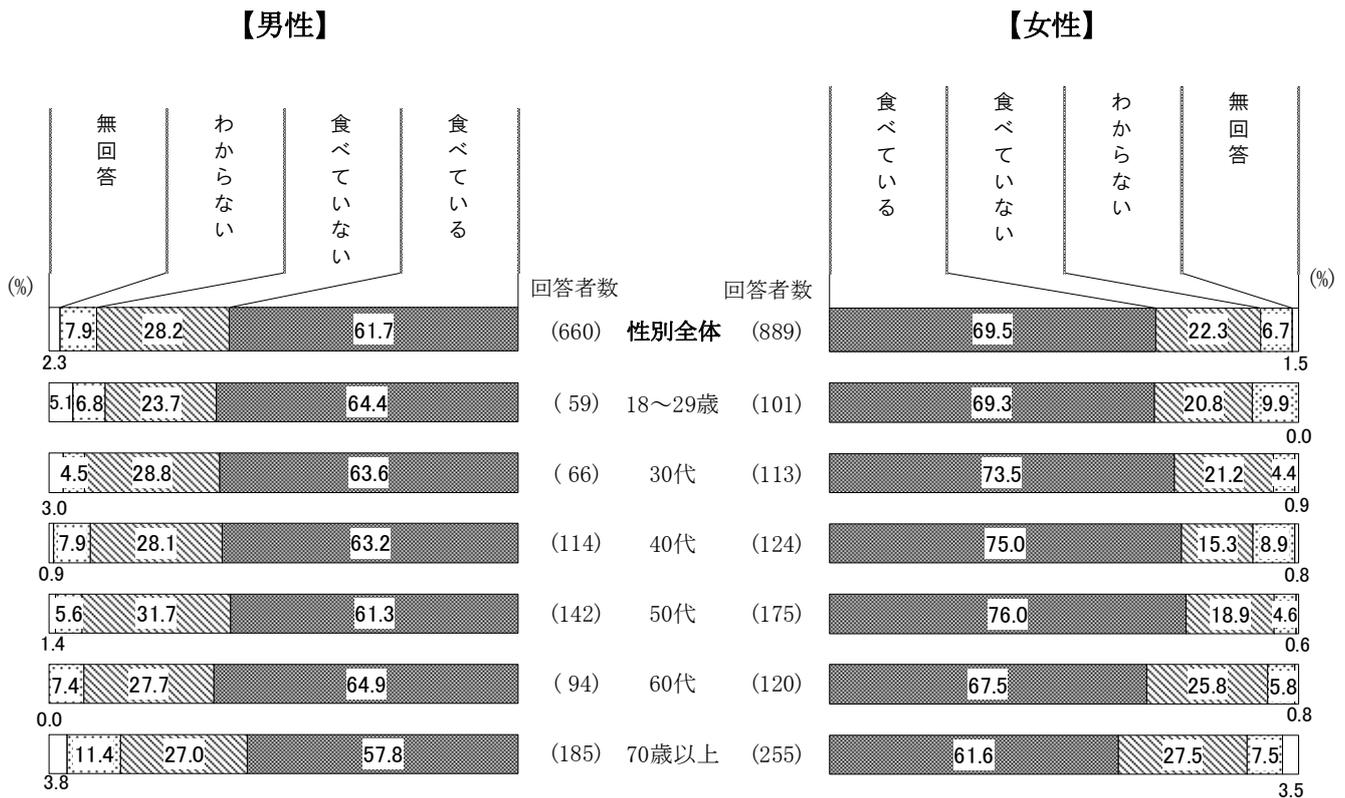


イ クロス集計・性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 性別で見ると、「食べている」は女性（69.5%）の方が男性（61.7%）より7.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「食べている」は、女性の50代で76.0%と最も高く、女性の30代と40代でも7割台半ばと高くなっている。一方、男性の70歳以上で唯一5割台と低くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



(3) 1日野菜350g以上の摂取

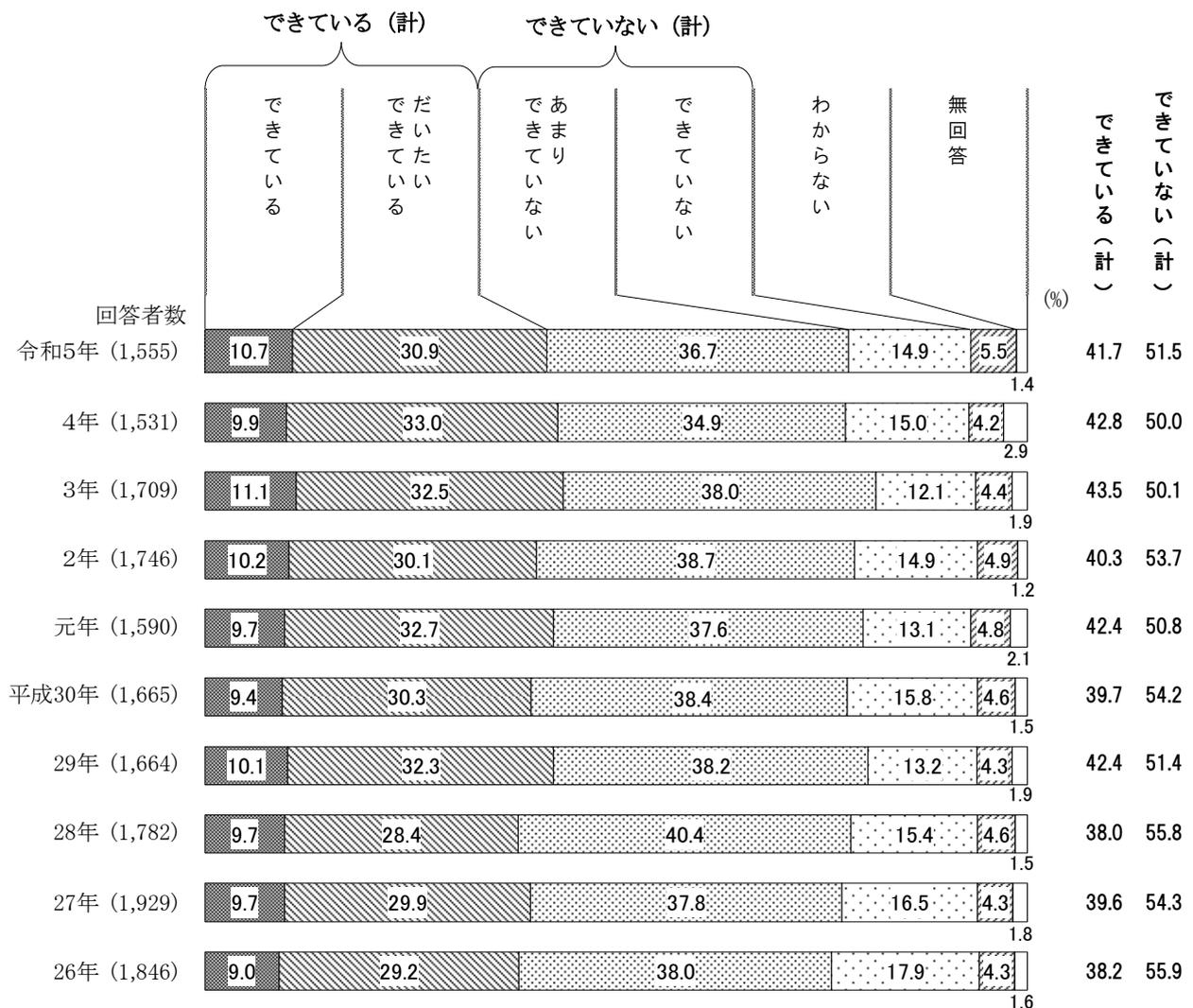
問15 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。
 ※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

■ 【できている】が4割強で、【できていない】（5割強）に及ばず

ア 単純集計・経年比較／1日野菜350g以上の摂取

- (ア) 毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が10.7%で、これに「だいたいできている」（30.9%）を合わせた【できている】は41.7%となっている。
- (イ) 野菜の摂取を「あまりできていない」（36.7%）と「できていない」（14.9%）を合わせた【できていない】は51.5%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図5-3-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

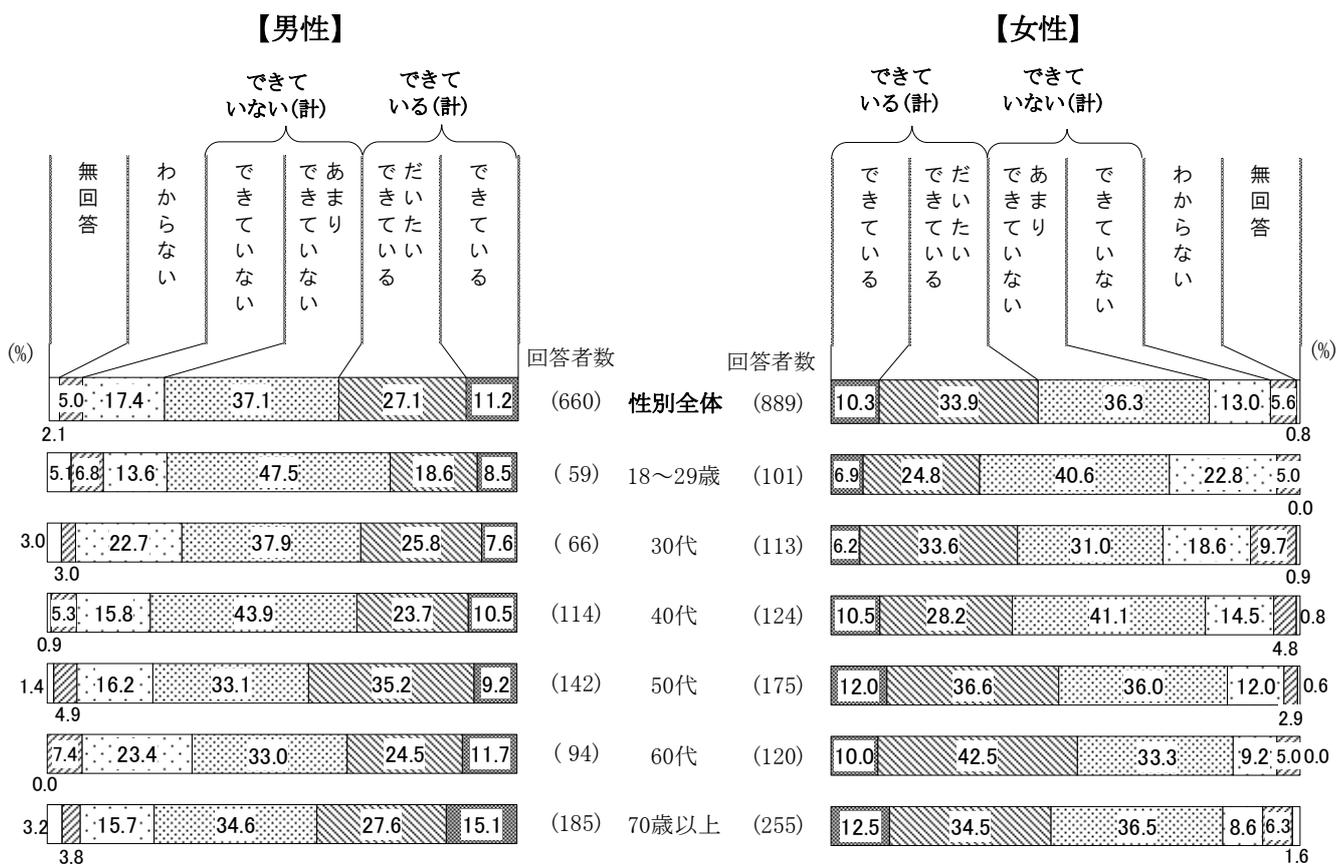


イ クロス集計・性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

(ア) 性別でみると、【できている】は、女性（44.2%）の方が男性（38.3%）より5.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【できている】は女性の60代で52.5%と最も高く、次いで、女性の50代と70歳以上で4割台後半が続いている。一方、男性の18～29歳で3割弱と最も低くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(4) 自身の健康状態について

問16 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか。(〇は1つだけ)。

■自分は【健康だと思う】と自認している人は前回から4ポイント減少し63.0%

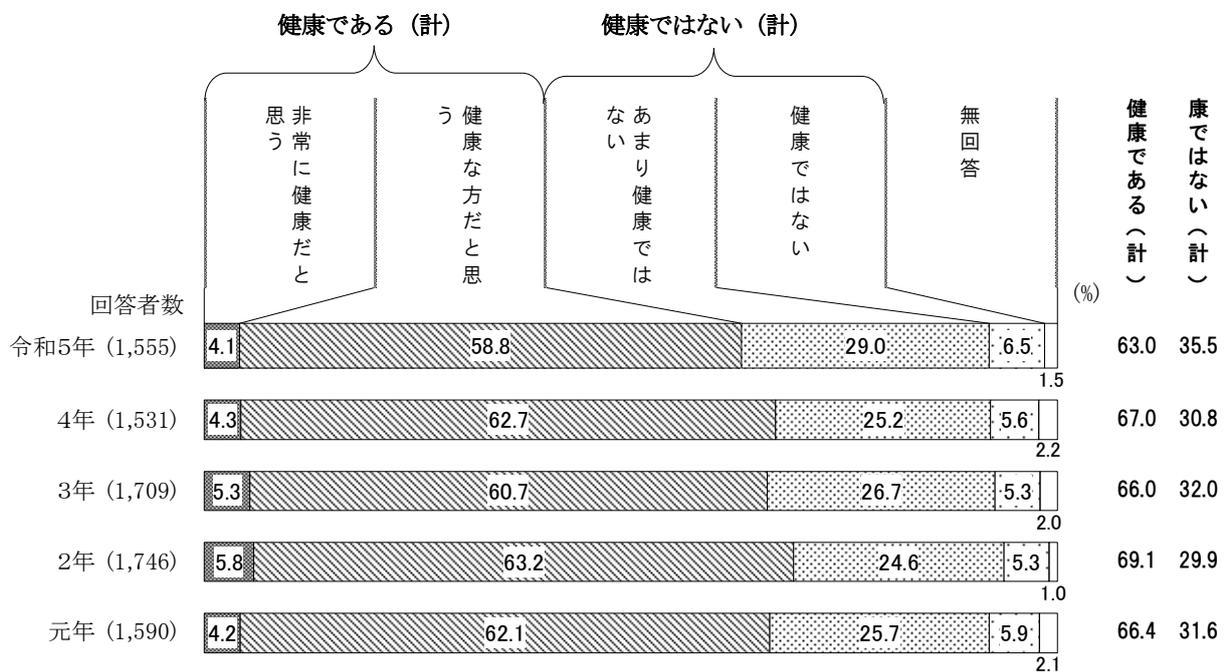
ア 単純集計・経年比較／自身の健康状態について

(ア) 自身の健康状態については、「健康な方だと思う」が58.8%を占めており、これに「非常に健康だと思う」(4.1%)を合わせた【健康である】が63.0%となっている。

(イ) 自身の健康状態は「あまり健康ではない」(29.0%)と「健康ではない」(6.5%)を合わせた【健康ではない】は35.5%となっている。

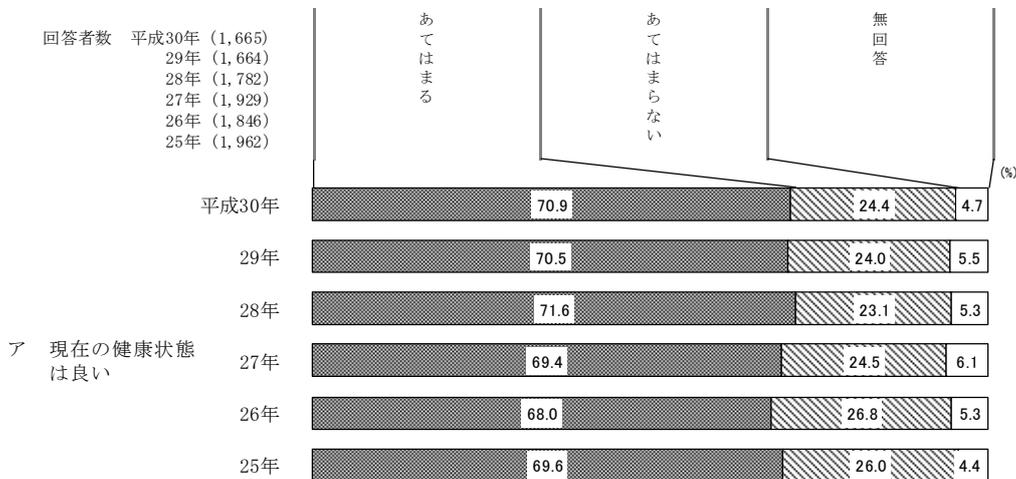
(ウ) 前回調査と比較すると、【健康である】が4.0ポイント減少し、【健康ではない】が4.7ポイント増加している。

図5-4-1 経年比較／自身の健康状態について



参考／体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください(〇はそれぞれ1つずつ)。



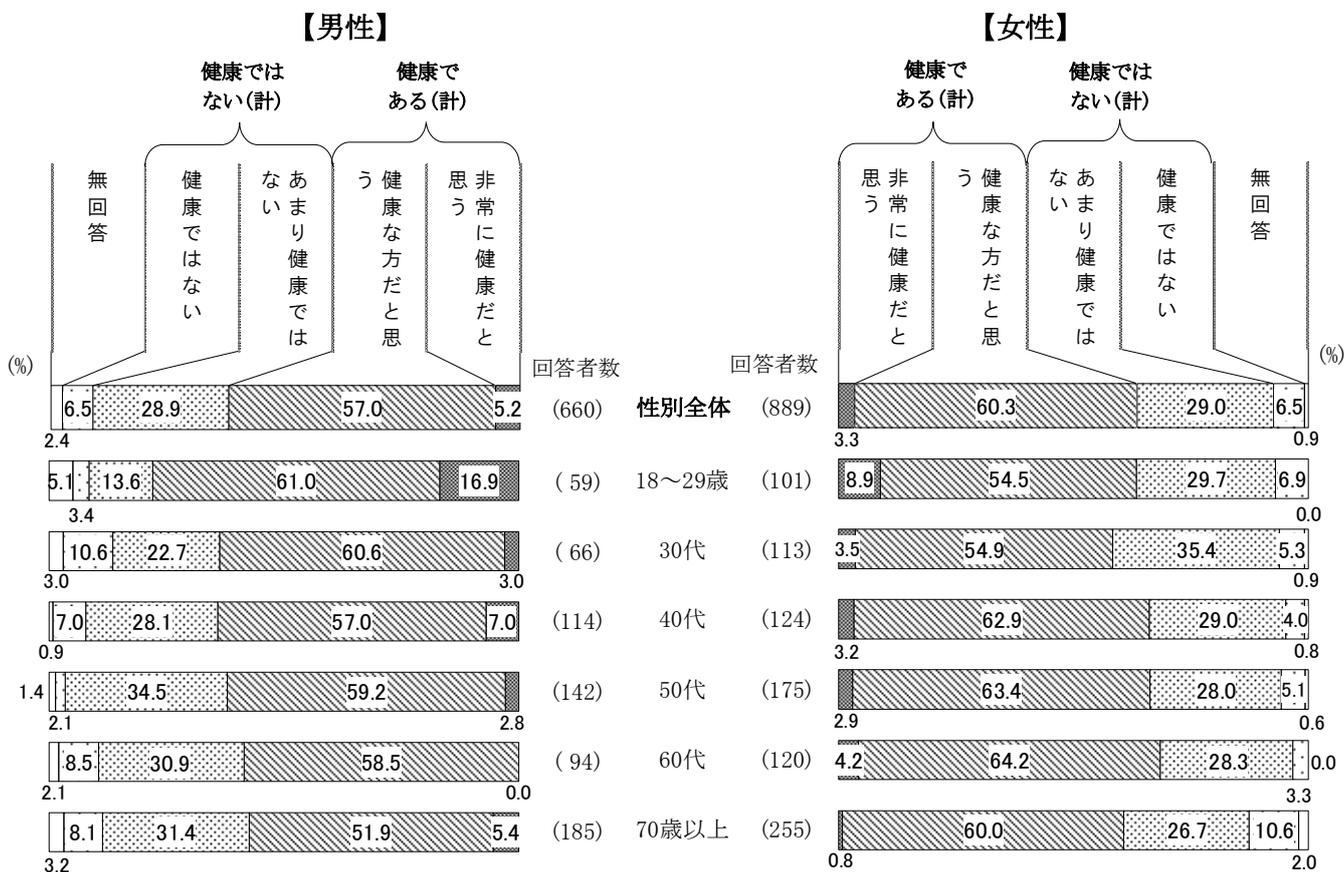
※ 令和元年度より独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態は良い」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／自身の健康状態について

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【健康である】は、男性の18～29歳（78.0%）で唯一7割台と高く、逆に、男性の60代と70歳以上、女性の30代が5割台と低くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について



(5) 体調や習慣

問17 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

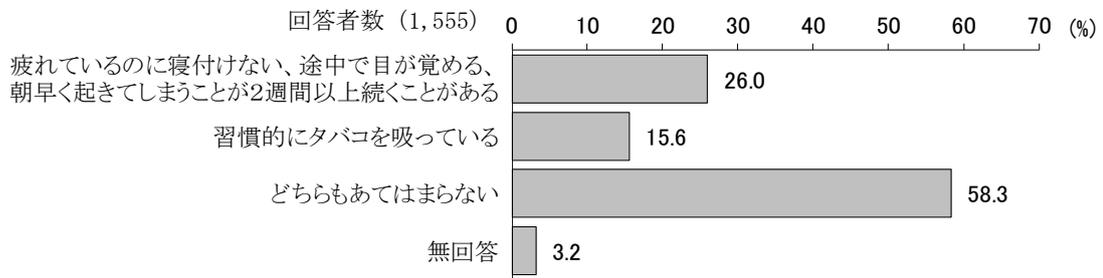
(○はあてはまるものすべて)。

■「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚めるなどが2週間以上続くことがある」が2割台半ば、「習慣的にタバコを吸っている」が1割台半ば、「どちらもあてはまらない」が6割弱

ア 単純集計／体調や習慣

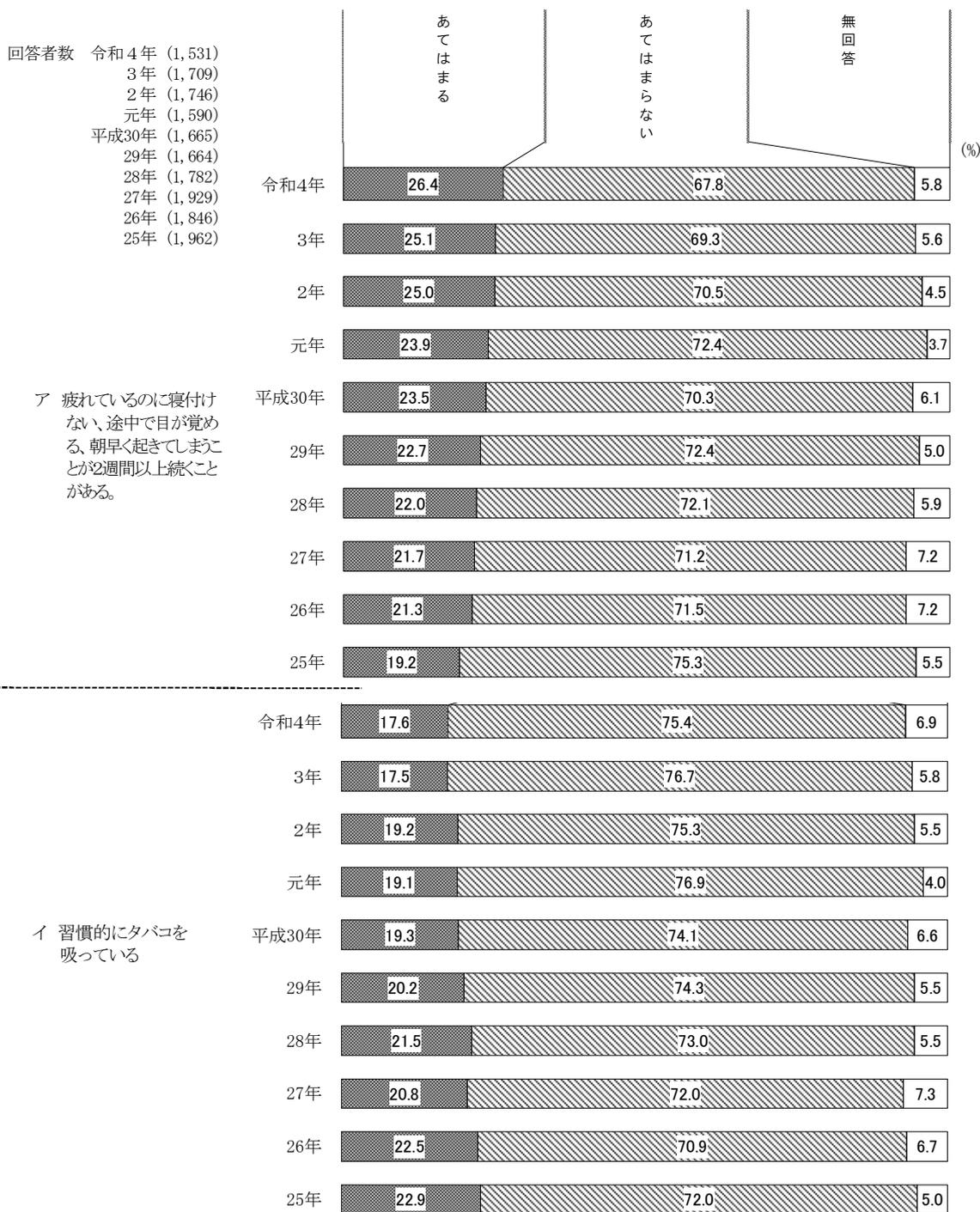
体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）についてうかがったところ、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が26.0%、「習慣的にタバコを吸っている」が15.6%で、「どちらもあてはまらない」が58.3%となっている。

図5-5-1 体調や習慣



参考①／体調や習慣

問 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



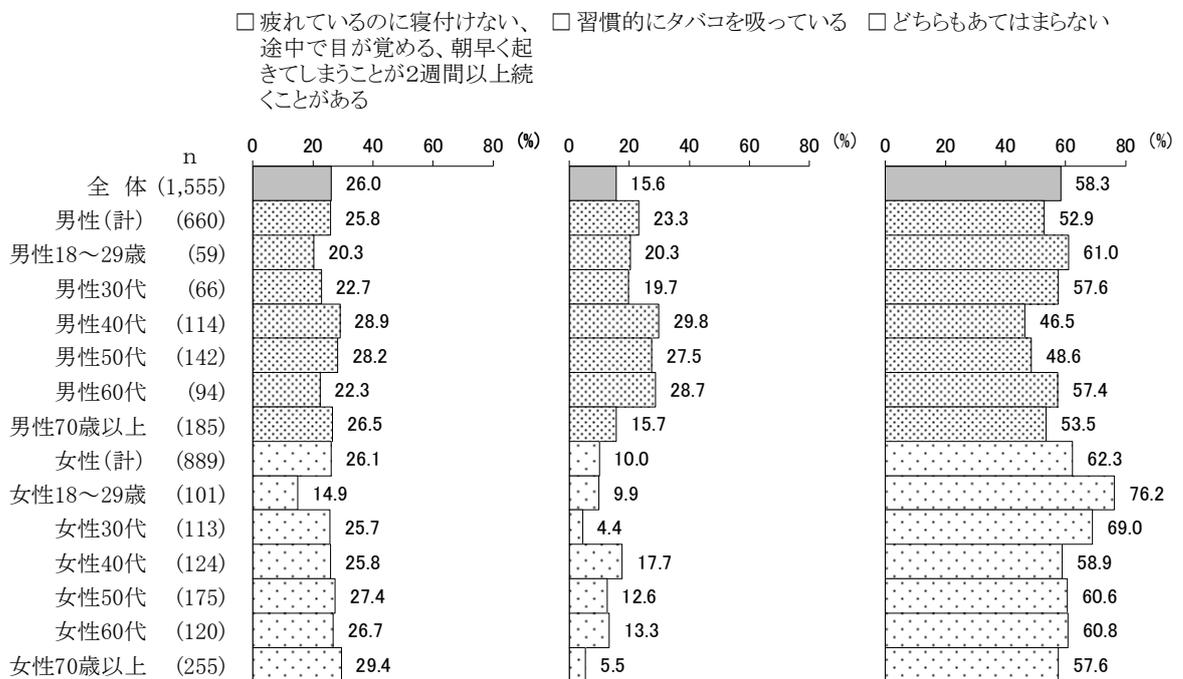
※ 前回調査までは、体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）の状況を個別に聴いていたが、今回調査から、「どちらもあてはまらない」の割合を把握するため、1つの質問（複数回答）にまとめたため、単純に割合を比較することはできない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣

(ア) 性別でみると、「習慣的にタバコを吸っている」は男性（23.3%）の方が女性（10.0%）より13.3ポイント高く、「どちらもあてはまらない」は男性（52.9%）の方が女性（62.3%）より9.4ポイント低くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」は、女性の70歳以上で約3割と最も高く、逆に、女性の18～29歳で1割台半ばと最も低くなっている。「習慣的にタバコを吸っている」は男性の40代、50代、60代で2割台後半と高く、逆に、女性の18～29歳、30代、70歳以上で1割未満と低くなっている。一方、「どちらもあてはまらない」は女性の18～29歳で76.2%と最も高く、逆に男性の40代で46.5%と最も低くなっている。

図5-5-2 性別、性・年代別／体調や習慣



(6) 安心して受診できる医療機関の有無

問18 あなたが安心して受診できる医療機関は身近にありますか（○は1つだけ）。

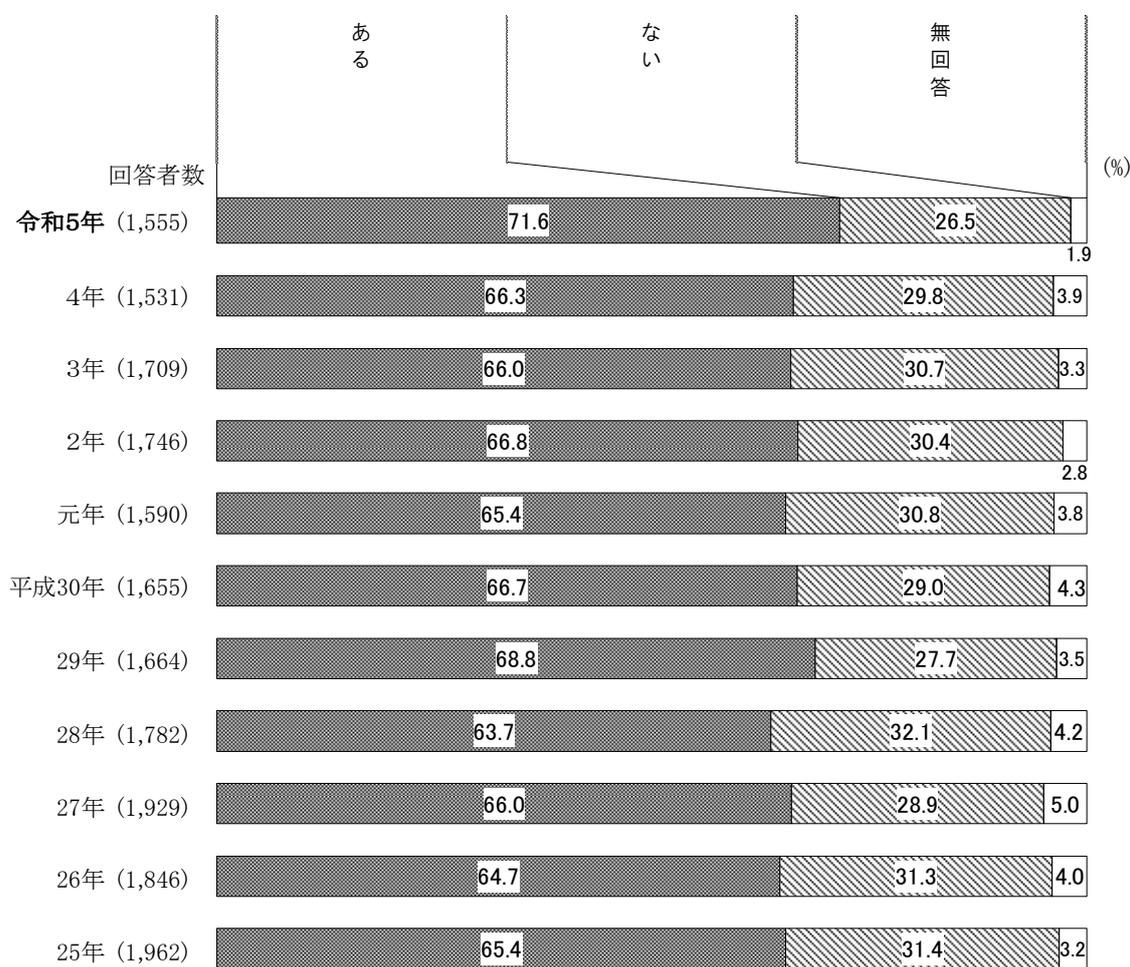
■「ある」が7割強、「ない」が2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／安心して受診できる医療機関の有無

(ア)「ある」が71.6%で、「ない」が26.5%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「ある」が5.3ポイント増加し、「ない」が3.3ポイント減少している。

図5-6-1 安心して受診できる医療機関の有無



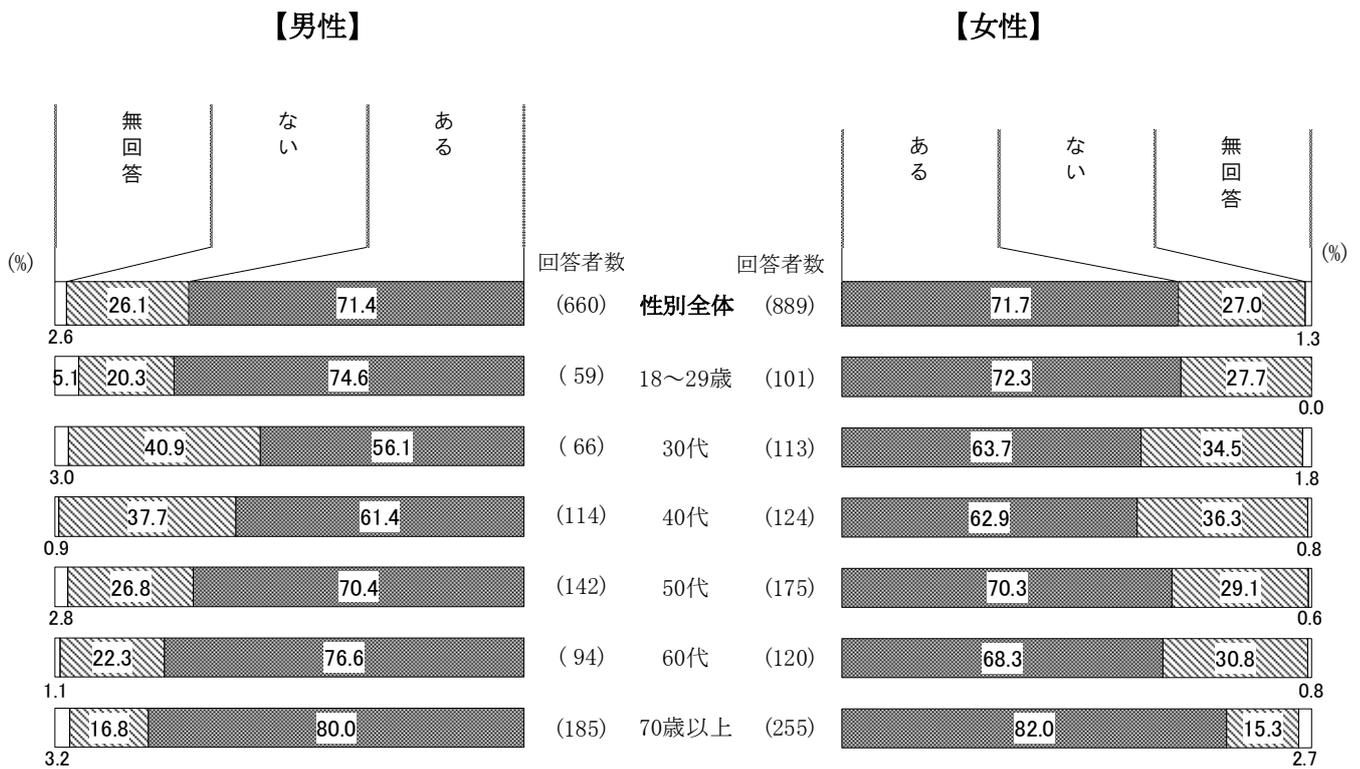
※ 前回調査までは、選択肢を「あてはまる」「あてはまらない」という選択肢で聴取していたが、今回調査より「ある」「ない」と選択肢をかえた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／安心して受診できる医療機関の有無

(ア) 性別にみると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、「ある」は、女性の70歳以上で82.0%と最も高く、次いで、男性の70歳以上で80.0%となっている。逆に、男性の30代が5割台半ばで最も低くなっている。

図5-6-2 安心して受診できる医療機関の有無



(7) 健康維持のために実行している、心がけているもの

問19 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください
(〇はあてはまるものすべて)。

■「毎年健康診断を受けている」が6割台半ば、「毎日朝ごはんを食べている」が6割超

ア 単純集計・経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 健康維持のために心がけていることについて、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「毎年健康診断を受けている」(65.5%)
- ②「毎日朝ごはんを食べている」(61.1%)
- ③「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(38.9%)
- ④「日ごろ、健康のために適度な運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」(35.2%) などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」が7.6ポイント減少し、「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」も4.6ポイントの減少となった。

図5-7-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

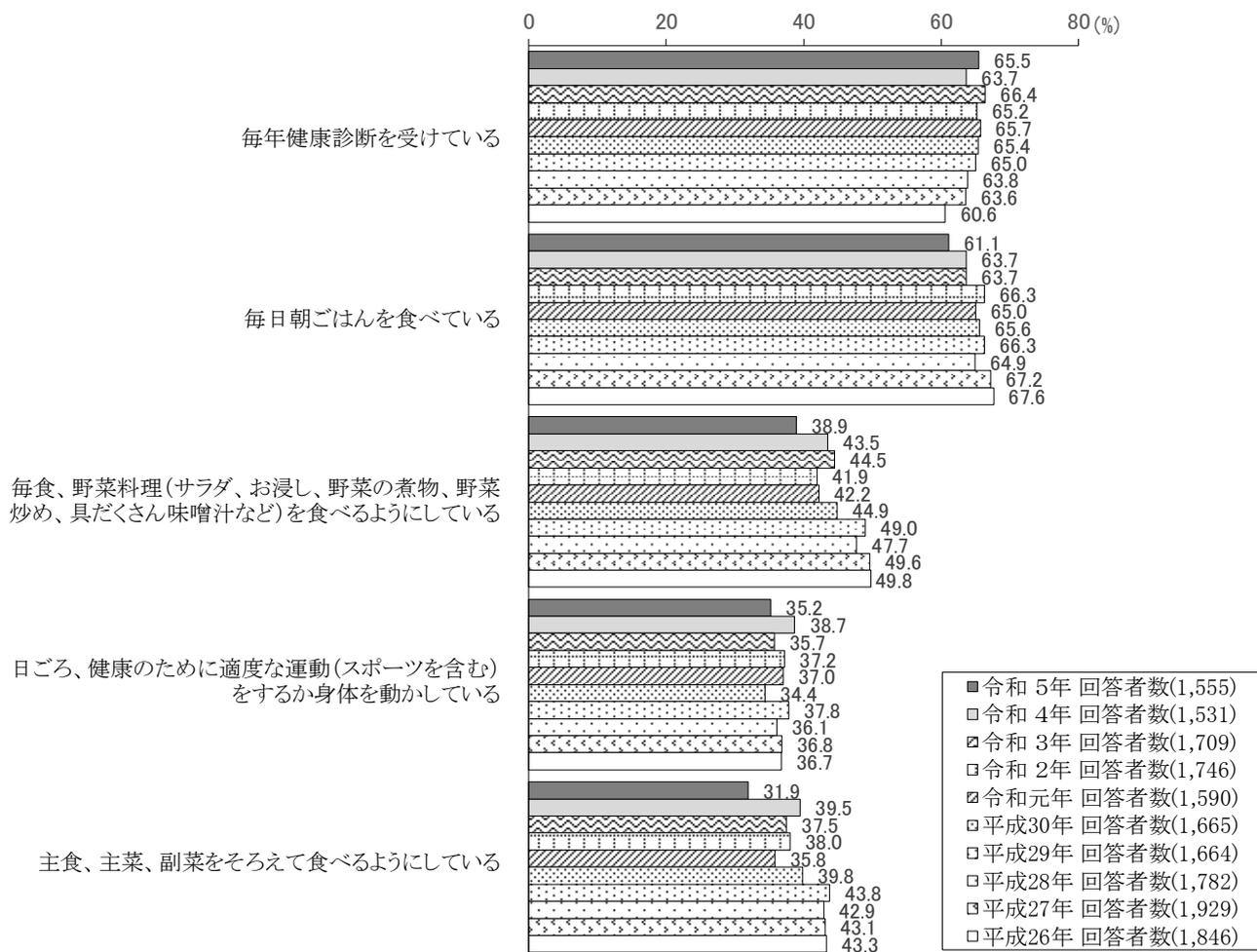
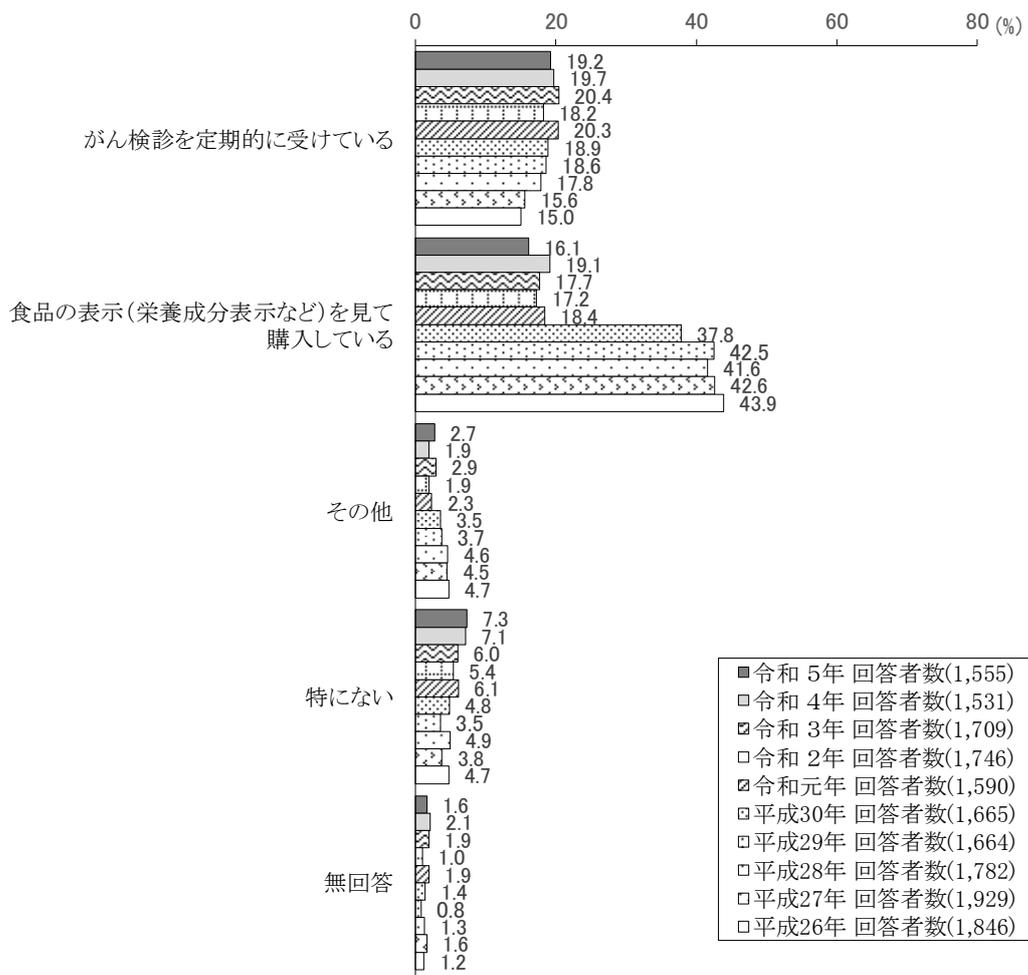


図5-7-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



(8) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

問20 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

- 【がん検診を受けた】(43.7%)は「がん検診は受けていない」(46.5%)を下回っている。
- 受けたがん検診は、「大腸がん検診」、「胃がん検診」、「乳がん検診」の順。

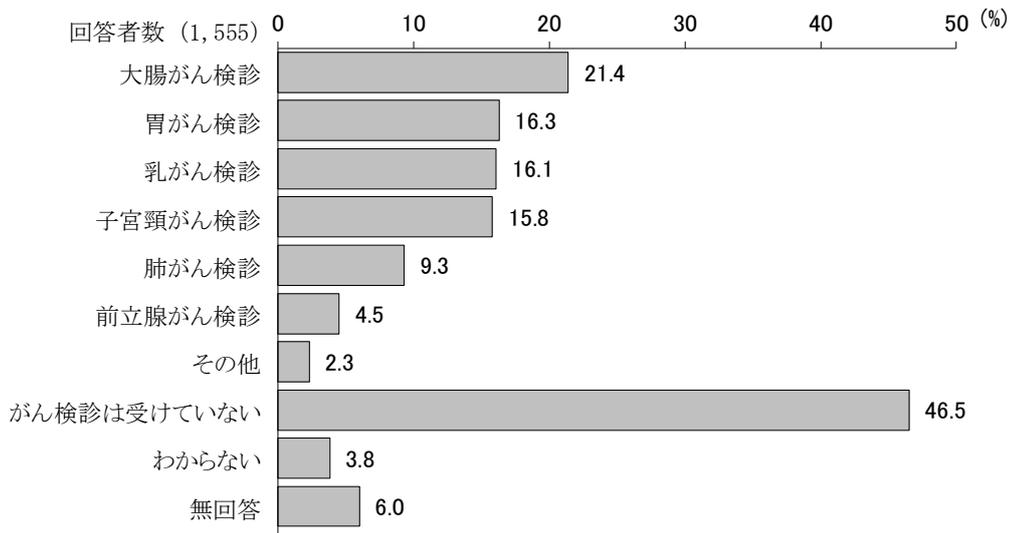
ア 単純集計／がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

(ア) この一年間に【がん検診を受けた】は43.7%で、「がん検診は受けていない」(46.5%)を下回っている。

(イ) 受けたがん検診の種類の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「大腸がん検診」(21.4%)
- ② 「胃がん検診」(16.3%)
- ③ 「乳がん検診」(16.1%)
- ④ 「子宮頸がん検診」(15.8%)

図5-8-1 がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類



※ 【がん検診を受けた】=100%－「がん検診は受けていない」－「わからない」－「無回答」

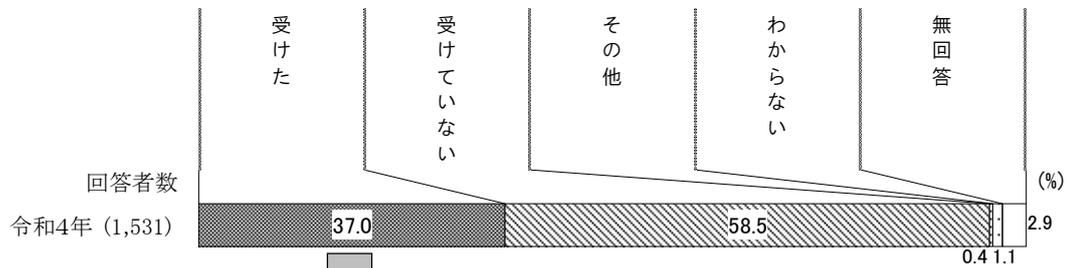
<参考> 足立区が区民対象に行っているがん検診

検査項目	受診対象	自己負担金	備考
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ受診可	1,000円	
胃がん内視鏡検診	50歳以上 ※2年度に1回受診可	2,000円	
肺がん検診	40歳以上毎年度受診可	800円	かく痰検査は+300円
大腸がん検診	40歳以上毎年度受診可	300円	
子宮頸がん検診	20歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	初該当年に無料クーポン券あり
乳がん検診	40歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	
前立腺がん検診	60歳から64歳の間毎年度受診可	800円	

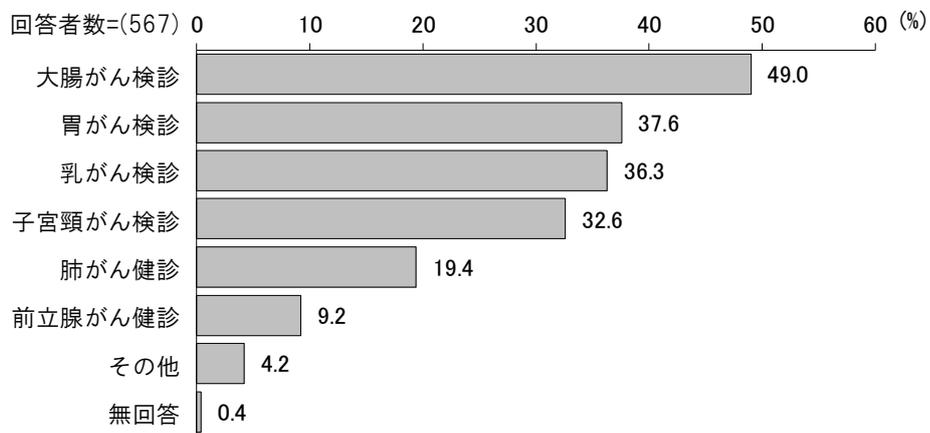
※ がん検診は足立区が行っている「区の検診」以外に、職場で行う「職場の検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがあり、また上記表のとおり検査項目によって受診対象が異なることを考慮する必要がある。

参考／がん検診の受診有無→受けたがん検診の種類

問 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。



問 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。



※ 前回調査では、最初に、がん検診の受診有無を質問し、「受けた」と回答された方に対して受けたがん検診の種類をたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(9) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容

問21 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（〇はあてはまるものすべて）。

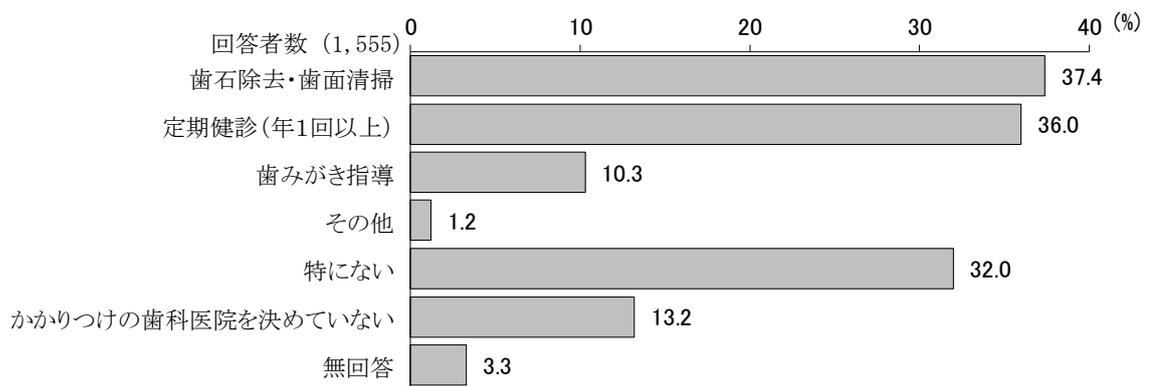
- 【かかりつけ歯科医院を決めている】は8割台半ば、「かかりつけ歯科医院を決めていない」は1割台半ば
- 治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が37.4%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%

ア 単純集計／歯科医院で治療のほかに受けている内容

(ア) 【かかりつけ歯科医院を決めている】は83.5%を占めており、「かかりつけ歯科医院を決めていない」は13.2%となっている。

(イ) かかりつけ歯科医院で治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものは、「歯石除去・歯面清掃」が37.4%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%となっている。一方、「特にない」は32.0%となっている。

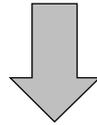
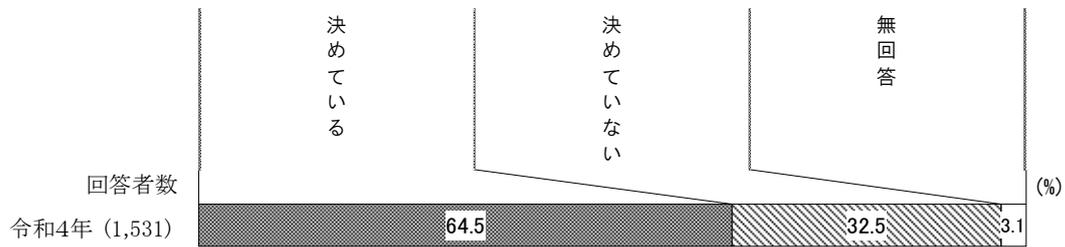
図5-9-1 かかりつけ歯科医院で治療のほかに受けている内容



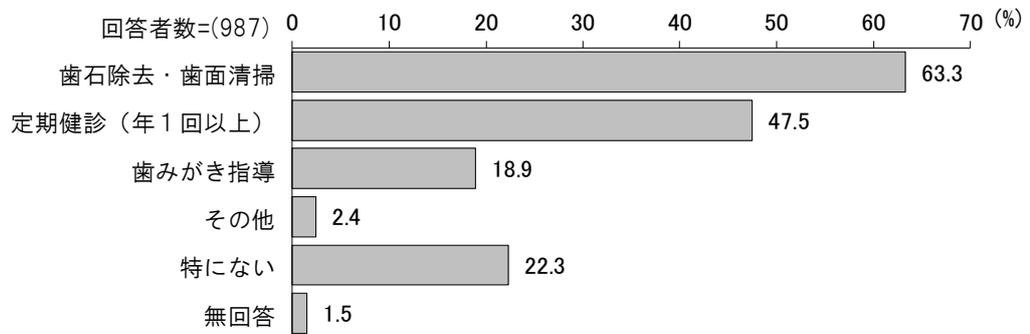
※ 【かかりつけ歯科医院を決めている】 = 100% - 「かかりつけ歯科医院を決めていない」 - 「無回答」

参考／かかりつけ歯科医院の有無→受けている治療や指導

問 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか（○は1つだけ）。



問 その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。



※ 前回調査では、最初に、かかりつけ歯科医院の有無を質問し、「決めている」と回答された方に対して、治療や入れ歯修理など以外の定期健診や指導などをたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(10) 感染症予防としての手洗いの実践状況

問22 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

■「毎日（毎回）行っている」人が8割超も、減少傾向

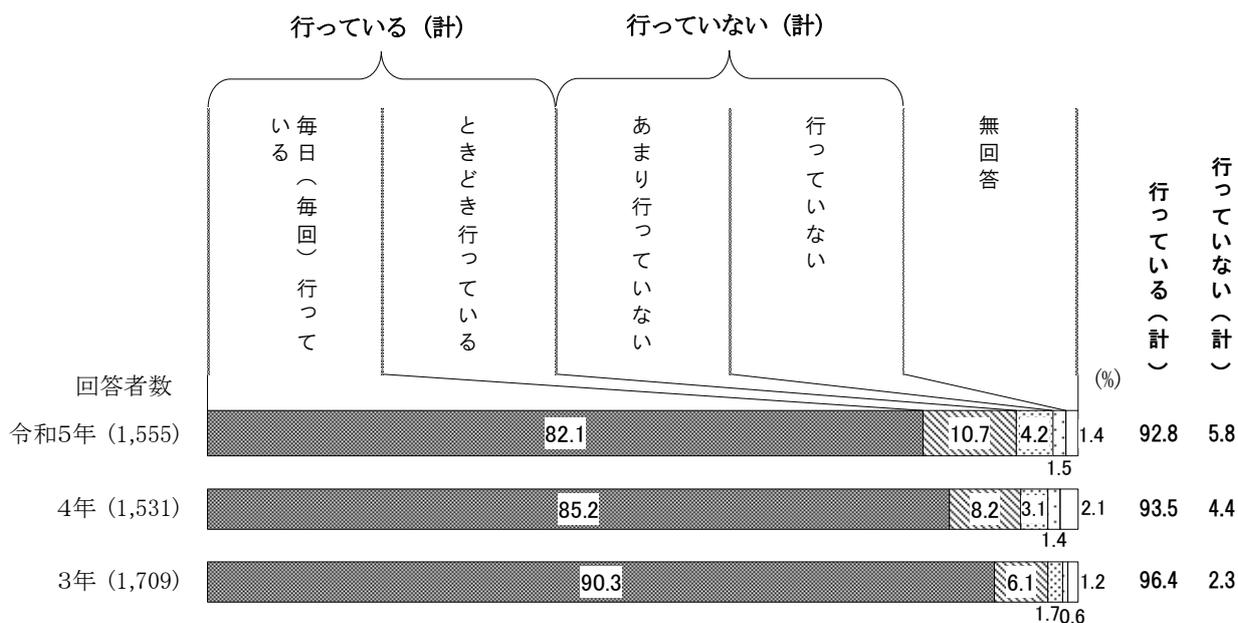
ア 単純集計・経年比較／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 帰宅時における感染症予防としての手洗いの実践状況は、「毎日（毎回）行っている」が82.1%を占めており、これに「ときどき行っている」（10.7%）を合わせた【行っている】（92.8%）は9割台半ば近くとなっている。

(イ) 帰宅時における手洗いを「あまり行っていない」（4.2%）と「行っていない」（1.5%）を合わせた【行っていない】（5.8%）は僅かとなっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「毎日（毎回）行っている」が3.1ポイント減少しており、【行っている】でも減少傾向となっている。

図5-10-1 経年比較／感染予防としての手洗いの実践状況

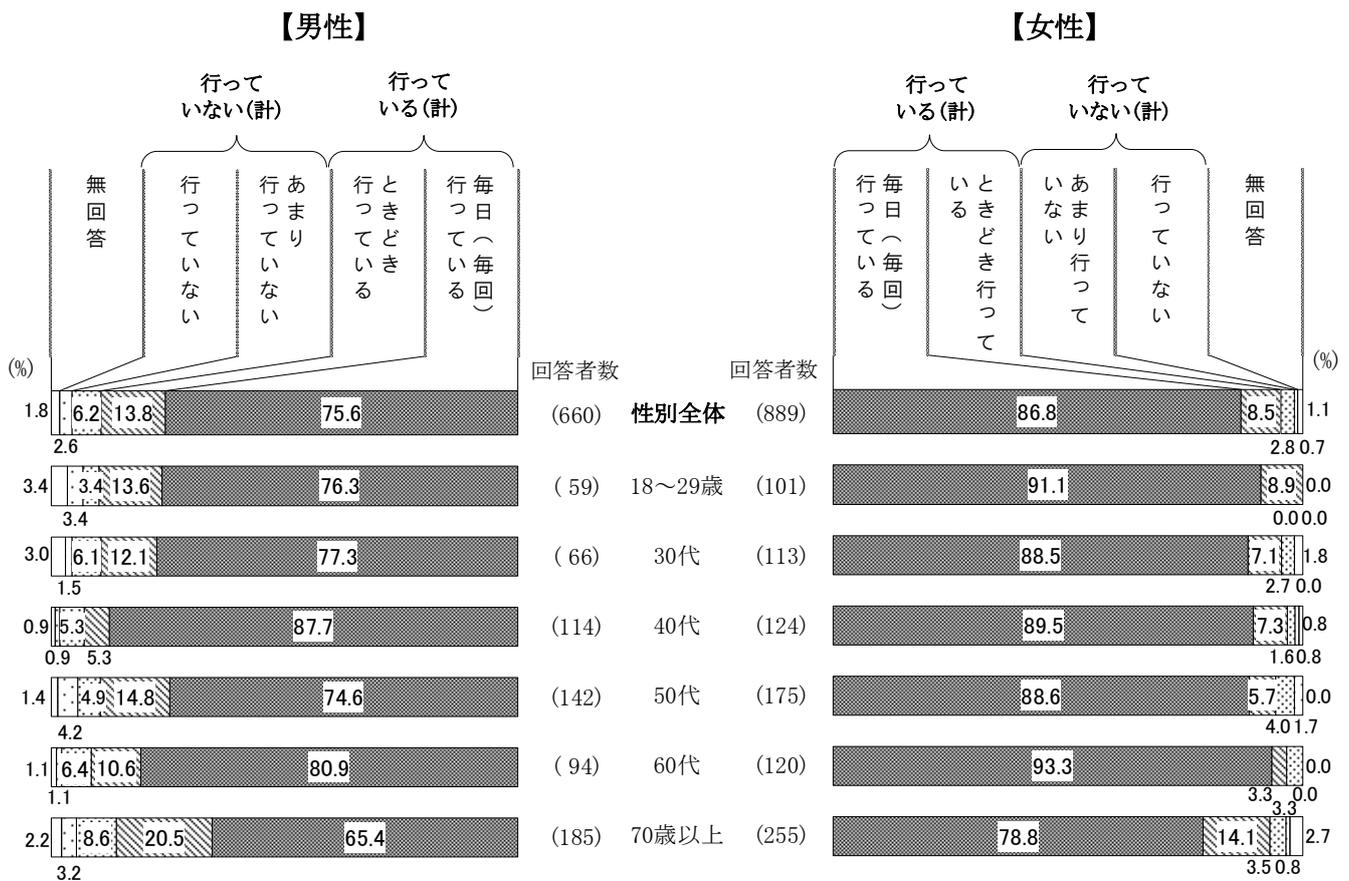


イ クロス集計・性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 性別にみると、【行っている】は女性（95.4%）の方が男性（89.4%）より6.0ポイント高く、「毎日（毎回）行っている」でみると、女性（86.8%）の方が男性（75.6%）より11.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行っている】は、女性では18～29歳で100.0%となっており、他の年代層でもすべて9割台となっている。男性では40代と60代のみ9割台前半となっているが、その他の年代層は8割台となっており、70歳以上で85.9%と最も低くなっている。

図5-10-2 性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況



(11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

問23 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

■【知っている】は2割近くで、「知らない（初めて聞いた）」が約8割

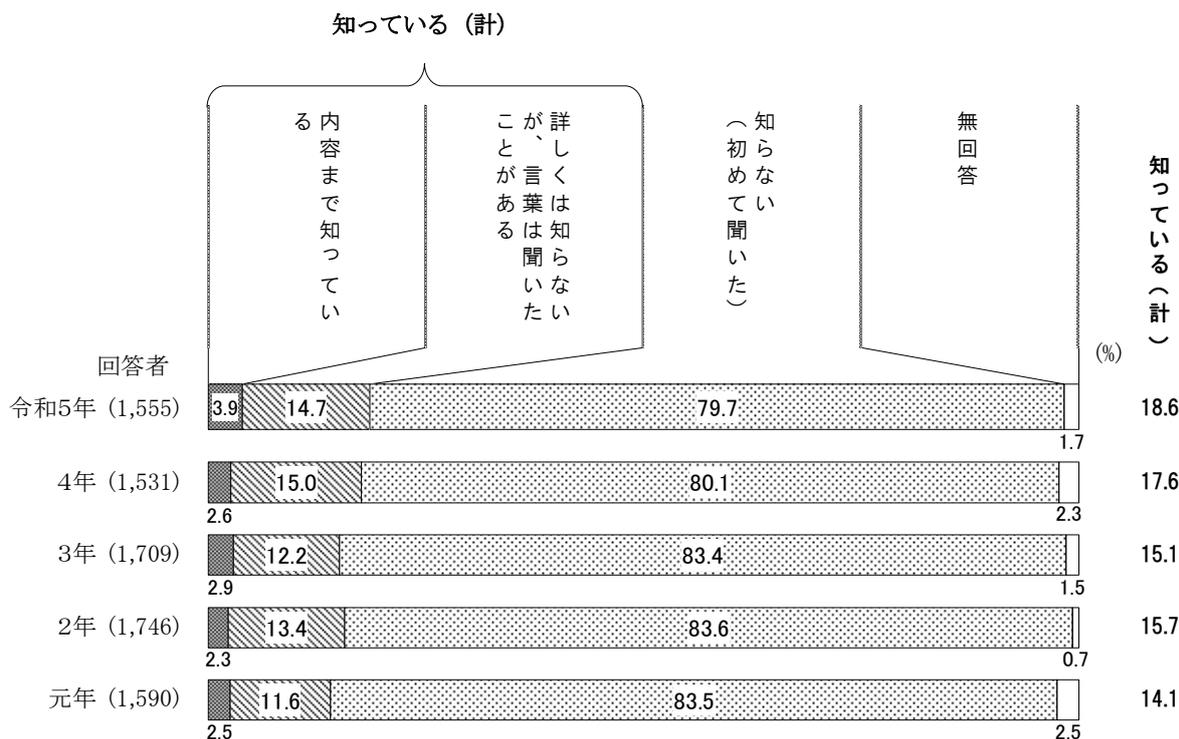
ア 単純集計・経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が約8割を占めている。

(イ) 「ゲートキーパー」という言葉を「内容まで知っている」（3.9%）は僅かで、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（14.7%）を合わせた【知っている】は18.6%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】が微増し、設問を開始した令和元年からおおむね漸増傾向となっている。

図5-11-1 経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

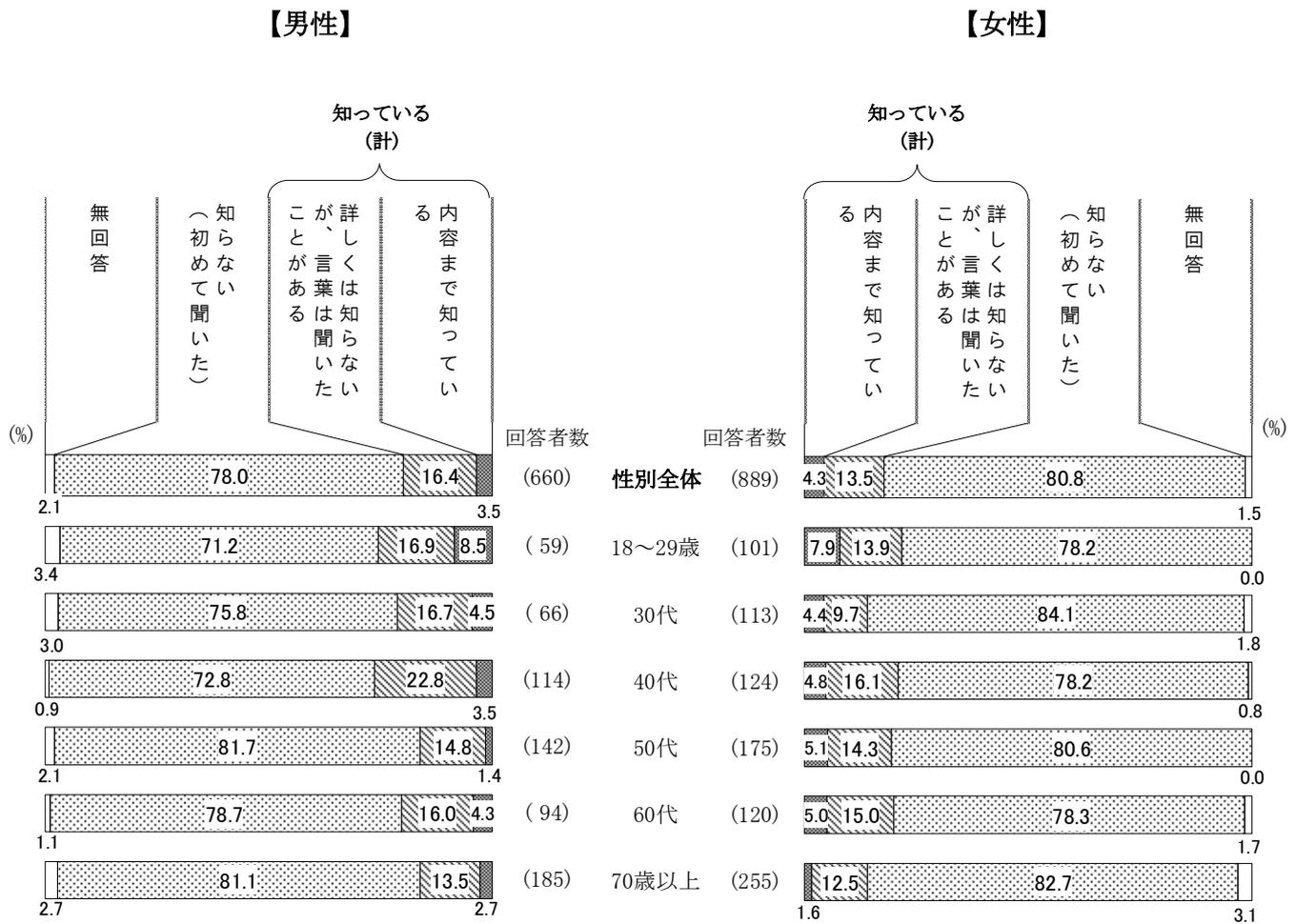


イ クロス集計・性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【知っている】は、男性の40代で26.3%と最も高く、次いで男性の18～29歳(25.4%)となっている。一方、女性の70歳以上(14.1%)と30代(14.2%)で1割台前半と低くなっている。

図5-11-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



6 スポーツ・読書

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所
 - (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ
 - (5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動
 - (6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由
 - (7) 足立区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
 - (8) 読書に関わる行動状況
 - (9) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由
-

6 スポーツ・読書

(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

問24 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

■ 「運動・スポーツはしていない」は約4割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

ア 単純集計・経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況

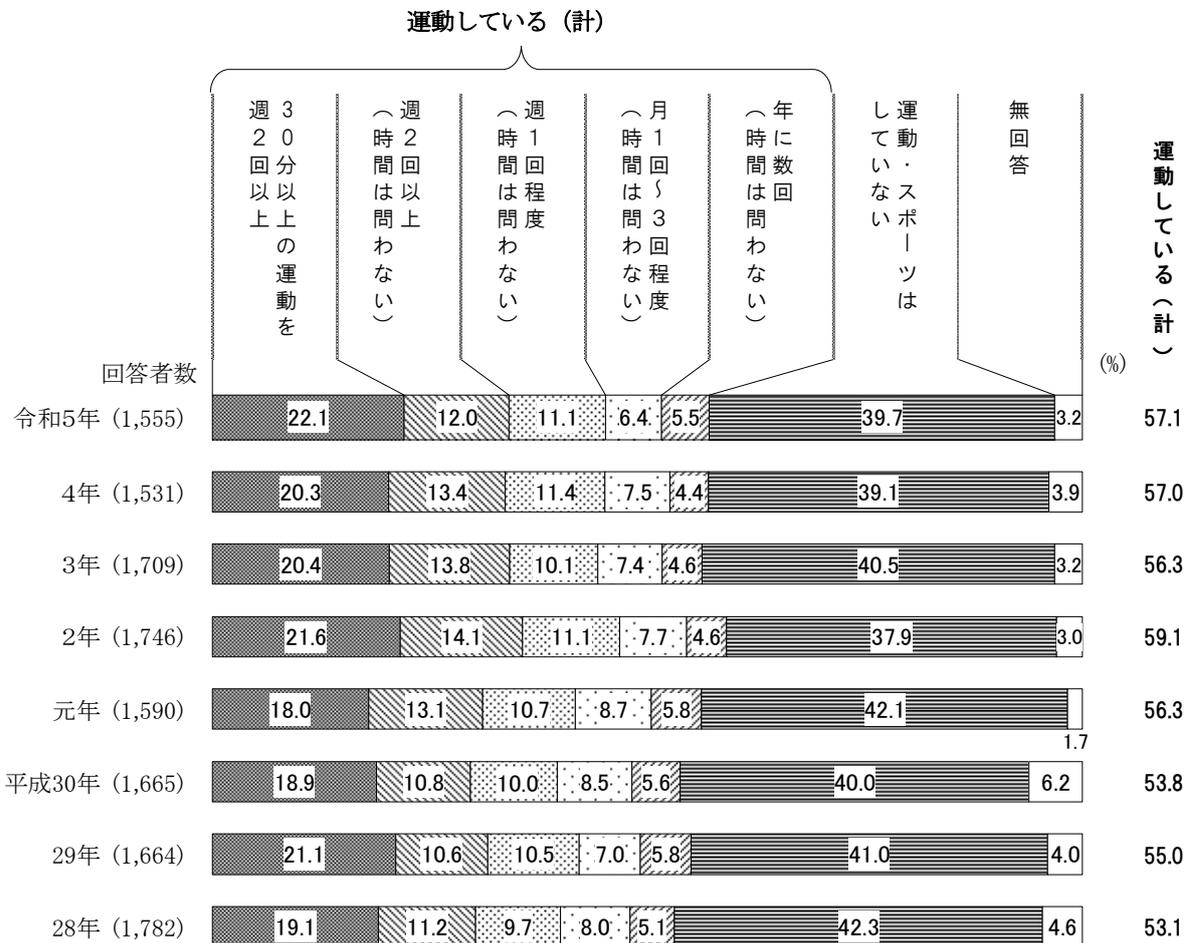
(ア) 運動・スポーツの実践頻度別の割合は、頻度の高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「30分以上の運動を週2回以上」(22.1%)
- ② 「週2回以上（時間は問わない）」(12.0%)
- ③ 「週1回程度（時間は問わない）」(11.1%)
- ④ 「月1回～3回程度（時間は問わない）」(6.4%)
- ⑤ 「年に数回（時間は問わない）」(5.5%)

(イ) 上記5項目を合わせた【運動している】は57.1%となっており、「運動・スポーツはしていない」は39.7%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図6-1-1 経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況

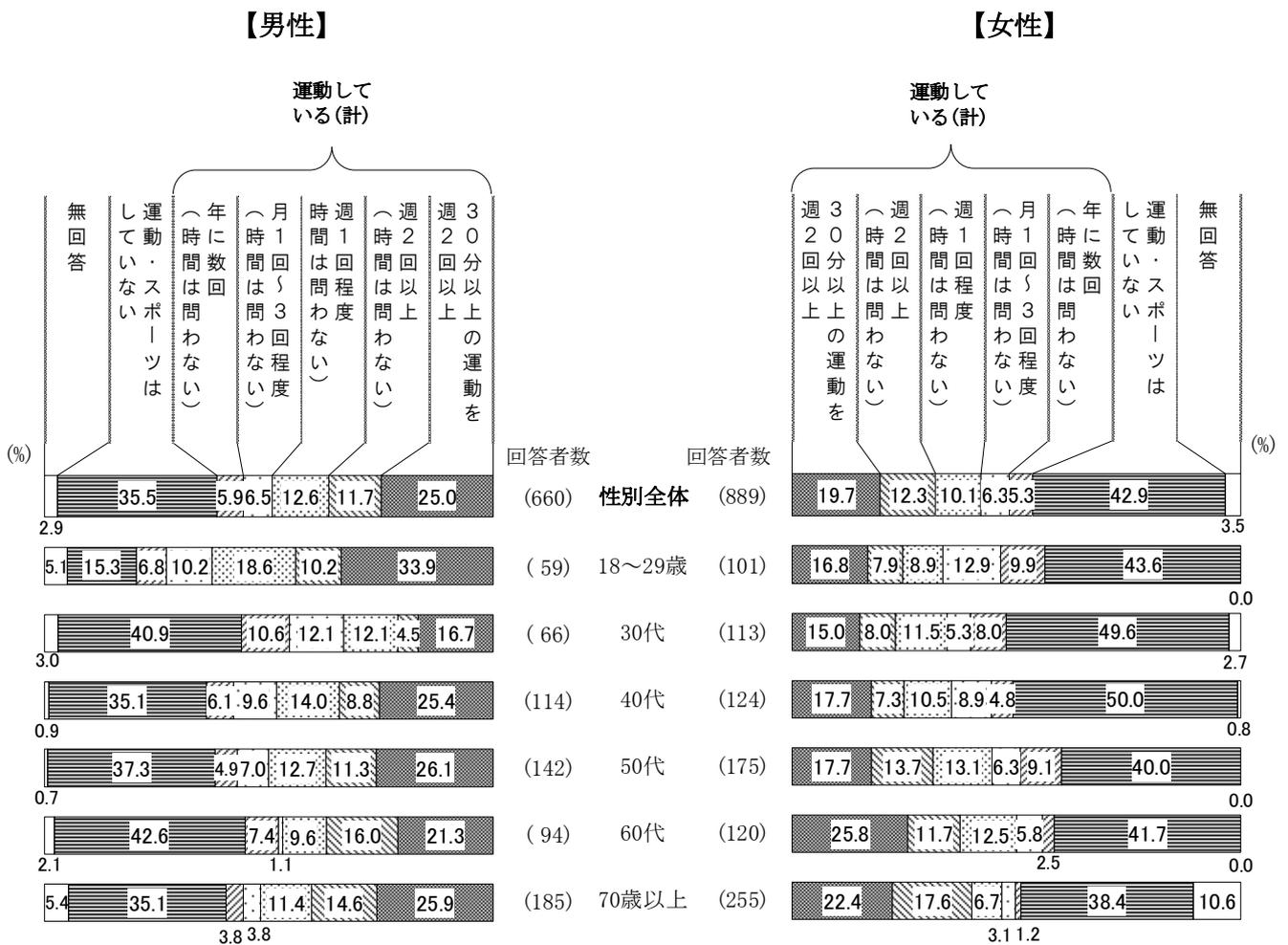


イ クロス集計・性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況

(ア) 性別でみると、「30分以上の運動を週2回以上」は男性（25.0%）の方が女性（19.7%）より5.3ポイント高く、【運動している】でも男性（61.7%）の方が女性（53.7%）より8.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【運動している】は男性の18～29歳で約8割と最も高く、次いで、男性の40代と50代、女性の50代が6割台前半で続いている。逆に女性の30代と40代が4割台と低くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

問24で1～5のいずれかをお答えの方に

問24-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

(〇はあてはまるものすべて)。

■「ウォーキング」が5割で突出し、「健康体操」と「筋力トレーニング」が2割強で続く

ア 単純集計・経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

(ア) 何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「ウォーキング」(50.3%)
- ②「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(21.8%)
- ③「筋力トレーニング」(21.3%)
- ④「ラジオ体操」(10.9%)

(イ) 前回調査と比較すると、「ウォーキング」が4.6ポイント増加しているが、その他の運動・スポーツについては特に大きな違いはみられない。

図6-2-1-① 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

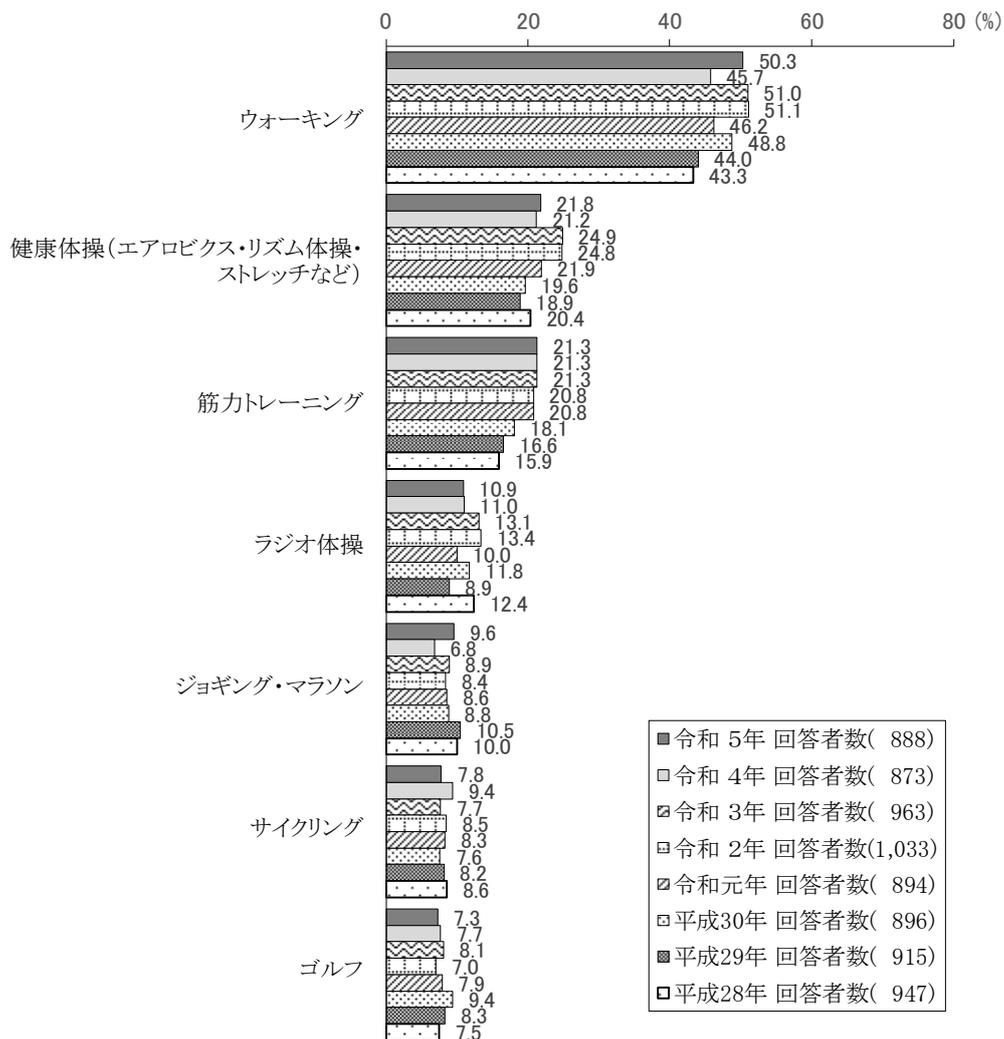


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

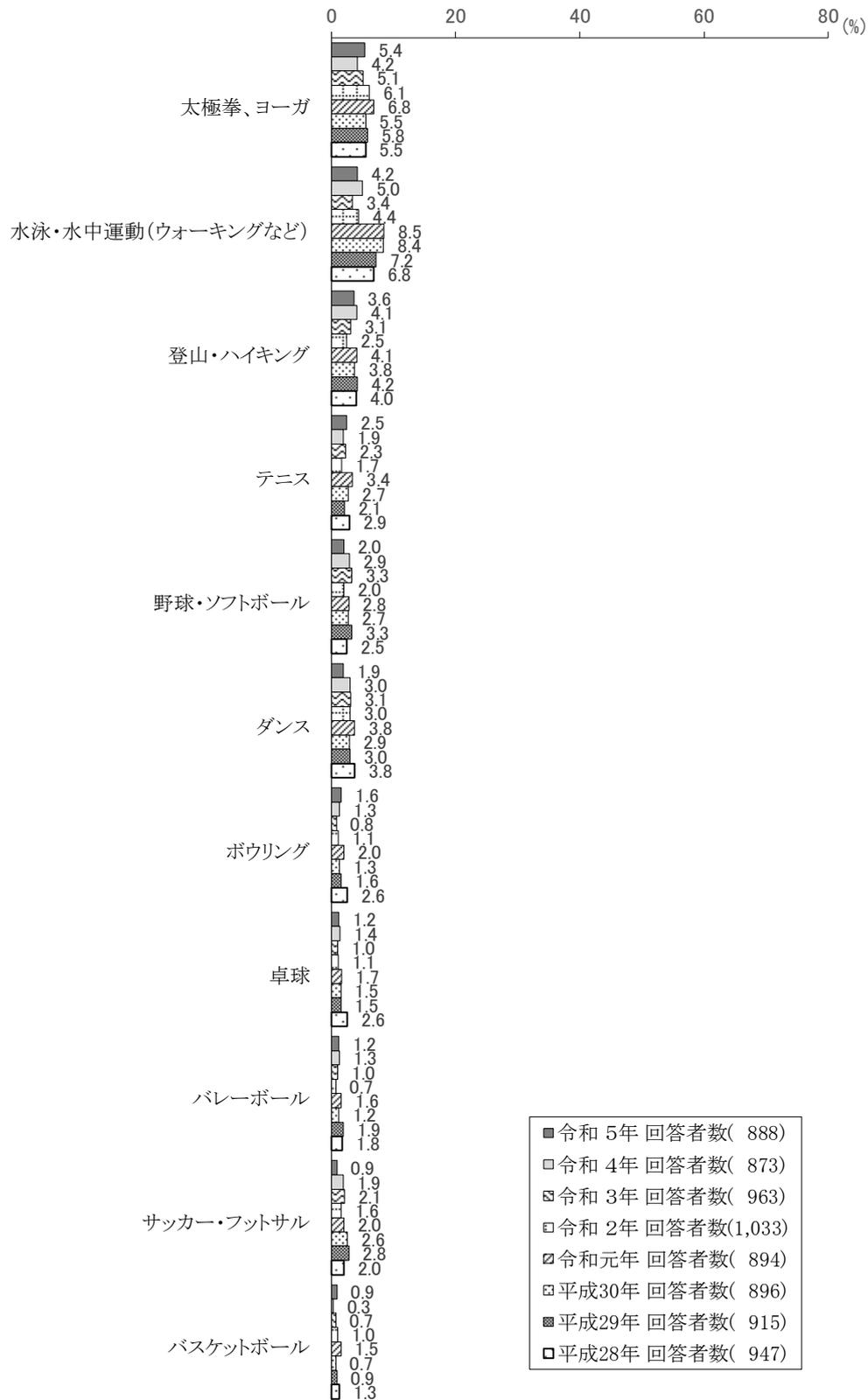
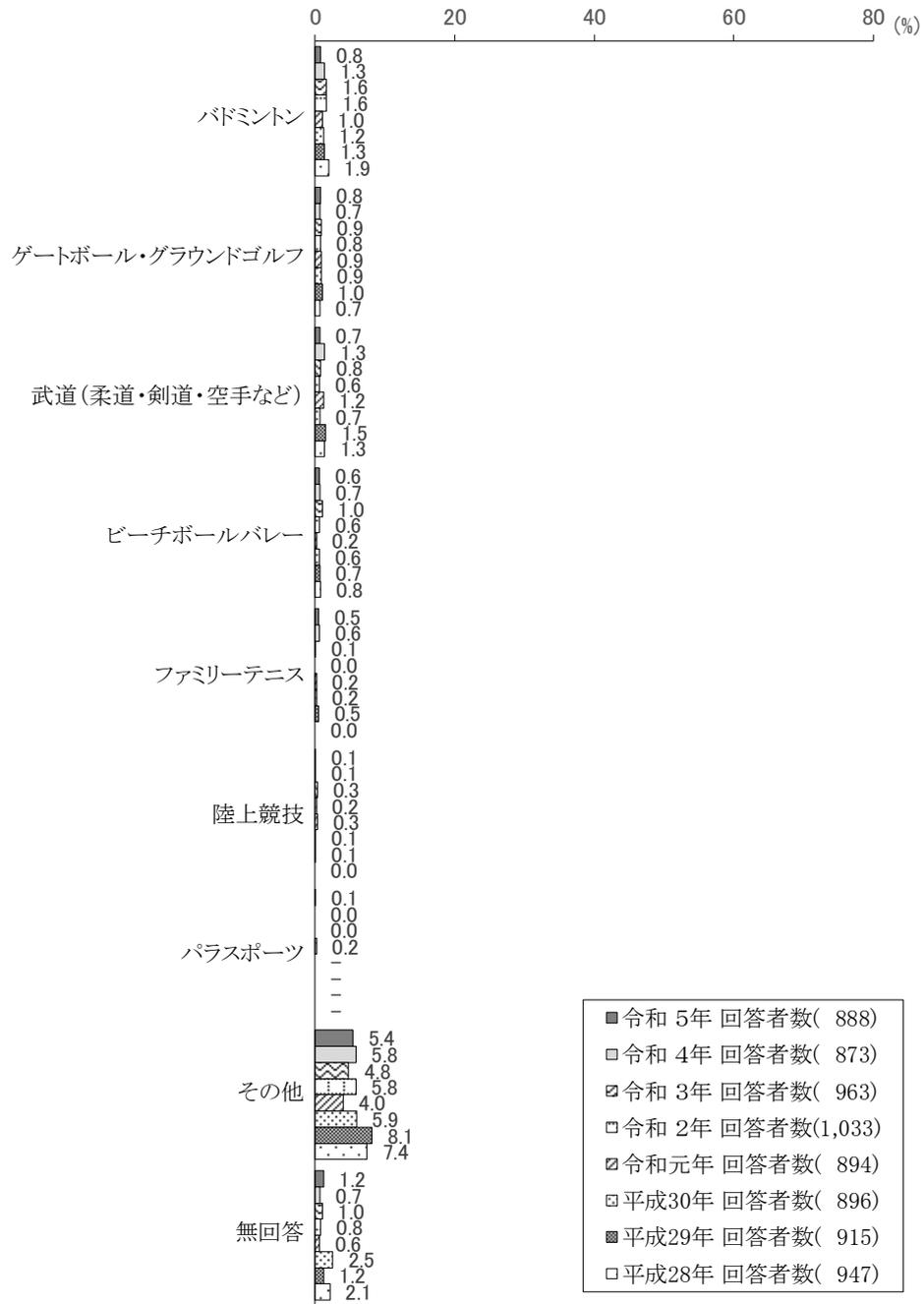


図6-2-1-③ 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



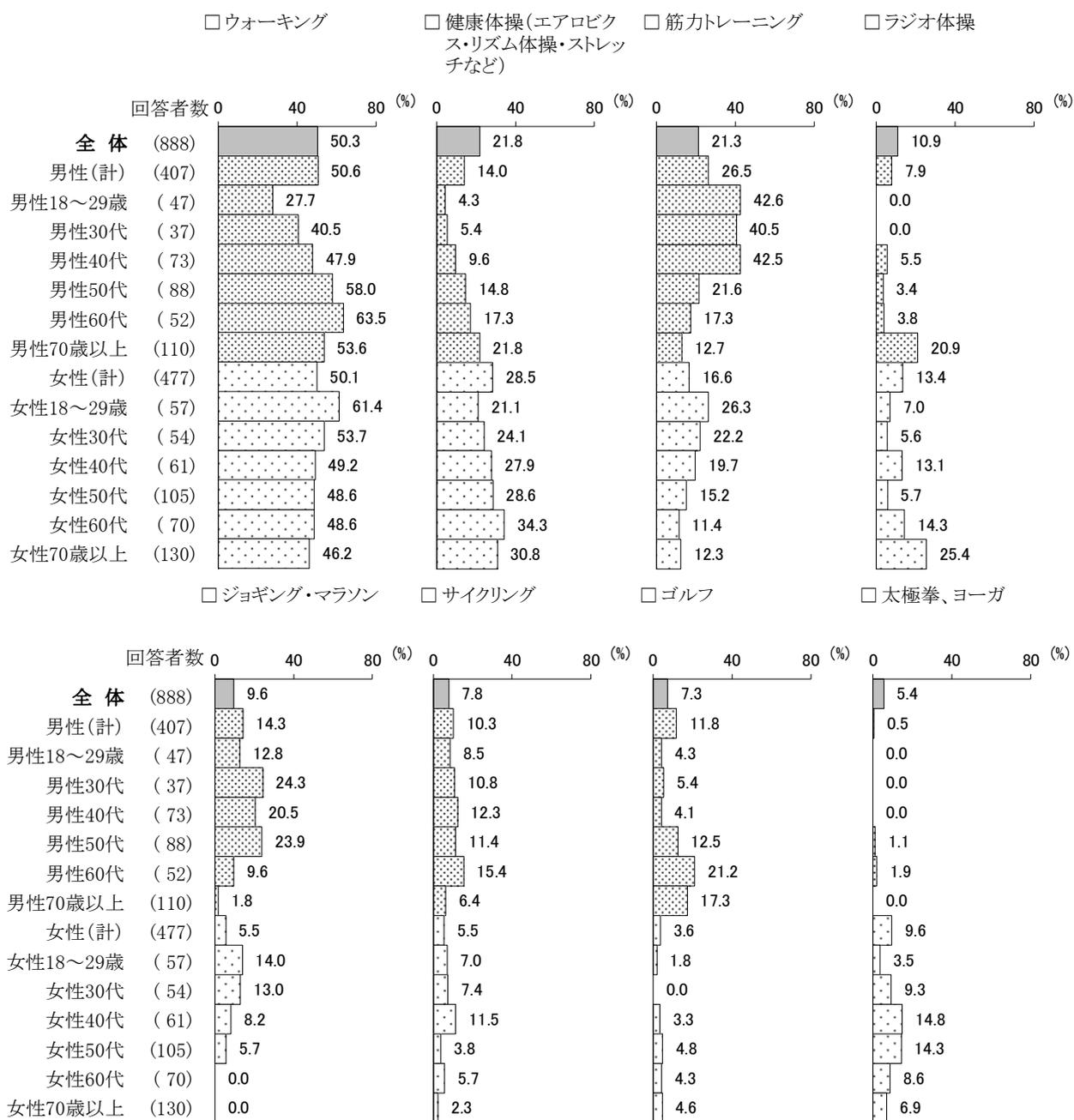
イ クロス集計・性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、上位8項目のうち5項目で男性の方が高く、特に「筋力トレーニング」(+9.9ポイント)、「ジョギング・マラソン」(+8.8ポイント)、「ゴルフ」(+8.2ポイント)で8ポイント強高くなっている。

(イ) 女性の方が男性より高いのは、「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(+14.5ポイント)、「太極拳、ヨガ」(+9.1ポイント)、「ラジオ体操」(+5.5ポイント)となっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、「ウォーキング」は男性の60代と女性の18～29歳で6割台、「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」は女性の60代と70歳以上で3割台、「筋力トレーニング」は男性の18～29歳、30代、40代で4割台とそれぞれ他の性・年齢層より高くなっている。また、「ラジオ体操」は男女とも70歳以上で2割台と他の性・年齢層より高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所

問24で1～5のいずれかをお答えの方に

問24-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか（○は1つだけ）。

■ 「自宅周辺」が約5割、次いで「自宅」が1割台半ば

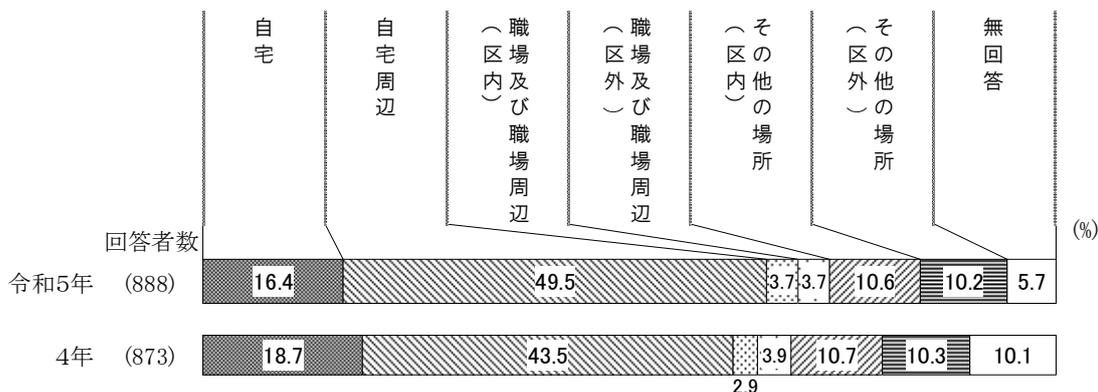
ア 単純集計・前回調査比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 運動・スポーツの実施場所について、上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「自宅周辺」(49.5%)
- ② 「自宅」(16.4%)
- ③ 「その他の場所(区内)」(10.6%)
- ④ 「その他の場所(区外)」(10.2%)

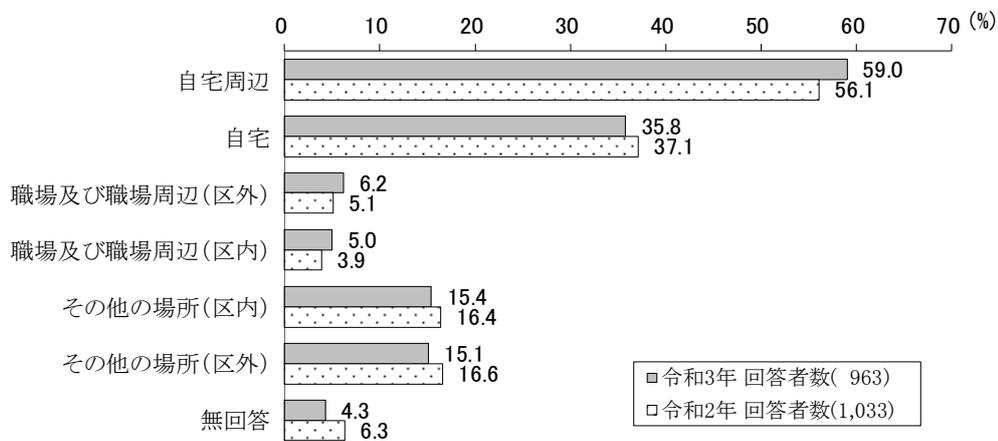
(イ) 前回調査と比較すると、「自宅周辺」が6.0ポイント増加し、「自宅」が2.3ポイント減少している。

図6-3-1 前回調査比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所



参考／(令和2・3年は複数回答) 運動・スポーツを行っている場所

問 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか（○はあてはまるものすべて）。

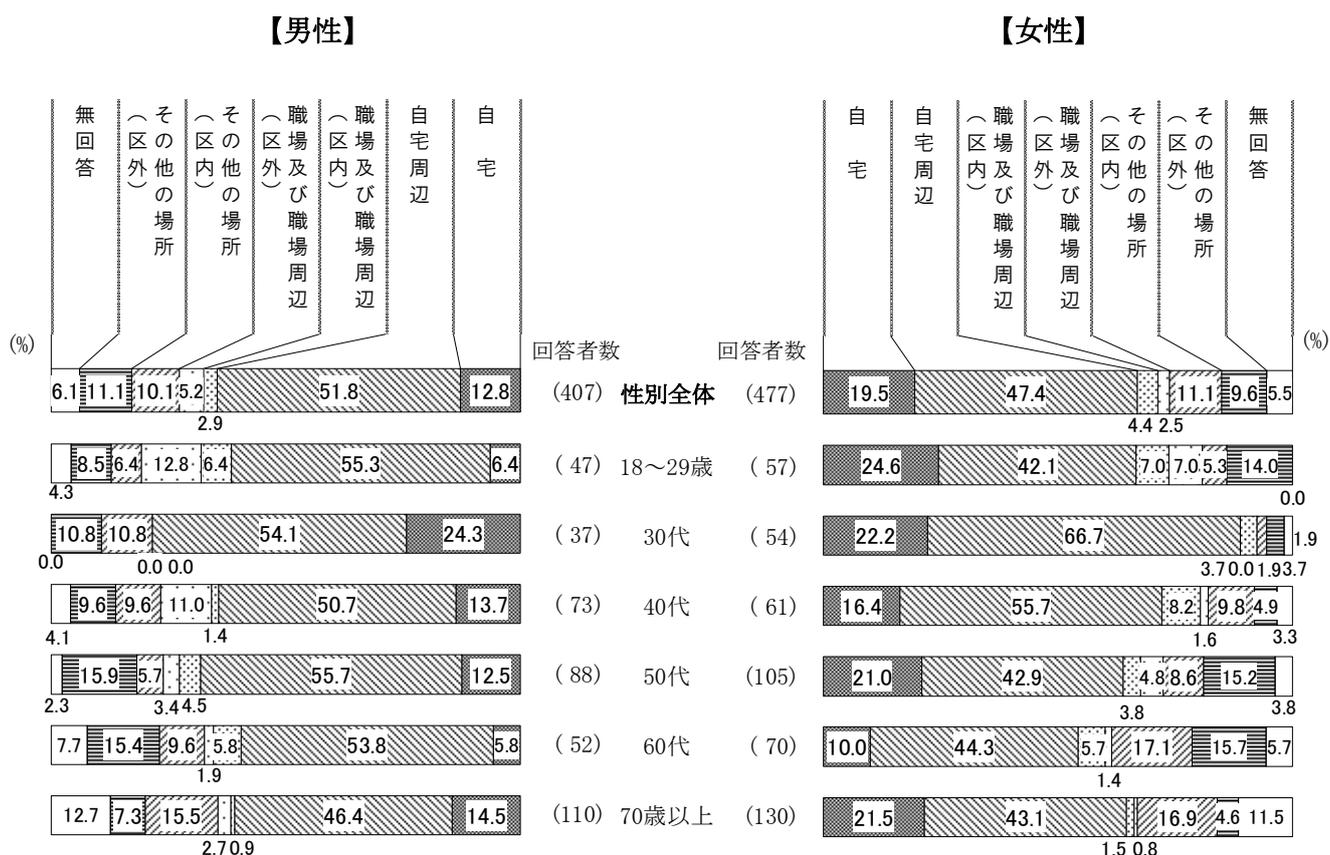


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 性別でみると、「自宅」は女性（19.5%）の方が男性（12.8%）より6.7ポイント高く、「自宅周辺」では男性（51.8%）の方が女性（47.4%）より4.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「自宅周辺」は男性では多くの年齢層で5割台となっているが、女性では30代（66.7%）と40代（55.7%）が高く、他の年齢層は4割台と低くなっている。また、「自宅」は男性の18～29歳と60代で特に低くなっている。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所



(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ

問24で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に

問24-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか
(〇はあてはまるものすべて)。

■「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割近く

ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

(ア) 日常的に「運動・スポーツはしていない」と回答した人に、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思うか聞いた結果、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「身近な場所で運動・スポーツができる」(33.4%)
- ②「手頃な価格で施設を利用できる」(28.4%)
- ③「レベルを気にせず参加できる機会がある」(19.1%)

(イ) 「どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない」は16.4%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、上位3項目すべてで減少しており、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」で5.4ポイント、「レベルを気にせず参加できる機会がある」で3.6ポイントそれぞれ大きく減少している。一方、「どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない」は3.2ポイント増加している。

図6-4-1-① 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

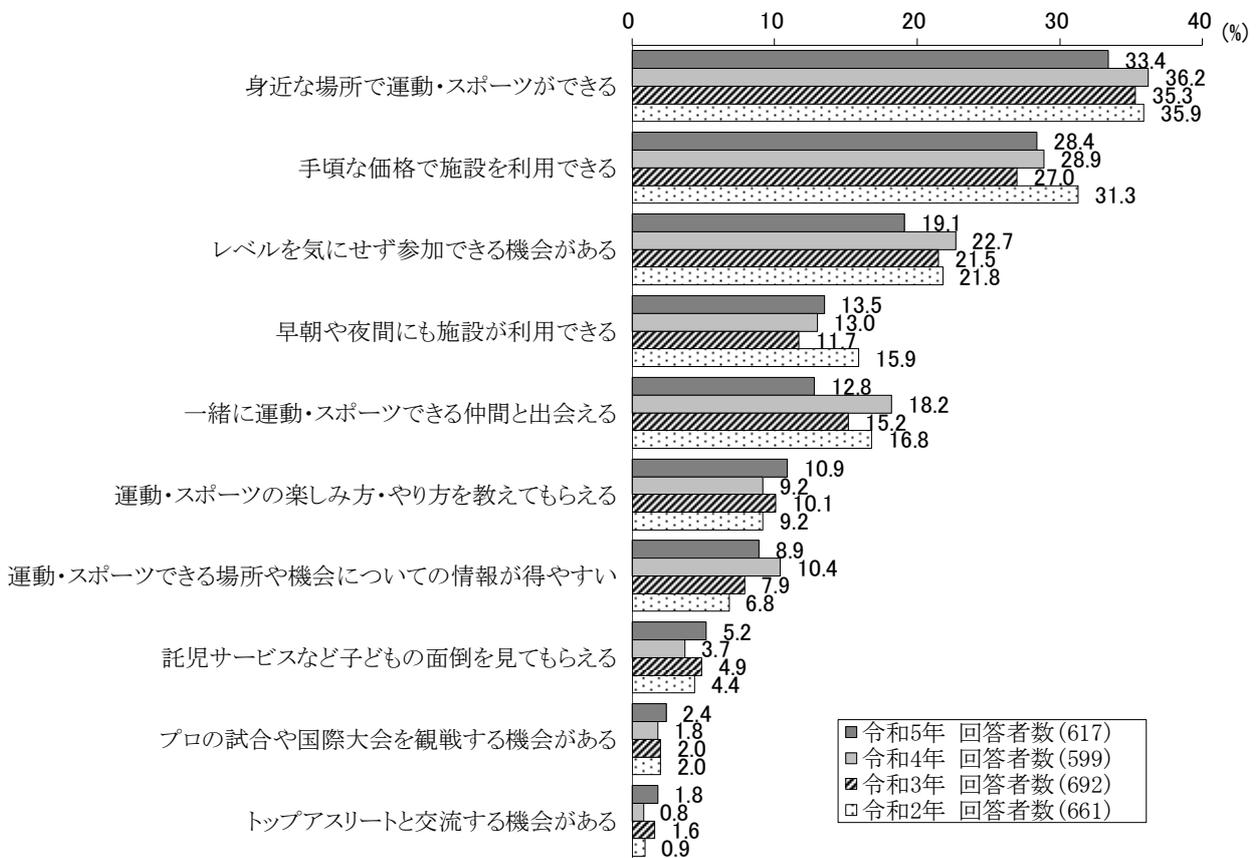
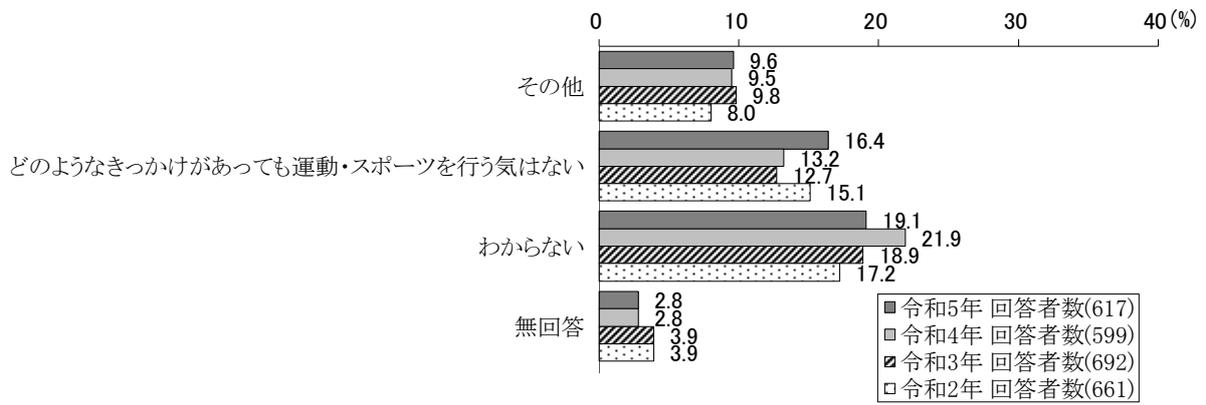


図6-4-1-② 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

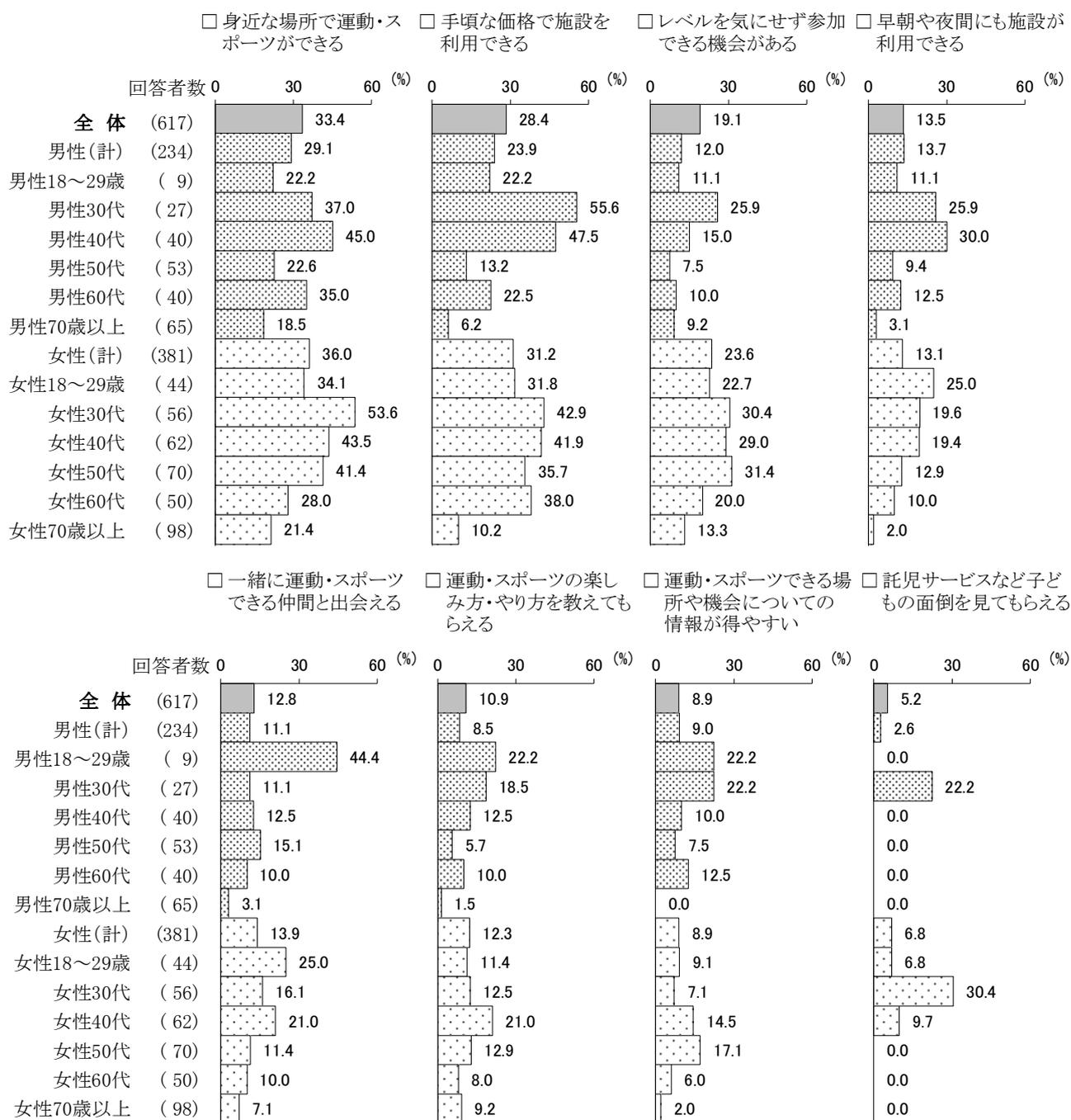


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ（上位8項目）

(ア) 性別でみると、上位8項目のうち、6項目で女性の方が高くなっており、特に「レベルを気にせず参加できる機会がある」で11.6ポイント、「手頃な価格で施設を利用できる」で7.3ポイント、「身近な場所で運動・スポーツができる」で6.9ポイントとそれぞれ高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は女性の30代が、「手頃な価格で施設を利用できる」は男性の30代がそれぞれ5割台半ばで最も高く、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」は男性の18～29歳で44.4%と特に高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ／上位8項目



(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

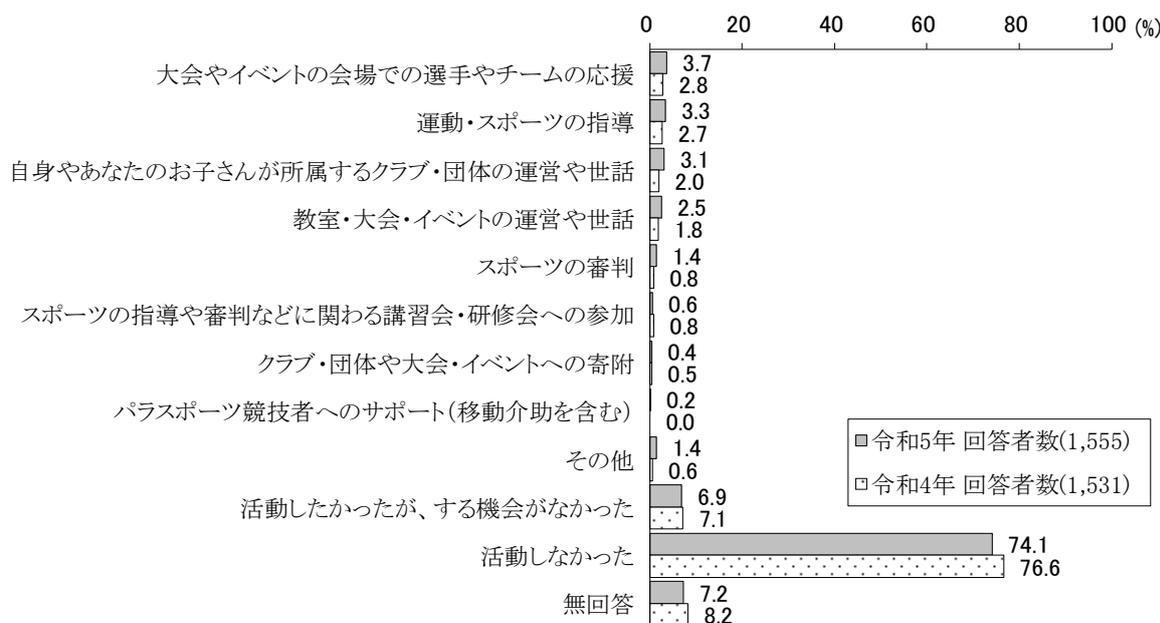
問25 次の活動のうち、過去1年間にあなたに関わった運動・スポーツを支える活動はありますか（〇はあてはまるものすべて）。

■「活動しなかった」が74.1%、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%

ア 単純集計・前回調査比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

- (ア) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動については、「活動しなかった」(74.1%)が7割台半ばとなり、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%、【何らかの支える活動をした】は11.8%となっている。
- (イ) 具体的な活動としては、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」(3.7%)、「運動・スポーツの指導」(3.3%)、「自身やあなたのお子さんが所属するクラブ・団体の運営や世話」(3.1%)などであった。
- (ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図6-5-1 前回調査比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動



※【何らかの支える活動をした】=100%－「活動したかったが、する機会がなかった」－「活動しなかった」－「無回答」

(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

問25で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に

問25-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「新型コロナウイルスの影響」(15.0%)が半減し3位になり、「特に理由はない」(30.3%)が5ポイント増加

ア 単純集計・前回調査比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

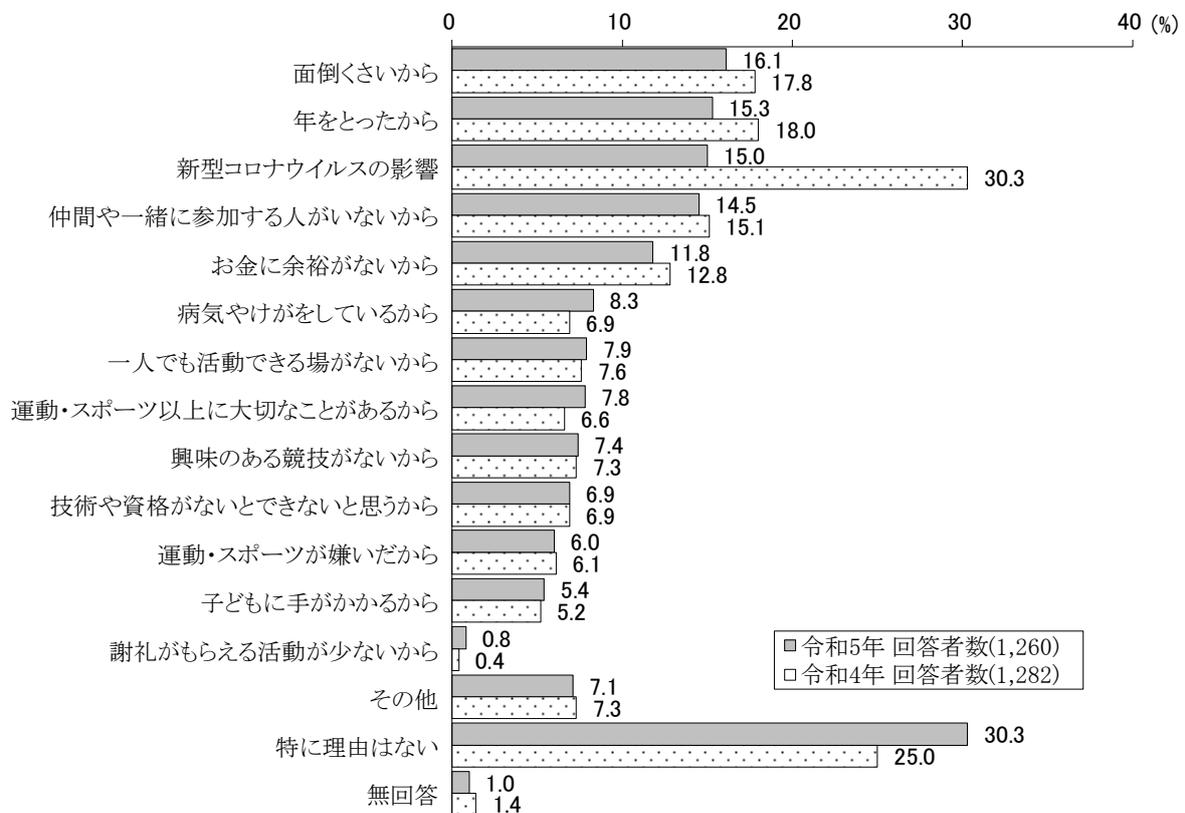
(ア) 過去1年間に運動・スポーツを支える活動をしなかった理由の上位としては、以下のとおりとなっている。

- ①「面倒くさいから」(16.1%)
- ②「年をとったから」(15.3%)
- ③「新型コロナウイルスの影響」(15.0%)
- ④「仲間や一緒に参加する人がいないから」(14.5%)
- ⑤「お金に余裕がないから」(11.8%)

(イ) 活動をしなかったことについて「特に理由はない」が30.3%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、上位5項目は減少しており、特に「新型コロナウイルスの影響」は-15.3ポイントと割合が半減した。逆に、「特に理由はない」が5.3ポイントの増加となっている。

図6-6-1 前回調査比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由



(7) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

■「現行のまま継続するべき」が4割台半ばで主流

ア 単純集計・経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

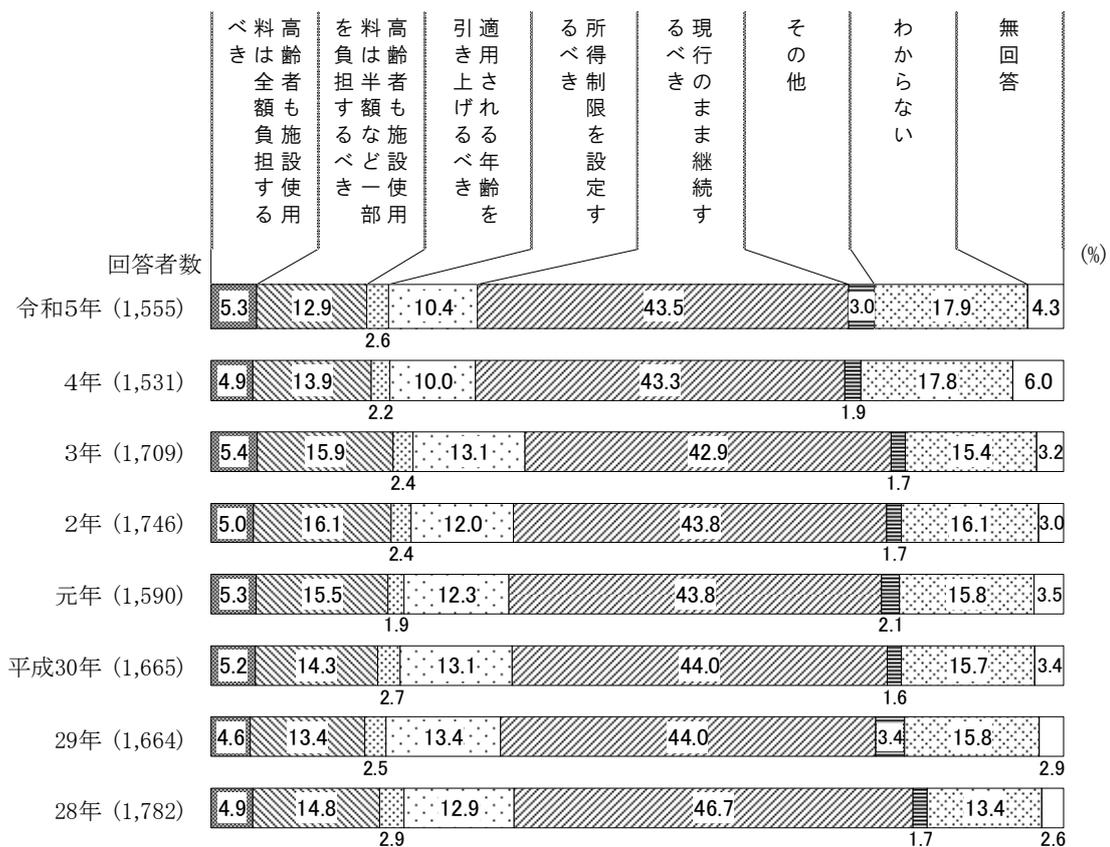
(ア) 足立区のスポーツ施設における高齢者免除制度についての意見について高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「現行のまま継続するべき」(43.5%)
- ②「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」(12.9%)
- ③「所得制限を設定するべき」(10.4%)
- ④「高齢者も施設使用料は全額負担するべき」(5.3%)

(イ) 高齢者免除制度について「わからない」が17.9%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図6-7-1 経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



イ クロス集計・性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

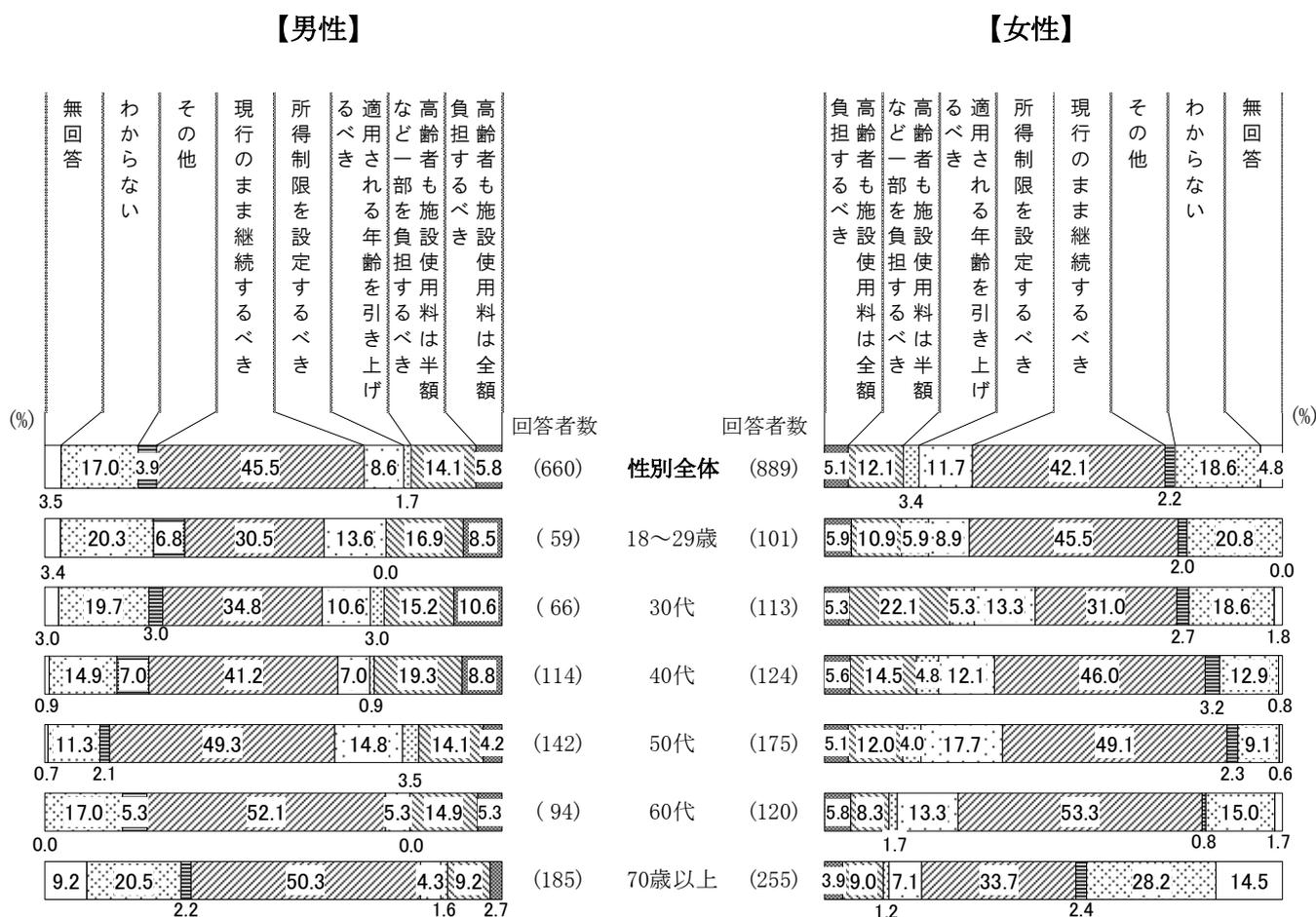
(ア) 性別でみると、「現行のまま継続すべき」は、男性（45.5%）の方が女性（42.1%）より3.4ポイント高く、逆に、「所得制限を設定すべき」は、女性（11.7%）の方が男性（8.6%）より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「現行のまま継続すべき」は、女性の60代が53.3%と最も高く、次いで、男性の60代（52.1%）と70歳以上（50.3%）が5割台で続いている。

(ウ) 「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」は女性の30代で2割台、「所得制限を設定すべき」は女性の50代で1割台後半と他の性・年代層に比べて高くなっている。

(エ) 「わからない」は女性の70歳以上で3割近くと高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



(8) 読書に関わる行動状況

問27 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（○はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画（アニメ）」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含まれません。

■ 「本を読む」「新聞を読む」「雑誌を読む」の上位3項目は割合が微減するも、順位に変化なし

ア 単純集計・経年比較／読書に関わる行動状況

(ア) 最近1か月間の読書に関わる行動で、【読書に関わる行動あり】は82.4%となっている。

(イ) 読書に関わる行動の内容の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「本を読む」(42.1%)
- ② 「新聞を読む」(41.0%)
- ③ 「雑誌を読む」(35.8%)
- ④ 「漫画（アニメ）を読む」(34.6%)
- ⑤ 「書店・古書店に行く」(29.2%)

(ウ) 読書に関わる行動を「したかったが、できなかった」(1.7%)と「いずれもしなかった」(12.7%)を合わせた【読書に関わる行動なし】は14.4%となっている。

(エ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図6-8-1-① 経年比較／読書に関わる行動状況

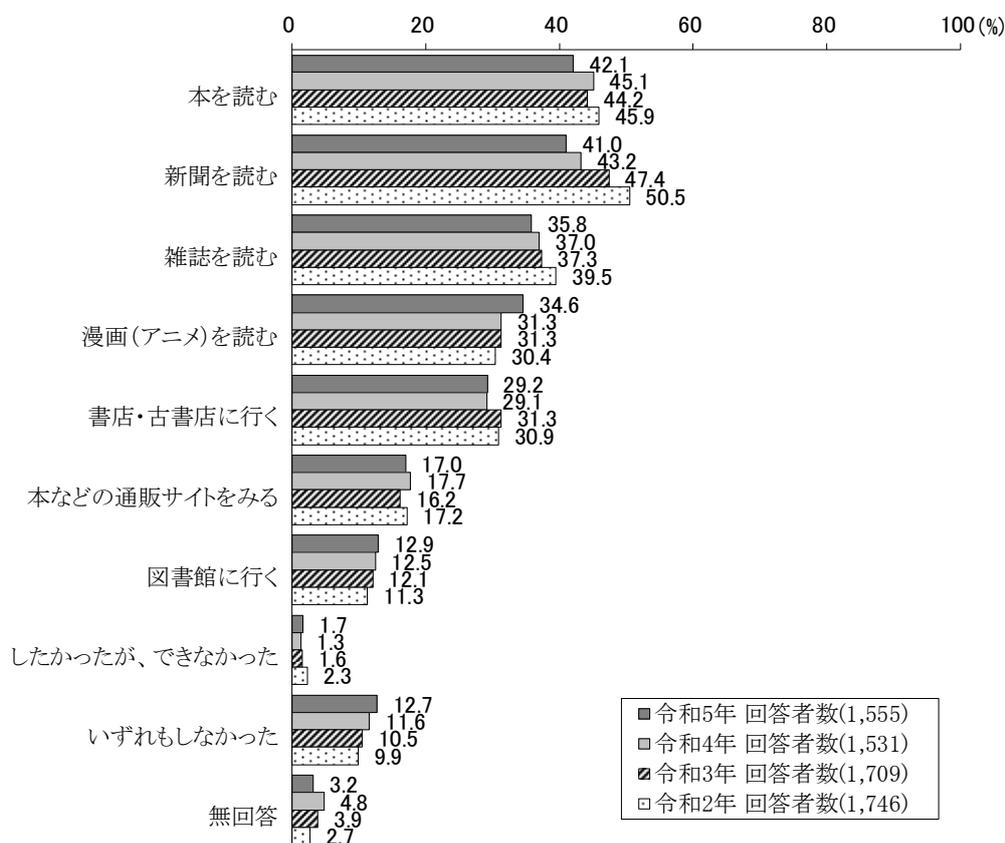
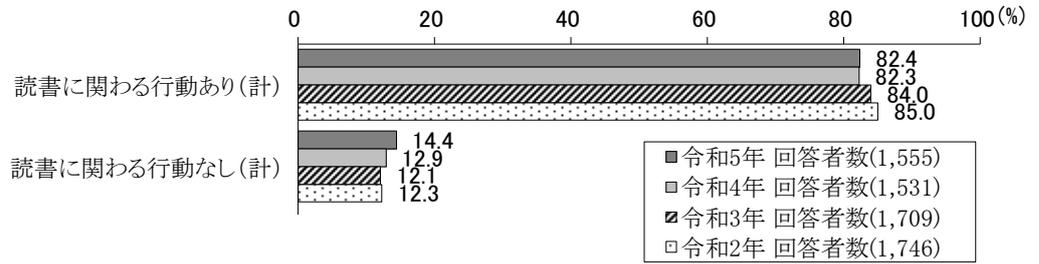


図6-8-1-② 経年比較／読書に関わる行動状況



※【読書に関わる行動なし】＝「したかったが、できなかった」＋「いずれもしなかった」＋「無回答」

※【読書に関わる行動あり】＝100%－【読書に関わる行動なし】

イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動状況（上位6項目+なし2項目）

（ア）性別でみると【読書に関わる行動あり】は男性（84.8%）の方が女性（80.9%）より3.9ポイント高くなっている。

a 男性の方が女性よりも高い項目

（a）「新聞を読む」（+9.9ポイント）

（b）「本を読む」（+5.2ポイント）

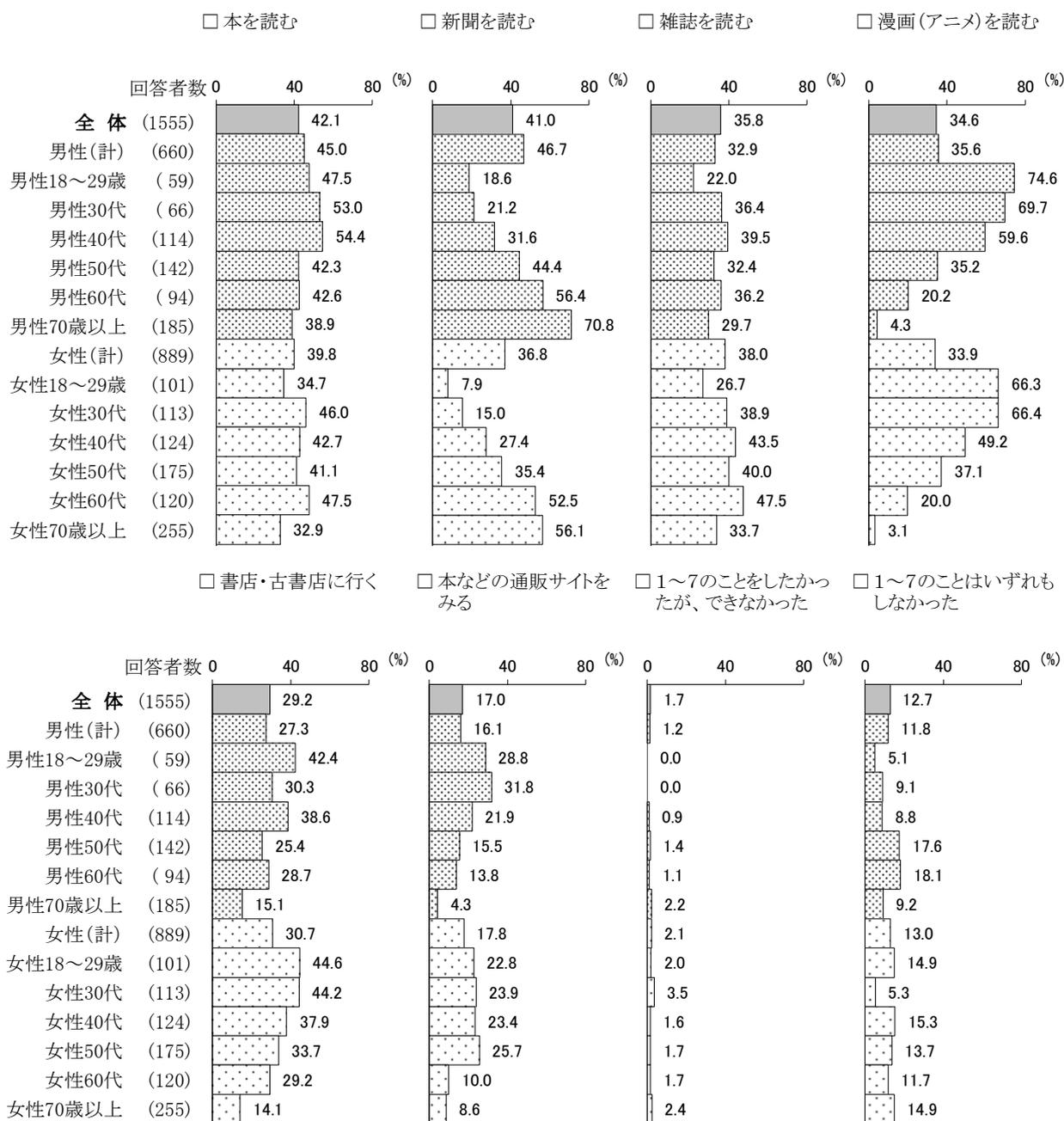
b 女性の方が男性よりも高い項目

（a）「雑誌を読む」（+5.1ポイント）

（b）「書店・古書店に行く」（+3.4ポイント）

（イ）性・年代別にみると、「本を読む」は男性の40代が54.4%で最も高く、逆に女性の70歳以上が32.9%で最も低くなっている。また、「新聞を読む」は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなり、逆に、「漫画（アニメ）を読む」はおおむね年代が若いほど割合が高くなっている。

図6-8-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動状況／上位6項目+なし2項目



(9) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

問27で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」をお答えの方に

問27-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」が2割超で最も高く、「忙しいから」が2割で次点

ア 単純集計・経年比較／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

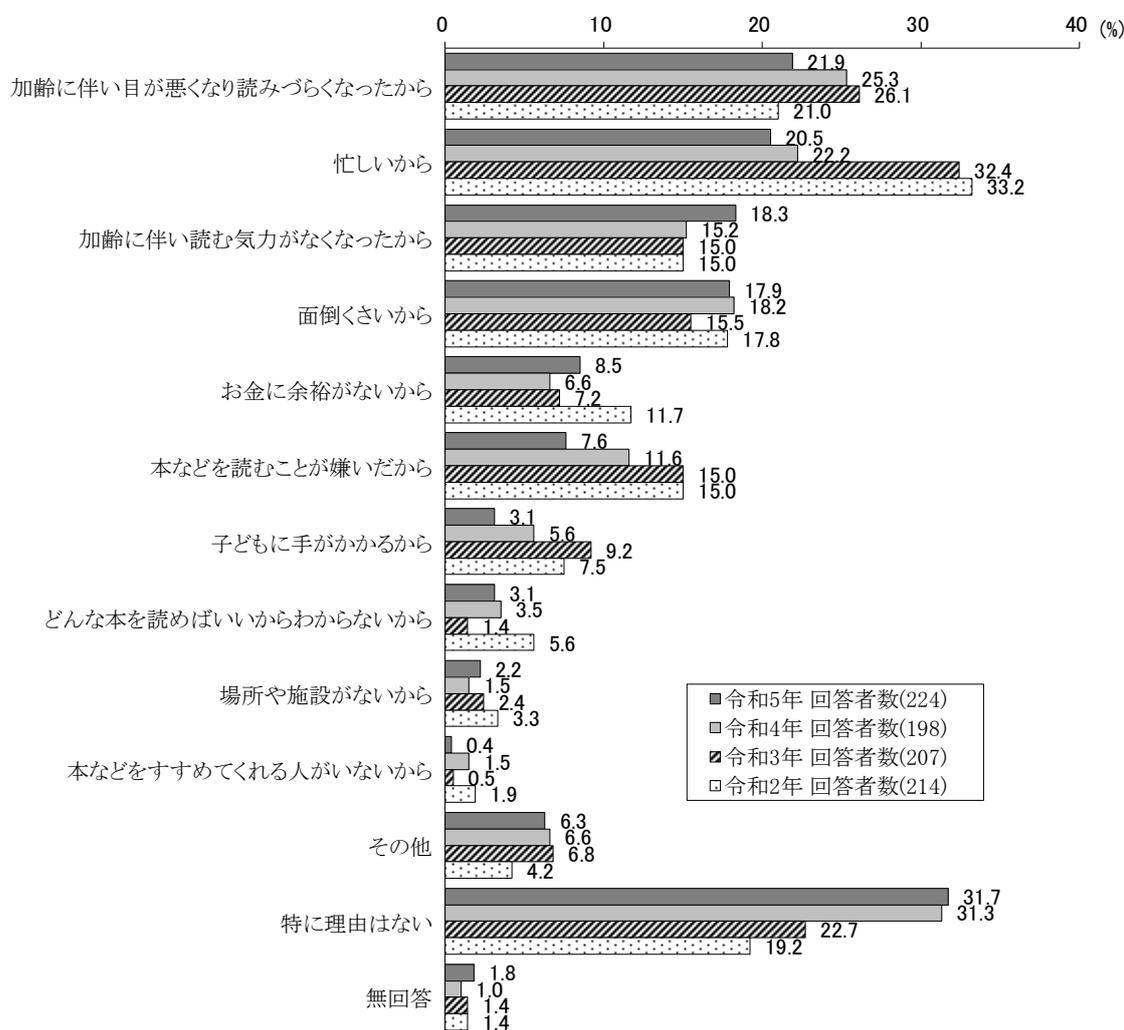
(ア) 最近1か月間に読書に関わる行動が「できなかった」または「しなかった」理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(21.9%)
- ②「忙しいから」(20.5%)
- ③「加齢に伴い読む気力がなくなったから」(18.3%)

(イ) 読書に関わる行動をできなかった(しなかった)ことに「特に理由はない」は31.7%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「加齢に伴い読む気力がなくなったから」が3.1ポイント増加し、逆に、「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」が3.4ポイント減少している。

図6-9-1 経年比較／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由



イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

(上位8項目)

(ア) 性別で見ると上位8項目中7項目で女性の方が男性よりも高くなっている。

a 女性の方が男性よりも高い項目

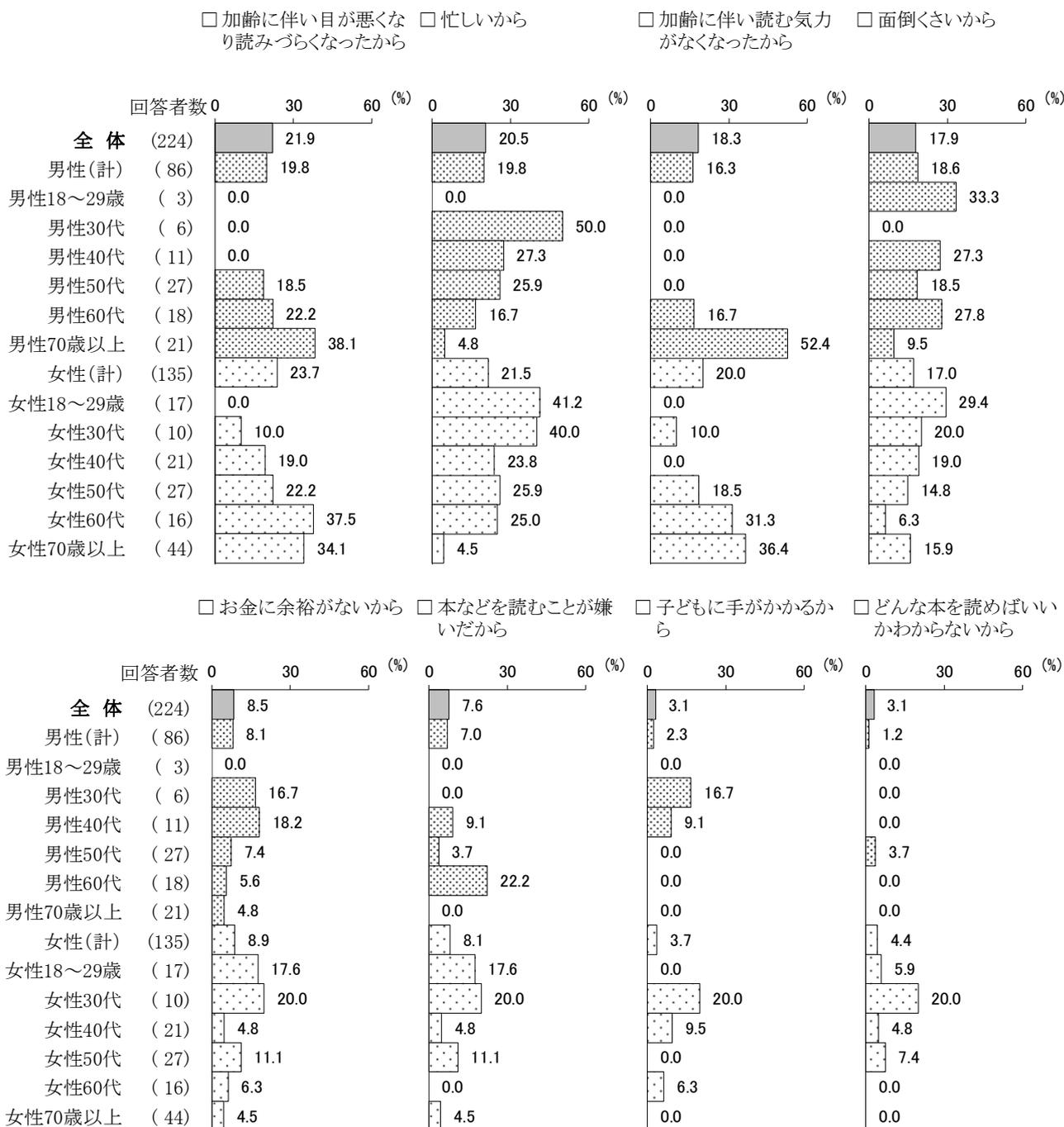
(a) 「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(+3.9ポイント)

(b) 「加齢に伴い読む気力がなくなったから」(+3.7ポイント)

(c) 「どんな本を読めばいいかわからないから」(+3.2ポイント)

(イ) 性・年代別にみると、いくつかの項目で目立った違いがみられるものの、大半の性・年代層でサンプル数が少ないことから、あくまで参考値としての掲載にとどめ、コメントは割愛する。

図6-9-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由／上位8項目



7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み
 - (3) 居住地域の治安状況
 - (4) 居住地域の治安が良いと感じる点
 - (5) 居住地域の治安が悪いと感じる点
 - (6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
-

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

問28 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

■ 【知っている】が4割超、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

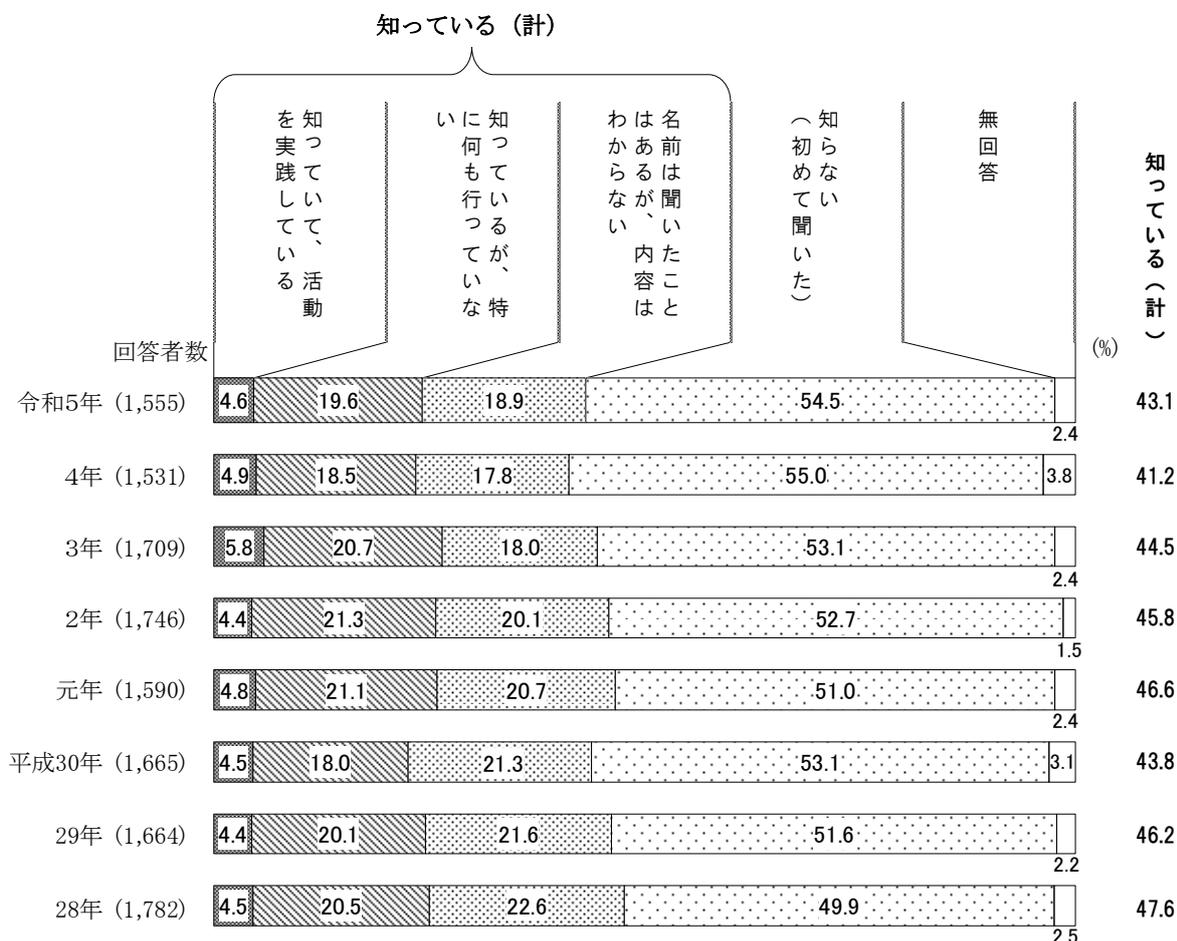
ア 単純集計・経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

(ア) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っている、活動を実践している」は4.6%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」（19.6%）と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」（18.9%）を合わせた【知っている】は43.1%となっている。

(イ) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知らない（初めて聞いた）」は5割台半ばとなっている。

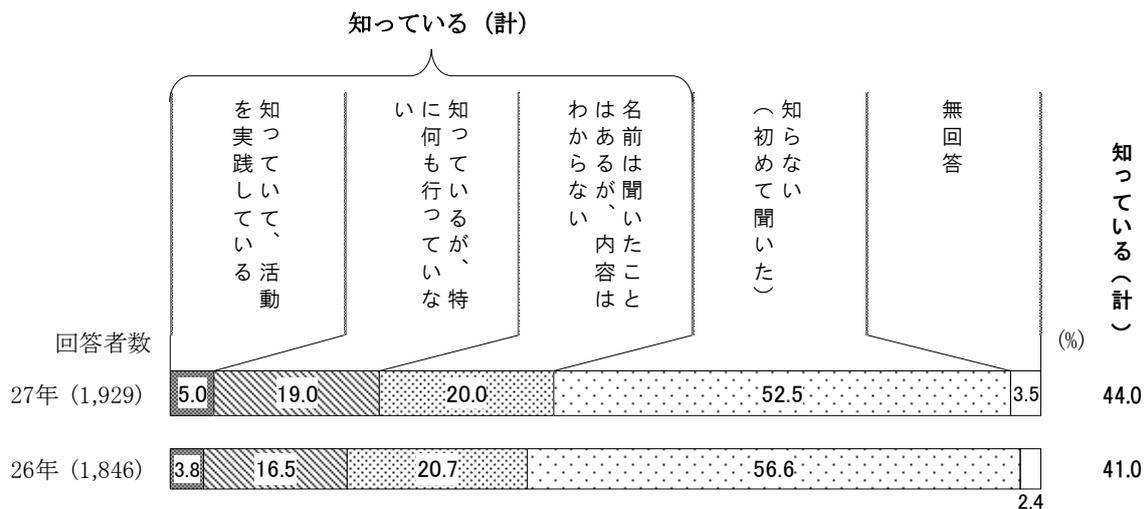
(ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は特に大きな違いはみられない。

図7-1-1-① 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

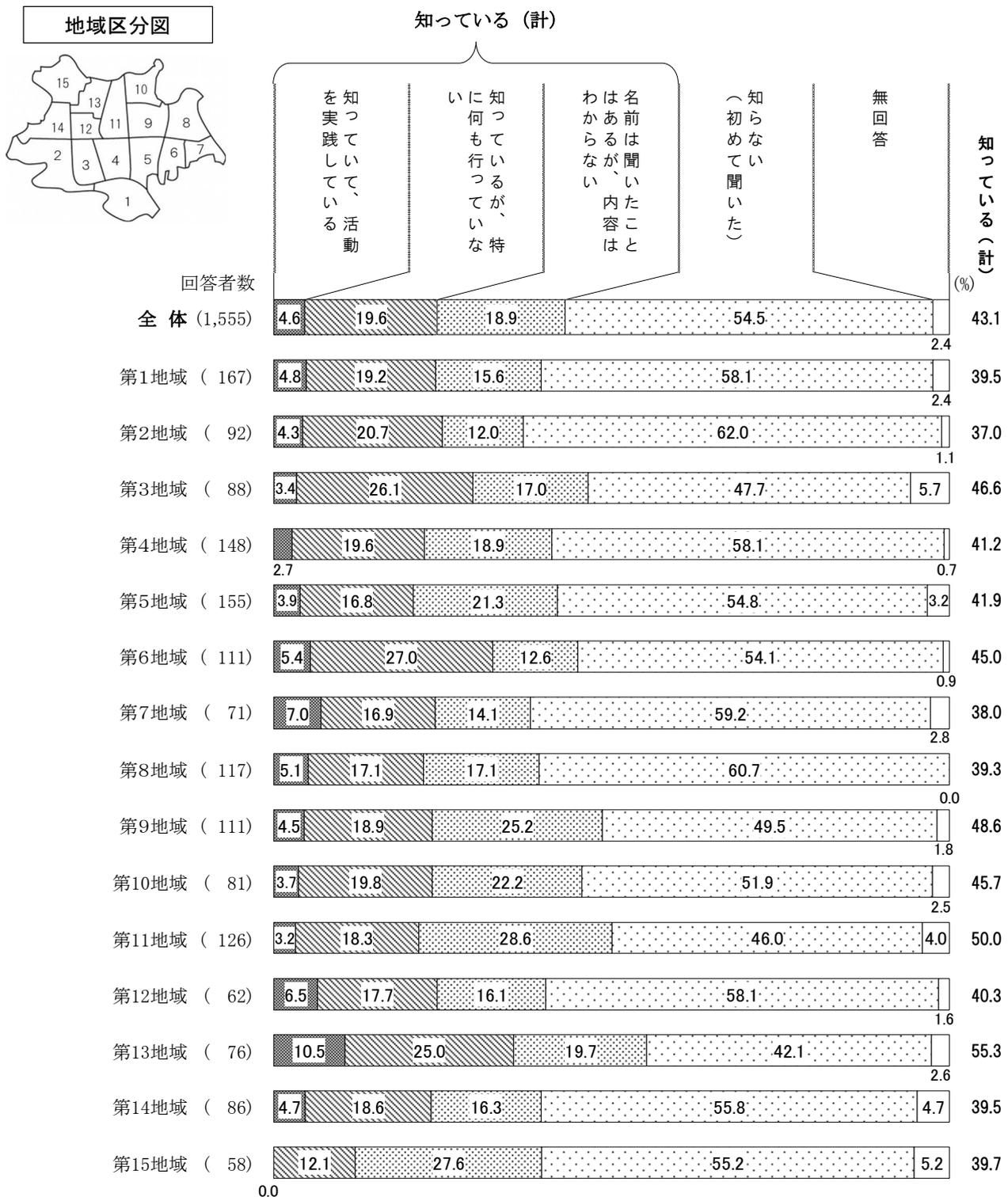
図7-1-1-② 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は、第13地域で55.3%と最も高く、次いで、第11地域（50.0%）、第9地域（48.6%）などとなっている。一方、第2地域で37.0%と最も低くなっている。

図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

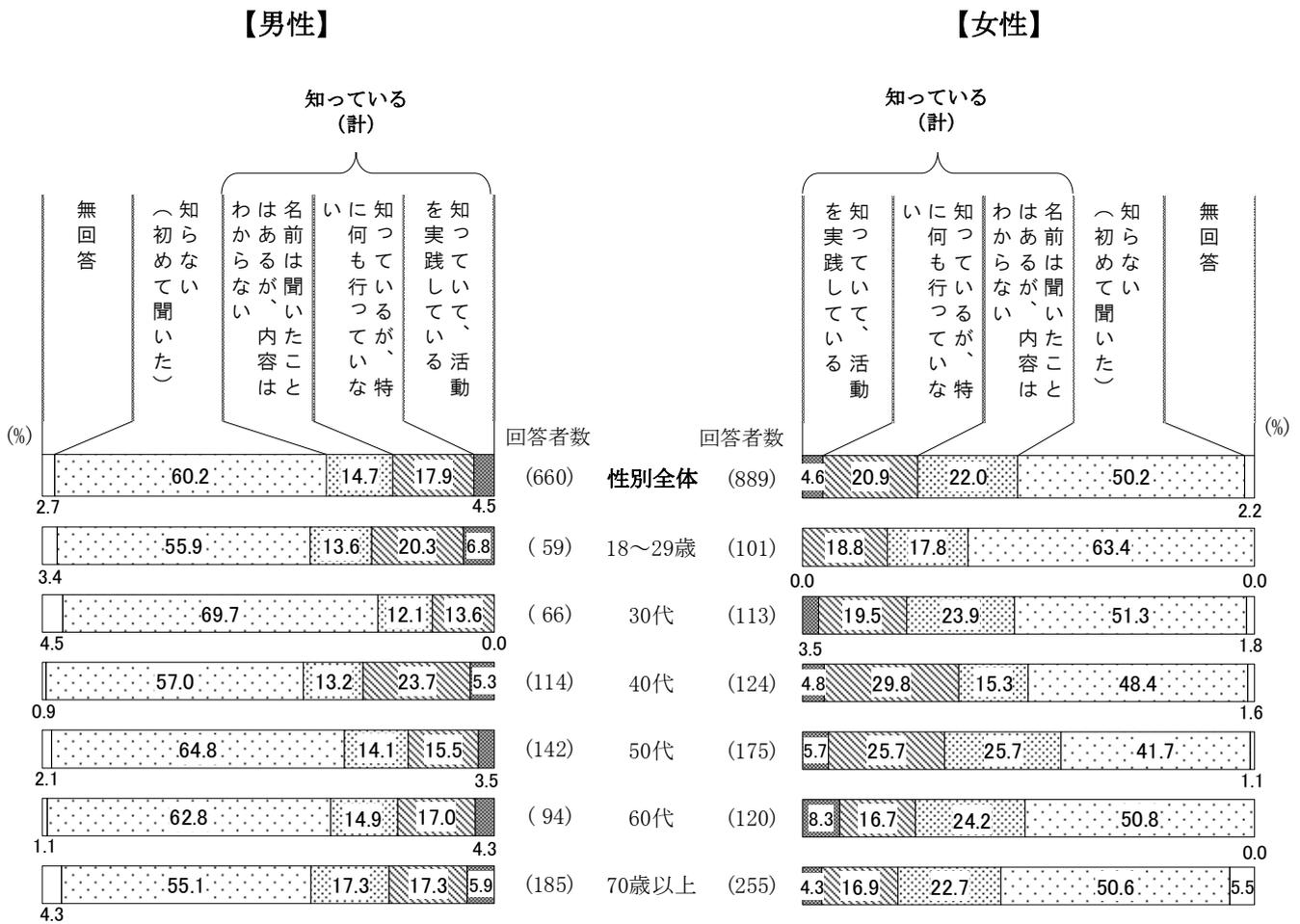


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（47.6%）の方が男性（37.1%）より10.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の50代で57.1%と最も高く、次いで、女性の40代が50.0%で続いている。逆に、男性の30代が25.8%で最も低くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

問29 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「参加していない(今後も参加しない)」が6割超、取り組みは今回調査で新設の「ながら見守り活動」が12.0%で最多

ア 単純集計・経年比較

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関する取り組みのうち、現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みを聞いたところ、上位は以下のとおりとなった。

- ① 「ながら見守り活動」(12.0%) ※新設
- ② 「まちの清掃活動」(10.5%)
- ③ 「花の育成活動」(9.8%)
- ④ 「不法投棄通報」(7.9%) ※新設

(イ) 取り組みに「参加していない(今後も参加しない)」は61.3%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、今回調査で新設の「ながら見守り活動」が1位となり、前回調査で1位の「まちの清掃活動」と入れ替わった。また、今回調査で新設の「不法投棄通報」が4位と上位に入っている。

図7-2-1-① 経年比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

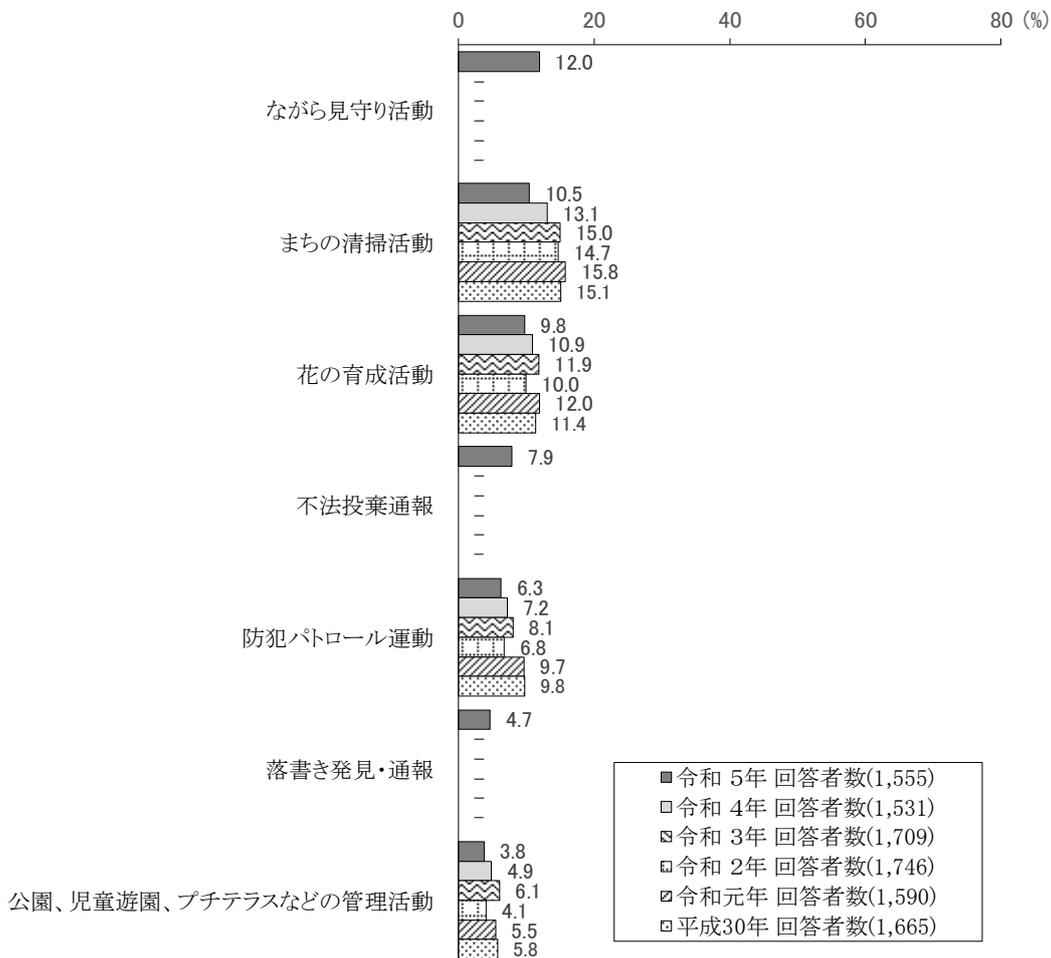
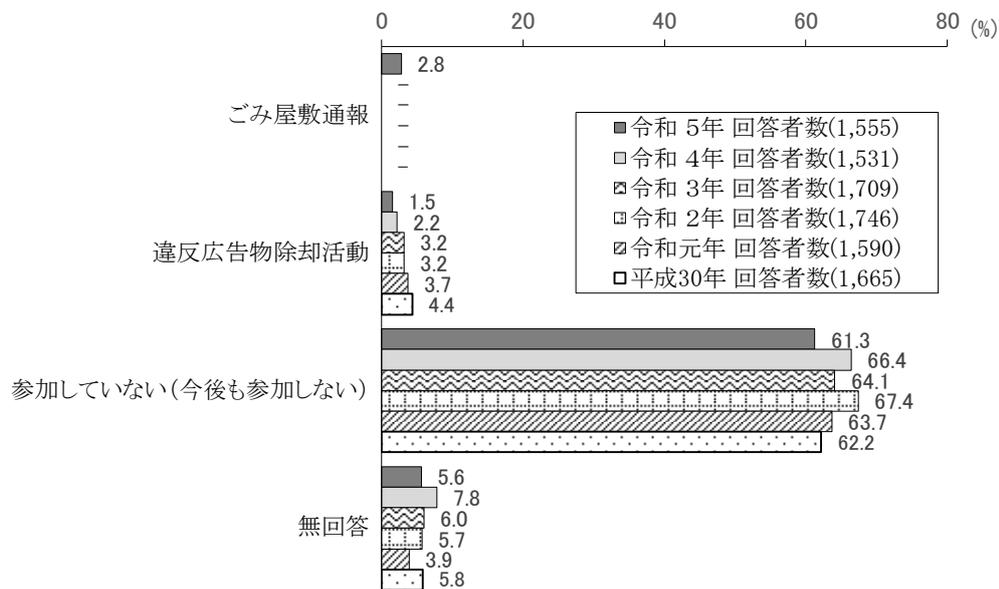


図7-2-1-② 経年比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



※ 「ながら見守り活動」・「ごみ屋敷通報」・「不法投棄通報」・「落書き発見・通報」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別

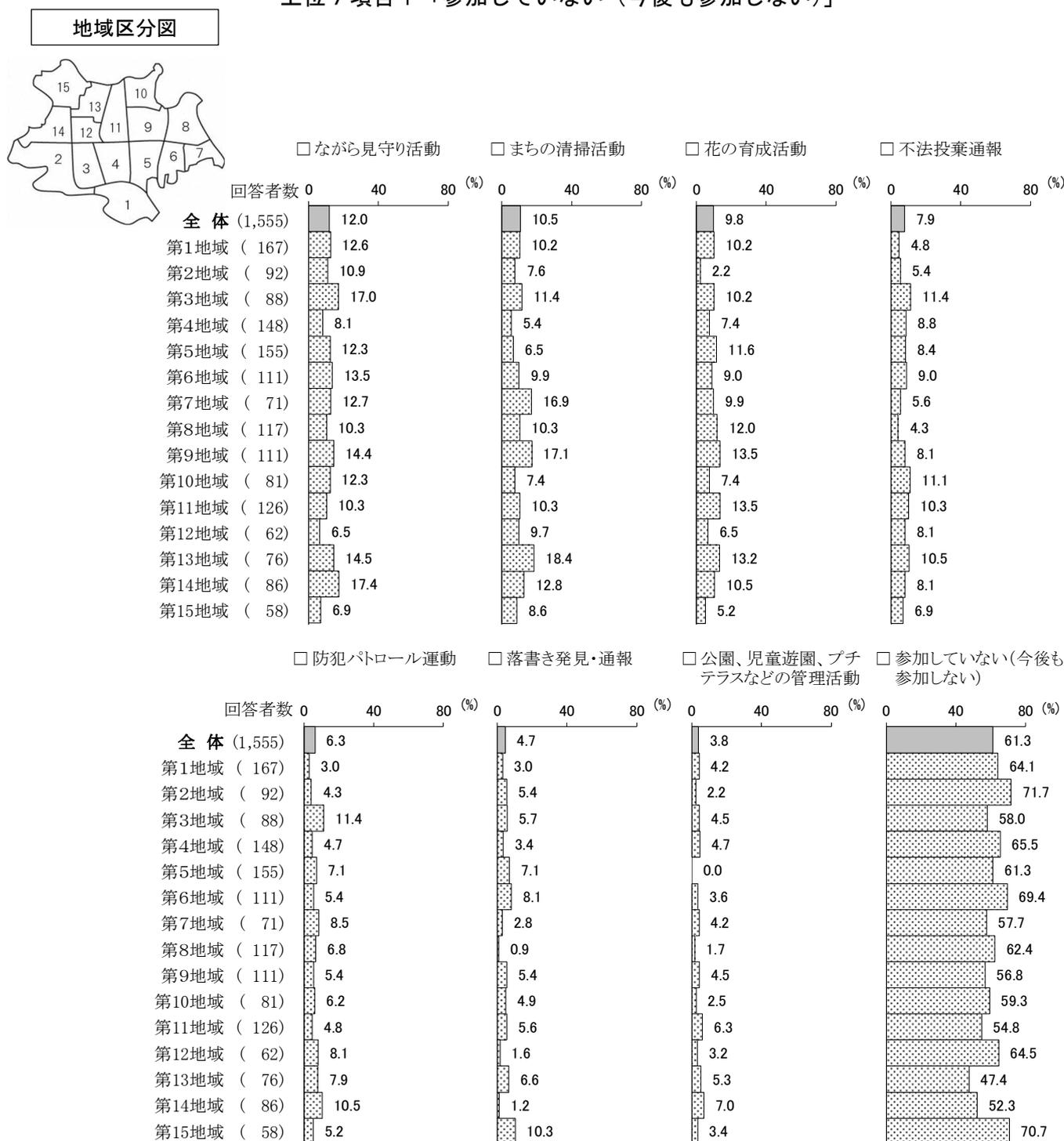
／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 地域別でみると、「ながら見守り活動」は第14地域で17.4%と最も高く、「まちの清掃活動」は第13地域（18.4%）、「花の育成活動」は第9地域と第11地域（各13.5%）で最も高くなっている。

(イ) 「参加していない（今後も参加しない）」は、第2地域で71.7%と最も高く、逆に、第13地域で47.4%と最も低くなっている。

図7-2-2 地域別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／
上位7項目＋「参加していない（今後も参加しない）」



ウ クロス集計・性別、性・年代別

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 性別で見ると、「花の育成活動」(女性：12.4%・男性：6.4%)と「ながら見守り活動」

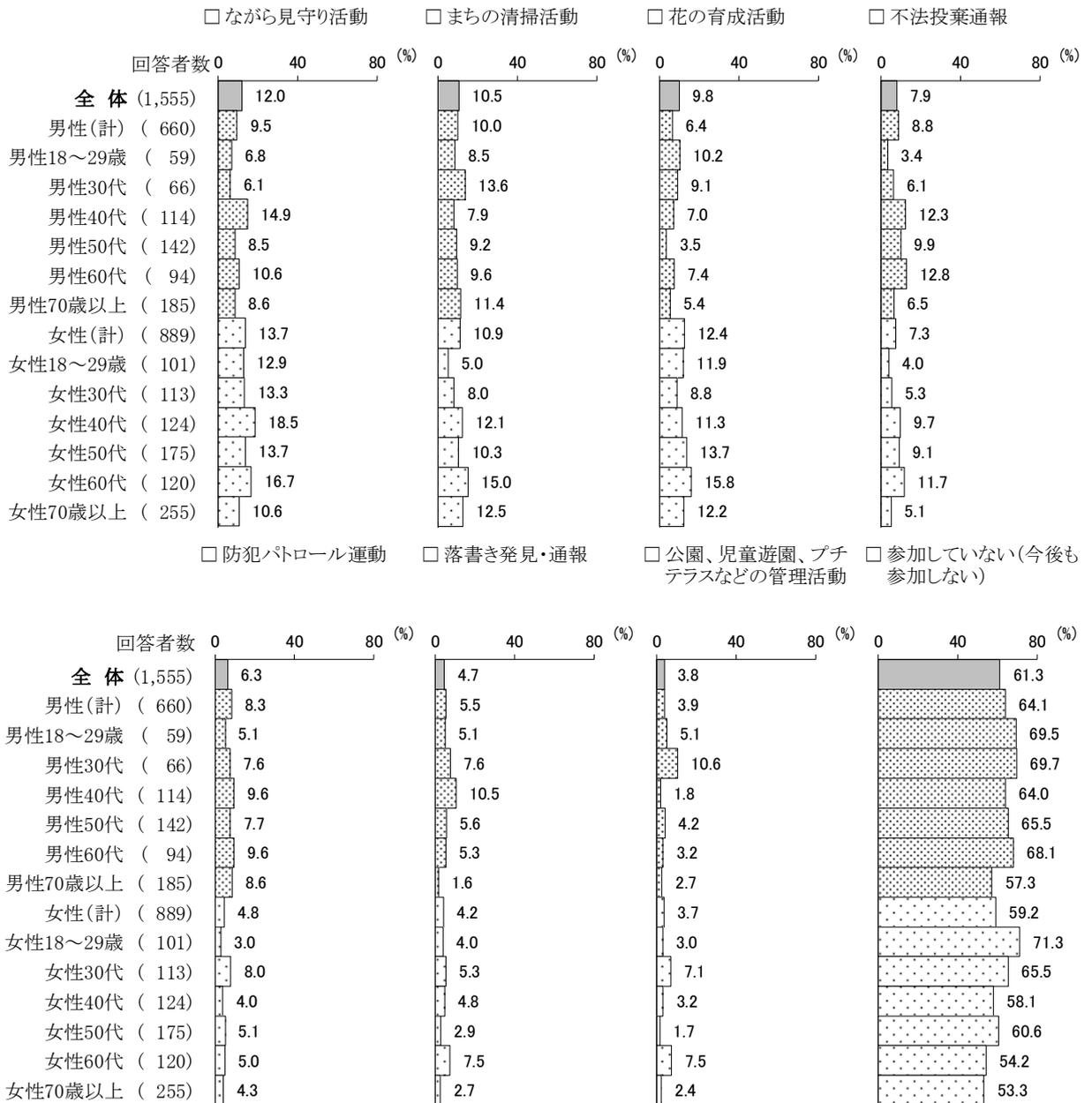
(女性：13.7%・男性：9.5%)は女性の方が男性より4ポイント以上高く、逆に「防犯パトロール運動」は男性(8.3%)の方が女性(4.8%)より3.5ポイント高くなっている。

(イ) 「参加していない(今後も参加しない)」を性別で見ると、男性(64.1%)の方が女性(59.2%)より4.9ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、「ながら見守り活動」は女性の40代で18.5%と最も高く、「まちの清掃活動」と「花の育成活動」はともに女性の60代(15.0%・15.8%)で最も高くなっている。一方、「参加していない(今後も参加しない)」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高くなり、女性の18～29歳(71.3%)で7割台と最も高くなっている。

図7-2-3 性別、性・年代別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／
上位7項目+「参加していない(今後も参加しない)」

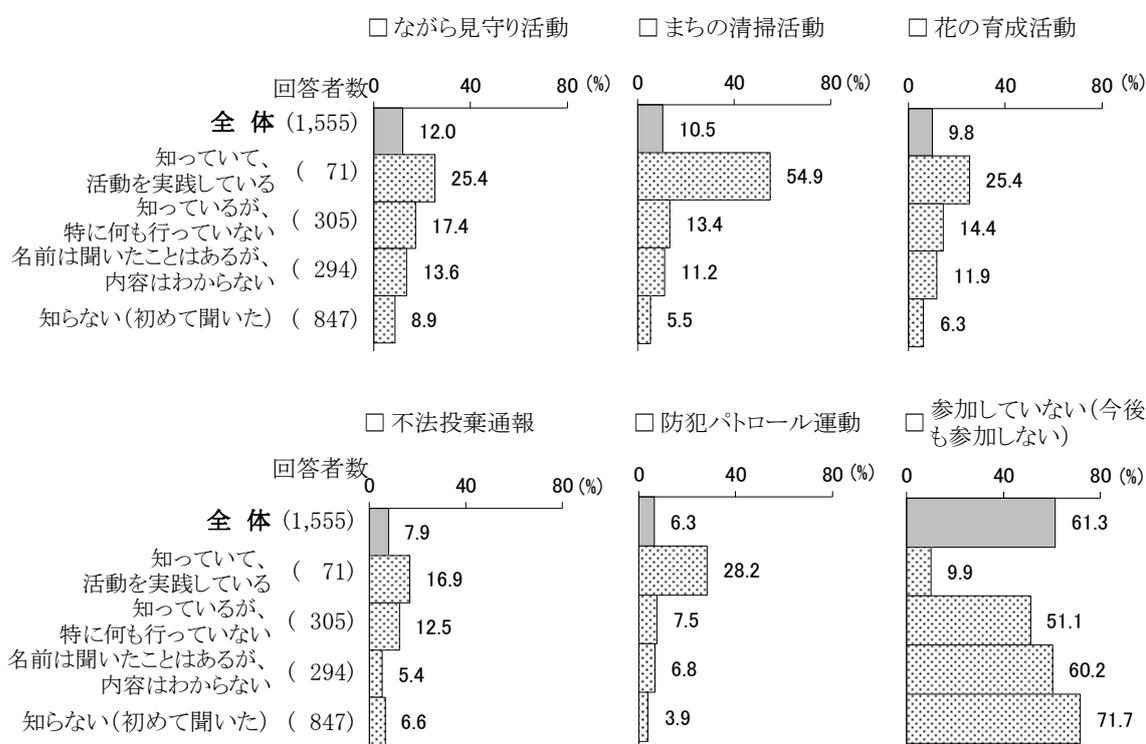


エ クロス集計・「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別にみると、認知・実践レベルが高くなるほど、それぞれの取り組みに対する参加率、参加意向が高くなっており、その傾向は〈知っている、活動を実践している〉層でとくに顕著で、「まちの清掃活動」(54.9%)で44.4ポイント、「防犯パトロール運動」(28.2%)で21.9ポイント、「花の育成活動」(25.4%)で15.6ポイント、それぞれ全体に比べて高くなっている。

図7-2-4 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別／
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／
上位5項目+「参加していない(今後も参加しない)」



(3) 居住地域の治安状況

問30 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか
 （○は1つだけ）。
 ※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

■ 【良い】は前回から5ポイント減少し約6割、【悪い】は再び2割台半ばに増加

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安状況

- (ア) 住んでいる地域の治安について、「良い」が9.1%で、これに「どちらかといえば良い」(50.4%)を合わせた【良い】は59.5%となっている。
- (イ) 住んでいる地域の治安について、「どちらかといえば悪い」(22.6%)と「悪い」(4.2%)を合わせた【悪い】は26.8%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【良い】は5.0ポイント減少し、再び5割台となった。一方、【悪い】は7.0ポイント増加し2割台半ばとなった。

図7-3-1-① 経年比較／居住地域の治安状況

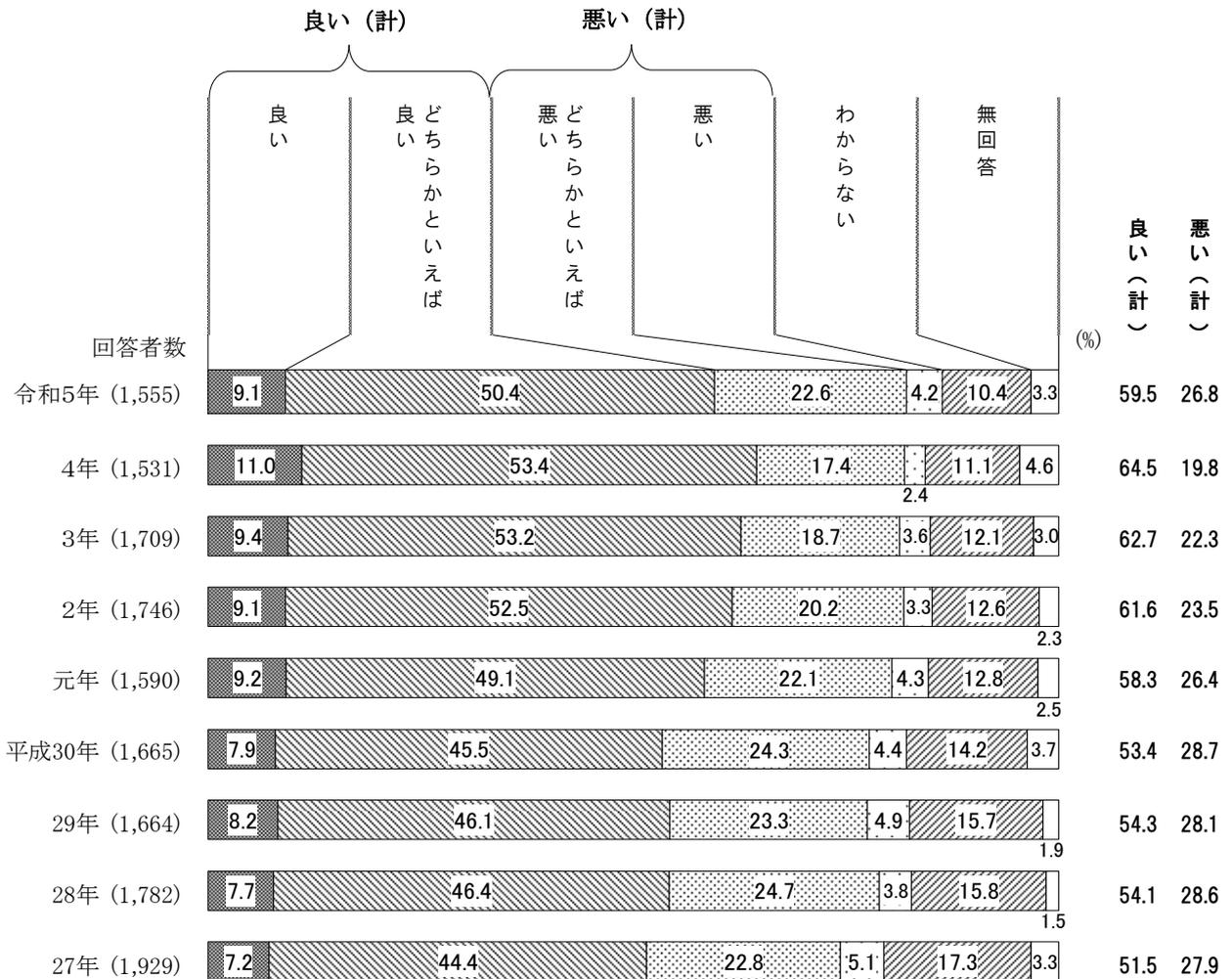
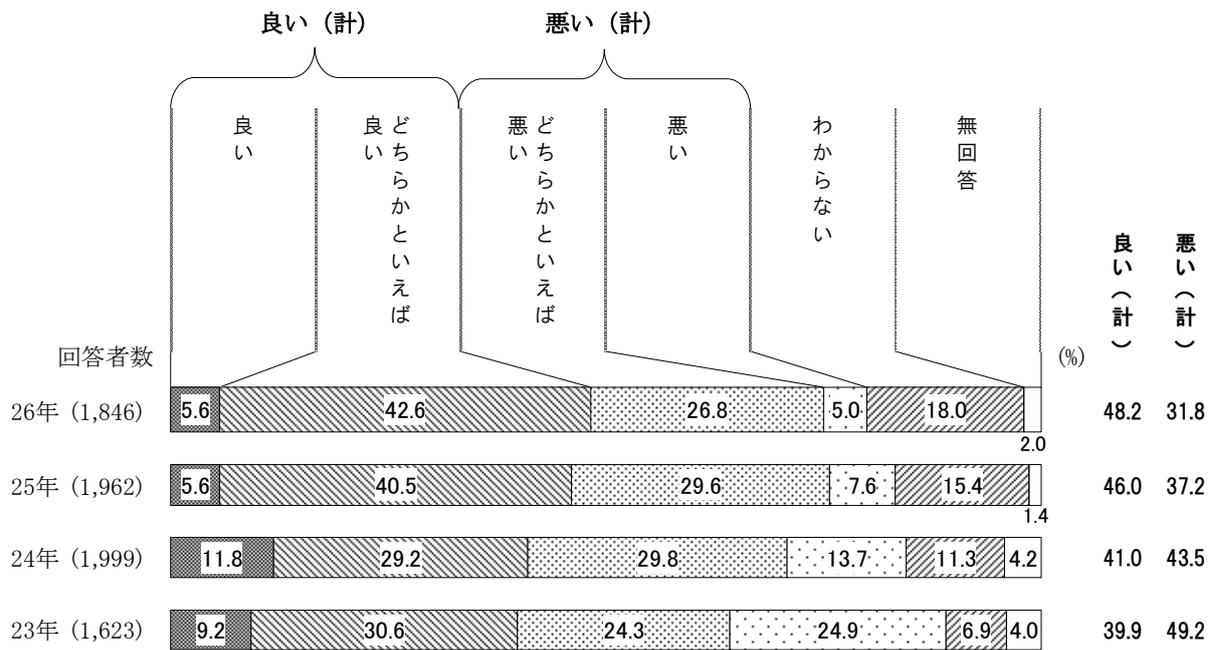


図7-3-1-② 経年比較／居住地域の治安状況



イ クロス集計・地域別／居住地域の治安状況

地域別でみると、【良い】は第7地域で71.8%と最も高く、次いで第1地域（71.3%）が続いている。一方、【悪い】は第11地域で38.9%と最も高く、次いで第14地域（38.4%）となっている。

図7-3-2 地域別／居住地域の治安状況

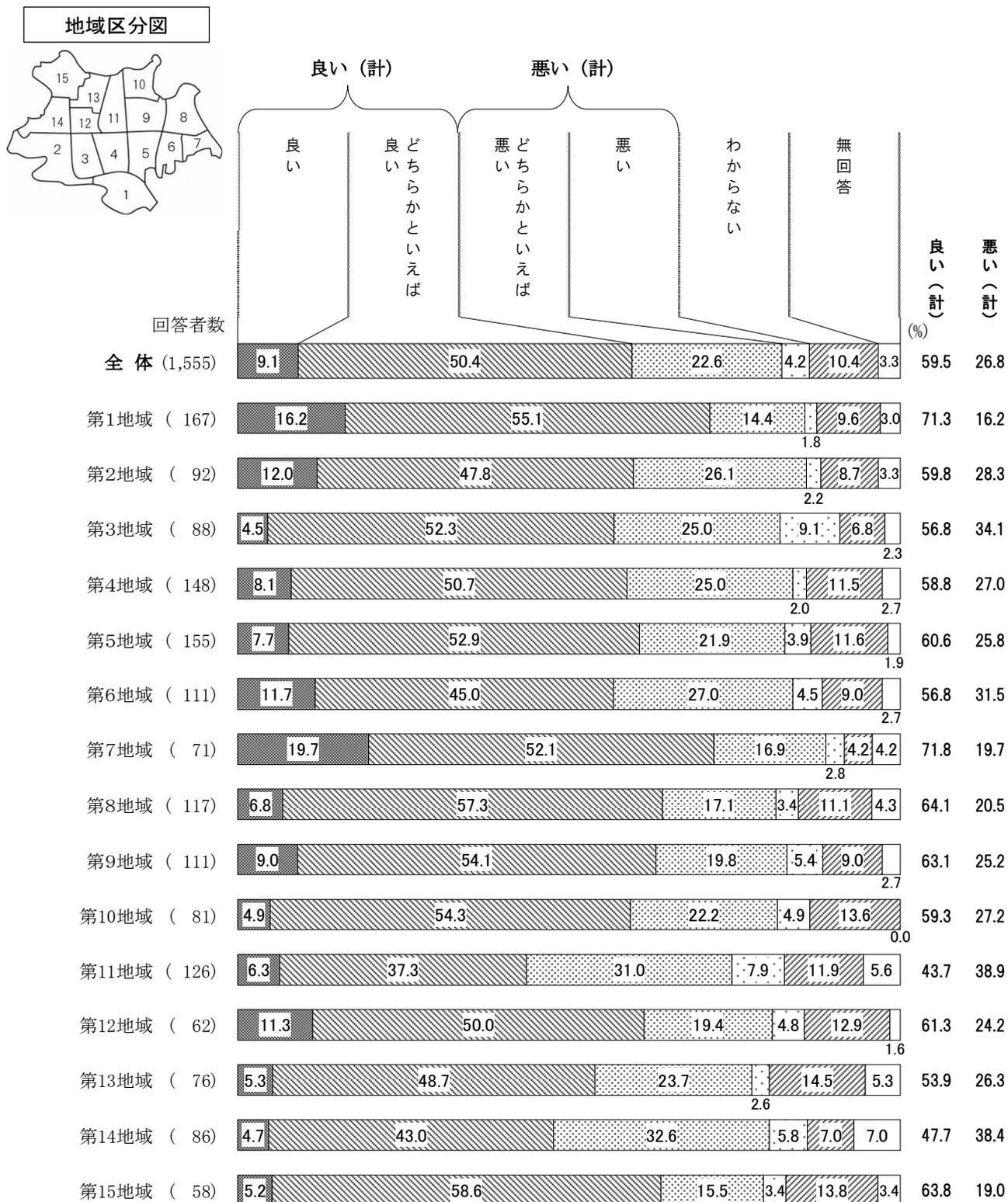
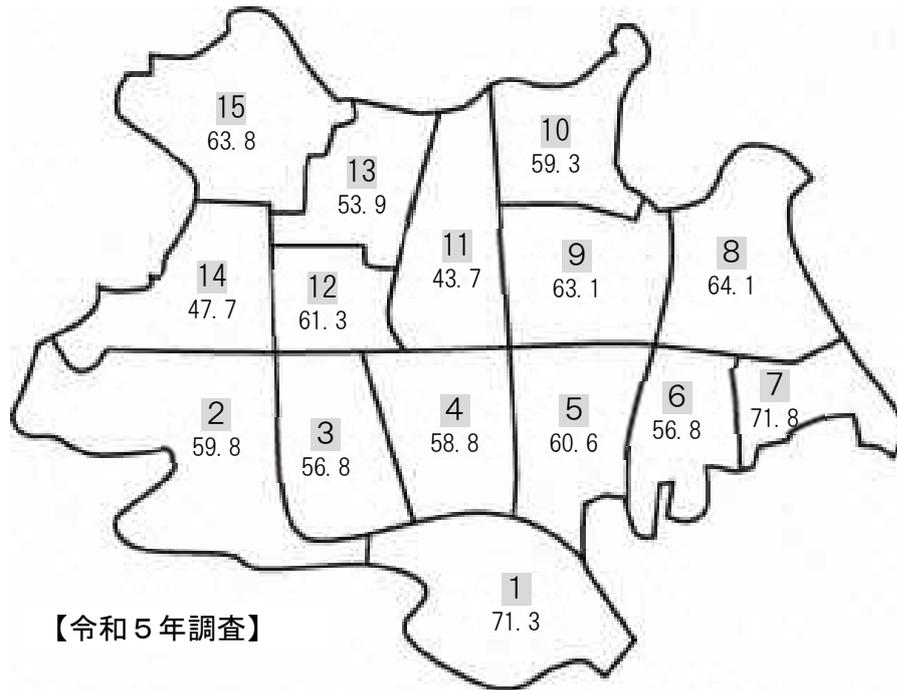
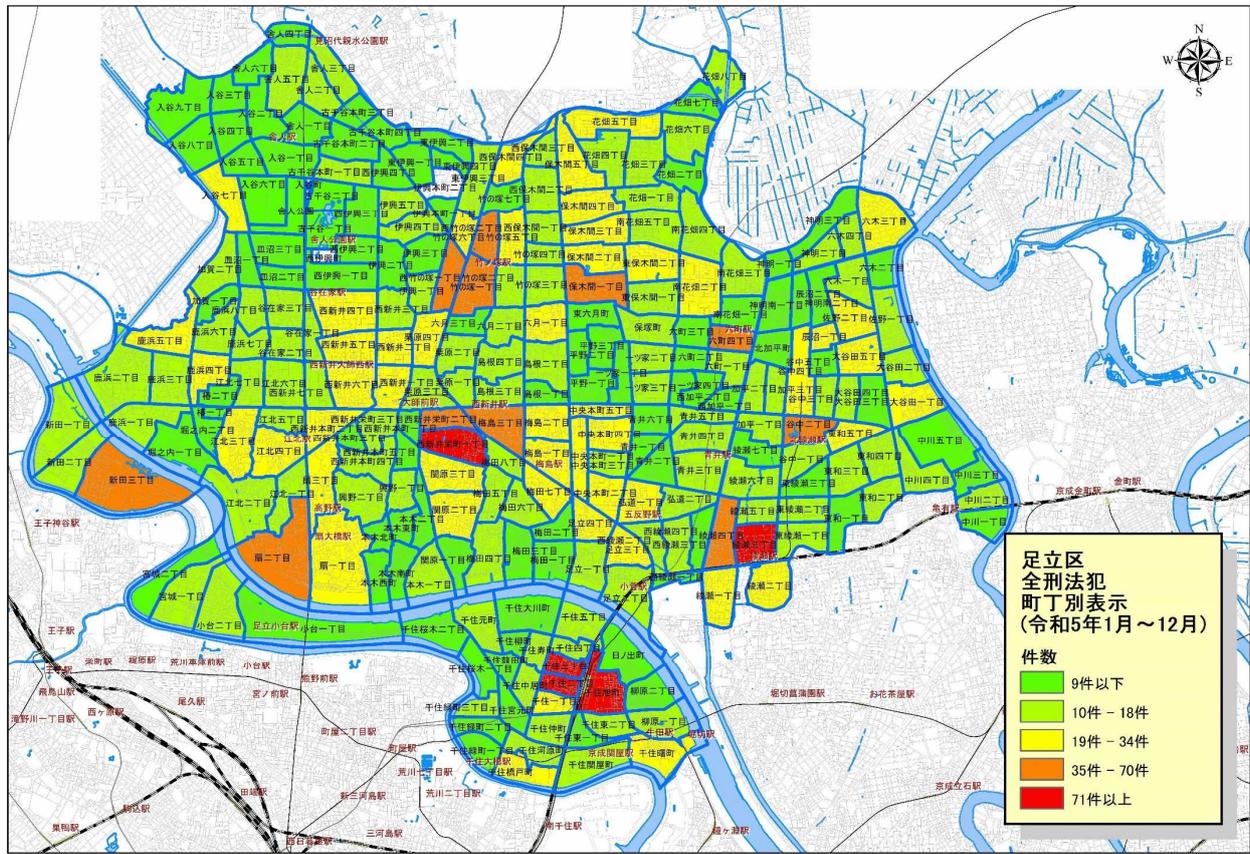


図7-3-3 地域区分図／居住地域の治安状況
 (上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】区内全刑法犯認知件数（令和5年1月～12月）

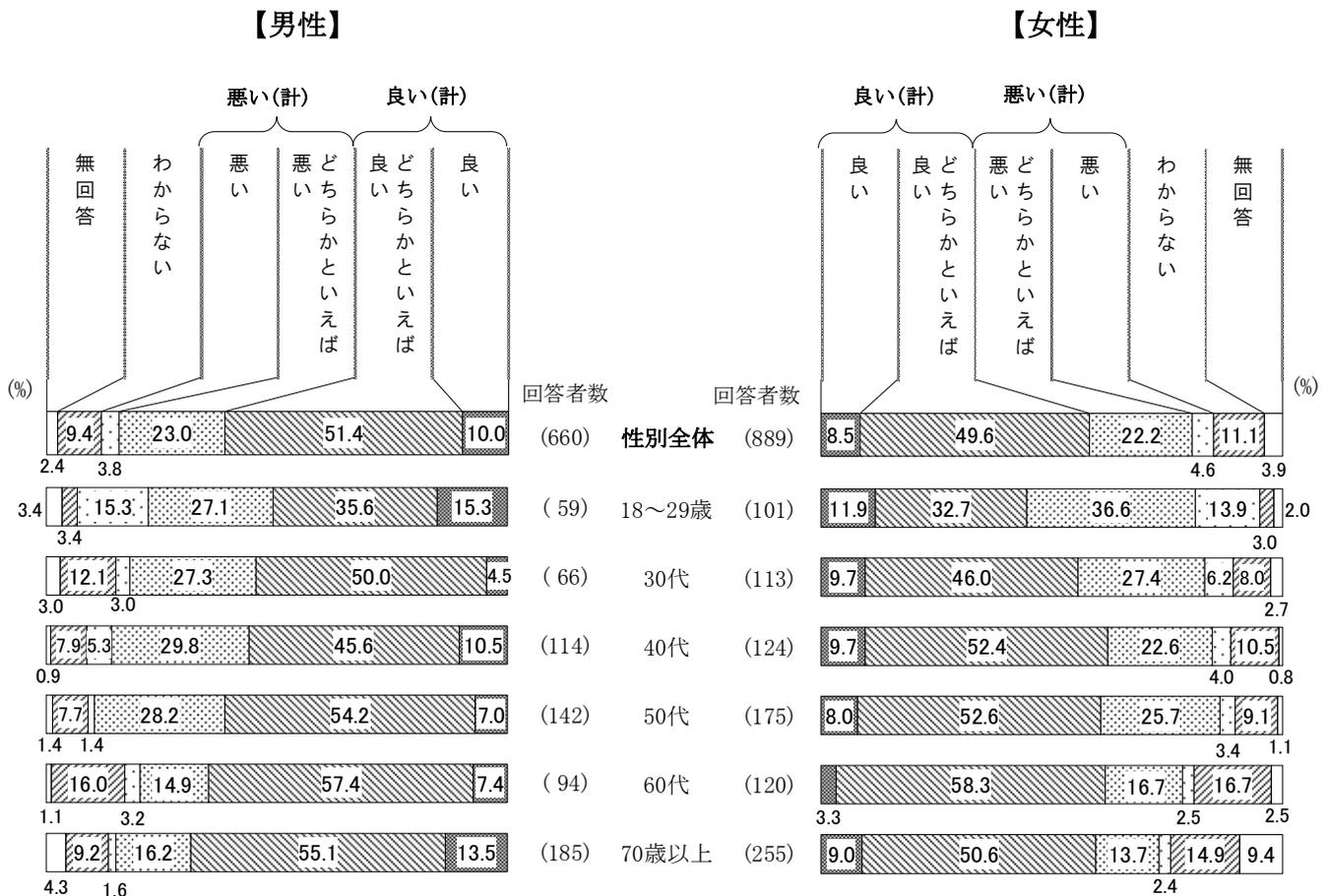


ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地の治安状況

(ア) 性別で見ると、【良い】は男性（61.4%）の方が女性（58.2%）より3.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【良い】は、男性の70歳以上で68.6%と最も高く、女性の18～29歳で44.6%と最も低くなっている。男性は年齢が上がるほど割合も高くなっているが、女性では40代で最も高くなり、それ以上の年代は同様の割合となっている。

図7-3-4 性別、性・年代別／居住地の治安状況



(4) 居住地域の治安が良いと感じる点

問30で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に
問30-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。

■「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割超

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

(ア) 居住地域の治安を【良い】と評価した人の理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」(51.9%)
- ②「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」(34.9%)
- ③「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」(19.8%)
- ④「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」(19.6%)

(イ) 前回調査と比較すると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は5.3ポイント増加したが、逆に、「犯罪の発生件数が減っているということを知ったから」が10.5ポイント減少、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」が5.0ポイント減少、「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」が3.7ポイント減少となっている。

図7-4-1-① 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

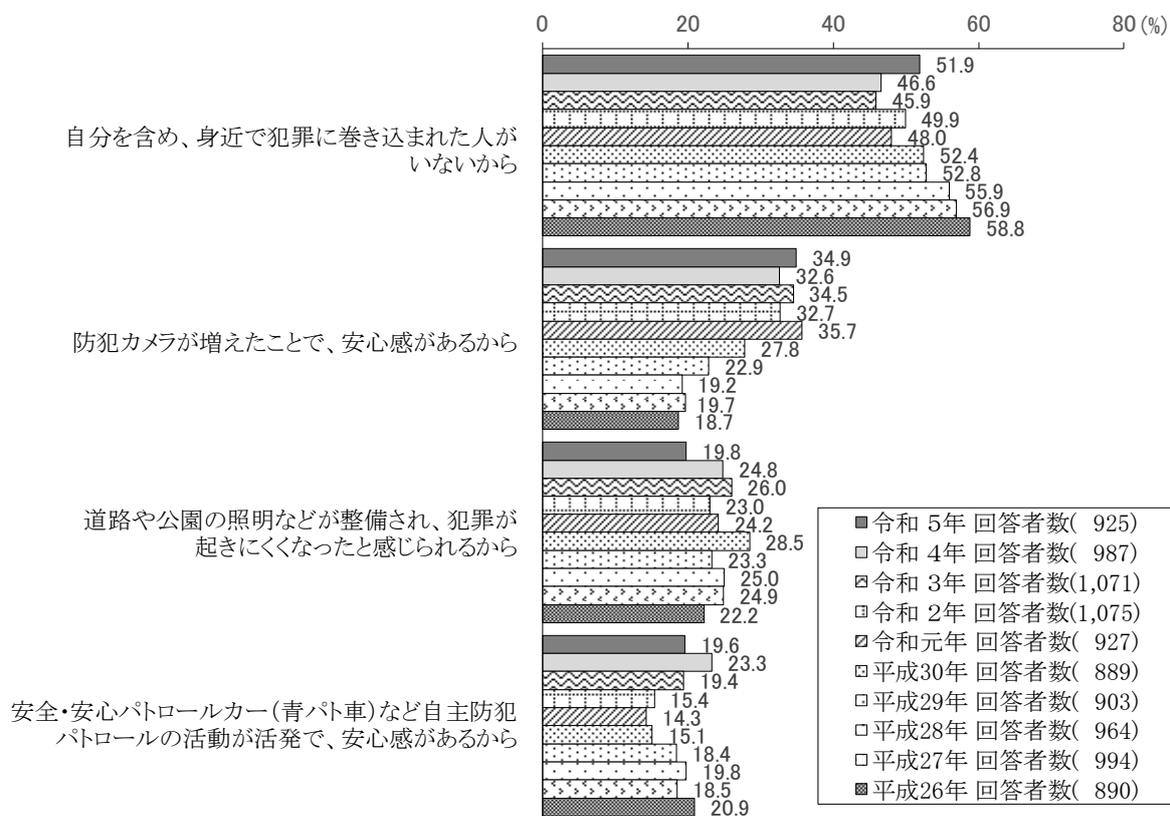
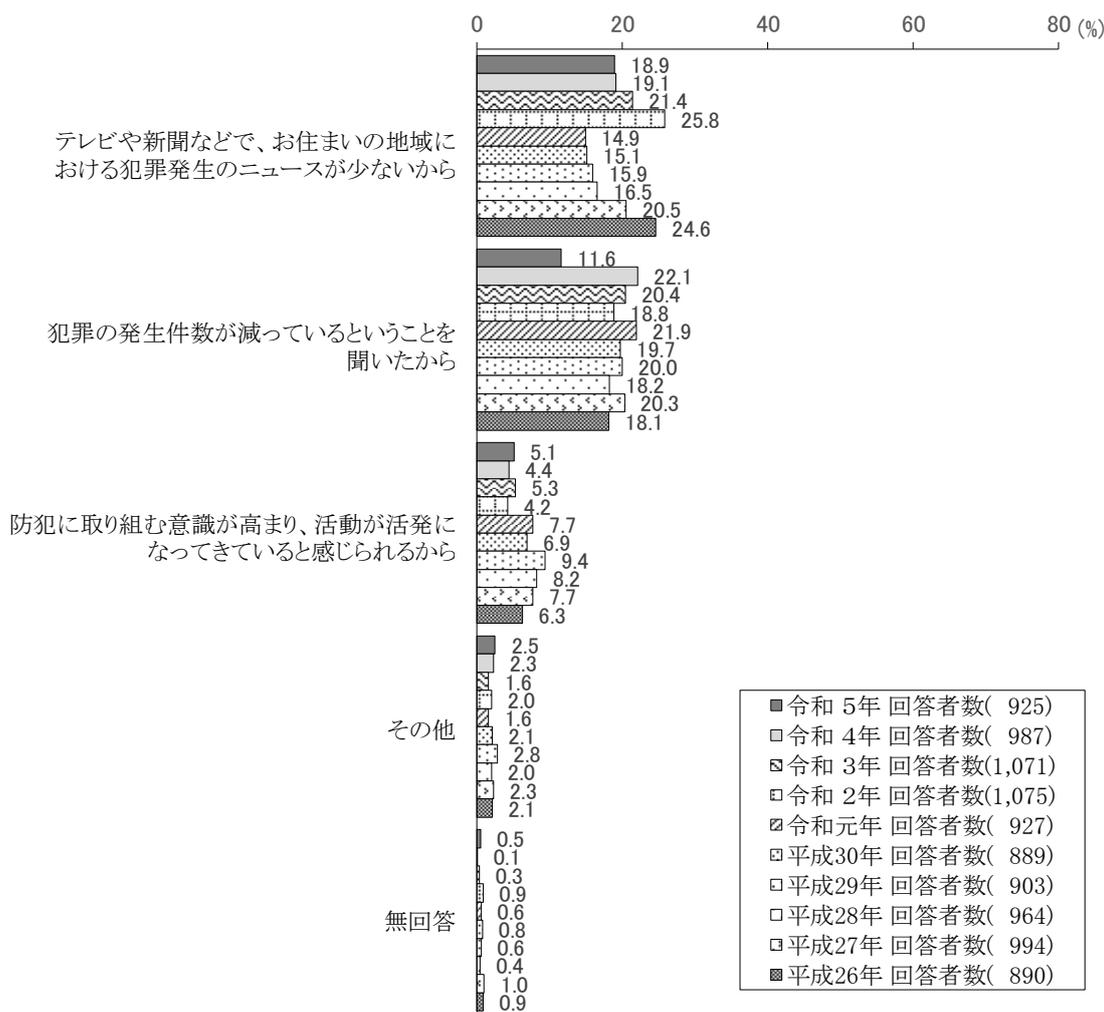


図7-4-1-② 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

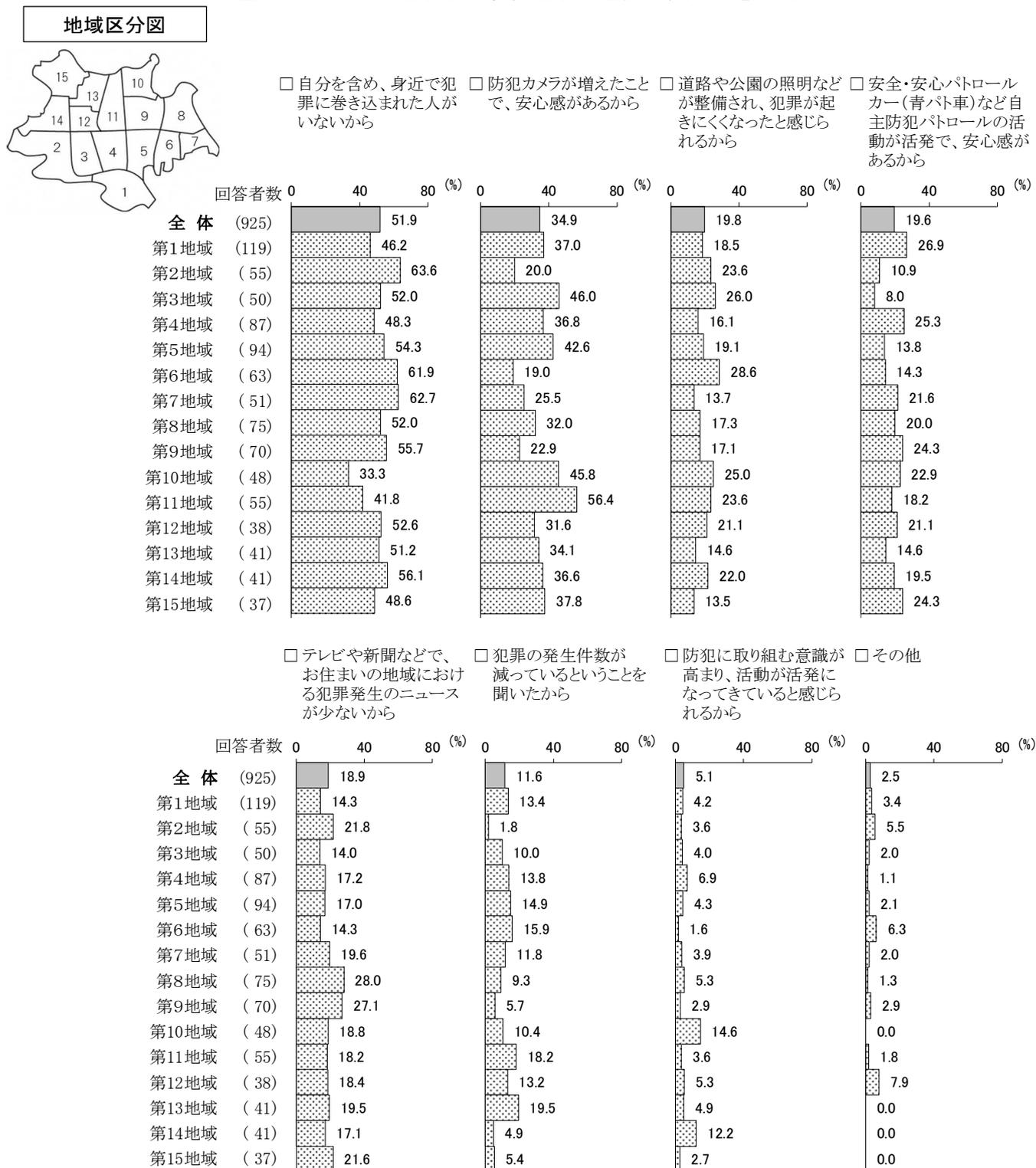


- ※ 「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、平成26年度新設。
- ※ 「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は、令和元年度までは「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」。
- ※ 「防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから」は、令和元年度までは「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が良いと感じる点

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第2地域で63.6%と最も高く、第7地域と第6地域が6割強で続いている。「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第11地域が56.4%と最も高く、第3地域と第10地域が4割台半ばで続いている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は第6地域(28.6%)、「安全・安心パトロールカー(青パト車)など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」は第1地域(26.9%)でそれぞれ最も高くなっている。

図7-4-2 地域別／居住地域の治安が良いと感じる点



(5) 居住地域の治安が悪いと感じる点

問30で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に
問30-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。

■「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」が4割台半ばで1位、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が約4割で2位

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地域の治安が【悪い】と評価した人の理由の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」(43.2%) ※新設
- ② 「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」(39.6%) ※新設
- ③ 「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」(22.5%)

(イ) 前回調査と比較すると、今回調査から新設された「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」と「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が上位2位となったことから、前回調査で1位であった「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるからは21.1ポイント減少し3位となったのをはじめ、多くの項目で割合が減少している。

図7-5-1-① 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

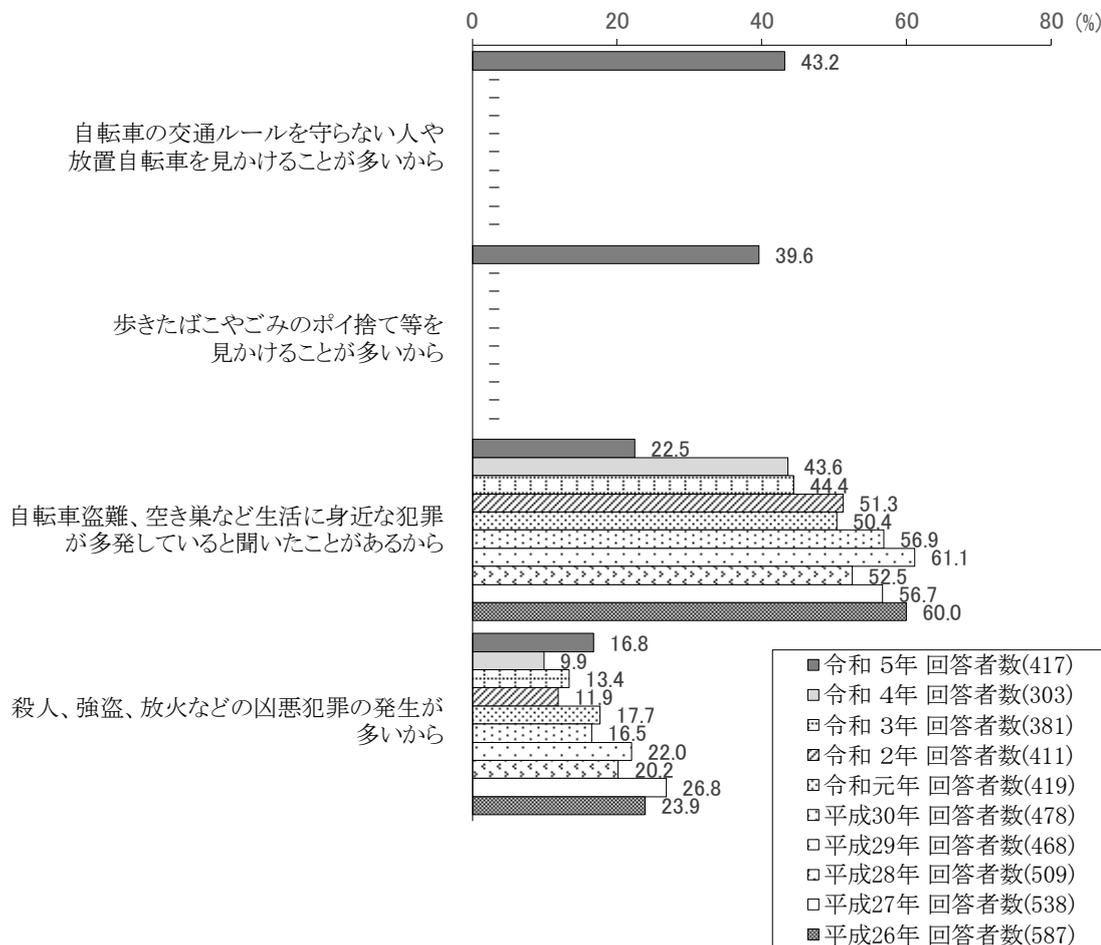
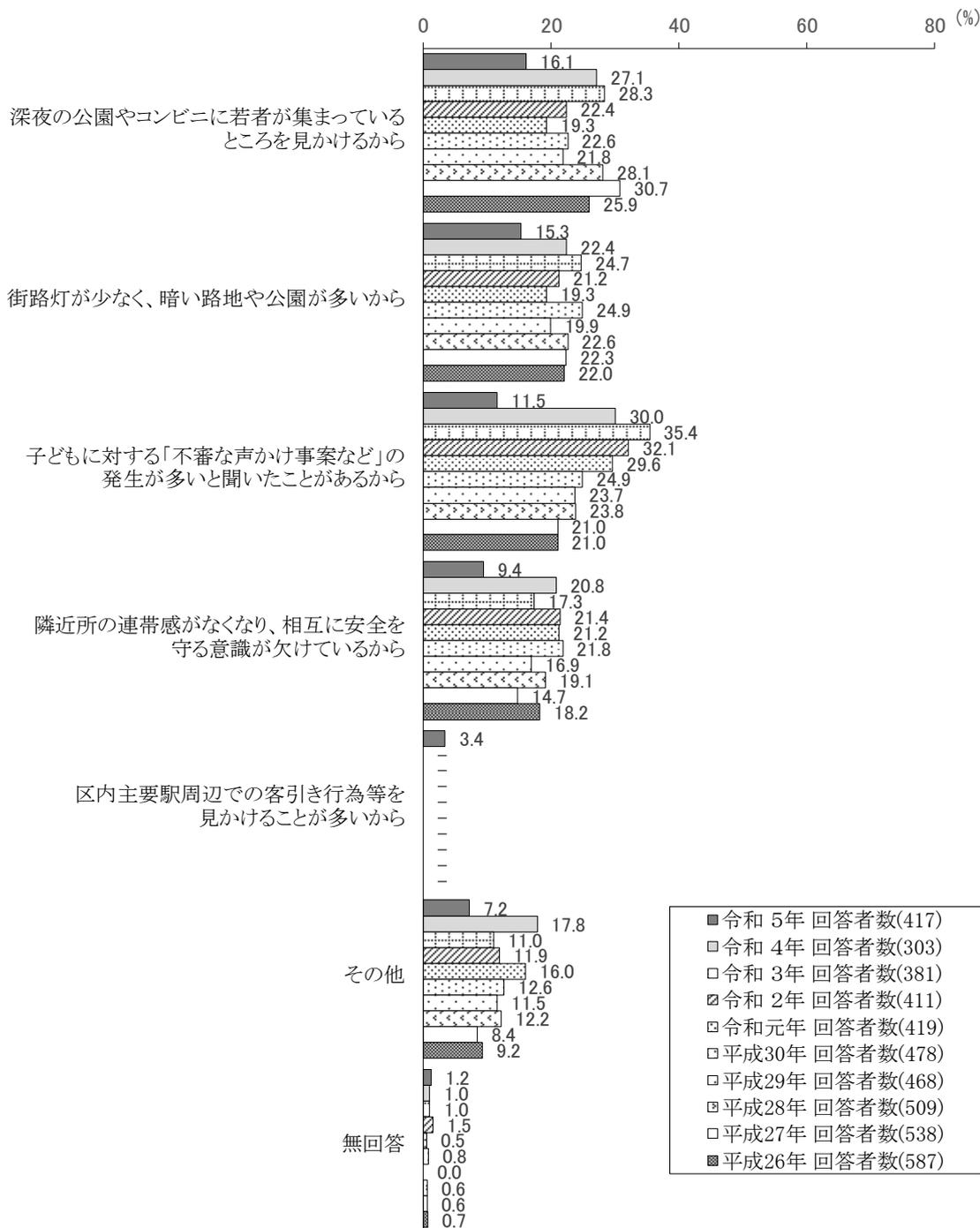


図7-5-1-② 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

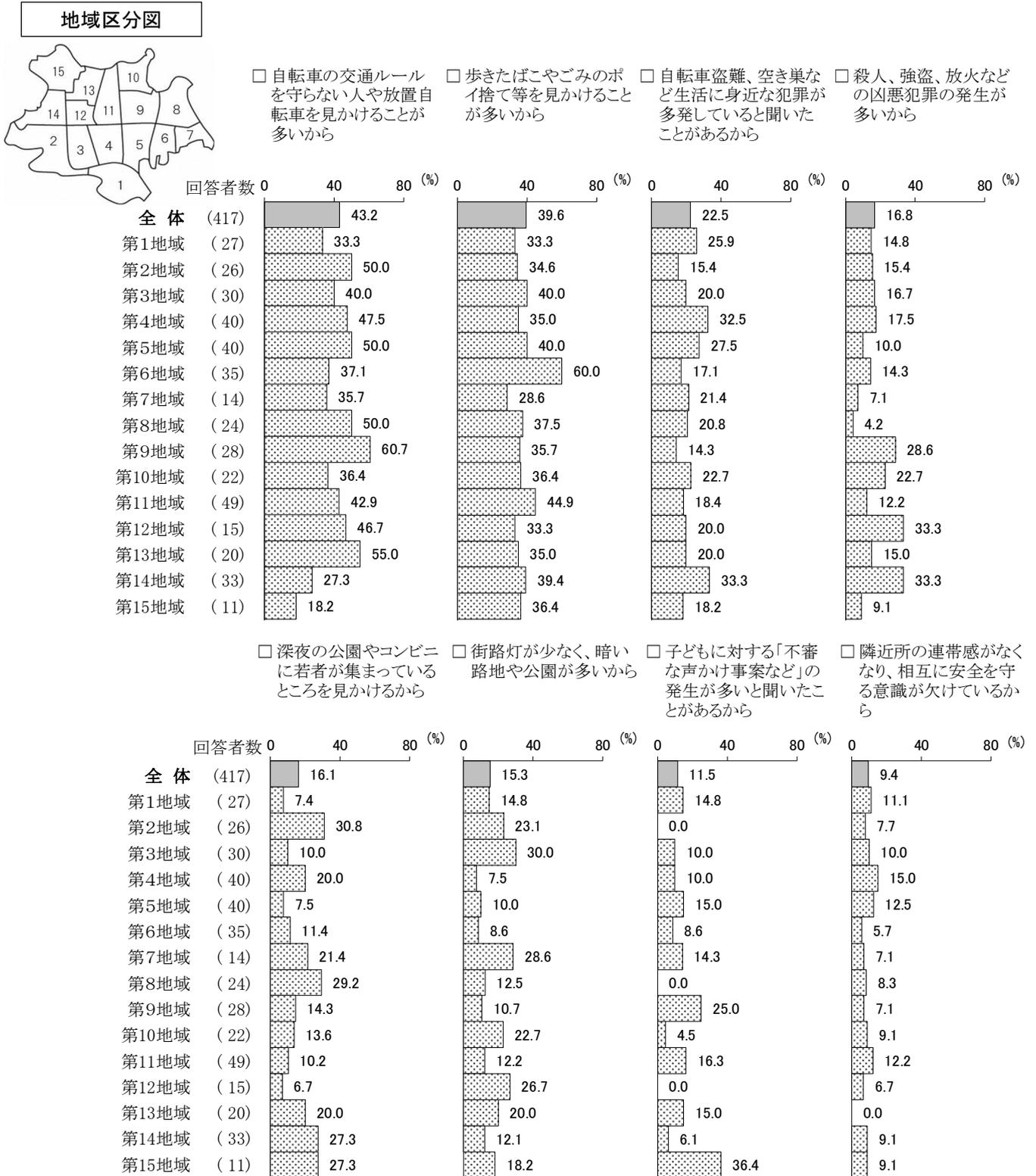


※「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」、「区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点

地域別でみると、大半の地域で回答者数が少ないことから、参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は第9地域と第13地域で高くなっている。「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は第6地域で特に高く、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は第14地域と第4地域で他の地域に比べて高くなっている。

図7-5-2 地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点／上位8項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地域の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地域の治安が悪いと感じる上位8項目について性別でみると、男女の差が5ポイント以上のものは4項目であった。

a 性別でみると男性の方が女性よりも高い項目

(a) 「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」(+9.5ポイント)

(b) 「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」(+6.9ポイント)

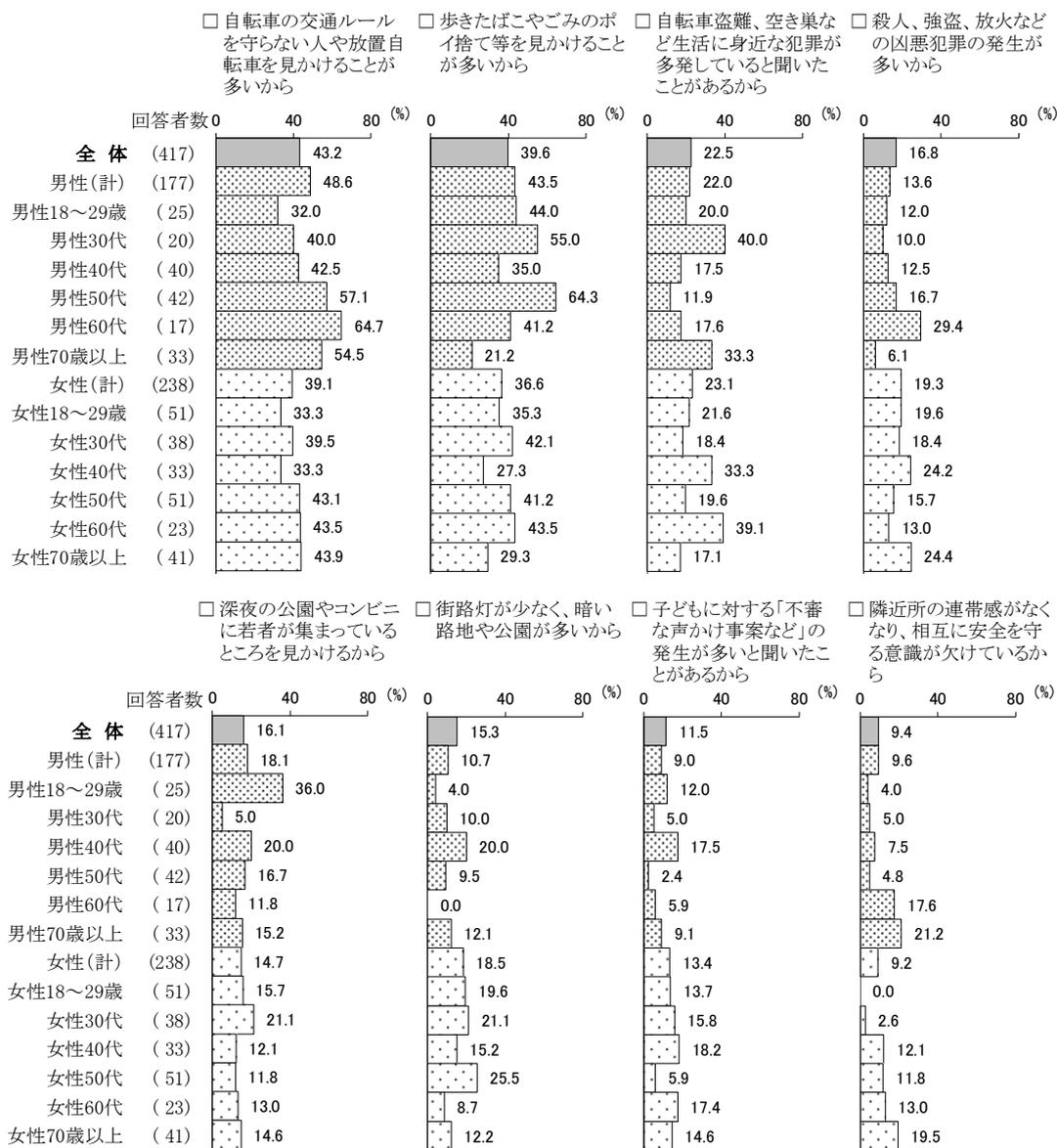
b 性別でみると女性の方が男性よりも高い項目

(a) 「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」(+7.8ポイント)

(b) 「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」(+5.7ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、多くの性・年代層で回答者数が少ないことから参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は男性の50代、60代、70歳以上で5割以上と高くなっている。「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は男性の30代と50代で5割以上と高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／居住地域の治安が悪いと感じる点／上位8項目



(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

問31 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか (〇は2つまで)。

■「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割、「街路灯など安全に配慮した道路・公園の整備」が4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

(ア) 治安対策として足立区に力を入れてほしいことの上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」(50.8%)
- ② 「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」(45.6%)
- ③ 「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」(30.7%)

(イ) 前回調査と比較すると、「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」が6.4ポイント増加し、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」も5.4ポイント増加している。逆に、「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」が7.7ポイント減少している。

図7-6-1-① 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

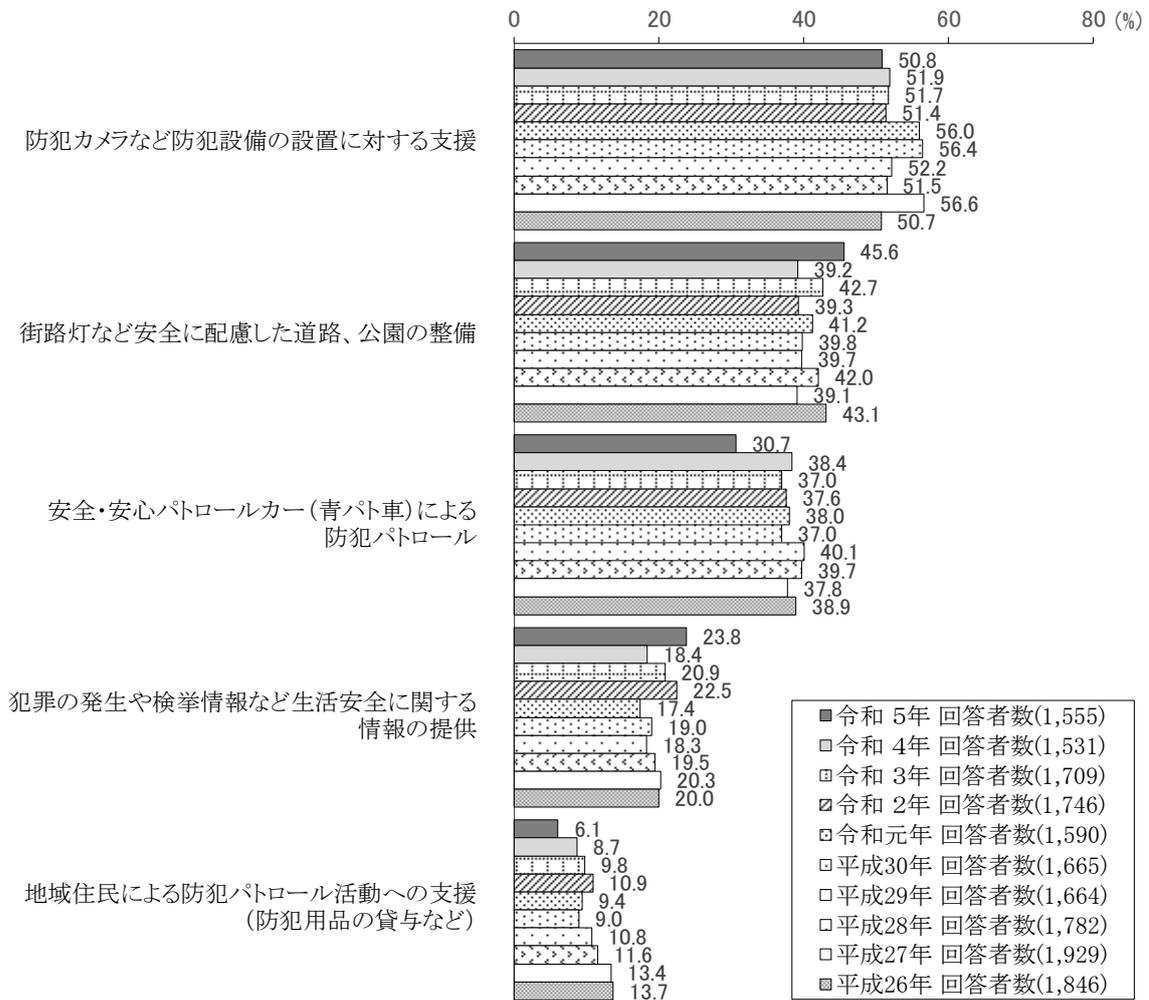
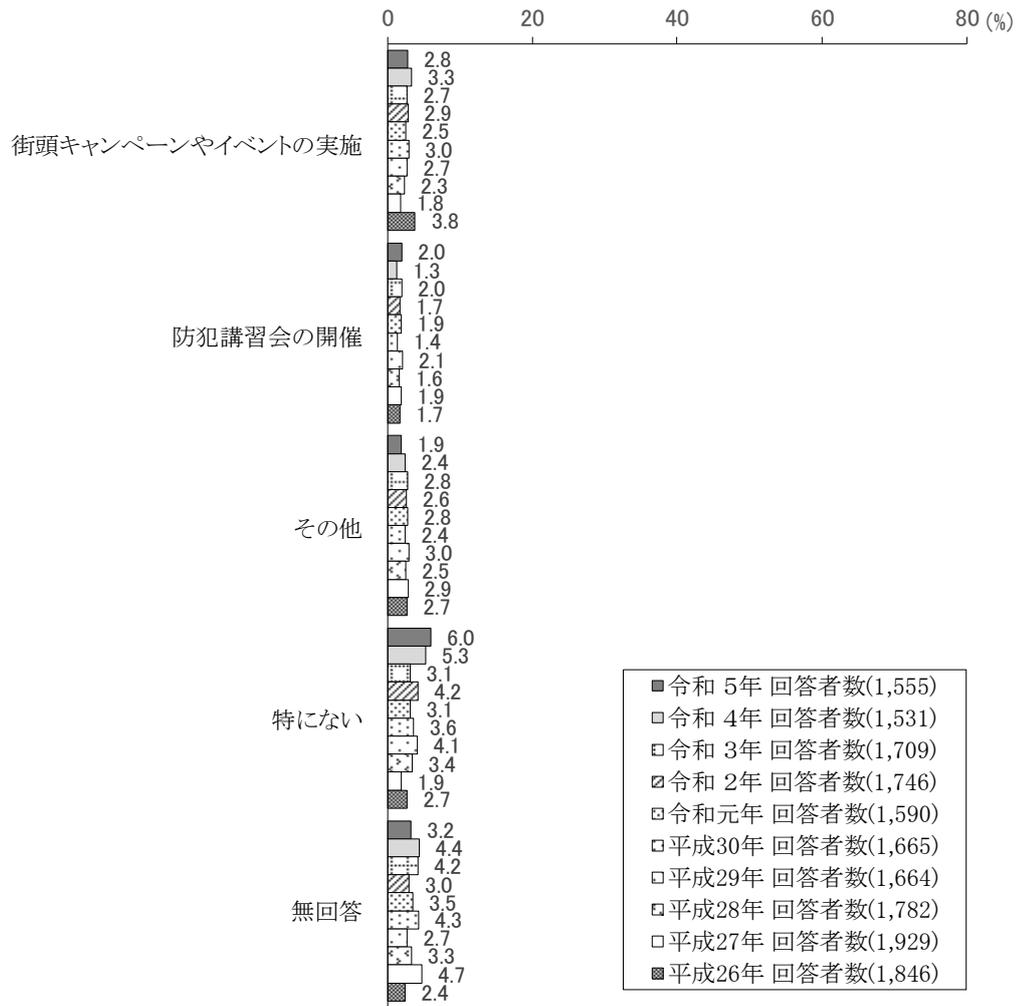


図7-6-1-② 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



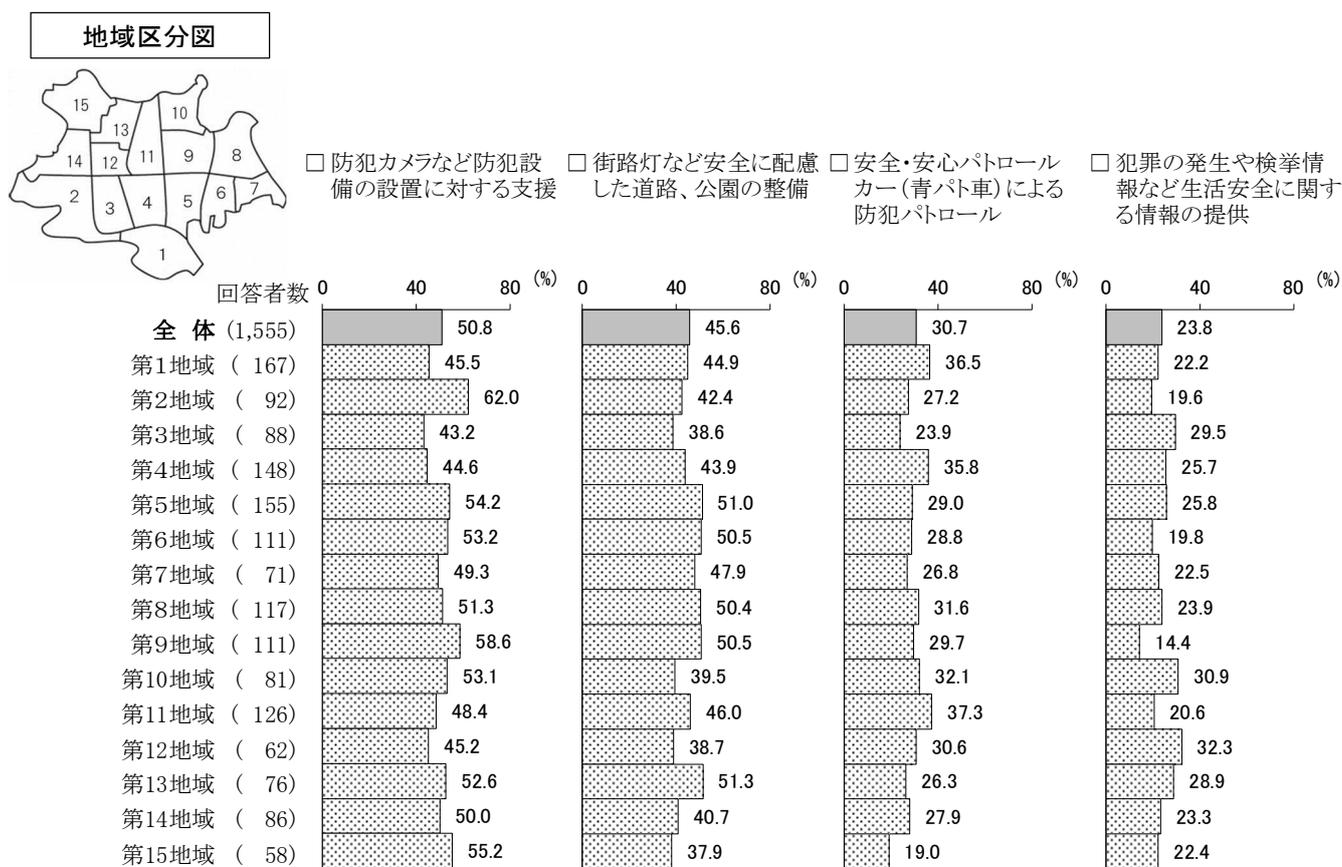
※「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は、平成28年度までは「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」

※「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は、令和4年度までは「安全に配慮した道路、公園の整備」

イ クロス集計・地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと（上位4項目）

地域別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第2地域で62.0%と最も高く、次いで、第9地域（58.6%）となっている。「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は第5地域、第6地域、第8地域、第9地域、第13地域で5割から5割強と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は第11地域（37.3%）、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は第12地域（32.3%）でそれぞれ最も高くなっている。

図7-6-2 地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと（上位4項目）

(ア) 治安対策として区に力を入れてほしいこと上位4項目について性別でみると、4項目中3項目で女性の方が男性よりも高くなっている。

a 性別でみると女性の方が男性よりも高い項目

(a) 「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」(+10.3ポイント)

(b) 「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」(+4.1ポイント)

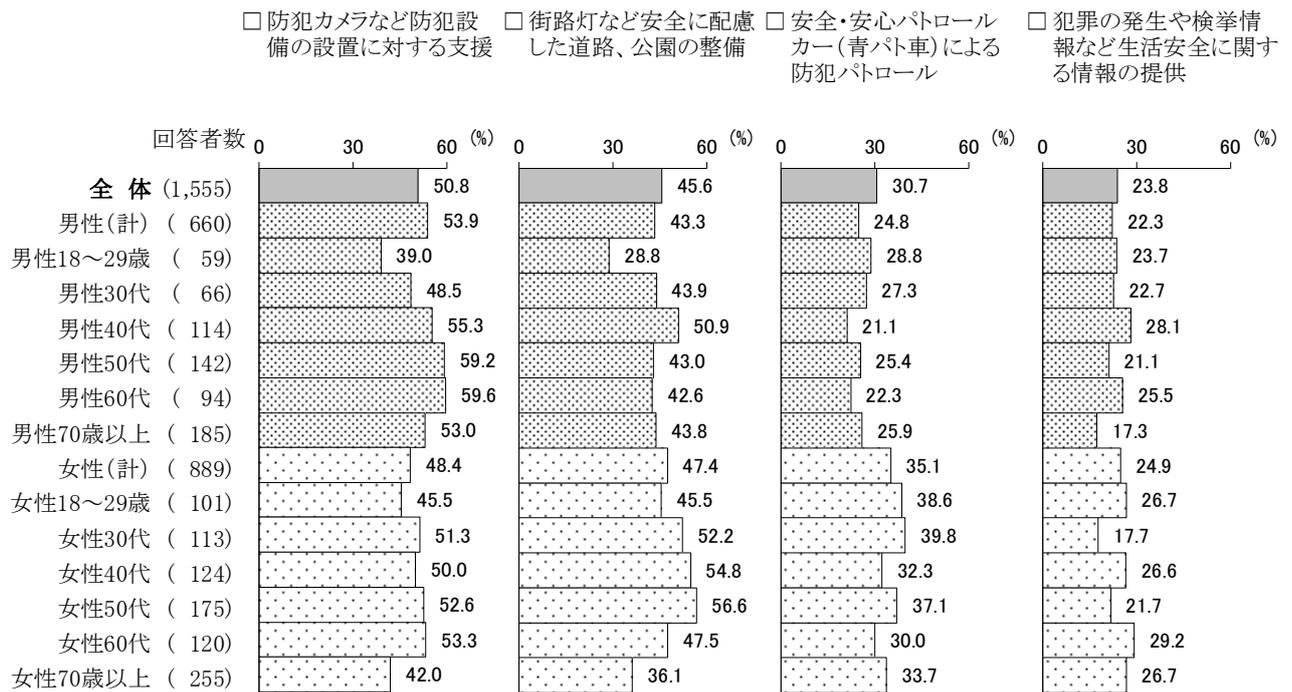
(c) 「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」(+2.6ポイント)

b 性別でみると男性の方が女性よりも高い項目

(a) 「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」(+5.5ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は男性の50代と60代で約6割と高く、「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は女性の40代と50代で5割台半ばと高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は女性の18～29歳と30代で4割近くと他の性・年齢層に比べて高くなっている。

図7-6-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無
 - (3) 町会・自治会の加入や活動
 - (4) 町会・自治会に加入しない理由
 - (5) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したい活動
-

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

問32 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「ごみと資源の分別を実行している」が8割台半ば、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が7割台半ば

ア 単純集計・経年比較／環境のために心がけていること

(ア) 環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっている。

- ①「ごみと資源の分別を実行している」(84.4%)
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(74.8%)
- ③「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(54.0%)
- ④「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(51.1%)
- ⑤「外食時に食べられる分だけ注文する」(48.4%)

(イ) 前回調査と比較すると、すべての項目で順位に変動はないが、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」が3.4ポイント減少し、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」が3.3ポイント減少している。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

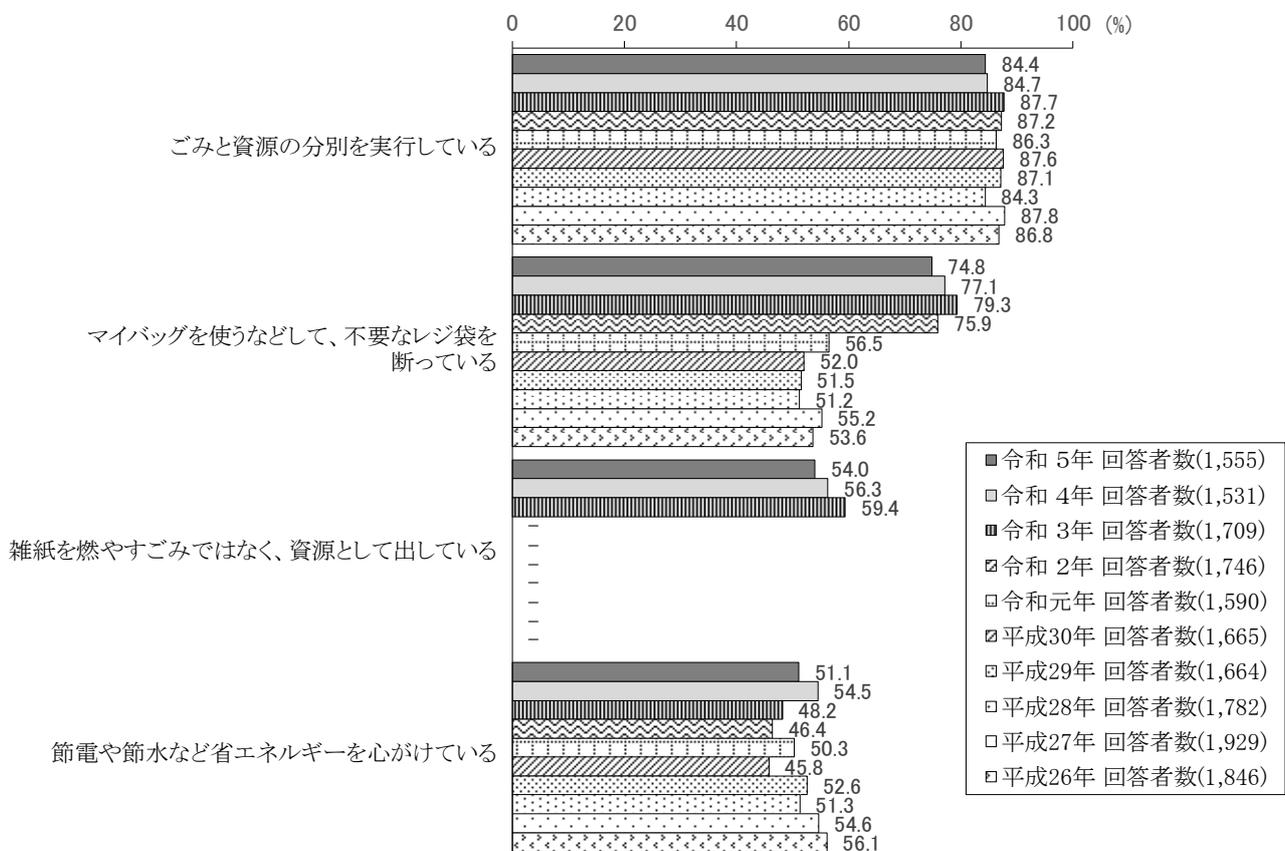


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること

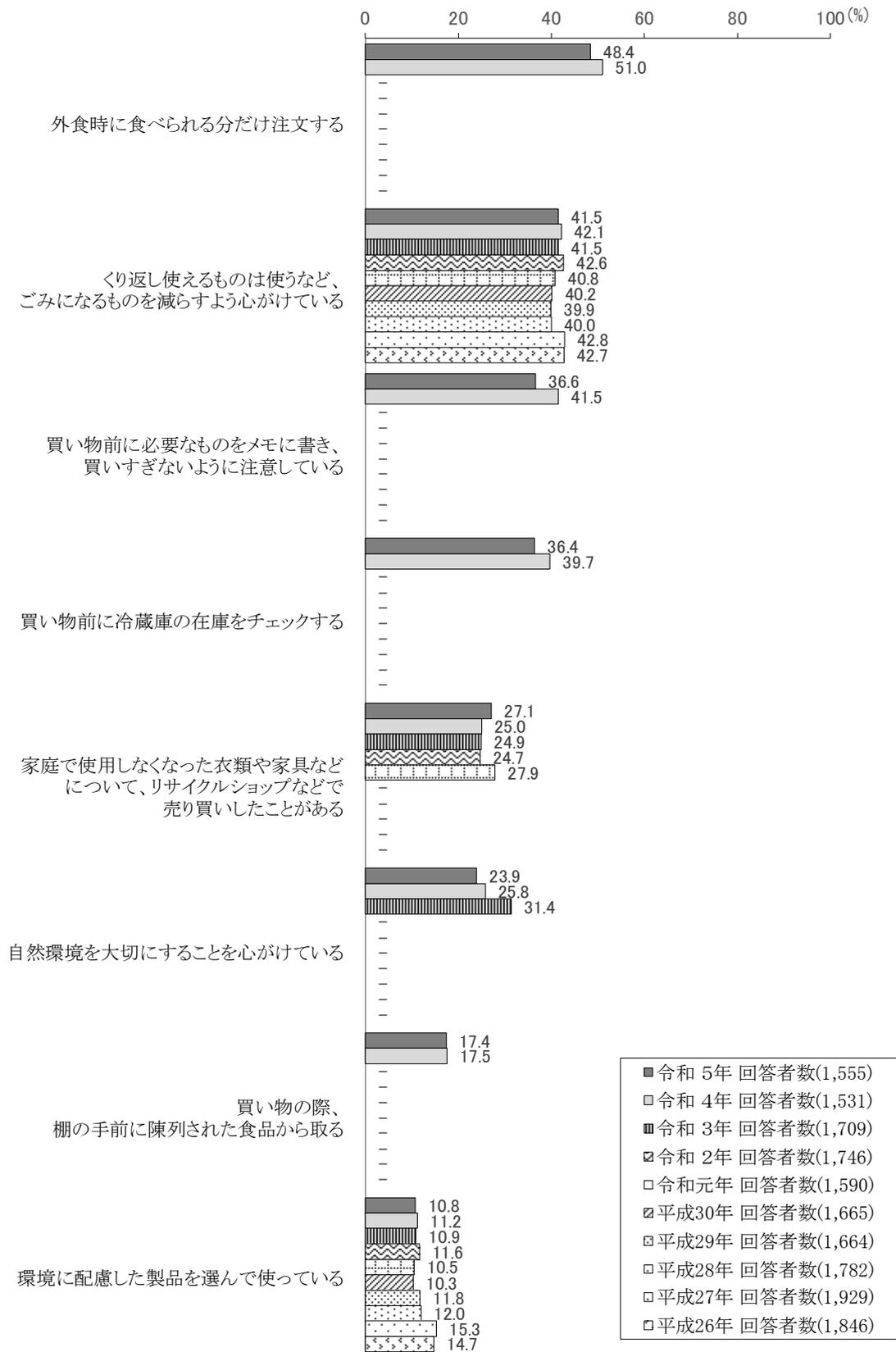
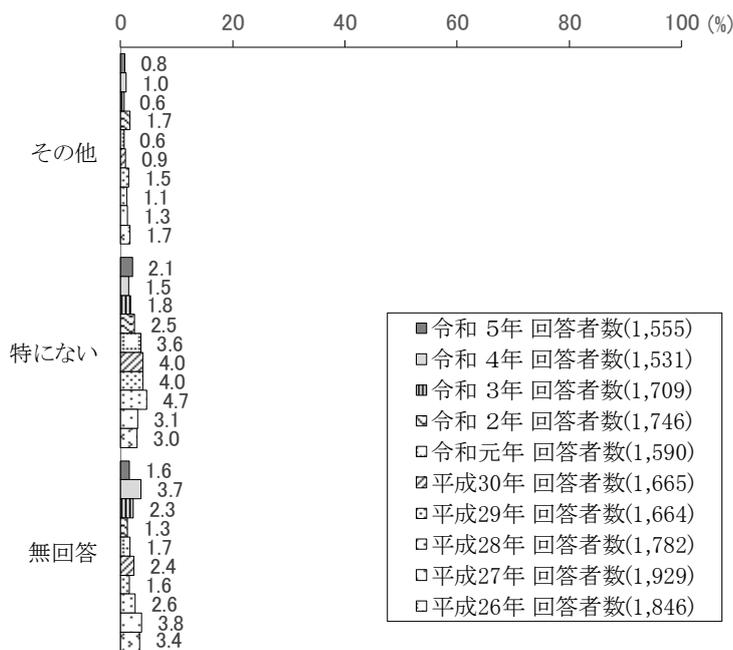


図8-1-1-③ 経年比較／環境のために心がけていること

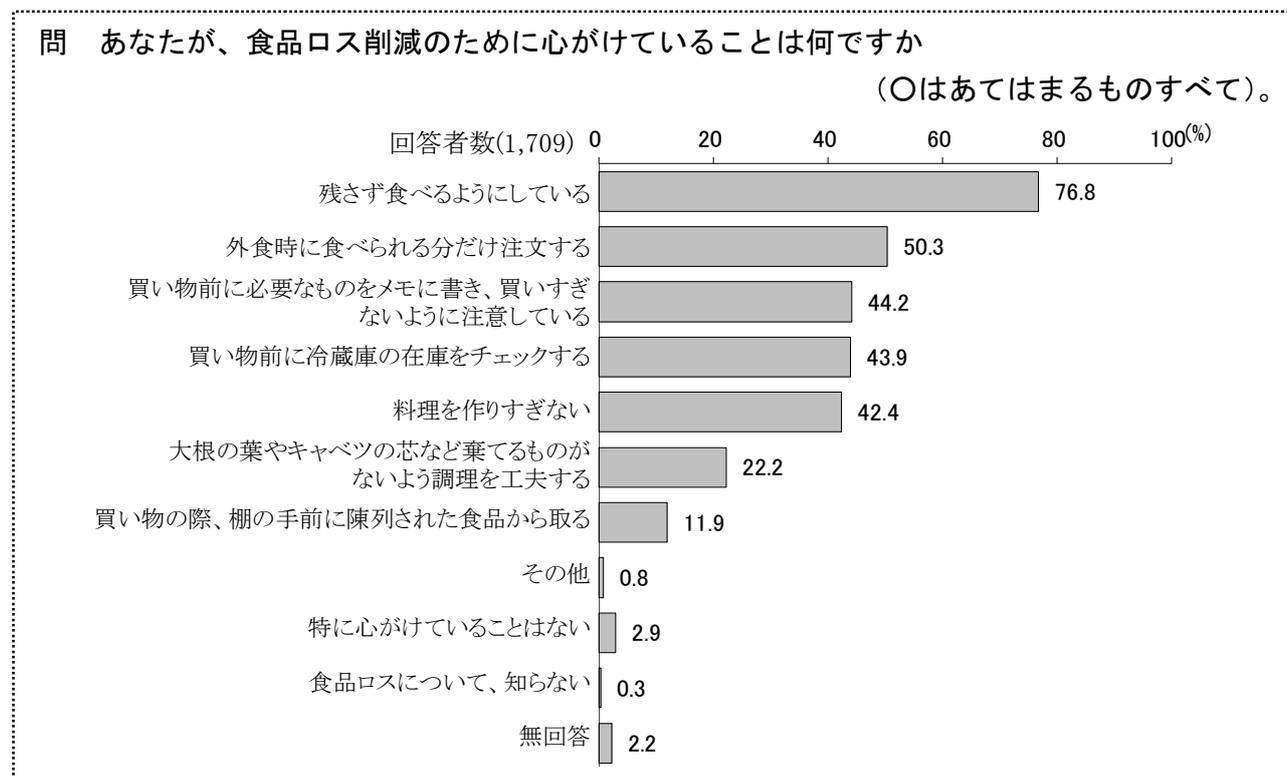


※「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は令和元年度新設。

※「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」と「自然環境を大切にすることを心がけている」は令和3年度新設。

※「外食時に食べられる分だけ注文する」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る」の4項目は令和3年度まで「食品ロス削減のために心がけていること」についての設問で聴いていたが、前回の令和4年度から本設問に統合。

参考／（令和3年度）食品ロス削減のために心がけていること

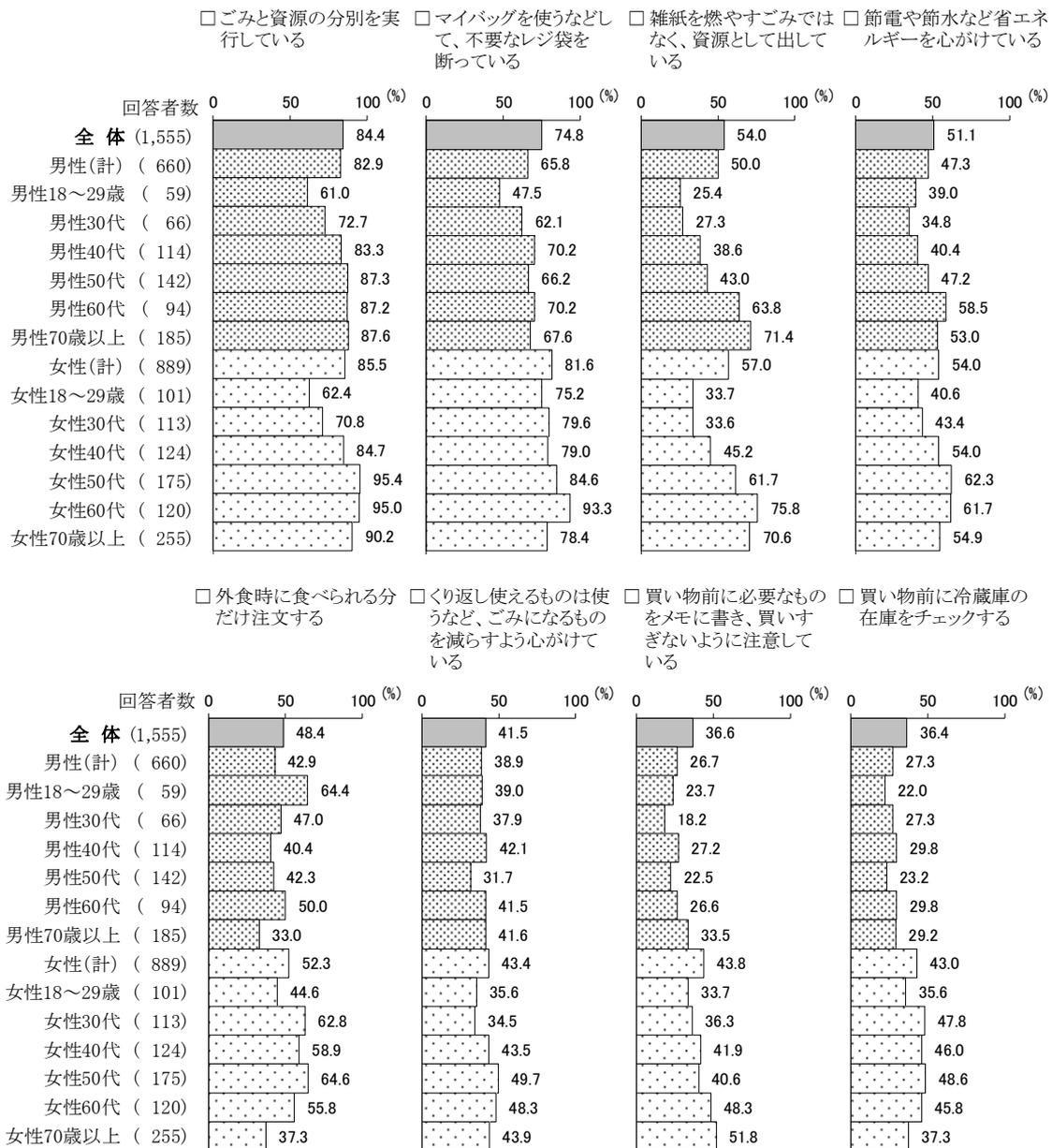


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、特に、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（+17.1ポイント）、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（+15.8ポイント）、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（+15.7ポイント）で女性の方が10ポイント以上高くなっている。

（イ）性・年代別で見ると、「ごみと資源の分別を実行している」は、男女ともに40代以上で8割以上と高く、18～29歳では6割前半と低くなっている。「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は、女性の60代で9割台半ばと最も高く、男性の18～29歳で4割台と最も低くなっている。「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」は、男女とも30代以下（男性：2割台・女性：3割台）で低くなっている。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は女性の50代と60代で6割台、「外食時に食べられる分だけ注文する」は男性の18～29歳と女性の30代と50代で6割台と高くなっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること／上位8項目



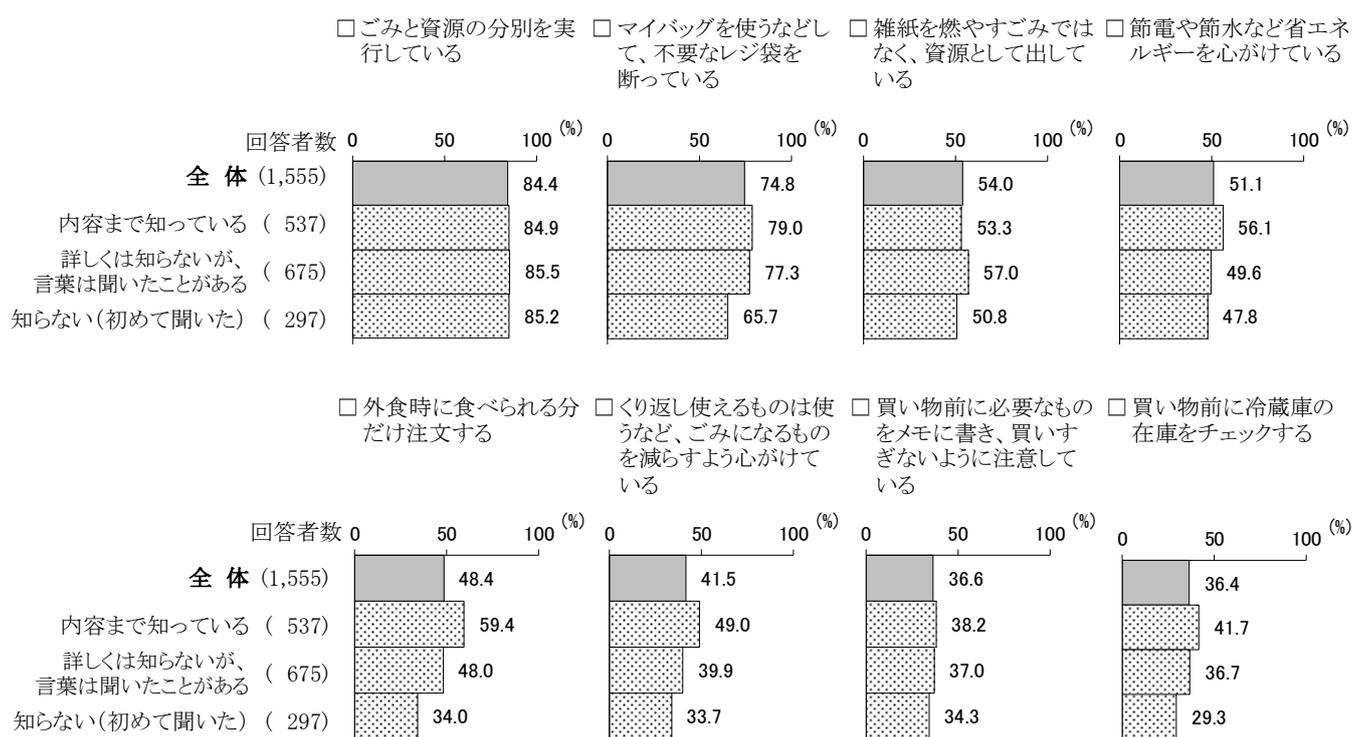
ウ クロス集計・SDGs認知度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目中6項目でSDGsの認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、SDGsについて「内容まで知っている」－「知らない（初めて聞いた）」のポイント差が大きい順に並べると以下のとおりとなっている。

- ①「外食時に食べられる分だけ注文する」（25.4ポイント）
- ②「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（15.3ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（13.3ポイント）
- ④「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（12.4ポイント）
- ⑤「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（8.3ポイント）
- ⑥「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（3.9ポイント）となっている。

（イ）「ごみと資源の分別を実行している」と「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」の2項目については、認知度合いとの相関関係はみられなかった。

図8-1-3 SDGs認知度別／環境のために心がけていること／上位8項目

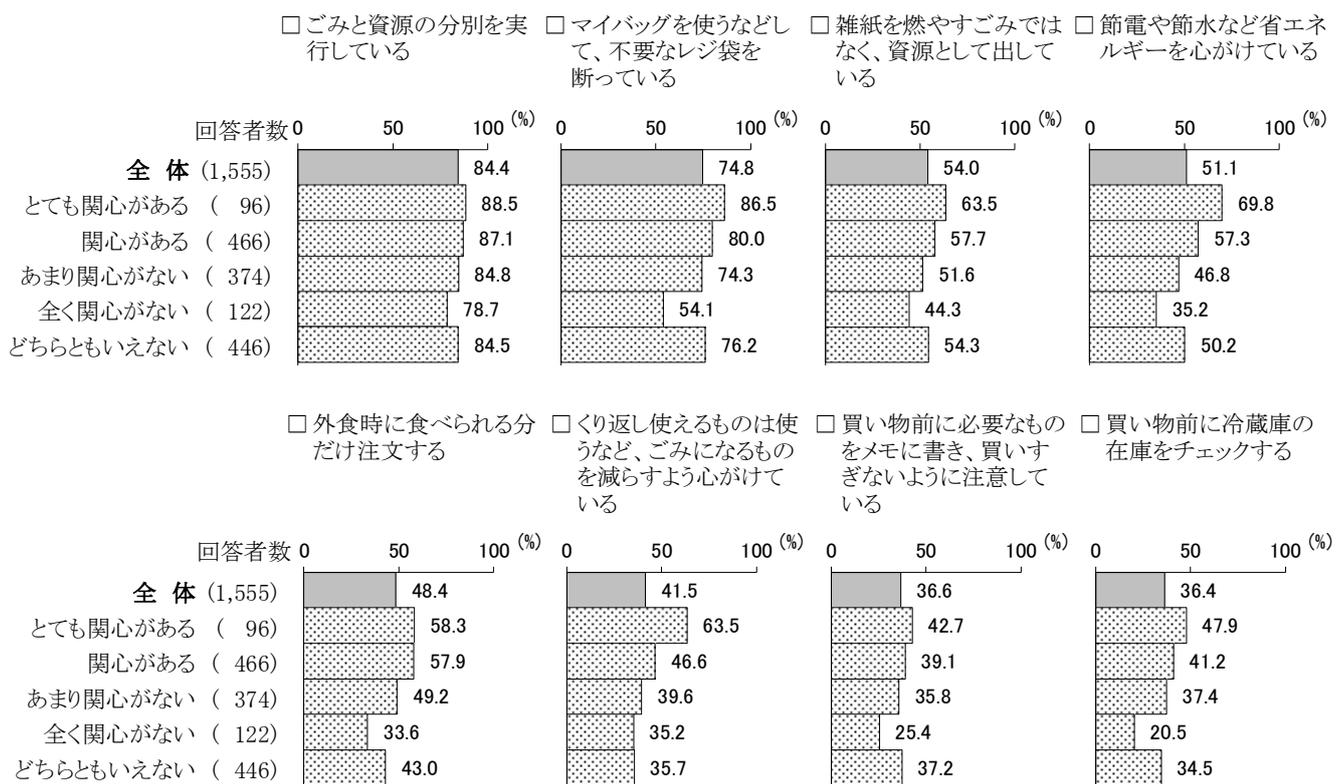


エ クロス集計・SDGs 関心度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目のすべてでSDGsの関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、「とても関心がある」－「全く関心がない」のポイント差が大きい順に並べると、以下のとおりとなっている。

- ①「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（34.6ポイント）
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（32.4ポイント）
- ③「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（28.3ポイント）
- ④「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（27.4ポイント）
- ⑤「外食時に食べられる分だけ注文する」（24.7ポイント）
- ⑥「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」（19.2ポイント）
- ⑦「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（17.3ポイント）
- ⑧「ごみと資源の分別を実行している」（9.8ポイント）

図8-1-4 SDGs 関心度別／環境のために心がけていること／上位8項目



(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

問33 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していますか（○は1つだけ）。

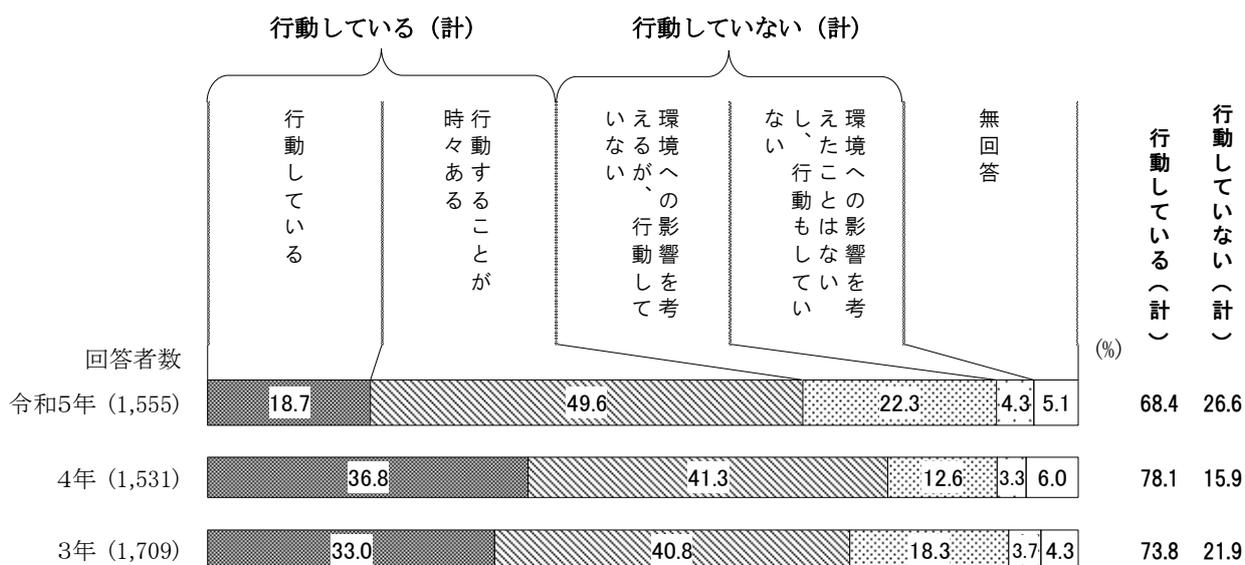
■ 【行動している】が7割近くで、【行動していない】が2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 環境への影響を考えた日頃からの行動状況は、「行動することが時々ある」が49.6%で最も高く、これに「行動している」(18.7%)を合わせた【行動している】は68.4%となっている。一方、「環境への影響を考えるが、行動していない」(22.3%)と「環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない」(4.3%)を合わせた【行動していない】は26.6%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【行動している】が9.7ポイント減少し、【行動していない】が10.7ポイント増加している。

図8-2-1 経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

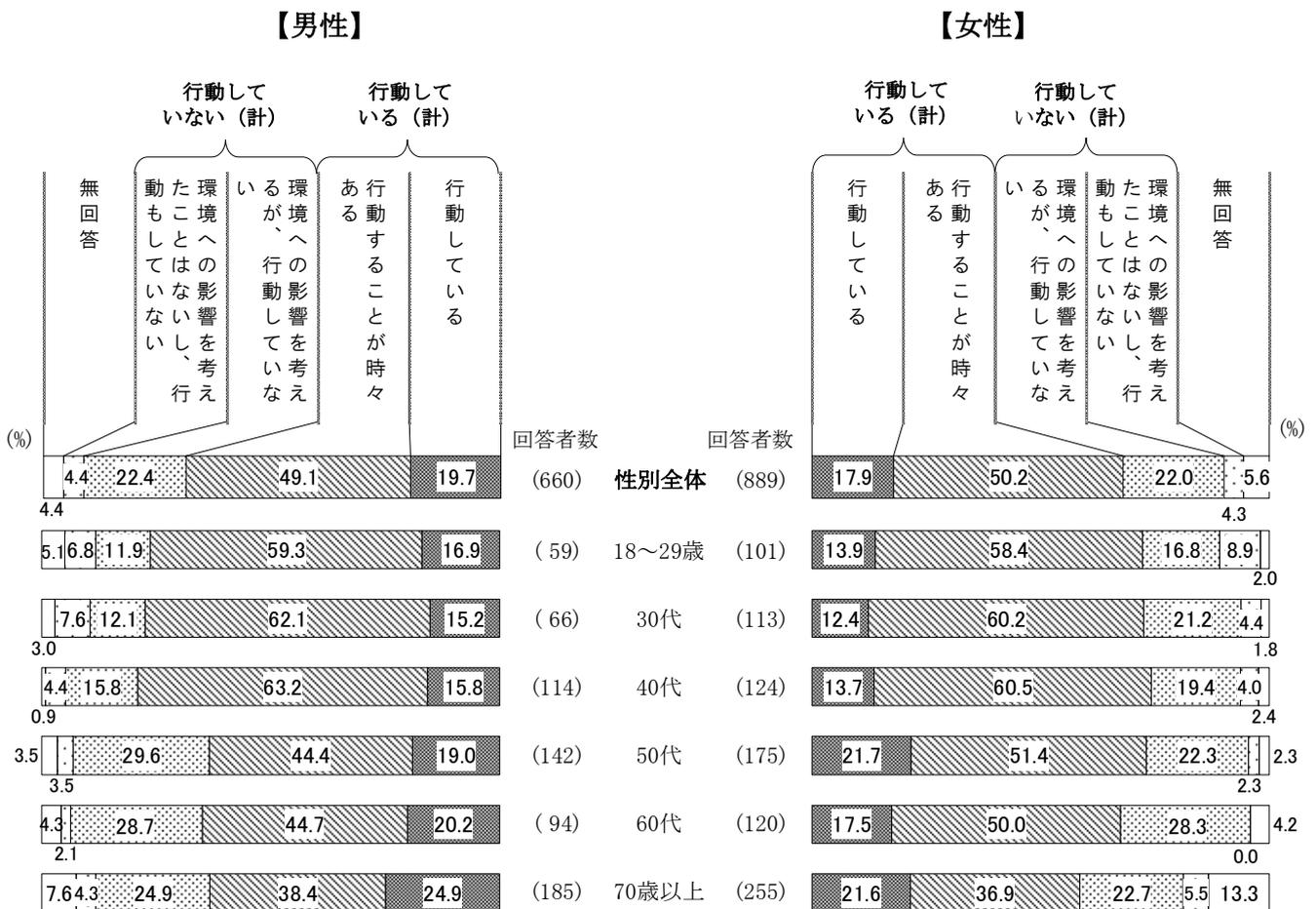


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【行動している】は男性の40代で78.9%と最も高く、次いで、男性の30代(77.3%)が続いている。一方、女性の70歳以上で58.4%と最も低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



(3) 町会・自治会の加入や活動

問34 町会・自治会の加入や活動についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

■ 「加入している」が5割超、「活動に参加したことがある」は4割弱

ア 単純集計・令和3年度調査との比較／町会・自治会の加入や活動

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知については、「はい（知っている）」が65.4%を占め、「いいえ（知らない）」が30.9%となっている。

(イ) 町会・自治会への加入状況は、「はい（加入している）」が51.8%で、「いいえ（加入していない）」の44.8%を上回っている。

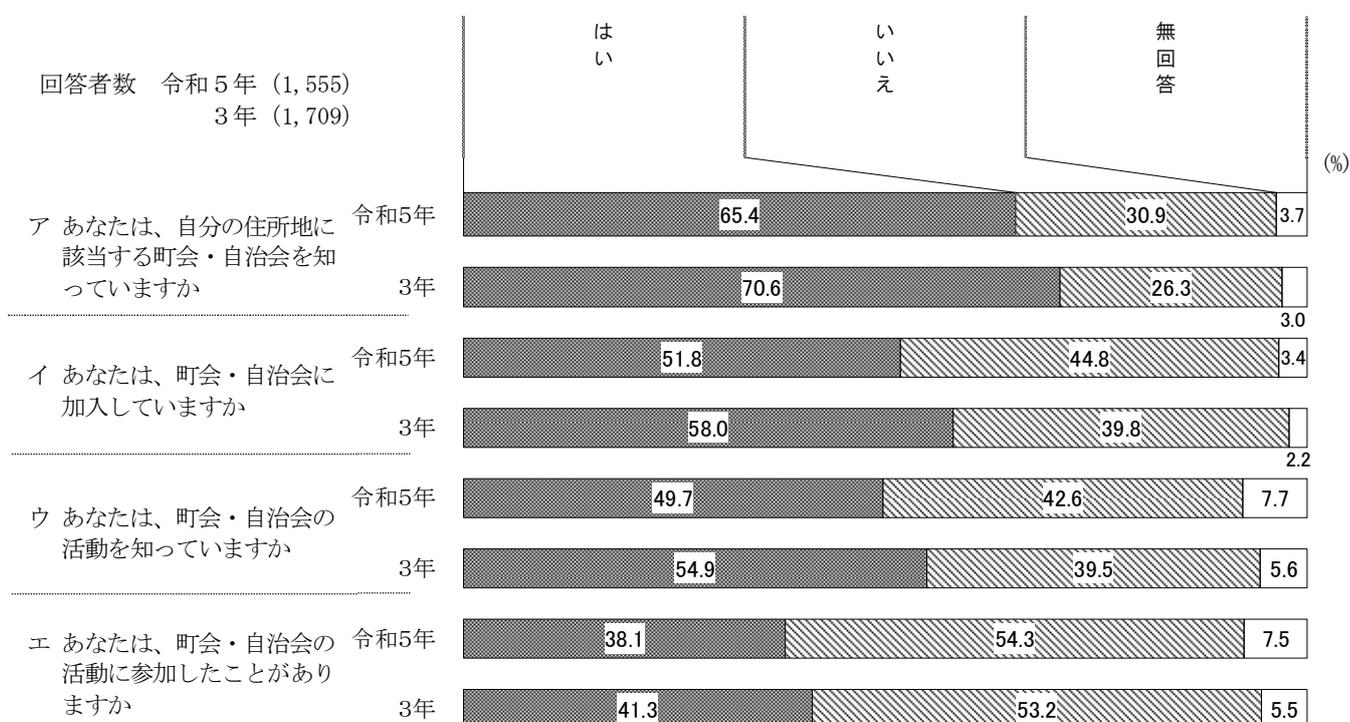
(ウ) 町会・自治会の活動内容については、「はい（知っている）」が49.7%で、「いいえ（知らない）」の42.6%を上回っている。

(エ) 町会・自治会の活動への参加状況は、「いいえ（参加したことはない）」が54.3%で、「はい（参加したことがある）」の38.1%を上回っている。

(オ) 前回の令和3年度調査と比較すると、すべての認知・加入状況の割合が減少しており、減少ポイントが大きい順に下記のとおりとなっている。

- ① 「町会・自治会への加入状況」（-6.2ポイント）
- ② 「自分の住所地に該当する町会・自治会の認知」（-5.2ポイント）
- ③ 「町会・自治会への活動内容の認知」（-5.2ポイント）
- ④ 「町会・自治会への参加状況」（-3.2ポイント）

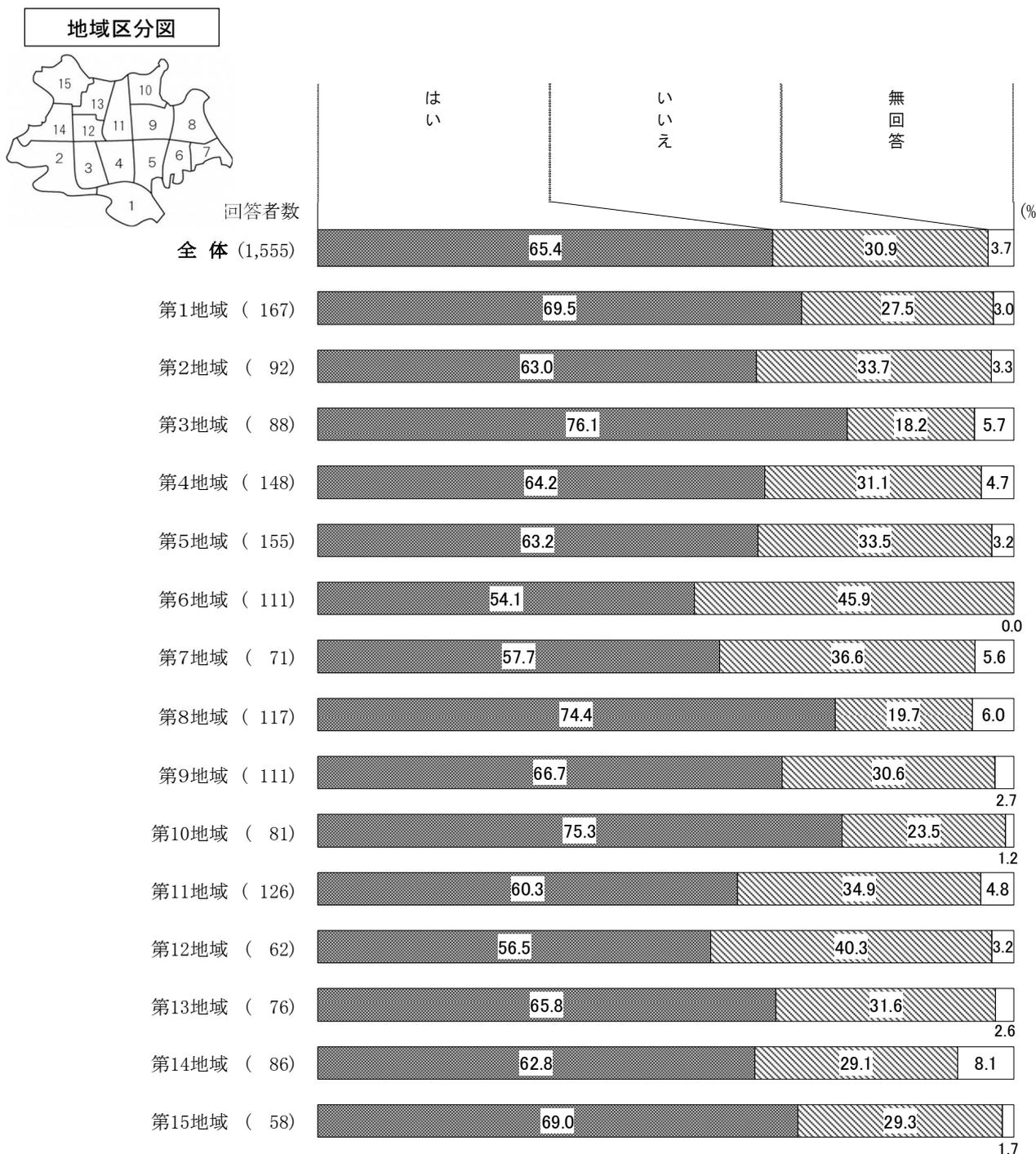
図8-3-1 令和3年度との比較／町会・自治会の加入や活動



イ クロス集計・地域別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況を地域別にみると、「はい（知っている）」は第3地域が76.1%で最も高く、次いで、第10地域（75.3%）、第8地域（74.4%）が7割台半ばで続いている。一方、「いいえ（知らない）」は第6地域が45.9%と最も高く、次いで、第12地域（40.3%）となっている。

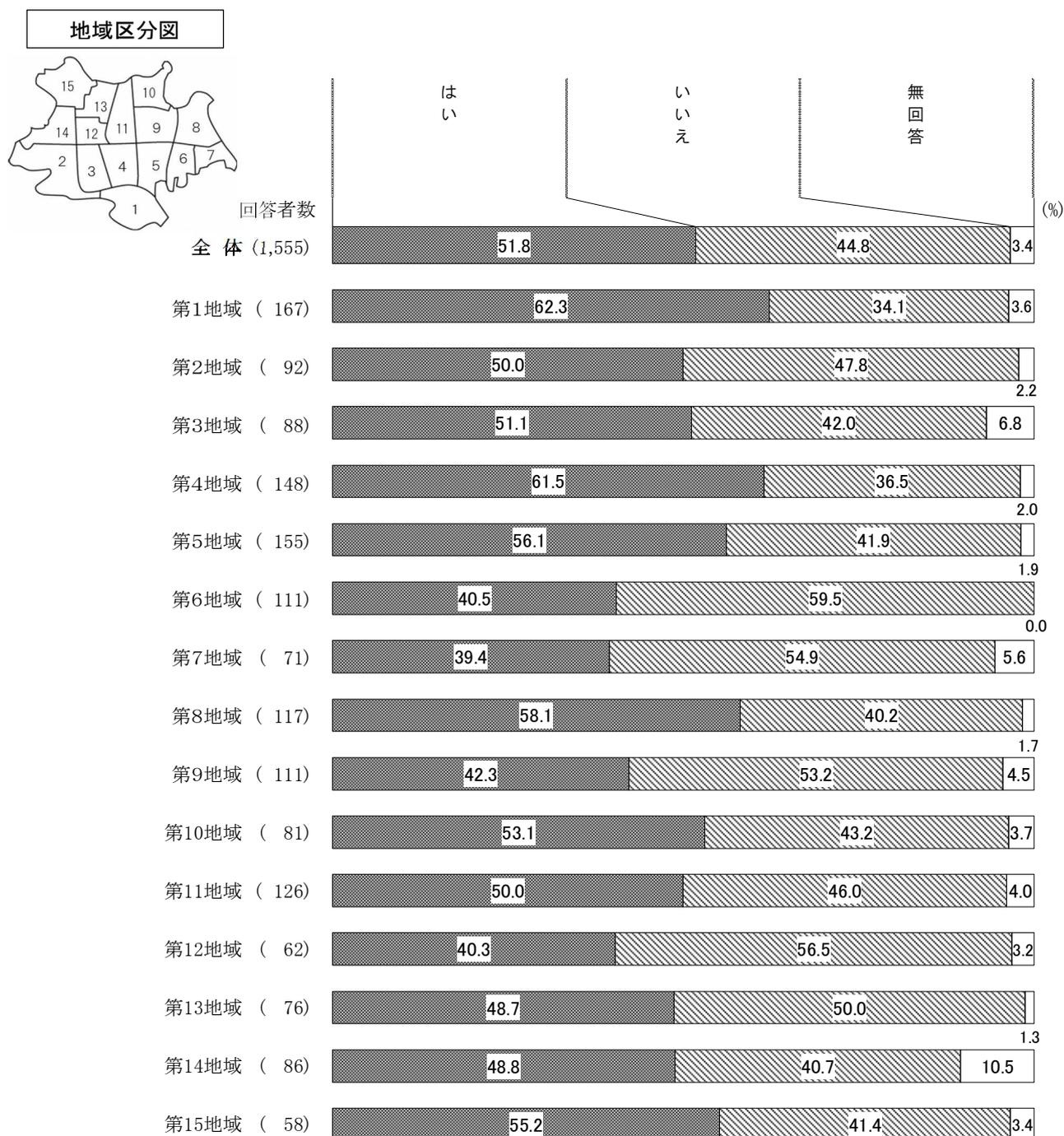
図8-3-2-① 地域別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況



ウ クロス集計・地域別／町会・自治会の加入状況

(ア) 町会・自治会への加入状況を地域別にみると、「はい（加入している）」は第1地域が62.3%で最も高く、次いで、第4地域（61.5%）が6割台で続いている。一方、「いいえ（加入していない）」は第6地域が59.5%と最も高く、次いで、第12地域（56.5%）、第7地域（54.9%）が5割台半ばとなっている。

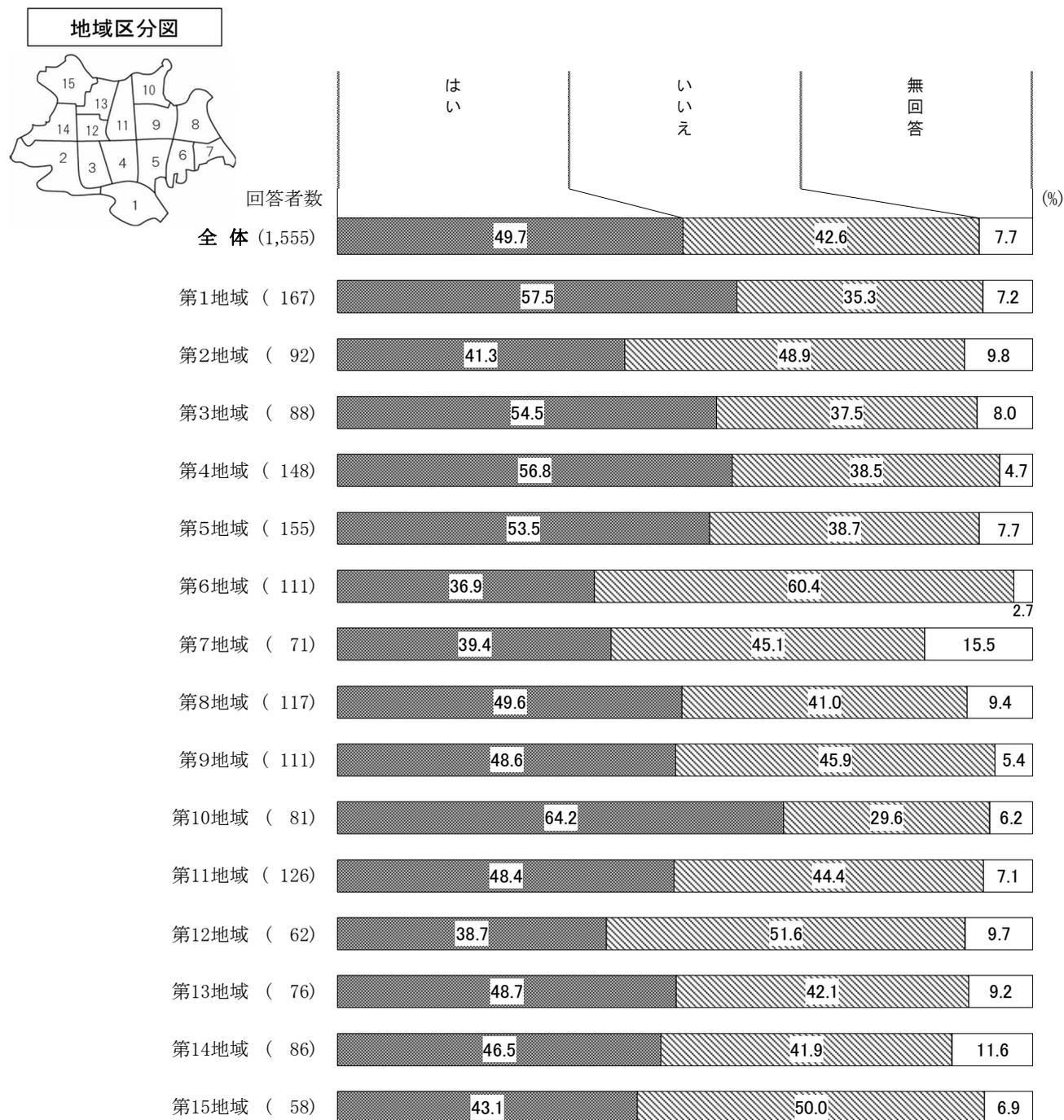
図8-3-2-② 地域別／町会・自治会の加入状況



エ クロス集計・地域別／町会・自治会活動の認知状況

(ア) 町会・自治会活動の認知状況を地域別にみると、「はい（知っている）」は第10地域が64.2%で最も高く、次いで、第1地域（57.5%）、第4地域（56.8%）が5割台後半で続いている。一方、「いいえ（知らない）」は第6地域が60.4%で他の地域に比べ特に高く、次いで、第12地域（51.6%）と第15地域（50.0%）が5割台となっている。

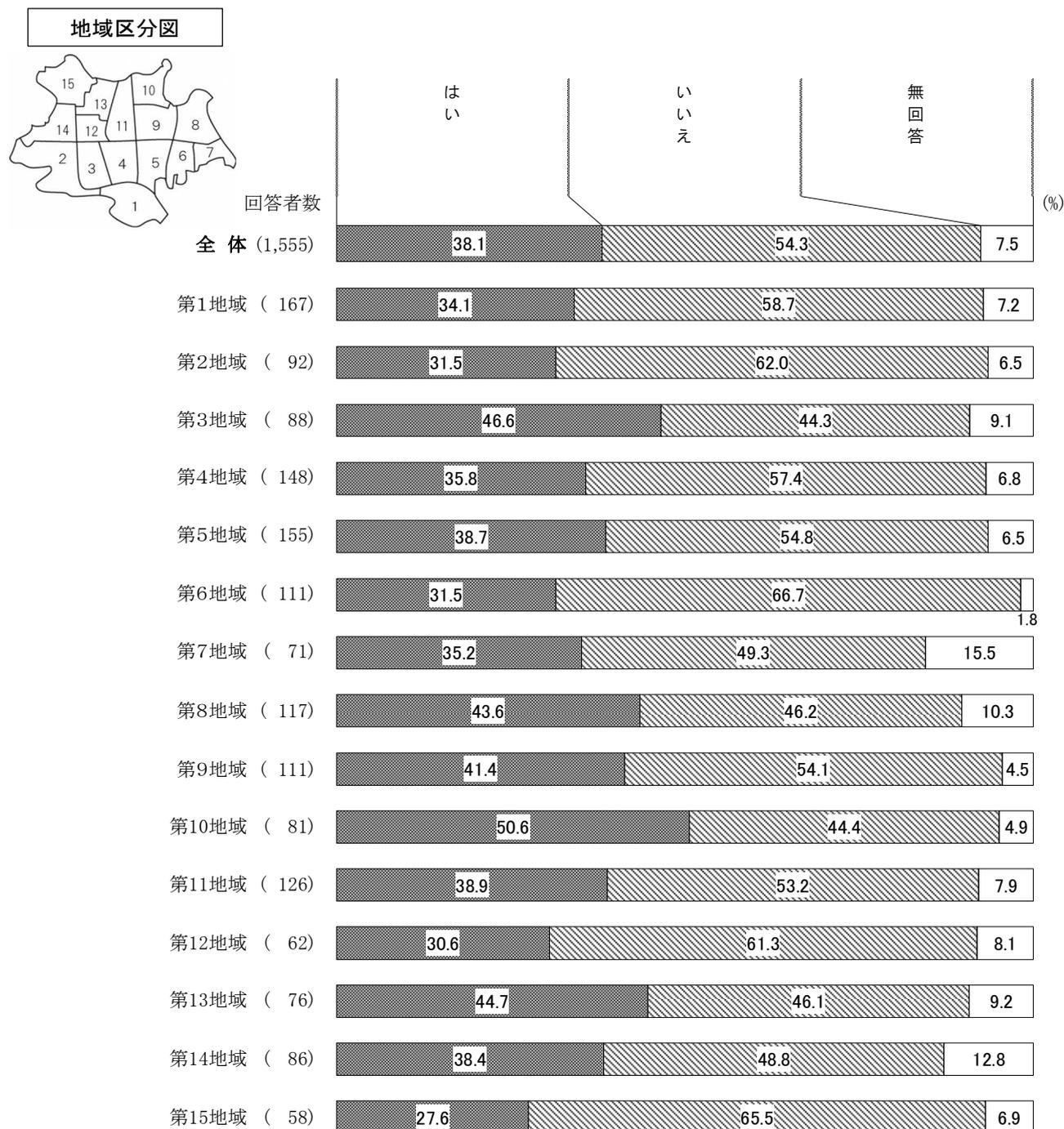
図8-3-2-③ 地域別／町会・自治会活動の認知状況



オ クロス集計・地域別／町会・自治会活動の参加状況

(ア) 町会・自治会活動への参加状況を地域別にみると、「はい（参加したことがある）」は第10地域が50.6%で最も高く、次いで、第3地域（46.6%）、第13地域（44.7%）、第8地域（43.6%）が4割台半ばで続いている。一方、「いいえ（参加したことはない）」は第6地域が66.7%で最も高く、次いで、第15地域（65.5%）、第2地域（62.0%）、第12地域（61.3%）が6割台となっている。

図8-3-2-④ 地域別／町会・自治会活動の参加状況

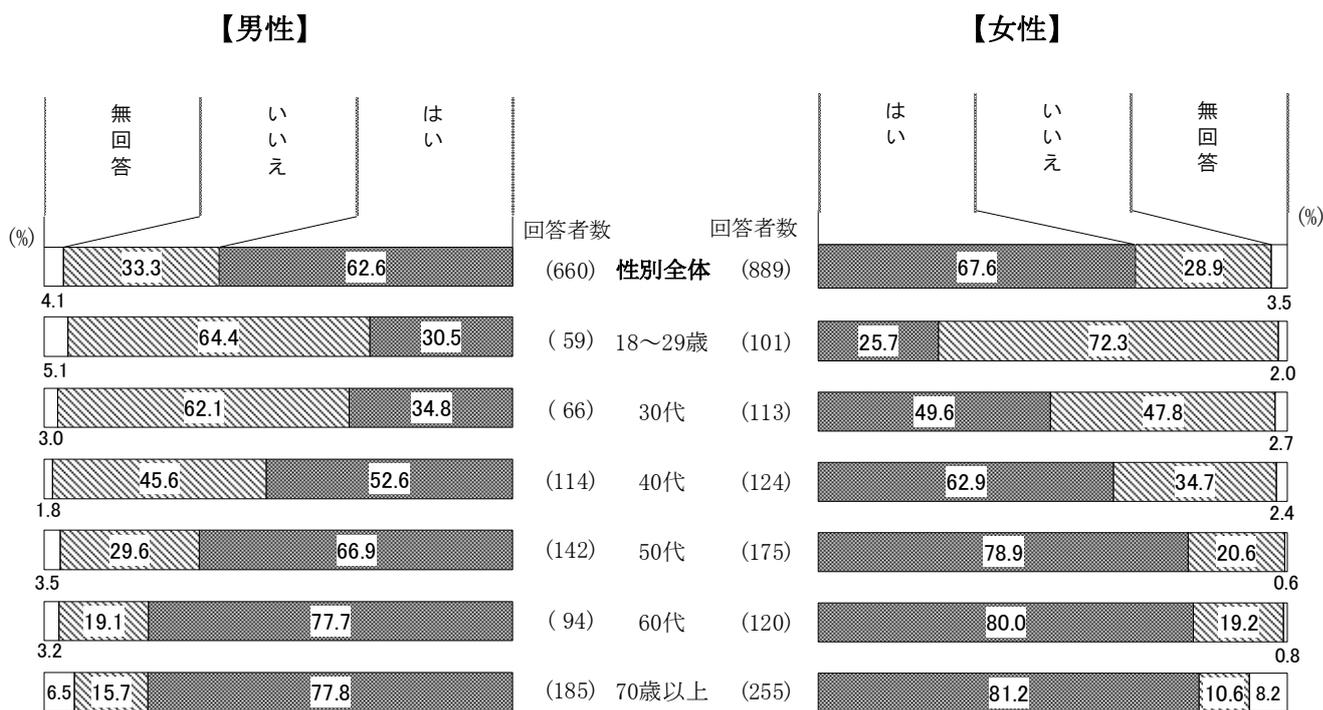


カ クロス集計・性別、性・年代別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況を性別にみると、「はい（知っている）」は女性（67.6%）の方が男性（62.6%）より5.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（知っている）」は女性の70歳以上で81.2%と最も高く、女性の60代でも8割台と高くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は、女性の18～29歳で72.3%と最も高く、次いで、男性の18～29歳と30代で6割台となっている。

図8-3-3-① 性別、性・年代別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

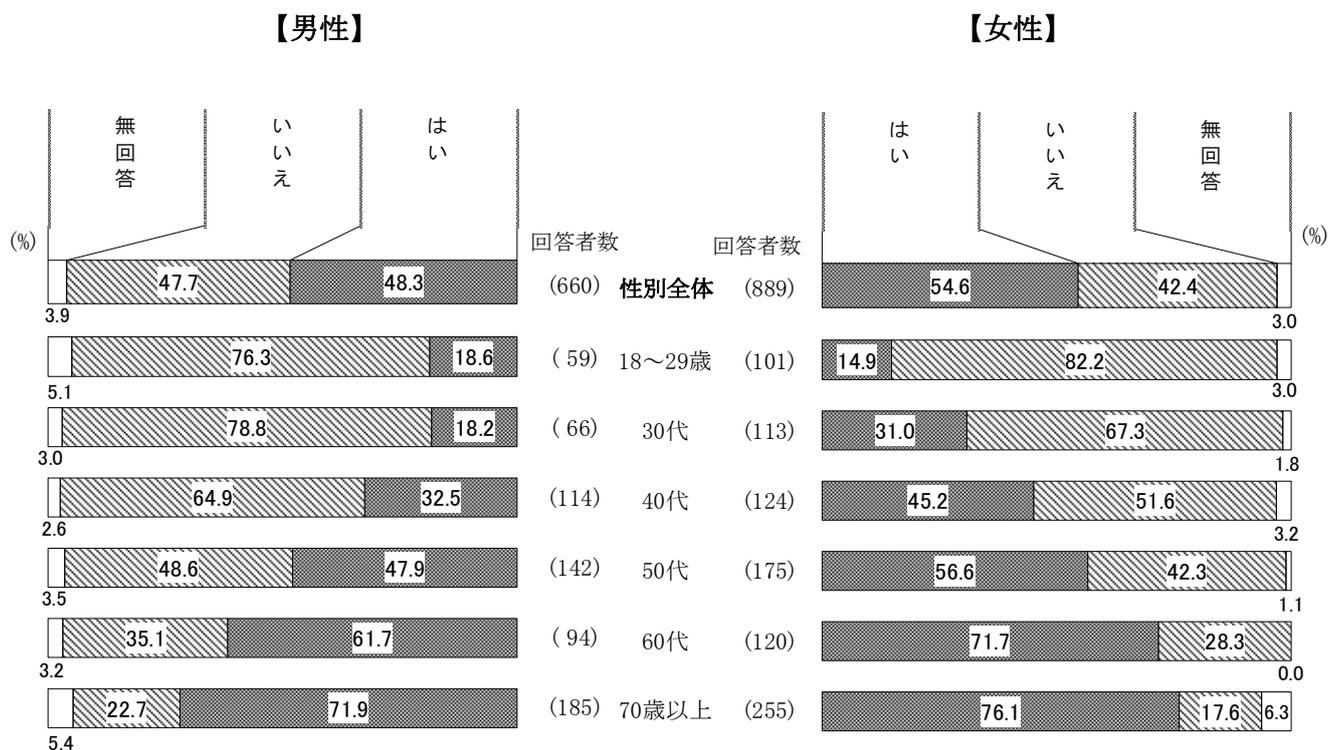


キ クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会の加入状況

(ア) 町会・自治会の加入状況を性別にみると、「はい（加入している）」は女性（54.6%）の方が男性（48.3%）より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（加入している）」は女性の70歳以上が76.1%で最も高く、女性の60代と男性の70歳以上でも7割台と高くなっている。一方、「いいえ（加入していない）」は、女性の18～29歳で82.2%と最も高く、次いで、女性の18～29歳と30代が7割台となっている。

図8-3-3-② 性別、性・年代別／町会・自治会の加入状況

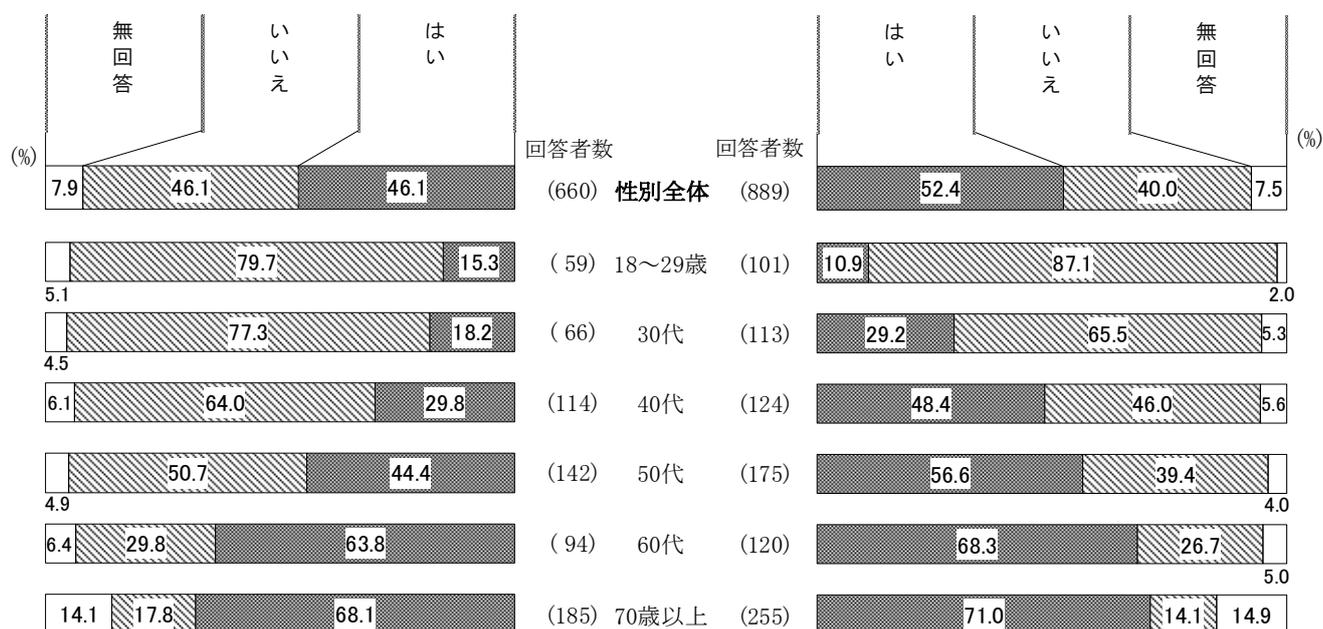


ク クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会活動の認知状況

(ア) 町会・自治会活動の認知状況を性別にみると、「はい（知っている）」は女性（52.4%）の方が男性（46.1%）より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（知っている）」は女性の70歳以上が71.0%で最も高く、次いで男性の70歳以上と女性の60代が6割台後半と高くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は、女性の18～29歳が87.1%と特に高く、次いで、男性の18～29歳と30代で7割台後半と高くなっている。

図8-3-3-③ 性別、性・年代別／町会・自治会活動の認知状況

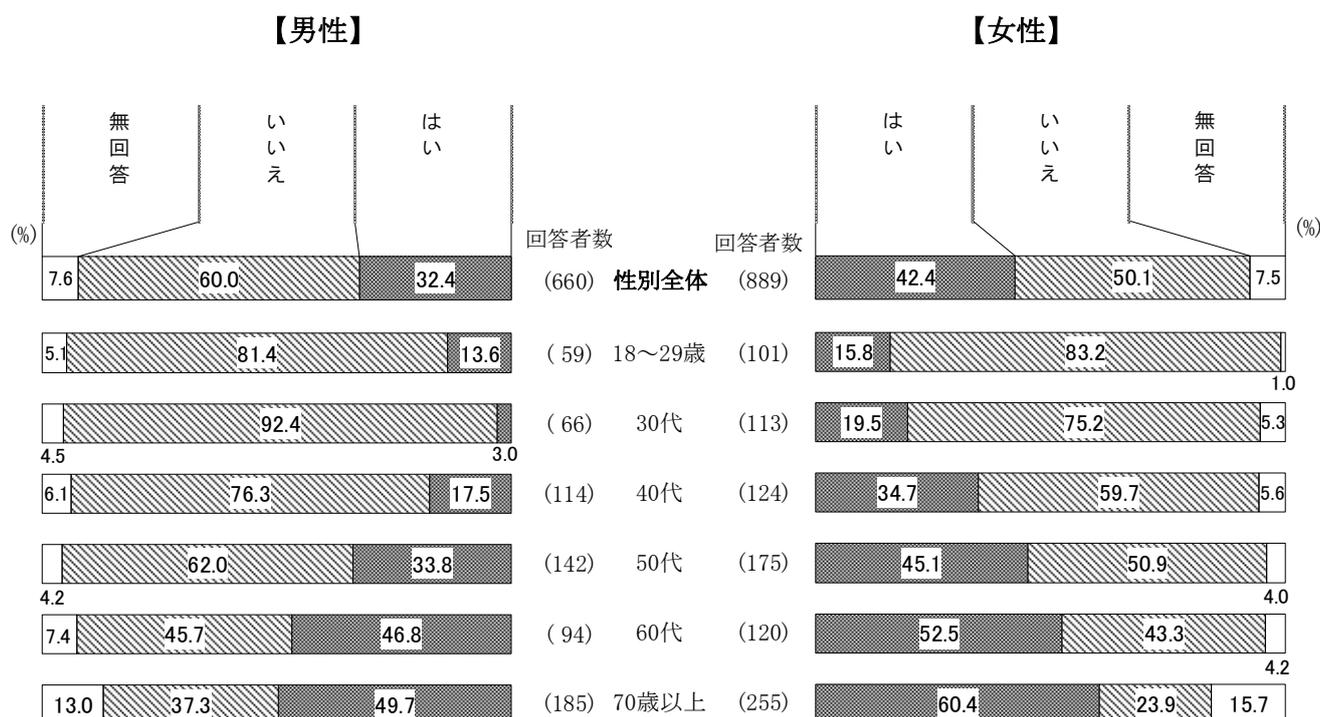


ケ クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会活動の参加状況

(ア) 町会・自治会の活動への参加状況を性別にみると、「はい（参加したことがある）」は女性（42.4%）の方が男性（32.4%）より10.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（参加したことがある）」は女性の70歳以上が60.4%で最も高く、次いで女性の60代が5割と高くなっている。一方、「いいえ（参加したことはない）」は、男性の30代で92.4%と最も高く、次いで、女性の18～29歳と男性の18～29歳で8割台と高くなっている。

図8-3-3-④ 性別、性・年代別／町会・自治会活動の参加状況



(4) 町会・自治会に加入しない理由

問34の「イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。」で「2 いいえ」とお答えの方に
問34-1 あなたが、町会・自治会に加入しない最も大きな理由は何ですか（○は1つだけ）。

■ 「加入の必要性を感じない」が27.4%、次いで「人間関係がわずらわしい」が14.9%

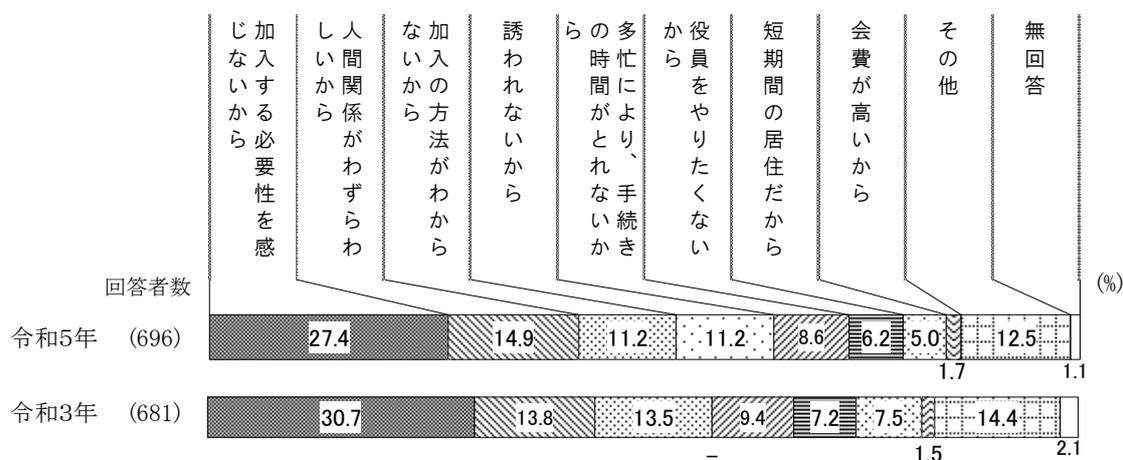
ア 単純集計・令和3年度調査との比較／町会・自治会に加入しない理由

(ア) 町会・自治会に加入していない理由を聴いたところ、上位は以下のとおりとなった。

- ① 「加入する必要性を感じないから」(27.4%)
- ② 「人間関係がわずらわしいから」(14.9%)
- ③ 「加入の方法がわからないから」(11.2%)
- ④ 「誘われないから」(11.2%) ※新設

(イ) 前回の令和3年度調査との比較では、本設問は単一回答であり、今回調査の新設項目である「誘われないから」が11.2%と上位にあげられているため、従来の選択肢の割合の増減には注意が必要であるが、「人間関係がわずらわしいから」の割合が増加している。

図8-4-1 令和3年度との比較／町会・自治会に加入しない理由



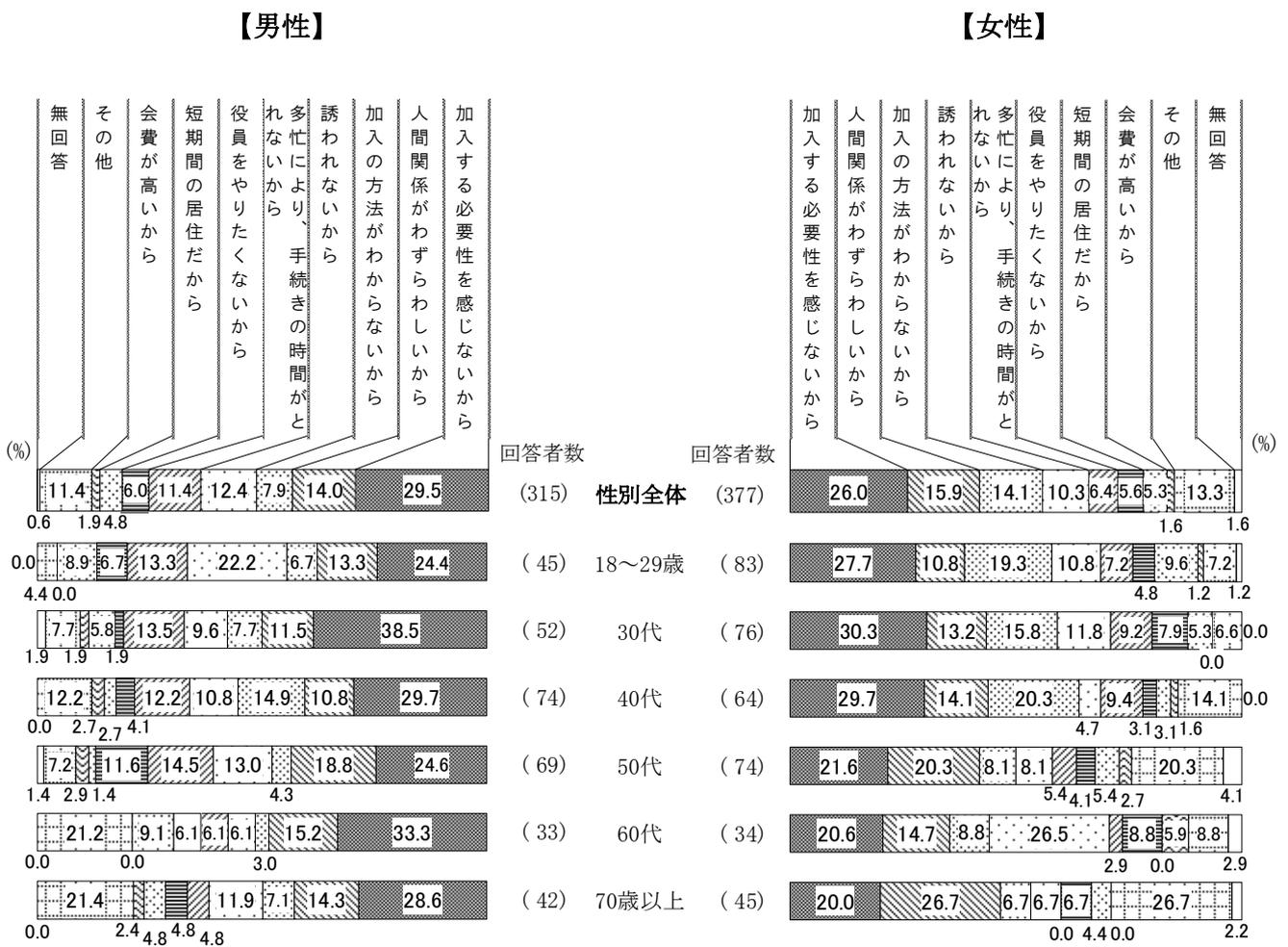
※ 本設問は令和4年度については実施していない。
 ※ 「誘われないから」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・性、性・年代別／町会・自治会に加入しない理由

(ア) 町会・自治会に加入していない理由を性別にみると、「加入する必要性を感じないから」は男性（29.5%）の方が女性（26.0%）より3.5ポイント高く、「多忙により、手続きの時間がとれないから」でも男性（11.4%）の方が女性（6.4%）より5.0ポイント高くなっている。逆に「加入の方法がわからないから」は女性（14.1%）の方が男性（7.9%）より6.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「加入する必要性を感じないから」は男性の30代で38.5%と最も高く、女性の70歳以上（20.0%）で最も低くなっている。「人間関係がわずらわしいから」は女性の70歳以上で26.7%と最も高く、男性の40代と女性の18～29歳（各10.8%）で最も低くなっている。

図8-4-2 性別、性・年代別／町会・自治会に加入しない理由



(5) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したい活動

問35 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか(○はいずれも、あてはまるものすべて)。

■「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」と「講演会や講座、サークル活動など」の集合型活動が増加

ア 単純集計・経年比較／この1年間に参加した活動

(ア) この1年間の参加状況は、「特に参加していない・特にない」が53.2%となっている。

(イ) 【参加した活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」(18.2%)
- ②「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(16.5%)

(ウ) 調査時点では、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っており、「特に参加していない・特にない」が前回調査同様5割台となっている。

(エ) 前回調査との比較では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」が3.1ポイント増加し、自宅での活動が可能な「自宅の庭や玄関先、公共の場で、草花を植えるなどの取り組み」を逆転し1位となっている。また、施設での開催に係る制限が緩和され、「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が3.5ポイント増加している。

図8-5-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動

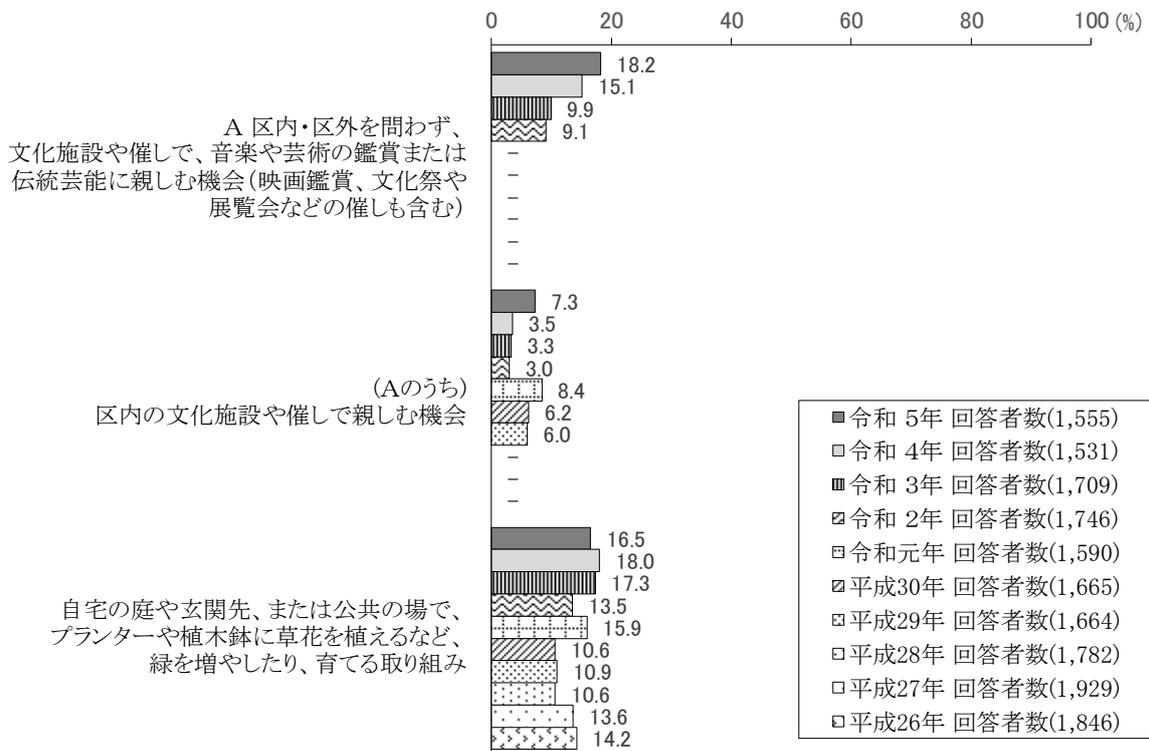
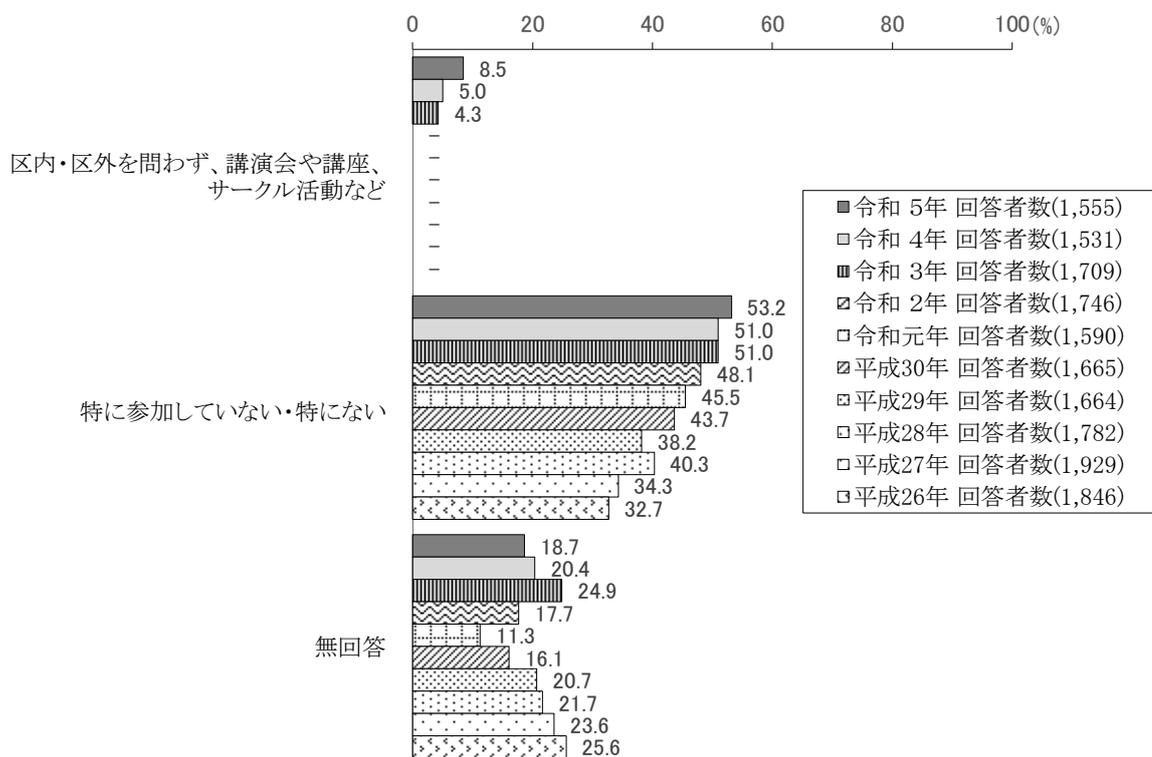


図8-5-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



※「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

※「A区内・区外を問わず文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、平成29年度からの新設項目。平成29～30年度は「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」だったが、令和元年度は、従来の選択肢の後に「(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」を加えた。さらに令和2～3年度は、選択肢冒頭の「区内の」を割愛し、副選択肢として「区内の文化施設や催しで親しむ機会」を設けた。さらに、前回の令和4年度で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えて副選択肢との関係を分かりやすくした。

※「講演会や講座、サークル活動など」は令和3年度の新設。今回の令和5年度調査で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えた。

イ 単純集計・経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 今後の活動意向としては、「特に参加しない・特にない」が39.0%で最も高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

① 「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(27.8%)

※ うち「区内の文化施設や催しで親しむ機会」(14.1%)が約半数を占めている。

② 「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(17.5%)

③ 「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(14.5%)

(ウ) 前回調査との比較では、ここ数年は増加傾向にあったが、今回調査ではすべての活動で減少しており、特に「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で4.3ポイントの減少となっている。

図8-5-2-① 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

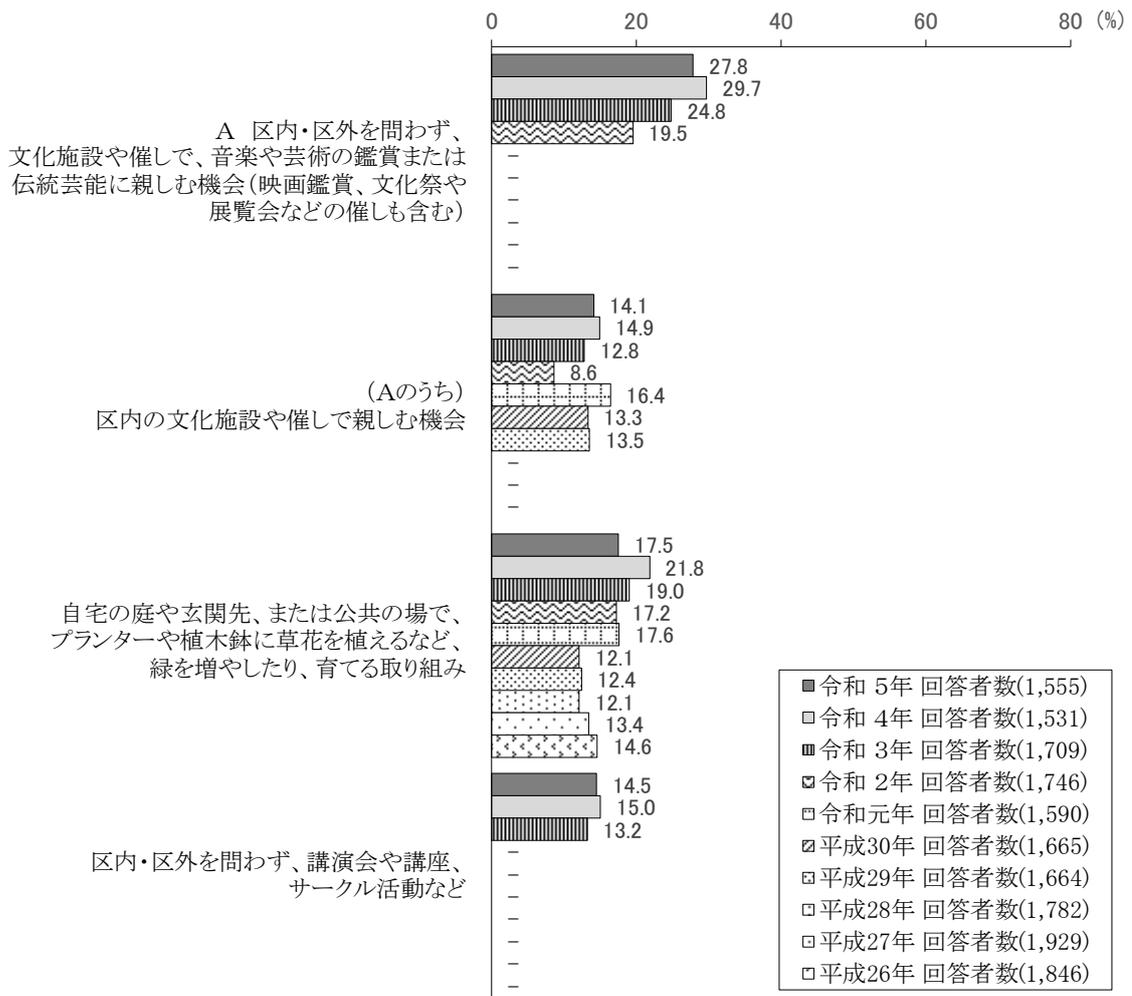
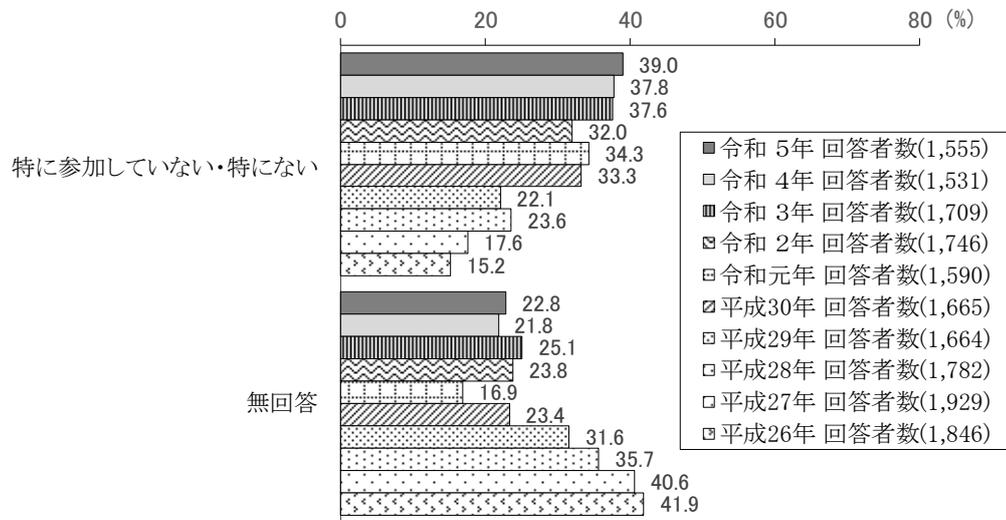


図8-5-2-② 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動



※「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

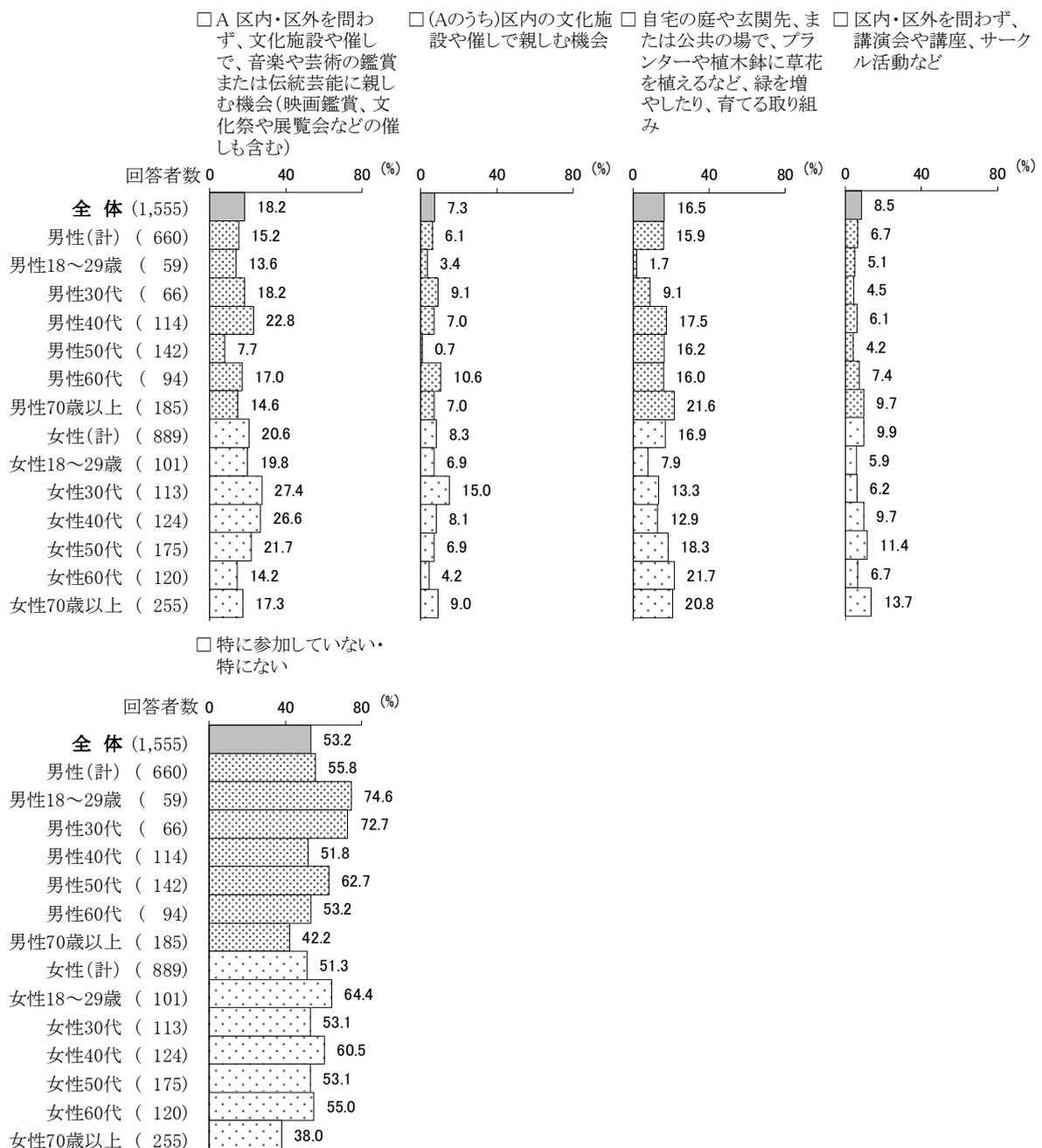
※「A区内・区外を問わず文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、平成29年度からの新設項目。平成29～30年度は「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」だったが、令和元年度は、従来の選択肢の後に「(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」を加えた。さらに令和2～3年度は、選択肢冒頭の「区内の」を割愛し、副選択肢として「区内の文化施設や催しで親しむ機会」を設けた。さらに、前回の令和4年度で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えて副選択肢との関係を分かりやすくした。

※「講演会や講座、サークル活動など」は令和3年度の新設。今回の令和5年度調査で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えた。

ウ クロス集計・性別、性・年代別／この1年間に参加した活動

- (ア) 性別で参加状況をみると、「特に参加していない・特にない」は男性（55.8%）の方が女性（51.3%）より4.5ポイント高くなっている。
- (イ) 【参加した活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（20.6%）の方が男性（15.2%）より5.4ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別でみると、「特に参加していない・特にない」は男性の18～29歳と30代で7割台と高くなっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の30代と40代で2割台後半と他の性年代層に比べて高く、逆に男性の50代で7.7%と特に低くなっている。

図8-5-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動



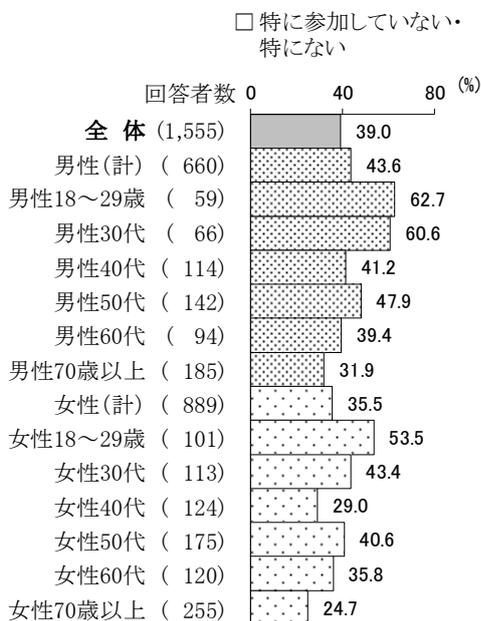
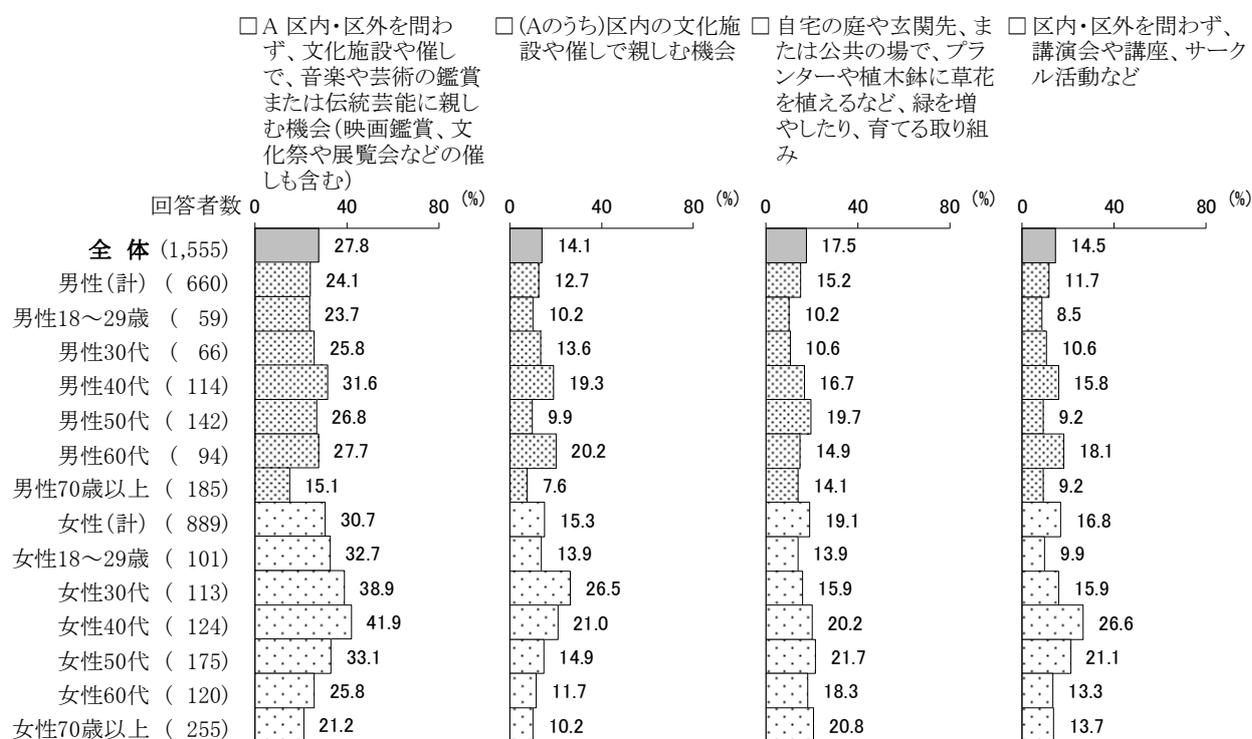
エ クロス集計・性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 性別でみると、「特に参加しない・特にない」は男性（43.6%）の方が女性（35.5%）より8.1ポイント高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（30.7%）の方が男性（24.1%）より6.6ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別でみると、「特に参加しない・特にない」は男性の18～29歳と30代で6割台と高くなっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の40代が4割超と最も高く、逆に男性の70歳以上が1割台半ばと最も低くなっている。

図8-5-4 性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

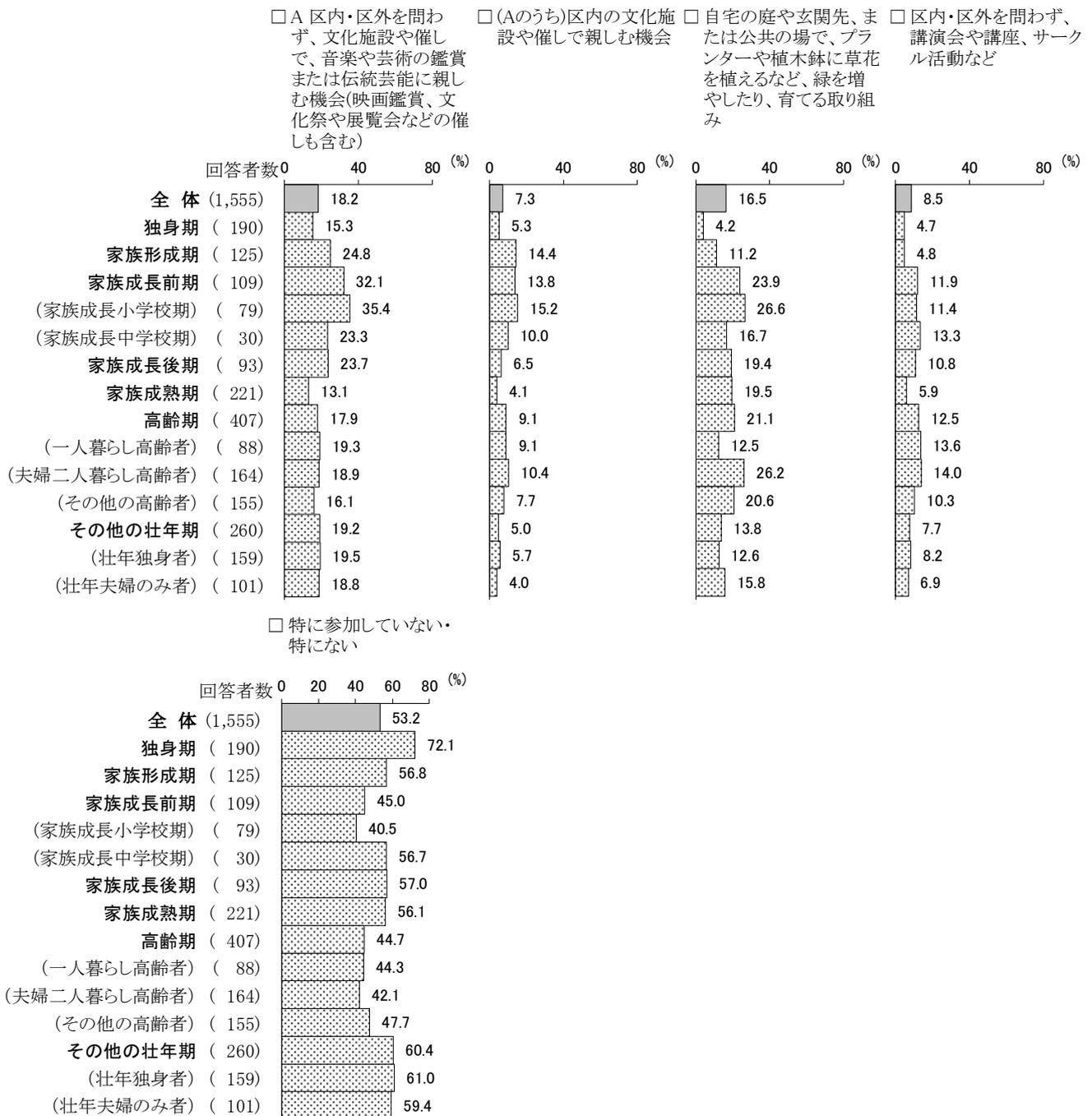


オ クロス集計・ライフステージ別／この1年間に参加した活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特に参加していない・特にない」は〈独身期〉が72.1%で最も高く、〈高齢期〉が44.7%で最も低くなっている。

(イ) 【参加した活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長前期〉が32.1%で最も高く、〈家族成熟期〉が13.1%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長前期〉が23.9%で最も高く、〈独身期〉が4.2%で最も低くなっている。

図8-5-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動

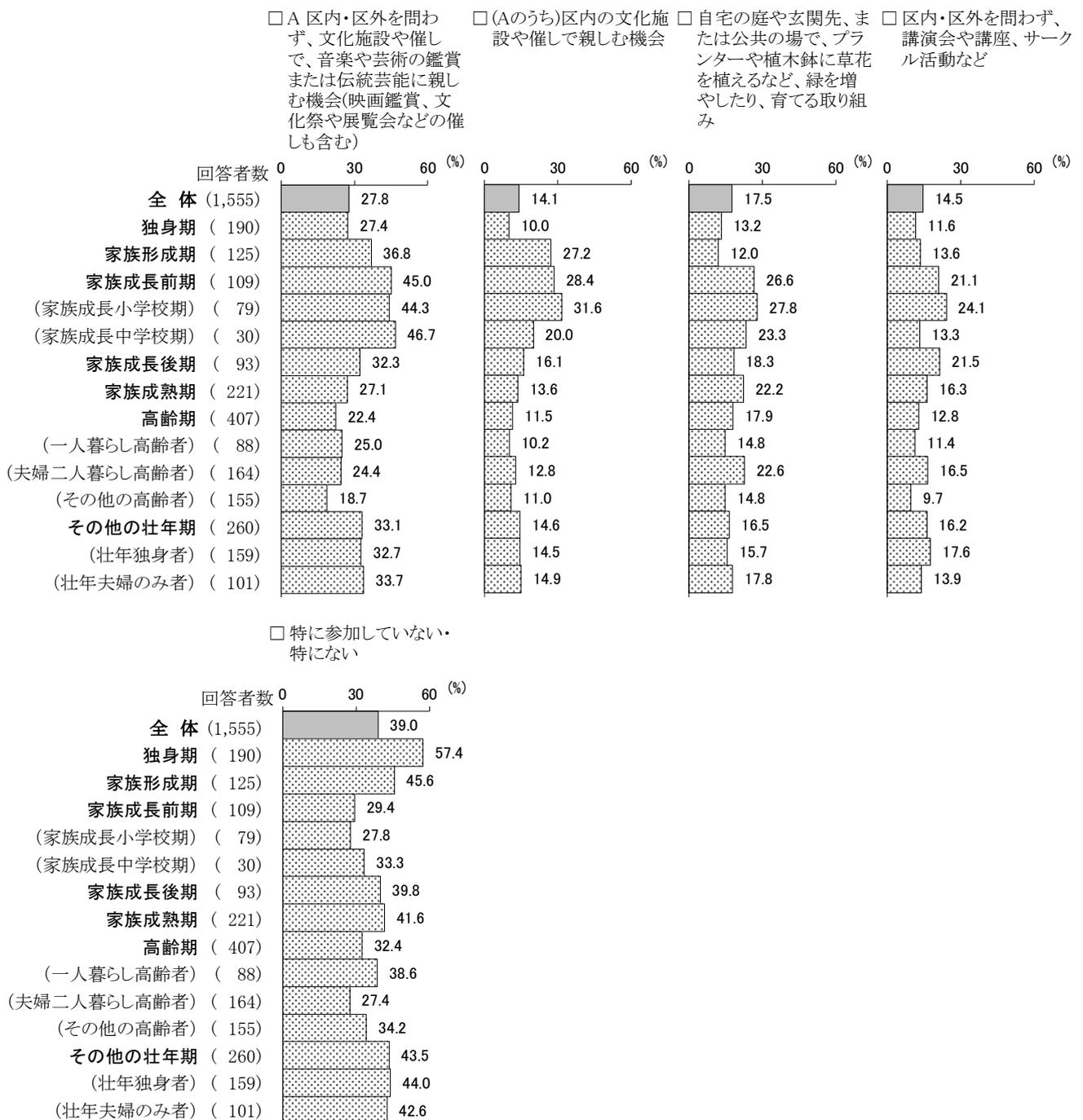


カ クロス集計・ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特に参加していない・特にない」は〈独身期〉が57.4%で最も高く、〈家族成長前期〉が29.4%で最も低くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長前期〉が45.0%で最も高く、〈高齢期〉が22.4%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」も〈家族成長前期〉が26.6%で最も高く、〈家族形成期〉が12.0%で最も低くなっている。

図8-5-6 ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動



9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況
 - (6) 現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
 - (7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問36 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は2割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が約7割

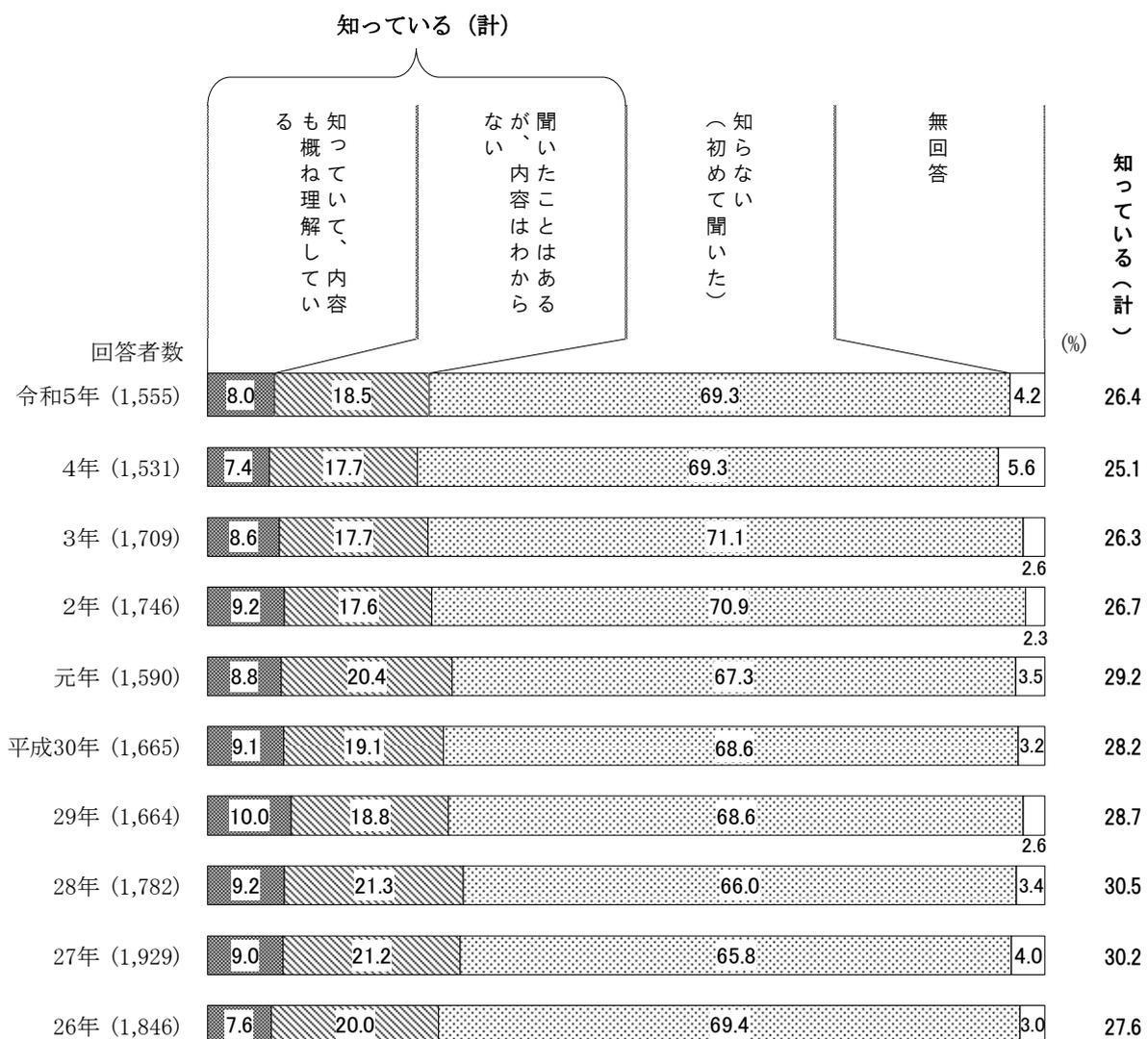
ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が8.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の18.5%を合わせた【知っている】は26.4%となっている。

(イ) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は69.3%を占めている。

(ウ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

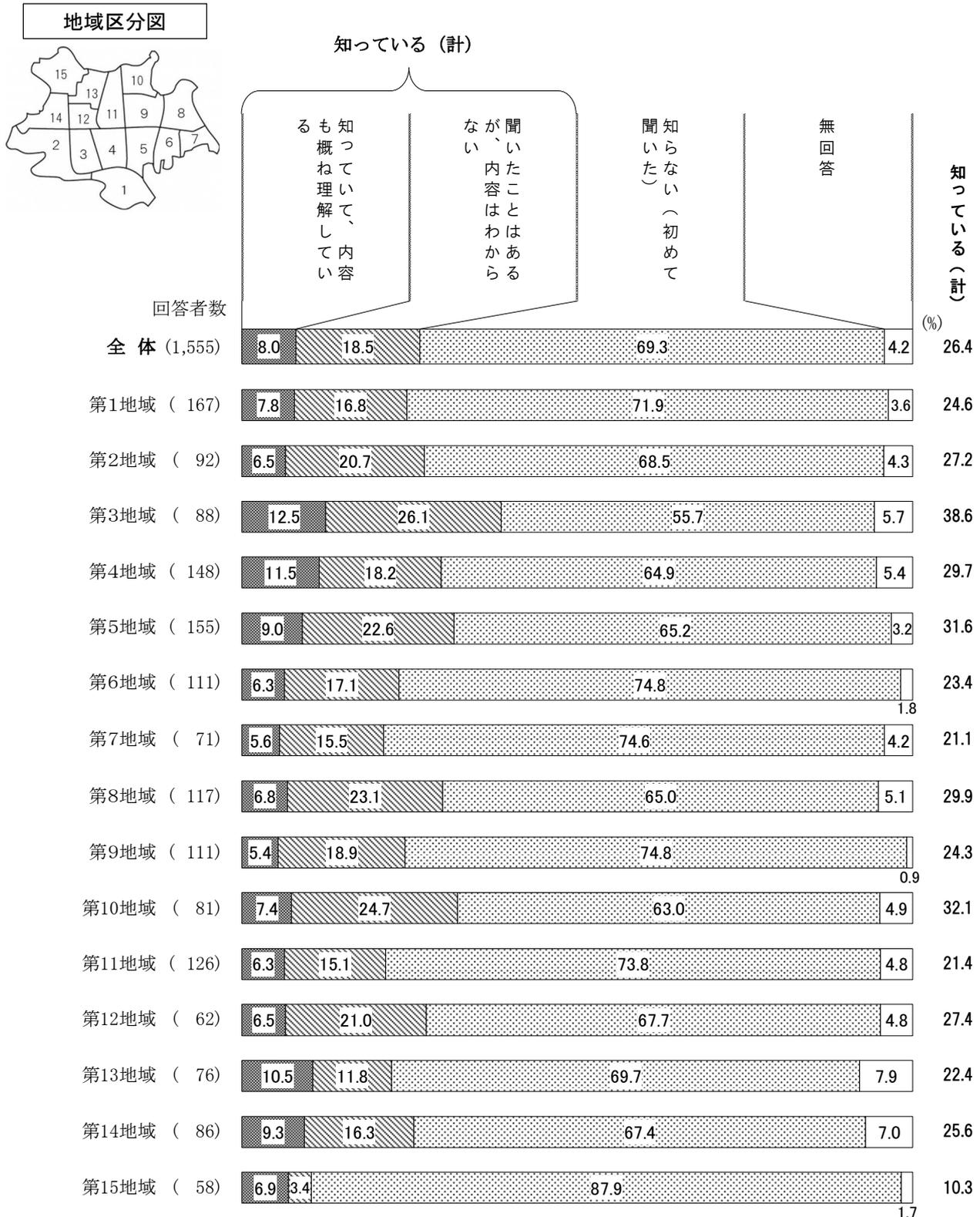


第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別で見ると、【知っている】は第3地域が38.6%で最も高く、次いで第10地域と第5地域が3割超で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域が87.9%で特に高くなっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

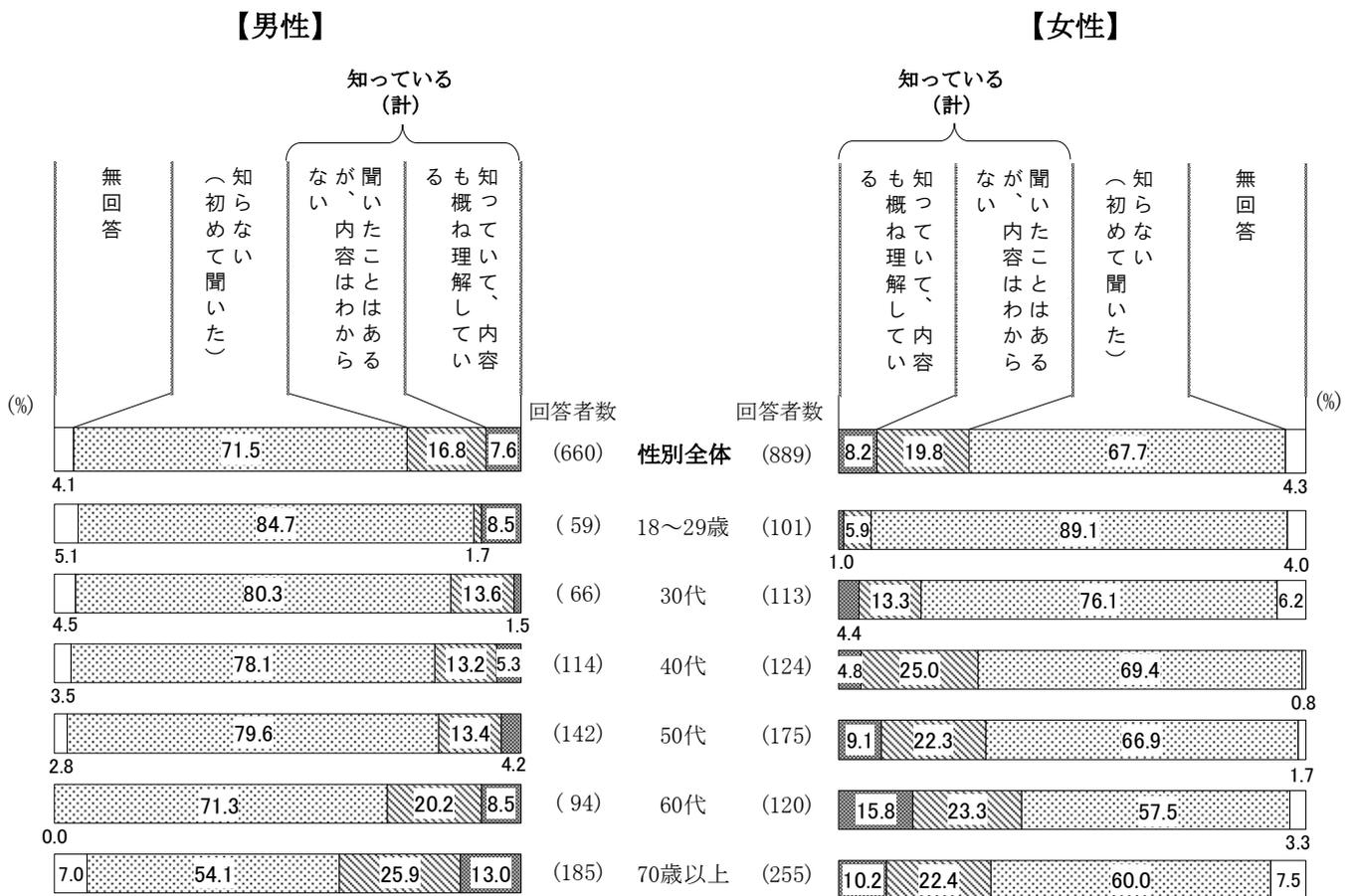


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（28.0%）の方が男性（24.4%）より3.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の60代が39.2%と最も高く、僅差で男性の70歳以上（38.9%）が続いている。逆に、女性の18～29歳で6.9%と特に低くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



（2）地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問37 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか（○はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が4割台半ば近く、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が3割台半ば
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

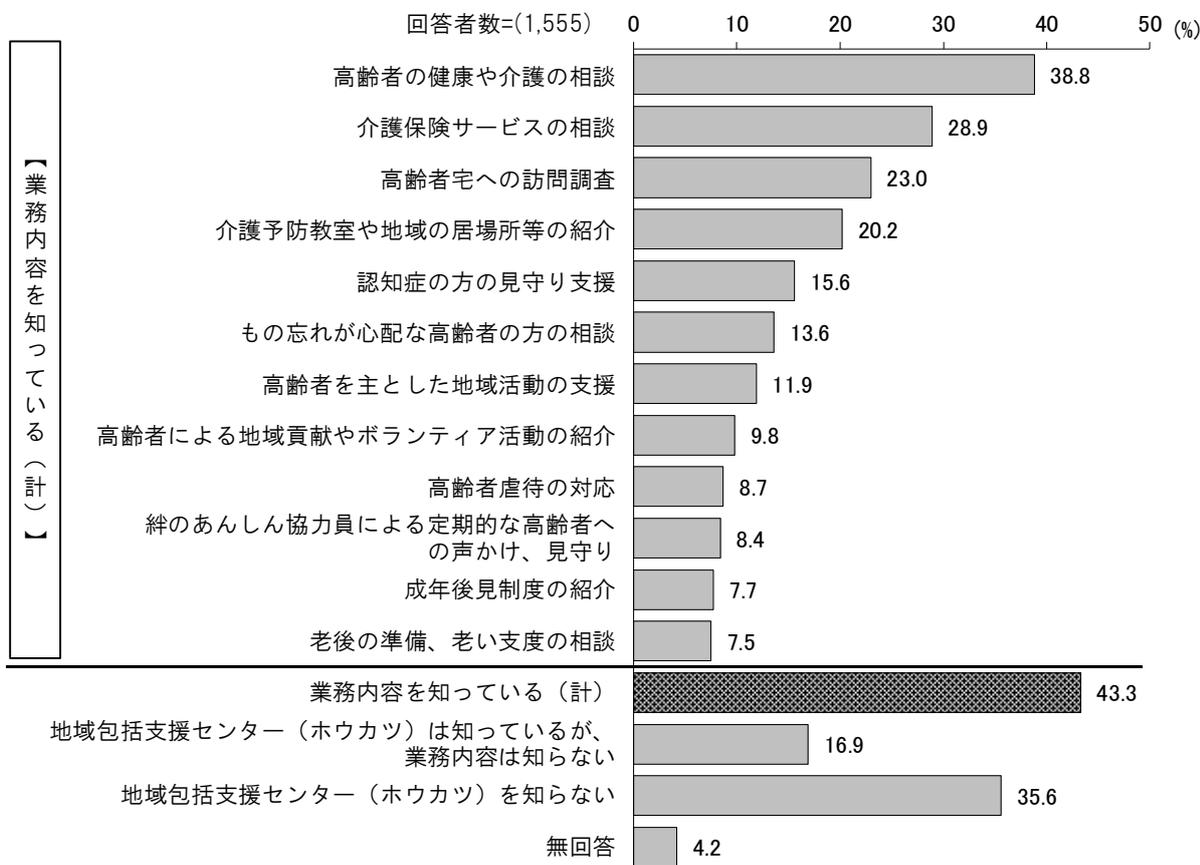
ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が43.3%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が16.9%、「地域包括支援センターを知らない」が35.6%となっている

（イ）知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「高齢者の健康や介護の相談」（38.8%）
- ② 「介護保険サービスの相談」（28.9%）
- ③ 「高齢者宅への訪問調査」（23.0%）
- ④ 「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」（20.2%）

図9-2-1 地域包括支援センターの業務内容の認知

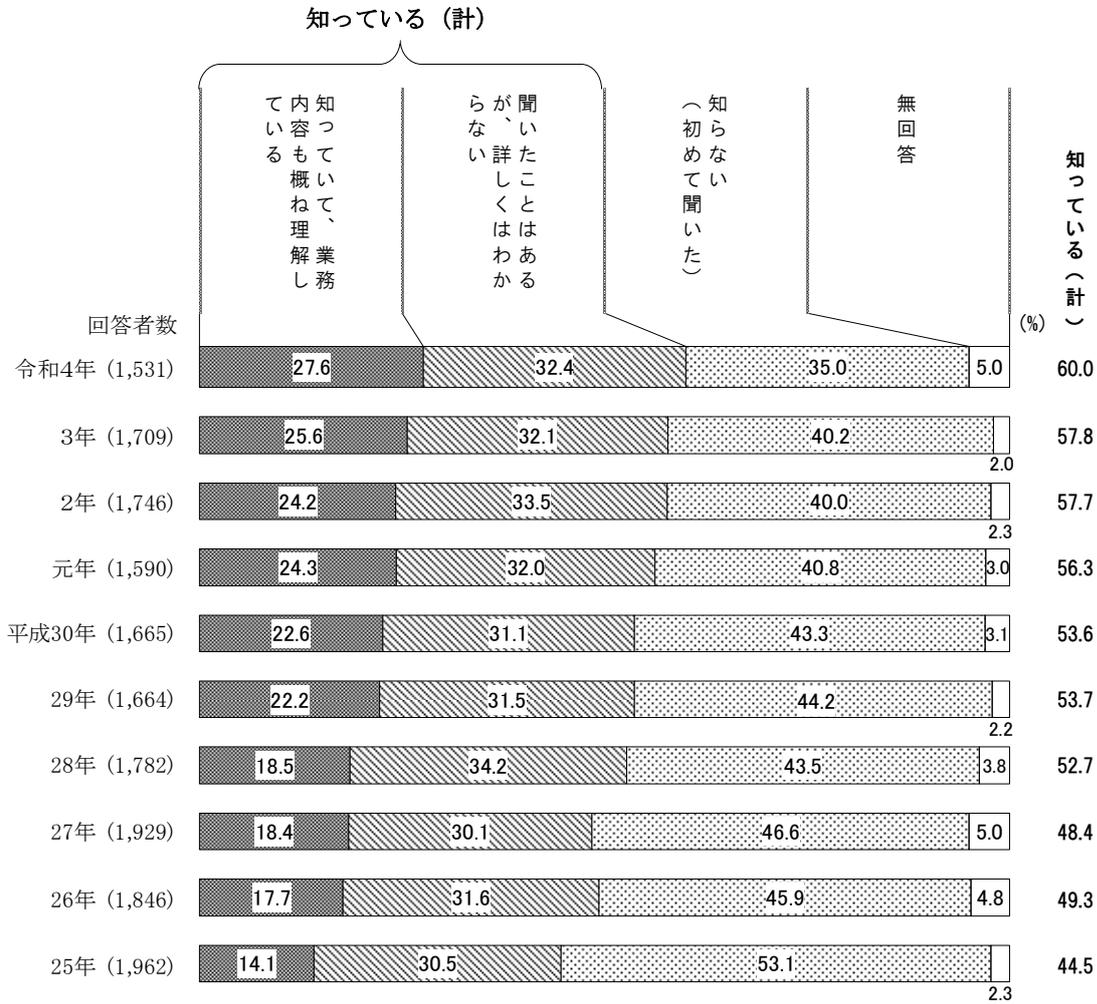


※《業務内容を知っている（計）》＝100%－「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



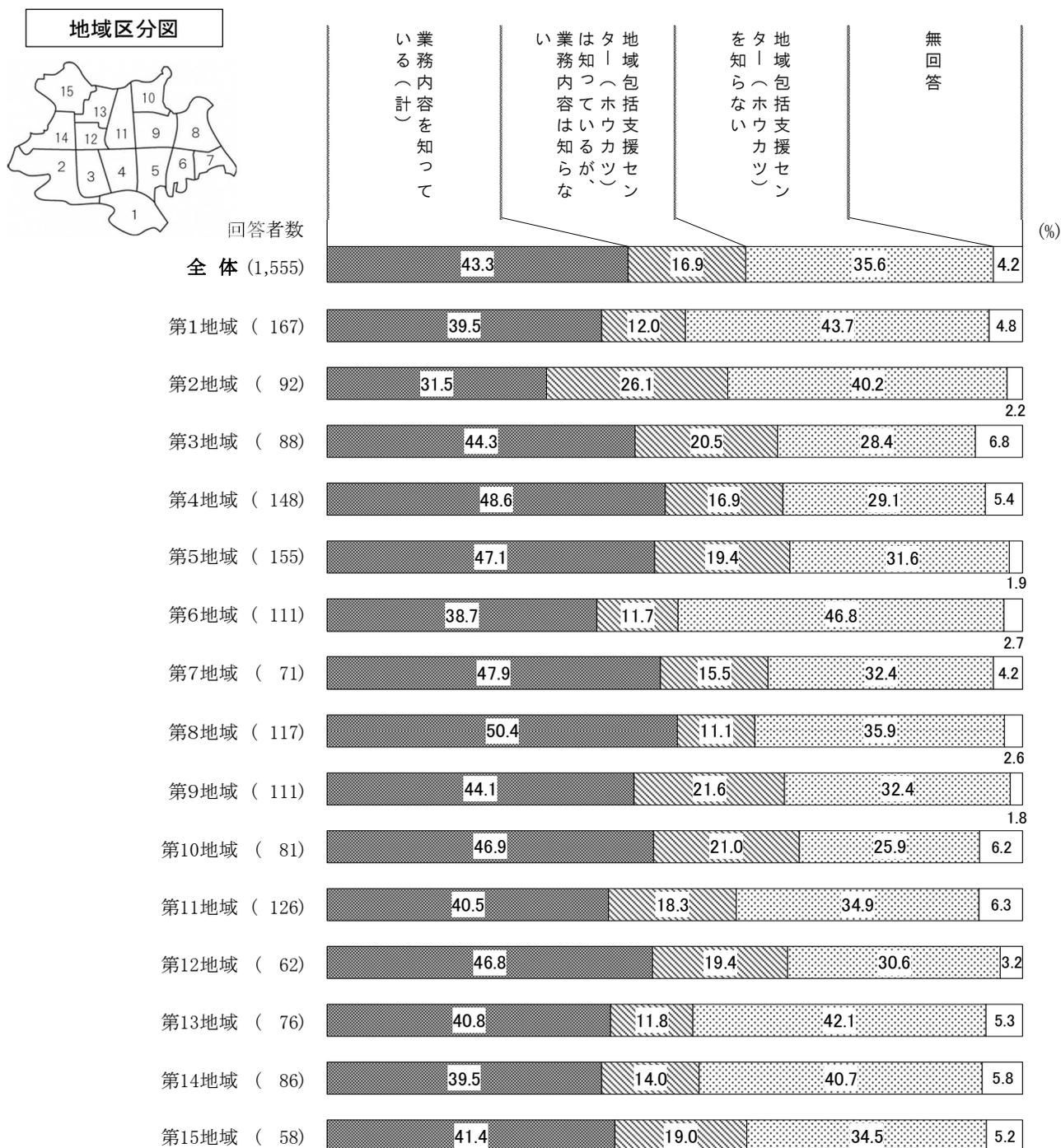
※ 前回の令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度調査では認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

イ クロス集計／地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第8地域が50.4%で最も高く、次いで、第4地域（48.6%）、第7地域（47.9%）などとなっている。

（イ）「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は第6地域が46.8%で最も高く、次いで、第1地域（43.7%）、第13地域（42.1%）などとなっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

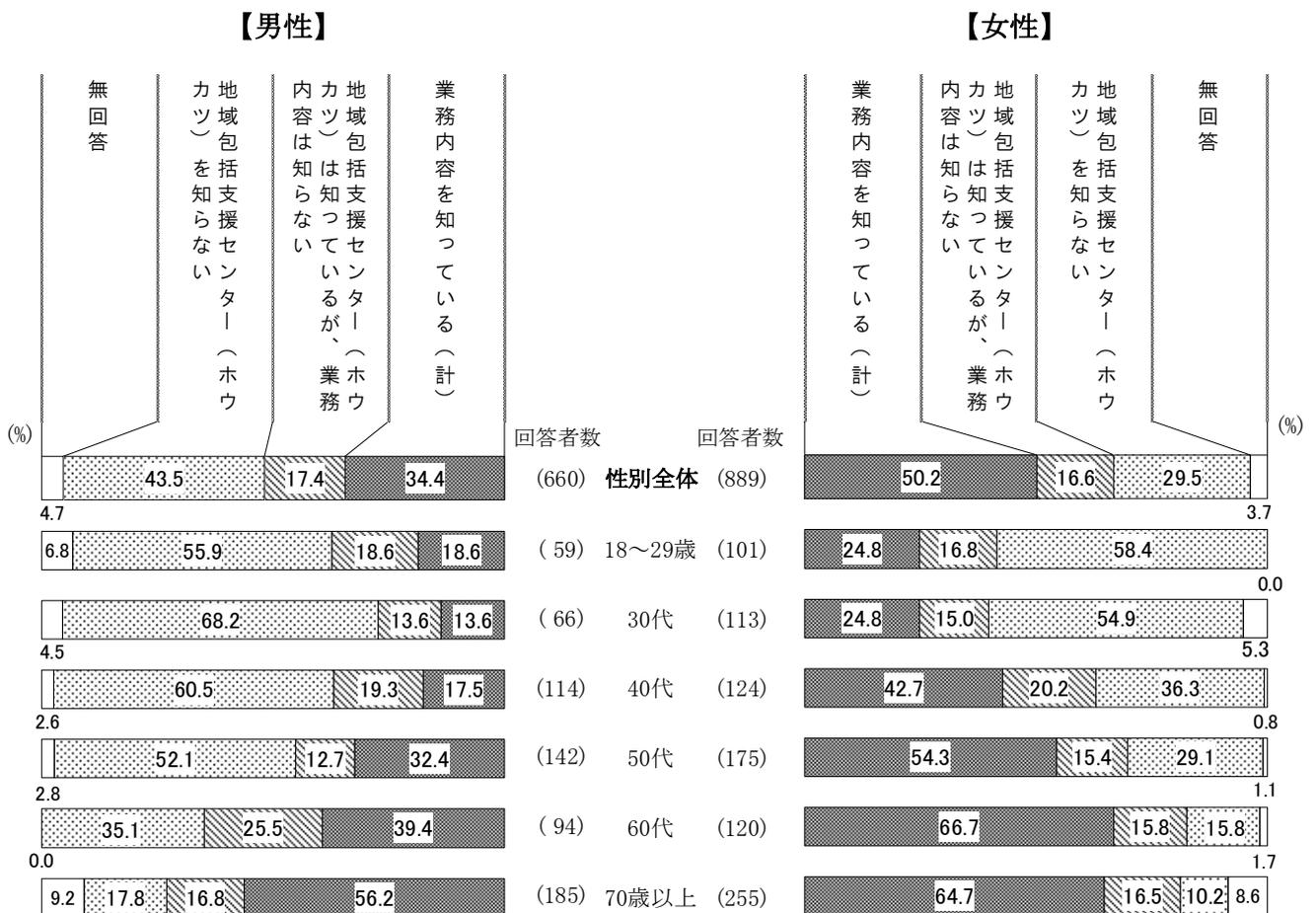


ウ クロス集計／性、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（50.2%）の方が男性（34.4%）より15.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の60代で66.7%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（64.7%）、男性の70歳以上（56.2%）、女性の50代（54.3%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は男性の30代で68.2%と最も高く、男性の50代以下と女性の30代以下の年齢層で5割以上となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

問38 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は約2割で変化ないが、【協力できない】は4割超で前回から減少

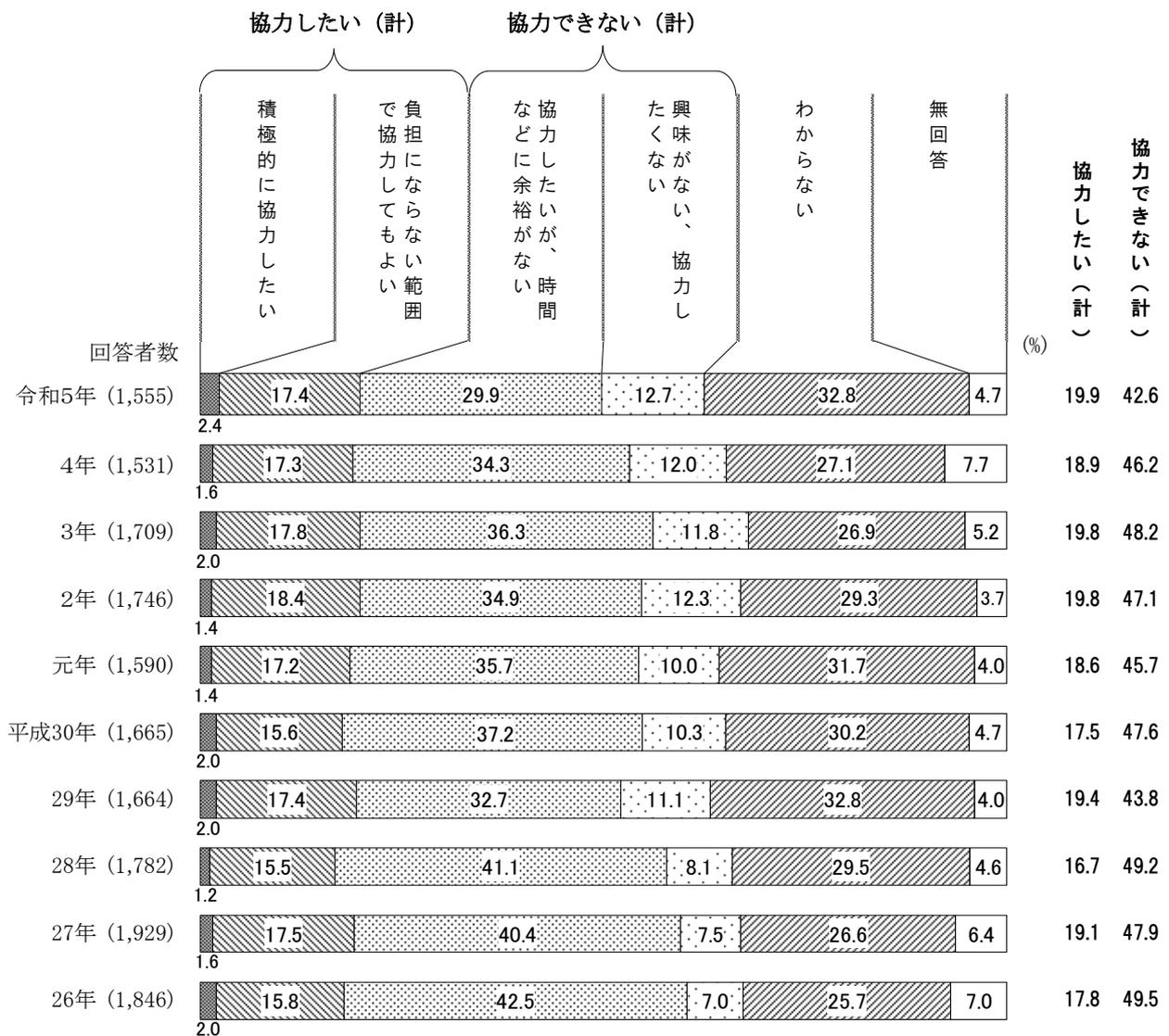
ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.4%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」（17.4%）を合わせた【協力したい】は19.9%となっている。

（イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は29.9%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」（12.7%）を合わせた【協力できない】は42.6%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、【協力できない】が3.6ポイントの減少となっている。

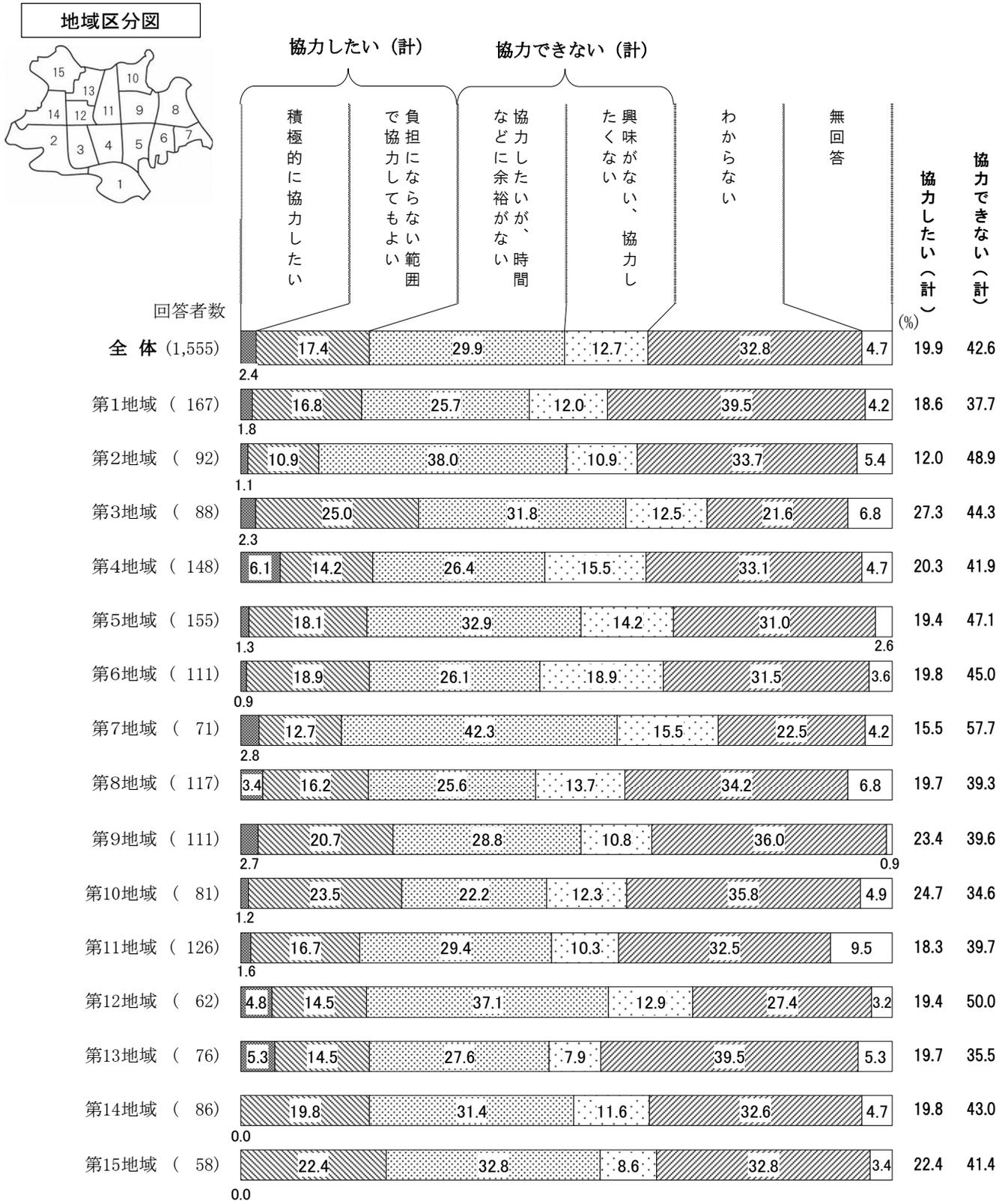
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第3地域が27.3%で最も高く、次いで、第10地域と第9地域が2割台半ばで続いている。一方、【協力できない】は第7地域が57.7%と特に高く、次いで、第12地域が5割となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

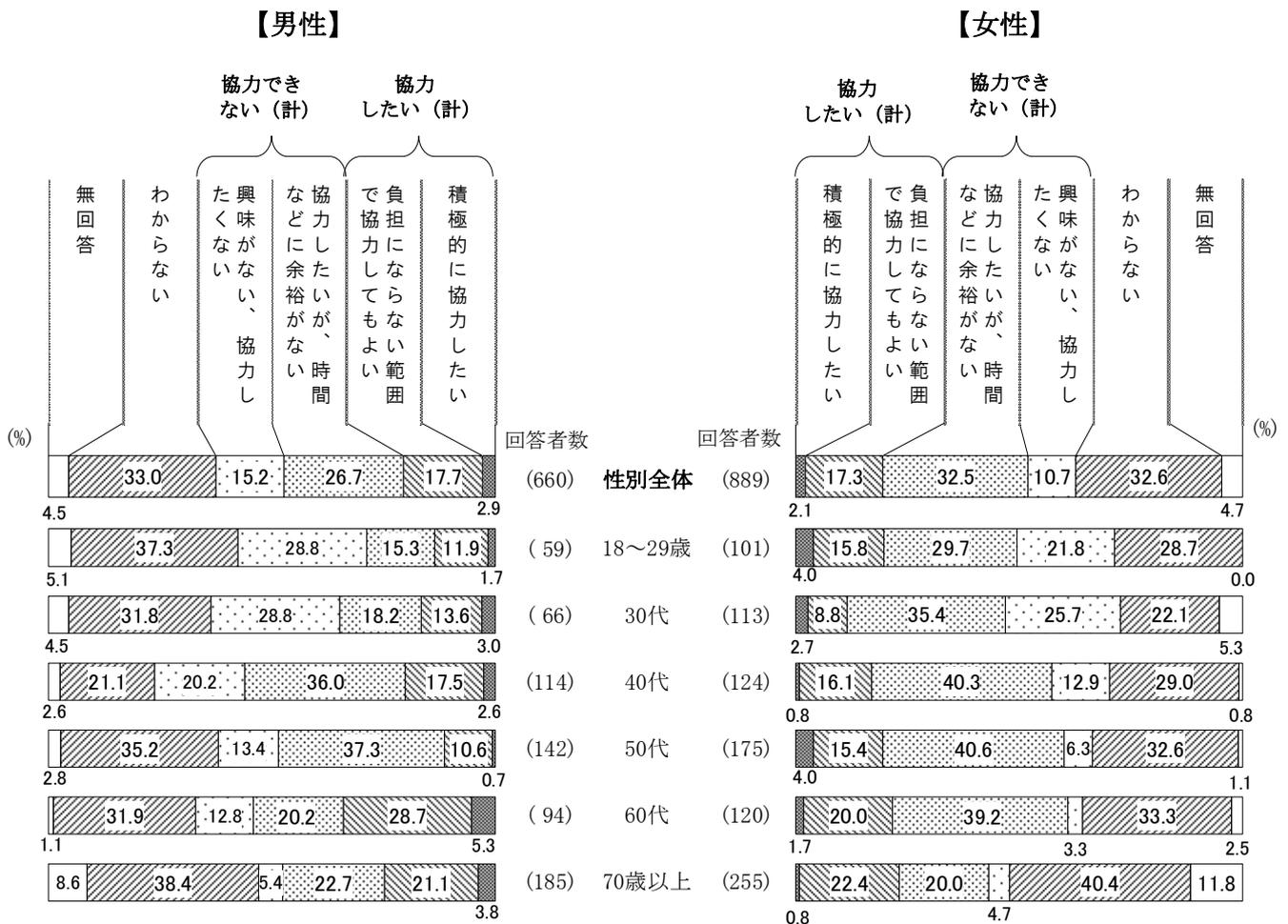


ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

(ア) 性別でみると、【協力したい】では性差はないが、「協力したいが、時間などに余裕がない」は女性の方が5.8ポイント高く、「興味がない、協力したくない」は男性の方が4.5ポイント高くなっており、女性の方が協力意向は高いことがうかがえる。

(イ) 性・年代別でみると、【協力したい】は男性の60代（34.0%）で最も高く、男性の50代（11.3%）で最も低くなっている。これは、「協力したいが、時間などに余裕がない」（50代：37.3%・60代：20.2%）の割合の差によるものとみられる。一方、【協力できない】は、女性の30代が61.1%で最も高く、次いで男性の40代（56.1%）と女性の40代（53.2%）が5割台半ばで続いている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



（4）「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

問39 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は5割台半ば近く、「知らない（初めて聞いた）」は4割台半ば

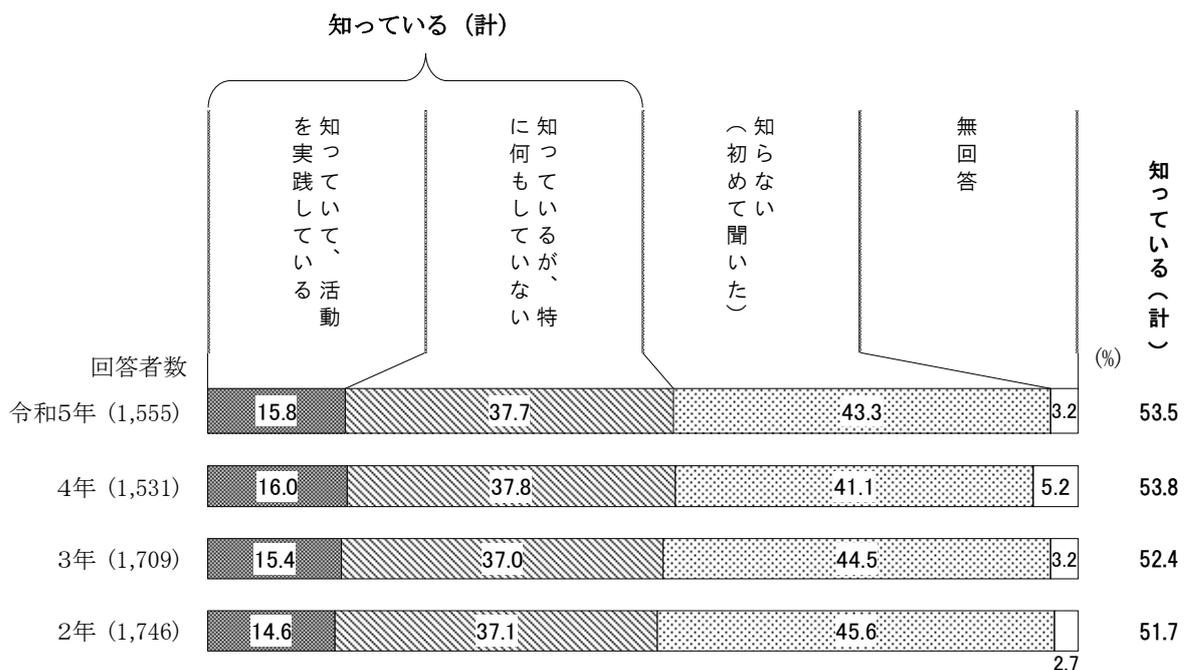
ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

（ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は15.8%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（37.7%）を合わせた【知っている】は53.5%となっている。

（イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は43.3%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

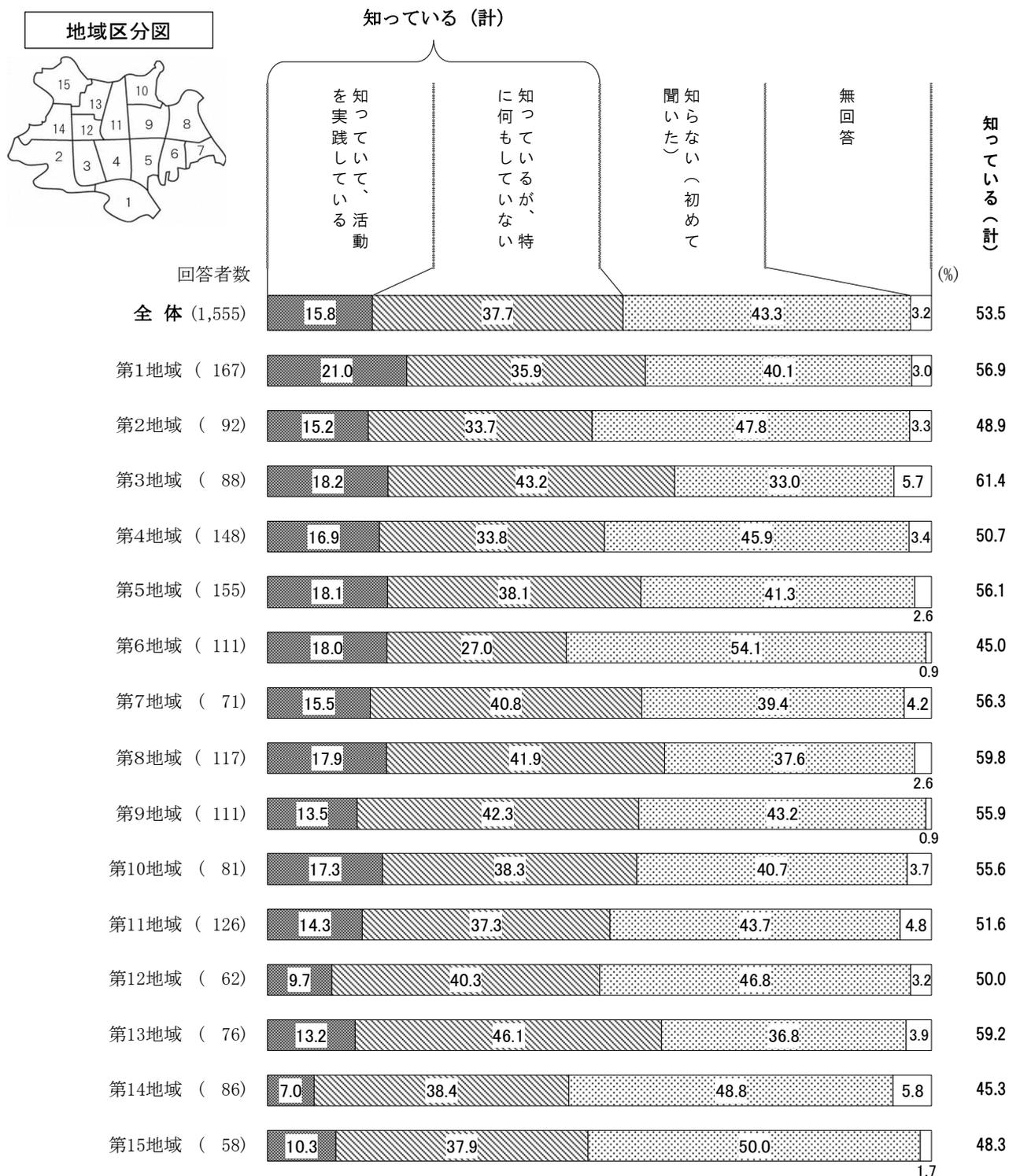
図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っている、活動を実践している」は第1地域が21.0%で最も高く、次いで、第3地域（18.2%）、第5地域（18.1%）、第6地域（18.0%）が続いている。【知っている】でみると、第3地域が61.4%で最も高く、次いで第8地域と第13地域が約6割で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第6地域が54.1%で最も高くなっている。

図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

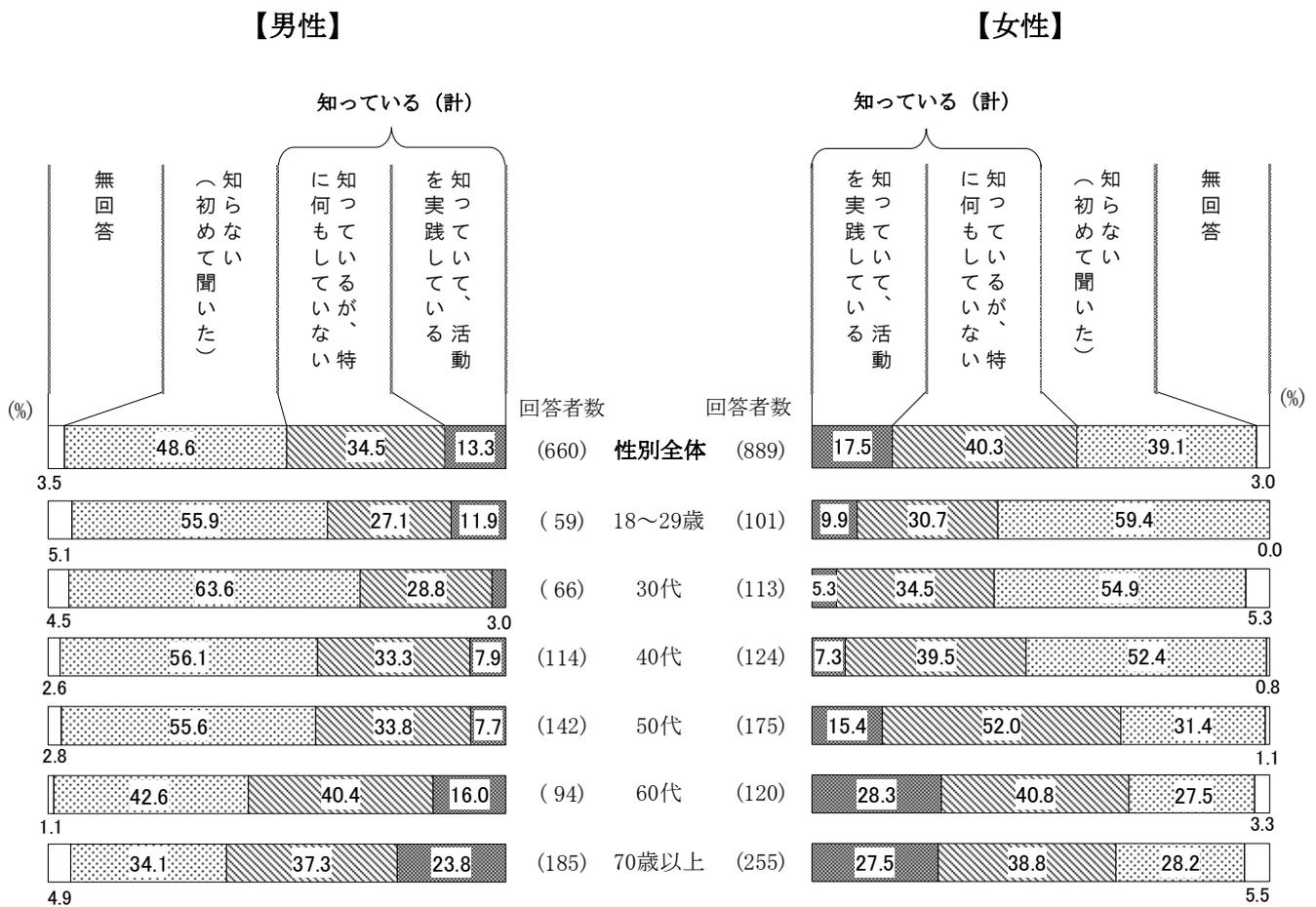


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（57.8%）の方が男性（47.9%）より9.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の50代、60代、70歳以上でもともに6割台後半と高く、男性の70歳以上でも6割台前半となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の30代で6割台半ばと最も高く、男性の50代以下と女性の40代以下で5割台と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況

問40 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。
 ※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■ 「毎食（1日3回）食べている」が2割、「1日2回位食べている」が3割強

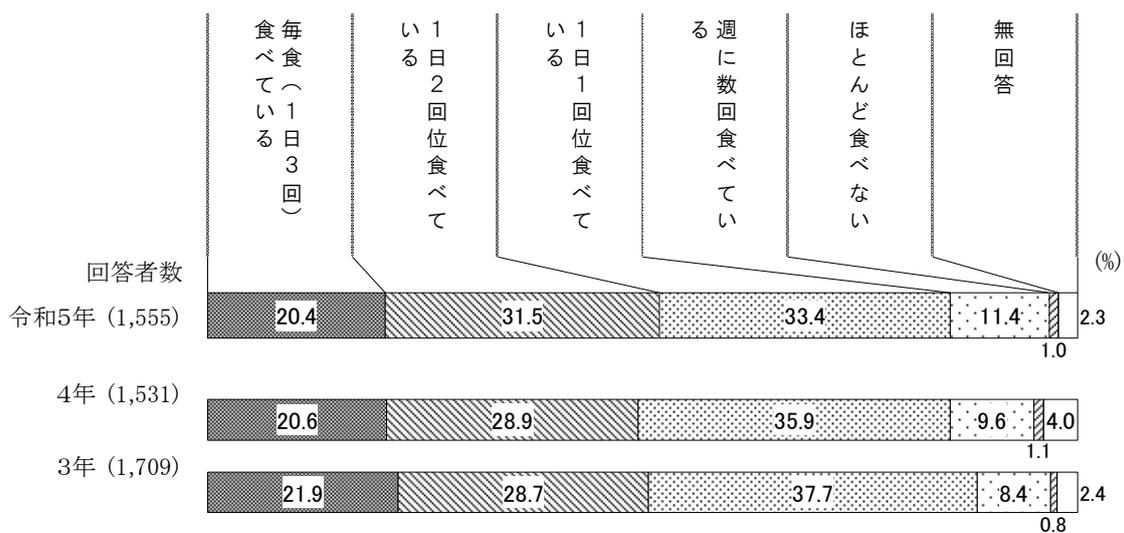
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「1日1回位食べている」(33.4%)
- ② 「1日2回位食べている」(31.5%)
- ③ 「毎食（1日3回）食べている」(20.4%)
- ④ 「週に数回食べている」(11.4%)
- ⑤ 「ほとんど食べない」(1.0%)

(イ) 前回調査との比較では、回答割合に特に大きな違いはみられない。

図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

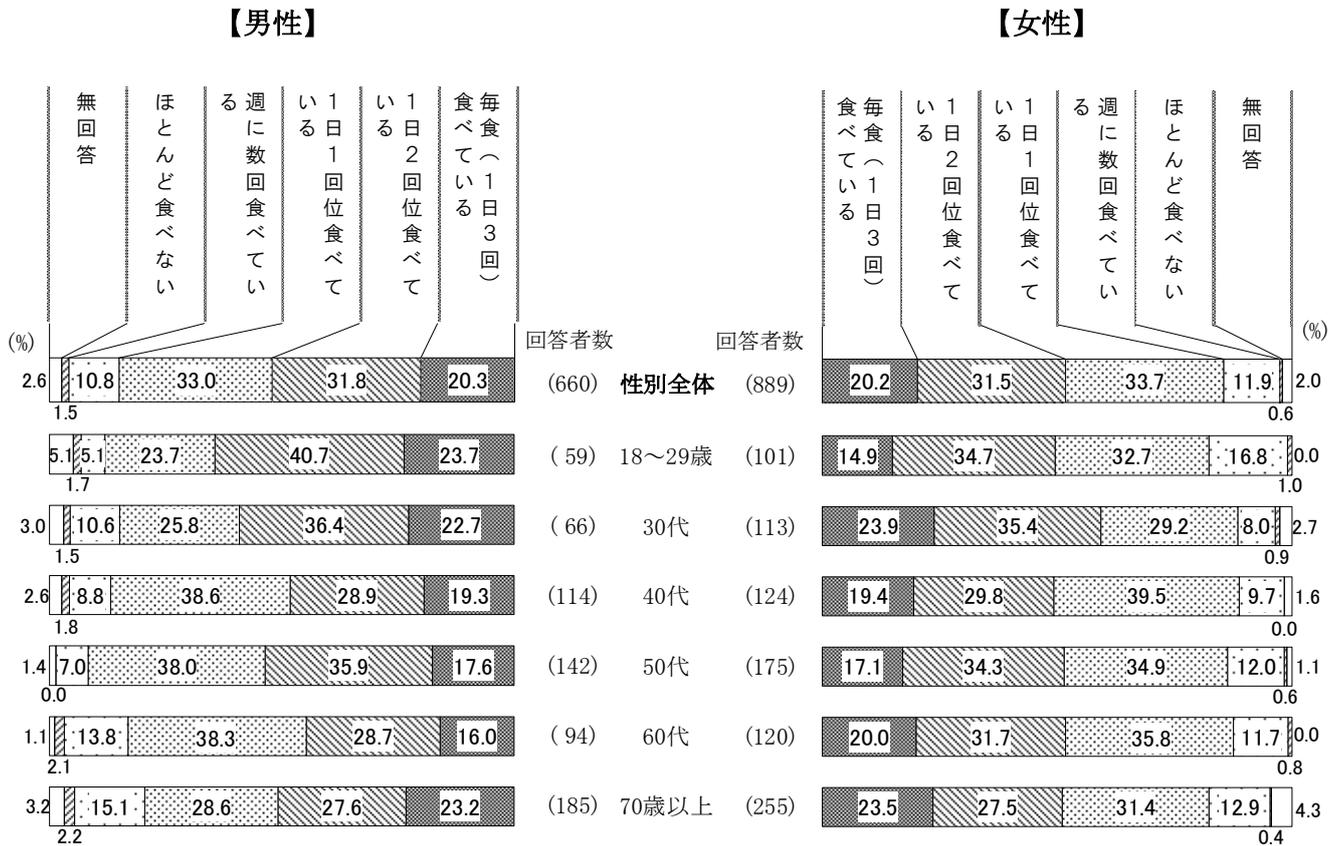


イ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は女性の30代（23.9%）で最も高く、次いで、男性の18～29歳（23.7%）、女性の70歳以上（23.5%）、男性の70歳以上（23.2%）が僅差で続いている。

図9-5-2 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（6）現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

問41 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

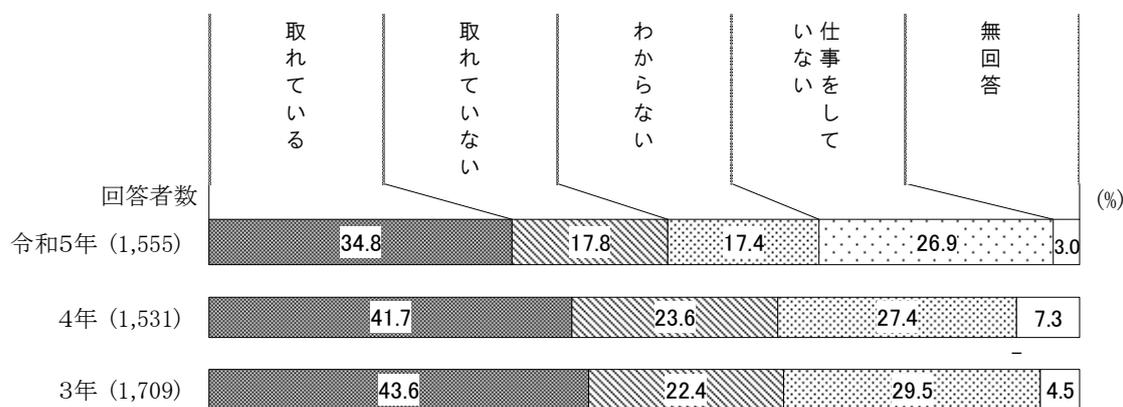
■「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば超、一方、「仕事をしていない」は2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が34.8%で、「取れていない」（17.8%）と「わからない」（17.4%）がほぼ同じ割合となっている。

（イ）前回調査との比較は、今回調査で「仕事をしていない」を新設したため、単純に比較できないが、参考として図示している。

図9-6-1 経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

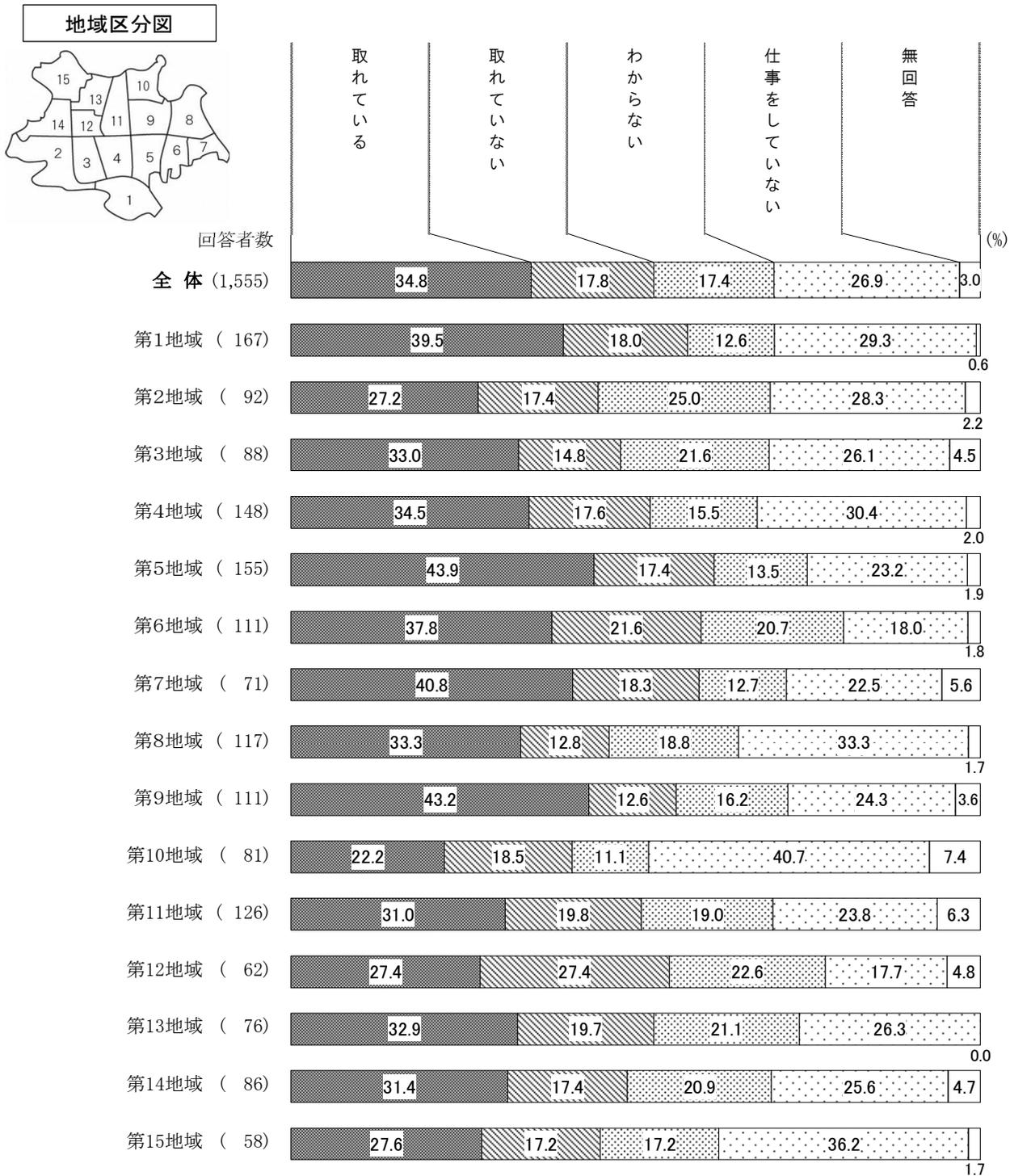


※「仕事をしていない」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

地域別で見ると、「取れている」は第5地域が43.9%で最も高く、次いで、第9地域（43.2%）と第7地域（40.8%）が4割台で続いている。一方、「取れていない」は第12地域が27.4%で特に高く、次いで、第6地域（21.6%）となっている。

図9-6-2 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

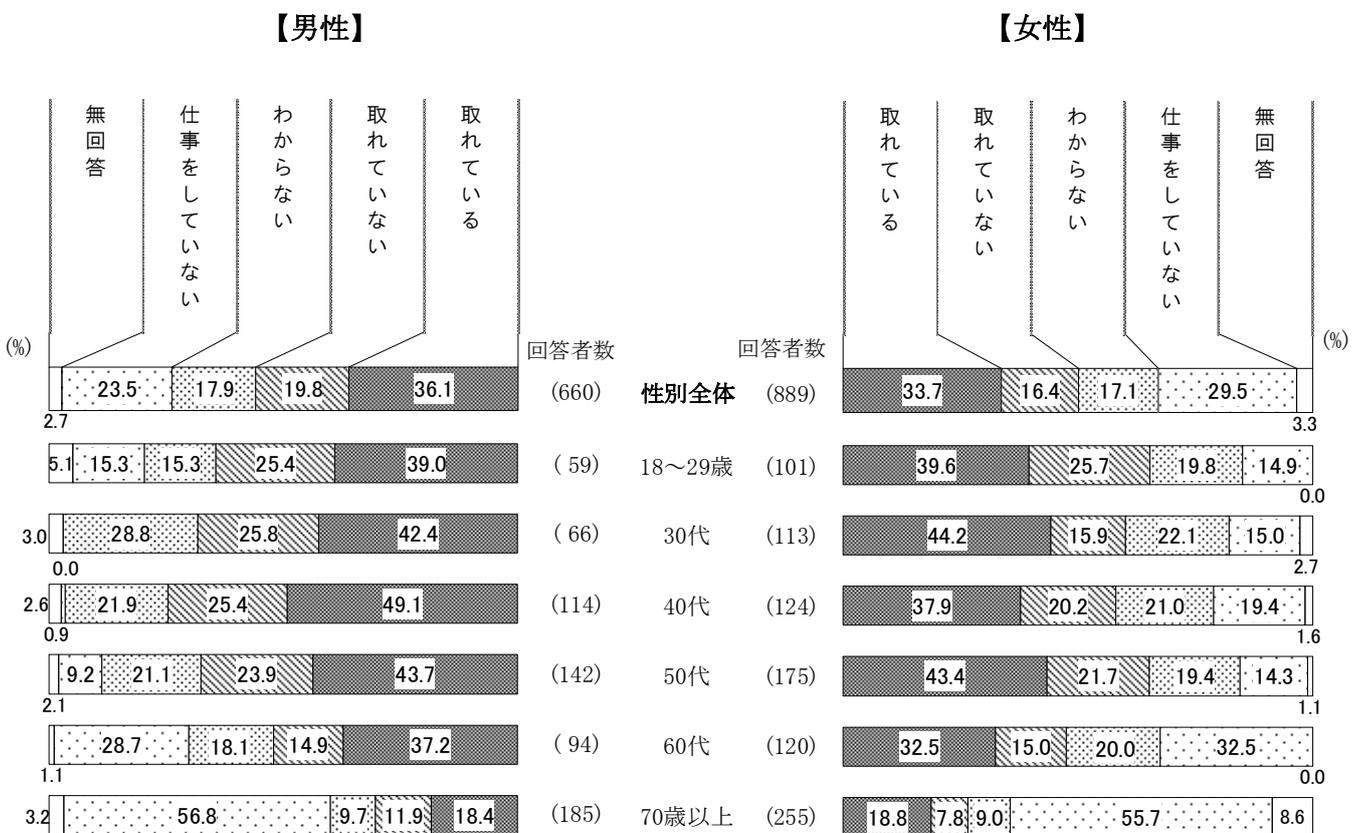


ウ クロス集計・性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 性別で見ると、「取れていない」は、男性（19.8%）の方が女性（16.4%）より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、各年代で就業率が異なることから、就業者数（＝“回答者数”－“仕事をしていない”－“無回答”）を100%として【取れている】【取れていない】【わからない】の回答割合を再計算して比較してみた。その結果、【取れている】は女性の30代で53.8%と最も高く、男性の40代（50.9%）と60代（53.0%）、女性の50代（51.4%）と70歳以上（52.7%）で5割以上となっている。一方、【取れていない】は、男女とも18～29歳で3割台（男性：31.9%・女性：30.2%）と高くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和



(7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問42 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は「身体的暴力以外のDV」が9割弱、「LGBT」が8割弱

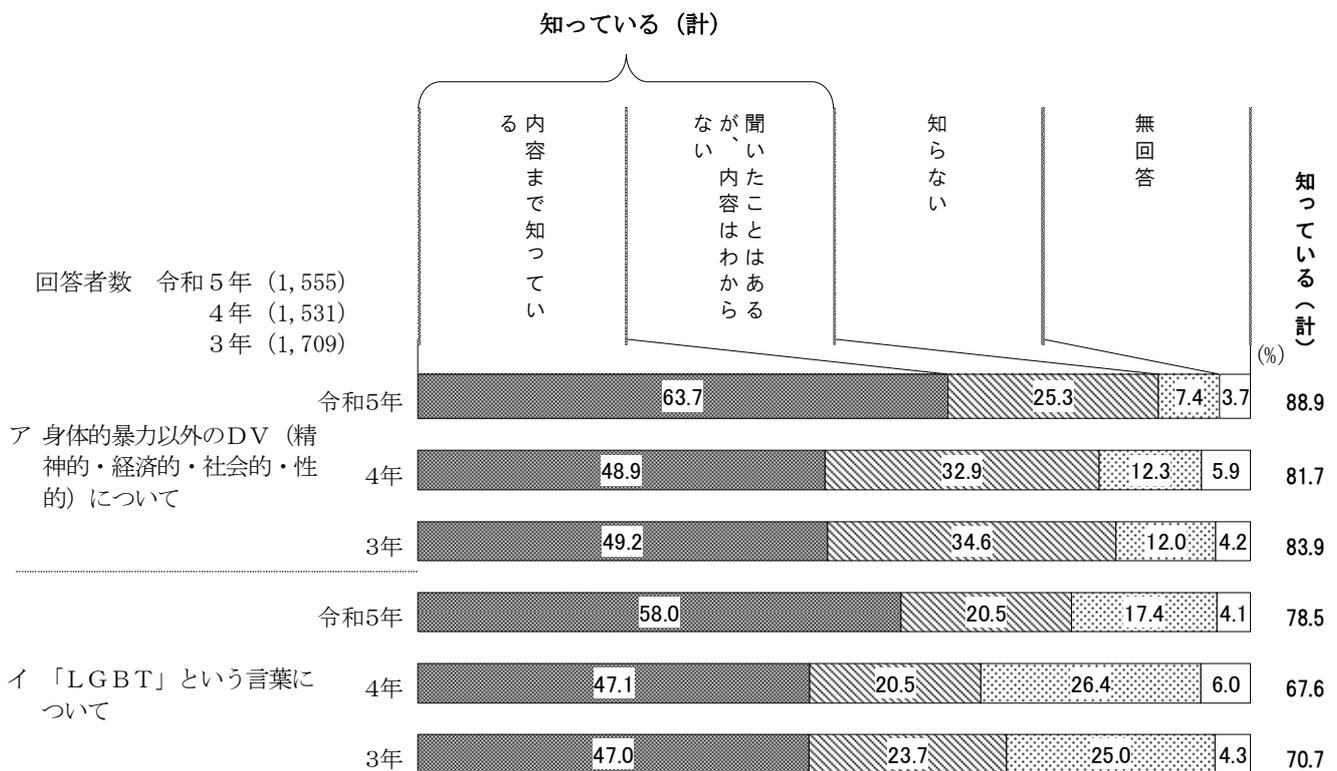
ア 単純集計・経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が63.7%で最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(25.3%)を合わせた【知っている】は9割弱となっている。一方、「知らない」は7.4%となっている。

(イ) 〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が58.0%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(20.5%)を合わせた【知っている】は8割弱となっている。一方、「知らない」は17.4%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈身体的暴力以外のDV〉では14.8ポイントの増加、〈LGBT〉でも10.9ポイントの増加と、ともに大幅に認知度が上昇した。

図9-7-1 経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】では特に大きな違いは無いが、「内容まで知っている」は女性（66.4%）の方が男性（60.0%）より6.4ポイント高くなっている。

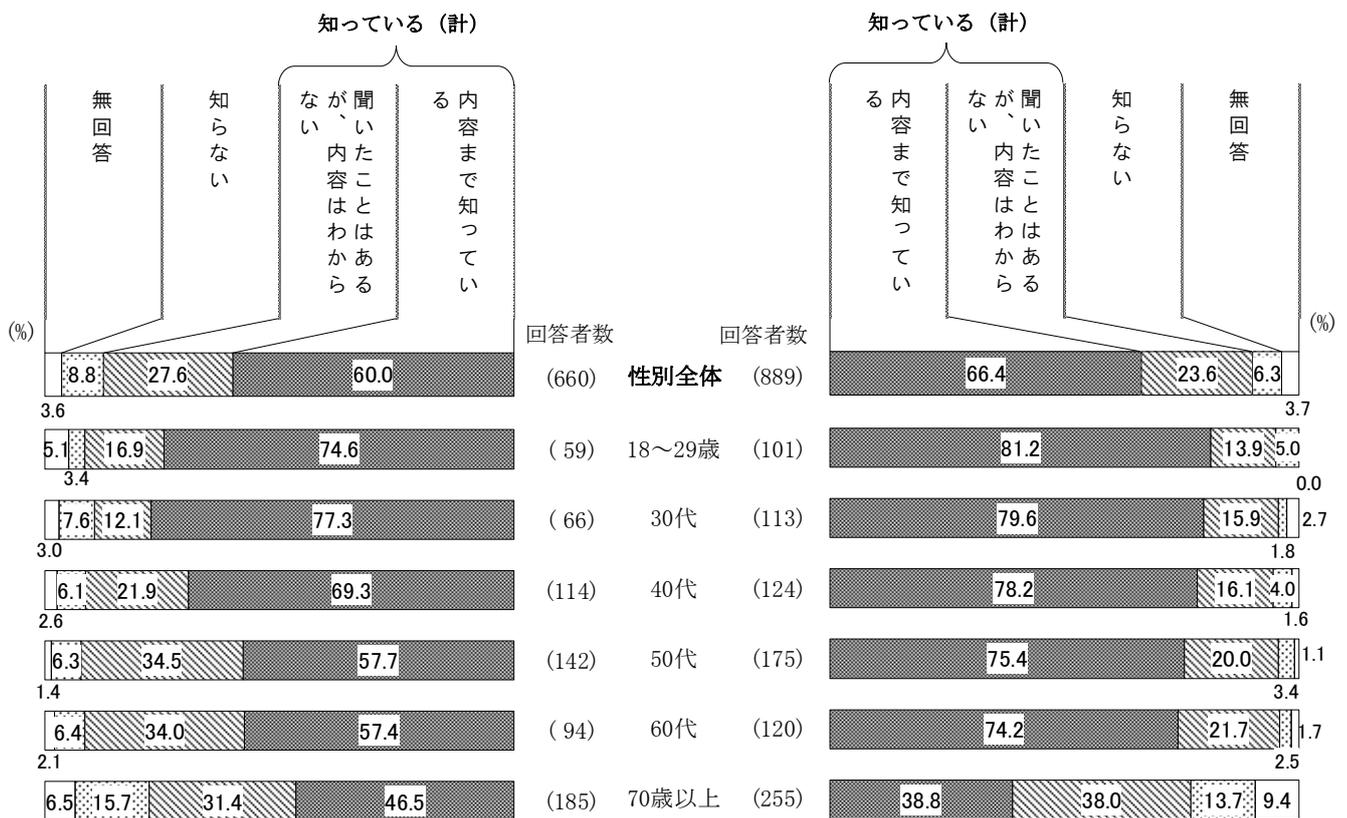
(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は男性で18～29歳から60代までは9割前後と高く、70歳以上で7割台半ばと低くなっており、女性では18～29歳から60代までは9割台半ばと高く、70歳以上で7割台半ばと低くなっている。また、「内容まで知っている」で見ると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

図9-7-2-① 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

【男性】

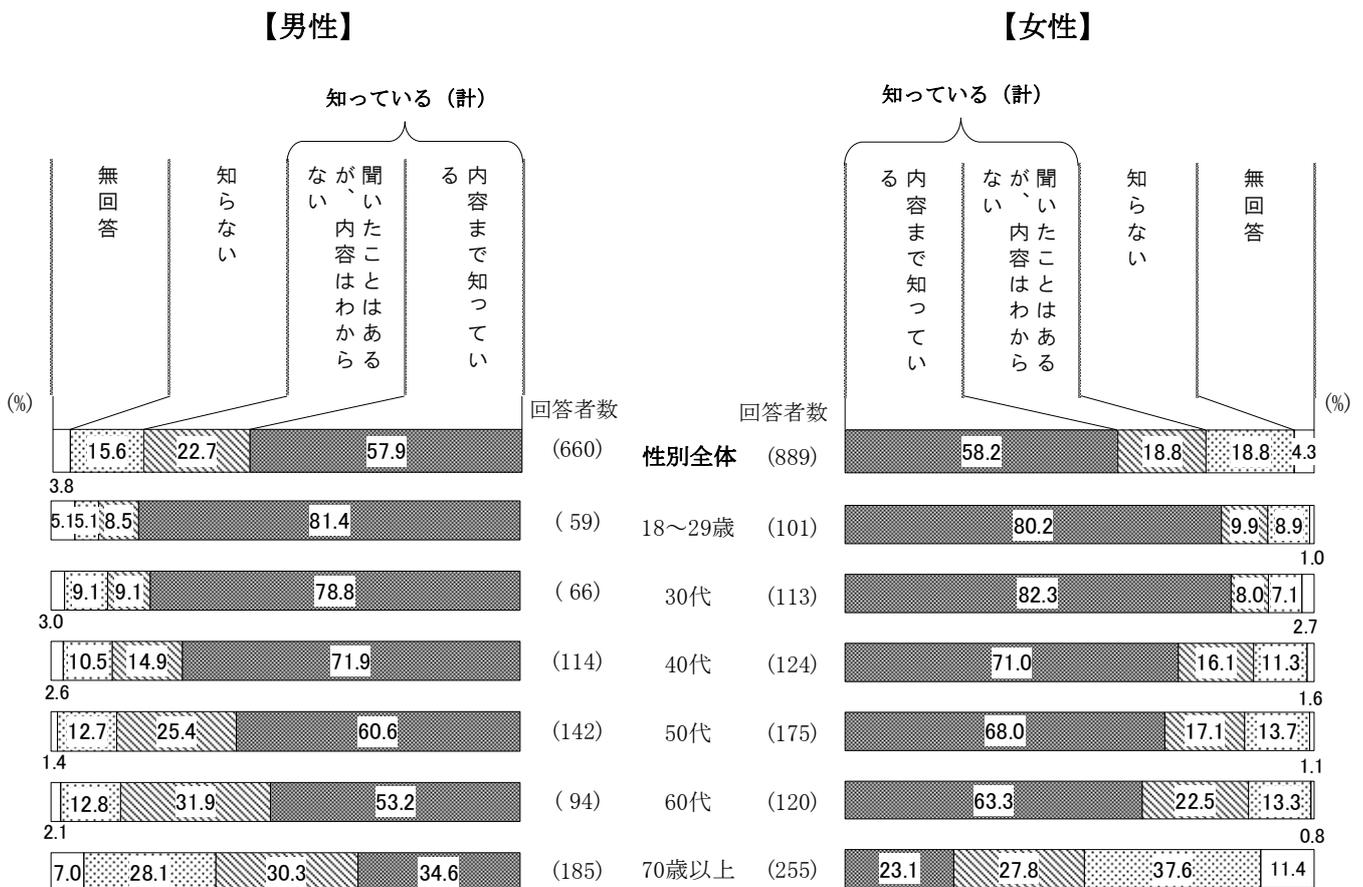
【女性】



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

- (ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】では特に大きな違いはないが、「知らない」は女性（18.8%）の方が男性（15.6%）より3.2ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は男性で18～29歳から60代までは8割台後半と高く、70歳以上で6割台半ばと低くなっており、女性では18～29歳から60代までは8割台半ばから9割と高く、70歳以上で5割超と低くなっている。また、「内容まで知っている」で見ると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

図9-7-2-② 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について



10 「協働・協創」・「SDGs」

-
- (1) 「協創」の認知
 - (2) 協働・協創の実践
 - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
 - (4) SDGsの認知状況
 - (5) SDGsの関心状況
-

10 「協働・協創」・「SDGs」

（1）「協創」の認知

問43 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。

あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

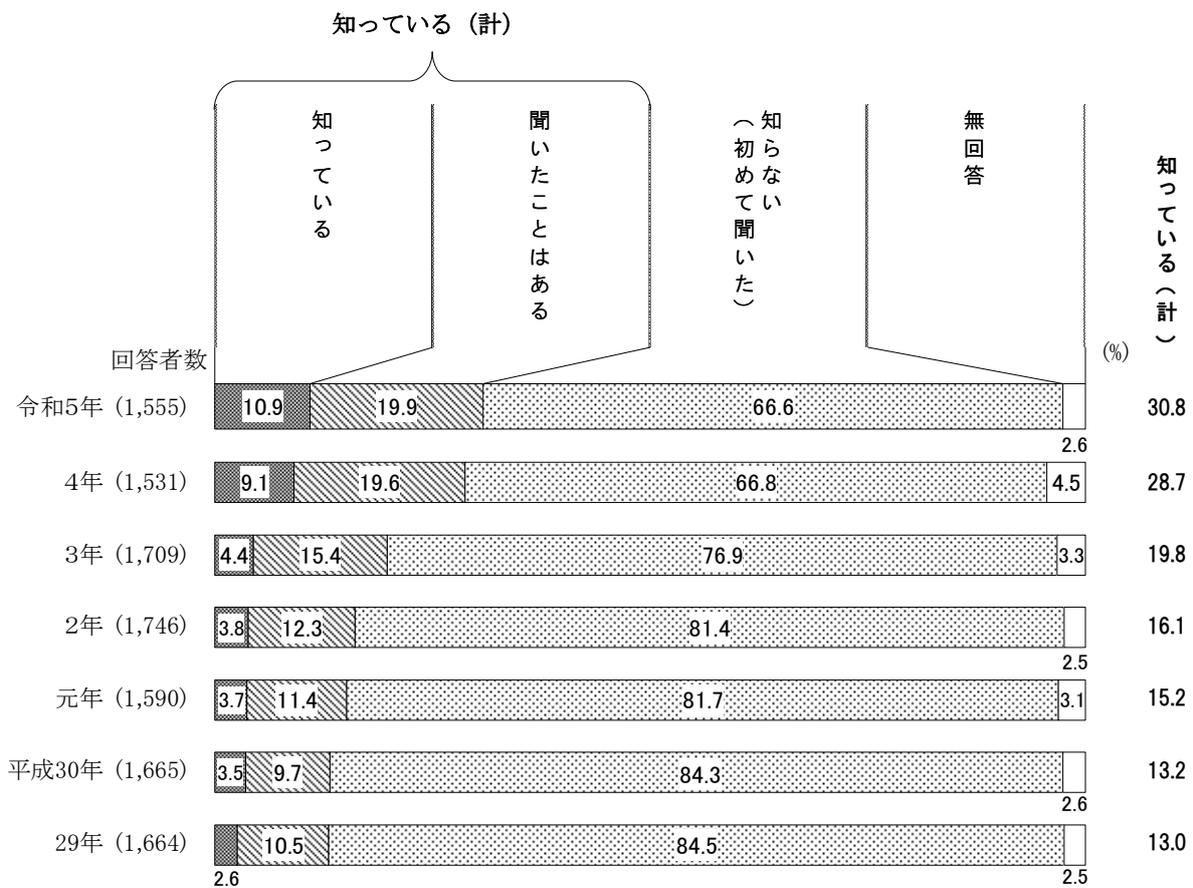
■【知っている】は、調査開始以降1割台で漸増し、前回調査で2割台、今回3割へと上昇

ア 単純集計・経年比較／「協創」の認知

（ア）「協創」について「知っている」が10.9%で、これに「聞いたことはある」（19.9%）を合わせた【知っている】は30.8%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は66.6%を占めている。

（イ）前回調査との比較では、【知っている】は微増となっているが、3年前の令和2年度調査時の16.1%に比べると倍増となっている。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知

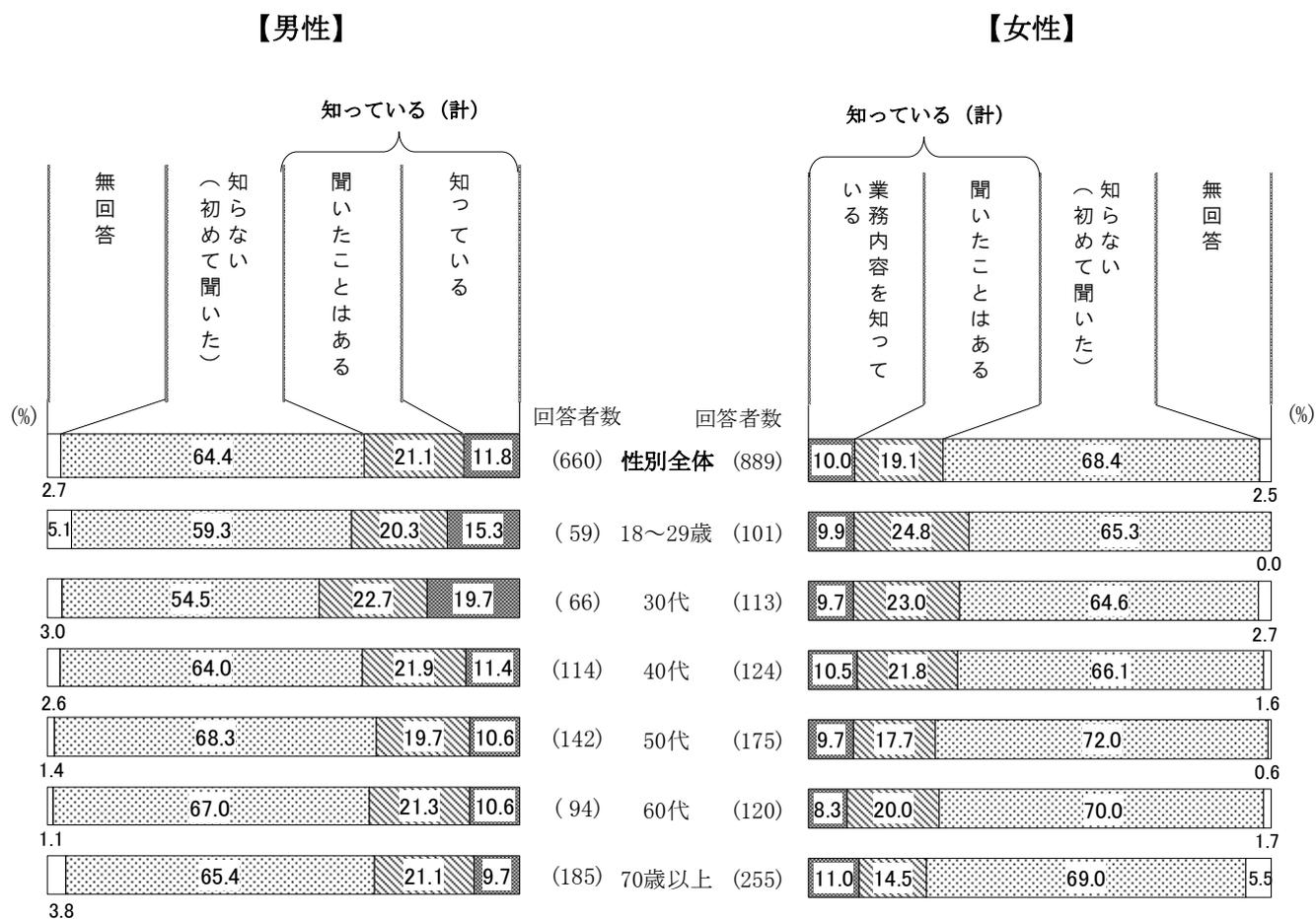


イ クロス集計・性別、性・年代別／「協創」の認知

(ア) 性別で見ると、【知っている】は男性（32.9%）の方が女性（29.1%）より3.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男性の30代で42.4%と特に高く、次いで男性の18～29歳（35.6%）、40代（33.3%）と女性の18～29歳（34.7%）が3割台半ばで続いている。逆に、女性の70歳以上で25.5%と最も低くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



（2）協働・協創の実践

問43で「1 知っている」とお答えの方に

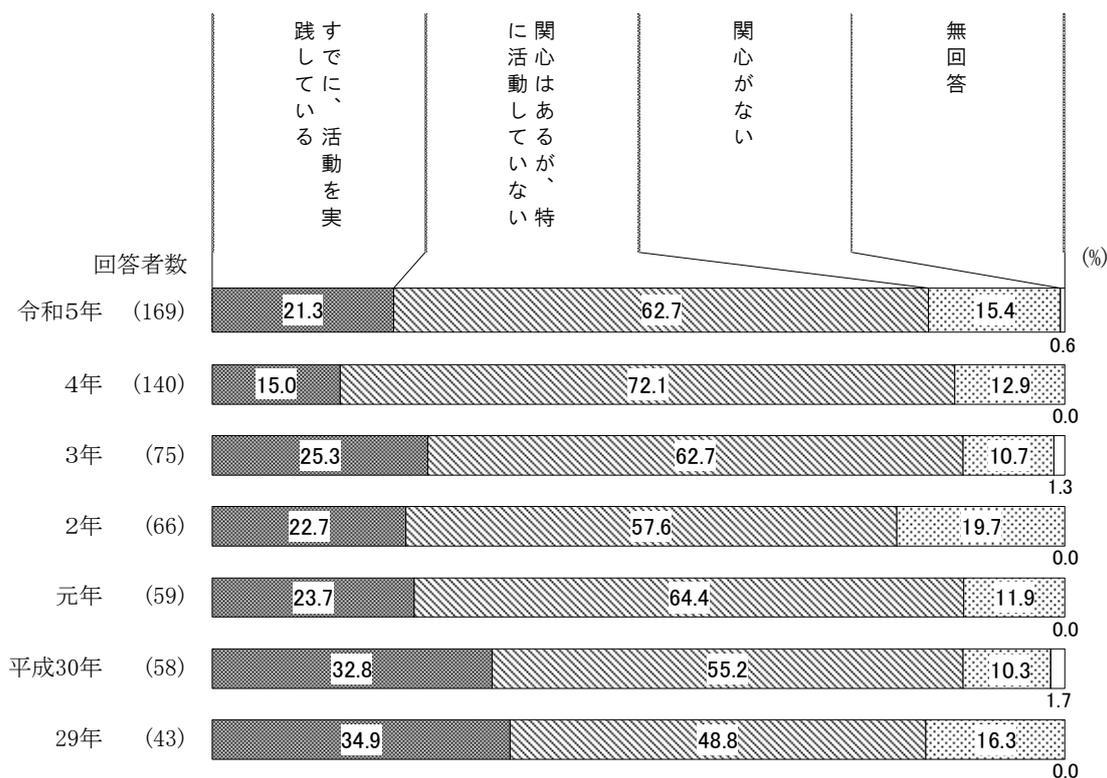
問43-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
（○は1つだけ）。

■ 「すでに、活動を実践している」が6.3ポイント増加し2割超

ア 単純集計・経年比較／協働・協創の実践

- （ア）「協創」を「知っている」という人の実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が21.3%で、「関心はあるが、特に活動していない」が62.7%で最も高くなっている。
- （イ）「協創」を《知っているが、関心がない》は15.4%となっている。
- （ウ）経年での比較では、「すでに、活動を実践している」は前回（15.0%）1割台半ばまで減少したが、今回調査で再び2割台となった。

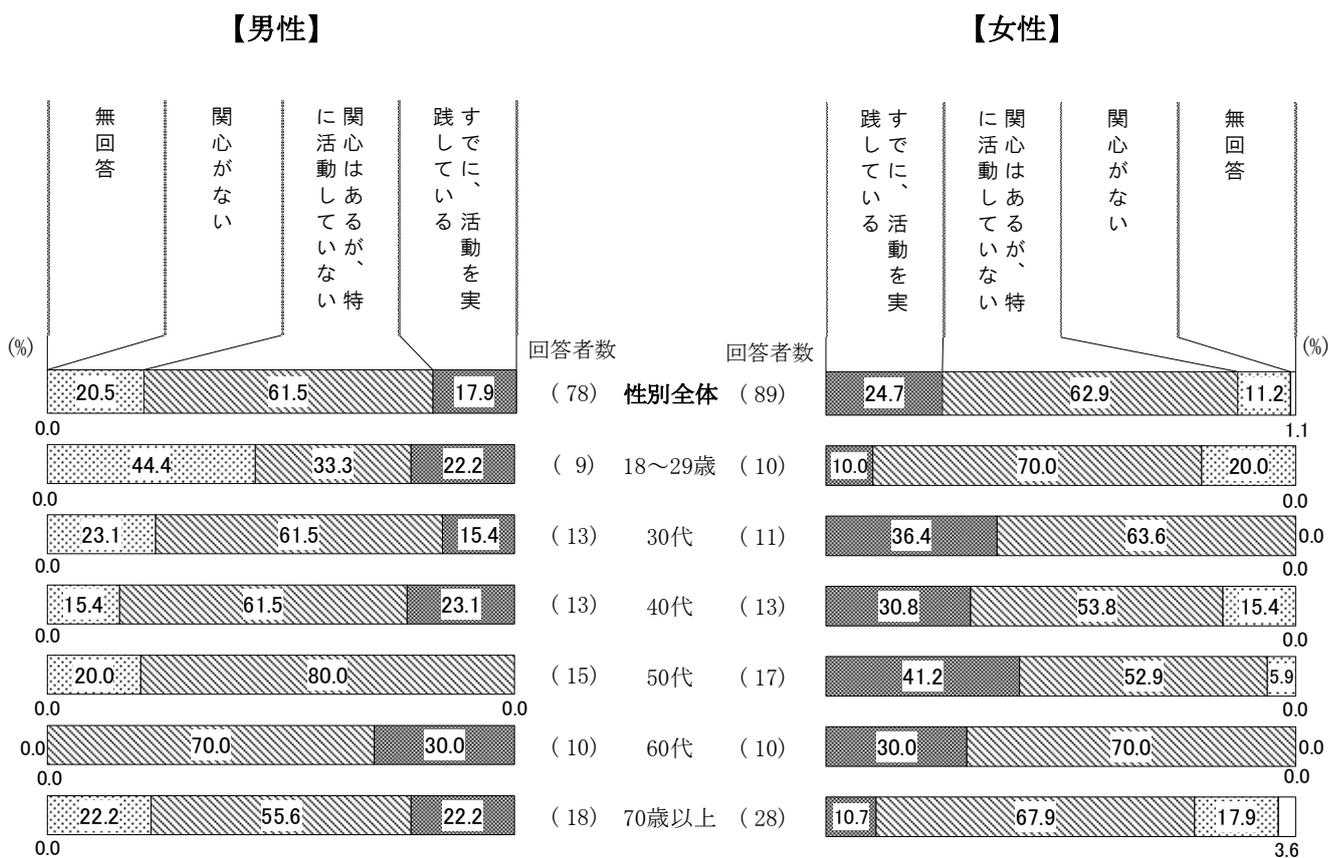
図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



イ クロス集計・性別、性・年代別／協働・協創の実践

- (ア) 性別で見ると、「すでに、活動を実践している」は女性（24.7%）の方が男性（17.9%）より6.8ポイント高くなっている。
- (イ) 「関心がない」は男性（20.5%）の方が女性（11.2%）より9.3ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別では、すべての性・年代層でサンプル数が30未満のため、参考のために図示のみとし、コメントは割愛する。

図10-2-2 性別、性・年代別／協働・協創の実践



（3）区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

問44 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
（○は1つだけ）。

■【そう思う】（2割台半ば）が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割

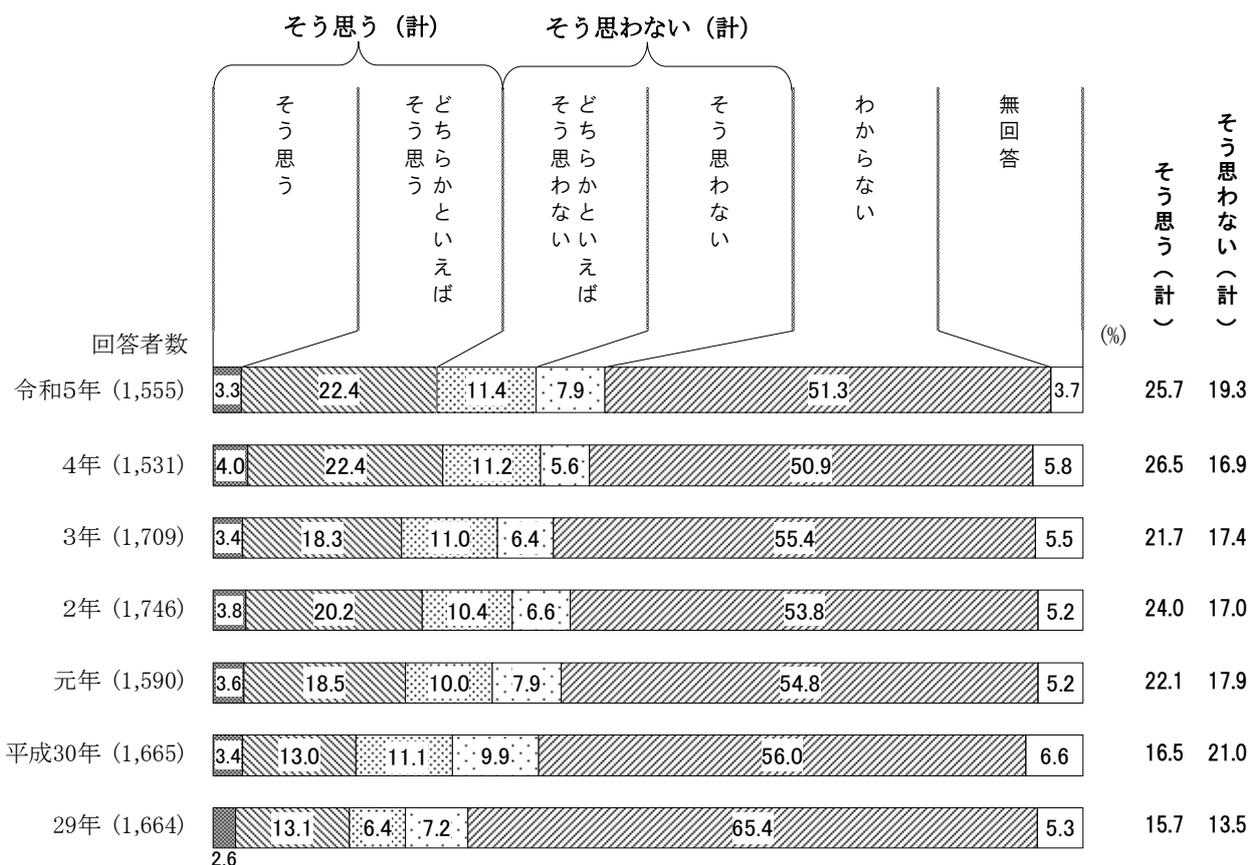
ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

（ア）協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が3.3%で、これに「どちらかといえばそう思う」（22.4%）を合わせた【そう思う】は2割台半ばとなっている。

（イ）「どちらかといえばそう思わない」（11.4%）と「そう思わない」（7.9%）を合わせた【そう思わない】は2割弱となっている。一方、「わからない」（51.3%）が全体の過半数を占めている。

（ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図 10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



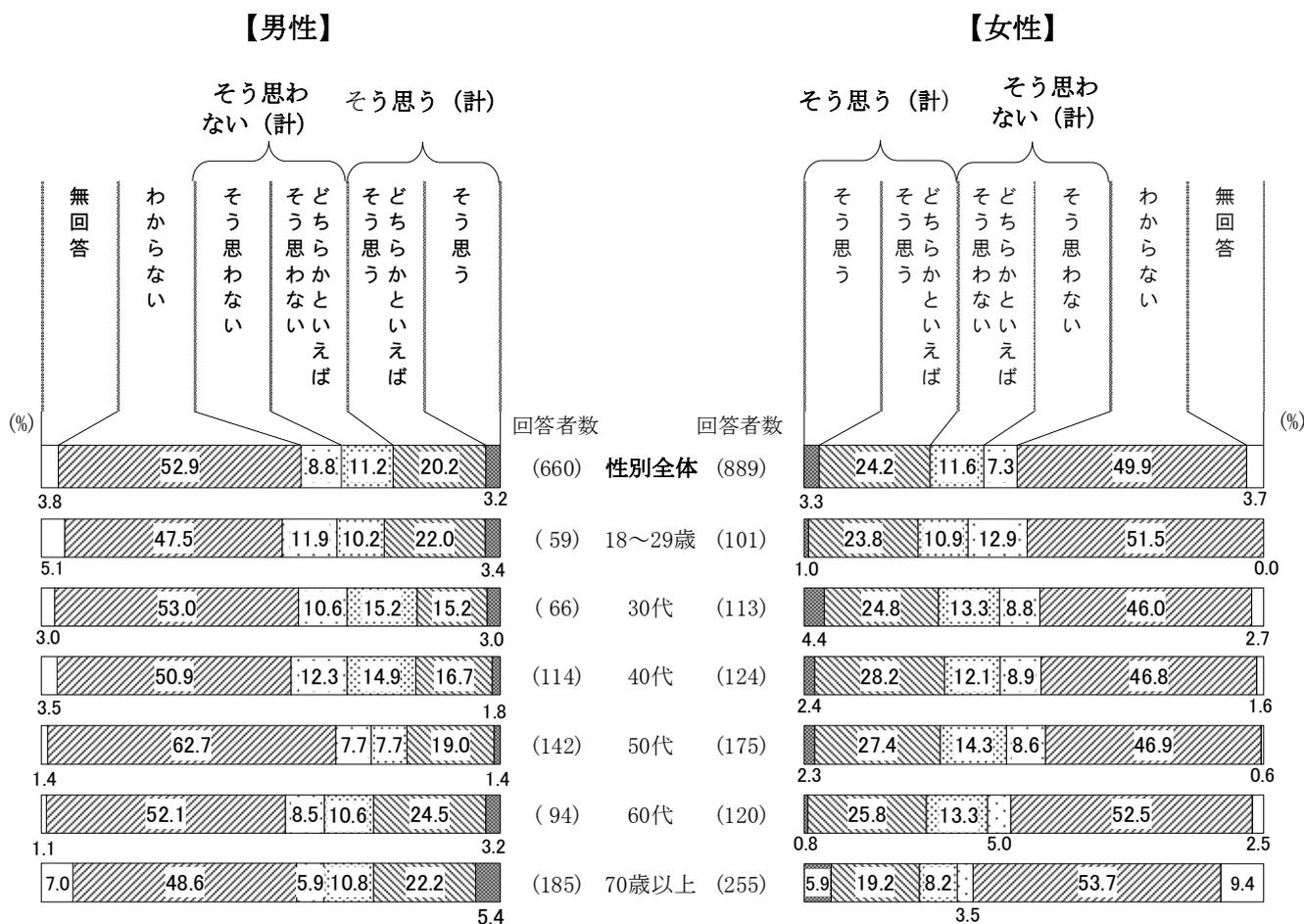
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わったうえに、「子どもの貧困対策」が追加挿入されたが、令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

イ クロス集計・性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】は女性（27.4%）の方が男性（23.3%）より4.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の40代で30.6%と最も高く、僅差で、女性の50代と30代が約3割で続いている。一方、【そう思わない】は男性の40代で27.2%と最も高く、次いで、男性の30代が2割台半ばで続いている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



（4）SDGsの認知状況

問45 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

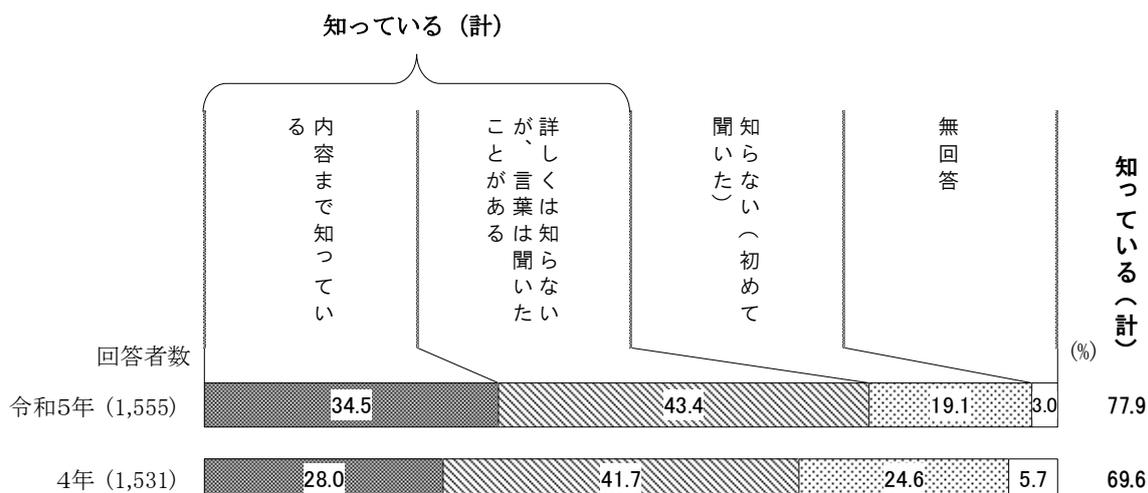
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■ 「内容まで知っている」が3割台半ば、【知っている】も7割台半ば超と上昇

ア 単純集計・前回調査比較／SDGsの認知状況

（ア）SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が43.4%で最も高く、これに「内容まで知っている」（34.5%）を合わせた【知っている】は7割台半ば超となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は19.1%となっている。
 （イ）前回調査との比較では、「内容まで知っている」は6.5ポイント増加し、【知っている】でも8.3ポイント高くなっている。

図10-4-1 前回調査比較／SDGsの認知状況

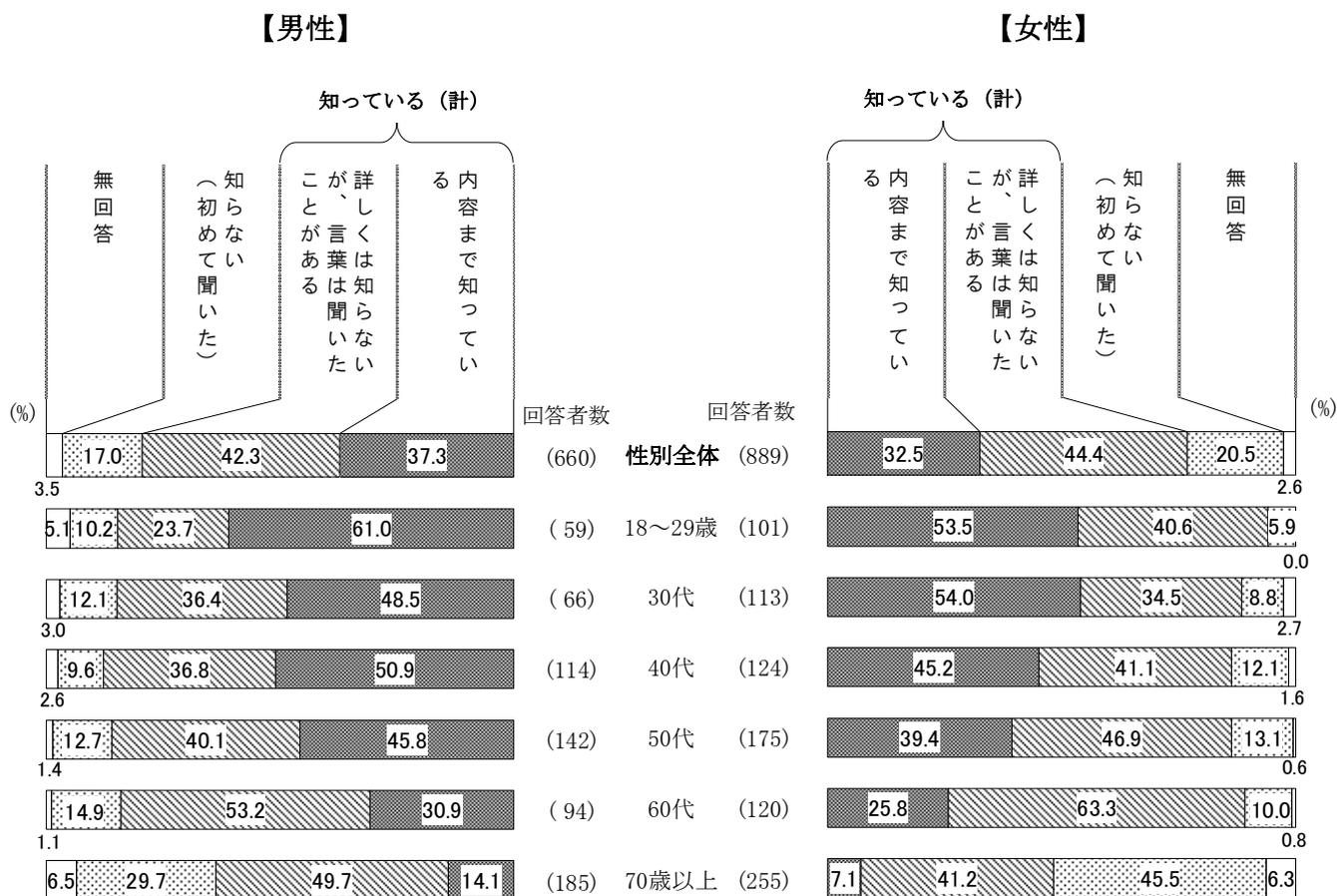


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知について性別で見ると、「内容まで知っている」は、男性（37.3%）の方が女性（32.5%）より4.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど認知割合が高くなっており、男性の18～29歳で61.0%と最も高く、女性の70歳以上で7.1%と最も低くなっている。

図10-4-2 性別、性・年代別／SDGsの認知状況



(5) SDGsの関心状況

問46 あなたは、SDGsに関心がありますか（〇は1つだけ）。

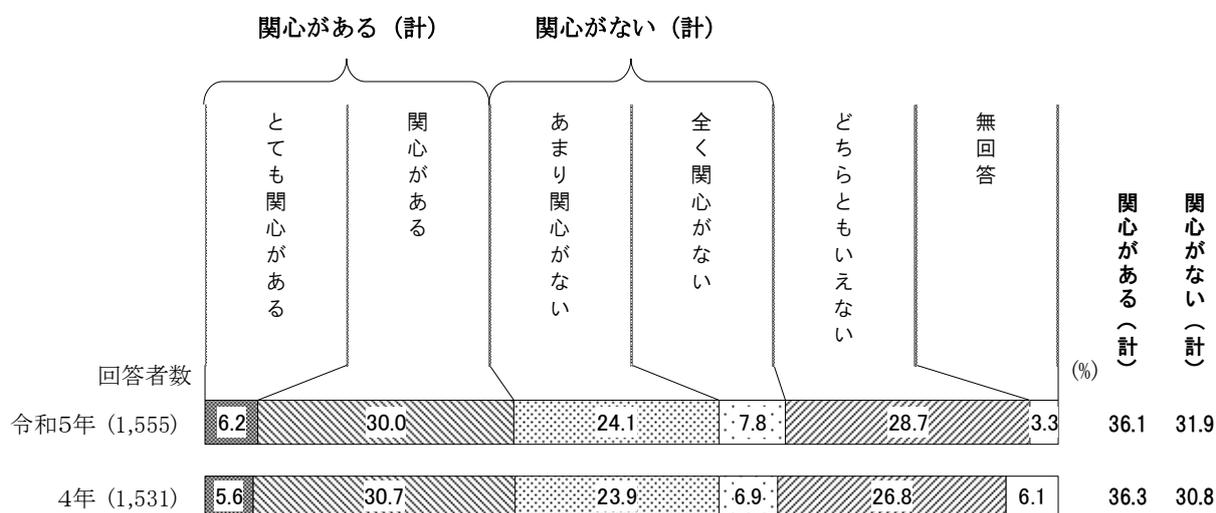
■【関心がある】が3割台半ばで、【関心がない】の3割強を上回る

ア 単純集計・前回調査比較／SDGsの関心状況

(ア) SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.0%で最も高く、これに「とても関心がある」(6.2%)を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」(24.1%)と「全く関心がない」(7.8%)を合わせた【関心がない】は3割強となる。また、「どちらともいえない」は28.7%となっている。

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図10-5-1 前回調査比較／SDGsの関心状況

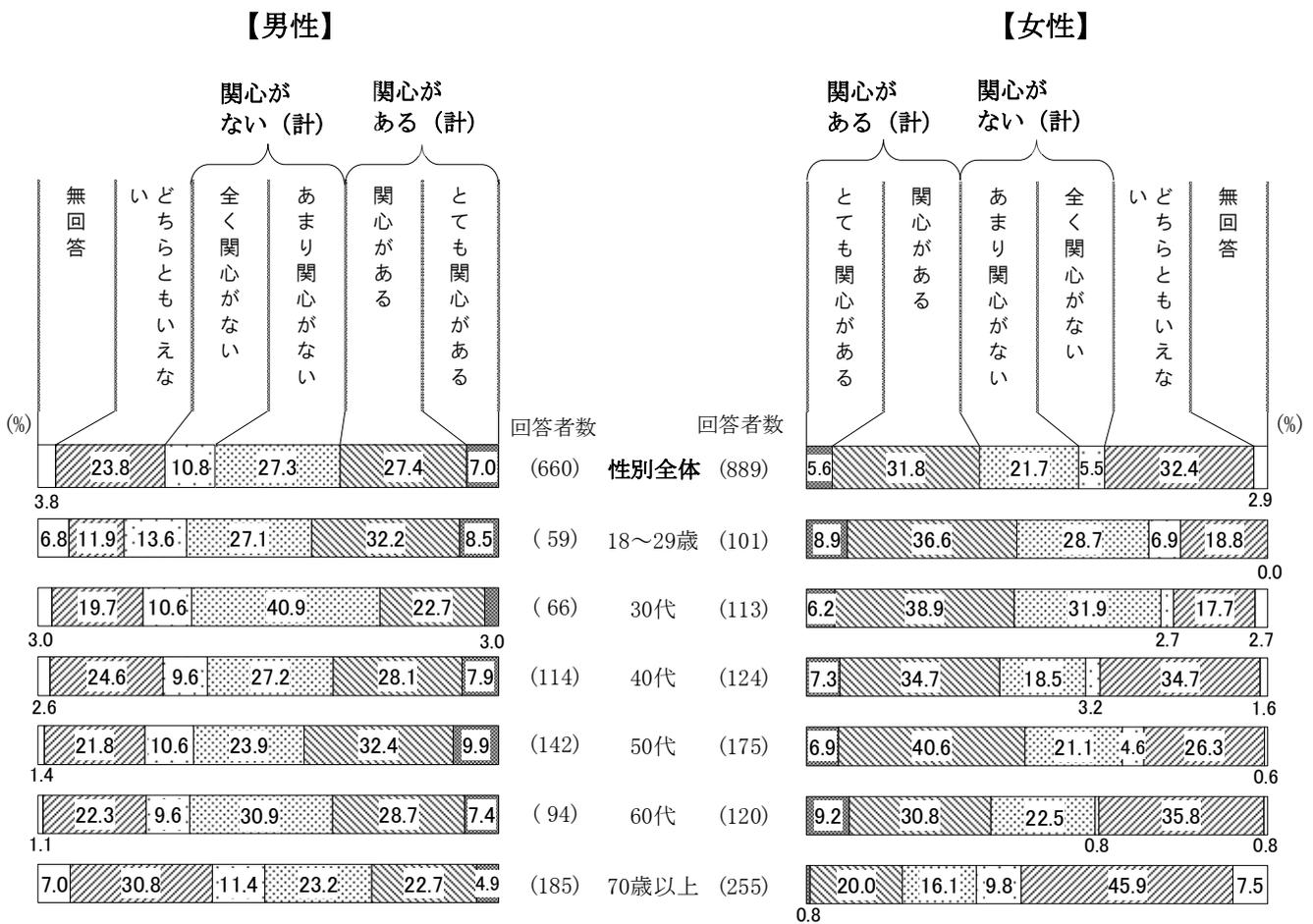


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの関心状況

(ア) SDGsの関心状況について性別で見ると、【関心がある】は、女性（37.5%）の方が男性（34.4%）より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【関心がある】は、女性の50代が47.4%で最も高く、次いで、女性の18～29歳（45.5%）と30代（45.1%）が4割台半ばで続いている。一方、【関心がない】は、男性の30代が51.5%と特に高く、次いで、男性の18～29歳（40.7%）と60代（40.4%）で4割となっている。

図10-5-2 性別、性・年代別／SDGsの関心状況



11 区の取り組み

-
- (1) 区に対する気持ち
 - (2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）
 - (3) 区を良いまちにするための行動
 - (4) 区の取り組みで満足している分野
 - (5) 区の取り組みで不満の分野
 - (6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）
 - (7) 区政に対する満足度
 - (8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野
 - (9) 区政への区民意見の反映
 - (10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
 - (11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

11 区の取り組み

(1) 区に対する気持ち

問47 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が約7割、「足立区に愛着」が7割弱

ア 単純集計・経年比較／区に対する気持ち

(ア) 区に対する気持ちについて計5項目にわたって聴いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(69.8%)
- ② 〈足立区に愛着をもっている〉(68.0%)
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(45.5%)
- ④ 〈足立区を人に勧めたい〉(39.6%)
- ⑤ 〈足立区に誇りをもっている〉(37.6%)

(イ) 前回調査と比較すると、5項目のすべてで【そう思う】が減少し、【そう思わない】と「わからない」が増加している。〈足立区に誇りをもっている〉は【そう思う】(-4.9ポイント)の減少幅が最も大きく、【そう思わない】(+2.6ポイント)の増加幅が最も大きくなっている。逆に、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉は【そう思う】(-0.9ポイント)の減少幅が最も小さく、【そう思わない】(+1.3ポイント)の増加幅が最も小さくなっている。

図11-1-1-① 経年比較/区に対する気持ち

ア 足立区に
愛着をもっている

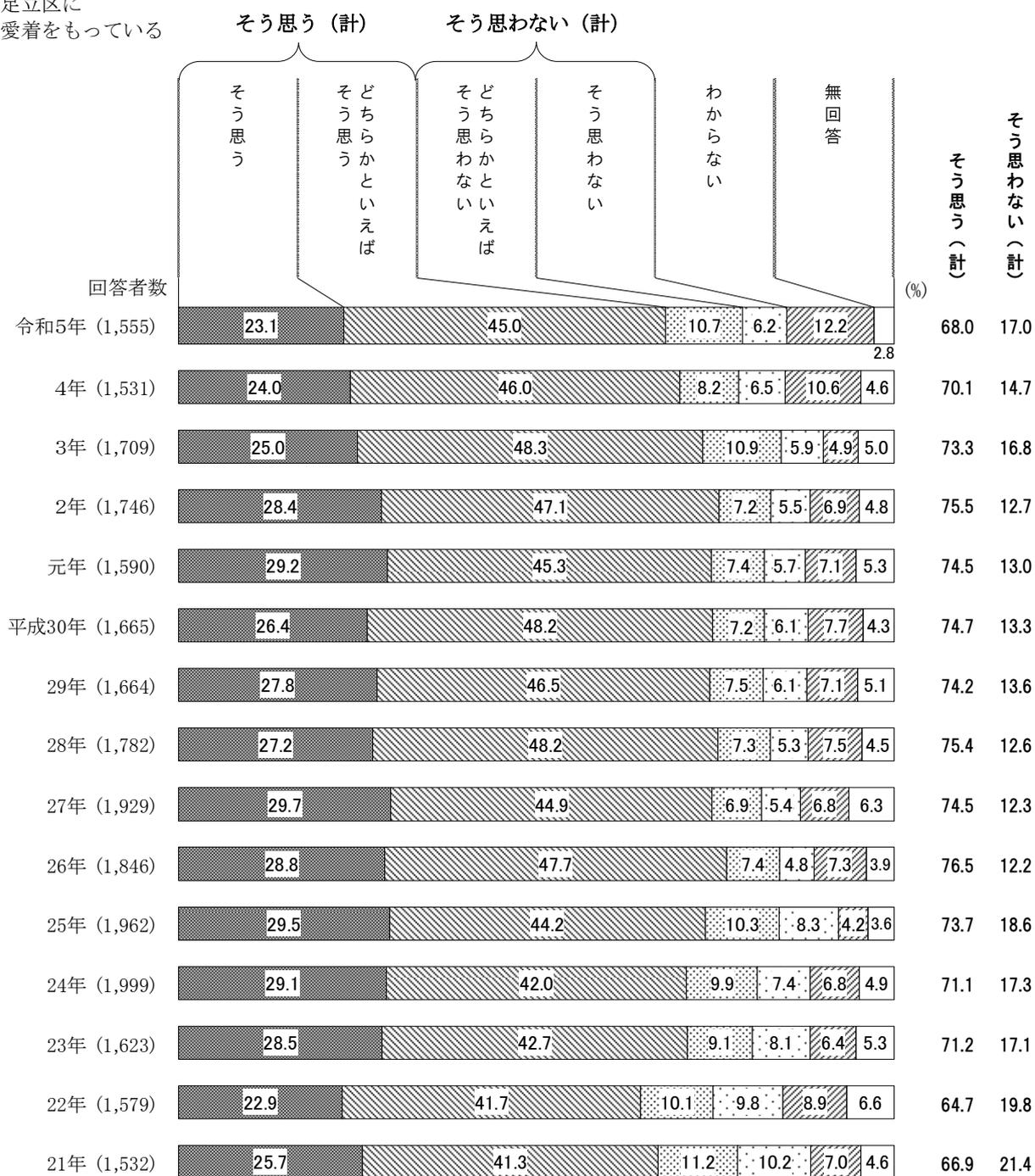


図11-1-1-② 経年比較/区に対する気持ち

イ 足立区に
誇りをもっている

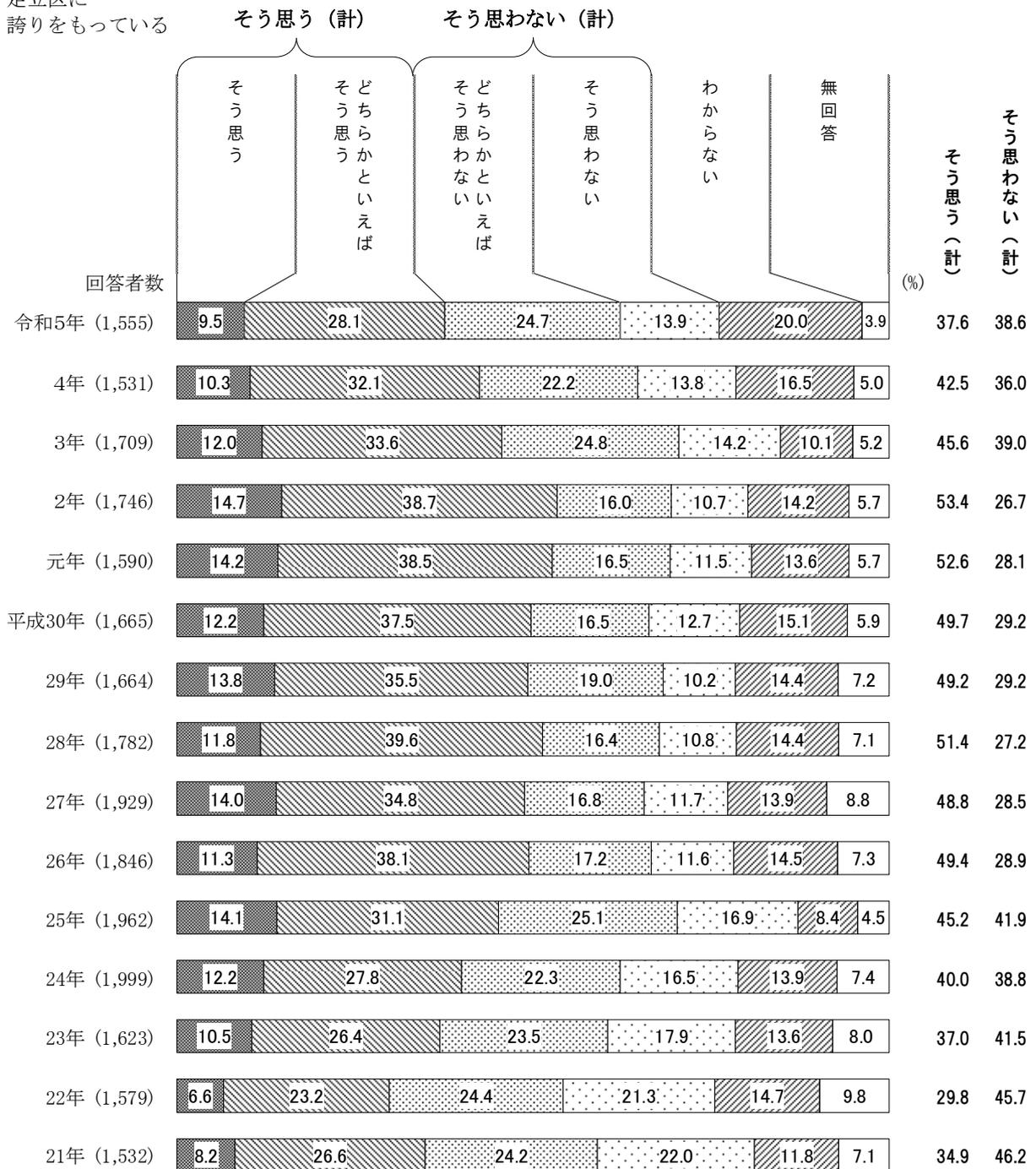


図11-1-1-③ 経年比較/区に対する気持ち

ウ 足立区を人に勧めたい

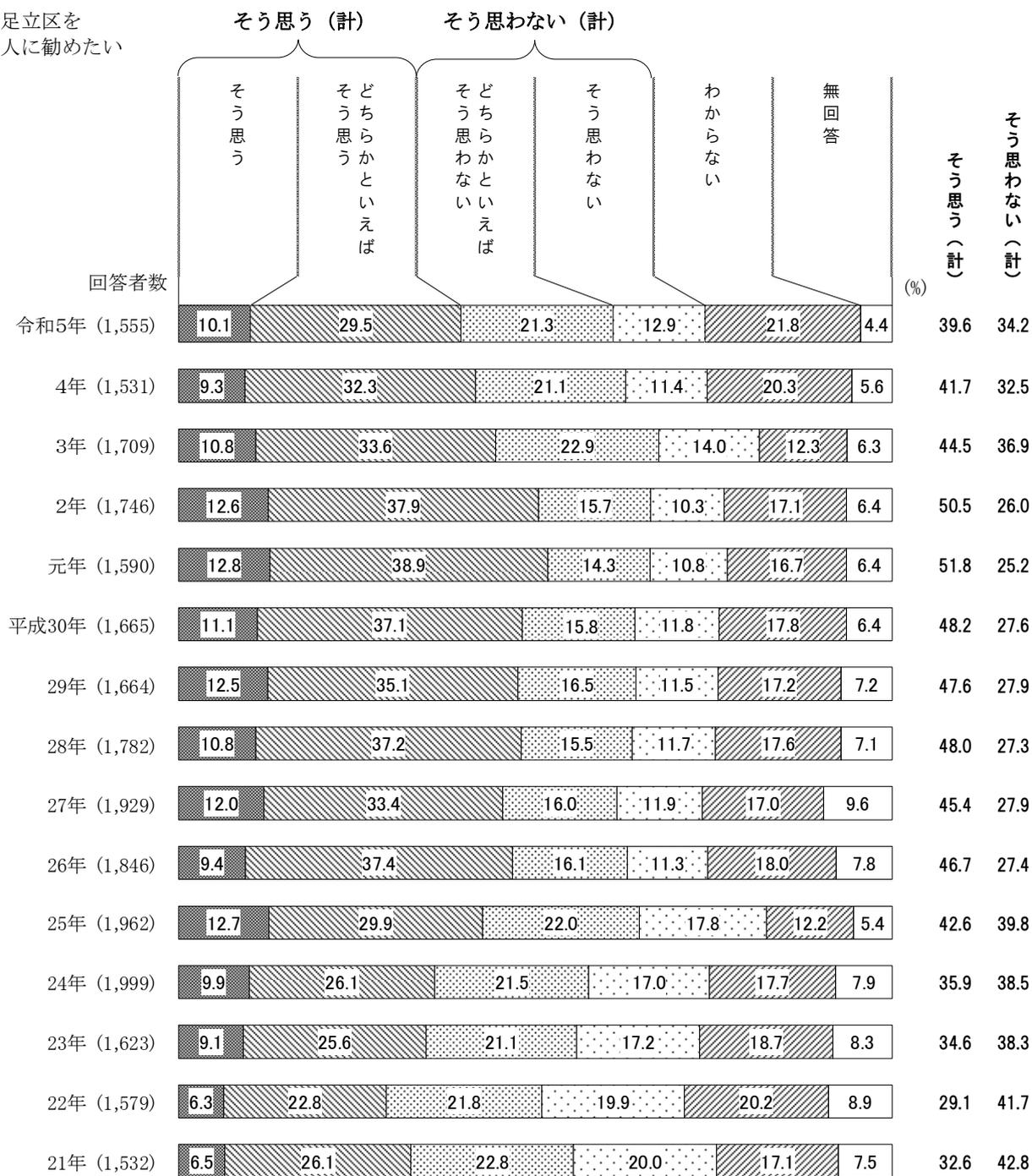


図11-1-1-④ 経年比較/区に対する気持ち

エ 足立区を良いまちにするために何かしたい

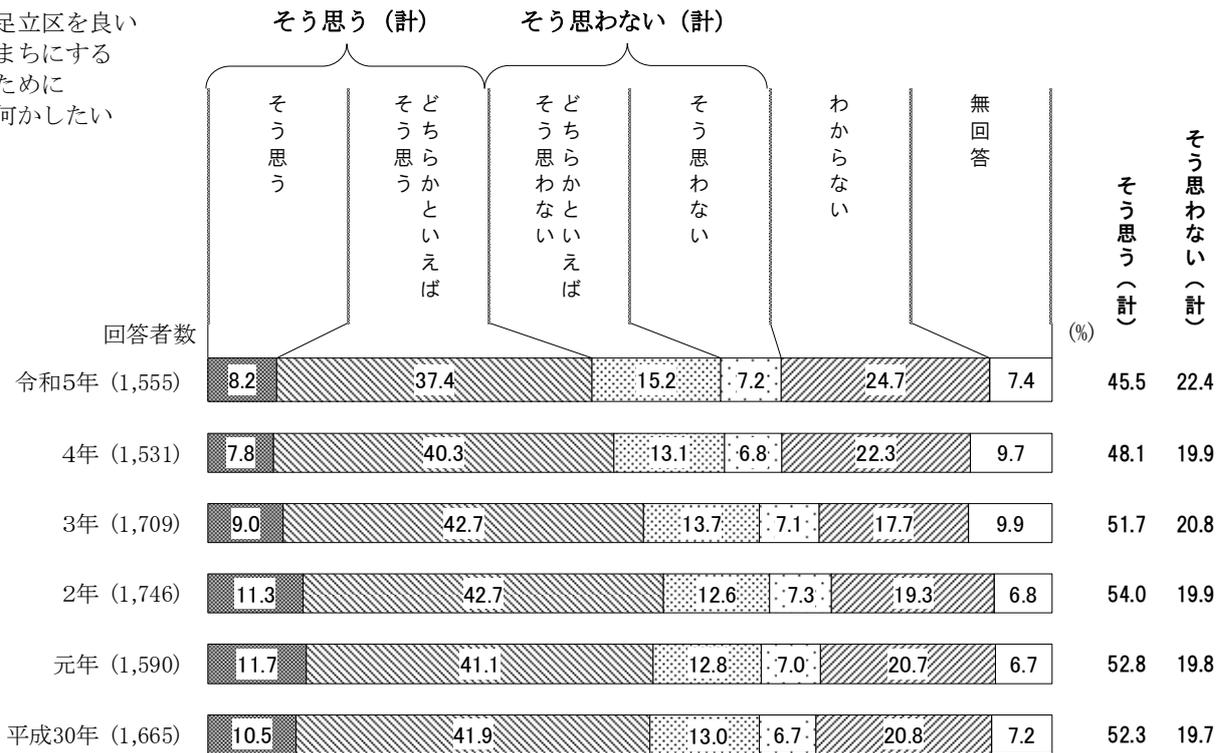
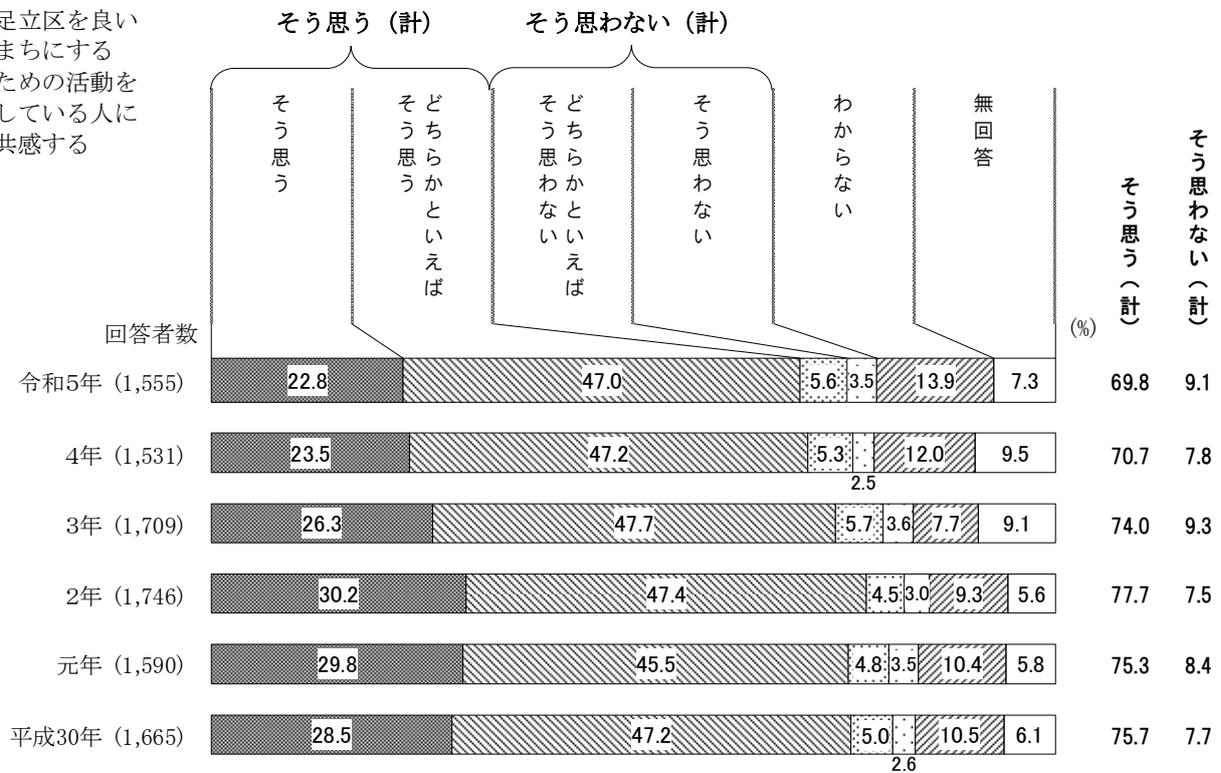


図11-1-1-⑤ 経年比較/区に対する気持ち

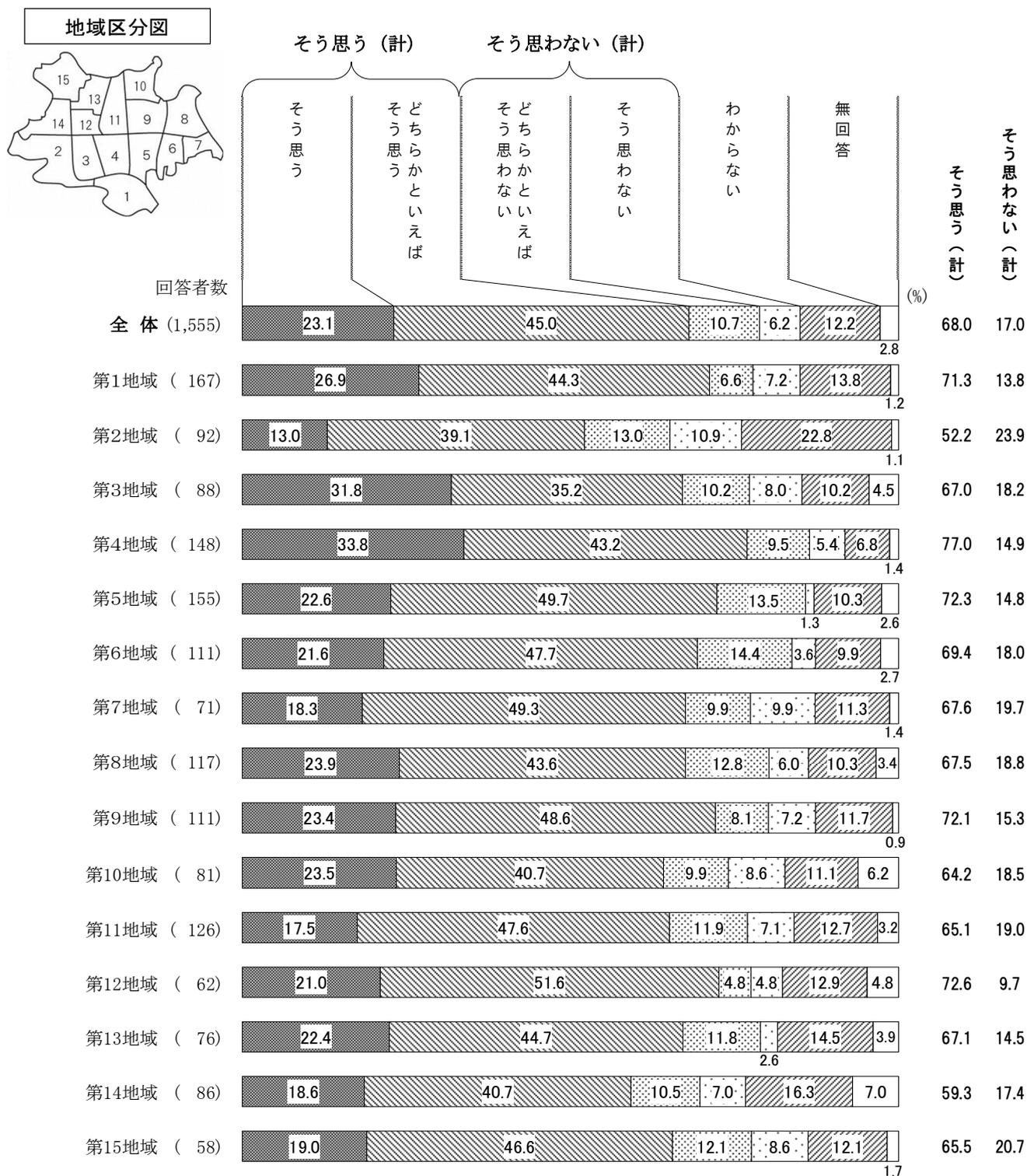
オ 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



イ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉を地域別で見ると、【**そう思う**】は第4地域が77.0%と最も高く、次いで、第12地域、第5地域、第9地域、第1地域が7割超で続いている。一方、【**そう思わない**】は、第2地域が23.9%で最も高く、次いで第15地域が2割となっている。

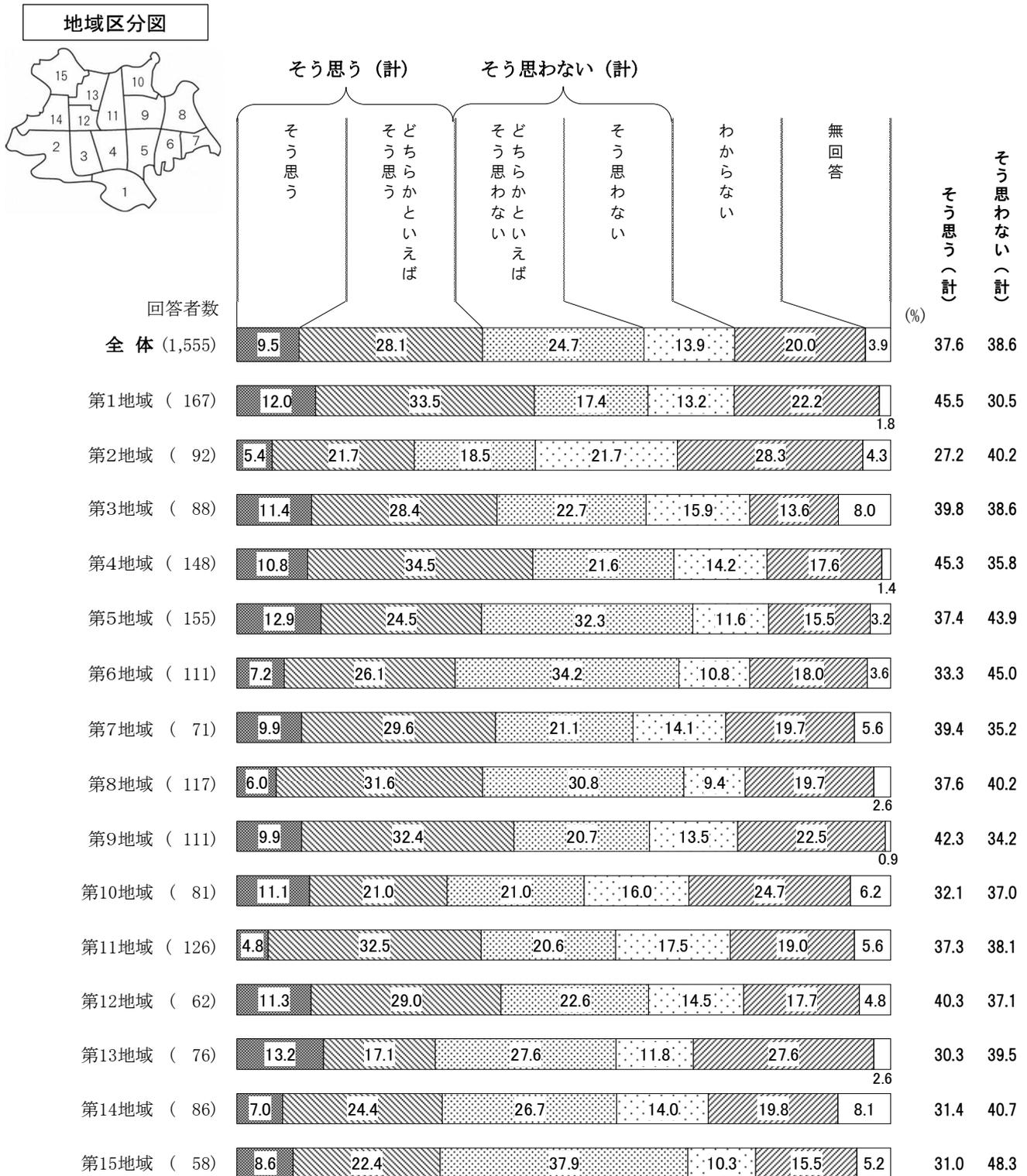
図11-1-2-① 地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ウ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉を地域別で見ると、【そう思う】は第1地域が45.5%で最も高く、僅差で第4地域、第9地域、第12地域が4割台で続いている。一方、【そう思わない】は、第15地域が48.3%で最も高く、次いで第6地域が4割台半ばとなっている。

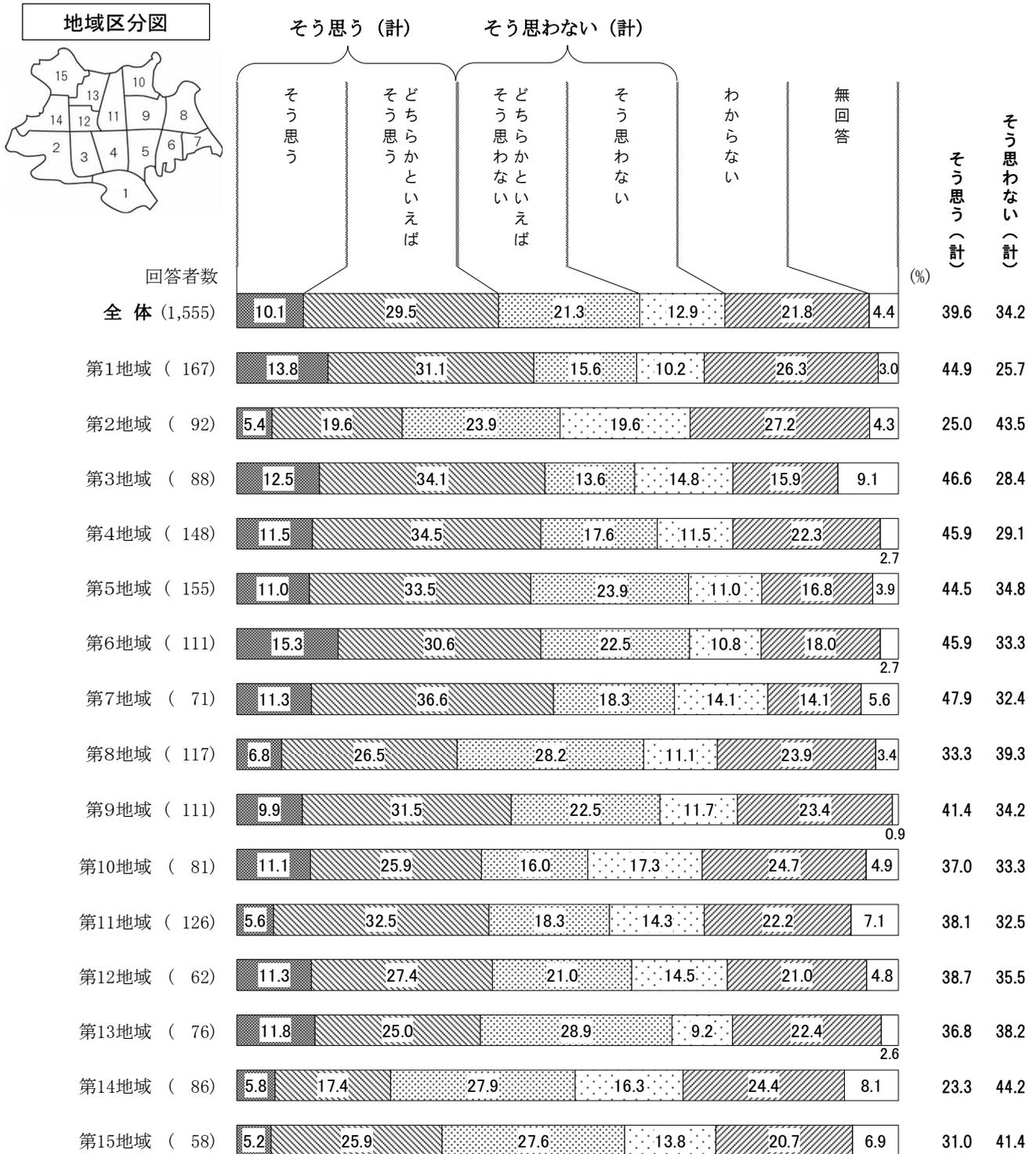
図11-1-2-② 地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



エ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を地域別で見ると、【そう思う】は第7地域が47.9%で最も高く、次いで第3地域、第4地域、第6地域、第1地域、第5地域が4割台半ばで続いている。一方、【そう思わない】は第14地域が44.2%で最も高く、次いで第2地域と第15地域が4割台で続いている。

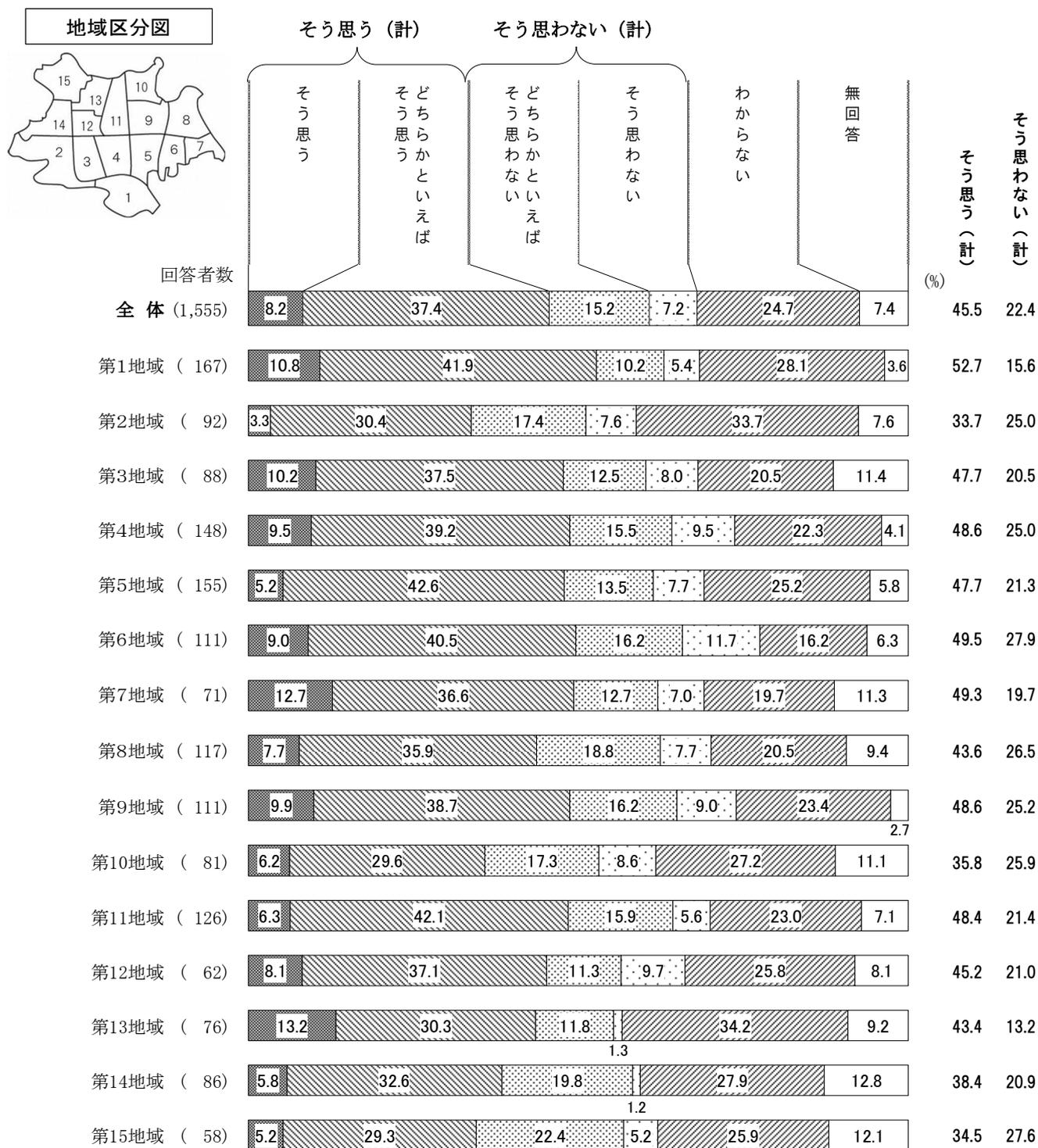
図11-1-2-③ 地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



オ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を地域別で見ると、【そう思う】は第1地域が52.7%で最も高く、次いで第6地域と第7地域が約5割で続いている。一方、【そう思わない】は第6地域が27.9%で最も高く、僅差で第15地域（27.6%）が続いている。

図11-1-2-④ 地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



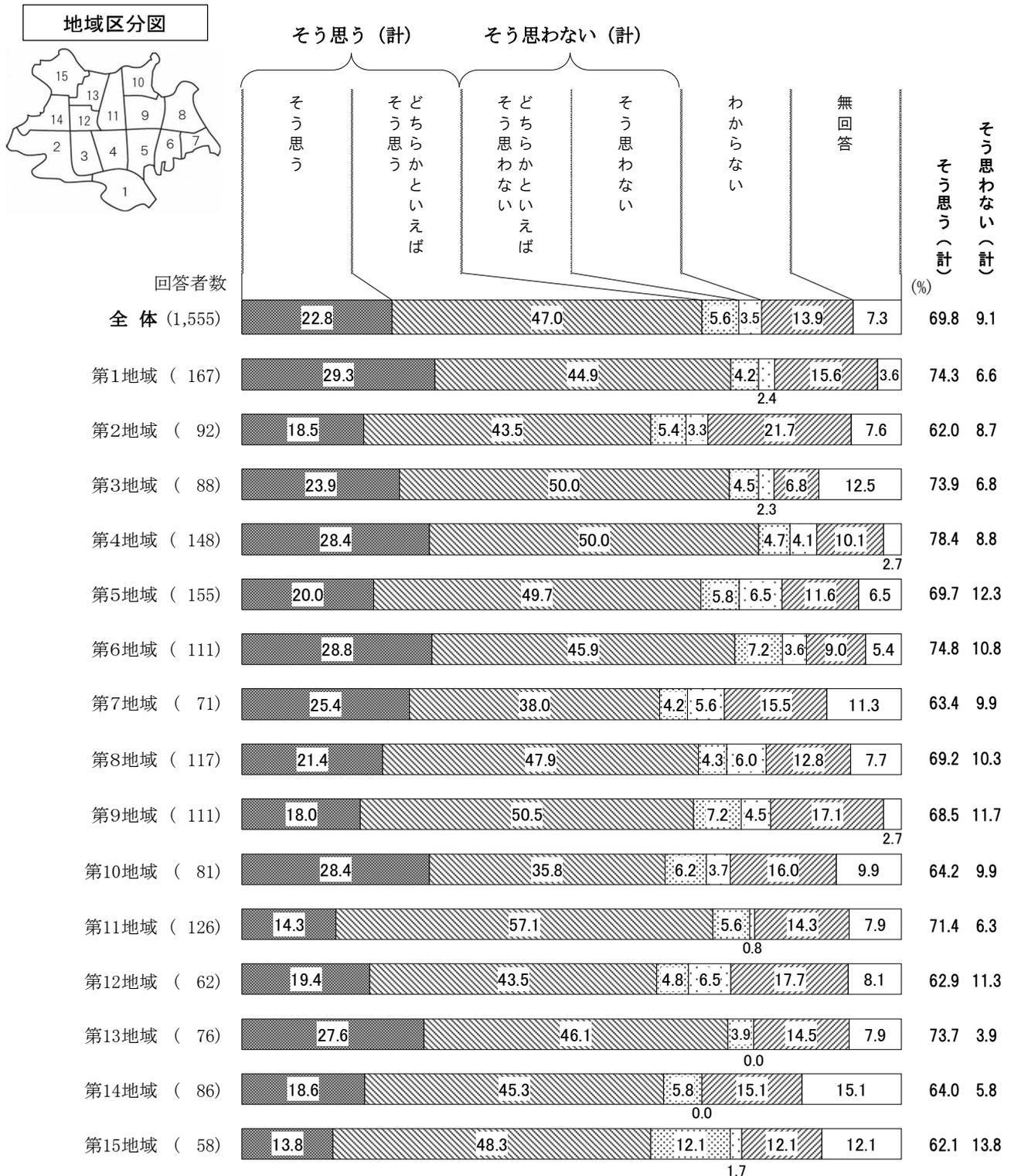
カ クロス集計・地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を地域別でみると、【そう思う】は第4地域が78.4%で最も高く、次いで、第6地域、第1地域、第3地域、第13地域が7割台半ばで続いている。一方、【そう思わない】は第15地域が13.8%で最も高く、次いで第5地域が12.3%となっている。

図11-1-2-⑤ 地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

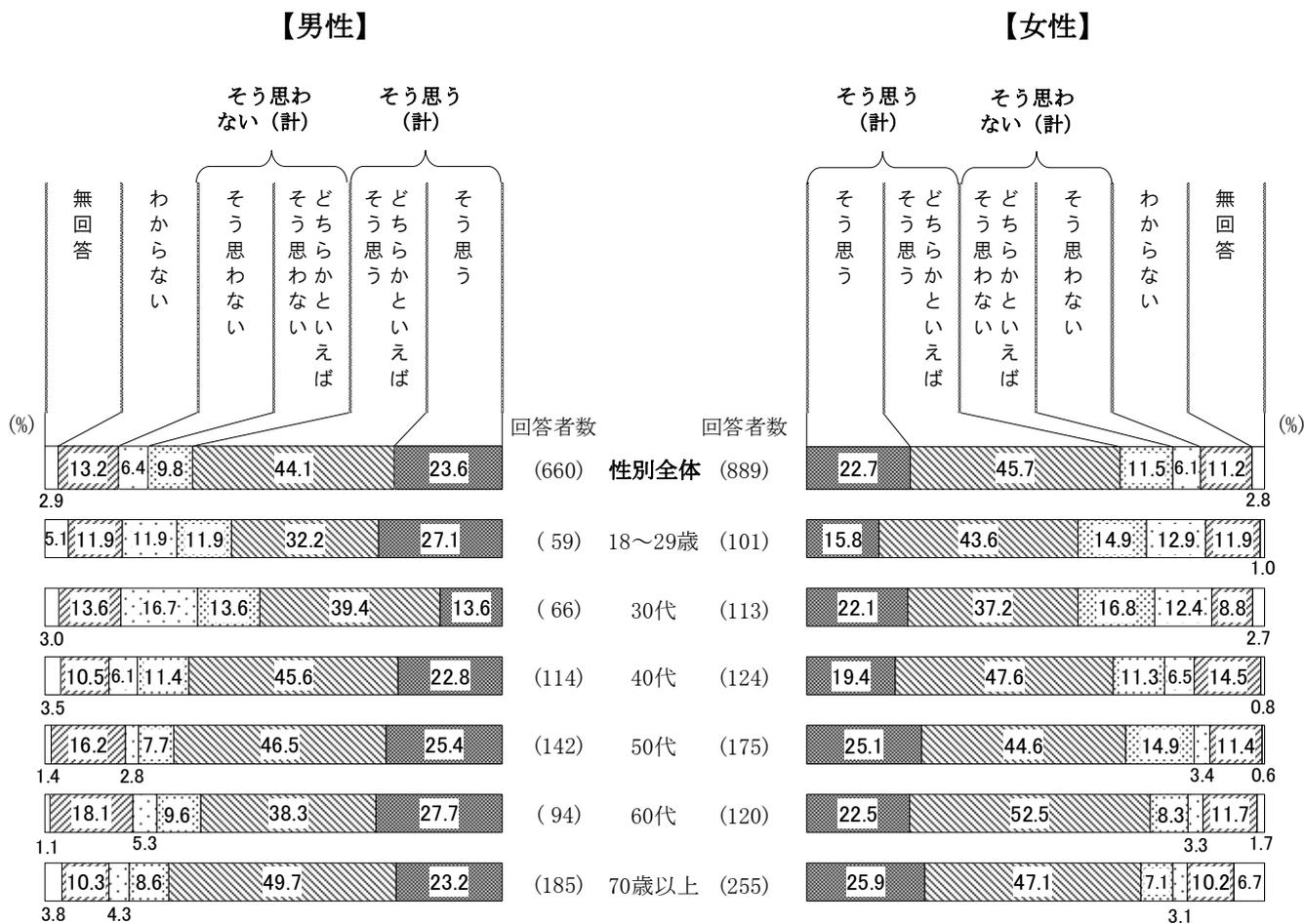


キ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア) 〈足立区に愛着を持っている〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は女性の60代が75.0%で最も高く、次いで男性の70歳以上(73.0%)、女性の70歳以上(72.9%)となっている。一方、【**そう思わない**】は男性の30代が3割で最も高く、次いで女性の30代が約3割となっている。

図11-1-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

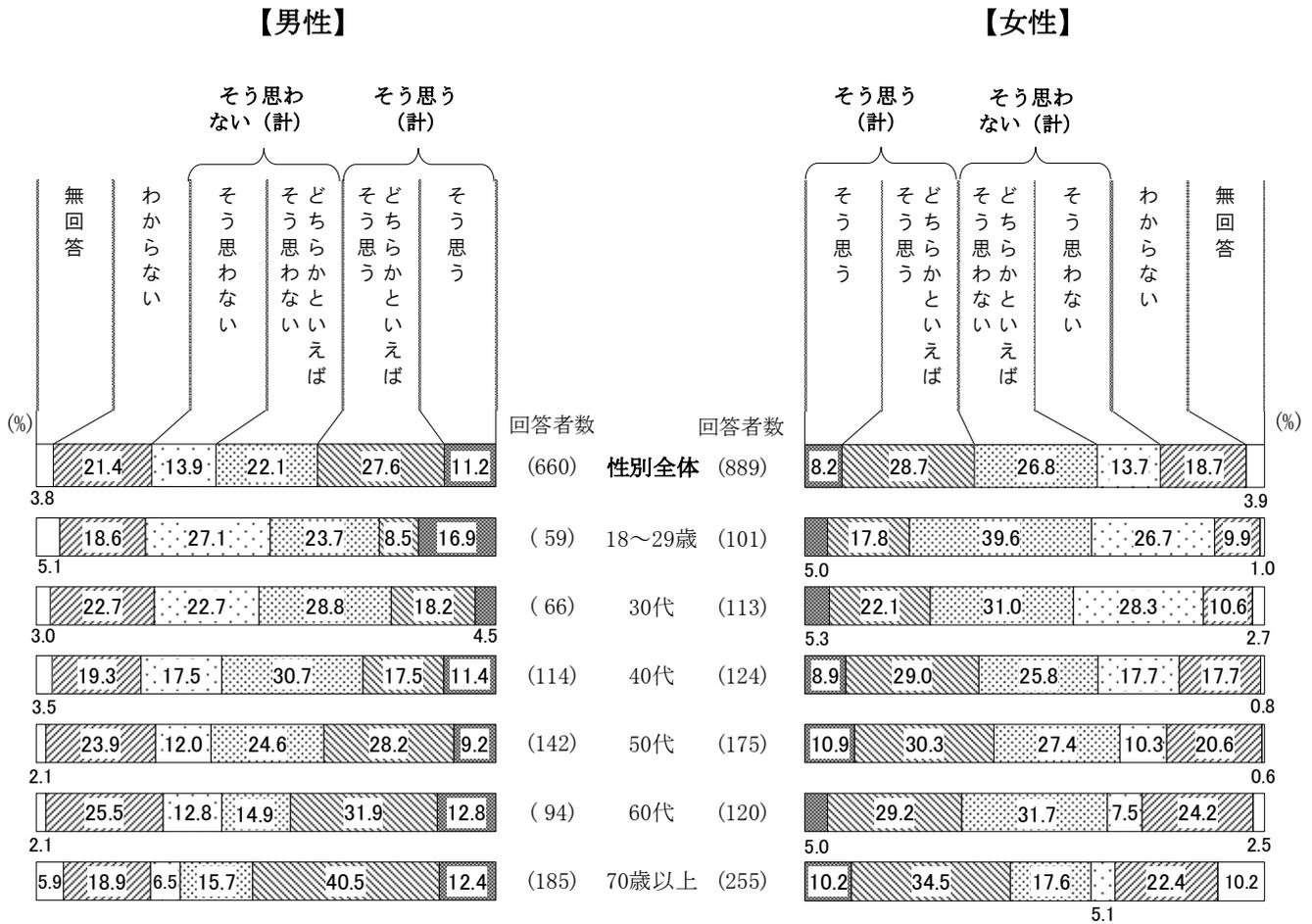


ク クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 〈足立区に誇りをもっている〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は男性の70歳以上で53.0%と最も高く、次いで男性の60代と女性の70歳以上が4割台半ばで続いている。一方、【**そう思わない**】は女性の18～29歳で66.3%と最も高く、次いで、女性の30代が約6割となっている。

図11-1-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

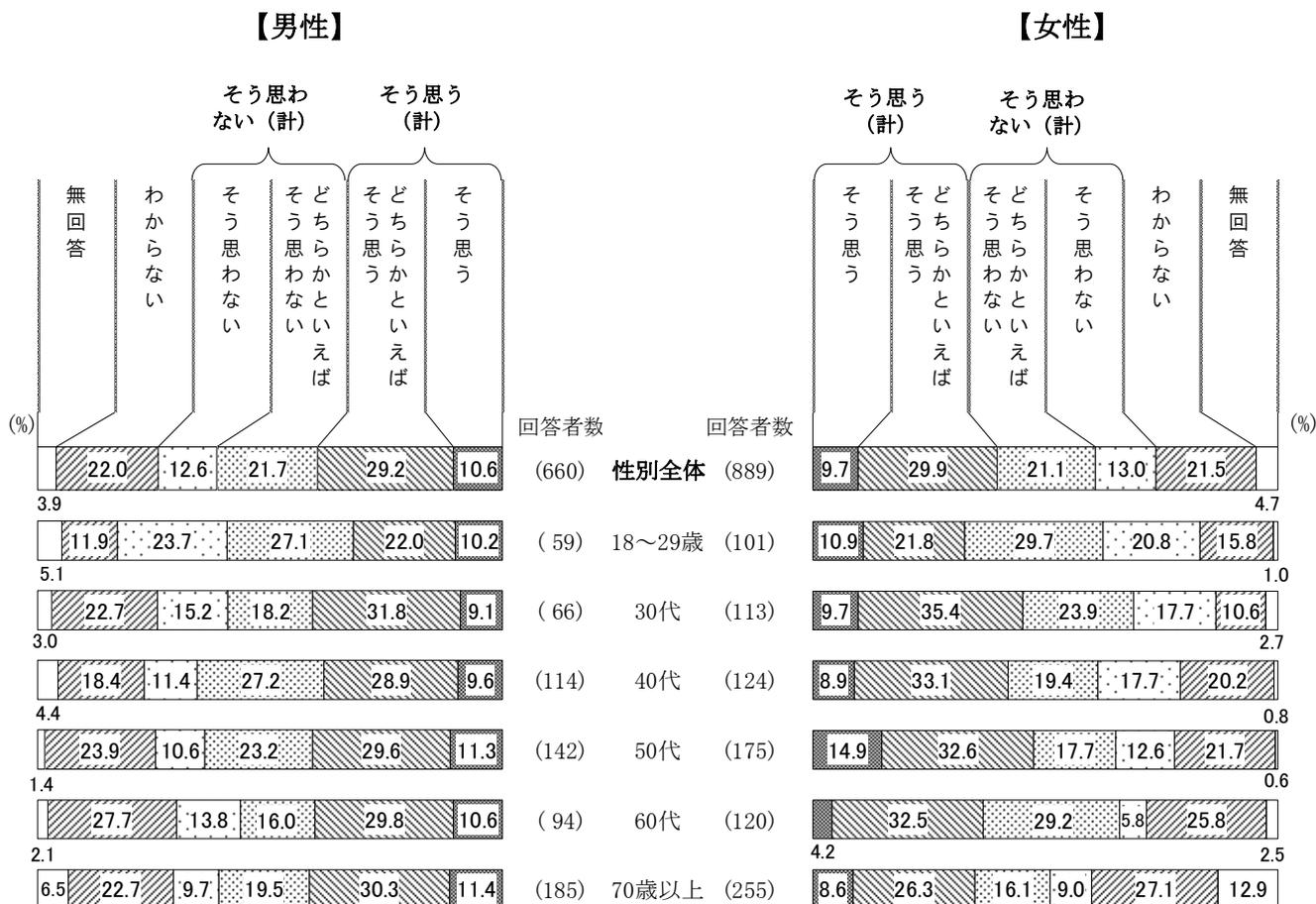


ケ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア) 〈足立区を人に勧めたい〉を性別でみると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、【**そう思う**】は女性の50代で47.4%と最も高く、次いで、女性の30代が4割台半ばで続いている。一方、【**そう思わない**】は男性の18～29歳が50.8%で最も高く、僅差で女性の18～29歳（50.5%）が続いている。

図11-1-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



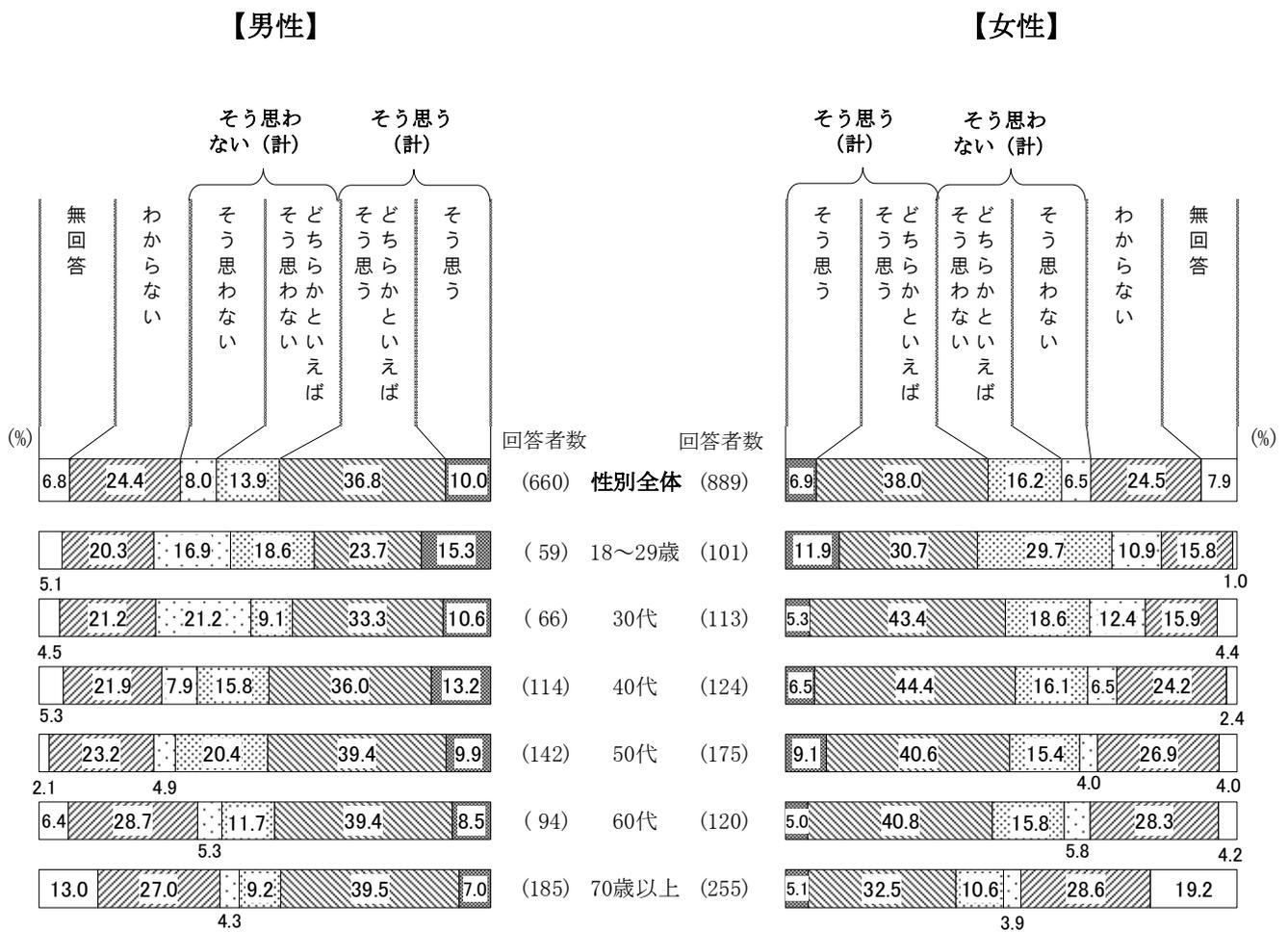
コ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

(ア) 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は女性の40代が50.8%で最も高く、僅差で女性の50代、男性の50代と40代が約5割で続いている。一方、【**そう思わない**】は、男女ともに18～29歳（男性35.6%・女性40.6%）で最も高くなっている。

図11-1-3-④ 性別、性・年代別／区に対する気持ち
／足立区を良いまちにするために何かしたい



サ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち

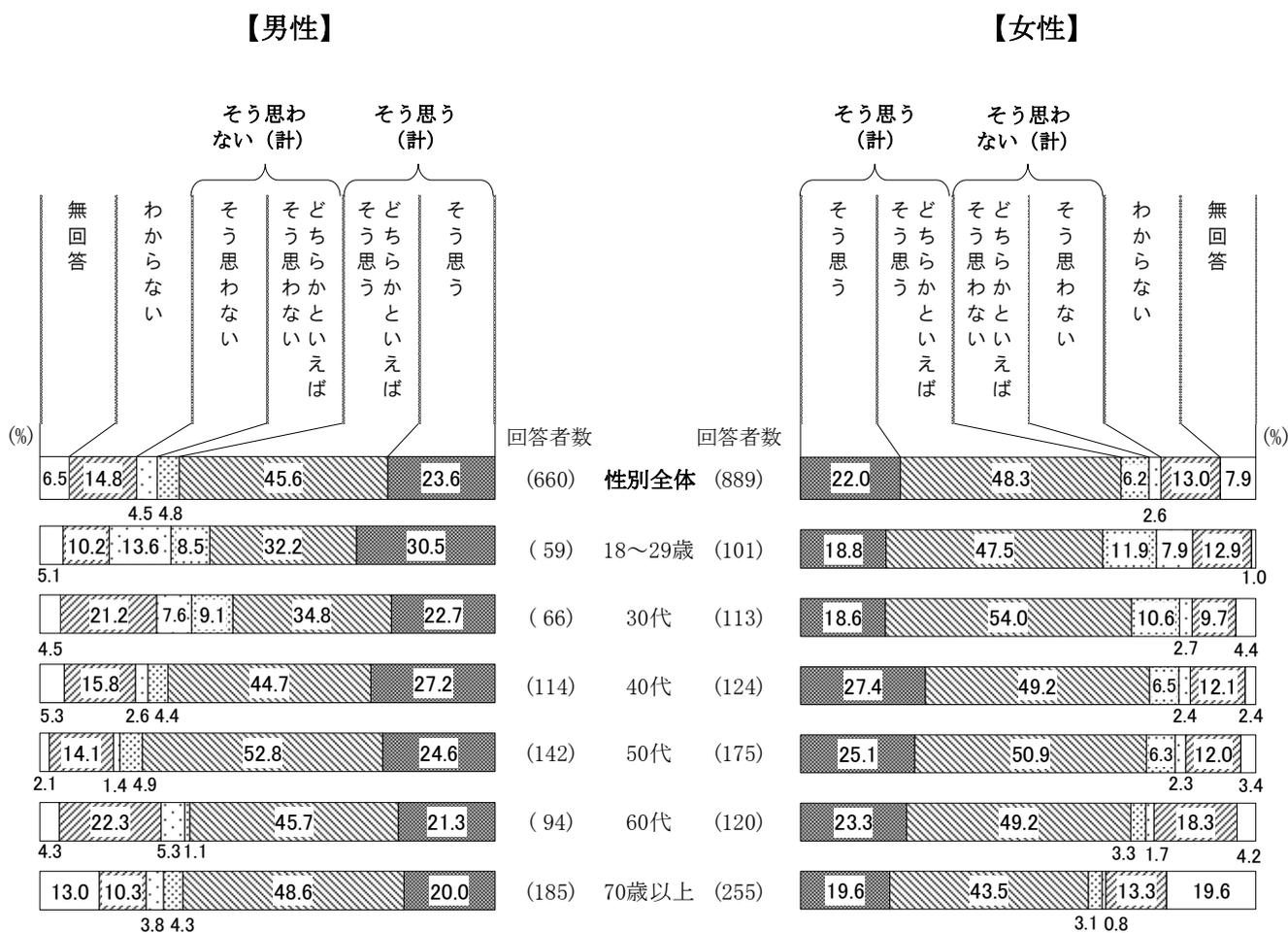
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

(ア) 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は男性の50代で77.5%と最も高く、次いで女性の40代と50代が7割台半ばで続いている。一方、【**そう思わない**】は男女ともに18～29歳（男性22.0%・女性19.8%）で最も高くなっている。

図11-1-3-⑤ 性別、性・年代別／区に対する気持ち

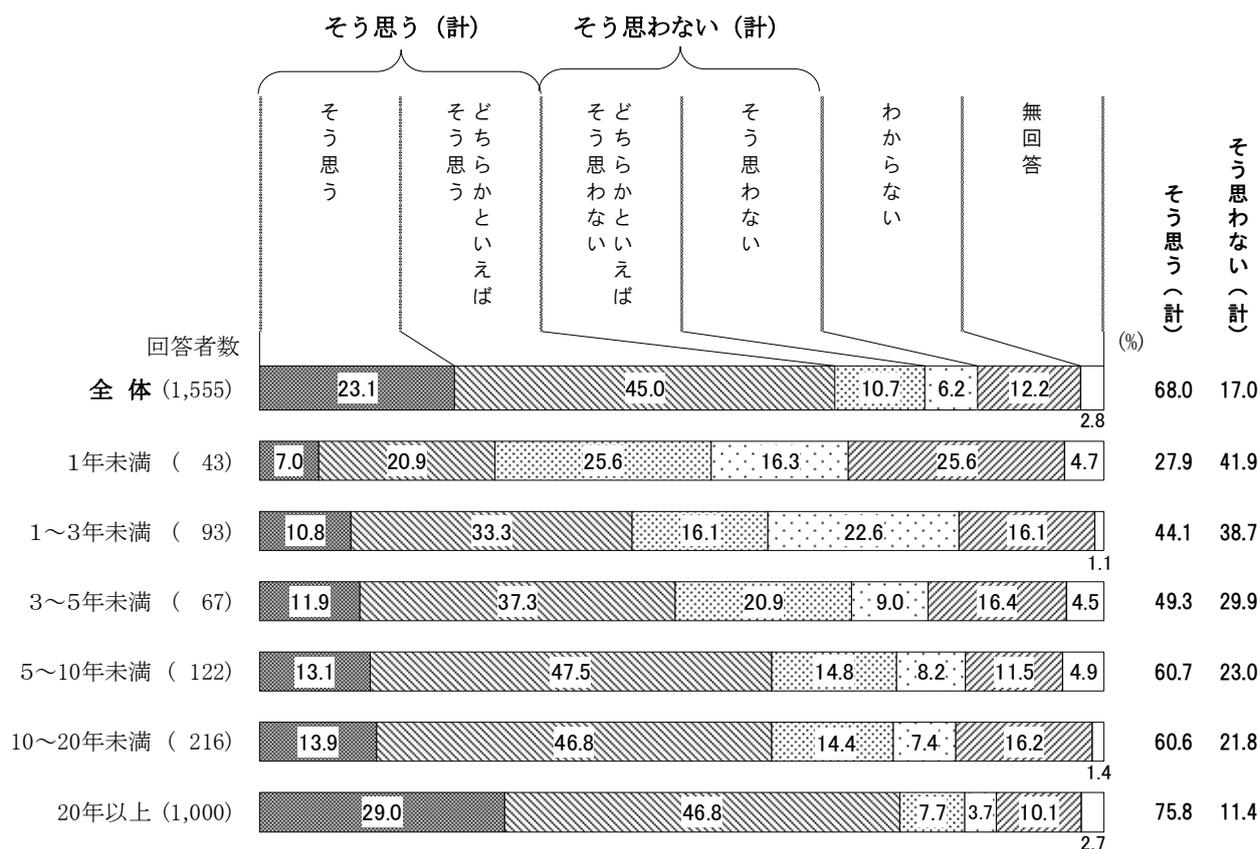
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



シ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着を持っている〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1年未満で27.9%と最も低く、居住年数が長くなるほど割合も高くなり、20年以上で75.8%と最も高くなっている。一方、【**そう思わない**】は、1年未満で41.9%と最も高く、20年以上で11.4%と最も低くなっている。

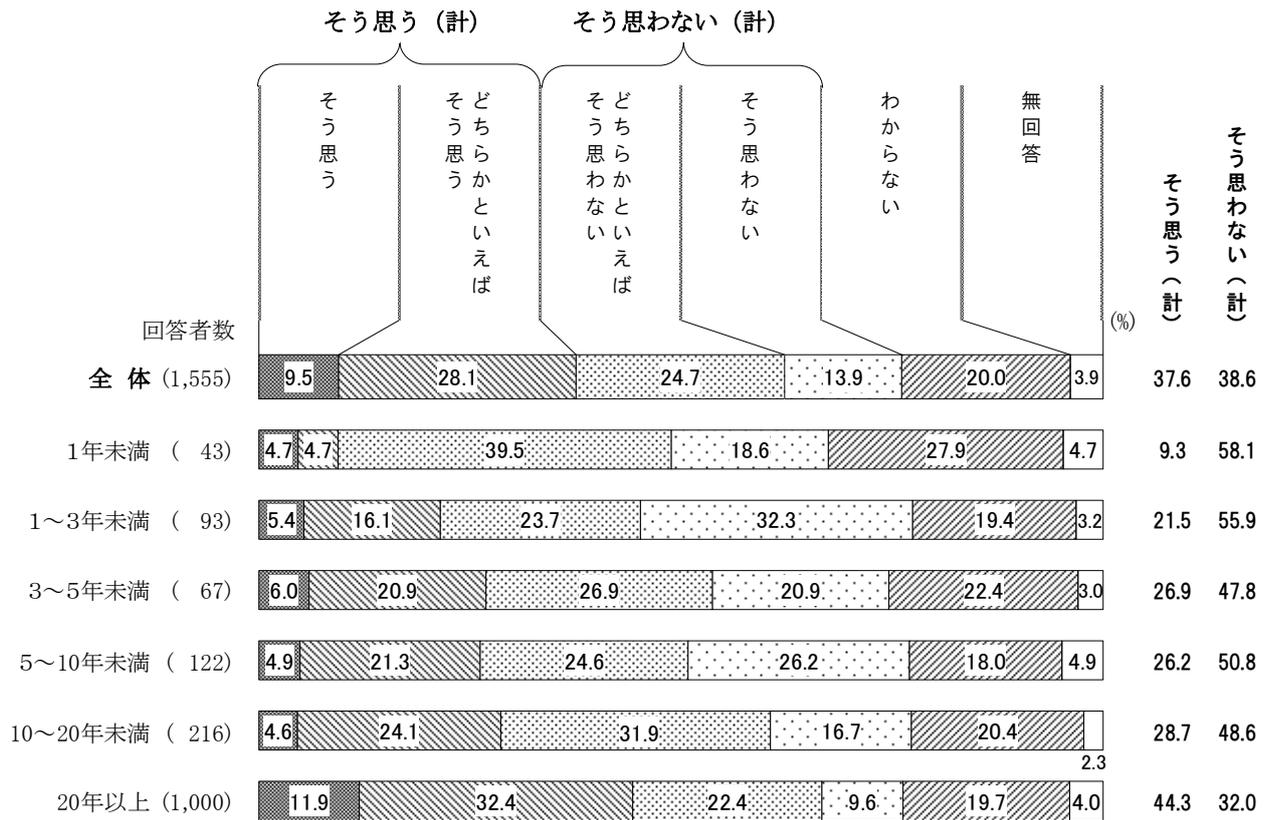
図11-1-4-① 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ス クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りを持っている〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1年未満で9.3%と最も低く、居住年数が長くなるほどおおむね割合も高くなり、20年以上で44.3%と最も高くなっている。一方、【**そう思わない**】は、1年未満で58.1%と最も高く、20年以上で32.0%と最も低くなっている。

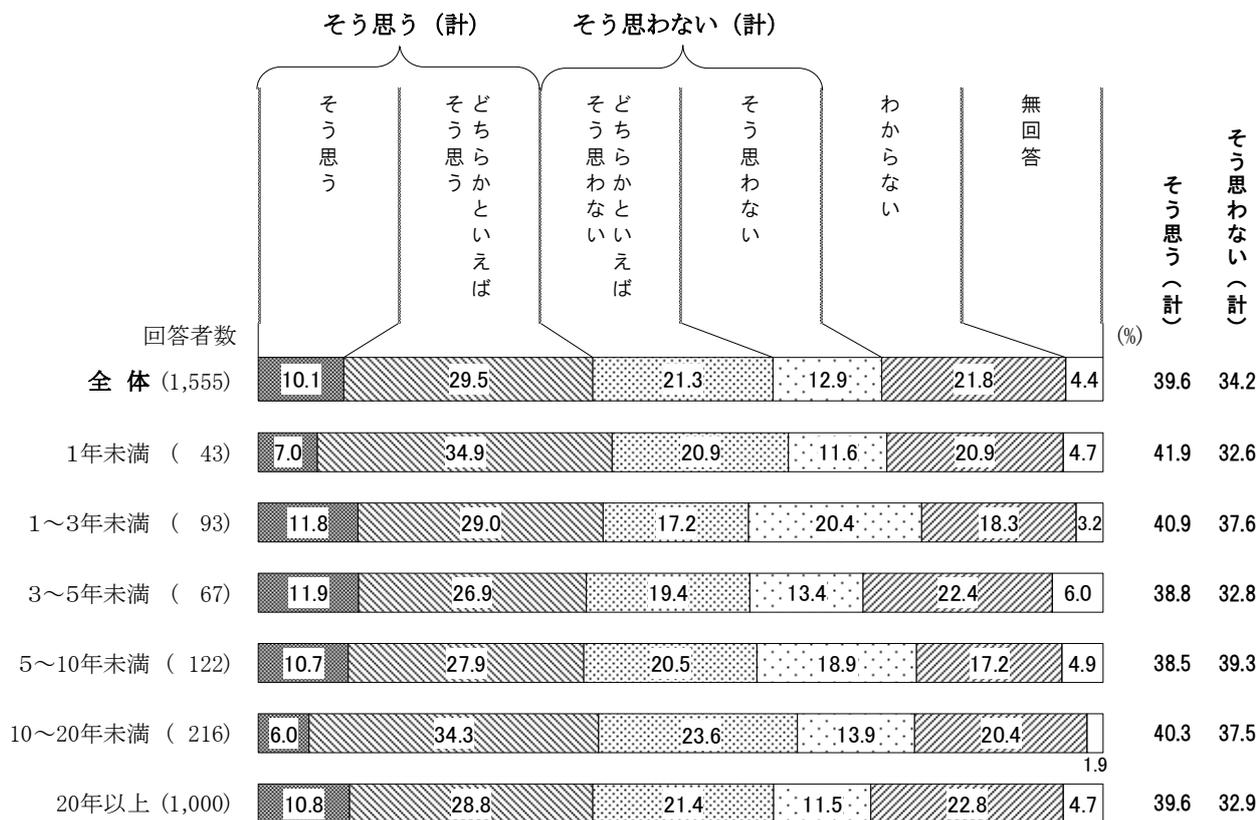
図11-1-4-② 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



セ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を居住年数別で見ると、【そう思う】はどの居住年数でも4割前後と大きな違いはない。一方、【そう思わない】は5～10年未満で39.3%と最も高くなっているものの、居住年数での傾向は特にみられない。

図11-1-4-③ 居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

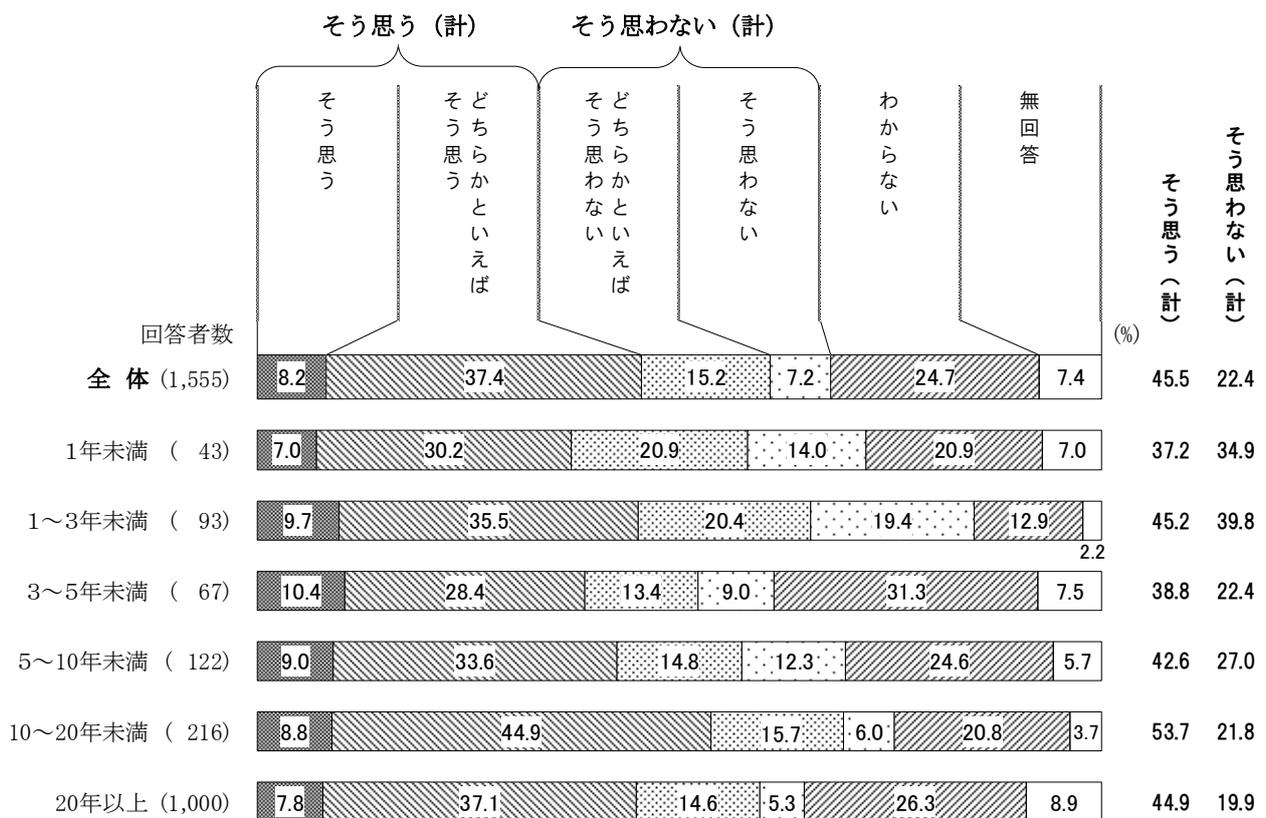


ソ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を居住年数別でみると、【そう思う】は10年～20年未満で53.7%と最も高く、1年未満と3～5年未満で3割台後半と低くなっている。一方、【そう思わない】は1～3年未満で39.8%と最も高く、おおむね居住年数が長くなるほど割合が低くなり、20年以上で19.9%と最も低くなっている。

図11-1-4-④ 居住年数別／区に対する気持ち
／足立区を良いまちにするために何かしたい



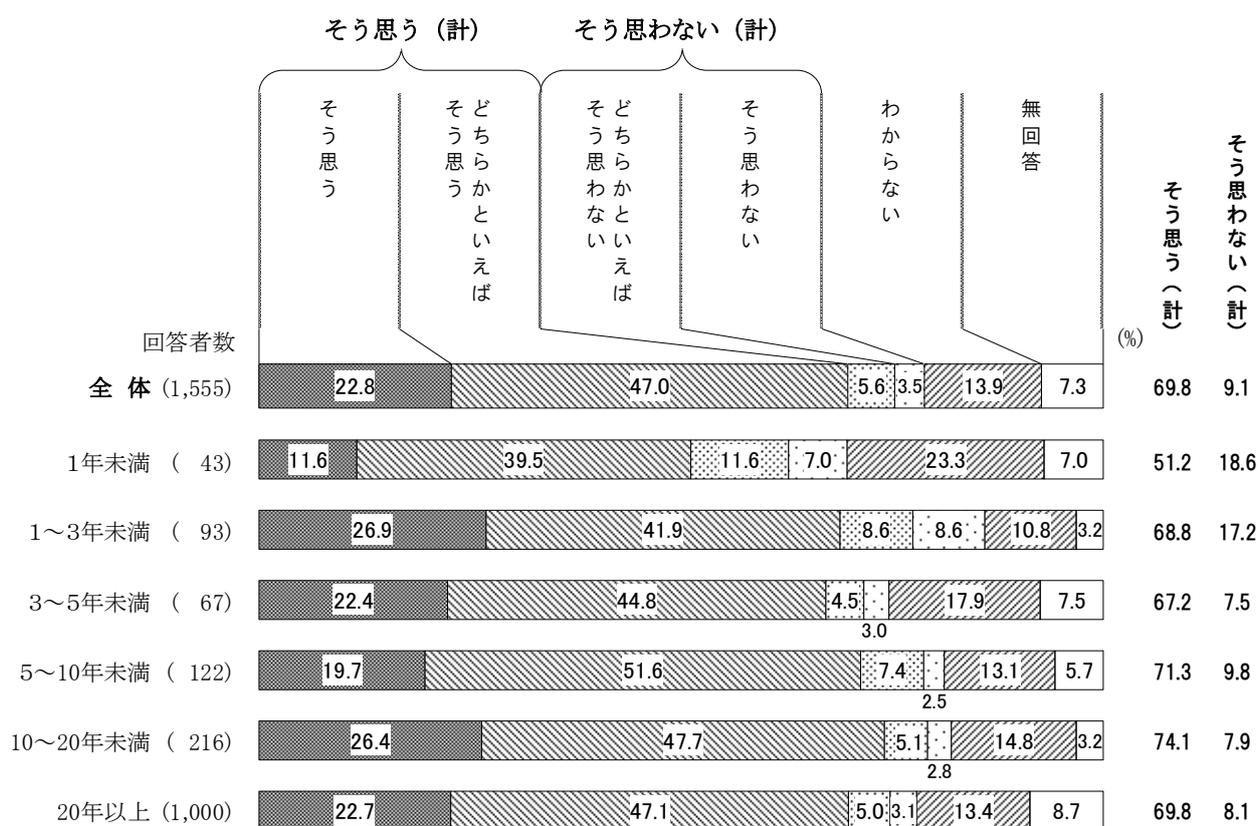
タ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は10～20年未満で74.1%と最も高く、1年未満で51.2%と最も低くなっている。一方、【**そう思わない**】は1年未満で18.6%と最も高く、3年以上では1割未満と低くなっている。

図11-1-4-⑤ 居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

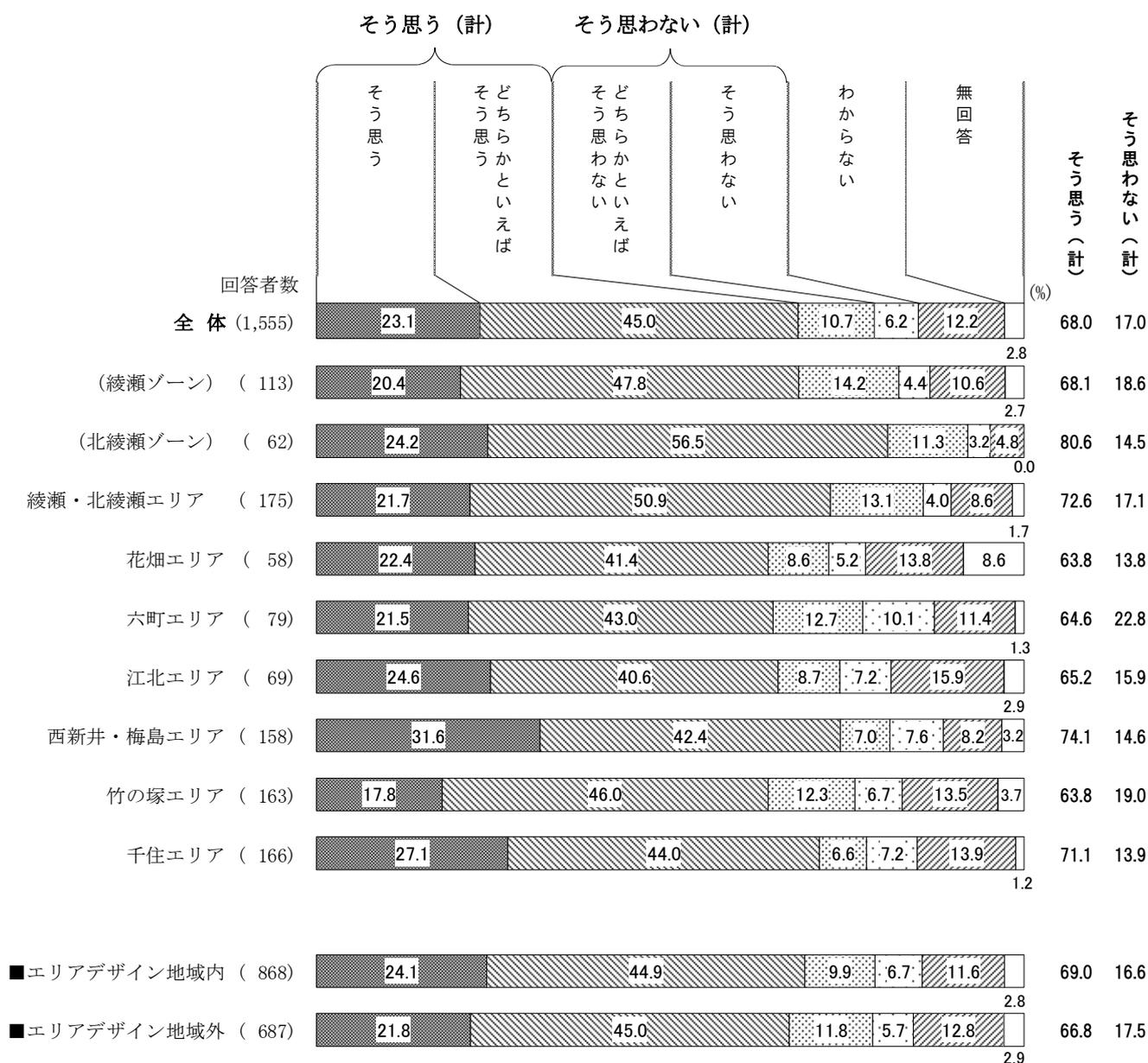


チ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア) 〈足立区に愛着をもっている〉をエリアデザイン別で見ると、【そう思う】は西新井・梅島エリアが74.1%で最も高く、次いで、綾瀬・北綾瀬エリアと千住エリアが7割超で続いている。逆に、花畑エリアと竹の塚エリアがともに63.8%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】【そう思わない】の回答割合に大きな違いはみられない。

図11-1-5-① エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

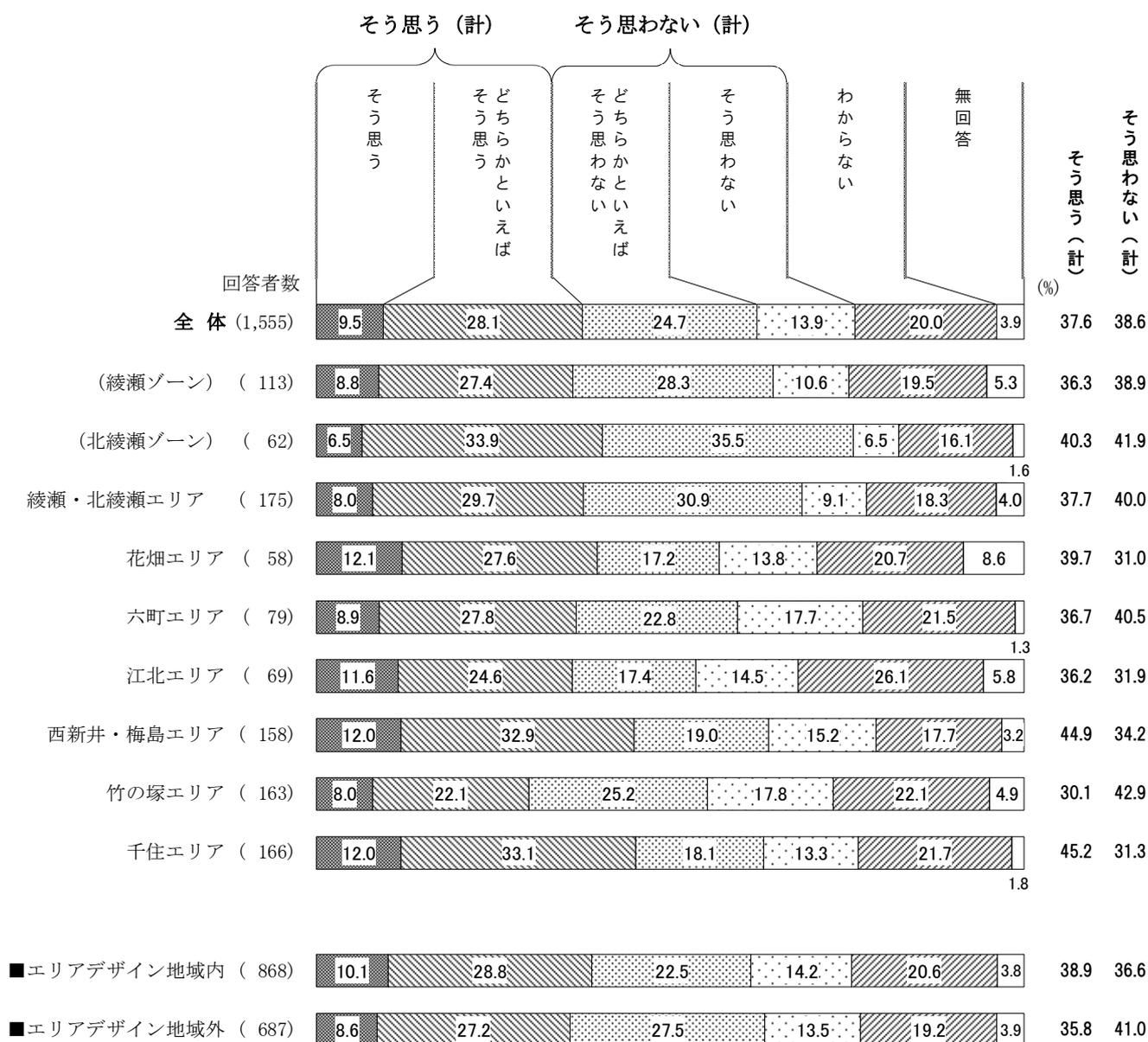


ツ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 〈足立区に誇りをもっている〉をエリアデザイン別でみると、【**そう思う**】は、千住エリアが45.2%で最も高く、次いで西新井・梅島エリア（44.9%）が僅差で続いている。逆に、竹の塚エリアが30.1%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【**そう思う**】は地域内（38.9%）の方が地域外（35.8%）より3.1ポイント高くなっている。

図11-1-5-② エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

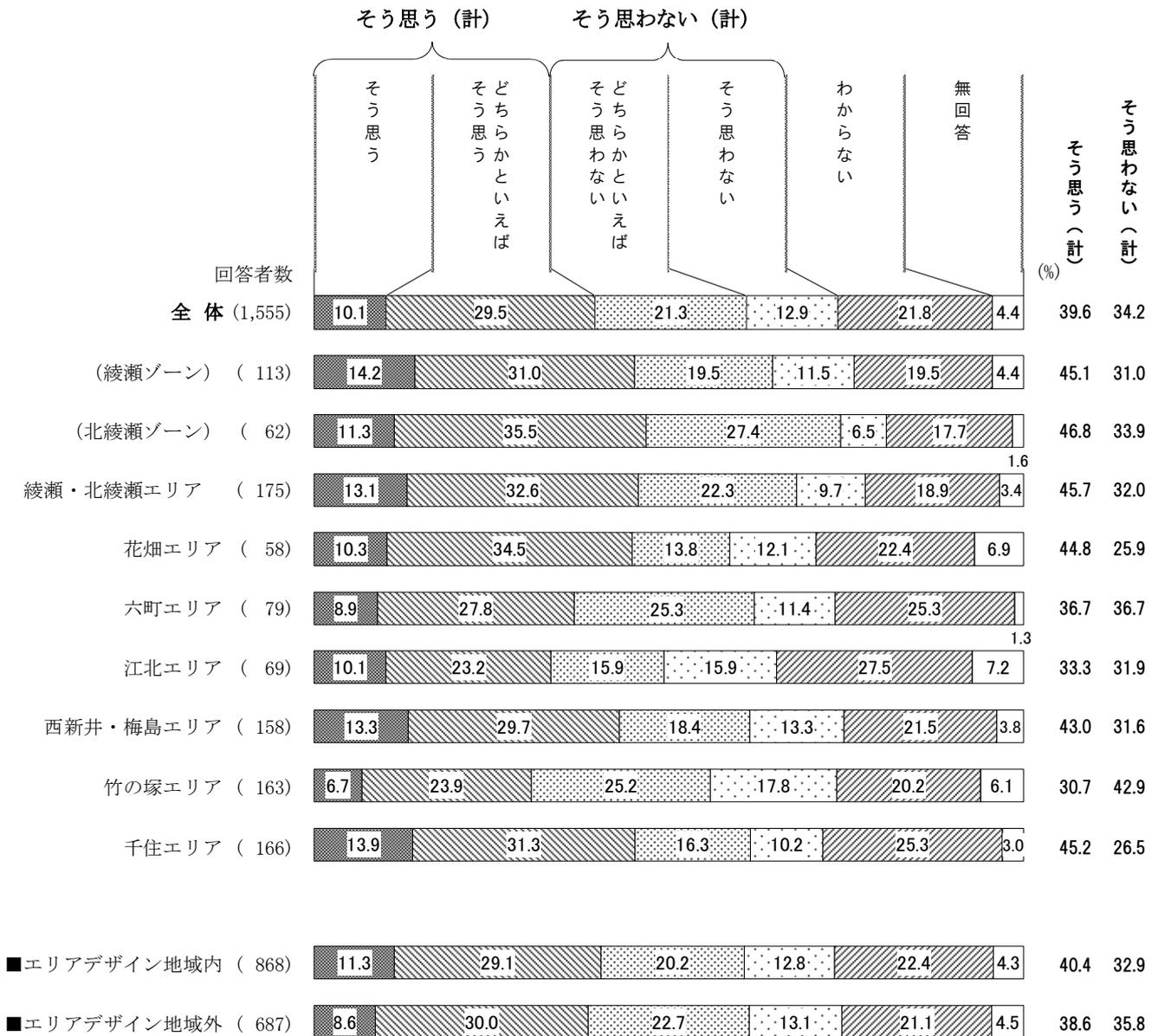


テ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア) 〈足立区を人に勧めたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、綾瀬・北綾瀬エリアが45.7%で最も高く、次いで、千住エリア、花畑エリア、西新井・梅島エリアが4割台半ばで続いている。逆に、竹の塚エリアが30.7%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】【そう思わない】の回答割合に大きな違いはみられない。

図11-1-5-③ エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



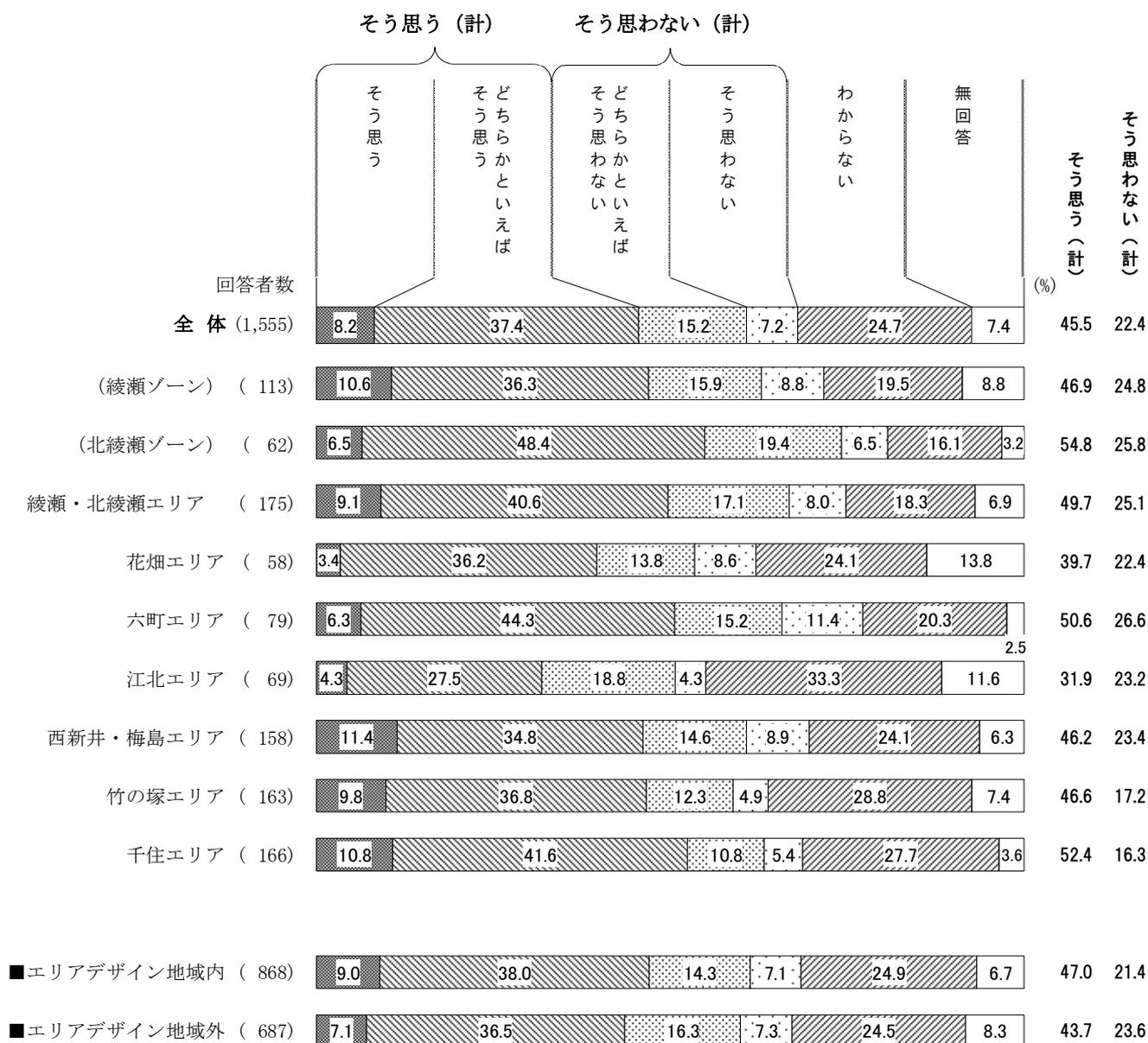
ト クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

(ア) 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、千住エリアが52.4%で最も高く、次いで、六町エリアが50.6%で続いている。逆に、江北エリアが31.9%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内(47.0%)の方が地域外(43.7%)より3.3ポイント高くなっている。

図11-1-5-④ エリアデザイン別／区に対する気持ち
／足立区を良いまちにするために何かしたい



ナ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

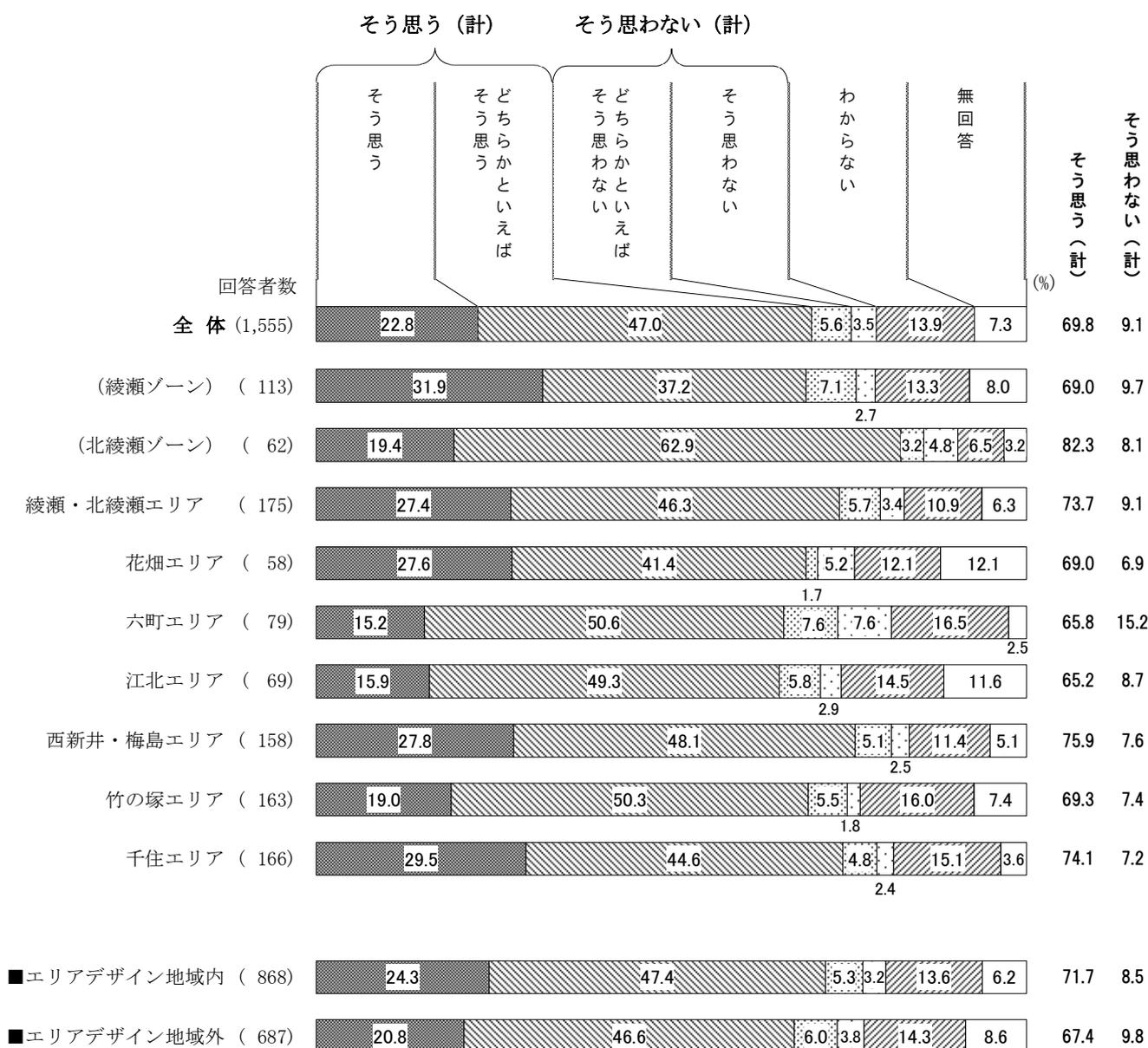
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

(ア) 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉をエリアデザイン別で見ると、【そう思う】は、西新井・梅島エリアが75.9%で最も高く、次いで、千住エリアと綾瀬・北綾瀬エリアが7割台半ばで続いている。逆に、江北エリアが65.2%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内（71.7%）の方が地域外（67.4%）より4.3ポイント高くなっている。

図11-1-5-⑤ エリアデザイン別／区に対する気持ち

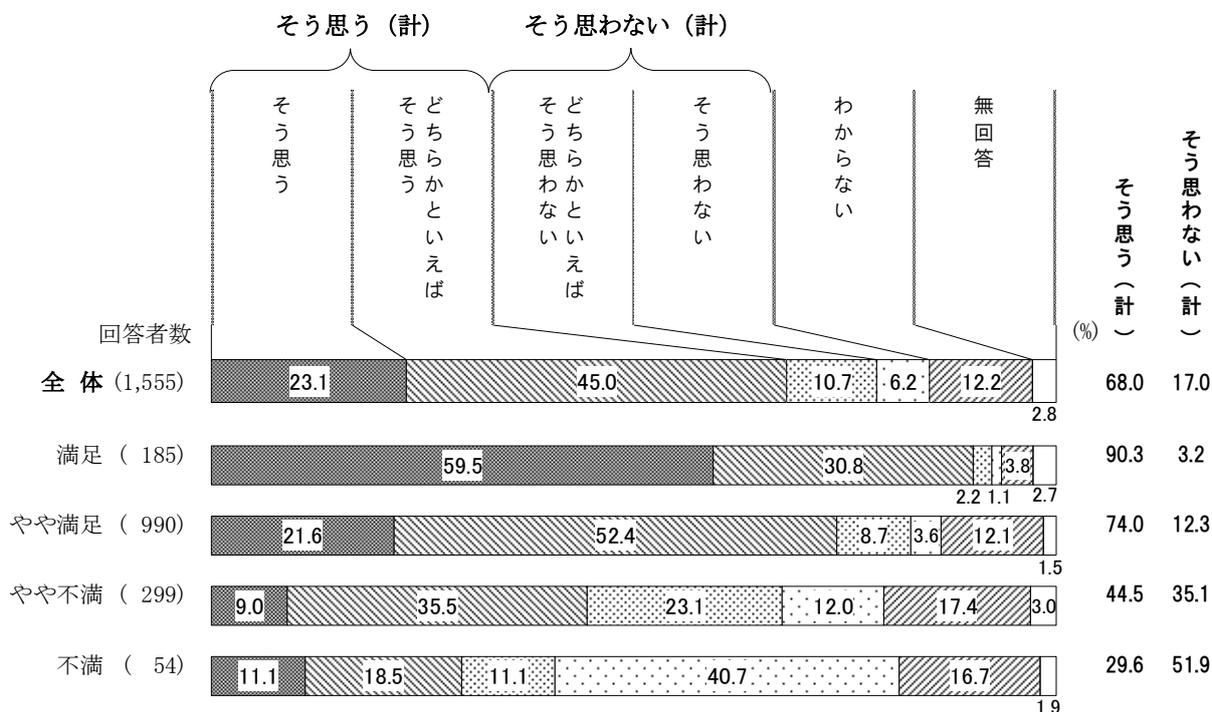
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



二 クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で90.3%と最も高くなっている。

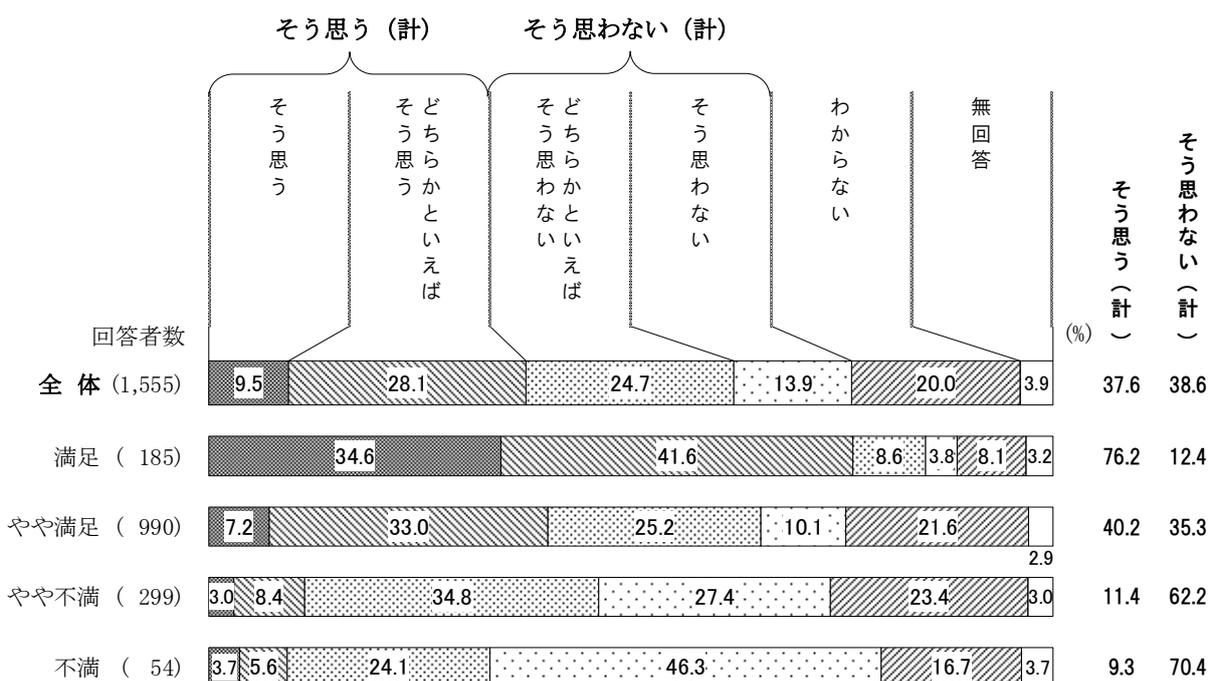
図11-1-6-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



又 クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で76.2%と最も高くなっている。

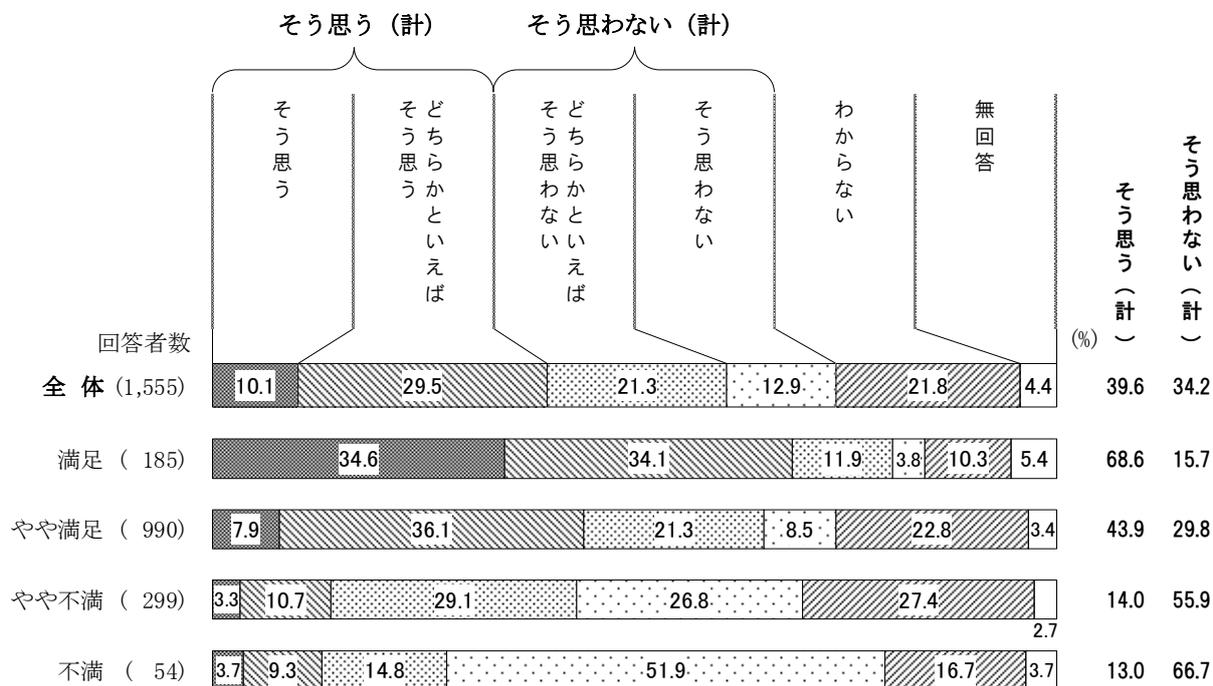
図11-1-6-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



ネ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で68.6%と特に高くなっている。

図11-1-6-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

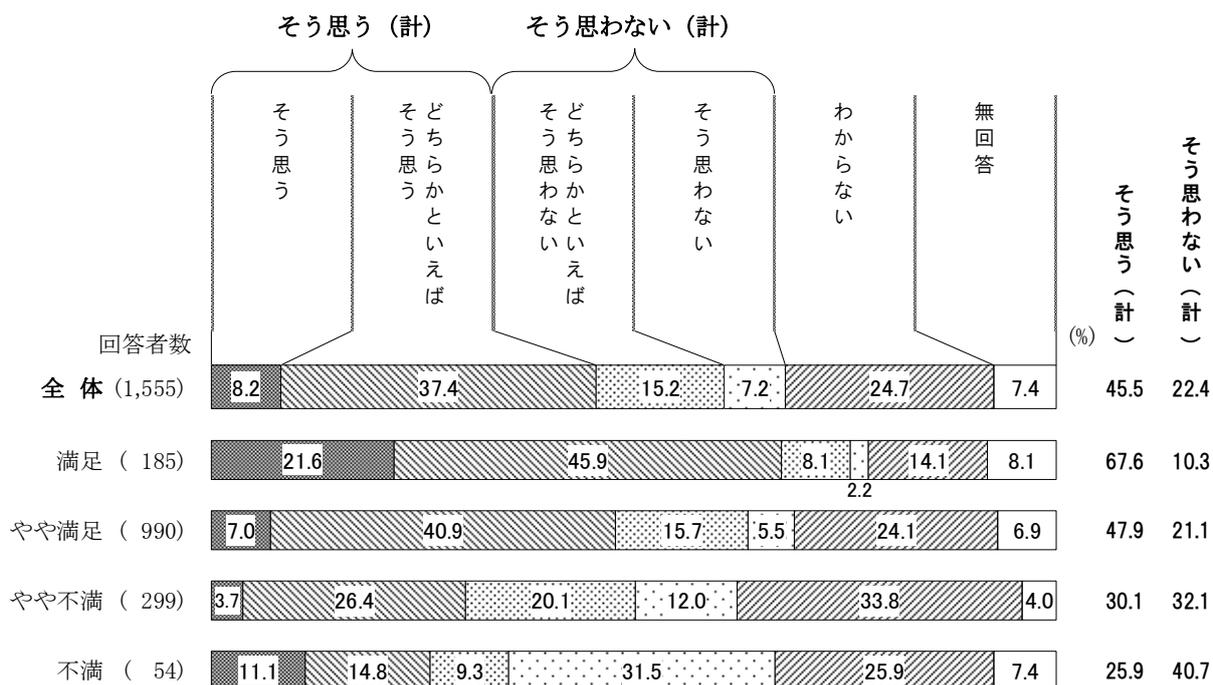


ノ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で67.6%と最も高くなっている。

図11-1-6-④ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



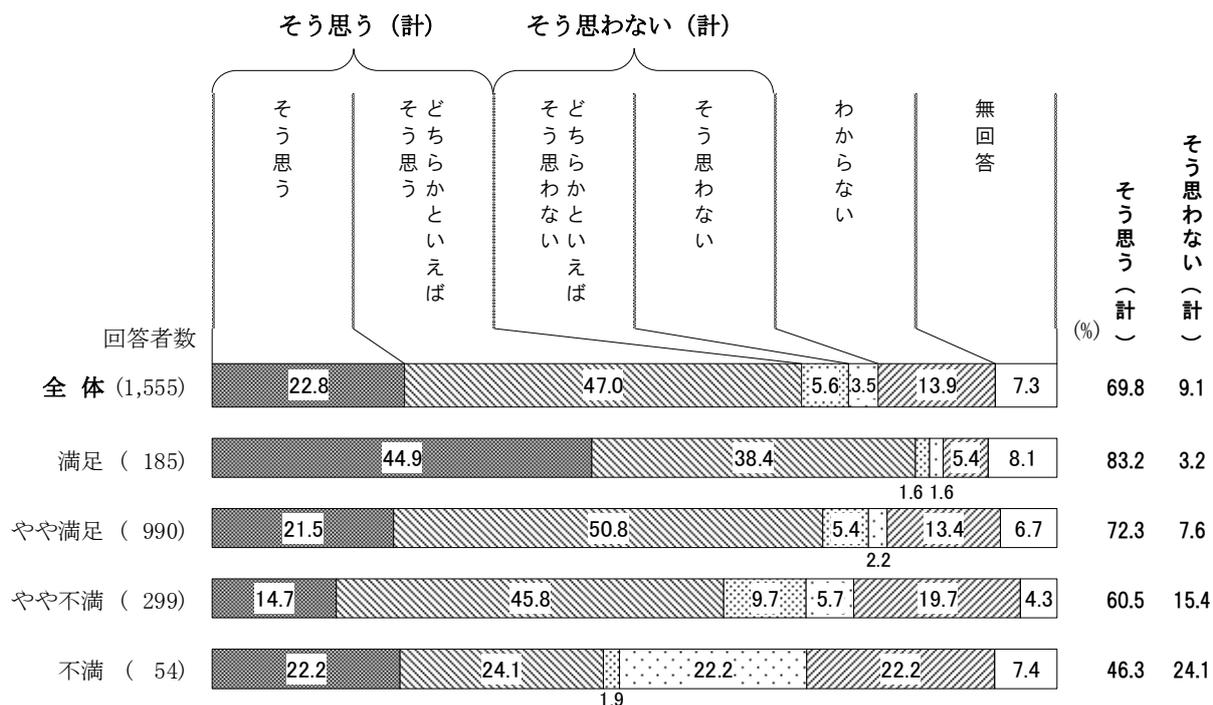
ハ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について、区政満足度別で見ると、【**そう思う**】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で83.2%と最も高くなっている。

図11-1-6-⑤ 区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



ヒ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

(ア) 区政満足層（計）においては、すべての〈気持ち〉で肯定層『そう思う（計）』の割合が否定層（そう思わない（計））」の割合を上回っている。

- ① 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉（+67.1ポイント）
- ② 〈足立区に愛着をもっている〉（+65.7ポイント）
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉（+31.6ポイント）
- ④ 〈足立区を人に勧めたい〉（+20.2ポイント）
- ⑤ 〈足立区に誇りをもっている〉（+14.2ポイント）

(イ) 区政不満層（計）においては、〈気持ち〉の肯定層と否定層の割合に一定の相関は見られず、否定層の割合が肯定層の割合を上回っている〈気持ち〉は3つとなっている。

- ① 〈足立区に誇りをもっている〉（+52.5ポイント）
- ② 〈足立区を人に勧めたい〉（+43.6ポイント）
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉（+3.9ポイント）

(ウ) 区政満足度と各気持ちとの相関は、区政満足層で〈気持ち〉の肯定層の割合が高く、区政不満層で〈気持ち〉の否定層の割合が高いほど相関があるといえ、前に挙げた3つの〈気持ち〉が該当するが、それぞれの割合の差がともに20ポイント以上ある〈足立区を人に勧めたい〉が区政満足度との相関関係が最も大きいといえる。

図11-1-6-⑥ 区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

		ア いる 足立区に愛着をもつて		イ いる 足立区に誇りをもつて		ウ 足立区を人に勧めたい		エ る 足立区を良いまちにするために何かしたい		オ る 足立区を良いまちにするために共感する	
		(計) そう思う	(計) そう思わない	(計) そう思う	(計) そう思わない	(計) そう思う	(計) そう思わない	(計) そう思う	(計) そう思わない	(計) そう思う	(計) そう思わない
区政満足度	全体	68.0	17.0	37.6	38.6	39.6	34.2	45.5	22.4	69.8	9.1
	満足層(計)	76.6	10.9	45.9	31.7	47.8	27.6	51.0	19.4	74.0	6.9
	不満層(計)	42.2	37.7	11.0	63.5	13.9	57.5	29.5	33.4	58.4	16.7

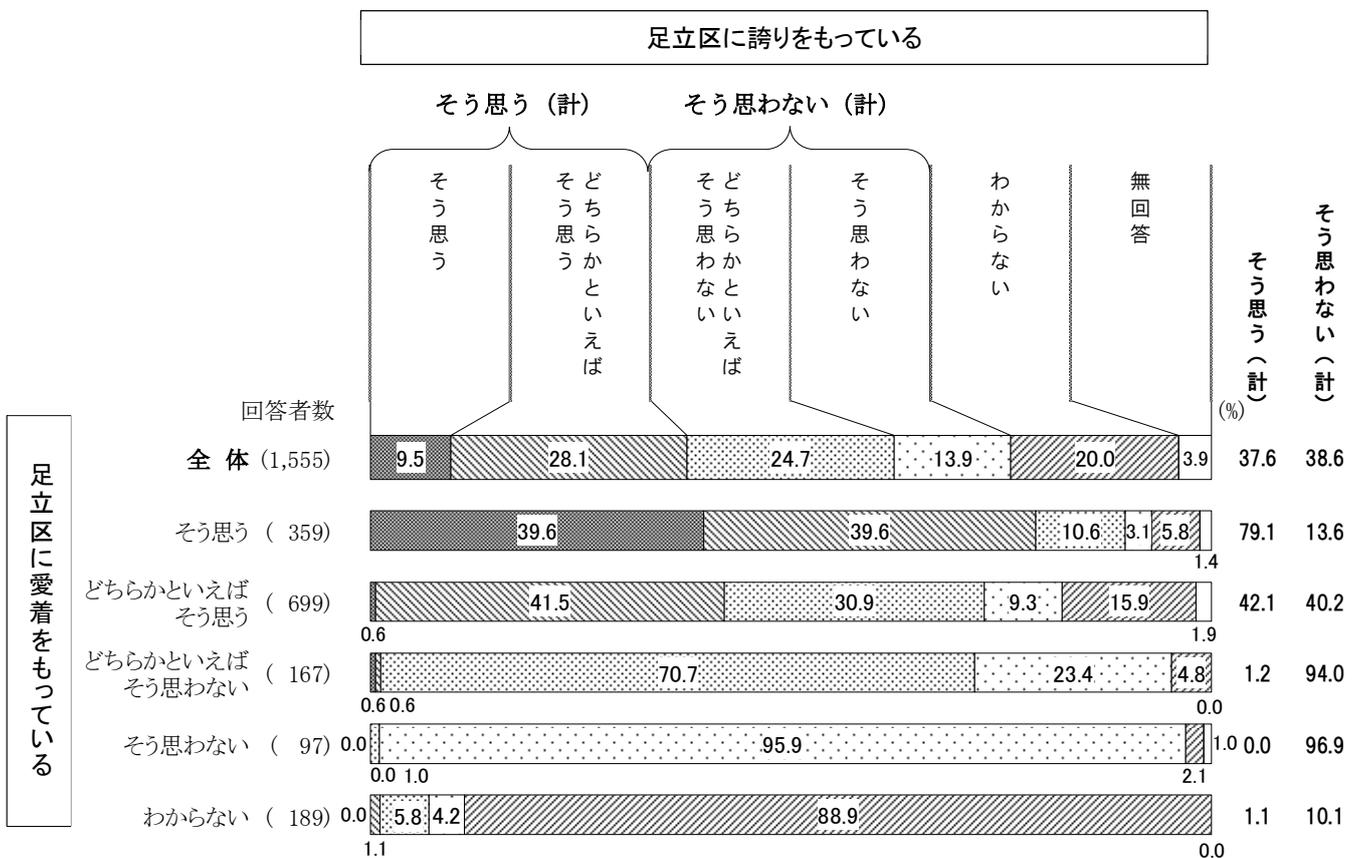
肯定層が20ポイント以上高い
否定層が20ポイント以上高い

フ クロス集計・区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 区への愛着度別に『区に誇りをもっている』をみると、愛着度が強まるにつれて【(『区に誇りをもっている』) そう思う】の割合は増加し、『区に愛着をもっている』で〈そう思う〉と回答した層では79.1%を占めており、【(『区に誇りをもっている』) そう思わない】は13.6%に過ぎない。

(イ) 『区に愛着をもっている』で〈そう思わない〉と回答した層で【(『区に誇りをもっている』) そう思う】と回答した割合は0.0%で、【(『区に誇りをもっている』) そう思わない】(96.9%) がほぼすべてとなっており、『区に愛着をもっている』と『区に誇りをもっている』が強い正の相関関係にあることがわかる。

図11-1-7 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(2) 区に対する気持ち(愛着、誇り、人に勧める)の具体的な内容(自由回答)

問47-1 問47の項目のア. イ. ウで、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた理由をお書きください。

問47-2 問47の項目のア. イ. ウで、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

■ “愛着をもっている”理由は「地縁・居住期間」、 “誇りをもっている”理由は「地縁・住みやすさと・生活環境」、 “人に勧めたい”理由は「住みやすさ・物価・交通網」

前問の3項目(「ア 足立区に愛着をもっている」「イ 足立区に誇りをもっている」「ウ 足立区を人に勧めたい」)において、〈そう思う〉〈どちらかといえばそう思う〉と回答された方には【賛同の理由】を、また、〈どちらかといえばそう思わない〉〈そう思わない〉と回答された方には【反対の理由】をそれぞれ自由記述で聴いたところ、下表のとおり具体的な理由の記述をいただいた。

気持ち	ア 愛着		イ 誇り		ウ お勧め	
	件数	%	件数	%	件数	%
そう思う (理由記述あり)	1,058 (824)	68.0 (53.0)	584 (385)	37.6 (24.8)	616 (469)	39.6 (30.2)
わからない	189	12.2	311	20.0	339	21.8
そう思わない (理由記述あり)	264 (170)	17.0 (10.9)	600 (409)	38.6 (26.3)	532 (336)	34.2 (21.6)

(n=1,555) (割合は対全体)

以下に、記述いただいたそれぞれの理由を分野別に分類し、それぞれの分野で「そう思う＝○」「そう思わない＝●」の中から一部を抜粋して記載する。

愛着

■ 地縁／居住期間 (○524件 ●90件)

- 生まれも育ちも足立区だから。
- 50年以上住んでいます。とても住みやすい町です。
- 30年近く住んでいるので、住めば都という感じ。
- 生まれ、育ち、働いてきた街だから。
- 自分が育ってきた場所ではないので。
- 住んで1年未満なので町のことがよく分かっていない。
- 愛着を持つ程長く住んでないから。
- 3年程度しか住んでおらず、地元の愛着のほうが強いから。

■ 住みやすさ (○107件 ●2件)

- アクセスもよく住みやすいため。
- そこそこの年数住んでおり、目立ったトラブルもなく平穏に過ごせているので。
- 引っ越してみても住みやすい街だと感じたため。

○足立区の事を小馬鹿にしたようなメディアが多いが、実際に住んでみると言われる程悪くなく、住みやすい街なので。

●暮らしやすいと心底感じない。

●住んでいても愛着が湧かない。

■ 人情味がある・友人がいるから（○67件 ●3件）

○長く住んでいて知人も多くなり生活しやすいから。

○子どもと歩いていると声をかけられることが多く、人との距離が近い気がするから。

○人情味がある、気取らずに自然体で生きられる町。

○都内を転々と引っ越してきたが、足立区は人の繋がりが第二の故郷のような感覚。

●知人がいない。

●いい街にしようとしている人がいない。

■ 生活環境・公園・自然（○39件 ●4件）

○近所に緑や公園が多く静かな住宅街なので安心して暮らしている。

○便利で静かに生活できる。

○都心へのアクセスが良好なわりに適度な自然がある。

○子どもと過ごせる公園や場所がある。

●幼児期の子育てにはとても環境が良かったが、小・中学校と上がる程環境が悪くなった。

■ 買い物等の利便性（○25件 ●2件）

○商店街が充実している。

○坂が少なく、病院・スーパーも近くにあって、高齢者でも暮らしやすいと考えている。

○駅前通りに活気があって利便性があるから。

●何年住んでいても他の地域の便利さに劣ると思う。

●交通の便が悪く、近所にスーパーもなくて不便なため。

■ 現在住んでいるから（○20件）

○住んでいるので愛着はあります。

○現在住んでいる町だから。

○生まれも育ちも、現在も足立区で生活している為。

○自分が選んで住んでいる街だから。

■ 交通網・道路網（○17件 ●2件）

○交通の便が良い。

○舎人地区に入居して45年、過疎地が現在はライナーも走り良い地域です。

○都心に出やすい。

●足立区役所まで「はるかぜ」が来ないし、不便。

■ 物価（○13件）

○物価が安く、住みやすい。

○物価は安い方かと思います。

■ 区政・福祉（○12件）

- 行政の頑張りが見えるから。
- 近藤区長の先頭きって清掃活動する姿などお見かけして自分も微力ながら自宅付近ですが美化につとめるようになりました。
- 福祉全般に見て、他区に比べて良い様に思われる。

■ 治安・防犯（○11件 ●16件）

- 安全な町だと思うから。
- 思ったより治安もいいし住みやすい。
- 昔に比べて安全になり、民度も上がってきた気がする。
- 住んでいて便利で、治安が年々よくなっている。
- 治安があまり良くないから。
- 育った地域より怖い思いや嫌な思いをしたことが多いため。
- ポイ捨てや吐しゃ物をよく見かけてあまりきれいなイメージがないので愛着がわからない。

■ 街のイメージ（○5件 ●10件）

- 生活しやすいいい街だと思う。「23区の底辺」と言われてしまうこともあるが、気取ってなくて愛着がわく。
- 有名人も何人も足立区出身がいるし、住みやすい。
- ゆっくり時間が過ぎている街だから。
- 雰囲気がいい。
- イメージが先行してしまっている。本来はそうではないのかもしれませんが。
- 都内でのイメージがあまりよくないため。
- 街中の人に活力を感じないから。

■ 発展性（○3件）

- 変わってゆく足立区を見てきたから。
- 課題に対して積極的に政策をとっている印象があり、年々住み良い街になっているから。

■ その他（○19件 ●44件）

- 特に不満はないから。
- 生涯住もうと思う。大事にしたい。
- 足立区が好きだから。
- 特別愛着を持つほど、良い町ではない。
- 愛着を持つまで足立区のことを分かっていない。
- 特に考えたことがなく、どちらとも言えない。

誇り

■ 地縁／居住期間（○57件 ●54件）

- 生まれ育った街だから。
- 自分のふるさとだから。
- 長く住んでいるとそう感じる。
- まだ住んで間もなく、出身地の方に愛着がある。

- 誇りを感じるほど長くは住んでいない。
- 住んで数年なので誇りを持つとかそういう思いはない。

■ 住みやすさ（○52件）

- 住み心地が良いから、誇りに思う。
- 住んでいて暮らしやすい地域だと感じる。
- 子育てもしやすく、住みやすいから。

■ 生活環境・公園・自然（○51件 ●10件）

- 都内の中では比較的自然が多い。
- 緑が多く、道路や歩道も整備されていてきれいな為。
- ゴミが少なく、緑も花も多くなってきたと思う。
- 足立区の中心と郊外の差が激しくて東京の僻地感がする。
- 改善はされてきているが、街が汚いから。
- 生活環境が決して良いとは言えないから。

■ 人情味がある・友人がいるから（○42件）

- 親切で温かい人が多いから。
- さまざまな人種の人々が仲良く暮らしている。
- 地元、地域の人達とのつながりが強いから。
- ほとんどの方が親しみやすく、話しやすく、背伸びする必要もなく、住みやすい。

■ 区政（○28件 ●9件）

- 今の区長になってから、とても良い区になってきたので。
- 行政サービスが良いと思うから。コロナ初期、休園、休校の判断が早かった。
- 過去の悪いイメージを払拭するべく、区が努力しているのを感じるから。
- 他の区より税の面で徴収が高いのに援助がない。他の区は介護されている人に支給されている紙パンツなどの支給がない。
- 区政から凄いと思える事を感じないから。

■ 福祉・教育（大学誘致等）（○24件 ●10件）

- 障がい者・高齢者に対して生活や支援に取り組んでいる。
- 学校の給食にも力を入れてくれている。
- 近年は防犯や大学誘致に力を入れ、イメージがぐっと良くなったと思う。
- 大学などの教育機関や文化施設が増えた。
- 特に文化的、教育的にすぐれた区であると思わないから。
- 学力が低い。勉強に対する意識の低さ。
- 高齢者に対して支援が足りない。

■ 街のイメージ（○21件 ●88件）

- 街がどんどん変わっていき、テレビにも出るようになったから。
- 活気がある。
- 最近では北千住が住みたい街ランキング上位である事。
- どんなに治安が良くなってきてもニュースになると「また足立区」「やっぱり足立区」

と言われてしまうので。

- 他区の方からみると、足立区の印象がよくない。
- 足立区＝治安が悪いというイメージが全国的に定着しているように思うため。

■ 治安・防犯（○20件 ●62件）

- 以前より治安が良くなったと感じる。
- 年々、安全・安心になっている。
- 治安改善や街の発展が進んでいるから。
- 過去は軽犯罪が多かったが今ではとても改善しているし、今後も良い街になるのではと期待しています。
- 犯罪が多い町と言われているので誇れない。
- まだニュースで足立区での発生、足立区民による犯罪を目にする。
- やはり犯罪の数が多い印象がぬぐえない。
- 他の区に比べるとまだ治安が悪い。

■ 歴史・観光・施設（○16件 ●4件）

- 病院が多く安心です。
- 土地も広く、花火大会もあること。
- 歴史もある街だと思うから。
- 特に自慢できる施設もない。
- 文化的な施設やイベントが少ないように思う。

■ 買い物等の利便性（○14件 ●1件）

- 生活に必要なものは全て身近にあるから。
- 利便性が高い。
- 商業施設が整っているから。
- スーパーが近所になから。

■ 交通網・道路網（○12件 ●1件）

- 公共の交通が多く便利。
- 50年住んで交通網が発達した。
- 舎人ライナーがある。
- 都心に出るのに時間がかかる。

■ 現在住んでいるから（○12件）

- ここに住んでいく以上は誇りを持ってもっと良い環境にしたいと感じるからです。
- 自分が住んでいる所だから。
- 自分が住んでいる場所は誇りに思うべきと思うから。子どもの頃から、学校で配られるものなどでビュー坊に触れているため、そのあたりのキャラクター戦略はうまくいっているのではないかと思う。

■ 知名度（○9件）

- 地方に行っても「足立区」を知らない人がいないので。
- 歴史もあるが、最近住みやすい街で注目されているから。

○テレビでよく取り上げられている。

■ 発展性（○8件）

- 全体的に街の変化が良い方向に進んでいると感じる。
- 昔に比べていろいろなことが改善されて、とても良い街だから。
- よい街にしようと常に努力していると感じるから。

■ 物価（○5件）

- 物価が安い。気取らない。
- 都心への出やすさの割に家賃や物価が安いなど。

■ 住民の質や意識（マナー）（○4件 ●48件）

- 今住んでいる地域の人々の素行が良い。
- 足立区が好きな人が多い。愛着を持っている人がいること自体が誇り。
- マナーやルールを守らない人をよく見かけるため。
- 道路にゴミが落ちていたり、マナーに問題のある人がいる。
- 住んでいる人のモラルやマナーが、均一に高いとは思わないので誇りは持ちづらい。

■ 他区や他の地域の方が優れている（●7件）

- 他の区のほうが充実している。
- 他区と比較され、劣っている点ばかりが目立つから。
- 特に自慢できる事が浮かばないし、他の区に行くと凄いなと思わされる事が多い。

■ 誇りを持つ事柄がない／足立区のことをあまり知らない（●107件）

- 良いところもたくさんあるが、誇れるほど特筆すべき事がないため。
- 特に誇れるところが見当たらない。
- 誇れる特徴的なものが少ない。
- 他区と比べ誇れるものがわからないため。
- 誇れるほど足立区の事を知らない。

■ その他（○37件 ●27件）

- 他者から悪いことを言われると反論する。
- いい町だから。
- 徐々に都市開発されてきていて良いけれどももう少し活気が欲しい。
- どこにいても変わらないと思っている。
- 社会的弱者に対して世知辛い。

人に勧めたい

■ 住みやすさ（○136件 ●3件）

- 今はとにかく「住みやすい街」と人気が上がっているし、生活しやすい。
- 便利で生活しやすい。
- 住んでいて暮らしやすい地域だと感じるの。
- ポイ捨てや自転車の放置が少なくなり、きれいな街になりつつあるし、子どもへの支援も色々あるが暮らしやすいまでは行かないかなと思う。
- 駅周辺部以外は店もなく住みにくい。

■ 物価（○90件 ●2件）

- 物価が安く住みやすい。
- 安い店がたくさんある。物価・家賃が安い。
- 23区の中で比較的物価が低いから。
- 最近是不動産も高くなってきて、あまりお勧めできないと思う。

■ 交通網・道路網（○66件 ●31件）

- 道路が広くて車、自転車が走りやすい。
- アクセスが良い。バスがたくさん通っている。
- 都心へのアクセス手段が多く便利だから。
- 交通の便が良い。
- 交通が不便。コミュニティバスを利用するにも停留所まで遠い。
- 交通機関（特に電車）の便が悪い。
- 地域により交通の便が悪いから。

■ 生活環境・公園・自然（○61件 ●10件）

- 公園が多い。四季を感じられる。
- 町が整備され美しくなりつつある。
- 坂道がない。公園が多い。
- 古き良き風景も残っていて落ち着いた街なのと、新しくお店もたくさんできていて生活する上で便利な点。都心に比べて程よく落ち着ける場所だからです。
- 公園などの施設が少ない。
- 高い建物が多くなり風通しが悪い。

■ 買い物等の利便性（○54件 ●9件）

- 駅前にスーパーが多く便利。
- スーパーやコンビニ等が程よくあり、利便性がある忙し人にも行動しやすい。
- 生活するのに便利だと思うため。
- 北千住しか便利じゃない。
- 買い物する所があまりない。

■ 子育て（○28件）

- 子どもに優しい。給食が良いと子ども達が喜んでいる。
- これから子育てするにあたって、色々無償化になってきているから。

- 公園が多く子育てに良い環境。
- 足立区の子育て支援や助成などはすごくいいと思うから。

■ 治安・防犯（○23件 ●75件）

- 以前より治安が良くなったと感じる。
- 安心・安全な場所だと思うから。
- 治安改善が進んでいる。
- 犯罪やマナーが悪い人が多いので勧めることはない。
- 駅前など治安が悪い部分もあり勧められるほどの魅力ではないから。
- 治安がいいとは言えないから。

■ 人情味がある・友人がいるから（○18件）

- 23区の中では一番人情味のある町だと思うので。
- 隣近所の方も親切で仲良し。
- 下町的雰囲気が良い。
- 庶民的でだれともなく、会話が出来る町です。

■ 地縁・居住期間（○13件 ●18件）

- 20年以上平和に住み続けられているから。
- 長年住んでいるから。
- 住んで1年未満なので街のことがよく分かっていない。
- 地域をよく知らないの。
- 引っ越してきて数カ月しか経っていないため。

■ 福祉・病院・教育（○12件 ●10件）

- 大学、医療関係の増加。
- 福祉が充実していると思う。
- 高齢者、障がい者施設が充実していると思う。
- 教育・生活レベルが低い。
- 教育コンテンツの少なさ。
- 他の区と比べ治安や教育レベルが良いと感じないから。
- 高齢者に対して支援が足りない。

■ 区政（○11件 ●8件）

- 区民一人一人を大切に考えてくれているように思う。
- 区が区民のためにいろいろ考え行動していることが、区報やテレビニュース等で報道されるのを聞くから。
- 区長の決断が早い。
- 災害時の対応が良い。

- 老人と福祉を受ける人が多すぎて税金を支払っている人はたまらない。他の区から来た友人は、老人が多くビックリしている。税金の支出ばかりで若い人がいない。低い給料から税金を払っても、福祉・老人施設にまわってしまうと思うと、足立区には来ない方が良いと言うしかない。他の区と比べると税金が高すぎる。
- 国民健康保険料が他の区に比べて高額。

■ 区・街のイメージ（○10件 ●47件）

- イメージより安心して住みやすいから。
- 世間の噂ほどに悪い街ではないと思う。
- ここ10年、特に足立区のイメージは良くなっていると思う。
- 世間の印象よりいい街ということを知って欲しい。
- 過去のイメージの悪さが浸透しているため。
- 世間一般のイメージの悪さが払拭できていないから。
- 他の区に比べ、治安が悪いイメージの定着があるため。

■ 発展性（○9件 ●1件）

- 住みやすく進展していつているから。
- 最近マンションがたくさん建てられて、人気が出てきていると思う。
- 学校や施設、その他にもどんどん新しくなっている所。
- 駅前の再開発が進んでいるから。
- 栄えていないからです。自分の住んでいる所だけかもしれないですが。

■ 歴史・観光・施設（○5件 ●1件）

- 祭りや花火大会等、日本の文化や子ども達に残せるものがある。
- 商業・公共施設が多い。
- 特に観光になる名所などないから。

■ 現在住んでいるから（○5件）

- 長く住めているから。
- 自分が足立区民だから。
- そこそこの年数住んでおり、目立ったトラブルもなく平穩に過ごせているので。

■ 勧める点が特にない（●52件）

- 自慢できるものがないので勧められない。
- わざわざ勧めるほどとは思わないから。
- 生活面や娯楽で不十分には感じないが、家賃以外の面で、わざわざ足立区を選ぶ必要はないと思った。
- 足立区に対して特別感を持つものが特にない。
- 他の区に比べて足立区が秀でている部分が分からない。

■ 住民の質や意識（マナー）（●39件）

- 全体的にマナーが悪い。
- 自転車のマナーや歩きタバコなどで受動喫煙することがとても多い。公園で子どもを遊ばせにくいと感じるため。
- 民度の低い人達が多々見受けられるから。
- 他人に無関心、自己中心的な方が多い。

■ 災害・水害に弱い（●13件）

- 洪水や、地震（地盤が緩い）など問題が多い。
- 災害に弱いと感じている。
- 荒川が近いので水害リスクが高いから。

■ 他区や他の地域の方が優れている（●10件）

- 足立区以上にすぐれた街・区はたくさんあるから。
- 交通の利便性等は他の区の方が魅力的のため。
- 交通の便や文化的な資源は23区の中では劣る方だと思ってしまうから。

■ その他（○48件 ●34件）

- 年を取ったら足立区に住んで下さい。
- 若い人がたくさん来てくれると良いと思う。
- 「とても良い所ですよ」と言いたい。
- 人に勧めるほど足立区を理解していないし、地域の活動等にも参加していない。どこに住むかはその人の自由。
- 人気が出てマンション乱立などして欲しくない。ゆったり暮らしたい。
- 空き家が多い。

(3) 区を良いまちにするための行動

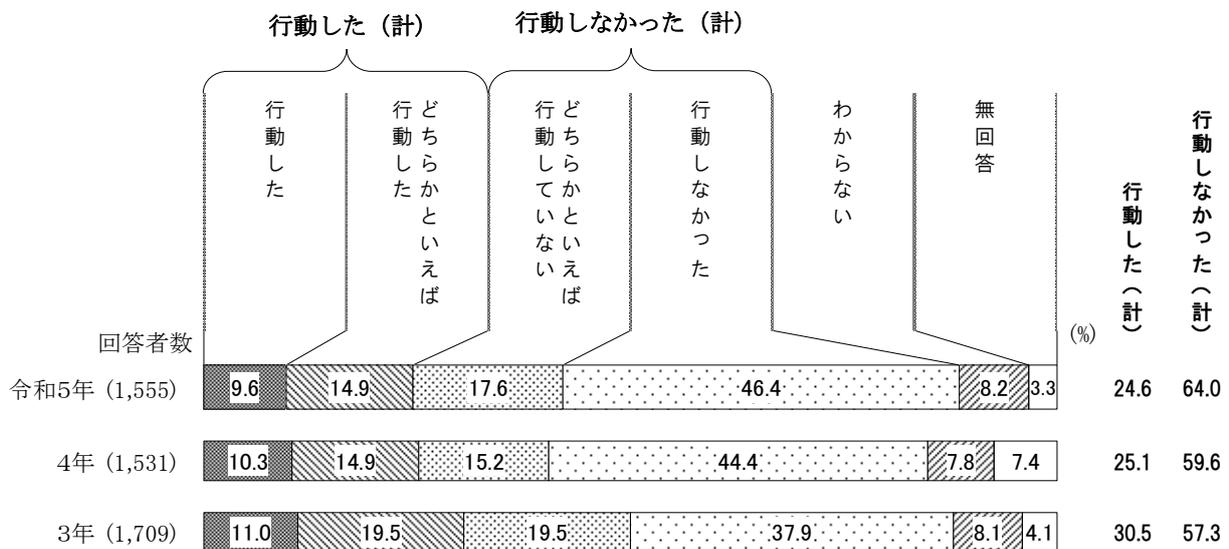
問48 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか
 (○は1つだけ)。
 ※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた(発信した)などの個人的な行動も含まれます。

■ 【行動しなかった】が6割台半ばで、【行動した】の2割台半ばを大きく上回る

ア 単純集計・経年比較/区を良いまちにするための行動

- (ア) この1年間に足立区を良いまちにするための行動をしたか聞いたところ、「行動しなかった」が46.4%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(17.6%)を合わせた【行動しなかった】は64.0%となっている。
- (イ) 「行動した」は9.6%に留まり、「どちらかといえば行動した」(14.9%)を合わせた【行動した】は24.6%となっている。
- (ウ) 前回の令和4年度調査と比べてみると、【行動しなかった】は4.4ポイントの増加となっている。

図11-3-1 経年比較/区を良いまちにするための行動



イ クロス集計・性別、性・年代別／区を良いまちにするための行動

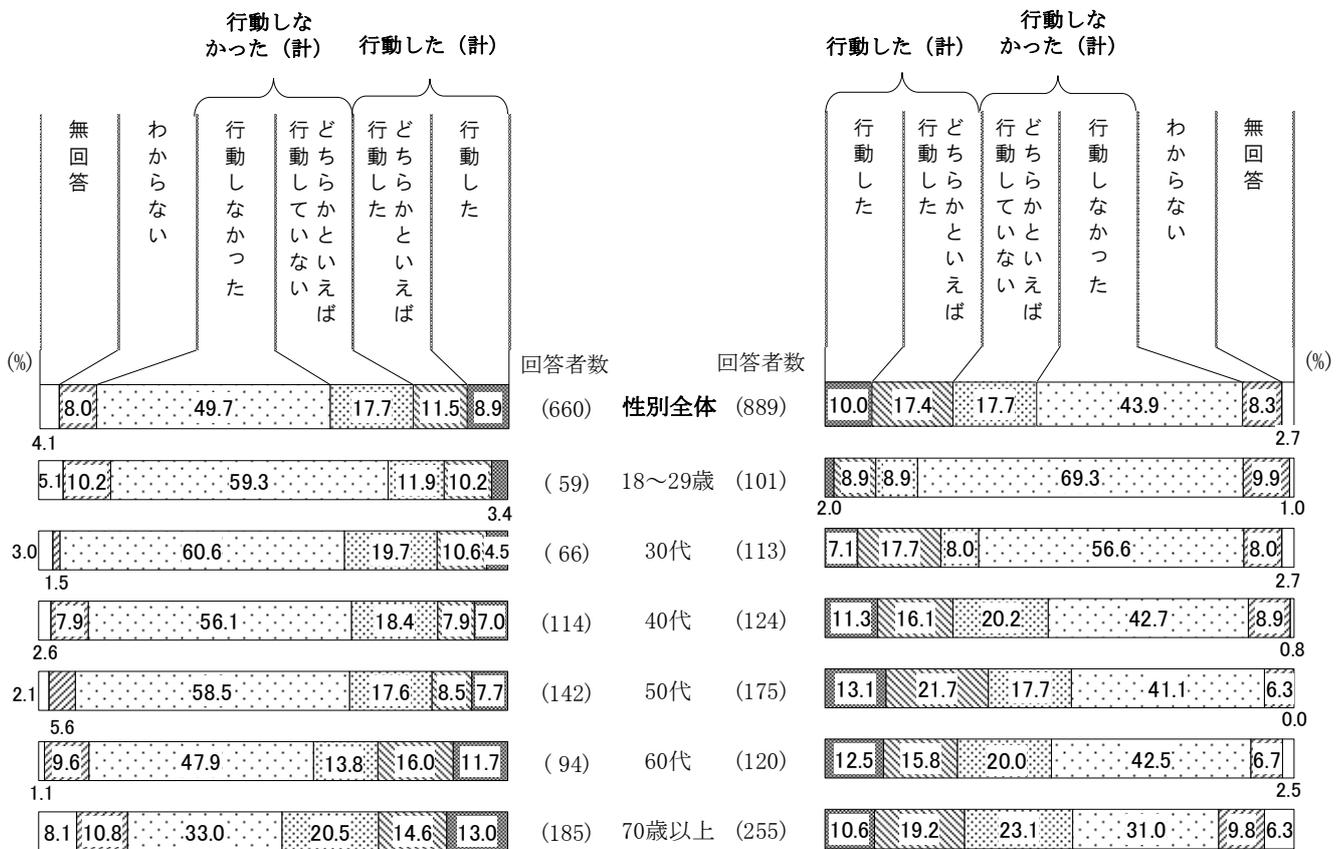
(ア) 性別にみると、【行動した】は女性（27.4%）の方が男性（20.5%）より6.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行動した】は、女性の50代が34.9%で最も高く、次いで、女性の70歳以上（29.8%）と女性の60代（28.3%）が続いている。一方、【行動しなかった】は男性の30代が80.3%と最も高く、次いで、女性の18～29歳（78.2%）となっている。

図11-3-2 性別、性・年代別／区を良いまちにするための行動

【男性】

【女性】

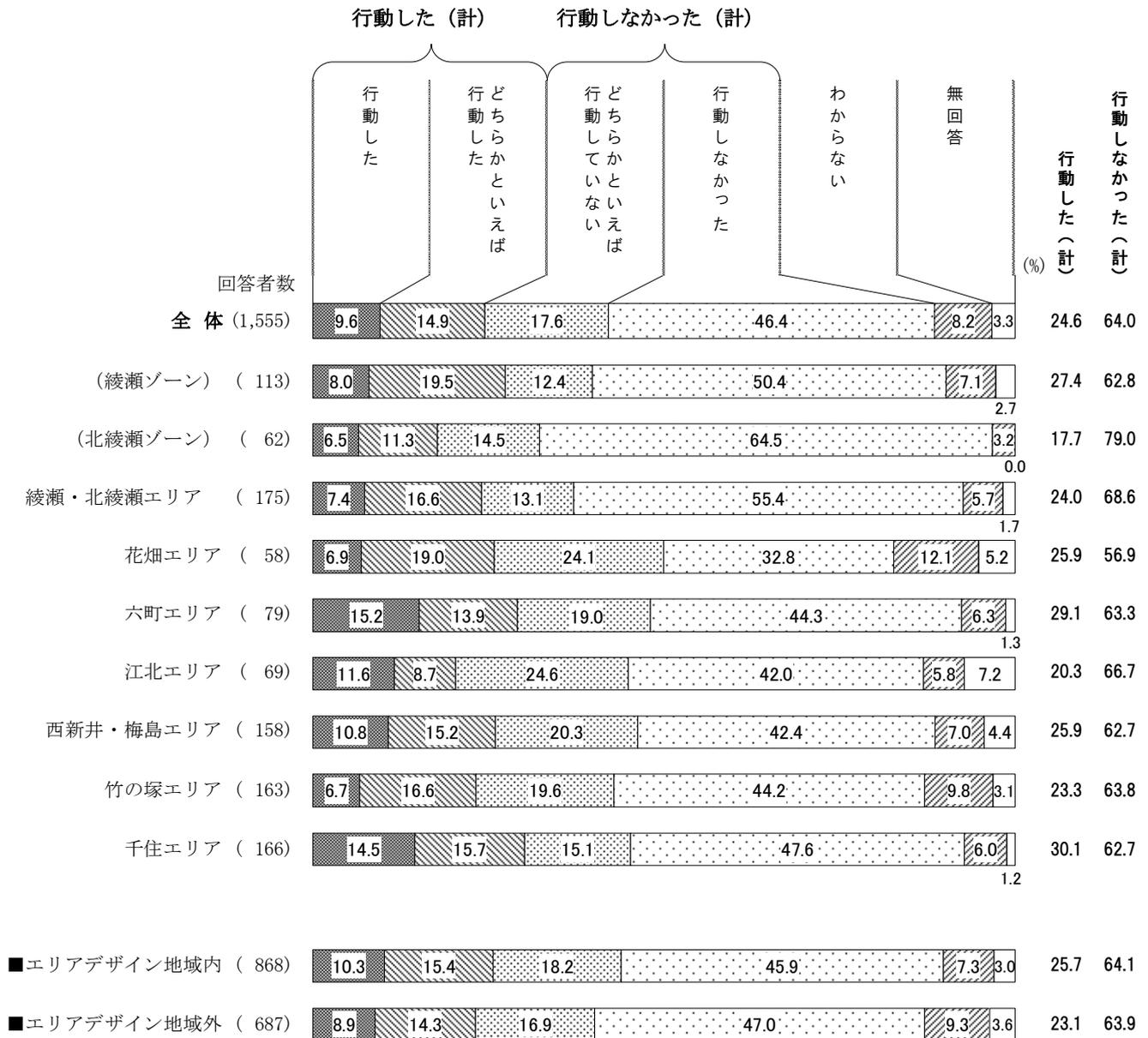


ウ クロス集計・エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動

(ア) 『区を良いまちにするための行動』をエリアデザイン別にみると、【行動した】は、千住エリアが30.1%で最も高く、次いで、六町エリアが29.1%で続いた。一方、【行動しなかった】は、綾瀬・北綾瀬エリアが68.6%で最も高く、次いで江北エリア（66.7%）となっている。

(イ) エリアデザインの地域内外で比較すると、特に大きな違いはみられない。

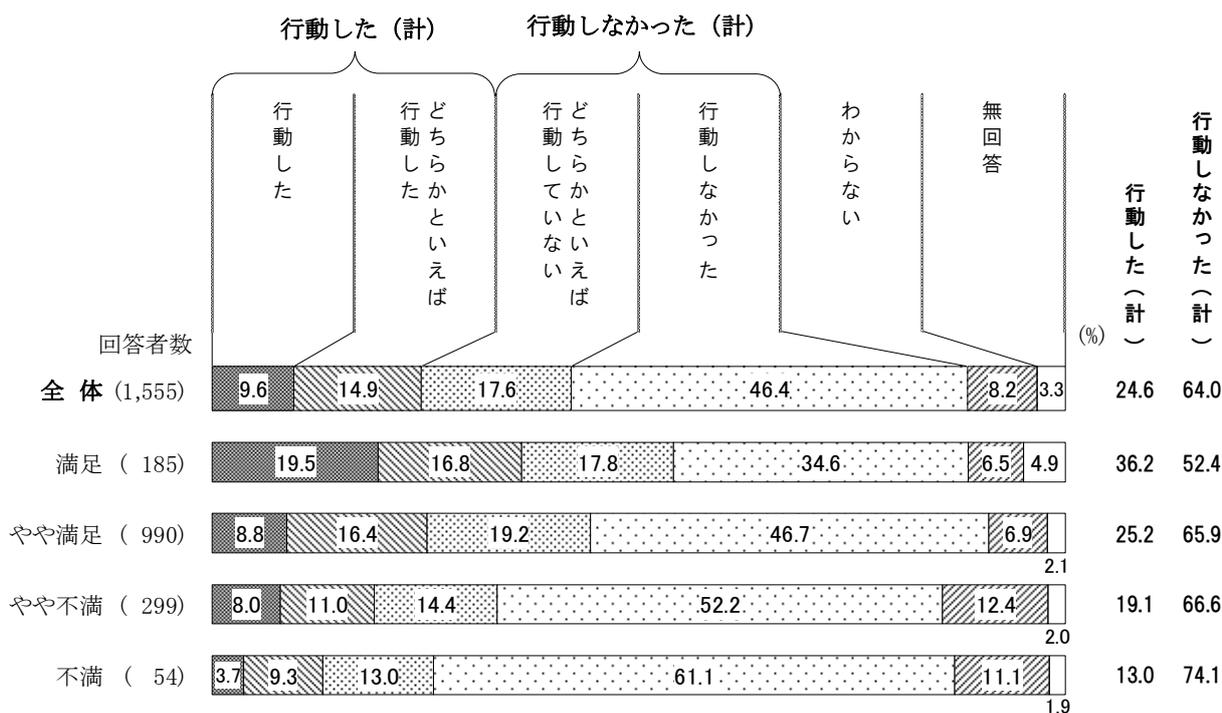
図11-3-3 エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動



エ クロス集計・区政満足度別／区を良いまちにするための行動

『区を良いまちにするための行動』を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は36.2%となっている。『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は13.0%に留まり、【行動しなかった】は74.1%を占めている。

図 11-3-4 区政満足度別／区を良いまちにするための行動



(4) 区の取り組みで満足している分野

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

■ 「情報提供」が4割弱で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割超

【区の取り組み（分野）】

分野名		取り組み内容（選択肢）
1	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供
2	職員の接客態度	職員の接客態度
3	ICT活用	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上
4	防災対策	防災対策
5	治安対策	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策
6	地域活動支援	町会・自治会など地域活動支援
7	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進
8	地域人材育成支援	NPOやボランティアの育成や支援
9	高齢者支援	高齢者の生活や介護などの支援
10	障がい者支援	障がい者の生活や介護などの支援
11	低所得者支援	低所得者の生活援助や就労支援
12	保健衛生対策	健康づくりやがん検診など保健衛生対策
13	子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援
14	学校教育対策	教育内容の充実など学校教育対策
15	生涯学習振興	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興
16	資源環境対策	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策
17	産業振興	商工業や起業支援など産業振興
18	自然・緑化対策	公園や緑地などの整備
19	都市開発	美しい街並みや景観づくりなど都市開発
20	住環境対策	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策
21	交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策

ア 単純集計／区の取り組みで満足している分野

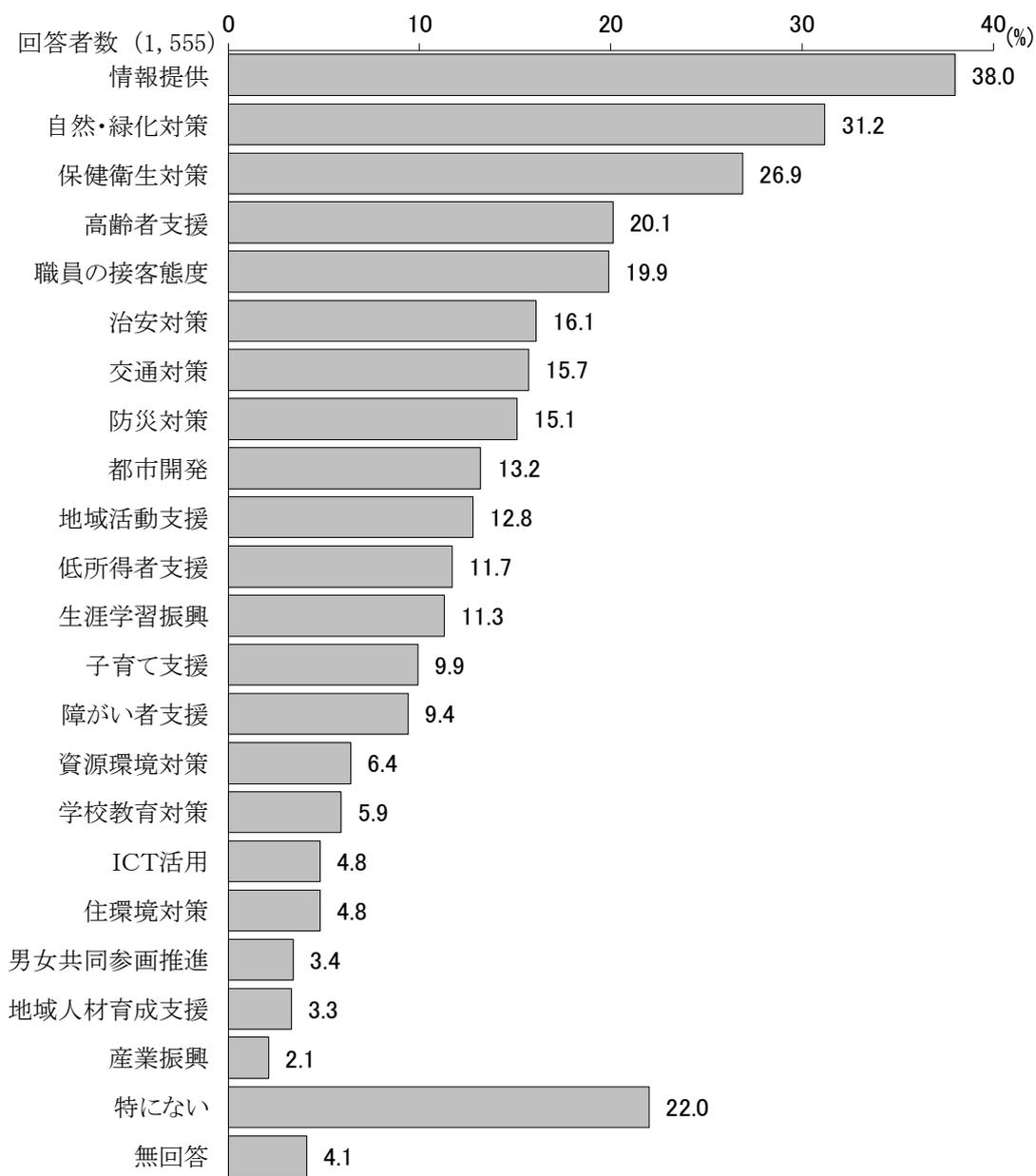
区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が38.0%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(31.2%)、「保健衛生対策」(26.9%)、「高齢者支援」(20.1%)、「職員の接客態度」(19.9%) などとなっている。

<上位10分野>

順位	令和5年		(参考) 令和4年	
	1	情報提供	38.0%	情報提供
2	自然・緑化対策	31.2%	資源環境対策	78.3%
3	保健衛生対策	26.9%	職員の接客態度	76.4%
4	高齢者支援	20.1%	自然・緑化対策	73.1%
5	職員の接客態度	19.9%	保健衛生対策	71.1%
6	治安対策	16.1%	子育て支援	69.3%
7	交通対策	15.7%	治安対策	67.6%
8	防災対策	15.1%	高齢者支援	66.5%
9	都市開発	13.2%	生涯学習振興	66.4%
10	地域活動支援	12.8%	学校教育対策	65.1%

※ 前回調査までは、各取り組み(分野)それぞれについての満足度を「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4つの選択肢の中から選んでいただく方法であったため、単純に比較はできないが、参考として掲載している。

図 11-4-1 区の取り組みで満足している分野

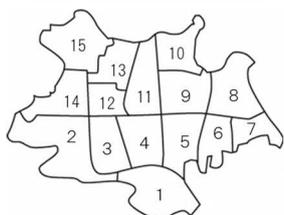


イ クロス集計・地域別／区の取り組みで満足している分野

（ア）地域別でみると、第12地域は「情報提供」「職員の接客態度」「治安対策」など、6つの取り組みで最も高く、第9地域でも「保健衛生対策」「交通対策」「防災対策」など、5つの取り組みで最も高い割合となっている。また、第14地域では「地域活動支援」「低所得者支援」「障がい者支援」などの福祉系の3分野で最も高い割合となっている。

図11-4-2 地域別／区の取り組みで満足している分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	情報提供	38.0	33.5	34.8	35.2	41.2	41.9	39.6	39.4	42.7	39.6	43.2	34.9	45.2	32.9	34.9	27.6
2	自然・緑化対策	31.2	25.7	31.5	27.3	29.7	23.9	36.9	35.2	38.5	35.1	25.9	26.2	33.9	30.3	40.7	41.4
3	保健衛生対策	26.9	28.1	23.9	23.9	27.7	25.8	25.2	25.4	24.8	33.3	24.7	30.2	25.8	21.1	30.2	29.3
4	高齢者支援	20.1	15.6	19.6	14.8	27.0	23.2	13.5	14.1	29.1	21.6	24.7	20.6	24.2	13.2	17.4	15.5
5	職員の接客態度	19.9	19.8	20.7	18.2	19.6	18.7	14.4	14.1	22.2	27.0	16.0	20.6	32.3	23.7	15.1	19.0
6	治安対策	16.1	21.0	14.1	18.2	14.2	11.0	17.1	18.3	17.1	18.0	16.0	8.7	24.2	21.1	19.8	6.9
7	交通対策	15.7	16.2	14.1	15.9	13.5	16.1	12.6	15.5	13.7	19.8	17.3	15.1	14.5	19.7	18.6	13.8
8	防災対策	15.1	15.6	16.3	15.9	14.9	18.1	15.3	15.5	17.9	18.9	11.1	7.9	11.3	14.5	17.4	13.8
9	都市開発	13.2	12.6	15.2	8.0	12.2	11.6	17.1	15.5	14.5	18.0	12.3	6.3	24.2	11.8	15.1	10.3
10	地域活動支援	12.8	16.8	8.7	10.2	15.5	11.6	12.6	14.1	11.1	9.9	18.5	8.7	6.5	10.5	25.6	8.6
11	低所得者支援	11.7	10.8	15.2	8.0	11.5	9.7	9.9	5.6	14.5	14.4	17.3	11.1	11.3	7.9	17.4	8.6
12	生涯学習振興	11.3	14.4	7.6	6.8	12.8	11.0	11.7	11.3	11.1	14.4	9.9	14.3	8.1	10.5	9.3	8.6
13	子育て支援	9.9	8.4	13.0	4.5	7.4	7.7	10.8	11.3	11.1	9.9	11.1	15.1	12.9	7.9	14.0	5.2
14	障がい者支援	9.4	5.4	9.8	11.4	11.5	9.0	5.4	7.0	12.8	12.6	7.4	9.5	9.7	9.2	14.0	5.2
15	資源環境対策	6.4	4.2	7.6	3.4	2.0	7.1	4.5	4.2	6.0	7.2	7.4	5.6	16.1	11.8	8.1	10.3
16	学校教育対策	5.9	3.6	4.3	1.1	6.1	6.5	5.4	5.6	6.0	7.2	7.4	8.7	6.5	7.9	7.0	5.2
17	ICT活用	4.8	7.8	4.3	6.8	4.1	3.2	5.4	2.8	4.3	5.4	4.9	3.2	8.1	2.6	5.8	0.0
18	住環境対策	4.8	10.2	4.3	5.7	2.7	3.2	0.9	1.4	3.4	4.5	8.6	7.1	4.8	3.9	4.7	3.4
19	男女共同参画推進	3.4	3.0	2.2	4.5	2.7	3.2	3.6	2.8	4.3	6.3	4.9	2.4	4.8	2.6	3.5	0.0
20	地域人材育成支援	3.3	4.2	3.3	2.3	3.4	2.6	3.6	0.0	2.6	2.7	7.4	1.6	3.2	5.3	5.8	3.4
21	産業振興	2.1	3.0	2.2	1.1	1.4	0.6	1.8	0.0	4.3	2.7	1.2	4.0	0.0	3.9	0.0	1.7
—	特にない	22.0	19.8	26.1	20.5	20.3	23.2	19.8	23.9	18.8	23.4	28.4	25.4	17.7	30.3	10.5	22.4

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

(ア) 性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「自然・緑化対策」(+3.8ポイント)、「防災対策」(+3.2ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「保健衛生対策」(+9.3ポイント)、「子育て支援」(+4.5ポイント)、「治安対策」(+4.3ポイント)、「高齢者支援」(+3.8ポイント)

(イ) 年代別に区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 70歳以上では、21項目中最多の6項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」「地域活動支援」「保健衛生対策」で10ポイント以上高くなっている。

b 60代では、2項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「情報提供」で10ポイント以上高くなっている。

c 30代では、「子育て支援」が区全体より10ポイント以上高くなっている。

d 「特にない」は40代以下で区全体より3ポイント以上高く、特に18～29歳では10ポイント以上高くなっている。

図11-4-3 性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	情報提供	38.0	37.0	38.8	20.6	26.0	35.1	39.7	49.3	44.1
2	自然・緑化対策	31.2	33.3	29.5	21.9	29.8	33.9	32.2	30.7	33.3
3	保健衛生対策	26.9	21.7	31.0	14.4	13.3	22.2	25.2	34.4	37.3
4	高齢者支援	20.1	18.0	21.8	5.6	5.5	9.6	19.9	22.3	36.2
5	職員の接客態度	19.9	21.2	19.0	15.6	19.3	18.0	20.5	24.7	20.1
6	治安対策	16.1	13.6	17.9	13.1	11.6	18.0	19.6	18.1	14.5
7	交通対策	15.7	16.4	15.3	16.9	14.4	14.6	14.2	14.9	17.9
8	防災対策	15.1	17.0	13.8	11.9	8.8	11.7	18.3	19.1	16.5
9	都市開発	13.2	13.2	13.3	13.8	14.4	14.6	13.6	12.6	12.0
10	地域活動支援	12.8	13.3	12.5	6.3	6.6	7.1	7.9	14.0	23.8
11	低所得者支援	11.7	12.3	11.2	8.1	10.5	8.4	10.7	10.2	16.7
12	生涯学習振興	11.3	10.6	11.7	6.9	7.2	12.1	8.5	12.1	15.6
13	子育て支援	9.9	7.3	11.8	9.4	22.7	11.7	9.5	6.5	5.9
14	障がい者支援	9.4	10.6	8.5	4.4	5.0	5.9	9.8	11.2	13.8
15	資源環境対策	6.4	7.0	6.1	1.3	1.7	3.3	6.3	6.0	12.2
16	学校教育対策	5.9	6.5	5.4	6.9	7.2	10.5	6.0	4.2	3.2
17	ICT活用	4.8	5.8	4.2	3.1	6.1	6.7	6.0	3.7	3.6
18	住環境対策	4.8	4.4	5.1	4.4	2.8	3.8	4.4	7.4	5.2
19	男女共同参画推進	3.4	4.4	2.7	3.1	1.7	2.5	2.8	0.9	6.3
20	地域人材育成支援	3.3	4.1	2.8	3.8	2.2	4.2	1.6	3.7	4.3
21	産業振興	2.1	2.3	1.9	1.9	2.8	1.3	3.8	2.3	0.9
—	特にない	22.0	24.4	20.1	36.3	26.0	25.1	20.2	20.5	15.4
			性差5p以上		区全体より5p以上高い					

（5）区の取り組みで不満の分野

問50 次の足立区の取り組みのうち、あなたが不満、やや不満と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

■ 「交通対策」が2割で最上位、次いで「都市開発」が1割超で続く

ア 単純集計／区の取り組みで不満の分野

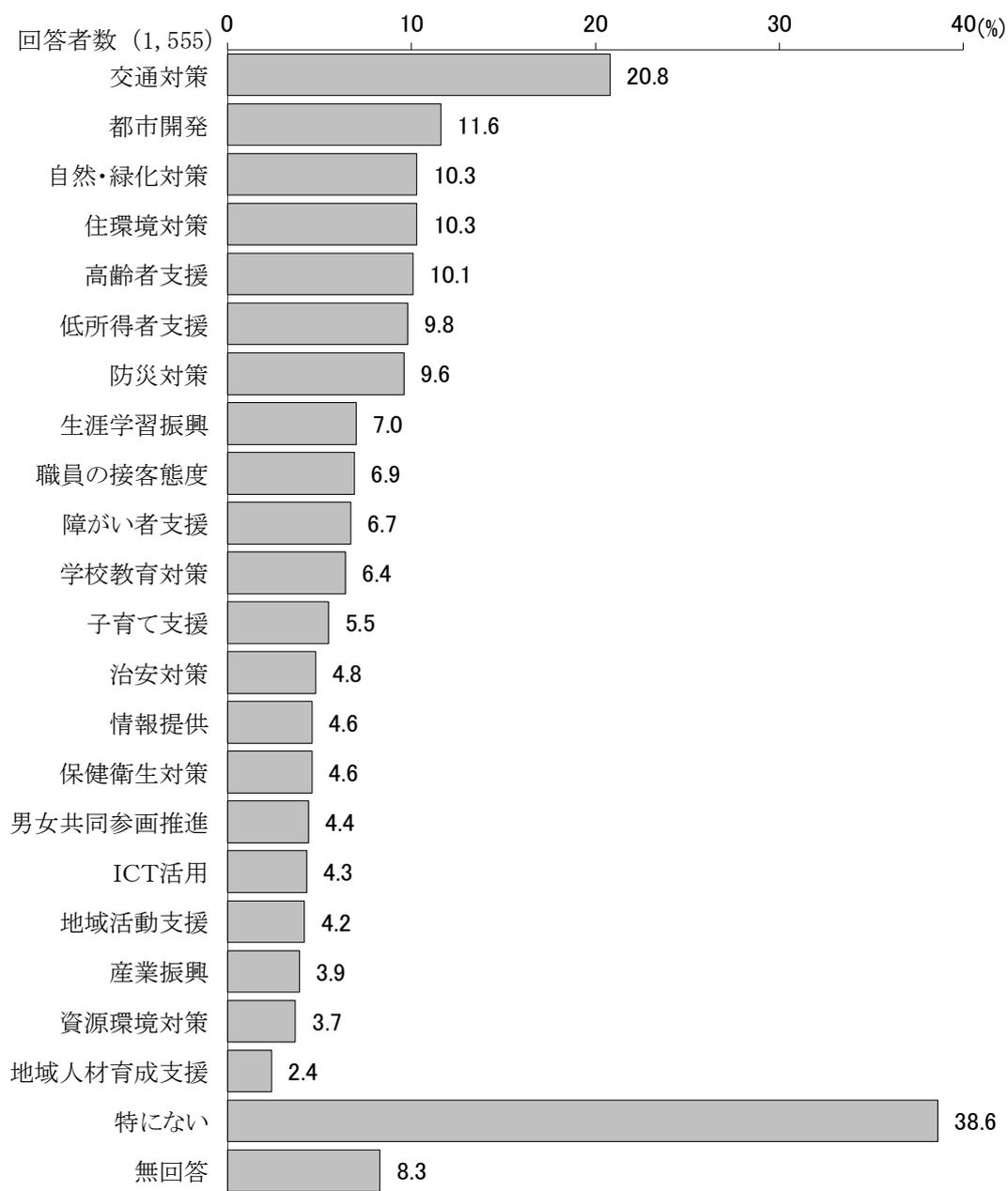
区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が20.8%と最も高く、次いで、「都市開発」（11.6%）、「自然・緑化対策」と「住環境対策」（各10.3%）、「高齢者支援」（10.1%）、「低所得者支援」（9.8%）などとなっている。

<上位10分野>

順位	令和5年		（参考）令和4年	
1	交通対策	20.8%	住環境対策	33.9%
2	都市開発	11.6%	交通対策	31.8%
3	自然・緑化対策	10.3%	低所得者支援	28.5%
4	住環境対策	10.3%	都市開発	26.4%
5	高齢者支援	10.1%	男女共同参画推進	26.1%
6	低所得者支援	9.8%	産業振興	25.3%
7	防災対策	9.6%	I C T活用	25.0%
8	生涯学習振興	7.0%	防災対策	24.9%
9	職員の接客態度	6.9%	地域活動支援	23.9%
10	障がい者支援	6.7%	地域人材育成支援	23.4%

※ 前回調査までは、各取り組み（分野）それぞれについての満足度を「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4つの選択肢の中から選んでいただく方法であったため、単純に比較はできないが、参考として掲載している。

図11-5-1 区の取り組みで不満の分野

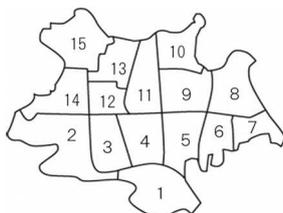


イ クロス集計・地域別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 地域別で見ると、第9地域は「自然・緑化対策」「障がい者支援」「保健衛生対策」など、5つの取り組みで最も高く、第8地域では「交通対策」「都市開発」「防災対策」、第13地域では「低所得者支援」「子育て支援」「治安対策」の3分野で最も高い割合となっている。

図11-5-2 地域別／区の取り組みで不満の分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	20.8	16.8	15.2	20.5	16.9	26.5	19.8	25.4	28.2	18.0	21.0	19.8	21.0	21.1	25.6	19.0
2	都市開発	11.6	14.4	6.5	15.9	10.8	11.6	15.3	11.3	17.9	15.3	7.4	11.1	9.7	7.9	5.8	5.2
3	自然・緑化対策	10.3	8.4	6.5	11.4	12.8	10.3	11.7	8.5	13.7	14.4	13.6	9.5	8.1	7.9	4.7	10.3
4	住環境対策	10.3	10.2	5.4	10.2	11.5	12.9	8.1	14.1	6.8	12.6	16.0	7.9	11.3	14.5	7.0	5.2
5	高齢者支援	10.1	9.6	9.8	10.2	8.8	11.0	3.6	9.9	11.1	9.9	12.3	11.9	9.7	10.5	10.5	15.5
6	低所得者支援	9.8	9.6	7.6	9.1	12.2	12.9	4.5	8.5	5.1	6.3	13.6	11.1	9.7	14.5	10.5	13.8
7	防災対策	9.6	10.2	5.4	5.7	10.1	12.3	5.4	9.9	12.8	9.9	7.4	9.5	11.3	9.2	12.8	10.3
8	生涯学習振興	7.0	8.4	7.6	8.0	4.7	7.1	11.7	5.6	6.0	9.9	4.9	4.0	11.3	9.2	4.7	0.0
9	職員の接客態度	6.9	5.4	3.3	6.8	4.7	13.5	4.5	4.2	7.7	0.9	7.4	8.7	12.9	1.3	8.1	13.8
10	障がい者支援	6.7	8.4	4.3	5.7	6.1	8.4	3.6	5.6	6.8	9.9	9.9	4.8	6.5	9.2	4.7	3.4
11	学校教育対策	6.4	6.6	3.3	11.4	4.1	5.8	3.6	8.5	9.4	7.2	6.2	4.8	11.3	9.2	2.3	8.6
12	子育て支援	5.5	6.6	4.3	3.4	7.4	3.9	6.3	5.6	6.8	8.1	4.9	4.8	6.5	9.2	2.3	0.0
13	治安対策	4.8	4.8	0.0	9.1	2.7	3.9	5.4	4.2	7.7	5.4	2.5	4.8	1.6	9.2	5.8	6.9
14	情報提供	4.6	2.4	1.1	4.5	4.7	7.1	5.4	7.0	3.4	2.7	3.7	4.0	8.1	7.9	2.3	5.2
15	保健衛生対策	4.6	4.8	4.3	4.5	4.7	3.9	5.4	7.0	2.6	9.0	3.7	3.2	3.2	6.6	2.3	3.4
16	男女共同参画推進	4.4	3.6	1.1	8.0	6.1	3.9	4.5	4.2	6.0	4.5	3.7	2.4	3.2	7.9	3.5	3.4
17	ICT活用	4.3	6.0	1.1	3.4	4.1	9.0	1.8	4.2	2.6	4.5	1.2	3.2	8.1	7.9	3.5	1.7
18	地域活動支援	4.2	7.2	5.4	3.4	2.7	3.2	2.7	4.2	4.3	2.7	2.5	5.6	8.1	3.9	4.7	0.0
19	産業振興	3.9	4.2	3.3	2.3	4.1	3.2	7.2	4.2	6.0	4.5	2.5	2.4	4.8	5.3	2.3	1.7
20	資源環境対策	3.7	3.6	3.3	3.4	2.0	5.2	2.7	5.6	3.4	6.3	4.9	2.4	4.8	5.3	1.2	1.7
21	地域人材育成支援	2.4	1.8	0.0	1.1	2.7	3.2	2.7	2.8	2.6	4.5	2.5	2.4	3.2	2.6	3.5	0.0
—	特にない	38.6	40.1	45.7	35.2	36.5	34.2	45.0	45.1	37.6	34.2	39.5	41.3	35.5	36.8	41.9	32.8

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 性別でみると、区の取り組みで満足の方の分野に比べ、男女の差が小さい。

- a 女性の方が男性より2ポイント以上高い取り組み
「職員の接客態度」、「子育て支援」（ともに+2.3ポイント）
- b 男性の方が女性より2ポイント以上高い取り組み
「情報提供」（+2.1ポイント）

(イ) 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

- a 30代では、「子育て支援」「学校教育対策」「交通対策」の3項目で5ポイント以上高くなっている。
- b 18～29歳では「都市開発」、40代で「交通対策」、60代で「住環境対策」、70歳以上では「高齢者支援」がそれぞれ区全体より5ポイント以上高くなっている。
- c 「特になし」は、18～29歳と50代で区全体より5ポイント以上高くなっている。

図11-5-3 性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	20.8	21.4	20.1	20.6	26.5	27.2	21.1	16.7	17.0
2	都市開発	11.6	11.2	12.0	18.1	16.0	14.2	12.0	5.6	8.8
3	自然・緑化対策	10.3	9.7	10.8	13.1	12.2	12.1	7.9	8.4	10.2
4	住環境対策	10.3	11.1	9.8	8.1	5.0	10.9	10.1	17.7	9.5
5	高齢者支援	10.1	9.1	10.8	3.1	2.2	7.1	7.6	14.4	17.2
6	低所得者支援	9.8	10.3	9.6	11.3	6.6	8.4	7.3	14.0	11.3
7	防災対策	9.6	9.7	9.6	6.9	7.7	9.6	9.1	12.1	10.4
8	生涯学習振興	7.0	7.4	6.7	7.5	5.0	9.6	6.9	9.8	5.0
9	職員の接客態度	6.9	5.6	7.9	7.5	5.0	7.9	5.0	9.3	7.0
10	障がい者支援	6.7	6.4	7.0	2.5	5.0	7.5	7.9	8.8	6.6
11	学校教育対策	6.4	5.9	6.9	8.8	12.7	9.6	5.0	4.7	3.2
12	子育て支援	5.5	4.2	6.5	6.9	12.7	9.6	2.5	4.7	2.5
13	治安対策	4.8	4.4	5.2	6.9	7.7	6.3	4.7	2.3	3.4
14	情報提供	4.6	5.8	3.7	5.6	4.4	4.6	3.8	4.7	4.8
15	保健衛生対策	4.6	4.7	4.4	3.8	3.3	6.3	1.6	5.1	6.3
16	男女共同参画推進	4.4	3.6	4.9	3.8	3.3	4.2	5.4	6.5	3.4
17	ICT活用	4.3	4.5	4.2	3.8	5.5	5.4	4.1	5.6	2.9
18	地域活動支援	4.2	3.3	4.7	1.3	1.7	4.2	2.2	3.3	8.1
19	産業振興	3.9	3.6	4.2	6.3	3.3	7.1	2.8	6.0	1.4
20	資源環境対策	3.7	4.1	3.4	1.9	1.1	4.2	4.4	5.1	3.8
21	地域人材育成支援	2.4	2.6	2.4	0.6	0.0	3.3	3.5	2.3	2.9
—	特になし	38.6	41.1	36.9	44.4	35.4	37.7	44.2	35.8	35.5

性差5p以上	区全体より5p以上高い
--------	-------------

（6）区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）

満足している取り組み（問49）と不満な取り組み（問50）をそれぞれ単独で質問したが、それぞれの評価値の差異（【満足評価割合】－【不満評価割合】）をみることで、各取り組み（分野）の現状評価を試みた。

ア クロス集計／【満足評価割合】－【不満評価割合】《足立区全体》

（ア）【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）

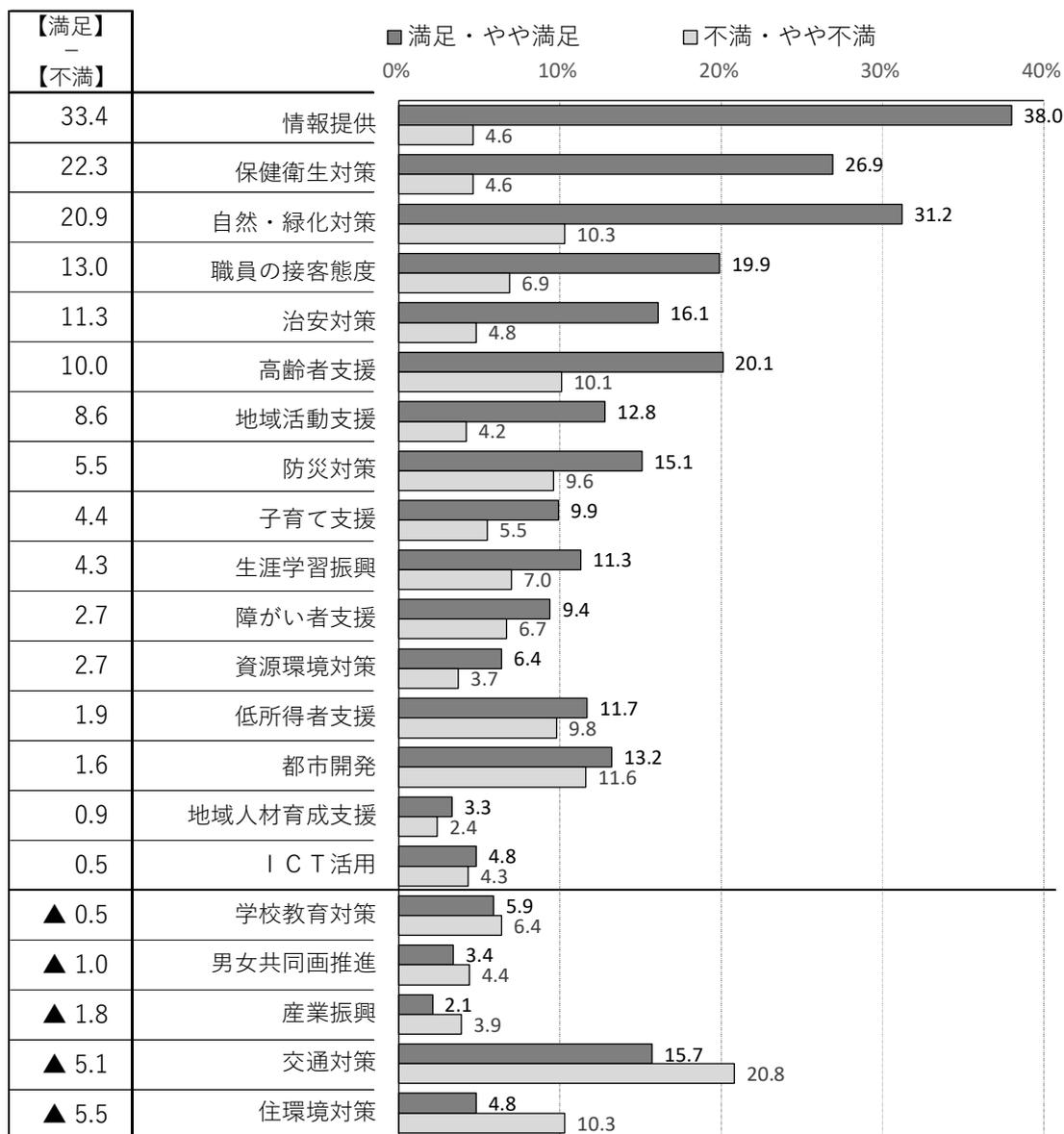
「情報提供」（+33.4ポイント）、「保健衛生対策」（+22.3ポイント）、「自然・緑化対策」（+20.9ポイント）、「職員の接客態度」（+13.0ポイント）

（イ）【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-5.5ポイント）、「交通対策」（-5.1ポイント）、「産業振興」（-1.8ポイント）

（ウ）「交通対策」については、【満足評価割合】が21項目中7番目に高いが、【不満評価割合】が最も高いため、評価としては、《不満割合が高い取り組み》となっている。

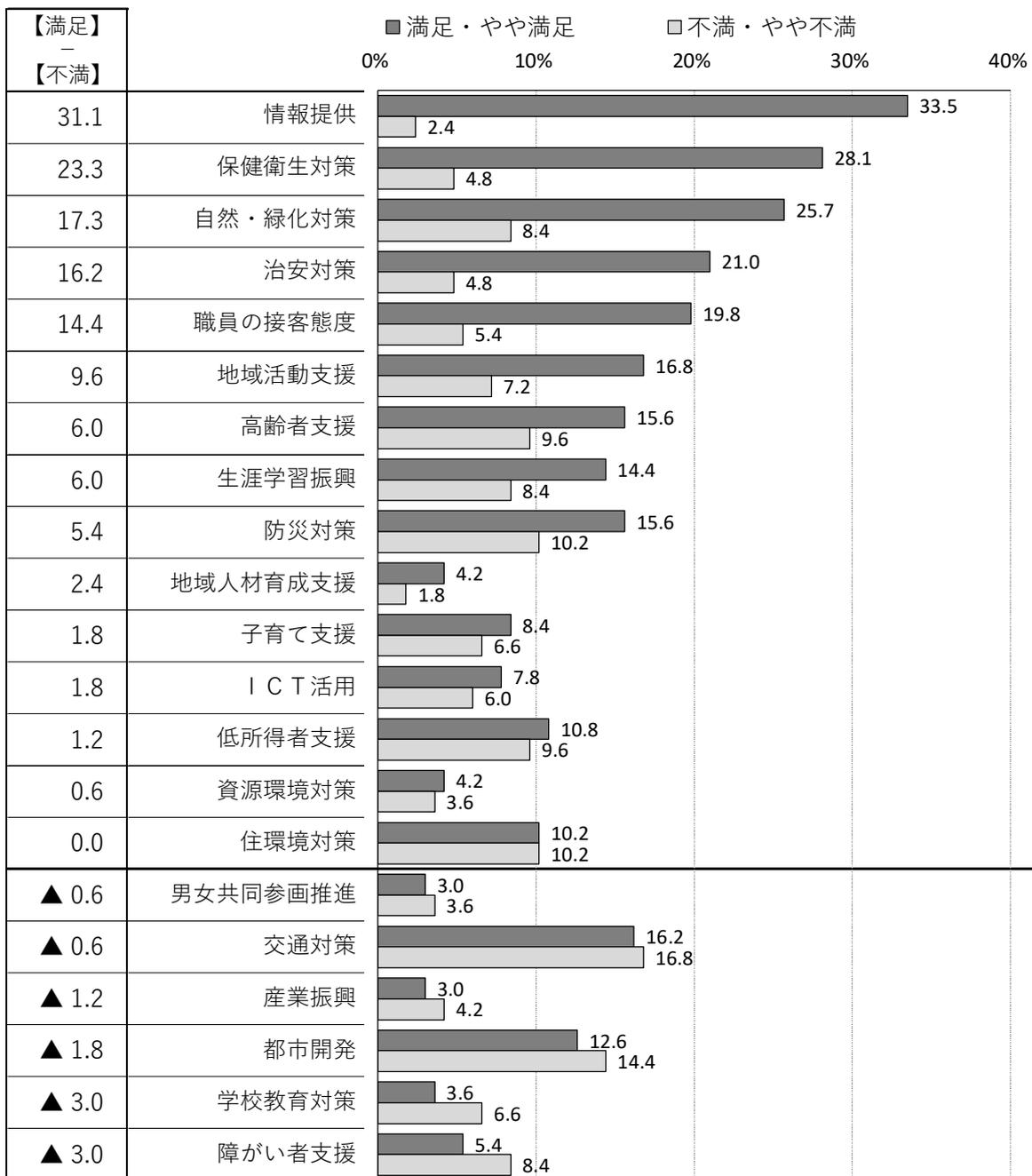
図11-6-4 各取り組みの現状評価《足立区全体》（【満足評価】－【不満評価】）



イ クロス集計・地域別《第1地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+31.1ポイント）、「保健衛生対策」（+23.3ポイント）、「自然・緑化対策」（+17.3ポイント）、「治安対策」（+16.2ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「障がい者支援」、「学校教育対策」（各－3.0ポイント）、「都市開発」（－1.8ポイント）、「産業振興」（－1.2ポイント）
- (ウ) 第1地域の特徴として、【満足評価割合】で「生涯学習振興」（14.4%）が15地域中最も高い割合となっている。

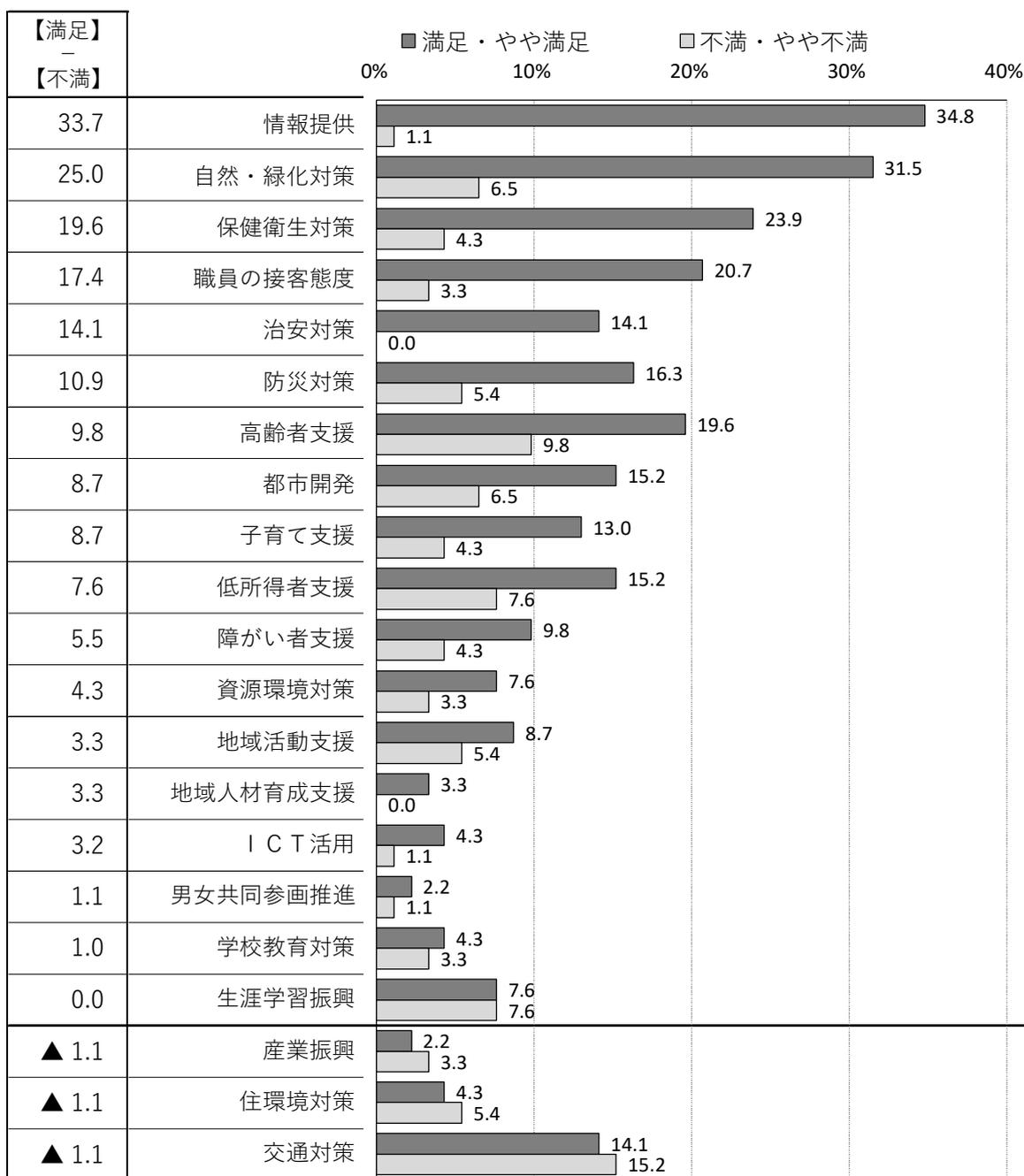
図11-6-5 各取り組みの現状評価《第1地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ウ クロス集計・地域別《第2地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+33.7ポイント）、「自然・緑化対策」（+25.0ポイント）、「保健衛生対策」（+19.6ポイント）、「職員の接客態度」（+17.4ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」、「住環境対策」、「産業振興」（各－1.1ポイント）
- (ウ) 第2地域の特徴として、【満足評価割合】で「低所得者支援」（15.2%）と「子育て支援」（13.0%）がともに15地域中3番目に高い割合となっている。

図11-6-6 各取り組みの現状評価《第2地域》（【満足評価】－【不満評価】）



エ クロス集計・地域別《第3地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）

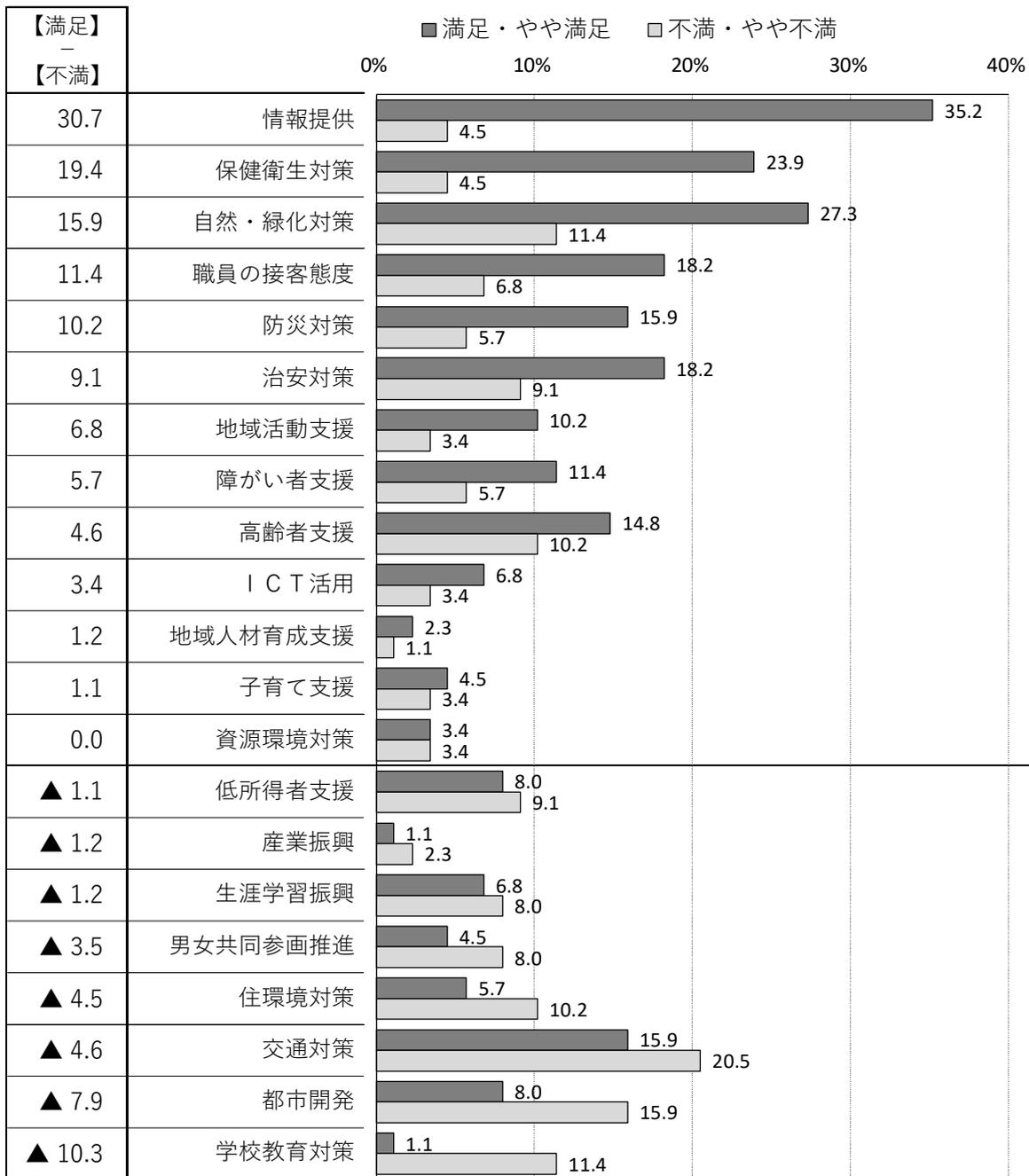
「情報提供」（+30.7ポイント）、「保健衛生対策」（+19.4ポイント）、「自然・緑化対策」（+15.9ポイント）、「職員の接客態度」（+11.4ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「学校教育対策」（-10.3ポイント）、「都市開発」（-7.9ポイント）、「交通対策」（-4.6ポイント）

(ウ) 第3地域の特徴として、【不満評価割合】で「学校教育対策」（11.4%）と「男女共同参画推進」（8.0%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-7 各取り組みの現状評価《第3地域》（【満足評価】－【不満評価】）



オ クロス集計・地域別《第4地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）

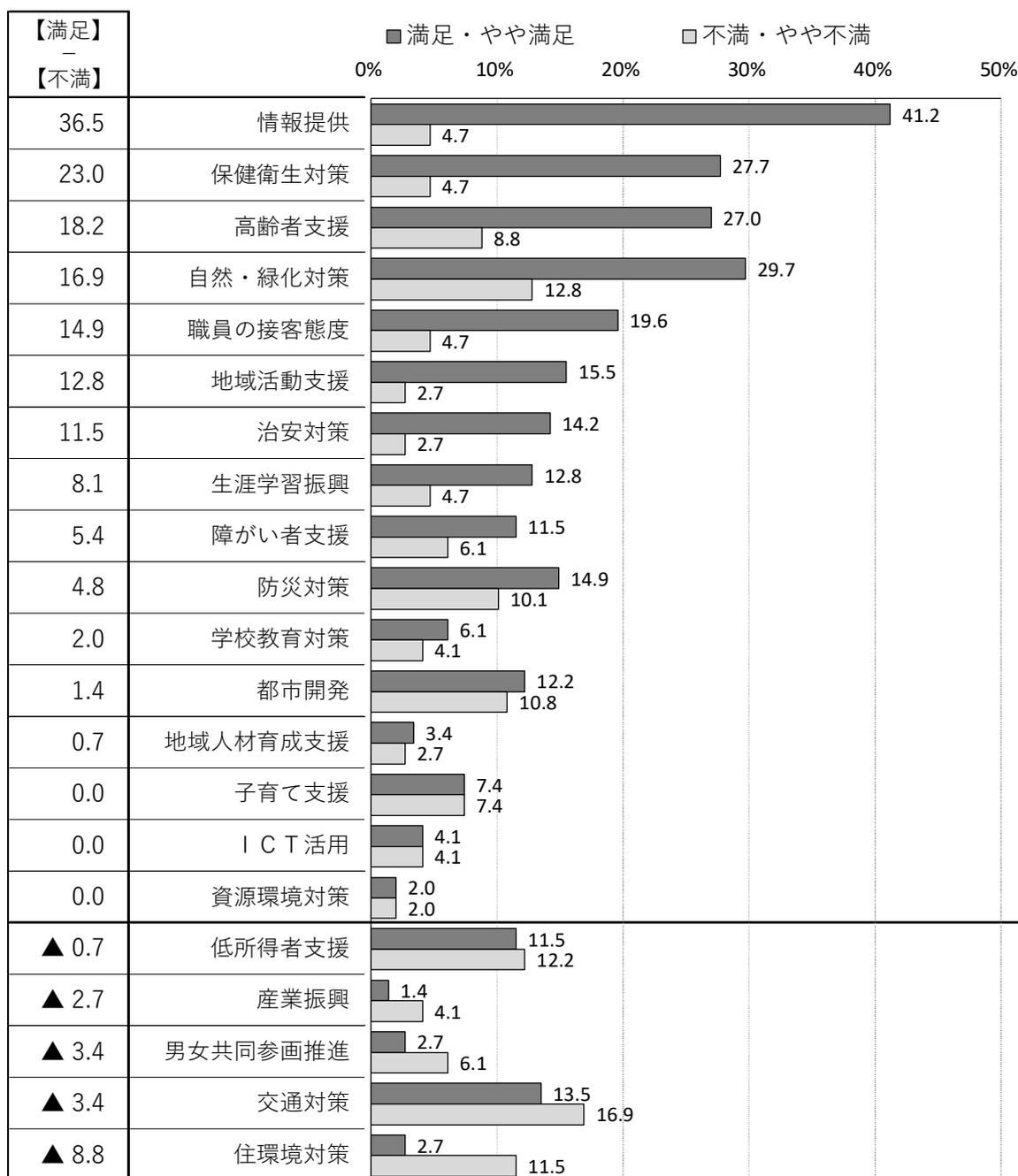
「情報提供」（+36.5ポイント）、「保健衛生対策」（+23.0ポイント）、「高齢者支援」（+18.2ポイント）、「自然・緑化対策」（+16.9ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-8.8ポイント）、「交通対策」と「男女共同参画推進」（各-3.4ポイント）

(ウ) 第4地域の特徴として、【満足評価割合】で「高齢者支援」（27.0%）が15地域中2番目に高い割合となっている。

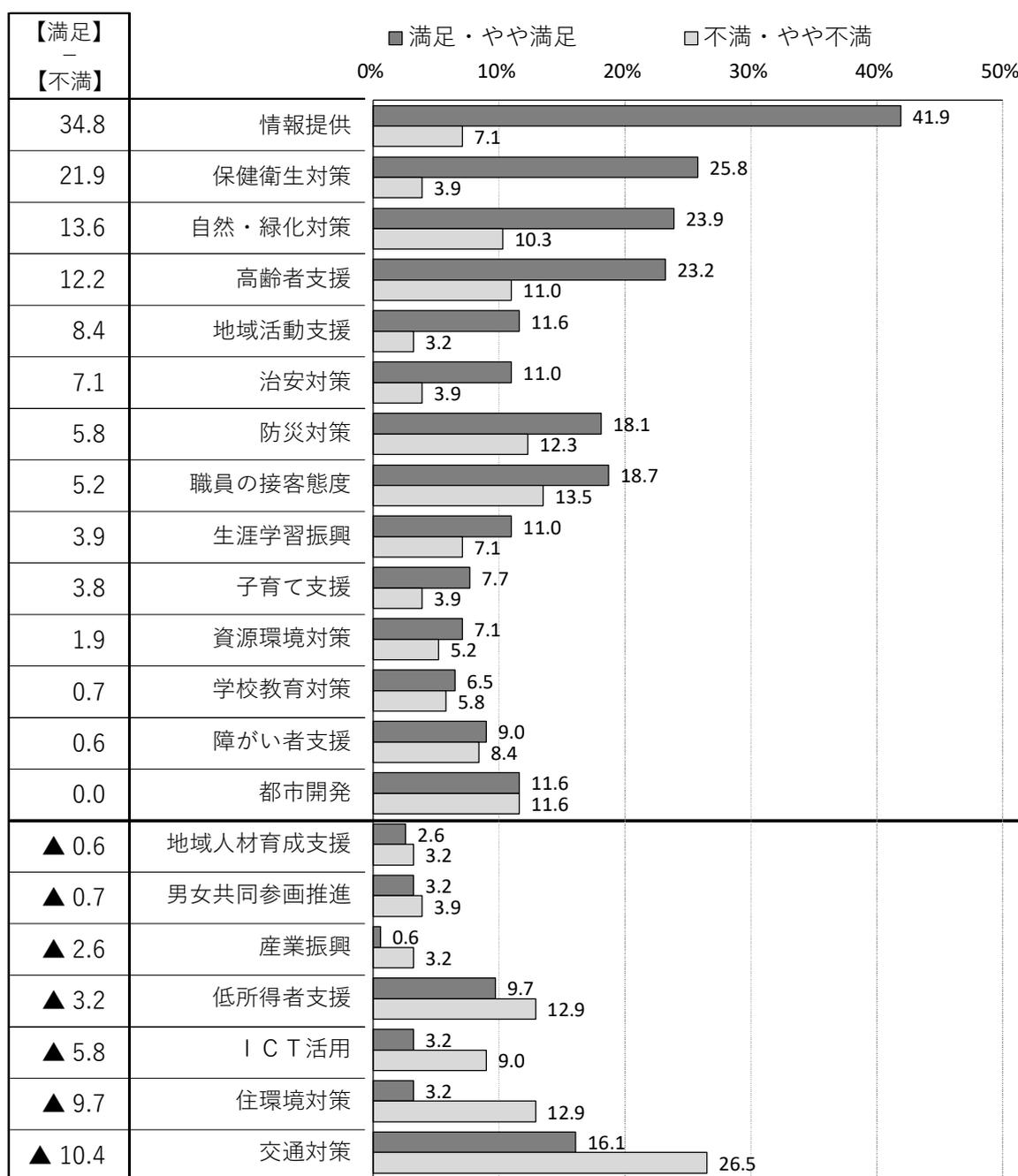
図11-6-8 各取り組みの現状評価《第4地域》（【満足評価】－【不満評価】）



カ クロス集計・地域別《第5地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+34.8ポイント）、「保健衛生対策」（+21.9ポイント）、「自然・緑化対策」（+13.6ポイント）、「高齢者支援」（+12.2ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」（-10.4ポイント）、「住環境対策」（-9.7ポイント）、「ICT活用」（-5.8ポイント）
- (ウ) 第5地域の特徴として、【満足評価割合】で「防災対策」（18.1%）が15地域中2番目に高く、【不満評価割合】で「ICT活用」（9.0%）が15地域中最も高い割合となっている。

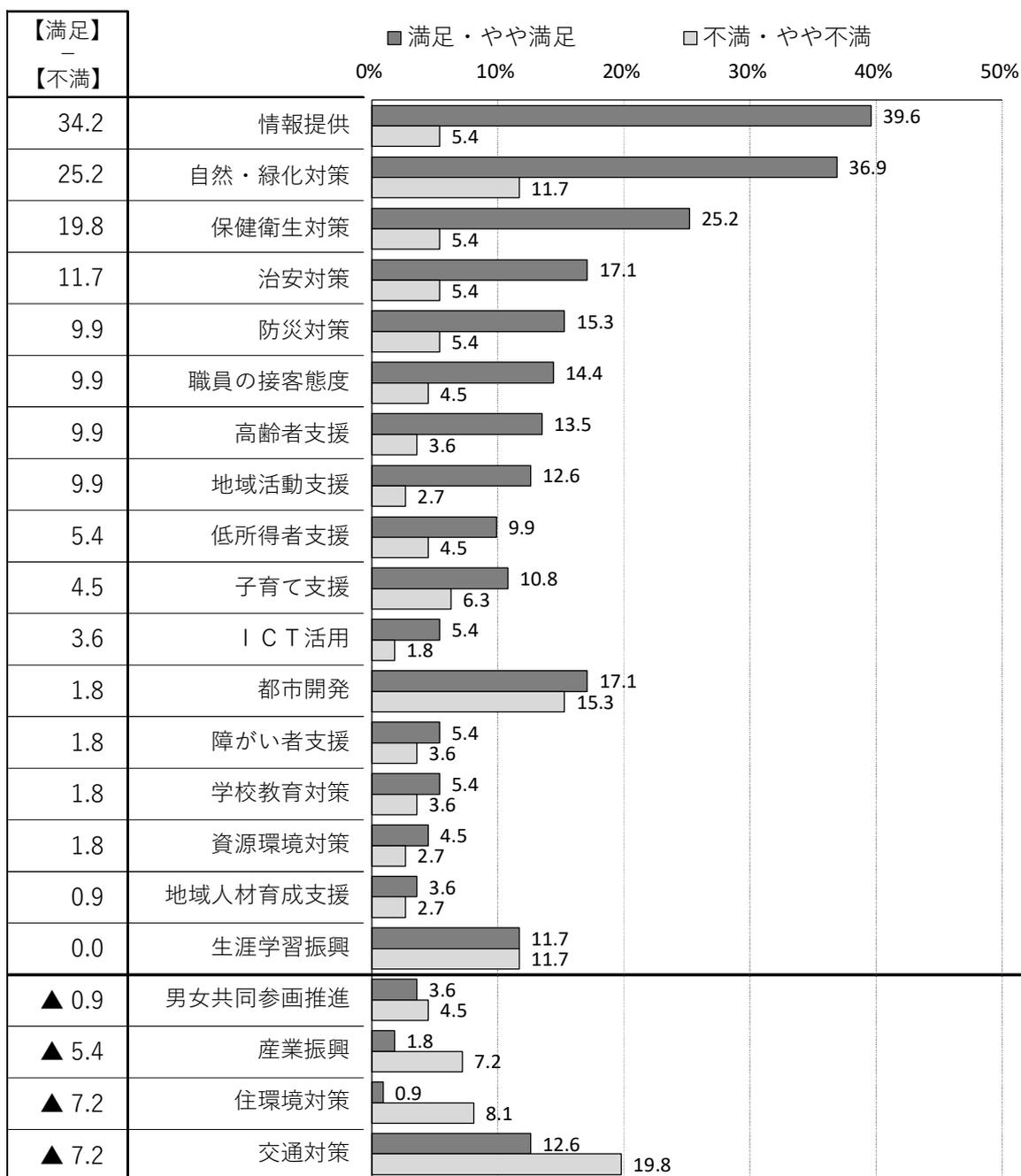
図11-6-9 各取り組みの現状評価《第5地域》（【満足評価】－【不満評価】）



キ クロス集計・地域別《第6地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+34.2ポイント）、「自然・緑化対策」（+25.2ポイント）、「保健衛生対策」（+19.8ポイント）、「治安対策」（+11.7ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」と「住環境対策」（各－7.2ポイント）、「産業振興」（－5.4ポイント）
- (ウ) 第6地域の特徴として、【不満評価割合】で「生涯学習振興」（11.7%）と「産業振興」（7.2%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-10 各取り組みの現状評価《第6地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ク クロス集計・地域別《第7地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）

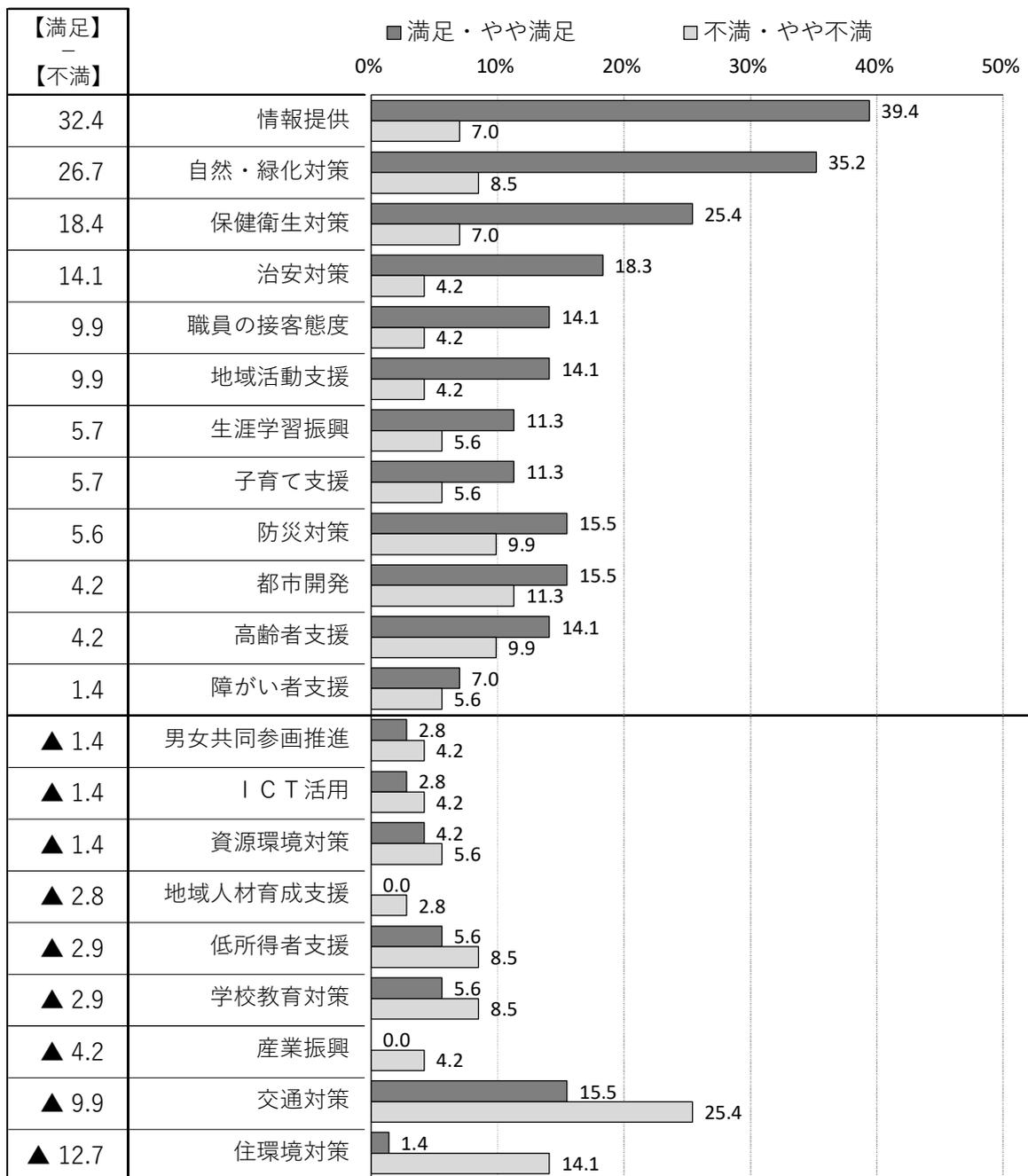
「情報提供」（+32.4ポイント）、「自然・緑化対策」（+26.7ポイント）、「保健衛生対策」（+18.4ポイント）、「治安対策」（+14.1ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-12.7ポイント）、「交通対策」（-9.9ポイント）、「産業振興」（-4.2ポイント）

(ウ) 第7地域の特徴として、【不満評価割合】で「住環境対策」（14.1%）が15地域中3番目に高く、「交通対策」（25.4%）が15地域中4番目に高い割合となっている。

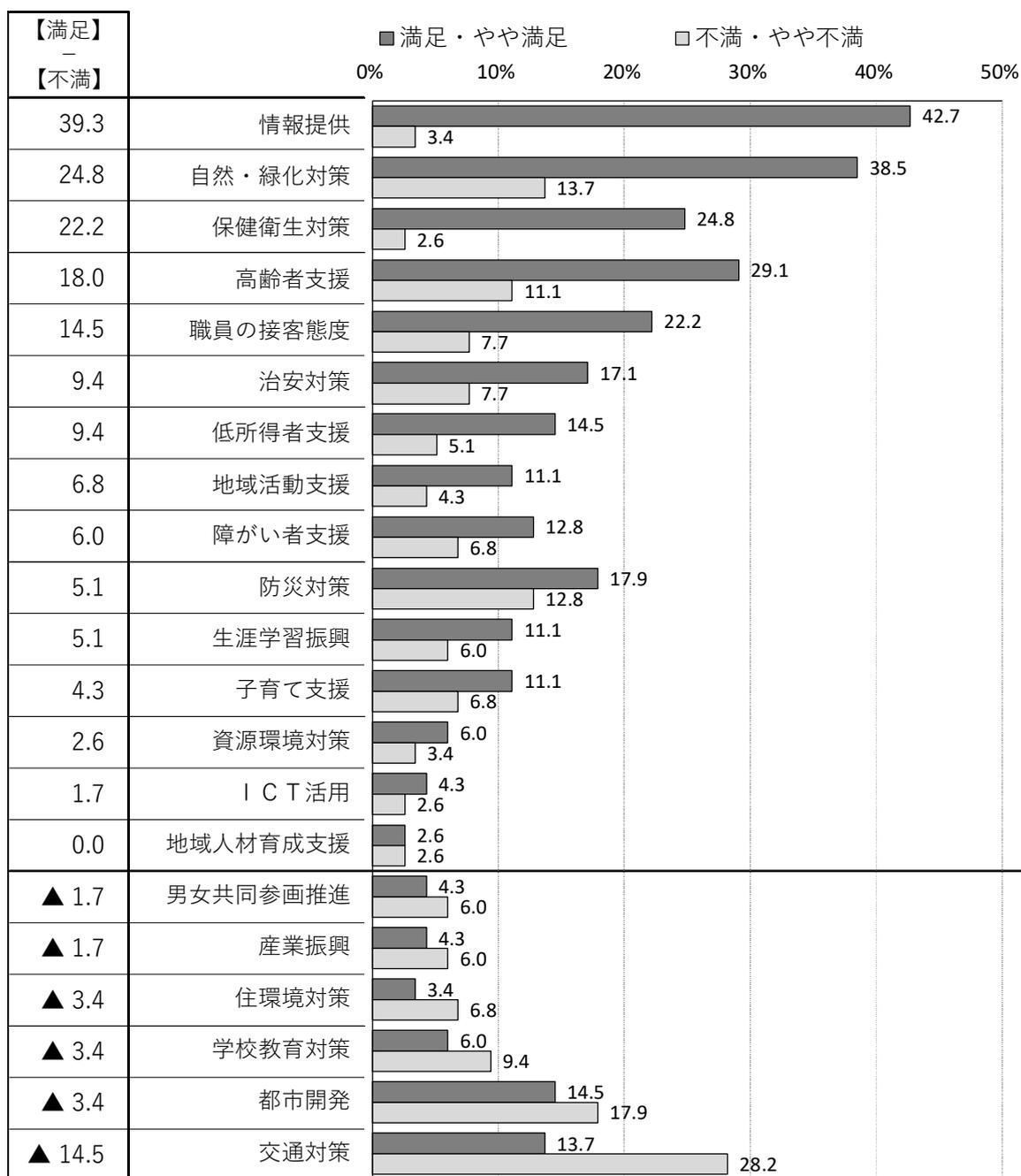
図11-6-11 各取り組みの現状評価《第7地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ケ クロス集計・地域別《第8地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+39.3ポイント）、「自然・緑化対策」（+24.8ポイント）、「保健衛生対策」（+22.2ポイント）、「高齢者支援」（+18.0ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」（-14.5ポイント）、「都市開発」、「学校教育対策」、「住環境対策」（各-3.4ポイント）
- (ウ) 第8地域の特徴として、【満足評価割合】で「高齢者支援」（29.1%）と「産業振興」（4.3%）が15地域中最も高い割合となっているが、一方、【不満評価割合】で「交通対策」（28.2%）、「都市開発」（17.9%）、「防災対策」（12.8%）で15地域中最も高い割合となっている。

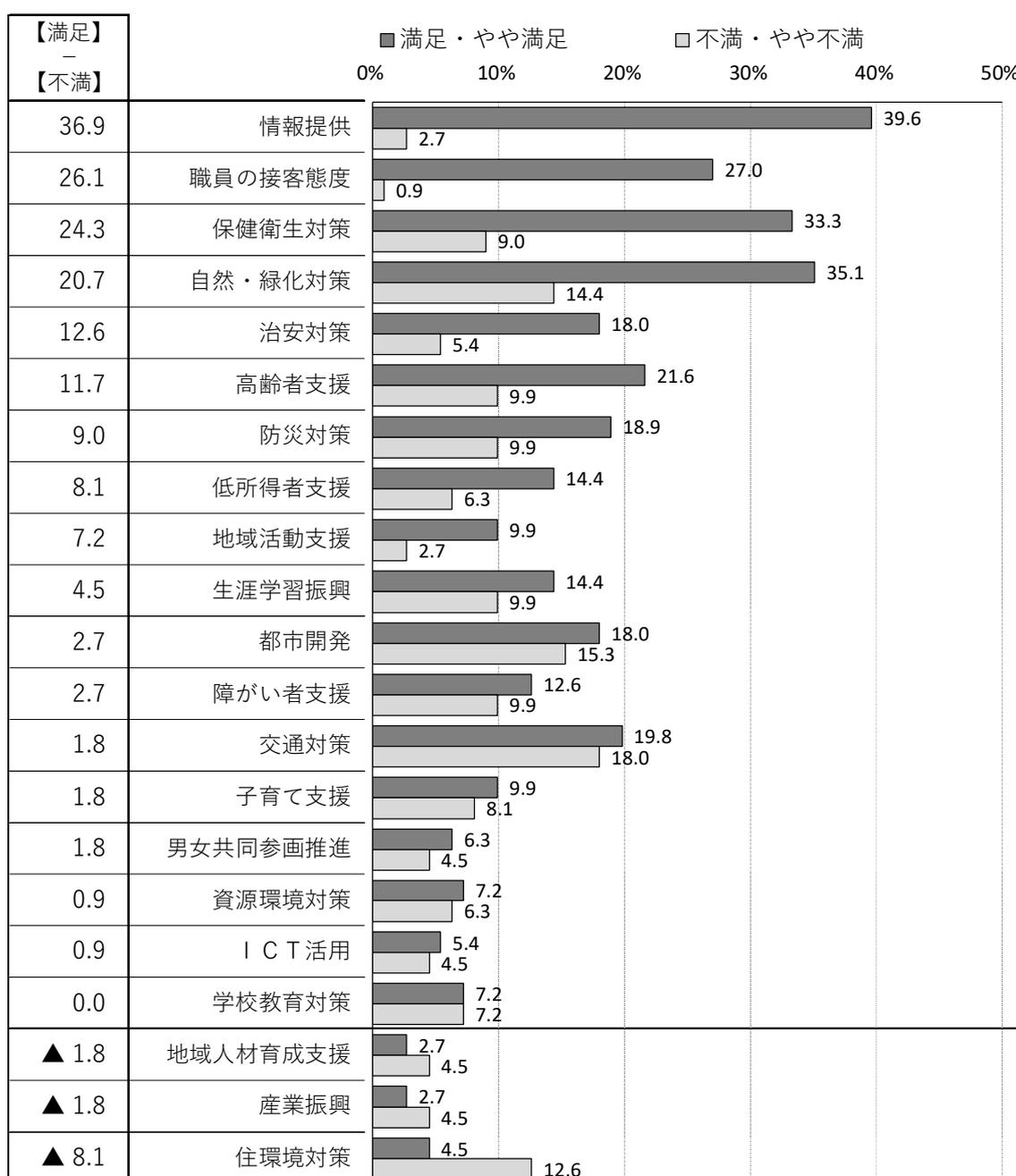
図11-6-12 各取り組みの現状評価《第8地域》（【満足評価】－【不満評価】）



コ クロス集計・地域別《第9地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+36.9ポイント）、「職員の接客態度」（+26.1ポイント）、「保健衛生対策」（+24.3ポイント）、「自然・緑化対策」（+20.7ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「住環境対策」（-8.1ポイント）、「産業振興」、「地域人材育成支援」（各-1.8ポイント）
- (ウ) 第9地域の特徴として、【満足評価割合】で「保健衛生対策」（33.3%）、「交通対策」（19.8%）、「防災対策」（18.9%）、「生涯学習振興」（14.4%）、「男女共同参画推進」（6.3%）の5分野で15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「自然・緑化対策」（14.4%）と「障がい者支援」（9.9%）など5分野で15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-13 各取り組みの現状評価《第9地域》（【満足評価】－【不満評価】）



サ クロス集計・地域別《第10地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）

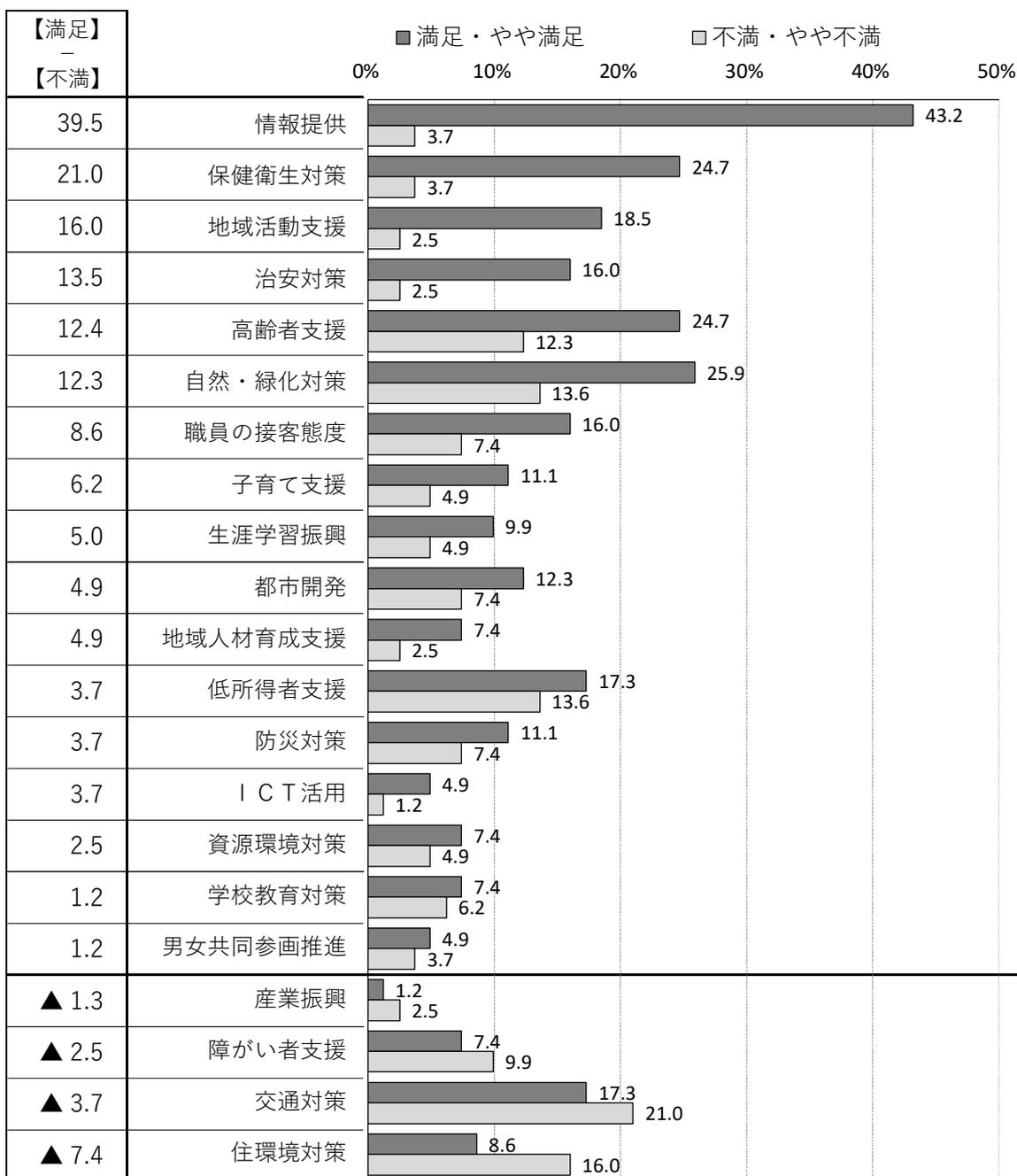
「情報提供」（+39.5ポイント）、「保健衛生対策」（+21.0ポイント）、「地域活動支援」（+16.0ポイント）、「治安対策」（+13.5ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-7.4ポイント）、「交通対策」（-3.7ポイント）、「障がい者支援」（-2.5ポイント）

(ウ) 第10地域の特徴として、【満足評価割合】で「地域人材育成支援」（7.4%）が15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「住環境対策」（16.0%）と「障がい者支援」（9.9%）が15地域中最も高い割合となっている。

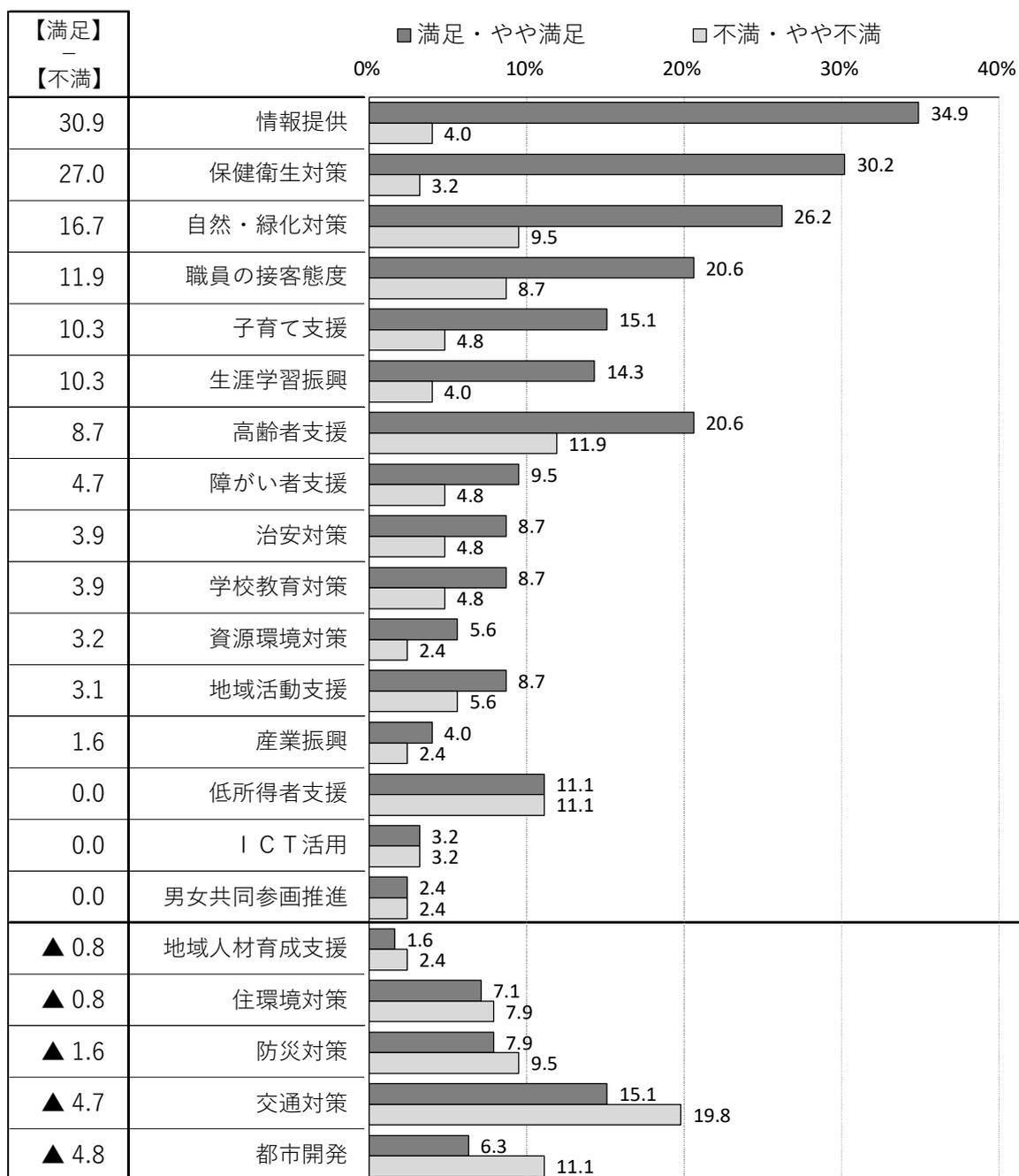
図11-6-14 各取り組みの現状評価《第10地域》（【満足評価】－【不満評価】）



シ クロス集計・地域別《第11地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+30.9ポイント）、「保健衛生対策」（+27.0ポイント）、「自然・緑化対策」（+16.7ポイント）、「職員の接客態度」（+11.9ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「都市開発」（-4.8ポイント）、「交通対策」（-4.7ポイント）
- (ウ) 第11地域の特徴として、【満足評価割合】で「子育て支援」（15.1%）と「学校教育対策」（8.7%）が15地域中最も高い割合となっている。

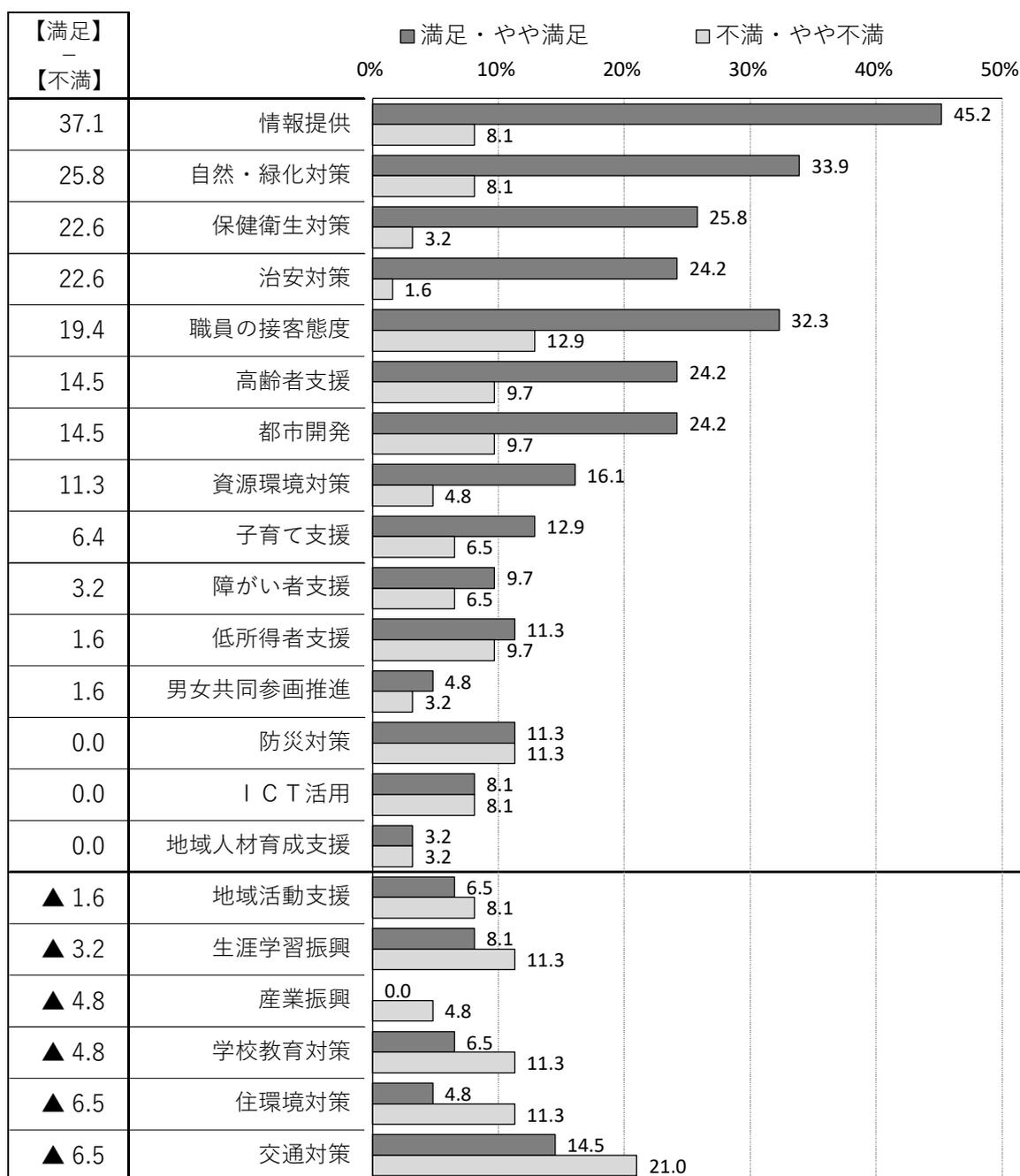
図11-6-15 各取り組みの現状評価《第11地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ス クロス集計・地域別《第12地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+37.1ポイント）、「自然・緑化対策」（+25.8ポイント）、「保健衛生対策」と「治安対策」（各+22.6ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」と「住環境対策」（各－6.5ポイント）、「学校教育対策」と「産業振興」（各－4.8ポイント）
- (ウ) 第12地域の特徴として、【満足評価割合】で「情報提供」（45.2%）、「職員の接客態度」（32.3%）、「治安対策」（24.2%）、「都市開発」（24.2%）、「資源環境対策」（16.1%）、「ICT活用」（8.1%）の6分野で15地域中最も高い割合となっている。

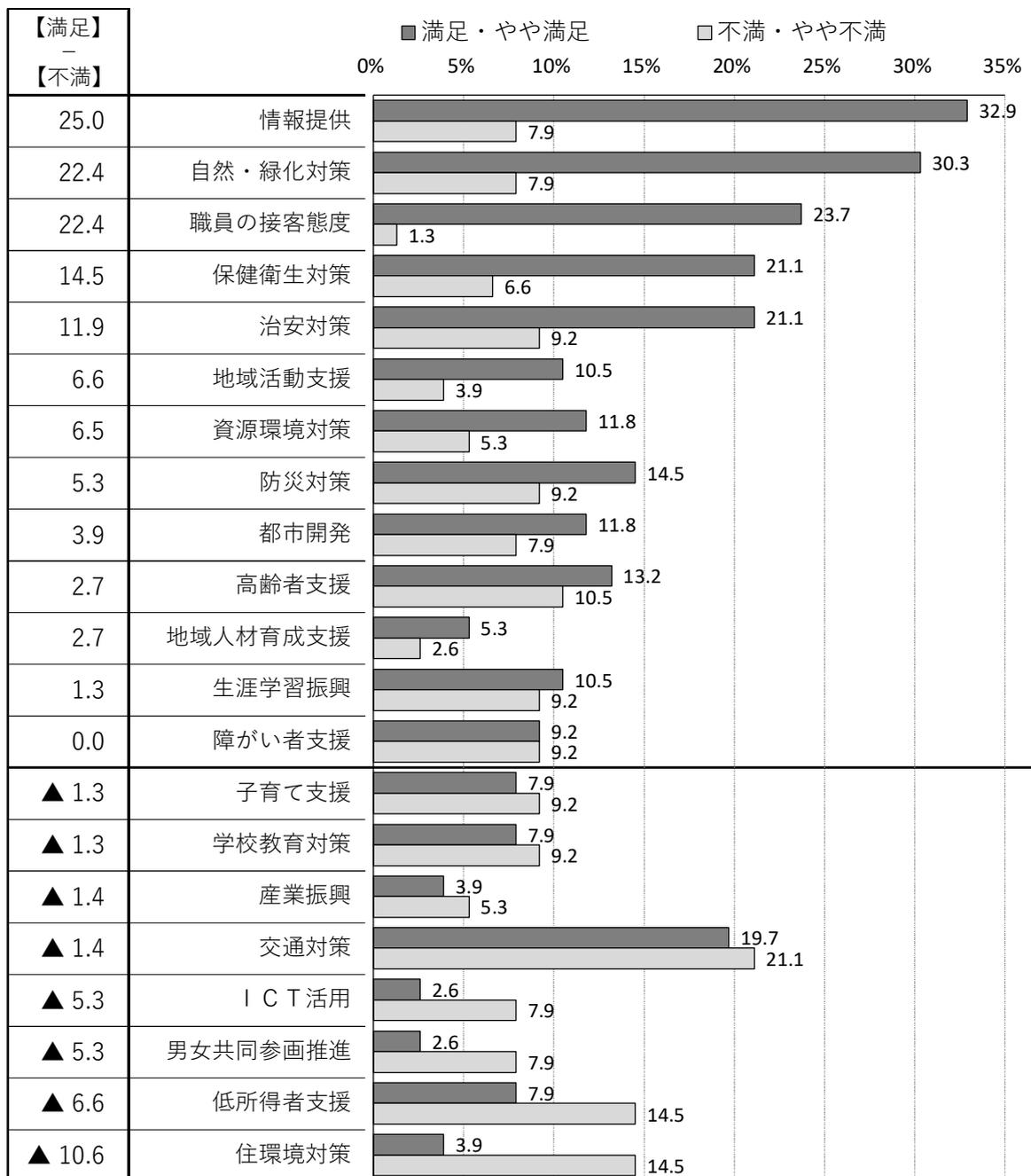
図11-6-16 各取り組みの現状評価《第12地域》（【満足評価】－【不満評価】）



セ クロス集計・地域別《第13地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「情報提供」（+25.0ポイント）、「自然・緑化対策」と「職員の接客態度」（各+22.4ポイント）、「保健衛生対策」（+14.5ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「住環境対策」（-10.6ポイント）、「低所得者支援」（-6.6ポイント）、「男女共同参画推進」と「ICT活用」（各-5.3ポイント）
- (ウ) 第13地域の特徴として、【満足評価割合】で「治安対策」（21.1%）、「交通対策」（19.7%）、「資源環境対策」（11.8%）、「学校教育対策」（7.9%）が15地域中2番目に高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「低所得者支援」（14.5%）、「治安対策」と「子育て支援」（各9.2%）が15地域中最も高い割合となっている。

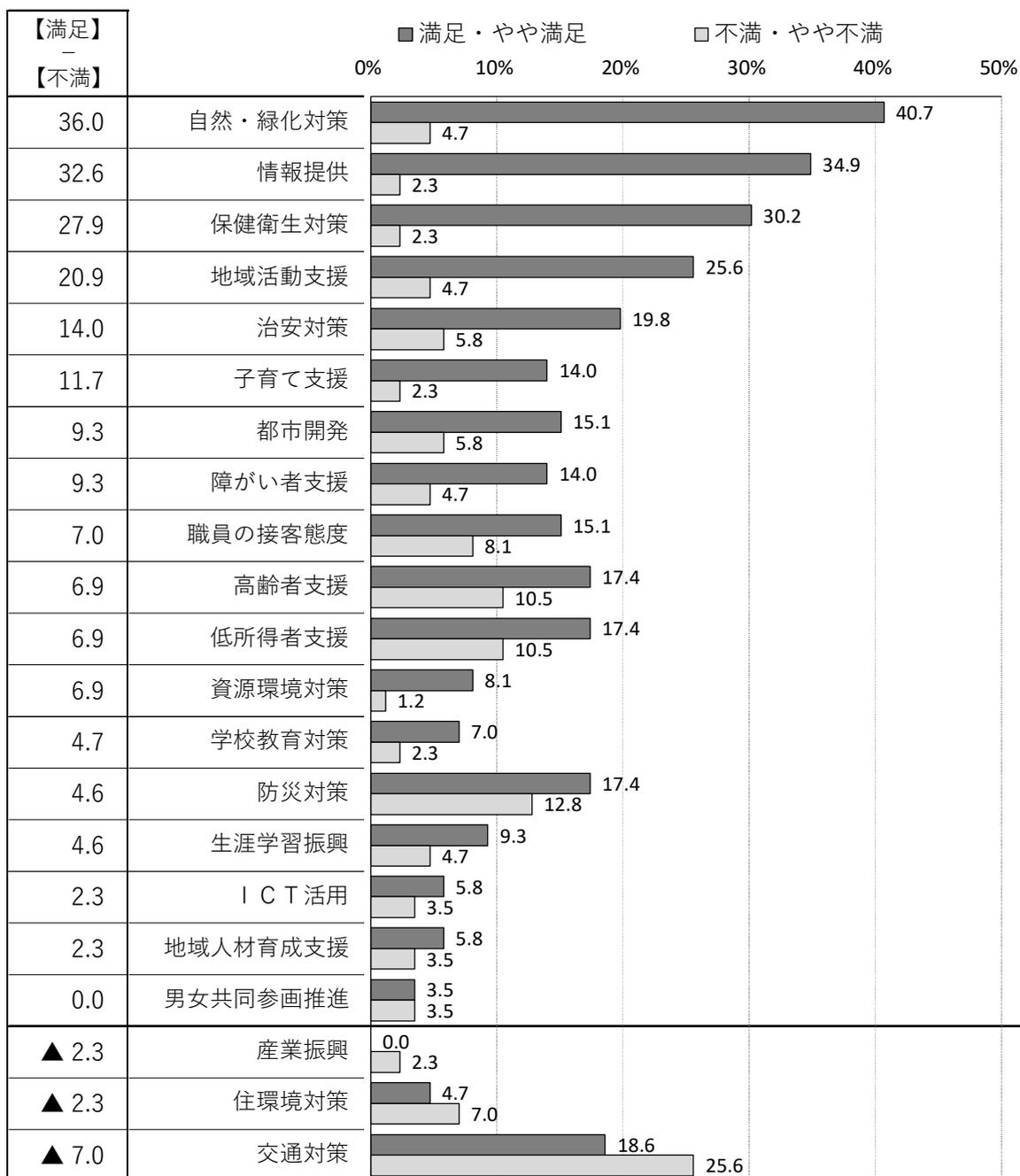
図11-6-17 各取り組みの現状評価《第13地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ソ クロス集計・地域別《第14地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「自然・緑化対策」（+36.0ポイント）、「情報提供」（+32.6ポイント）、「保健衛生対策」（+27.9ポイント）、「地域活動支援」（+20.9ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」（-7.0ポイント）、「住環境対策」と「産業振興」（各-2.3ポイント）。
- (ウ) 第14地域の特徴として、【満足評価割合】で「地域活動支援」（25.6%）、「低所得者支援」（17.4%）、「障がい者支援」（14.0%）の3分野で15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「防災対策」（12.8%）が15地域中最も高い割合となっている。

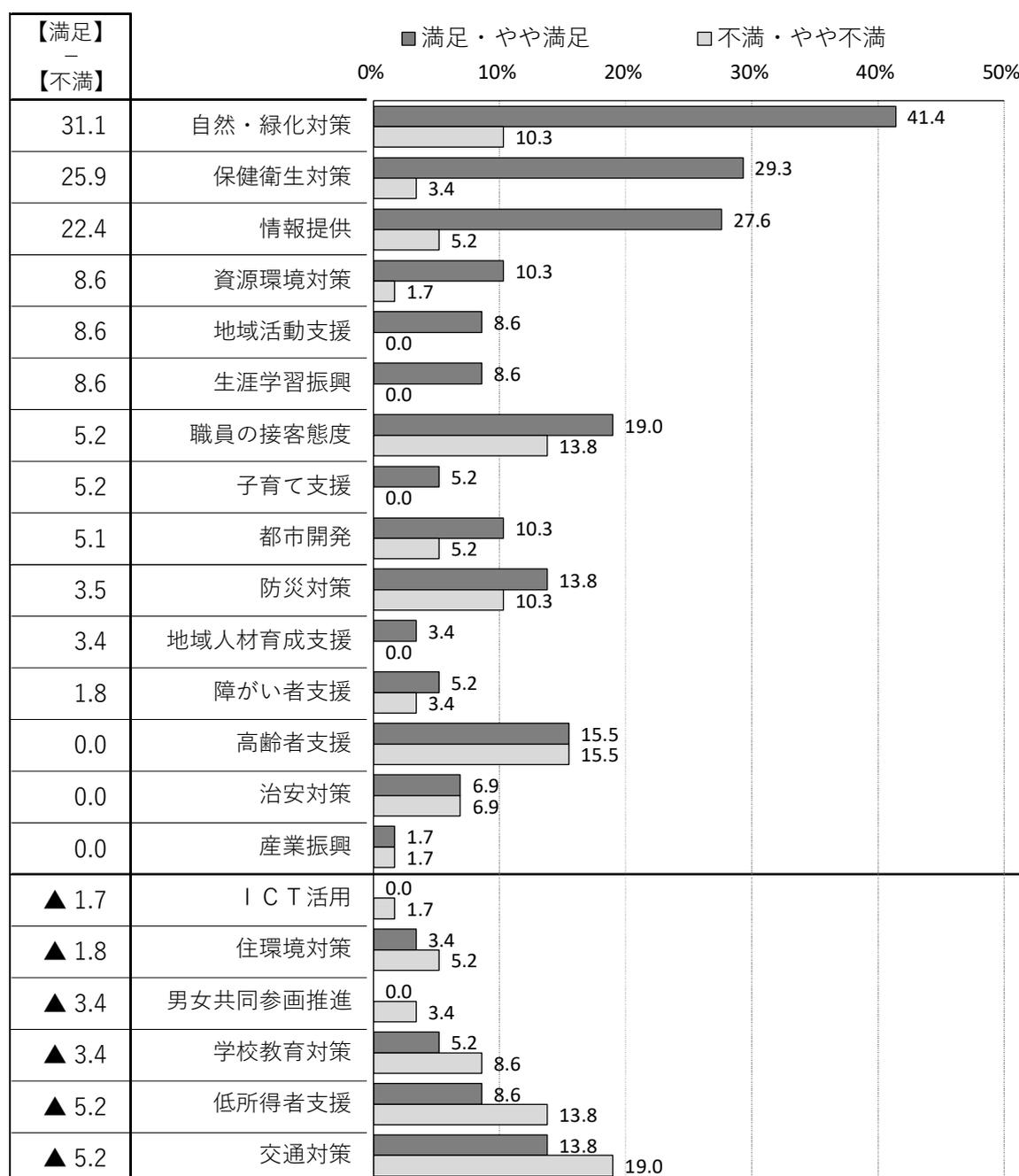
図11-6-18 各取り組みの現状評価《第14地域》（【満足評価】－【不満評価】）



タ クロス集計・地域別《第15地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位）
「自然・緑化対策」（+31.1ポイント）、「保健衛生対策」（+25.9ポイント）、「情報提供」（+22.4ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）
「交通対策」と「低所得者支援」（-5.2ポイント）、「学校教育対策」と「男女共同参画推進」（各-3.4ポイント）
- (ウ) 第15地域の特徴として、【満足評価割合】で「自然・緑化対策」（41.4%）が15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「高齢者支援」（15.5%）と「職員の接客態度」（13.8%）の2分野で15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-19 各取り組みの現状評価《第15地域》（【満足評価】－【不満評価】）



(7) 区政に対する満足度

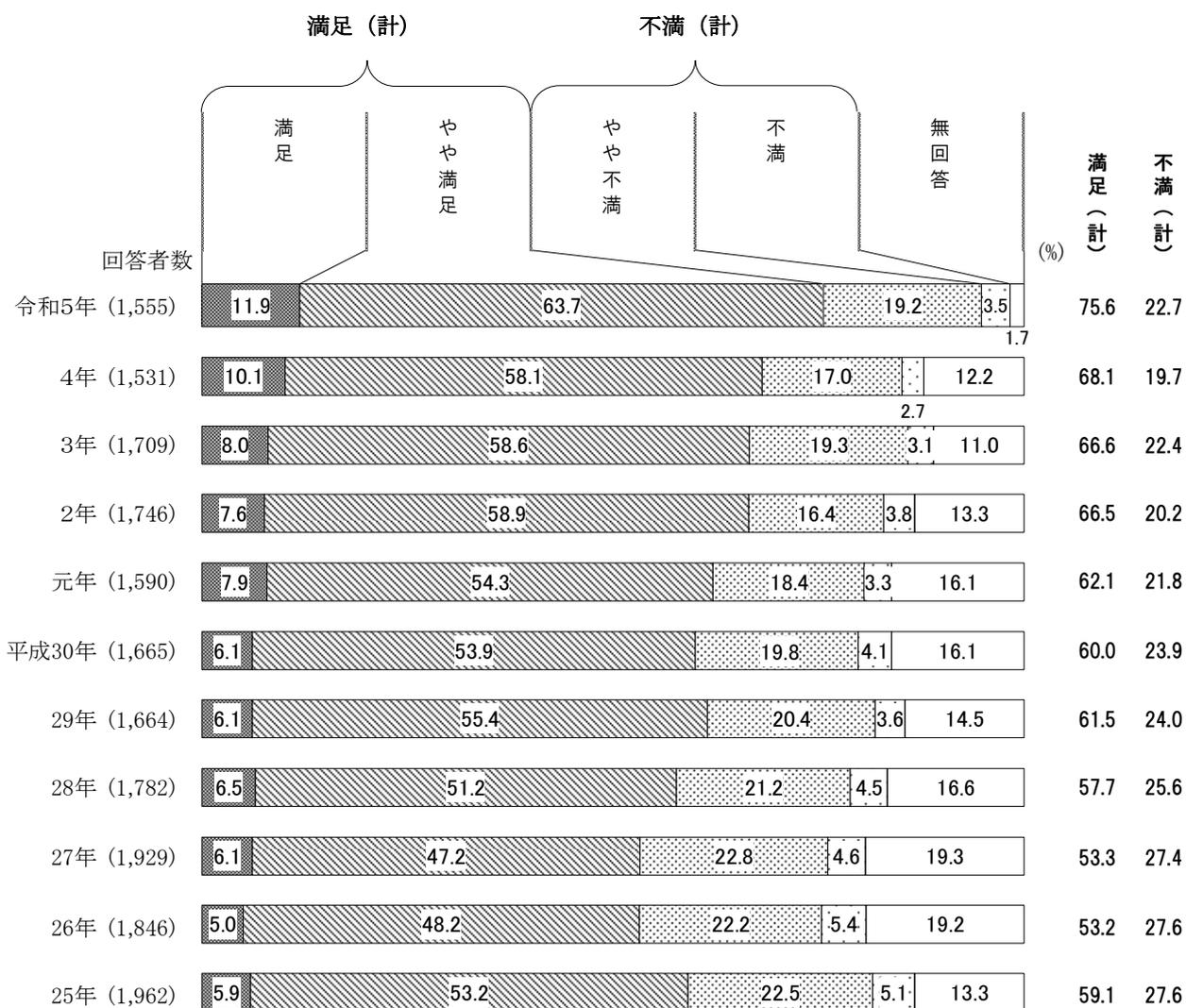
問51 あなたは足立区の区政全体について、満足に感じていますか（○は1つだけ）。

■【満足】は7割台半ばで、平成25年の設問開始以降で最も高い割合となった

ア 単純集計・経年比較／区政に対する満足度

(ア) 足立区の区政全体について、満足に感じているか聞いたところ、「やや満足」が63.7%と最も高く、「満足」(11.9%)を合わせた【満足】は75.6%となり、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。

図 11-7-1 経年比較／区政に対する満足度

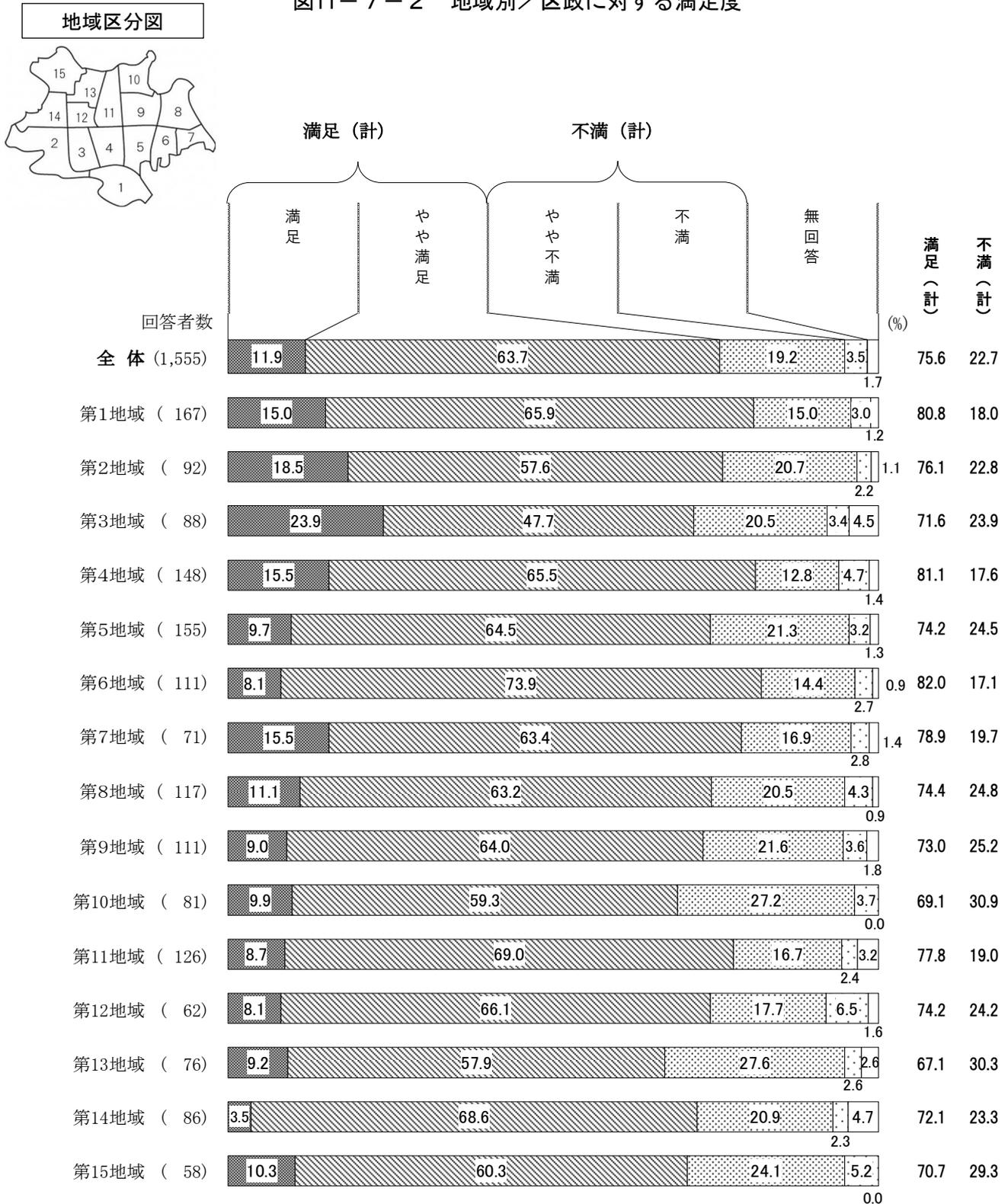


※ 前回令和4年度までは問49で挙げた21の取り組みと併せて質問する形式であったが、令和5年度調査では本設問を単独で聞いたことから、無回答の割合が低くなったと考えられる。

イ クロス集計・地域別／区政に対する満足度

(ア) 地域別で見ると、【満足】は第6地域で82.0%と最も高く、次いで、第4地域(81.1%)、第1地域(80.8%)などとなっている。一方、【不満】は第10地域で30.9%と最も高く、次いで、第13地域(30.3%)、第15地域(29.3%)などとなっている。

図11-7-2 地域別／区政に対する満足度

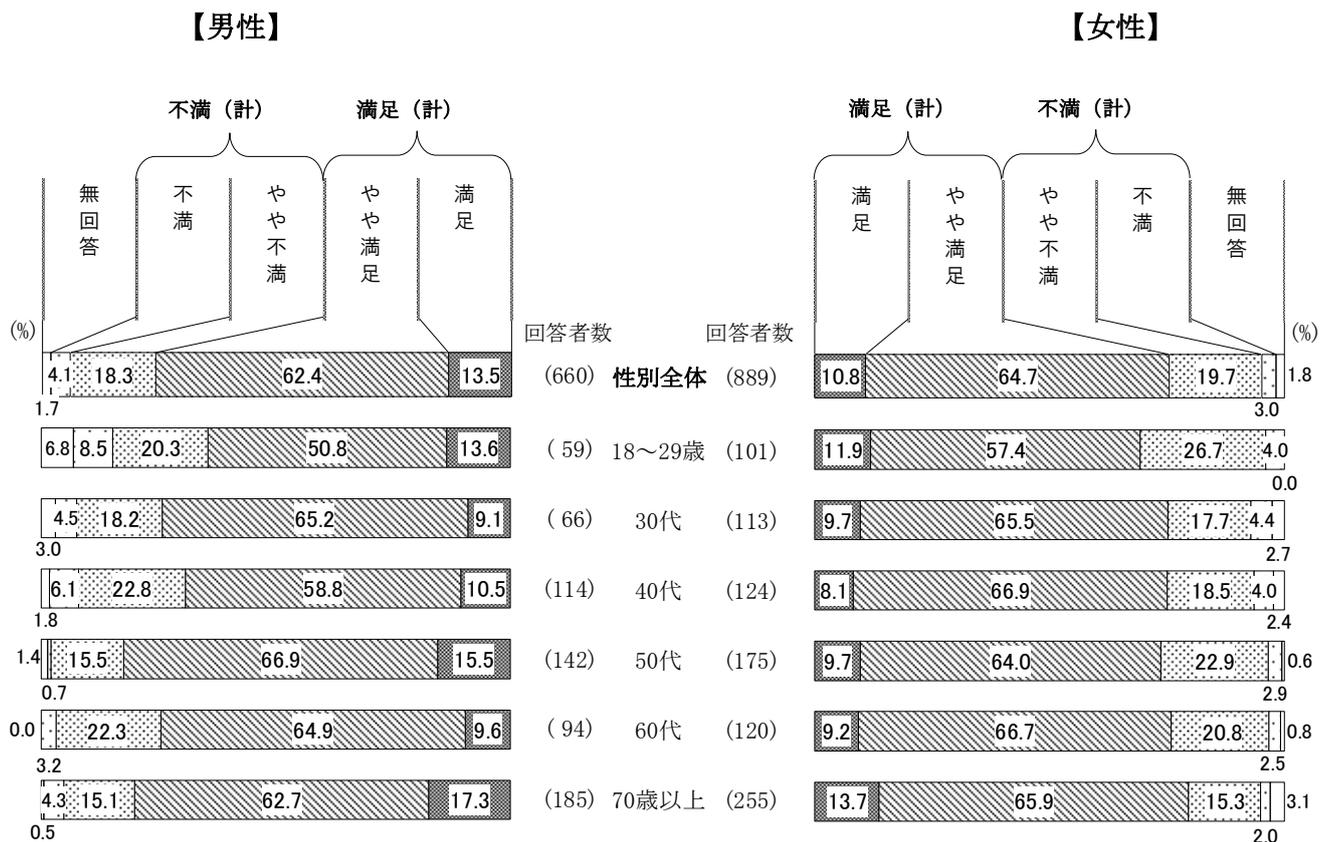


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区政に対する満足度

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【満足】は、男性の50代で82.4%と最も高く、次いで、男性の70歳以上(80.0%)、女性の70歳以上(79.6%)が続いている。一方、【不満】は女性の18～29歳で30.7%と最も高く、次いで、男性の40代(28.9%)となっている。

図11-7-3 性別、性・年代別／区政に対する満足度



(8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野

問52 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください。(〇はあてはまるものすべて)。

■ 「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「高齢者支援」が3割超で続く

ア 単純集計／今後特に尽力してほしい取り組み分野

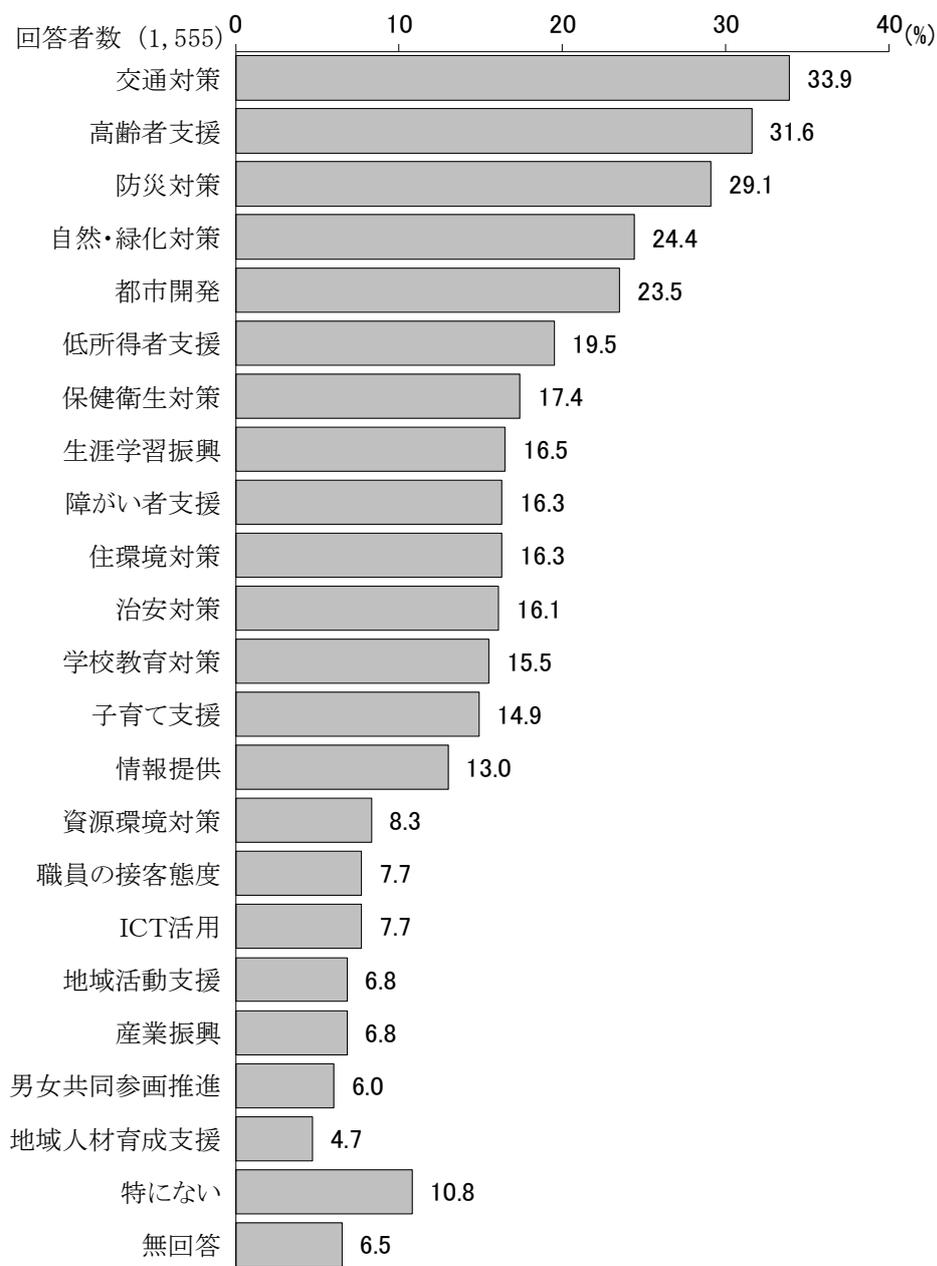
区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が33.9%と最も高く、次いで、「高齢者支援」(31.6%)、「防災対策」(29.1%)、「自然・緑化対策」(24.4%)、「都市開発」(23.5%)などとなっている。

＜上位10分野＞

順位	令和5年		(参考) 令和4年	
1	交通対策	33.9%	交通対策	83.7%
2	高齢者支援	31.6%	治安対策	83.1%
3	防災対策	29.1%	防災対策	82.8%
4	自然・緑化対策	24.4%	資源環境対策	81.8%
5	都市開発	23.5%	自然・緑化対策	81.1%
6	低所得者支援	19.5%	保健衛生対策	80.9%
7	保健衛生対策	17.4%	障がい者支援	80.4%
8	生涯学習振興	16.5%	高齢者支援	79.6%
9	障がい者支援	16.3%	子育て支援	79.6%
10	住環境対策	16.3%	情報提供	79.0%

※ 前回調査までは、各取り組み(分野)それぞれについての重要度を「重要である」「やや重要である」「あまり重要ではない」「重要ではない」の4つの選択肢の中から選んでいただく方法であったため、単純に比較はできないが、参考として掲載している。

図11-8-1 今後特に尽力してほしい取り組み分野



イ クロス集計・地域別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

（ア）地域別でみると、第7地域は「自然・緑化対策」「都市開発」「産業振興」、第13地域では「住環境対策」「治安対策」「子育て支援」、第14地域では「交通対策」「障がい者支援」「資源環境対策」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

図11-8-2 地域別／今後特に尽力してほしい取り組み分野



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	33.9	25.1	26.1	36.4	32.4	36.1	36.0	36.6	37.6	25.2	32.1	33.3	37.1	40.8	46.5	37.9
2	高齢者支援	31.6	31.1	27.2	29.5	27.7	33.5	24.3	29.6	36.8	36.9	34.6	28.6	27.4	34.2	34.9	39.7
3	防災対策	29.1	36.5	19.6	29.5	28.4	31.6	32.4	22.5	28.2	23.4	19.8	33.3	29.0	30.3	31.4	29.3
4	自然・緑化対策	24.4	22.8	16.3	21.6	23.0	24.5	26.1	28.2	27.4	27.9	27.2	24.6	22.6	19.7	27.9	27.6
5	都市開発	23.5	28.1	17.4	22.7	23.0	20.0	27.0	29.6	24.8	25.2	22.2	22.2	25.8	22.4	25.6	15.5
6	低所得者支援	19.5	19.8	19.6	23.9	16.9	27.7	11.7	16.9	11.1	15.3	28.4	18.3	16.1	23.7	23.3	19.0
7	保健衛生対策	17.4	19.8	14.1	15.9	14.9	11.6	17.1	21.1	14.5	23.4	14.8	17.5	16.1	22.4	23.3	17.2
8	生涯学習振興	16.5	18.0	12.0	17.0	14.2	14.2	24.3	16.9	16.2	20.7	12.3	16.7	9.7	19.7	15.1	15.5
9	住環境対策	16.3	19.8	12.0	20.5	14.2	18.7	13.5	18.3	10.3	14.4	14.8	12.7	25.8	23.7	16.3	15.5
10	障がい者支援	16.3	17.4	12.0	15.9	13.5	20.0	11.7	18.3	15.4	18.9	9.9	17.5	19.4	17.1	23.3	8.6
11	治安対策	16.1	16.8	16.3	15.9	15.5	13.5	19.8	15.5	12.0	12.6	13.6	17.5	19.4	22.4	17.4	15.5
12	学校教育対策	15.5	13.2	16.3	12.5	16.9	14.8	13.5	14.1	21.4	14.4	17.3	11.1	16.1	18.4	17.4	20.7
13	子育て支援	14.9	18.0	15.2	14.8	12.8	11.0	16.2	16.9	16.2	15.3	9.9	15.9	17.7	19.7	15.1	10.3
14	情報提供	13.0	13.8	6.5	10.2	10.1	14.8	10.8	16.9	16.2	12.6	18.5	9.5	17.7	14.5	11.6	10.3
15	資源環境対策	8.3	7.8	2.2	8.0	5.4	7.1	6.3	11.3	8.5	8.1	9.9	5.6	12.9	14.5	16.3	10.3
16	ICT活用	7.7	9.6	3.3	5.7	9.5	9.0	12.6	7.0	6.0	7.2	1.2	4.0	12.9	10.5	5.8	10.3
17	職員の接客態度	7.7	6.6	4.3	5.7	10.8	8.4	8.1	9.9	6.8	6.3	8.6	7.1	14.5	3.9	4.7	8.6
18	産業振興	6.8	6.6	5.4	6.8	8.1	5.2	6.3	12.7	7.7	4.5	3.7	7.1	8.1	10.5	4.7	6.9
19	地域活動支援	6.8	5.4	4.3	12.5	5.4	8.4	6.3	8.5	6.8	3.6	6.2	6.3	4.8	5.3	11.6	6.9
20	男女共同参画推進	6.0	6.0	2.2	9.1	6.1	6.5	3.6	8.5	9.4	7.2	3.7	5.6	3.2	7.9	4.7	6.9
21	地域人材育成支援	4.7	5.4	1.1	5.7	7.4	7.7	1.8	7.0	6.8	5.4	2.5	2.4	1.6	3.9	5.8	0.0
—	特にない	10.8	7.8	18.5	4.5	14.2	11.0	9.9	12.7	12.0	10.8	16.0	11.1	6.5	9.2	9.3	6.9

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

（ア）性別でみたときに、21項目中17項目で女性の方が男性より高くなっている。

a 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「高齢者支援」（+5.1ポイント）、「治安対策」（+3.9ポイント）、「保健衛生対策」（+3.2ポイント）

b 「特にない」は、男性の方が女性より4.6ポイント高くなっている。

（イ）年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は、21項目中最多の9項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「交通対策」で10ポイント以上高くなっている。

b 30代では、4項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「学校教育対策」の2項目で10ポイント以上高くなっている。

c 60代、70代ともに、2項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」で10ポイント以上高くなっている。

図11-8-3 性別、年代別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	33.9	32.9	34.4	31.3	37.0	45.2	37.9	32.6	25.3
2	高齢者支援	31.6	28.6	33.7	13.8	8.8	22.2	34.7	43.3	44.6
3	防災対策	29.1	27.6	30.3	20.0	26.0	35.6	33.8	33.5	24.7
4	自然・緑化対策	24.4	24.2	24.7	26.3	29.8	27.6	24.9	22.8	20.4
5	都市開発	23.5	22.1	24.6	27.5	30.9	31.0	26.8	18.6	15.2
6	低所得者支援	19.5	19.7	19.5	17.5	14.9	18.8	17.4	24.7	21.5
7	保健衛生対策	17.4	15.6	18.8	12.5	14.4	21.8	20.8	19.5	14.7
8	生涯学習振興	16.5	17.1	16.1	18.1	17.7	24.7	15.8	17.2	11.1
9	障がい者支援	16.3	15.6	16.9	13.1	8.8	16.7	20.2	20.5	15.4
10	住環境対策	16.3	15.9	16.8	16.3	12.7	20.1	15.8	19.1	14.9
11	治安対策	16.1	13.9	17.8	17.5	18.8	22.2	17.4	12.6	12.0
12	学校教育対策	15.5	13.9	16.8	18.1	30.4	23.4	12.0	16.7	6.1
13	子育て支援	14.9	13.6	16.0	20.0	37.6	21.3	8.5	10.2	7.2
14	情報提供	13.0	12.6	13.3	6.9	5.5	12.6	15.1	14.0	16.5
15	資源環境対策	8.3	7.9	8.7	5.0	3.9	11.7	11.4	9.8	6.6
16	ICT活用	7.7	8.9	6.7	5.6	11.0	13.4	7.9	7.9	3.8
17	職員の接客態度	7.7	7.1	8.1	6.9	3.9	10.0	5.0	12.6	7.7
18	産業振興	6.8	6.8	6.9	10.6	7.7	12.6	7.9	5.6	1.8
19	地域活動支援	6.8	7.4	6.2	5.0	1.7	5.4	4.1	6.5	12.2
20	男女共同参画推進	6.0	5.8	6.3	7.5	5.5	7.1	7.9	4.7	4.5
21	地域人材育成支援	4.7	5.3	4.3	2.5	2.8	4.6	5.7	5.1	5.4
—	特にない	10.8	13.5	8.9	17.5	7.7	8.4	8.8	12.6	11.3

性差 5 p 以上	区全体より 5 p 以上高い
-----------	----------------

（9）区政への区民意見の反映度

問53 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

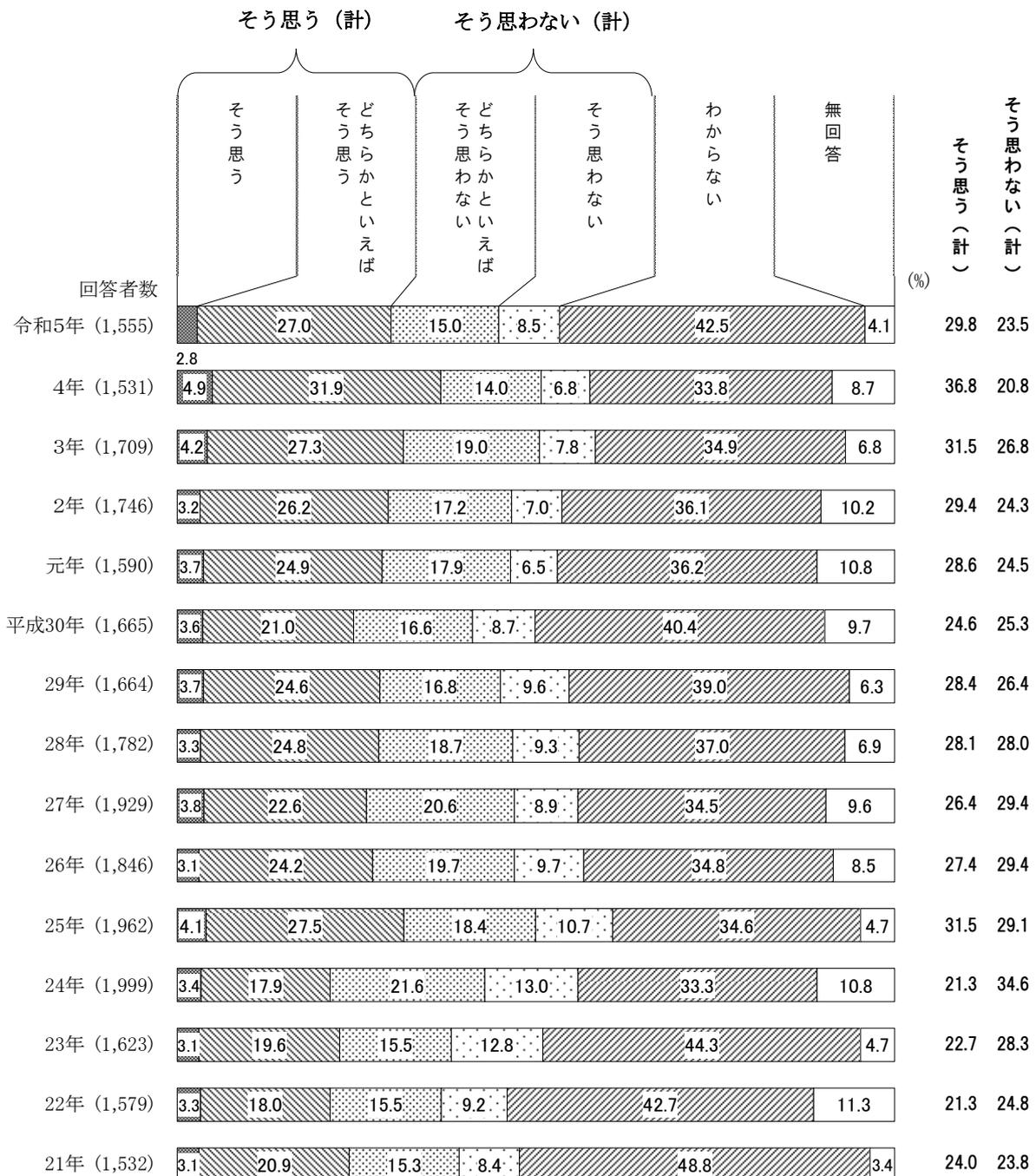
■【そう思う】は7ポイント減少し約3割、「わからない」が8.7ポイント増加し4割台半ば近く

ア 単純集計・経年比較／区政への区民意見の反映度

（ア）区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」（2.8%）と「どちらかといえばそう思う」（27.0%）を合わせた【そう思う】は29.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」（15.0%）と「そう思わない」（8.5%）を合わせた【そう思わない】（23.5%）を6.3ポイント上回っている。

（イ）前回調査と比較してみると、【そう思う】が7.0ポイント減少している。

図11-9-1 経年比較／区政への区民意見の反映度

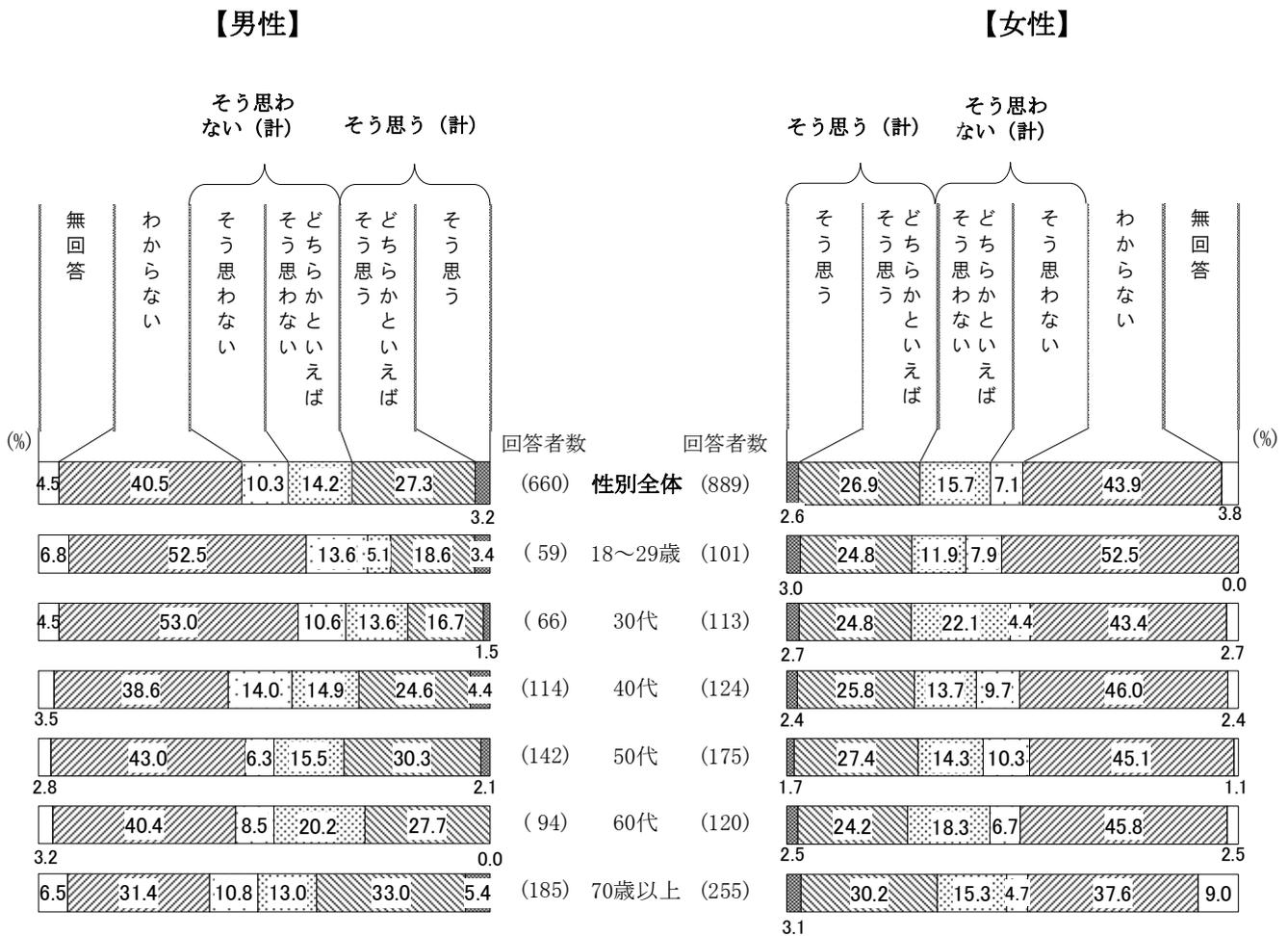


イ クロス集計・性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は、男性の70歳以上で38.4%と最も高く、次いで女性の70歳以上が33.3%が続いている。一方、【そう思わない】は男性の40代で28.9%と最も高く、僅差で男性の60代(28.7%)が続いている。

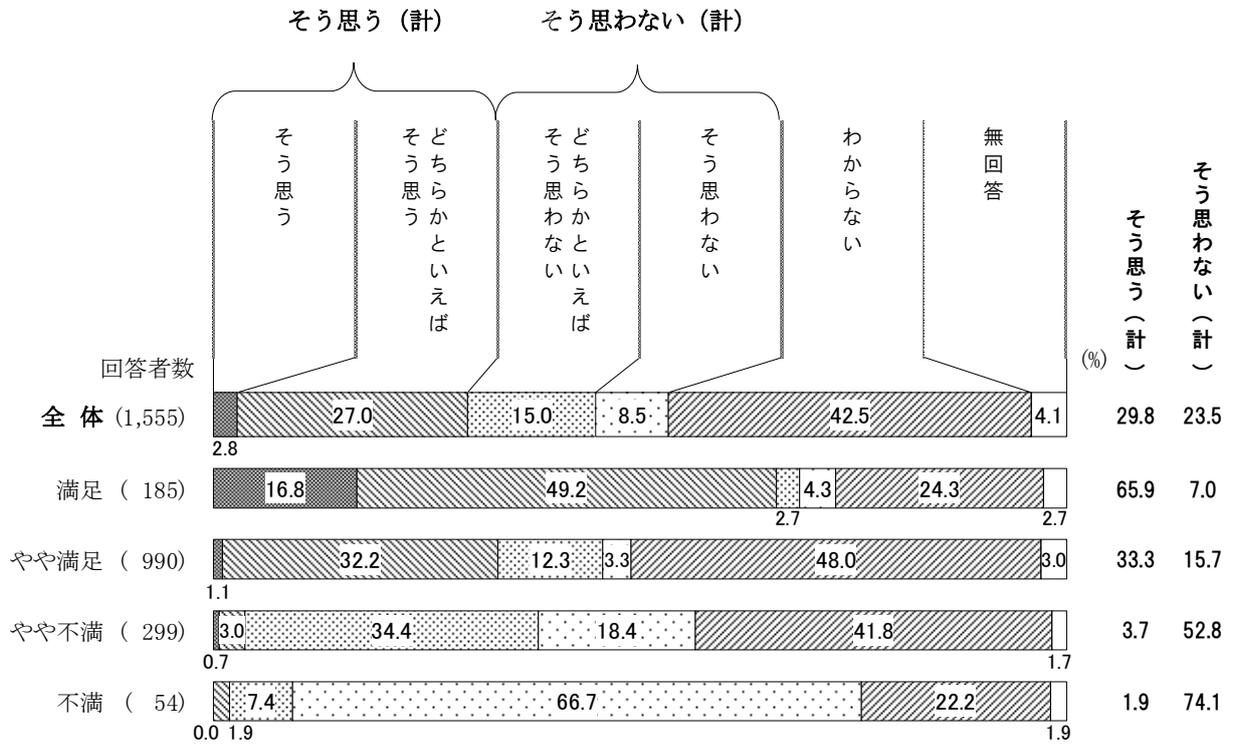
図11-9-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



ウ クロス集計・区政満足度別／区政への区民意見の反映度

区政満足度別で見ると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ばと高くなっている。

図11-9-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問54 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、456名から延べ523件のご意見やご要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

■ 交通機関・道路の整備（47件）

- ・歩道等の段差がかなりあり、車イスでの移動が容易ではない。まだまだ車イスの対応が出来ていない。障がい者にやさしい区をめざして欲しい。
- ・区の外れにあるため、交通の便が悪い。舎人ライナーまで出るためにもバスを使わなければならず不便。
- ・舎人ライナー以外の交通手段を増やしてほしい。
- ・目の見えない障がい者が、駐車場に迷い込んで道路に出られない姿が見られます。クラクションや人の声などで、杖をついていても分からなくなるのかと思います。駐車場の出入口に障がい者用の黄色線みたいなデコボコした何か分かるようなものをつけると迷い込まなくなるのではないかと思います。
- ・新田地区は行政サービスを受けるために施設に移動するための手段が少ない。バスの直接便などが少ないため、不便と感じる。
- ・公共交通機関での区内の特に東西の移動手段が、極端に少ないと感じます。車なら20分程度なのに、電車だと片道1時間、往復で1000円近くかかるなど。
- ・歩道を自転車が出して走るのでとても危ない。自転車専用レーンを普及させて欲しい。
- ・千住警察署前の開かずの踏切を一刻も早くなんとかしてほしい。
- ・はるかぜがなくなってしまうと、高齢者は買い物や通院ができません。タクシーで行けるほど年金ももらっていません。はるかぜ廃止に反対です。ルート拡大や本数の増加をしてほしいです。
- ・旧日光街道と川に挟まれた場所に居住しているため、ものすごく揺れます。ここまで揺れるとわかっていたら引っ越さなかったと思います。道路を整備するなり、信号を増やすなり、揺れが軽減するような施策を講じていただきたいです。ぜひよろしくお願いします。

■ 区政全般（45件）

- ・若い人達の発想を取り入れて、若い人達が生活出来るよう、大学が多い、文化の高い区にしてほしい。区内の商工業をもっと区民に知ってもらおう事をすすめてほしい。
- ・足立区はなぜ1ヶ月に1回しか開庁日がないのですか。2回開庁日がある区もあるのに、1回で区民の声が届くのかなと思う。
- ・葬儀後の手続きも大変なので、区役所に、おくやみ課（例）のようなあちこち回らずとも1ヶ所で全部教えていただき、手続きが簡単にできるようなシステムになればと思います。
- ・現区長の、足立区を住みやすく、以前のあまりよくないイメージを払拭・改善しようとする姿勢を大変評価しています。私自身、足立区に住み始めた頃とは区に対する感じ方は変わっていますし、(最初のうちは道を歩くのも怖く感じていました) もっともっと安心して生活できる足立区にしていただけることを期待しています。
- ・足立区のこと足立区民が決めるのが一番。足立区が率先して行政改革を推し進め、区民の意見を速やかに取り入れられる仕組みづくりを望みます。
- ・低所得者や片親には優しい町だが、高所得者でも家計が苦しい家もある。頑張って働いて稼いで税金も払っているのに、働かず税金も納めていない人ばかりが優遇されていると感じてしま

う。

- ・近藤区長にはこれからも足立区を住みよい区にさせていただくべく、いろいろと頑張ってくださいたいです。

■ 治安対策（35件）

- ・不審者が多いため、職務質問を強化してほしいです。毎朝同じ場所で立っている男性がいます。近くに交番はありますが不在が多いです。舎人公園に街灯を増やしてほしいです。
- ・自転車の盗難にあいました。警察は防犯カメラがないと知るとあきらめた方が良くと言わんばかりの口ぶりでした。もっといたるところに防犯カメラを取りつけて下さい。都営住宅、区営住宅にも取りつけてほしい。また、パトロールももっと行ってほしい。被害者が我慢することのない町にしてほしいです。
- ・街の騒音について悩んでいます。気軽に相談できる窓口等が身近にあると助かります。何をどこに相談していいかも分かりません。
- ・道、街灯が少し暗くて怖いところがあります。パトロールをいっぱいして頂けるとありがたいです。
- ・竹の塚駅西口の街灯が切れていたり、チカチカしている。暗い所もある。防犯上心配になる。何とかしてほしい。
- ・外国人がルールを守らない。自転車の暴走、スケボーを本当に禁止にしてほしい。バイクも禁止なのに通っている。
- ・歩きタバコのパトロールをたまに見かけるが、パトロールの場所と時間に意味がない。適正な場所と時間にパトロールしてもらえると助かる。また、歩きスマホが多く、特に細い路地の多い足立区では自転車に乗っている際に歩きスマホの人たちとのすれ違いで怖い思いをするし、短期間で衝突している人、しそうな人を何人も見かけた。注意できるような取り組みがあればいいと思う。
- ・まだまだ治安が悪いので改善してほしい(深夜に奇声を上げている人がいる、路上喫煙、自転車の盗難、落書き、掲示物へのいたずら等)。
- ・近隣の騒音に一年以上悩まされていて何度か通報もしているが全く改善されない。また自転車や自動車が全く道を譲ってくれず、道を通れないことが多く困る。もっと迷惑行為の取り締まりや道交法に関する対応の強化などをして欲しい。住み始めた頃から全く改善されず不満。

■ 広報・情報公開（30件）

- ・知らないことが多いと感じました。必要なことがあればHPを見ますが、若い世代にも情報発信をスムーズにかつ興味をもってもらえるようにしていく必要があると思います。避難場所は常に町会の掲示にあっても良いと思いました。
- ・いろいろな取り組みをなさっておられるとは思いますが、いまいち伝わっていない気がします。ネット活用も積極的に考えてもっと活動内容や問題点、課題等も少し盛り込んだ内容を伝えてほしいと思います。
- ・私は飲食業の仕事をしておりますが、その経験を活かして、足立区のイメージアップ及び活性化に貢献したいと思っています。その様な情報をもっと発信されて行くありがたいと思いますし、足立区を良くするためにどのような事が求められているのかを知れる機会を作って頂ければと思います。
- ・X（旧Twitter）で足立区のアカウントや区議のアカウントをフォローしていますが、この度の足立区商品券の件を知ったのは友人からの知らせでした。フォローをしても得になる事は入ってこないなあと感じています。
- ・アンケートを回答して、区の取り組みについて知らないことが多かったと感じました。若い世代でもわかりやすいようネット上や駅、商業施設等でもっと情報発信をして欲しいです。足立

区以外の都民から足立区のイメージがかなり悪いので、イメージアップにつながるような情報発信が多くなると嬉しいです。

- ・区の政策についてももっと知って協力したいと思います、機会が少ないように思います。
- ・足立区のホームページをかわいくして欲しい。中身を見たくなるような、堅苦しくない雰囲気にして欲しい。

■ 施設全般（27件）

- ・放課後に子どもたちが安心して過ごせる場所の充実をお願いします。ボールの使える公園を増やしてほしい。
- ・竹ノ塚駅がとても綺麗になり嬉しいのですが、足立区に（特に竹の塚に）大きなモールがなく、越谷レイクタウンや川口まで買い物に行っている、大きな施設を検討してほしい。若い方から高齢者が楽しめる所が少ないと思います。とても大好きな町なので、おしゃれなイメージになってほしいと願っています。
- ・六町駅近辺に銀行、商業施設など充実させてほしい。カフェなどあると良い。
- ・子育てサロンが古い建物が多い為、綺麗な施設ができると嬉しいです。
- ・温暖化対策としての農園兼公園を作って欲しい。15年位前のエコプチテラスのような、人が集まり楽しく過ごせる場所があればいい。住区センターも良いけれど、外にいても気軽にすごせる所があった方が老人対策にもなると思います。子ども達も暑い公園より涼しい場所がよいと思います。
- ・北千住周辺に大型スーパーを招致してほしい。買い物に不便である。
- ・古い校舎の有効利用。お年寄りと幼い子どもの共同施設など。
- ・小台、宮城地区は区から遠いため、体育施設や文化的施設があまりなく、また、区中心へ出かけていく手段もあまりないため、ほとんど利用や参加が出来ていない。何らかの優遇措置や配慮がほしい。

■ 環境対策・公園（25件）

- ・足立区を発展させるために高層マンションや商業施設をつくるのではなく、もっと自然豊かな緑のある街を造ってほしい。足立区は空が狭くて息苦しくなる。
- ・「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に犬のフン対策を強化することを入れてほしい。周辺の犬のフンに困っています。
- ・団地の近くの親水公園の水はヘドロで、その汚れた水の中にカメや鯉がいます。姿の見える綺麗な水で気持ち良く住めるようにして下さい。
- ・公園の木のメンテナンスが雑。無惨に切られている枝を見ると気持ちが落ち込む。もっと木々を伸び伸びと育てて欲しい。
- ・公園をもっと子どもたちが利用しやすいよう工夫すべきと思う。ボールはダメ等、利用しにくいと思う。
- ・公園が荒れていたりトイレが閉鎖されていたりしますが、公園とトイレはその区の活動が一番分かる場所だと思います。これからも整備をして綺麗な公園とトイレの維持をお願いします。
- ・大学を増やしたりしていないで、今住んでいる人達が、不便や不自由なく買い物したりできるような街づくりを頑張ってもらいたい。歩道の確保や、ガードレールを設置しているところも少ないし、公園はあっても植木や雑草が凄い事になっている。

■ 学校・教育（24件）

- ・小・中学校に置かれている「開かれた学校づくり協議会」は、このまま継続するのでしょうか。年月が経ち、コロナの3年間の様子＝学校の様子を見るにつけ、すでに形骸化しているのではないかと思います。学校側が働き方改革を行っているので、合わせて見直しの必要があるかと思うのですが。
- ・小学校も人気校と不人気校の差が大きい。子どもも減っているのでどんどん統合させてほしい。
- ・他区に比べ、小学校の英語教育が劣っているようです。もう少し充実してもらいたい。
- ・所得の低さ＝子どもの学力の低下の負の循環を断つような施策が必要と思います。子どもの学力の底上げに向けて、学校教育の充実・放課後学習の機会の増をお願いしたいです。
- ・保育園、子ども園は充実してきたが、学童保育室を強化してほしい。夏休み中の学校教室利用等でも。真面目に働く父母、未来を担う子どもが安心して就業、学業に専念できることは、区の発展につながっていくと思います。
- ・小学校の給食費を無償化してほしい。
- ・子どもが来年小学校入学を予定しておりますが、学校見学の際、各学校ごとにICT教育の活用レベルに差があると感じました。同じ地域内でICT教育を含めた教育格差を感じるため、教育レベルの平準化を期待します。
- ・学校の給食はすごくいいと子どもから聞いています。ありがとうございます。
- ・子どものタブレットが重すぎる。薄型にできなかったのか。教科書を持ち歩くのと変わらない。学校内のWi-Fi環境が悪すぎる。授業に支障あり。小学校の給食費無償化の時期の目処がわからない。

■ 子育て関連・子育て支援（23件）

- ・高齢者を労るのは大切だと思います。ですが、未来を担うのは若者です。将来、足立区の税収を増やすためにも、出産・子育てへの支援に重点を置いてほしいです。
- ・足立区で子ども食堂を作って子ども達を救って下さい。
- ・保育園の充実をお願いいたします。なかなか保育園に入れず困っている。仕事を続けたいのに、保育園に入れないのはつらい。
- ・子どもがいると保育園の時間内しか働けない。延長保育してもその分追加料でとられてしまう。世帯の年収も上げないといけない。
- ・学童をもっと充実させてほしい。仕事をこの先も続けられずすごく困っている。子どもの預け先が少なすぎる。
- ・保育園の争奪戦が激しすぎて辛いです。辛うじて滑り込めても、2人以上の子どもを別々の施設に預けなければいけなかったり、共働きでなくては生きていく事も出来ない世帯が多いと思います。保育園を増やし、保育士も増やし、安心して出産や仕事復帰ができるようにしてほしいです。
- ・低所得、ひとり親家庭への支援・補助の充実を望みます。
- ・特に子どもが安心して生活できるよう、安全な治安の良い街づくりをお願いいたします。また、子育てがしやすく、少子化対策に繋がるような支援が充実すると嬉しいです。

■ 本調査について（21件）

- ・今回、アンケートに答える機会を得て、区として取り組んでいることに知らないことが多いことを実感しました。日常的に不満に思っていることもすでに対策がとられているのかもしれない、今後は区から発信されている情報にもっと興味を持ちたいと思いました。
- ・実際にどのような活動をされているかなどが不明確かつ、他の区との比較等をしたことがないため、良いのか悪いのかわからない。このアンケートが来て初めて住んでいる区のことに対し興味をわきました。

- ・高齢者に分かりやすい用語で。アルファベットの文字が多すぎる。
- ・ポイントをしばったアンケートを望みます。
- ・本アンケートは現区政中心の内容となっており、もっと幅広い意見をくみ取る内容とすべき。
- ・少し質問が多すぎます。

■ マナー（19件）

- ・綾瀬駅周辺には信号のない横断歩道がたくさんありますが、白バイの方々がいないと歩行者優先でなくなっています。当たり前のように走り抜ける自動車や自転車に危険を感じています。
- ・近所の騒音問題にもっと理解を示して欲しい。“音”の問題は、出した者の勝ち。困っている方は誰にも相談できなく泣き寝入りというケースが多い。けんかや、重大な犯罪にまで発展することもある。商店街で自分のことしか考えないで大声を張り上げている店とか、住宅街の中にある産廃業者の大きな金物がぶつかる音とか、子どもをドタドタ部屋で走り回らせても注意しない親とか。
- ・横断歩道で待っていても車が停まらない。栃木県はワースト1から随分改善されたとのことで、足立区がワースト1ではとってしまう。歩行者が待っている時は一時停止を知らないドライバーが多いのか。もっと啓発してほしい。
- ・公園で、我が物顔でワンカップを持ってベンチに朝一から座っている高齢者を見かけます。公園で遊んでいる子どもたちがその周辺には近寄っていません。公園はお酒を飲む場所ではありません。
- ・徐々に改善していると感じますが、足立区＝治安が悪いというイメージの払拭までは程遠いと思います。身近なところでは公園での深夜の騒音、家の前のポイ捨てが気になります。特にタバコの吸い殻のポイ捨てが酷く、落ち葉と合わさって火災に繋がらないかと常に不安を感じております。路上喫煙や副流煙への配慮のなさ、そしてポイ捨てと喫煙者のマナーの悪さにも辟易します。条例等でもう少し強制力を発揮して規制していただきたいです。
- ・歩きタバコの人が多い。玄関前の側溝フタ回りにタバコをポイ捨てされる。家が公園前だが、ボール遊びのボールが壁・車に当たる。家の前が公衆トイレだが、違法駐車が多い。

■ 税金（18件）

- ・年金生活者には、最近の物価高等々非常に大変です。都民・区民税がより一層重い負担と感じます。一時的処置でも良いので何か考えて欲しい。金銭的に余裕が無いと何も意欲がわかない。
- ・コロナでほとんどの家庭が苦しいのに、高齢者・低所得・シングルマザーばかり支援しているのは、おかしい。税金ばかりとられている。物価高もあって支援されない家庭の方が苦しい。
- ・最近の社会問題は、足立区だけでどうにかなるレベルのものではない。とにかく税金が高い。消費税だけで高すぎて買い物をしたい気力がなくなるし、必要最小限の消費しかしなくなると思います。とにかくスモールな区政にし、ムダなお金を使わないで下さい。
- ・国保料はワースト10に名を連ねる足立区。お金の意味のない貯め込みや一部にしか渡らないばら撒きはやめて頂きたい。

■ 高齢者支援・介護（18件）

- ・老人が気軽に相談できる場所・居場所を提供してもらいたい。老人は行くところがなく困っている。住区センター等は元気で仲間のいる老人や一人で困っている人の愚痴をこぼせる場所があると良いと思う。老後が不安なので廃校になった学校を老人に開放してもらいたい。老人が小学生みたいに朝行って給食を食べて夕方帰るような場所。
- ・子育て支援も大事ですが、高齢者（独居）の方が困っている人が多くいる現状だと思います。家族がいない人も気軽に相談出来るようにしてほしい。
- ・紙おむつ給付が対象外となった場合にも、補助があってほしい。高齢者の配食サービスを利用

したことがあるが、料金が高いので止めた。食事代の補助をしてほしい。福祉タクシー・自動車燃料助成券を使用することがないので、他のこと（紙おむつ支給、えん下食の購入代金補助など）に替えられたらいいと思う。

- ・高齢者の買物、通院、受診の足を助ける方法を考えて頂けるとうれしい。

■ 区のイメージ（18件）

- ・友達に住んでいる所はどこかと聞かれ、足立区と言ったら、「ああ、貧乏人の町ね」と言われショック。それ以来、どこに住んでいるのと聞かれても足立区と言えなくなった。
- ・長く生活していて実感として街が安全で暮らしやすくなっていると思いますが、イメージがやはりあまり良くないと感じます。子育てのしやすさ、緑の多さ、バランスの良さなど良いところが沢山あると思うので、アピールしてほしいです。子ども達が安心して誇りを持てる足立区でありますよう、今後とも宜しく願いいたします。
- ・住んでいて「足立区って嫌だな」と思うことはありませんが、他区、他県に住んでいる方からの評判が悪く、過去の事件等のことを話題にされ、差別されたり見下されたりすることがあるため悔しかったです。犯罪率が1位では無いことやもっと良い所をたくさんアピールして欲しいです。給食の取り組み等は良いと思います。
- ・昔に比べれば大分、良くなってきたと思うが、他区（特に中心部の区）と比べると色々な所で劣等感を感じる。良さそうな区と職員の人事交流や出張等で良いところを探りに行ってみたいでしょう。
- ・よりよい区になるようにしていただきありがとうございます。足立区に引っ越してきたばかりですが、良いところだなと思っています。まだ足立区に対して治安が悪いなどと偏見を持っている人がいるのでイメージを覆して欲しいと思います。

■ 生活保護・低所得者（17件）

- ・生活保護受給者が多いが、中には本来必要ない人もいる。しっかり調査して欲しい。
- ・介護に携わる仕事をしていて、年金暮らしで日々節約しながら暮らしている人も多い中、生活保護を受けている人の暮らしが有意義に見えることがある。暮らし給付金が必要な人の所に渡っていない。年金暮らしの人は医療費も払っているのに。税金を必要な人の所に届けて欲しい。
- ・税金は上手に運用して欲しい。生活保護など簡単にもらえるから足立区に越してくる傾向にあると感じる。事実、生活保護を受けている人が高級車を乗り回し高価な洋服を着ている。本当に生活保護が必要なのかと感じる。チェック方法が曖昧なのかとってしまう。

■ その他の支援（14件）

- ・動物愛護・地域猫活動の周知。殺処分をゼロにするよう動いて欲しい。
- ・足立区の伝統工芸や新人芸術家・美術家を応援するイベントや制度ができたらとても嬉しいです。
- ・火葬、埋葬代行の行政サービスについて、近年、独居老人、身寄りのない単身世帯が増加し、死んだ後始末について親族、民間に頼ることができない区民が増加します。そこで、直葬、散骨、樹木葬等、行政に後年負担が生じないように生前契約し、負担金を共託した上で行政が代行するサービスを行ってほしい。
- ・ベンチャー育成支援活動をおこなって、足立区の産業を作って行ったほうがいいと思う。さらにベンチャー育成を行うと若者が多く住んでくれる可能性が高い。
- ・就職氷河期世代の独身です。もう10年もすると孤立するんだろうなと思います。40、50代から孤立を防ぐネットワークの構築を主導して欲しい。そういったネットワークで高齢者のボランティア活動などに繋げていけたらいいなと。また単身者向けの終活情報などを発信して欲しい。不安で仕方がない。身元保証人制度や死後の住まいの整理や遺産管理など、区でパッケージに

して若いうちから登録制にして支援していただけるとありがたい。

- ・LGBTに関する質問が全くありませんでしたが、それらについての理解の促進や当事者たちの住みやすい街づくり等を進めて頂きたいです。

■ 議員・職員（12件）

- ・今年になって区役所に行く用事が多くなりました。職員の皆さんの対応が親切で、説明もわかりやすく、助かります。足立区に住んで37年になりますが、老人にとって住みやすい町です。
- ・保健所の職員の対応が悪い。相談に乗ってくれない。
- ・区役所の課数が多過ぎるのではないか。もっとコンパクトにして人員整理も必要なのではないか。
- ・区議の人たちは選挙の時しか会えません。もっと身近に感じられる活動をして欲しいです。

■ 防災対策（10件）

- ・自然災害が年ごとに多くなっています。ハザードマップなどでも注意危険地域です。防災ラジオの配布（実際配布している区があります）、町内会での防災マップ、震災時に使用する見やすい地図や各戸の避難先がわかる表示カードの配布など具体的に使えるものを全戸に配布する。意識向上に繋がると思います。
- ・防災無線の音が聞きとりにくいので、はっきり聞きとれることができるように願っております。
- ・犬、猫等ペットがいる人の為の避難所を考えてほしい。
- ・水害の可能性がある場合の一人暮らし高齢者の避難について、具体的な取り組みをお願いします。

■ 都市対策・基盤整備（8件）

- ・西新井駅周辺の整備を早くして下さい。東西が駅で分断されており、東武ストアが撤退してから何年も放置されてきた。亀田公園辺りも同じ早くきれいにして下さい。
- ・近所にバス停がないのと、飯食店含む商業施設が少ないので、竹ノ塚駅と六町駅の都市開発に期待しています。街が綺麗になれば、イメージももっと良くなるはず。
- ・地域により、生活の便利さに差がありすぎる。舎人地域が不便すぎるのに、千住や西新井など、すでに便利な場所にばかり力を入れている。足立区の北の交通が不便。

■ 医療・福祉（8件）

- ・介護者がけがをしたり、病気をしたりして介護が出来なくなった場合に、胃ろう点滴をしていても預かってくれる施設を多く作ってほしい。
- ・若い年齢から受けられる健診などを増やしてほしいです。
- ・健康づくりや検診の内容や深さを充実して下さい。
- ・健診利用施設を区内以外でも利用できるようにして欲しい。

■ 障がい者支援（6件）

- ・精神障害者の就労支援サポートがないに等しい。作業所の利用で支払いが発生すると利用しにくい。就労支援でもう少しサポートしてほしい（荒川区を参考にして）。
- ・私の夫は、首のケガが原因で12年ほど前から車いす生活を送っています。下肢は全く動かず、上肢にも障がいがあります。長年お風呂の介助に来ていたヘルパーさんが高齢を理由に辞めてしまい、次のヘルパーさんがなかなか決まらずに困っています。生活援助はできても身体介護はできない、またはやりたくないヘルパーさんが多いのです。私の夫のような重度の身体障がい者への支援をもっと真剣に考えてほしいです。生活の質（QOL）を上げられる様な支援を望みます。

■ 資源環境・ごみ対策（5件）

- ・ごみ集積所で使う「とりコン」の貸し出しについて。私どもは3軒で集積所を使っています。

以前とりコンの貸し出しを依頼した時、4軒が利用していないと貸せないと言われました。きちんと税金を納めているのになぜ利用できないのか納得できません。

- ・ 舎人公園周辺道路のゴミ対策、特に自転車や駐車中の車からのゴミの不法投棄、毎朝気分が悪くなります。
- ・ 不燃ごみや資源ごみの持ち去りをされているような気がします。お金をかけて対策するほどのことではないかもしれませんが、少し気になります。

■ 住宅問題（空き家等）（4件）

- ・ 都営では空いている所もあるのに募集していない状態が多々あるので、そこはむしろかしい点であると思うが早めに対応をしてもらいたい。
- ・ 空き家問題、長年放置されているので壁の一部が落ちてきている。
- ・ 都営、区営の団地の入居がなかなか難しいです。何年かければ入居できるのでしょうか。

■ ひとり親世帯支援（2件）

- ・ シングルマザーの家族への支援をもっと手厚くして頂きたい。実家で生活していますが、実家にいけば金銭的に安心な訳ではないです。

■ 感謝・激励（28件）

- ・ 足立区に住み始めて良かったと思う所がたくさんあります。公園も多いし、夏祭りも色々やっているの子どもは楽しんでいます。大変ですが、頑張ってください。
- ・ 区民のため、様々な取り組みをありがとうございます。これからも住みやすい、満足できる足立区でいられるよう引き続きよろしくお願いします。
- ・ 生まれ育った足立区。昔は悪いイメージばかりで足立区出身とはなかなか胸を張って言えませんでした。でも今はとても良い足立区になり、とても嬉しいです。これからも若い人の声を聞きながらもっともっと素晴らしい足立区にして下さい。

■ その他（59件）

- ・ コロナも緩和されてきた為、親子（3才以下の子ども）で参加できるイベントが多くあると嬉しいです。
- ・ 図書館の「リクエスト」のやり方が変わってしまった。前のようにリクエストカードに書いて、入った場合に連絡してくれるようにしてほしい。
- ・ フリーマーケットなど、リサイクル活動ができるような取り組みを増やして欲しいです。
- ・ 六町駅前の駐輪場が少なすぎる。定期利用の申し込みを断られた。200人待ちだと言われた。その割に周りはマンションばかり建てている。区画整理の意味がない。駐輪場は屋根付きでないと非常に不便。駐輪場の受付が対人なのも困る。電子マネーで支払えないのか。

(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

問55 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。
 今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか
 （○は1つだけ）。

■本調査を【有効な内容だと思う】は6割台半ば、【そう思わない】は1割台半ば近く

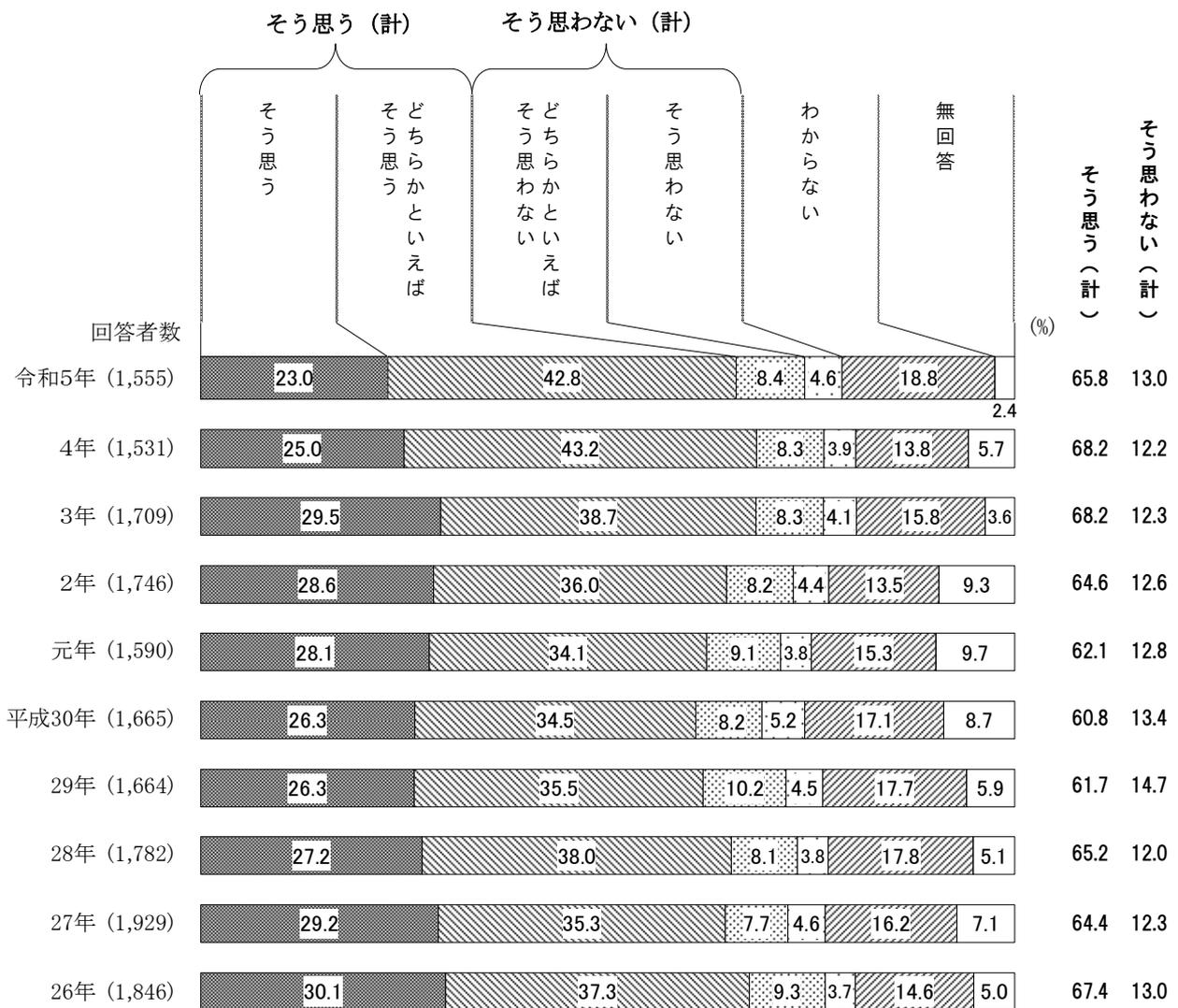
ア 単純集計・経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

(ア) 本調査の質問内容が、区民ニーズや意識を把握するうえで有効かを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が42.8%で最も高く、次いで、「そう思う」が23.0%となっている。これらを合わせた【そう思う】は6割台半ばとなっている。

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」(8.4%)と「そう思わない」(4.6%)を合わせた【そう思わない】は1割台半ば近くとなっている。

(ウ) 前回調査と比較してみると、【そう思う】と【そう思わない】では大きな違いはみられないが、「わからない」が5.0ポイント増加している。

図11-11-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

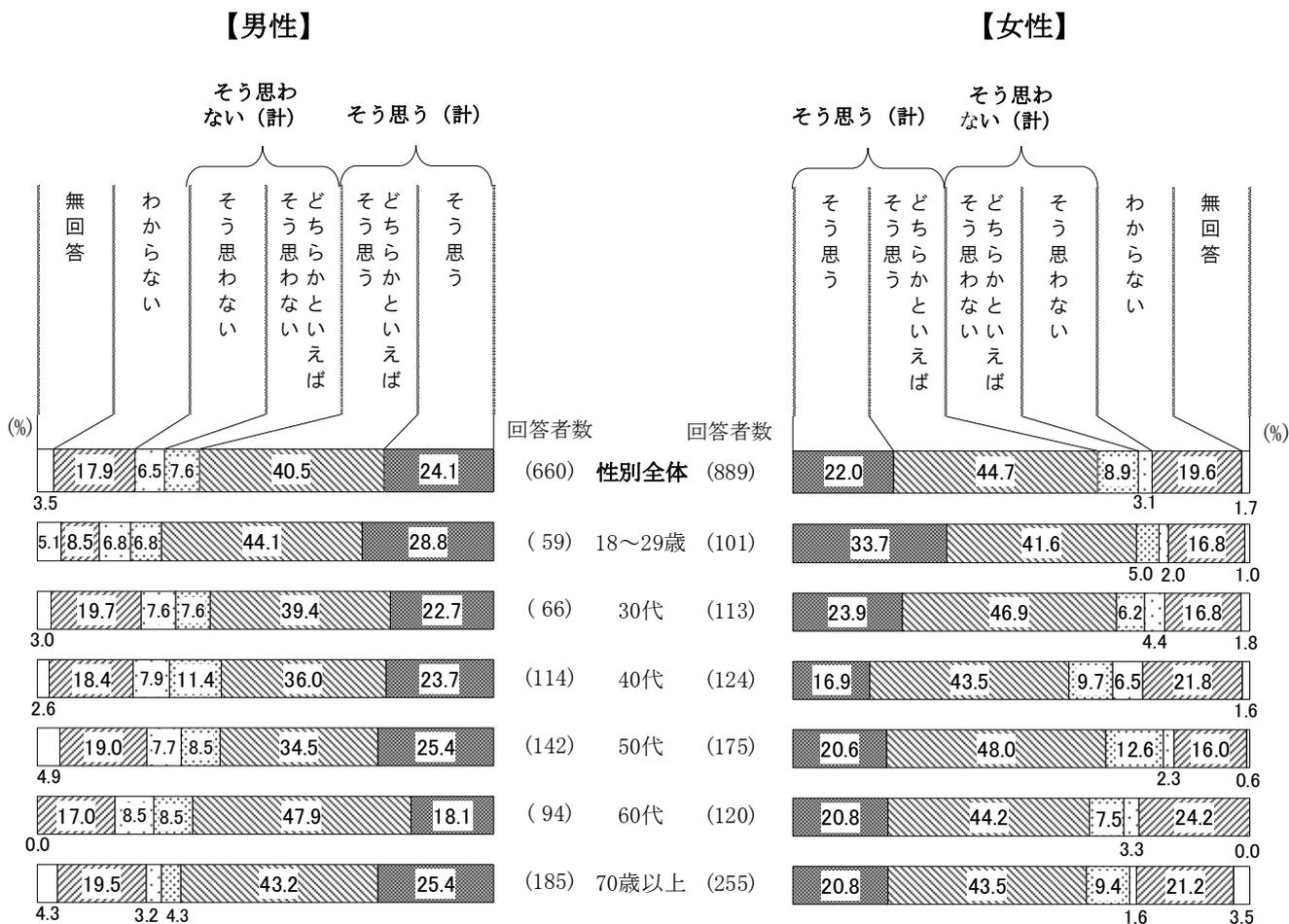


イ クロス集計・性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

（ア）性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

（イ）性・年代別で見ると、【**そう思う**】は、女性の18～29歳で75.2%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（72.9%）と女性の30代（70.8%）が7割台で続いている。一方、【**そう思わない**】は、男性の40代で19.3%と最も高くなっている。

図11-11-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

令和5年度（第52回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたってのお願い

- 1 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
- 2 ご本人がひとりで回答することが難しい場合は、ご家族など、身近な方に代理で回答していただいても構いません。その場合は、ご本人の意思を確認しながら、ご回答ください。
- 3 ご不明な点がございましたら、下記【お問合せ先】までお問い合わせください。

【調査主体】 足立区 政策経営部 区政情報課 区政情報係
足立区中央本町1-17-1

【お問合せ先】 お問い合わせコール あだち
03-3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日）

【調査受託機関】 株式会社 サーベイ リサーチ センター



この調査は、《インターネットによる回答》と《郵送による回答》の2通りの回答ができます。
どちらかの方法により令和5年9月8日（金）までにご回答ください。

1 インターネットによる回答

- ① 調査回答サイトにアクセスする

下記のURL又は右記のQRコードにより、調査回答サイトにアクセスします。

<https://en.surece.co.jp/2023adachi>



※ URLはブラウザのアドレスバーに入力してください（詳しくは裏面へ）。

- ② ログイン・回答する

調査回答サイトのログイン画面で、下記の回答用「ID」と「パスワード」を入力し、回答を開始してください。

あなたの回答用

「ID」・「パスワード」

ID : ●●●●●●●●

パスワード : ●●●●●●●●

ID、パスワードをご入力ください。

ID:

パスワード:

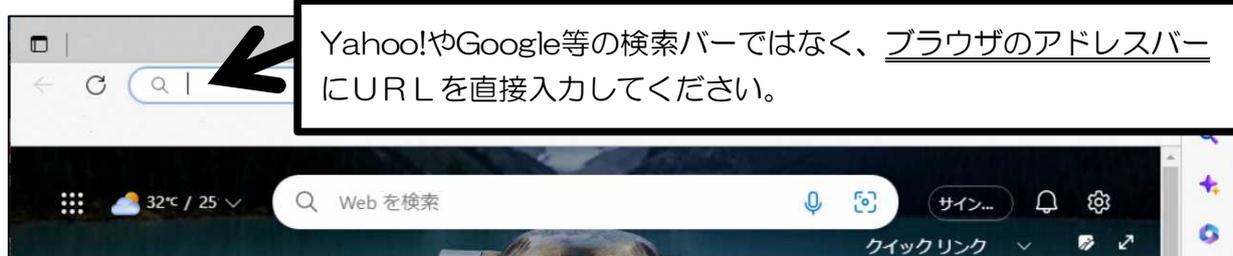
回答に関するご注意

- 回答は途中保存が可能です。中断される場合はそのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答が保存されています。再開する場合は回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 前の設問に戻るには各ページに設置されている「戻る」ボタンを押してください（※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください）。
- 60分以内に「戻る」ボタン又は「次へ」ボタンを最低1回は押すようにしてください（※時間内にボタンを押さないと、自動的にログアウトされます）。
- JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。
- 回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできませんのでご注意ください。

調査回答サイトへのアクセス方法（QRコードが読み込めない場合）

- パソコンからURLを入力し、調査回答サイトへアクセスする方法
ブラウザのアドレスバーに下記URLを直接入力し、調査回答サイトへアクセスしてください。キーワード検索では調査回答サイトにアクセスできません。

<https://en.surece.co.jp/2023adachi>



- 足立区ホームページのリンクから調査回答サイトへアクセスする方法
足立区ホームページの「令和5年度（第52回）足立区政に関する世論調査にご協力を」（<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kuse/47yoron.html>）のページにあるリンク（「調査回答サイトはこちら」の文字をクリック）から調査回答サイトへアクセスしてください。

2 郵送による回答

- ① 調査票にご記入の際は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- ② お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
- ③ 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
- ④ 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
- ⑤ 調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありませんので、記入なさらないようお願いします。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、ご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理します。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひとも率直なご意見をお聞かせください。

※ 調査票内の集計母数について
特にサンプル数表記のない設問は、全数ベース（回答者数1,555）で集計しており、母数の記載を割愛した。一部の該当設問については、設問ごとに回答者数を表記した。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	男性	42.4%	3	どちらでもない	-	無回答	0.1
2	女性	57.2	4	答えたくない	0.3		

F 2 あなたは、何歳ですか（○は1つだけ）。

1	20歳未満	1.3%	6	40～44歳	6.8	10	60～64歳	7.7
2	20～24歳	3.5	7	45～49歳	8.6	11	65～69歳	6.2
3	25～29歳	5.5	8	50～54歳	10.2	12	70～79歳	17.9
4	30～34歳	5.9	9	55～59歳	10.2	13	80歳以上	10.5
5	35～39歳	5.7					無回答	0.1

F 3 あなたは、足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1	1年未満	2.8%	3	3～5年未満	4.3	5	10～20年未満	13.9
2	1～3年未満	6.0	4	5～10年未満	7.8	6	20年以上	64.3
							無回答	0.9

F 4 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	一戸建て持家	42.6%	6	社宅・公務員住宅・寮	0.7
2	一戸建て借家	1.3	7	間借り・住み込み	0.4
3	分譲マンション	20.7	8	その他	0.8
4	賃貸マンション・アパート	22.3		無回答	0.8
5	都市再生機構（旧公団）・公社 ・都営住宅・区営住宅	10.4			

F 5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	自営業・事業主	8.7%	5	主に家事に従事（専業主婦など）	11.3
2	自由業 （開業医、弁護士、芸術家など）	0.6	6	学生	2.3
			7	無職（年金生活を含む）	22.0
3	会社員・公務員	36.7	8	その他	1.7
4	パート・アルバイト	15.3		無回答	1.5

(F5で「1」～「4」または「6」か「8」とお答えの方に)

F5-1 あなたの就労場所(就学場所)は、次のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

回答者数1,014

1 自宅	10.2%	4 23区以外の東京	3.0
2 足立区内	29.2	5 茨城、神奈川、埼玉、千葉	9.9
3 足立区外の東京22区	45.0	6 その他	1.3
		無回答	1.6

F6 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか(○はあてはまるものすべて)。

1 ひとり暮らし	17.9%	4 祖父・祖母	1.1	7 兄弟・姉妹	7.2
2 配偶者	57.6	5 子ども	38.1	8 その他	3.1
3 父・母	15.2	6 孫	1.4	無回答	1.4

F7 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	1	25.5%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	2	0.3
一番上の子どもが小学生	3	0.3
一番上の子どもが中学生	4	0.1
一番上の子どもが高校・大学生	5	0.9
一番上の子どもが学校卒業	6	9.3
◎ 配偶者がいて子どもがいない	7	12.6
◎ 配偶者がいて子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	8	4.7
一番上の子どもが小学生	9	4.8
一番上の子どもが中学生	10	1.8
一番上の子どもが高校・大学生	11	5.3
一番上の子どもが学校卒業	12	24.8
無回答		9.6

F8 足立区では、「綾瀬」「北綾瀬」「花畑」「六町」「江北」「西新井・梅島」「竹の塚」「千住」のゾーン・エリアで新しいまちづくりを進めています。あなたのお住まいは、下段枠内の1～9の選択肢のうち、どの範囲に入っていますか（○は1つだけ）。

1	綾瀬ゾーン（綾瀬1～7、東和1・3、東綾瀬1～3）	7.3%
2	北綾瀬ゾーン（加平1～3、谷中1～4、大谷田4、東和5）	4.0
3	花畑エリア（花畑1～7、保木間4～5）	3.7
4	六町エリア（西加平1～2、一ツ家2～4、六町1～4、保塚町、南花畑1～3、北加平町、神明南1）	5.1
5	江北エリア（江北1～7、椿1～2、堀之内1～2、西新井7、西新井本町2、扇3）	4.4
6	西新井・梅島エリア （梅島1～3、梅田5～8、西新井栄町1～2、関原3、島根3、栗原1・3）	10.2
7	竹の塚エリア（竹の塚1～7、西竹の塚1～2、六月1～3、栗原2・4、西保木間1～4、伊興1～5、伊興本町1～2、東伊興1～4）	10.5
8	千住エリア（千住関屋町、千住曙町、千住東1～2、千住旭町、柳原1～2、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町1～3、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木1～2、千住1～5、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町）	10.7
9	その他（お住まいの町丁が1～8のゾーン・エリア以外の場合）	44.2

※ 町丁名の後の数字は丁目を表しています。

お住まいの地域について、おうかがいします

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思 わない	わから ない	無回答
ア 自転車利用者の交通ルール、 走行マナーが良いと感じる	5.0%	24.6	27.5	35.1	4.4	3.3
イ 快適で安全なまちである	9.5	50.7	23.0	11.7	2.1	3.0
ウ 景観・街並みが良好である	8.7	41.5	30.0	13.5	2.8	3.5
エ まちなかの花や緑が多い	15.1	44.9	22.8	11.6	2.5	3.2
オ ごみがなく地域がきれいになったと 感じる	11.2	46.2	23.2	12.8	3.7	3.0
カ 普段の買い物が便利である	35.6	42.2	10.9	8.3	0.5	2.6
キ 通勤や通学などの交通の便が良い	29.3	38.3	14.5	12.0	2.2	3.7
ク よく行く、または行きたい公園がある	17.0	29.8	21.9	18.7	9.6	3.0
ケ 地域の施設（建物や道路など）は、 高齢者や障がいのある方なども利用 しやすいよう配慮されている	6.2	32.2	25.6	13.4	19.4	3.1
コ 子育て環境（保育所、学童クラブな ど）が整っている	8.5	36.8	12.4	5.5	33.0	3.7
サ 子どもたちが文化芸術を楽しめるま ちである	2.1	17.9	26.9	14.1	35.1	3.9
シ 文化芸術に親しめるまちである	2.1	17.5	29.0	21.2	26.7	3.5
ス 地域の人々が、日常生活で高齢者や 障がいのある方などに配慮してい る	3.4	29.8	25.1	13.6	24.6	3.5
セ 男女が対等な立場で意思表示や活動 ができ、また責任も分かちあって いる	3.0	24.1	20.1	11.4	37.9	3.5
ソ 国籍、文化などが異なる人々がとも に暮らしやすいまちである	4.4	33.7	20.3	9.1	29.4	3.0
タ 人権課題である「障がい者」「子ど も」「女性」「インターネットによ る人権侵害」について、偏見や差別 がない	4.1	24.0	19.5	11.1	38.1	3.2

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

1 暮らしやすい	26.2%	3 どちらかといえば暮らしにくい	12.5
2 どちらかといえば暮らしやすい	57.3	4 暮らしにくい	2.0
		無回答	2.0

（問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に）
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。 回答者数225

1 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	44.9%
2 地域の間人間関係が希薄なこと	17.8
3 治安が良くないこと	30.2
4 災害対策が不十分なこと	12.0
5 行政のサービスが良くないこと	8.9
6 自然が少ないこと	5.3
7 交通の便が悪いこと	44.0
8 買い物がしにくいこと	27.6
9 子育て環境が悪いこと	4.0
10 教育環境が整っていないこと	5.8
11 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	16.4
12 家の広さなどの居住環境が悪いこと	16.9
13 職場や学校から遠いこと	8.4
14 その他	9.3
無回答	0.4

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1 ずっと住み続けたい	35.3%	3 区外に転出したい	5.9
2 当分は住み続けたい	45.5	4 わからない	11.7
		無回答	1.6

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいします

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（〇は1つだけ）。

1 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	22.9%
2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	46.7
3 特に用意していない ⇒次ページの問5へお進みください	26.8
無回答	3.7

（問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数1,082

1 水	90.1%	10 消火器	23.3
2 食料（缶詰、アルファーム、インスタント食品など）	89.6	11 ペット対策用品（ケージ、エサなど）	10.7
3 簡易トイレ	51.7	12 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	30.1
4 あかり（ろうそく、懐中電灯など）	75.0	13 救助用工具（バール、ハンマーなど）	11.6
5 情報収集手段（携帯ラジオなど）	45.9	14 ヘルメット	18.8
6 医薬品（常備薬を含む）	47.7	15 救急セット	25.8
7 衣類	30.1	16 避難ロープ	6.8
8 生理用品	21.8	17 防災袋（非常用持出袋）	30.4
9 電池・予備バッテリー	51.6	18 その他	2.7
		無回答	0.9

（問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に）

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含まず。

ア 水 回答者数975 / イ 食料 回答者数970 / ウ 簡易トイレ 回答者数559

	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア 水	13.3%	32.6	38.5	11.8	3.3	0.5
イ 食料	9.7	33.4	43.0	11.0	1.9	1.0
ウ 簡易トイレ	9.1	21.3	36.5	17.9	14.8	0.4

ここから再び、すべての方におうかがいします

問5 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1	すべての家具類に対策を行っている	4.4%	3	対策をしている家具類は少ない	36.9
2	対策をしている家具類が多い	21.7	4	対策を行っていない	32.7
				無回答	4.2

（問5で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に）
問5-1 どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。 回答者数1,083

1	方法がわからない	14.0%
2	金具などが高価である	12.4
3	面倒である	37.4
4	手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない	16.6
5	家具にキズをつけたくない	7.3
6	建物の壁にキズをつけたくない	19.6
7	（賃貸のため）勝手に取り付けられない	21.2
8	建物に取り付ける場所がない	8.6
9	地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	6.3
10	室内に危険性のある家具類がないため不要である	19.7
11	その他	6.2
	無回答	1.8

問6 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

		知っている	なんとなく見当がつく	知らない	無回答
ア 一時集合場所 <small>いっときしゅうごうばしょ</small>	あなたの地域の場所	32.8%	37.9	25.4	3.9
	意味	21.9	33.5	31.2	13.4
イ 避難場所	あなたの地域の場所	36.5	36.3	22.9	4.3
	意味	25.4	34.1	27.1	13.4
ウ 第一次避難所	あなたの地域の場所	22.2	31.9	39.9	6.0
	意味	16.0	28.6	41.4	14.0

問7 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（〇は1つだけ）。

1 避難所	48.9%	4 車や公園など	5.7
2 別居している家族や親戚の家	26.6	5 その他	1.7
3 友人・知人などの家	2.3	6 考えていない	13.0
		無回答	1.9

洪水対策について、おうかがいします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問8 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（〇は1つだけ）。

1 見て、自宅の浸水深を確認した	32.0%	3 見たが、内容までは覚えていない	35.5
2 見て、内容は確認した	22.5	4 存在を知らない	7.8
		無回答	2.2

問9 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか

（〇は1つだけ）。

1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）	68.6%	2 決めていない	29.2%⇒	下段の問9-2へお進みください
		無回答	2.3	

（問9で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に）

問9-1 あなたが、避難する場所はどこですか（〇は1つだけ）。

回答者数1,066

1 自宅にとどまる （自宅内の高い階への移動を含む）	62.9%	5 車や公共交通機関で浸水しない地域へ行く	0.6
2 区内の親戚や知人の家	4.0	6 近くにある高い建物	4.1
3 区外の親戚や知人の家	3.8	7 その他	1.1
4 近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所	23.2	無回答	0.3

（問9で「2 決めていない」とお答えの方に）

問9-2 避難する場所を決めていない理由は何ですか（〇は1つだけ）。

回答者数454

1 避難する場所がわからないから	48.5%	4 河川のはん濫は起こらないと思っているから	17.2
2 近くに避難できる場所がないから	13.9	5 その他	11.9
3 自分や家族だけで避難することができないから	7.3	無回答	1.3

区の情報発信のあり方について、すべての方におうかがいします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)のほか、公式LINEやツイッター、フェイスブックなど、様々な方法で区の情報を発信しています。

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか
(〇はあてはまるものすべて)。

1	あだち広報	69.1%	10	区民事務所などの窓口	5.2
2	トキメキ	33.8	11	町会・自治会の掲示板・回覧板	22.9
3	区のホームページ	22.4	12	新聞(区内紙、一般紙)	10.2
4	A-メール	18.1	13	テレビ、ラジオ	13.8
5	ツイッター	4.4	14	J:COM足立(ケーブルテレビ)	4.7
6	フェイスブック	0.9	15	人から聞く	11.6
7	足立区LINE公式アカウント	10.4	16	防災無線	10.2
8	ポスター、チラシ	12.5	17	その他	1.0
9	行政サービス案内	5.2	18	特に入手していない	10.9
				無回答	1.2

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が重要だと考えていますか
(〇はあてはまるものすべて)。

1	財政状況や予算などに関する情報	28.0%
2	国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	52.8
3	健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	66.2
4	出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	24.6
5	イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	28.6
6	災害や気象に関する情報	58.5
7	光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	16.3
8	ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	47.0
9	その他	1.9
10	特になし	6.4
	無回答	1.9

問12 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

1 十分に得られている	4.8%	5 必要と思ったことがない	6.8
2 ある程度得られている	69.3	6 区の情報に関心がない	4.4
3 得られないことが多い	9.7	無回答	3.5
4 まったく得られない	1.5		

↓
問12-1、2へお進みください

※ 問12で、選択肢の「1」「2」「5」「6」のいずれかに〇のついた方は、
次ページの「健康について」にお進みください。

（問12で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に）
問12-1 主にどのような理由からですか（〇は1つだけ）。 回答者数174

1 情報が探しにくい	26.4%	4 情報の内容がわかりにくい	13.2
2 情報の探し方がわからない	37.4	5 情報量が少ない	10.9
3 情報伝達が遅い	5.7	6 その他	2.9
		無回答	3.4

（同様に、問12で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に）

問12-2 問12-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報	
区ホームページ	
その他	

健康について、おうかがいします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問13 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。



※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

1 内容まで知っている	14.0%	3 知らない（初めて聞いた）	52.6
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	31.2	無回答	2.2

問14 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

1 食べている	66.1%	3 わからない	7.3
2 食べていない	24.8	無回答	1.8

問15 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1 できている	10.7%	4 できていない	14.9
2 だいたいできている	30.9	5 わからない	5.5
3 あまりできていない	36.7	無回答	1.4

問16 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

1 非常に健康だと思う	4.1%	3 あまり健康ではない	29.0
2 健康な方だと思う	58.8	4 健康ではない	6.5
		無回答	1.5

問17 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

（○はあてはまるものすべて）。

1 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	26.0%	2 習慣的にタバコを吸っている	15.6
		3 どちらもあてはまらない	58.3
		無回答	3.2

問18 あなたが安心して受診できる医療機関は身近にありますか（〇は1つだけ）。

1	ある	71.6%	2	ない	26.5	無回答	1.9
---	----	-------	---	----	------	-----	-----

問19 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

1	毎年健康診断を受けている	65.5%
2	がん検診を定期的に受けている	19.2
3	毎日朝ごはんを食べている	61.1
4	毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるようにしている	38.9
5	主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている	31.9
6	食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している	16.1
7	日ごろ、健康のために適度な運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	35.2
8	その他	2.7
9	特にない	7.3
	無回答	1.6

問20 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

1	胃がん検診	16.3%	6	前立腺がん検診	4.5
2	肺がん検診	9.3	7	その他	2.3
3	大腸がん検診	21.4	8	がん検診は受けていない	46.5
4	子宮頸がん検診	15.8	9	わからない	3.8
5	乳がん検診	16.1		無回答	6.0

問21 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（〇はあてはまるものすべて）。

1	定期健診（年1回以上）	36.0%	4	その他	1.2
2	歯石除去・歯面清掃	37.4	5	特にない	32.0
3	歯みがき指導	10.3	6	かかりつけの歯科医院を決めていない	13.2
				無回答	3.3

問22 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（〇は1つだけ）。

1	毎日（毎回）行っている	82.1%	3	あまり行っていない	4.2
2	ときどき行っている	10.7	4	行っていない	1.5
				無回答	1.4

問23 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

1 内容まで知っている	3.9%	3 知らない（初めて聞いた）	79.7
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	14.7	無回答	1.7

スポーツ・読書について おうかがいします

問24 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（〇は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1 30分以上の運動を週2回以上	22.1%	6 運動・スポーツはしていない	39.7
2 週2回以上（時間は問わない）	12.0	⇒ 次ページの間24-3へ	
3 週1回程度（時間は問わない）	11.1	お進みください	
4 月1回～3回程度（時間は問わない）	6.4	無回答	3.2
5 年に数回（時間は問わない）	5.5		

（問24で1～5のいずれかをお答えの方に）

問24-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数888

1 野球・ソフトボール	2.0%	14 健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）	21.8
2 サッカー・フットサル	0.9	15 ラジオ体操	10.9
3 バasketボール	0.9	16 武道（柔道・剣道・空手など）	0.7
4 バレーボール	1.2	17 ダンス	1.9
5 ビーチボールバレー	0.6	18 水泳・水中運動（ウォーキングなど）	4.2
6 テニス	2.5	19 登山・ハイキング	3.6
7 ファミリーテニス	0.5	20 陸上競技	0.1
8 バドミントン	0.8	21 ウォーキング	50.3
9 卓球	1.2	22 ジョギング・マラソン	9.6
10 ゴルフ	7.3	23 サイクリング	7.8
11 ゲートボール・グラウンドゴルフ	0.8	24 太極拳、ヨーガ	5.4
12 ボウリング	1.6	25 パラスポーツ	0.1
13 筋力トレーニング	21.3	（パラリンピック種目に限らない）	
		26 その他	5.4
		無回答	1.2

(同様に、問24で1～5のいずれかをお答えの方に)

問24-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか (〇は1つだけ)。

回答者数888

1 自宅	16.4%	4 職場及び職場周辺 (区外)	3.7
2 自宅周辺	49.5	5 その他の場所 (区内)	10.6
3 職場及び職場周辺 (区内)	3.7	6 その他の場所 (区外)	10.2
		無回答	5.7

(問24で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に)

問24-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか

(〇はあてはまるものすべて)。回答者数617

1 手頃な価格で施設を利用できる	28.4%
2 身近な場所で運動・スポーツができる	33.4
3 早朝や夜間にも施設が利用できる	13.5
4 一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える	12.8
5 レベルを気にせず参加できる機会がある	19.1
6 運動・スポーツの楽しみ方・やり方を教えてもらえる	10.9
7 運動・スポーツできる場所や機会についての情報が得やすい	8.9
8 プロの試合や国際大会を観戦する機会がある	2.4
9 トップアスリートと交流する機会がある	1.8
10 託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる	5.2
11 その他	9.6
12 どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない	16.4
13 わからない	19.1
無回答	2.8

ここから再び、すべての方におうかがいします

問25 次の活動のうち、過去1年間にあなたが関わった運動・スポーツを支える活動はありますか（〇はあてはまるものすべて）。

1	運動・スポーツの指導	3.3%
2	スポーツの審判	1.4
3	教室・大会・イベントの運営や世話	2.5
4	自身やあなたのお子さんが所属するクラブ・団体の運営や世話	3.1
5	大会やイベント会場での選手やチームの応援	3.7
6	クラブ・団体や大会・イベントへの寄附	0.4
7	スポーツの指導や審判などに関わる講習会・研修会への参加	0.6
8	パラスポーツ競技者のサポート（移動介助を含む）	0.2
9	その他	1.4
10	活動したかったが、する機会がなかった	6.9
11	活動しなかった	74.1
	無回答	7.2

（問25で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に）

問25-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数1,260

1	新型コロナウイルスの影響	15.0%
2	仲間や一緒に参加する人がいないから	14.5
3	一人でも活動できる場がないから	7.9
4	子どもに手がかかるから	5.4
5	病気やけがをしているから	8.3
6	年をとったから	15.3
7	興味のある競技がないから	7.4
8	お金に余裕がないから	11.8
9	技術や資格がないとできないと思うから	6.9
10	運動・スポーツが嫌いだから	6.0
11	謝礼がもらえる活動が少ないから	0.8
12	面倒くさいから	16.1
13	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	7.8
14	その他	7.1
15	特に理由はない	30.3
	無回答	1.0

第4章 使用した調査票

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。

この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（〇は1つだけ）。

1 高齢者も施設使用料は全額負担すべき	5.3%	4 所得制限を設定すべき	10.4
2 高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき	12.9	5 現行のまま継続すべき	43.5
3 適用される年齢を引き上げるべき	2.6	6 その他	3.0
		7 わからない	17.9
		無回答	4.3

問27 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（〇はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画（アニメ）」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含まれません。

1 本を読む	42.1%	
2 漫画（アニメ）を読む	34.6	
3 雑誌を読む	35.8	
4 新聞を読む	41.0	
5 図書館に行く	12.9	
6 書店・古書店に行く	29.2	
7 本などの通販サイトをみる	17.0	
8 1～7のことをしたかったが、できなかった	1.7	⇒ 理由を問27-1でお答えください
9 1～7のことはいずれもしなかった	12.7	⇒ 理由を問27-1でお答えください
無回答	3.2	

(問27で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはい
ずれもしなかった」とお答えの方に)

問27-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数224

1	子どもに手がかかるから	3.1%
2	忙しいから	20.5
3	加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから	21.9
4	加齢に伴い読む気力がなくなったから	18.3
5	場所や施設がないから	2.2
6	本などをすすめてくれる人がいないから	0.4
7	どんな本を読めばいいかわからないから	3.1
8	お金に余裕がないから	8.5
9	本などを読むことが嫌いだから	7.6
10	面倒くさいから	17.9
11	その他	6.3
12	特に理由はない	31.7
	無回答	1.8

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、すべての方におうかがいします

問28 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動(※)」という取
り組みを知っていますか(○は1つだけ)。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」
を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運
動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの
美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪の
ない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1	知っていて、活動を実践している	4.6%
2	知っているが、特に何も行ってない	19.6
3	名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	18.9
4	知らない(初めて聞いた)	54.5
	無回答	2.4

問29 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加し
ている、もしくは今後参加したいものは何ですか(○はあてはまるものすべて)。

1	防犯パトロール運動	6.3%	6	ながら見守り活動	12.0
2	花の育成活動	9.8	7	ごみ屋敷通報	2.8
3	まちの清掃活動	10.5	8	不法投棄通報	7.9
4	公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動	3.8	9	落書き発見・通報	4.7
5	違反広告物除却活動	1.5	10	参加していない(今後も参加しない)	61.3
				無回答	5.6

問30 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか（〇は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1 良い	9.1%	3 どちらかといえば悪い	22.6	5 わからない	10.4
2 どちらかといえば良い	50.4	4 悪い	4.2	無回答	3.3

↓
 (問30で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に)
 問30-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数925

1 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	34.9%
2 テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生ニュースが少ないから	18.9
3 犯罪の発生件数が減っているということを知ったから	11.6
4 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	51.9
5 安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	19.6
6 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから	19.8
7 防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから	5.1
8 その他	2.5
無回答	0.5

(問30で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に)
 問30-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数417

1 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	16.8%
2 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	15.3
3 自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから	43.2
4 歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから	39.6
5 区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから	3.4
6 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	16.1
7 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	9.4
8 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	22.5
9 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	11.5
10 その他	7.2
無回答	1.2

ここから再び、すべての方におうかがいします

問31 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか
(〇は2つまで)。

1	犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	23.8%
2	街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備	45.6
3	防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援	50.8
4	安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール	30.7
5	防犯講習会の開催	2.0
6	地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与など）	6.1
7	街頭キャンペーンやイベントの実施	2.8
8	その他	1.9
9	特にない	6.0
	無回答	3.2

環境・地域活動について、おうかがいします

問32 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1	ごみと資源の分別を実行している	84.4%
2	節電や節水など省エネルギーを心がけている	51.1
3	くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	41.5
4	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	74.8
5	環境に配慮した製品を選んで使っている	10.8
6	家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある	27.1
7	雑紙（※）を燃やすごみではなく、資源として出している	54.0
8	自然環境を大切にすることを心がけている	23.9
9	外食時に食べられる分だけ注文する	48.4
10	買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする	36.4
11	買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している	36.6
12	買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	17.4
13	その他	0.8
14	特にない	2.1
	無回答	1.6

※ 雑紙（ざつがみ）…家庭から排出される古紙のうち、新聞、雑誌、段ボール、紙パックのいずれの区分にも入らないもの（パンフレット、コピー用紙、お菓子の包装紙など）

問33 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していますか（〇は1つだけ）。

1 行動している	18.7%
2 行動することが時々ある	49.6
3 環境への影響を考えるが、行動していない	22.3
4 環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない	4.3
無回答	5.1

問34 町会・自治会の加入や活動についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

	はい	いいえ	無回答
ア あなたは、自分の住所地に該当する町会・自治会を知っていますか。	65.4%	30.9	3.7
イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。	51.8	44.8	3.4
ウ あなたは、町会・自治会の活動を知っていますか。	49.7	42.6	7.7
エ あなたは、町会・自治会の活動に参加したことがありますか。	38.1	54.3	7.5



（問34の「イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。」で「2 いいえ」とお答えの方に）

問34-1 あなたが、町会・自治会に加入しない最も大きな理由は何ですか（〇は1つだけ）。

回答者数696

1 加入の方法がわからないから	11.2%
2 誘われないから	11.2
3 多忙により、手続きの時間がとれないから	8.6
4 加入する必要性を感じないから	27.4
5 会費が高いから	1.7
6 人間関係がわずらわしいから	14.9
7 役員をやりたくないから	6.2
8 短期間の居住だから	5.0
9 その他	12.5
無回答	1.1

問35 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に参加された活動	引き続き、または今後参加したいと思う活動
1 自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み	16.5%	17.5
2 区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞 または伝統芸能に親しむ機会 (映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)	18.2	27.8
2-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会	7.3	14.1
3 区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など	8.5	14.5
4 特に参加していない・特になし	53.2	39.0
無回答	18.7	22.8

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいします

問36 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（〇は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1 知っていて、内容も概ね理解している	8.0%	3 知らない（初めて聞いた）	69.3
2 聞いたことはあるが、内容はわからない	18.5	無回答	3.2

問37 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか
（〇はあてはまるものすべて）。

1 高齢者の健康や介護の相談	38.8%
2 介護予防教室や地域の居場所等の紹介	20.2
3 介護保険サービスの相談	28.9
4 もの忘れが心配な高齢者の方の相談	13.6
5 認知症の方の見守り支援	15.6
6 高齢者虐待の対応	8.7
7 成年後見制度の紹介	7.7
8 高齢者による地域貢献やボランティア活動の紹介	9.8
9 老後の準備、老い支度の相談	7.5
10 高齢者宅への訪問調査	23.0
11 高齢者を主とした地域活動の支援	11.9
12 絆のあんしん協力員による定期的な高齢者への声かけ、見守り	8.4
13 地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない	16.9
14 地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない	35.6
無回答	4.2

問38 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（〇は1つだけ）。

1 積極的に協力したい	2.4%
2 負担にならない範囲で協力してもよい	17.4
3 協力したいが、時間などに余裕がない	29.9
4 興味がない、協力したくない	12.7
5 わからない	32.8
無回答	4.7

問39 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っていて、活動を実践している	15.8%	3 知らない（初めて聞いた）	43.3
2 知っているが、特に何もしていない	37.7	無回答	3.2

問40 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（〇は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

1	毎食（1日3回）食べている	20.4%	4	週に数回食べている	11.4
2	1日2回位食べている	31.5	5	ほとんど食べない	1.0
3	1日1回位食べている	33.4		無回答	2.3

問41 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（〇は1つだけ）。

1	取れている	34.8%	3	わからない	17.4
2	取れていない	17.8	4	仕事をしていない	26.9
				無回答	3.0

問42 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容はわからない	知らない	無回答
ア 身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について	63.7%	25.3	7.4	3.7
イ「LGBT」という言葉について	58.0	20.5	17.4	4.1

「協働・協創」・「SDGs」について、おうかがいします

問43 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っている	10.9%	3 知らない（初めて聞いた）	66.6
2 聞いたことはある	19.9	無回答	2.6

（問43で「1 知っている」とお答えの方に）

問43-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（〇は1つだけ）。回答者数169

1 すでに、活動を実践している	21.3%	3 関心がない	15.4
2 関心はあるが、特に活動していない	62.7	無回答	0.6

問44 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（〇は1つだけ）。

1 そう思う	3.3%	4 そう思わない	7.9
2 どちらかといえばそう思う	22.4	5 わからない	51.3
3 どちらかといえばそう思わない	11.4	無回答	3.7

問45 あなたは、SDGsについて知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

1 内容まで知っている	34.5%	3 知らない（初めて聞いた）	19.1
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	43.4	無回答	3.0

問46 あなたは、SDGsに関心がありますか（〇は1つだけ）。

1 とても関心がある	6.2%	4 全く関心がない	7.8
2 関心がある	30.0	5 どちらともいえない	28.7
3 あまり関心がない	24.1	無回答	3.3

足立区の取り組みについて、おうかがいします

問47 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか
(〇はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか かとい ええば そう 思う	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう思 わない	わから ない	無回答
ア 足立区に愛着をもっている	23.1%	45.0	10.7	6.2	12.2	2.8
イ 足立区に誇りをもっている	9.5	28.1	24.7	13.9	20.0	3.9
ウ 足立区を人に勧めたい	10.1	29.5	21.3	12.9	21.8	4.4
エ 足立区を良いまちにするために何かしたい	8.2	37.4	15.2	7.2	24.7	7.4
オ 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	22.8	47.0	5.6	3.5	13.9	7.3

問47-1 問47の項目のア、イ、ウのいずれかで、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問47-2 問47の項目のア、イ、ウのいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問48 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか（○は1つだけ）。

※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた（発信した）などの個人的な行動も含まれます。

1 行動した	9.6%	4 行動しなかった	46.4
2 どちらかといえば行動した	14.9	5 わからない	8.2
3 どちらかといえば行動していない	17.6	無回答	3.3

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

1 広報やホームページなどによる区政情報の提供	38.0%
2 職員の接客態度	19.9
3 ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	4.8
4 防災対策	15.1
5 ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	16.1
6 町会・自治会など地域活動支援	12.8
7 男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	3.4
8 NPOやボランティアの育成や支援	3.3
9 高齢者の生活や介護などの支援	20.1
10 障がい者の生活や介護などの支援	9.4
11 低所得者の生活援助や就労支援	11.7
12 健康づくりやがん検診など保健衛生対策	26.9
13 保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	9.9
14 教育内容の充実など学校教育対策	5.9
15 文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	11.3
16 省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	6.4
17 商工業や起業支援など産業振興	2.1
18 公園や緑地などの整備	31.2
19 美しい街並みや景観づくりなど都市開発	13.2
20 空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	4.8
21 道路や交通網の整備、交通安全対策	15.7
22 特にない	22.0
無回答	4.1

問50 次の足立区の取り組みのうち、あなたが**不満**、**やや不満**と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	4.6%
2	職員の接客態度	6.9
3	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	4.3
4	防災対策	9.6
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	4.8
6	町会・自治会など地域活動支援	4.2
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	4.4
8	NPOやボランティアの育成や支援	2.4
9	高齢者の生活や介護などの支援	10.1
10	障がい者の生活や介護などの支援	6.7
11	低所得者の生活援助や就労支援	9.8
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	4.6
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	5.5
14	教育内容の充実など学校教育対策	6.4
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	7.0
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	3.7
17	商工業や起業支援など産業振興	3.9
18	公園や緑地などの整備	10.3
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	11.6
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	10.3
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	20.8
22	特になし	38.6
	無回答	8.3

問51 あなたは足立区の区政全体について、**満足**に感じていますか（○は1つだけ）。

1	満足	11.9%	3	やや不満	19.2
2	やや満足	63.7	4	不満	3.5
				無回答	1.7

第4章 使用した調査票

問52 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください
(〇はあてはまるものすべて)。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	13.0%
2	職員の接客態度	7.7
3	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	7.7
4	防災対策	29.1
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	16.1
6	町会・自治会など地域活動支援	6.8
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	6.0
8	NPOやボランティアの育成や支援	4.7
9	高齢者の生活や介護などの支援	31.6
10	障がい者の生活や介護などの支援	16.3
11	低所得者の生活援助や就労支援	19.5
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	17.4
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	14.9
14	教育内容の充実など学校教育対策	15.5
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	16.5
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	8.3
17	商工業や起業支援など産業振興	6.8
18	公園や緑地などの整備	24.4
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	23.5
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	16.3
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	33.9
22	特にない	10.8
	無回答	6.5

問53 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1	そう思う	2.8%	4	そう思わない	8.5
2	どちらかといえばそう思う	27.0	5	わからない	42.5
3	どちらかといえばそう思わない	15.0		無回答	4.1

問54 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問55 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか
(〇は1つだけ)。

1	そう思う	23.0%	4	そう思わない	4.6
2	どちらかといえばそう思う	42.8	5	わからない	18.8
3	どちらかといえばそう思わない	8.4		無回答	2.4

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、
返信用封筒に入れて 9月8日(金)までにご投函ください。



第52回 足立区政に関する世論調査

2024年3月発行

発行 足立区

編集 足立区 政策経営部 区政情報課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話 03-3880-5111 (代表)

実施 (株) サーベイリサーチセンター

東京都荒川区西日暮里2-40-10

電話 03-3802-6711 (代表)



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<https://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 区政情報課

